畫）村上俊。（外報）高橋雄豺。（政治）四方田義茂。（學藝）清水彌太郎。（通信）佐々政德。（寫眞）眞柄秋穗。（社會）宮崎光男。（婦人）平野善之助。（校正）三苫亥吉。（製版）木村定次郎。（調査）土岐直彦。（ラヂオ）吉本明光。（廣告）稻葉輪一。（事業庶務）庄田良。（販賣）務台光雄。（經理）柳田長吉。（工務）武藤具三。（祕書課）杉本政治。（大阪支局）森矯。（工場員）四百五十一名。（機械）八萬枚時速高速機三、十三萬一、十五萬六、オート・プレート、オート・シエーパー、其他全種類の機械完備。（活字）七ポ、十五字、百五十七行、十三段。一箇月一圓。（廣告料）一圓七十錢、場所指定一圓八十錢、特別面二圓六十錢。

■九年九月十五萬高速機の据付完了す。

■同十一月より一般物廣告單價の引上を實施す。

■同十一月日米對抗野球戰を主催す。

■十年一月より出版廣告の値上げを實現す。

■同一月七日有力販賣店主團の初頭合せに務台部長より同社現在の有代部數七十八萬六千九百二部（前年同日に比し六萬三千三百三十四部增）と發表す。

■同一月滿洲國皇帝を迎ふべく賞金一千圓の奉迎歌曲懸賞募集を發表す。

■同二月河野安通士君囑託となる。

■同二月二十二日午前八時四十分頃正力社長社玄關前で長崎勝助なるもの丶爲めに左顎部を刺され重傷を受く。

■同三月增改築工事に着手す。

■同四月祕書課を新設し杉本政治君課長として入社す。

■同五月經濟部長山崎靖純君顧問となり次長安田庄司君後任部長となる。

■同五月一日正力社長全快出社す。

■同五月十一日新通信社創立準備委員會に參加す。

■同六月社屋增築の爲め營業局診療所を元北隆館社屋に移轉す

■同七月七日より日曜夕刊廢止となり土曜夕刊に日曜グラフを附す。

■同八月先に廣告料定價を行二十錢値上げと決したが、後十錢値上げの一圓七十錢に改む。

中外商業新報

日本橋區茅場町二ノ一六。（電）茅場町二五一—七、一五五一—三。株式。二百萬圓。（社史）明治九年十二月二日、中外物價新報として每週一回刊行漸次回數を增し、明治十八年六月一日より日刊に改め、同二十二年一月中外商業新報と改題、同四十四年八月株式會社となり大正十三年四月社屋新築落成、昭和九年三月社屋增築。並に高速度輪轉機据付る。朝刊十二頁、夕刊四頁。（販數）朝刊五版、夕刊四版。（附錄）月刊中外財界。（地方版）神奈川版其他。（專務社長）田中都吉。（常務）村上幸平。（主筆）田中都吉。（編輯顧問）佐藤三郎。（編局兼經濟）小汀利得。（編局次長兼整理兼社會）小田島定吉。（政治）見玉季雄（市場）井尻固。（連絡）細野元吉。（調査）前田梅松。（校正）勝川喜之助。（記事檢査）村上幸平。（營局）佐藤新衞。（販賣）櫟原五朗。（廣告）小島良三。（事業）外狩顯章。（大阪出張所長）阪田國三郎。（社員）八百三十九名。（工場員）二百四十八名。（機械）高速度輪轉機十五萬級三、折疊式輪轉機二、マリノニ式輪轉機三、平盤印刷機五、フート一、手キン二。自動式活字鑄造機七、ステロ設備、寫眞製版設備、及色刷設備一式。（活字）七ポ、十五字、百五十六行、十三段。一箇月本紙單獨一圓、中外財界共一圓十錢。（廣告料）一圓七十錢、場所指定三十錢增、商況欄雜報欄三圓。（兼營）大阪中外商業新報、學生中外、其他パンフレット數種。

■九年九月十一日より朝夕刊十六頁となる。

■同九月增頁を機として醫事相談欄を新設す。

■同五月十一日新通信社創立準備委員會に參加す。

時事新報

麹町區丸の內二ノ一八。（電）丸の內代表二一一一、二二一一。株式。五百二十五萬圓（社史）明治十五年三月一日福澤諭吉先生に依つて創刊せらる。大正十二年大震災により京橋南鍋町の社屋は烏有に歸したが、大正十五年十二月六層樓の現社

屋に移轉。明治三十五年五月合名組織とし、大正九年五月大阪時事新報を合併し資本金五百萬圓の株式組織とし、更に大正十二年九月大阪時事を分離す。大正十五年福澤捨次郎氏逝去後社長には小山完吾、名取和作、武藤山治、山本昌一氏歷任現在に至る。朝刊十二頁。夕刊四頁。（販數）朝刊七版乃至八版、夕刊三版乃至四版。（地方版）栃木版、茨城版、群馬版、千葉版、埼玉版、北海道版、東北版、山形版、長野版、山梨版、靜岡版、遠州版、神奈川版、新潟版。（取締役會長）松岡正男。（常務）前田久吉。（主筆）板倉卓造。（編輯長）西澤英一。（編輯次長兼地方）狩野正夫。（整理）紺野四郎、西川重三。（政治）松田義致。（社會）佐藤喜一郎。（編輯次長經濟）奥野平。（營局）前田久吉。（同次長）佐藤卯兵衞。（販賣）原澤吉三郎。（廣告）春名正巳。（經理）榊原福壽。（工務）尾崎正交。（大阪支局）荻原唯一。（社員）六百名。（工場員）四百名。（機械）高速輪轉機十。活字鑄造機十五、モノタイプ十八、寫眞版設備全紙迄。（活字）七ポ、十五字、百五十八行、十三段。一箇月一圓。（廣告料）普通一圓六十錢、場所指定十錢增、特別面三圓

■九年十一月第三回音樂コンクールを擧行す。

■十年二月新關庄藏君兼務を解かれ次長原澤吉三郎君販賣部長となる。

■同年五月十一日新通信社創立準備委員會に參加す。

■同十月より遠州版を獨立せしむ。

■同十一月十五日臨時株主總會に於て取締役門野幾之進、山本昌一、監査役島田乙駒君辭任し後任選擧の結果松岡正男君取締役會長に、前田久吉、石河幹明速水篤次郎諸君取締役に、島田乙駒、勝本鼎一君監査役となる

都新聞

麹町區內幸町。（電）銀座三一〇一—九。創刊明治十三年九月二十五日。株式。三百萬圓。朝刊十四頁。日曜夕刊八頁。（地方版）神奈川版、栃木版、群馬版、埼玉版、其他各縣。（社長）福田英助。（顧問）大谷誠夫。（主幹）山本信博。（副主幹）福田恭助。（編局）渡部英夫。（調査）伊原敏郎。（政治）服部鋌三。（社會）野口義明。（商況）渡部英夫。（文化）上泉秀信。（整理）渡部英夫。（寫眞）飛田角一郎。（公益）相原熊太郎。（營局）峰島尙志。（廣告）山名信之助。（販賣）住井本次。（社員）二百五十名。（工場員）二百五名。（機械）高速度輪轉機三。輪轉機十。活字鑄造機五、ステロ、寫眞版設備あり。（活字）六・七五、十五字、百五十五行、十三段。一箇月一圓二十錢。（廣告料）一圓五十錢、場所指定三十錢增、特別面三圓。

■九年十二月增築社屋大體竣成す。

■十年一月編輯各部長の下に主事制を布き部長の事務を補佐代行せしむる事とす。

■同年二月十五日紙上に社屋增築落成を發表、十五萬高速機三臺据付、七ポ新活字による紙面刷新を聲明し、同時に記念廣告は絕對排除する旨社告す。

■同年二月新に文化部を新設し上泉秀信君を部長とす。

■同三月十日社員採用試驗を行ふ應募者二百三十名。

■同五月十一日新通信社創立準備委員會に參加す。

■同六月高速輪轉機三臺の組立了る。

■同六月第三部長山浦乾太郎君淇社す勤續三十二年後任は渡部局長の兼務となる。

■同九月中島機械製作所の處女作にかゝる都式十五萬機の据付を終る。

■同十月一日より六・七五ポイントの新活字を採用す。

やまと新聞

芝區田村町五ノ一六。（電）芝一一一一—一一一四。（社史）創刊明治十九年十月十七日。夕刊六頁。（版數）四。（地方版）中京版、神奈川版、大阪版。（部數）九年九月二十日現在十一萬部。（社主）岩田富美夫。（社長）同。（編局）矢部周。（整理）川崎達夫。（社會）大久保忠鑑。（政經）伏見武夫。（會計兼販賣）八杉正雄。（廣告）芥川國雄。（工務）樋口政夫。（庶務、祕書課）宗重彥。（大阪支局）福田常藏。（横濱支局）松本喜隆。（社員）百二十名。（工場員）八十名。

（機械）哲壘式輪轉機三。活字鑄造機一、鉛版鑄込二、寫眞製版一。（活字）七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月五十錢。（廣告料）普通一圓三十錢、場所指定三十錢增、特別面三圓。

■九年十一月十四日前營業局長兼廣告部長鈴木善策君逝、享年四十二。

■同十一月鈴木君の後任として芥川國雄君廣告部長となる。

■同十二月前每夕の川崎達夫君整理部長として入る。

■十一年十月創刊滿五十年を迎ふ、各種記念事業の計畫あり。

東京朝日新聞

麹町區有樂町二ノ三。（電）丸ノ内一三二、一四一。株式。六百萬圓。創刊明治二十一年七月十日。朝刊十頁。夕刊四頁。（販數）朝刊七版、夕刊三版。（附錄）臨時附錄、（地方版）岩手、宮城、青森、千葉、（A・B）、埼玉（A・B）、靜岡（A・B）、群馬、福島、山形、茨城、秋田、山梨、神奈川（A・B・C）、北海樺太（A・B）、栃木、府下、各地版。（社長）上野精一。（會長）村山長挽。（副會長）下村宏。（專務）辰井梅吉。（常務）高原操、石井光次郎、緒方竹虎。（主筆）緒方竹虎。（編局）美土路昌一。（整理）北野吉内。（聯絡）永川俊美。（政治）野村秀雄。（經濟）白石幸三郎。（社會）尾坂與市。（通信）木村東。（學藝）坂崎坦。（調査）伊東圭一郎。（運動）小高吉三郎。（校閲）服部龜三郎。（寫眞）谷口德次郎。（出版編輯）星野辰男。（外報）町田梓樓。（計畫課）庄崎俊夫。（庶務課）廣瀨爲次郎。（航空）美土路昌一。（文書課）豐原瑞穗。（營局）石井光次郎。（販賣）高田廣海。（廣告）新田宇一郎。（會計）杉江潤治。（庶務）都築直三。（印刷）久野八十吉。（技術）江碕達夫。（社員）千五百名。（工場員）六百名。（機械）朝日式電光輪轉機十、朝日式越高速輪轉械八。トムソン鑄造機八、カステング二、萬年鑄造機二、萬能鑄造機二、自働鉛版鑄造機製版機各三機、同仕上機二、鉛版鑄造機三。（活字）七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月一圓。（廣告料）普通一圓七十錢、指定料三十錢增。（兼營）週刊朝日、東朝繪刷版、映畫と演藝、アサヒカメラ、アサヒグラフ、コドモアサヒ、アサヒスポーツ、アサヒグラフ海外版、婦人、朝日年鑑、アサヒ日記、運動年鑑、日本寫眞年鑑、國際聯盟年鑑、英文日本號、朝日經濟年史、（特設）電送寫眞、東京大阪間專用電話、電光ニュース、傳書鳩、飛行機、デイーゼル發電機。

■九年十一月第二回廣告漫畫展覽會を主催す。

■十年一月二十一日社員採用試驗を行ふ、受驗者六百四十九名

■同二月講堂を取毀ち改裝工事に着手す。

■同五月編輯局顧問杉村廣太郎君第一線を退いて相談役となり營業局次長刀禰館正雄君大朝營業局長兼販賣部長となる。

■同五月十一日新通信社創立準備委員會に參加す。

■同七月七日より日曜夕刊廢止となり日曜朝刊にサンデーセクションを附す。

■同十月總務鈴木文四郎君名古屋支社長となる。

國民新聞

京橋區銀座西七ノ二。（電）銀座五五五一—九（10）、四四八一、二六一〇、三〇六。株式。三百萬圓。創刊明治二十三年二月一日。朝刊八頁。夕刊四頁。（販數）六。（附錄）月曜附錄「少年少女」。（地方版）千葉、埼玉、靜岡、山形、群馬、茨城、神奈川、栃木、東濱、新潟、府下及東京版。（社長）志岐守治。（取締役會長）大島宇吉。（代表取締役）田中齊。（主幹）同。（主筆）長谷川光太郎。（編局）山ノ内一郎。（統制）村上猶太郎。（政治）唐島基智三。（經濟）富谷五鐵。（社會）白井正福。（學藝）清水武雄。（地方）辰巳吉次。（軍事）牛田秀治。（寫眞）池田憲藏。（總務局兼取締役）大島一衛。（會計、庶務、事業）同。（工務部長）松井文雄。（營業局代理）村田攬雄。（代理）同。（營局次長兼廣告）古賀文雄。（販賣）原重德。（大阪支局）山崎兼次郎。（社員）八百十五名。（工場員）百九十八名。（機械）獨逸ケーニツヒ・ウエル製超高速度輪轉機二、池貝製超高速度輪轉機二、內地製マルノニー式輪轉機四。

活字鑄造機佛國フーセー型三、トムソン三、カステング八、萬年自働鑄造機二、寫眞整版機四ツ切二、半切二、腐蝕機一、斷截機一、凸版裝置一、コンペーヤ二。（活字）七ポ、十五字、百五十六行、十三段。一箇月七十五錢。

■十年二月編輯局長長谷川光太郎君主筆となり、主筆五來欣造君は顧問に、政治部長山內一郎君は編輯局長兼務となる。

■同二月朝刊八頁夕刊四頁定價七十五錢、第一面廣告解消を決す。

■同三月四日常務取締役兼營業局長勝田重太朗君辭任す、後任局長は村田茂津雄君の兼任となる。

■同五月十一日新通信社創立準備委員會に參加す。

■同六月一日臨時株主總會に於て陸軍中將志岐守治君社長に、大島宇吉君取締役會長に決定す

■同七月九日より紙面の刷新を行ふ。

■同九月社規を制定發表す。

■同九月より家庭面を割き文藝欄を新設す。

中央新聞

麹町區內山下町一ノ一。（電）銀座八二、四五一、六二五〇、五〇六七。株式。二十萬圓。政友會機關。（社史）明治二十三年六月創刊。朝刊四頁。夕刊四頁。（販數）五。（地方版）府下版、神奈川版、埼玉版。（部數）九年九月一日現在十萬部。（社長）堀川勝造。（主幹）中島忠之。（編局）德光衣城。（整理）前川靜夫。（社會）玉川惠。（經濟）四野宮仲吉。（商況）桑野豊助。（地方）國村良爾。（營業廣告）田上市太郎。（經理）酒井寡知。（販賣）眞壁秀興。（庶務）米谷光次。（工場）高山初二。（大阪支局）陰山又吉。（社員）七十名。（工場員）八十五名。（機械）外國製マリノニー式輪轉機一、內國製五、鑄造機五、寫眞製版機二、（活字）七ポ、十五字、百五十四行、十三段。一箇月七十錢。（廣告料）普通一圓五十錢、場所指定三十錢增、特別面三圓。

■十年三月限り總務部長兼販賣部長星野勇君退社す。

■同九月德光衣城君入社す。

■同十一月創刊滿五十年を迎ふ

■同九月十二日より聯合と契約成り全通信の供給を受くる事となる。

■同年九月二十四日付より德光君愈々紙面作製に乘り出す。

■同十一月二日臨時總會に於て取締役大山斐瑳麿君辭任し顧問德光衣城君後任となり、四日事務分擔を次の如くに決定、

編輯主幹　中島　忠之
編輯局長　德光　衣城
營業部長　田上市太郎
經理部長　酒井　寡知

萬朝報

京橋區銀座西二ノ三。（電）京橋二一二〇、二一二一、八二〇二。創刊明治廿五年十月三十一日。個人經營。朝刊四頁。夕刊四頁。（地方版）神奈川、千葉、茨城、埼玉、山梨、愛知。（社長）長谷川善治。（主幹）石井文作。（主筆）川崎巳之太郎。（編局）社長兼務。（政治）岡延左衛門。（經濟）早川紋平。（社會）土屋林太郎。（整理）岡延左衛門。（學藝）相馬武夫。（演藝）石井文作。（地方庶務）鯉淵弘。（校正）菊地健。（營局、廣告）三浦達雄。（販賣）社長兼務。（工務）同。（會計）三宅健壽。（大阪支局）横井九八郎。（社員）七十一名。（工場員）五十五名。（機械）マリノニ式輪轉一、石川式六、平盤二。活字鑄造機、ステロ、寫眞版あり。（活字）七半、十四字、百四十七行、十三段。一箇月八十錢。（廣告料）一圓五十錢、場所指定廿錢增。

■十年一月十六日一萬五千號を迎へ鶴見總持寺に記念祭を催す

■同一月一萬五千號記念として「日本外戰史」（菊版一千頁）發行を決す。

一六新報

芝區新橋二ノ一（電）二七五、三四一—三。株式。十萬圓。（社史）明治二十六年十月二十六日前々社長秋山定輔氏二十六歳を以つて創刊す。夕刊六頁。（販數）七。（地方版）府下、埼玉、千葉、神奈川。（代表取締役）松本贊吉。（編局）下條光三。（政治）山本正三。（社會）下條光三。（整理兼經濟）鈴木香都良。（營局）簸東太。（販賣）高田忠吉。（廣告）野田澤四郎。（會計）小澤次郎。（工務）石渡勝太郎。（大阪

支局）竹田津吾一。（機械）マリノニ式輪轉機二。字母、ステロあり。（活字）七半、十四字、百四十行、十三段。一箇月六十錢。（廣告料）一圓五十錢、特別面三圓。

■九年十月橋本代表取締役辭任し松本贊吉氏後任となる。

■同十一月株主總會の結果、松本贊吉、御手洗辰雄、籏東太、下條光三君等取締役に就任。

■同十一月二十五日川村社主より籏松本君等以下四十名に解雇通告を發し同社を占據す。

■同十二月二十五日川村社主と松本君等との間に和解成立し、松本君等は復社する事となり、川村君等は退去す。

■十年一月二十一日臨時株主總會に於て御手洗辰雄、籏東太、山本正三の三君新たに取締役に擧げられたが御手洗君は就任を拒絕す。

■同三月再び川村君等により社屋を占據されたが東京區裁判所は同社幹部の訴へに基き同月二十八日判決を以つて川村一派に退去を命ず。

東京毎夕新聞

日本橋區人形町一ノ一四。（電）茅一一〇一—六。合資。三十二萬圓。創刊明治三十二年。夕刊六頁。日曜八頁。（版數）夕刊三版、外に江東版。（地方版）神奈川、武州、靜岡、千葉、茨城、福島、兩毛、甲信、（日曜には區版あり）。（名譽社長）出口王仁三郎。（社長）木村政次郎。（相談役）川村竹治。（副社長）御田村龍吉。（理事長）桑原信助。（專務）萩原敏明。（編局）木村正文。（編局代理）田原茂作。（社會）同。（經濟）加賀卯之吉。（學藝）坂口三郎。（美術）田澤良夫。（地方）伊藤義一。（寫眞）岩崎貞雄。（編輯顧問）田村西男、原潤一郎。（營局）木村達三。（經局）伊禰善助。（販賣）塚越三郎。（廣告）齋藤幹。（工務）石原愼之助。（社會事業）坂口義治。（企劃）木村達三。（調査）桑原信助。（工場）伊藤清彦。（大阪支局）木村政司。（社員）百三十七名。（工場員）百十名。（機械）外國製輪轉機二。內國製輪轉機六。外國製平面印刷機八。活字鑄造機五、外寫眞版製機、コッピー、他完備。（活字）七ポ、十五字、百五十四行、十三段。一箇月七十錢。（廣告料）普通一圓六十五錢、特別面三圓七十錢。

■九年十一月東京版九段を全廢合一し五十餘名を馘首す。

■十年九月田原茂作君編輯局長代理となる。

帝國新報

京橋區銀座四ノ五。（電）京橋八四三〇、八六一八。株式。十五萬圓。（社史）明治四十年創刊、石炭事業に關する新聞として發刊昭和八年六月之を改め現在幹部を以て編輯經營を擔當し純然たる思想新聞として、既成政黨の打破を目的とす。朝刊四頁。（地方版）神奈川版。（社長）池田弘。（常務）香渡信。（主幹）同。（編局）馬男木俊雄（思想）上領一郎。（神道）瀨尾季治。（政治）馬男木俊雄。（軍事）鈴木壽雅。（經濟）同。（社會）三宅正夫。（營局）水野石溪。（廣告）同。（大阪支局）近藤實。（社員）五十三名。（工場員）三十六名。（機械）マリノニ輪轉機一。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。（活字）七ポ、十五字、百五十三行、十三段。一箇月四十錢。（廣告料）普通一圓三十錢、場所指定二十錢增、特別面三圓。

■九年十二月秋田衆議院議長の政友會脫黨其他をスクープして注目さる。

■十年一月より國防欄を新設す

■同四月創刊三十周年を迎へ三日記念號を發行す。

■同九月十三日より從來の夕刊四頁を朝刊に改む。

運輸日報

麹町區有樂町二ノ四。（電）銀座三五九。創刊明治四十二年二月。個人經營。五萬圓。朝刊四頁。（版數）二版。（社長）志賀岩夫。（編局）同。（政治）平山武夫。（社會）渥美德厚。（營局）高村三郎。（廣告）新井基之。（販賣）藤久雄。（社員）廿四名。（工場員）二十名。（機械）共同印刷輪轉機二。活字鑄造機、ステロあり。（活字）七ポ、十五字、百二十行、十三段。一箇月一圓。

東京大勢

東京大勢新聞社發行。京橋區銀座西五丁目。（電）銀座六二三〇、六二〇四。創刊大正二年。株式。十萬圓。夕刊四頁。日曜六頁。（地方版）神奈

川版、下谷版、日本橋版、淺草版、濱谷版、豐島版、品川版、浦和版、杉並版、江東版、蒲田版、關西版、（社長）關伊右衛門。（編輯主任）細井貞吉。（政治）西村虎一。（社會）細井貞吉。（營局次長）高橋五郎。（廣告）田村悌治。（販賣）加藤政男。（工場）前田幸郎。（大阪支局）（社員工場員）とも百八十八名。（機械）KKS式輪轉二、平盤二。活字鑄造機、ステロあり。（活字）七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月六十錢。（廣告料）一圓五十錢、場所指定三割增、特別面五割增。

■十年三月二十四日前專務取締役大野敬吉君逝く、享年四十九。

■同七月十五日より七ポ十三段制となる。

■同六月下旬より日曜附錄二頁保險版發行。

■同十一月より日曜正午版發行

東京夕刊新報

京橋區京橋三ノ七。創刊大正三年二月一日。夕刊四頁。個人經營。（社長）中島鐵哉。（機械）輪轉機三。（活字）七半、十四字、百四十二行、十三段。一箇月五十錢。（廣告料）一圓三十五錢。

婦人毎日新聞

芝區濱松町二ノ一九。（電）芝二八九七、三六九八。株式。三十萬圓。（社史）昭和四年一月二十六日創刊、恒任社長歿後、大原明敏、島田幹一兩社長を經て昭和十年六月現社長に至る、同時に編輯責任者として大宮敬、營業責任者として新谷寅重その衝に當る、夕刊四頁。（版數）正午版、夕刊。（部數）十年十一月十五日現在五萬八千部。（社主）恒任よしの。（社長）永吉六郎。（專務）新谷寅重。（支配人）相澤令宣。（主幹）大宮敬。（編局）同。（整理）中村清一。（婦人）千振吟子。（社會）華井宇多二。（營局）新谷寅重。（販賣）相澤令宣。（廣告）宇野高。（社員）二十三名。（工場員）四十五名。（機械）東京機械製作所輪轉機一。活字鑄造機、ステロあり。（活字）七ポ、十五字、九十八行、十三段、一箇月五十錢。（廣告料）一圓五十錢、特別面三圓。

■十年四月十七日日比谷新音樂堂に銃後の婦人の夕べを催す。

■同六月前社長島田幹一君退社し恒任よしの君社主、永吉六郎君社長となる。

日刊自動車新聞

日本橋區人形町一ノ一四。（電）茅場四五〇六、一一〇一—六。創刊昭和四年二月二十一日。合資會社。五萬圓。朝刊大型八頁。（版數）一。（附錄）グラビア其他。（社賓）堀內文次郎。（社長）木村正文。（編輯）今里雅春。（營業）渡邊保。（大阪支社）宮本美智夫。（名古屋支社）村本光次。（社員）百卅名。（工場員）四十名。（機械）輪轉印刷機二、平臺印刷機。活字鑄造機、ステロあり。（活字）七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月六十錢。（廣告料）一圓五十錢、場所指定三割增、特別面五割增。

■十年三月二十四日前專務取締役大野敬吉君逝く、享年四十九。

■同七月十五日より七ポ十三段制となる。

■同六月下旬より日曜附錄二頁保險版發行。

■同十一月より日曜正午版發行

東京夕刊新報

京橋區京橋三ノ七。創刊大正三年二月一日。夕刊四頁。個人經營。（社長）中島鐵哉。（機械）輪轉機三。（活字）七半、十四字、百四十二行、十三段。一箇月五十錢。（廣告料）一圓三十五錢。

婦人毎日新聞

芝區濱松町二ノ一九。（電）芝二八九七、三六九八。株式。三十萬圓。（社史）昭和四年一月二十六日創刊、恒任社長歿後、大原明敏、島田幹一兩社長を經て昭和十年六月現社長に至る、同時に編輯責任者として大宮敬、營業責任者として新谷寅重その衝に當る、夕刊四頁。（版數）正午版、夕刊。（部數）十年十一月十五日現在五萬八千部。（社主）恒任よしの。（社長）永吉六郎。（專務）新谷寅重。（支配人）相澤令宣。（主幹）大宮敬。（編局）同。（整理）中村清一。（婦人）千振吟子。（社會）華井宇多二。（營局）新谷寅重。（販賣）相澤令宣。（廣告）宇野高。（社員）二十三名。（工場員）四十五名。（機械）東京機械製作所輪轉機一。活字鑄造機、ステロあり。（活字）七ポ、十五字、九十八行、十三段、一箇月五十錢。（廣告料）一圓五十錢、特別面三圓。

■十年四月十七日日比谷新音樂堂に銃後の婦人の夕べを催す。

■同六月前社長島田幹一君退社し恒任よしの君社主、永吉六郎君社長となる。

日刊自動車新聞

日本橋區人形町一ノ一四。（電）茅場四五〇六、一一〇一—六。創刊昭和四年二月二十一日。合資會社。五萬圓。朝刊大型八頁。（版數）一。（附錄）グラビア其他。（社賓）堀內文次郎。（社長）木村正文。（編輯）今里雅春。（營業）渡邊保。（大阪支社）宮本美智夫。（名古屋支社）村本光次。（社員）百卅名。（工場員）四十名。（機械）輪轉印刷機二、平臺印刷機。活字鑄造機、ステロあり。（活字）七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月六十錢。（廣告料）一圓五十錢、場所指定三割增、特別面五割增。

■十年三月二十四日前專務取締役大野敬吉君逝く、享年四十九。

■同七月十五日より七ポ十三段制となる。

■同六月下旬より日曜附錄二頁保險版發行。

■同十一月より日曜正午版發行

東京夕刊新報

京橋區京橋三ノ七。創刊大正三年二月一日。夕刊四頁。個人經營。（社長）中島鐵哉。（機械）輪轉機三。（活字）七半、十四字、百四十二行、十三段。一箇月五十錢。（廣告料）一圓三十五錢。

婦人毎日新聞

芝區濱松町二ノ一九。（電）芝二八九七、三六九八。株式。三十萬圓。（社史）昭和四年一月二十六日創刊、恒任社長歿後、大原明敏、島田幹一兩社長を經て昭和十年六月現社長に至る、同時に編輯責任者として大宮敬、營業責任者として新谷寅重その衝に當る、夕刊四頁。（版數）正午版、夕刊。（部數）十年十一月十五日現在五萬八千部。（社主）恒任よしの。（社長）永吉六郎。（專務）新谷寅重。（支配人）相澤令宣。（主幹）大宮敬。（編局）同。（整理）中村清一。（婦人）千振吟子。（社會）華井宇多二。（營局）新谷寅重。（販賣）相澤令宣。（廣告）宇野高。（社員）二十三名。（工場員）四十五名。（機械）東京機械製作所輪轉機一。活字鑄造機、ステロあり。（活字）七ポ、十五字、九十八行、十三段、一箇月五十錢。（廣告料）一圓五十錢、特別面三圓。

■十年四月十七日日比谷新音樂堂に銃後の婦人の夕べを催す。

■同六月前社長島田幹一君退社し恒任よしの君社主、永吉六郎君社長となる。

日刊自動車新聞

日本橋區人形町一ノ一四。（電）茅場四五〇六、一一〇一—六。創刊昭和四年二月二十一日。合資會社。五萬圓。朝刊大型八頁。（版數）一。（附錄）グラビア其他。（社賓）堀內文次郎。（社長）木村正文。（編輯）今里雅春。（營業）渡邊保。（大阪支社）宮本美智夫。（名古屋支社）村本光次。（社員）百卅名。（工場員）四十名。（機械）輪轉印刷機二、平臺印刷機。活字鑄造機、ステロあり。（活字）七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月六十錢。（廣告料）一圓五十錢、場所指定三割增、特別面五割增。

■十年三月二十四日前專務取締役大野敬吉君逝く、享年四十九。

■同七月十五日より七ポ十三段制となる。

■同六月下旬より日曜附錄二頁保險版發行。

■同十一月より日曜正午版發行

東京夕刊新報

京橋區京橋三ノ七。創刊大正三年二月一日。夕刊四頁。個人經營。（社長）中島鐵哉。（機械）輪轉機三。（活字）七半、十四字、百四十二行、十三段。一箇月五十錢。（廣告料）一圓三十五錢。

婦人毎日新聞

芝區濱松町二ノ一九。（電）芝二八九七、三六九八。株式。三十萬圓。（社史）昭和四年一月二十六日創刊、恒任社長歿後、大原明敏、島田幹一兩社長を經て昭和十年六月現社長に至る、同時に編輯責任者として大宮敬、營業責任者として新谷寅重その衝に當る、夕刊四頁。（版數）正午版、夕刊。（部數）十年十一月十五日現在五萬八千部。（社主）恒任よしの。（社長）永吉六郎。（專務）新谷寅重。（支配人）相澤令宣。（主幹）大宮敬。（編局）同。（整理）中村清一。（婦人）千振吟子。（社會）華井宇多二。（營局）新谷寅重。（販賣）相澤令宣。（廣告）宇野高。（社員）二十三名。（工場員）四十五名。（機械）東京機械製作所輪轉機一。活字鑄造機、ステロあり。（活字）七ポ、十五字、九十八行、十三段、一箇月五十錢。（廣告料）一圓五十錢、特別面三圓。

■十年四月十七日日比谷新音樂堂に銃後の婦人の夕べを催す。

■同六月前社長島田幹一君退社

帝都日日新聞

芝區芝公園五號地。（電）芝五一一五、五一六、一五五〇、一五五一。個人經營。創刊昭和七年八月十日。朝刊四頁。（附錄）週刊我等の新聞。（社主）野依秀市。（社長）同。（副社長）佐野完。（主筆）同。（編局）坂本德松。（整理）淺尾八十一。（政治）武田正次。（外報）長部慶一郎。（經濟）田中利勝。（運動）稻垣伊一郎。（營局）佐野完。（廣告）同。（會計）佐藤周平。（販賣）小津孝助。（大阪支局）森山定。（社員）八十四名。（工場員）五十三名。（機械）マリノニ輪轉機一。鑄造機一、ステロ一。（活字）七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月五十錢。（廣告料）一圓五十錢、場所指定二十錢增特別面三圓。

評論新聞

日本評論新聞社發行京橋區寶町三ノ三。（電）京橋六五三〇。個人經營。（社史）昭和六年十一月一日創刊、十年八月日本評論新聞を現名に改題。夕刊四頁。（社長）古川浩。（支配人）井上勝一。（編輯）金關狐郎。（營業）清水清之助。（大阪支局）寺田半司。（社員）二十八名。（工場員）三十一名。（機械）マリノニ式輪轉機一、平盤印刷機一。コッピー機一、鉛版鑄込機一、鉛版仕上機、其他附屬品一式。（活字）七ポ、十五字、百五十五

行、十三段。一箇月五十錢。(廣告料)一圓五十錢、場所指定五十錢增、特別面三圓。

夕刊帝國 夕刊帝國新聞社發行麹町區內幸町一ノ五。(電)銀座一二一、四三四一。理事制。十萬圓。(社史)創刊明治二十三年日刊日本協同通信を改題し日刊新聞として創立四週年を迎ふ。夕刊四頁。(理事長)渡邊剛。(顧問)菊池武夫。(相談役)久保祐三郎、井上清。(編輯理事)福田寧雄。(理事編輯次長兼演藝)黒木三郎。(政治)小玉楢次郎。(社會)渡里重義。(理事廣告)原田健太郎。(大阪支局)大田順一。(社員)三十名。(工場員)二十五名。(機械)マリノニ式輪轉機一、活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月五十錢。(廣告料)一圓五十錢、場所指定二十錢增、特別面三圓。

■昭和十年二月十一日本社事業の一として東亞人文研究所を設置し東亞和平の確立に努む。

■同八月滿支視察報告書を同研究所より出版す。

■九年十月銀座西國文社ビルより移轉す。

夕刊魁新報 (毎朝新報(大阪)の姉妹紙)。麹町區元園町一ノ四七。(電)九段七三八。創刊昭和八年四月三日。夕刊四頁。(社長)日比孝治郎。(營業)藤野優。(活字)七ポ、百五十五行、十三段。

自動車日日新聞 芝區田村町二ノ一一。(電)銀座四三五、五〇二二、三二五六。株式。一萬圓(全額拂込)。(社史)昭和八年九月二十三日合資會社(資本金一萬圓)創立、同十年一月一日合資會社自動車日日新聞社と中外自動車新聞社並に中外自動車通信社と合併、株式會社自動車日日新聞社設立現在に至る。朝刊小型八頁。(附錄)毎月自動車日日書報、時々交通事故判決例、同自動車に絡る犯罪實話。(地方版)關西、鮮滿、北陸。(部數)十年十月三十日現在一萬三千部。(專務)辻三壽吉。(編局)大澤益次郎。(整理)阿部眞一。(外交)山本紫郎。(營局)辻三壽吉。(廣告)川崎信夫。(販賣)松井義嗣。(會計主任)田代義光。(大阪支局)永田詮。(社員)四十名。(活字)七ポ、十五字、九十五行、九段。一箇月四十錢。(廣告料)一圓、場所指定十錢、特別面一圓二十錢。

日刊日本少年新聞 財團法人帝國少年教育會。麹町區內山下町一ノ一。(電)銀座四〇一八、財團法人。創刊昭和九年十月一日。朝刊四頁(菊版)。(部數)十年十月二十八日現在五萬八千部(發行人)井關源三郎。(代表者)橋原正章。(編局)深江彦市。(營局)下村保。(社員)三十八名。

帝國今夕新聞 芝區田村町四ノ五。(電)芝三四六九。(社史)昭和九年十月主幹高杉京演氏を擁立し、十二月一日銀座西七ノ五に帝國今夕新聞を發刊す、業務の發展は工場の增設新社屋の移轉となり十年二月十七日現社屋に移轉す本社の目標は言論報道による徹底皇道精神の宣揚にある。夕刊四頁。(地方版)神奈川版。(部數)昭和十年十月二十五日現在三萬五千部。(主幹)高杉京演。(總務)相澤令宣。(相談役)宅野田吉。(編局)林源一。(編輯總務)美和庸三。(營局兼廣告)山崎善三郎。(工場)宇野高。(大阪支局)落合忠兵衛。(社員)三十名。(工場員)三十五名。(機械マリノニ輪轉機及平盤。ステロあり。(活字)七ポ、十五字、百五十八行、十三段。一箇月五十錢。(廣告料)一圓五十錢、場所指定一行二十錢增、特別面三圓。

婦人日日新聞 京橋區櫻橋角(電)京橋七六六五。創刊昭和九年四月、婦人毎日新聞を改題。朝刊四頁。(部數)十年十月現在一萬部。(社主)大原明敏。(社長)同。(副社長)大原昌子。(編輯總務局)赤江時二。(編輯局)古瀬長榮。(營局)大原明敏。(廣告)大原昌子。(社員)三十名。

■九年十一月三日休刊中のメーピン日報は婦人日日新聞に更生發刊。

■同十一月十五日朝刊四頁制に復活す。

報國新報 麹町區內幸町一ノ六。(電)銀座二三八八。(社史)昭和十年六月一日創刊、神政主義。夕刊四頁。(販數)四版。(部數)十年現在一萬二千部。(社主)田邊隆。(社長)田邊宗英。(主筆)

高木八太郎。(編輯)窪田文雄。(校正)酒井宣志。(營業)山本英三。(廣告)渡邊肇。(販賣)佐久間操。(社員)五十三名。(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月五十錢。(廣告料)一圓、場所指定二圓。

■十年七月一日前編輯長鈴木重吉等四名退社す。

東京日報 大森區海岸。(電)大森四二六八。創刊昭和十年三月二十日。個人經營。朝刊。(社長)平山長佐久。(活字)七ポ、十五字、百五十五行、一箇月六十錢。

教學新聞 京橋區銀座西五ノ五。(電)銀座四四一三。創刊昭和六年十月。日刊四頁。(社主)奥田宏雲。(社長)同。(社員)三十八名。一箇月六十五錢。

ジヤパン・アドバタイザー 麹町區內山下町一ノ一。(電)銀座五八五七、五八五五八五八五九。株式。十七萬圓。創刊明治二十三年十一月一日。朝刊八頁日曜日十六頁。(販數)二。(地方版)關西。(社長)ビー、ダブリユ、フライシャー。(主筆)ウイルフリッド、フライシャー。(編輯)ニュラス、ラドフォード。(營業)ゼー、アール、ヤング。(社員)八十四名。(工場員)二十一名。ライノタイプ六。(活字)七ポ。一箇月三圓卅錢。(廣告料)一吋四圓五十錢。(兼營)週間輸出雜誌「トランス、パシフイツク」。

ザ・ジヤパン・タイムス・エンド・メール ジヤパンタイムス社發行。麹町區內幸町一ノ六。(電)銀座三〇三、四〇三、五三九一。株式。十八萬圓。創刊明治三十年三月。夕刊八頁乃至十六頁。(地方版)關西版。(社長)芦田均。(取締役)伊藤正德、穗積重威、鹿島守之助。(監査役)小野俊一。(主幹)新渡戸孝夫。(十二月十八日歿)(經濟)富田清萬。(整理)村田五郎。(營業總務)上原浦太郎。(經理)川村彰一。(販賣)駒井猪重。(調査)祝幸四郎。(會計主任)高橋濟美。(横濱支局)木原龍吉。(關西支社)谷中正利。(社員)百三十名。(工場員)二十五名。(機械)ゴス式輪轉印刷機。ライノタイプ八ステロの設備あり。(活字)七ポ、一欄、二十一吋一頁、八欄。一箇月二圓五十錢。(廣告料)五圓、場所指定五割增。(兼營)日本紹介、各種特別號(タブロイド型)を時宜に依り發行。

■昭和十年に於て發行したる特別號左記の通り、水産紹介號、滿洲號、産業紹介號、九州紹介號、機械號、日露親善號、日獨親善號、日米親善號、植民地紹介號、横濱博覽會號、中南米貿易號、建築號、交通運輸號、神道號。

日刊東洋點字新聞 淀橋區淀橋七一九。(電)四谷一一二三。個人經營。一萬五千圓。(社史)創刊大正十四年六月一日、盲人のための世界唯一の點字日刊新聞にして現代生活の主要なる事項を報道する盲界に於ける言論機關。朝刊八頁。(販數)一版。(部數)十年十月一日現在千五百部。(社主)木村柳太郎。(社長)同。(主幹)木村福。(社員)八名。(工場員)五名。(機械)點字印刷輪轉機動力二、點字平版印刷機一、製版用點字機一。(活字)點字。一箇月八十五錢。(兼營)印刷部、代理部、社會事業部。

■社會事業部は創立滿十年を記念として盲人授産所を設置す、尚盲人保護事業のために貢獻す。

多摩日日新聞 八王子市旭町一。(電)六三二。十萬圓。(社史)創刊昭和六年五月十五日、八王子區裁判所指定紙。朝刊四頁。(部數)十年十月現在一萬四千部(社主)廣井萬次郎。(編輯)鈴木純次。(營業)廣井千次郎。(東京支局)中條信彦。(社員)五十三名。(工場員)三十名。(機械)輪轉機一。ステロあり。(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月六十錢。(廣告料)一圓、場所指定二圓。

(二) 大阪府

▼人口……三、九二二、八〇〇
▼同市部……二、八八九、四〇〇
▼同郡部……一、〇三三、四〇〇
▼世帶數……七四、五六〇

大阪新聞界の大勢も大體に於て東京と變りなく、大朝、大毎兩紙の進展愈々花々しく、昭和十年二月十一日から、兩紙は九州門司に於て朝夕刊を發行する事とした。而して此の計畫は大朝が大毎より

一歩進んじたものであり、準備の充分でなかつた大毎は、その出發點に於て立遲れの感が深かつた。併し此の進出は豫期された程一擧に地元紙との勝負が決せられるやうな事はなく、やがて戰ひは持久戰に入つた。處が更に同年十一月には、兩紙とも名古屋で夕刊を發行する事に決定した。斯くして今や兩紙の地方版は、本社發行のものを加へて四十餘版を數へるに至つた。

人事では大朝營業局長に東京から刀禰館正雄君が赴任し、美土路昌一、原田讓二の二君が取締役に選任され、大毎では英文毎日主幹の松岡正男君が夕刊大阪の前田久吉君と共に時事新報の經營を擔當する事となり、營業局次長の山田潤次君が吉武君の後を受けて東日營業局長に、また少時第一線から離れてゐた七海又三郎君が、販賣部長として再び陣頭に委を現はした。

其他の各紙では、九年末に日刊工業が個人經營から三十萬圓の株式會社に組織を變更し、大阪時事は新たに主筆に北村佳逸君、顧問に海軍中佐池崎忠孝君を迎へ、十年四月、大阪日報社長高橋松太郎君は五十一歳を以つて歿した。

大阪朝日新聞 株式會社

朝日新聞社發行。大阪市北區中之島。(電)代表北濱三五〇一外二十五本。創刊明治十二年一月廿五日。株式。六百萬圓。朝刊十二頁。夕刊四頁。(版數)八版(地方版)神戸(三種)、京都(三種)、和歌山(二種)、島根、富山、廣島(二種)、香川、鳥取、德島、石川、愛媛、岡山、高知、奈良、三河、福井、岐阜(二種)、滋賀、尾張、三重、大阪(三種)名古屋、阪神、南鮮、滿洲、西北、宮崎、大分、熊本、鹿兒島、佐賀、福岡AB、山口AB、長崎、臺灣、北九州AB。(社長)上野精一。(取締役會長專務)村山長擧。(副社長)下村宏。(專務)辰井梅吉。(常務)高原操、石井光次郎、緒方竹虎。(主筆)高原操。(副主筆)和田信夫。(編局)原田讓二。(計畫)大江理三郎。(整理)千葉雄次郎。(聯絡)淺村成功。(通信)內田眞吾。(校閲)一花他藏。(外報)岡本鶴松。(東亞)神尾茂。(經濟)白川威海。(社會)木村豐二郎。(寫眞)松本健。(調査)小林次郎(運動)東口眞平。(學藝)小倉敬二。(出版編輯部長)大道弘雄。(營局)刀禰館正雄。(販賣)同。(廣告)天野四郎。(會計)福田米吉。(庶務)久塚磨。(印局)小西作太郎。(社員)二千名。(內工場員)六百六十名。(機械)超高速度朝日式輪轉機二十一、獨逸製四色刷輪轉機一、同グラヴュア輪轉機等二、萬能活字鑄造機等十二。紙型壓搾乾燥機五。鉛版自動鑄造機等四。(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月一圓。(廣告料)二圓、場所指定六十錢より三十錢まで。(兼營)(週刊)週刊朝日、アサヒグラフ。(月二回)アサヒスポーツ、(月刊)大阪朝日縮刷版、アサヒカメラ、映畫と演藝、婦人、コドモアサヒ、アサヒグラフ海外版。(特設)(飛行機)モノスパー機等十四臺、東京大阪間專用電話、レーメンス・カロルス・テレフンケン式電送寫眞機、獨逸ツイツーシュ社製電報氣送管。

■九年九月二十一日の颱風に自家用發電裝置偉功を奏す。

■同十一月二十四日前社長村山龍平君の一年祭を執行す。

■同十二月より滿洲地方版を門司にて印刷す。

■十年一月二十一日社員採用試驗を行ふ、受驗者五百五十一名。

■同一月二十四日九州支社規定を發表實施す、二十五日原田棟一郎君を支社長に、朝倉斯道君を支社編輯局長とす。

■同一月二十五日二十五年勤續者十名を表彰す。

■同二月五日締切の東北義捐金募集は總計六十萬六千六百九十一圓九十六錢となる。

■同二月十一日より九州支社に於て朝夕刊を發行す。

■同三月南京訪問飛行成功す。

■同四月十五日七層樓延坪千百十六坪の京都支局竣成す。

■同五月十一日新通信社創立準備委員會に參加す。

■同八月倫敦支局員聽濤克巳君をエチオピヤに特派す。

■同十月一日中京進出の陣容を發表す。

大阪毎日新聞 大阪市北

區堂島上二ノ三六。(電)代表北五五〇〇、五六〇〇。株式。一千萬圓。創刊明治十五年二月。朝刊十二頁。夕刊四頁。(版數)本紙八版制、夕刊三版制。(地方版)大阪A、B、C、京都 A、C、神戸、阪神、兵庫、滋賀、和歌山A、B、奈良A、B、德島、高知、香川、愛媛、鳥取、島根、岡山、備後、呉、廣島、福井、石川、富山、名古屋、尾張、三河、岐阜、三重、北九州、福岡、大分、佐賀、長崎、熊本、宮崎、鹿兒島、沖繩、朝鮮A、B、滿洲、臺灣の各版。(取締役會長)岡實。(專務)奥村信太郎、吉武鶴次郎。(主幹)高石眞五郎。(主筆)同。(事業)世川憲次郎。(航空)福知新次。(編輯總務)平川清風。(副主筆、經濟)下田將美。(論說委員)渡邊廣重、赤坂清七。(整理)平野岑一。(政治)金子伴次郎。(調査)井上吉次郎。(內國通信)吉村廣。(外國通信)上原虎重。(東亞通信)長岡克曉。(同顧問)澤村幸夫。(社會)上田正二郎。(寫眞)北尾錄之助。(運動)鈴木三郎。(エコノミスト編輯)佐藤善郎。(學藝)大竹憲太郎。(同顧問)菊池寛。(聯絡)大原武夫。(校正)柳澤茂。(英文大毎編輯)毛利八十太郎。(同事務)夏目秋一。(滿洲通信總局)楢崎觀一。(西部總局)藤井公平。(同營部)佐田酉吉。(營局次長、會計)武田榮。(販賣)鹿倉吉次(廣告)清澤巖。(庶務)久保田辰彦。(印刷)浦田芳朗。(機械)(据付分のみ)十八萬高速度輪轉印刷機六、超高速度輪轉印刷機十五。合計二十一臺、獨逸アルバート會社製多色グラヴュア輪轉印刷機三、自動活字鑄造機十六、水壓式紙型製作機五。寫眞製版設備あり。(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月一圓。(廣告料)二圓、場所指定三十錢以上。(兼營)東京日日新聞英文「大阪毎日」、サンデー毎日、點字「大阪毎日」エコノミスト、寫眞特報、ホームライフ、映畫教育、新興婦人、大毎こども、(特設)飛行機、電送寫眞機等あり。

■九年十一月前慶應野球部監督腰本壽君運動部顧問となる。

■同十二月より滿洲地方版を門司にて印刷す。

■十年一月七日新春部數百七十萬突破祝賀會を行ふ。

■同二月一日大毎西部總局の新職制を發表し平川清風君を西部總局長兼務、大原武夫君を同次長に任命す。

■同二月十一日より西部總局に於て朝夕刊を發行す。

■同三月名古屋市上前津四百八十坪の敷地に支局社屋の新築に着手す。

■同四月全國優良青年海軍研究大會を主催す。

■同四月滿洲國軍政部へ傳書鳩百五十羽を寄贈す。

■同五月十一日新通信社創立準備委員會に參加す。

■同六月平川清風君西部總局長を解かれ後任に聯絡部長藤井公平君就任す。

■同九月朝鮮施政二十五年記念朝鮮八景八勝投票を主催す、投票數三千四百三十八萬四千九百三十一票に達す。

■同十月池貝で製作中の十八萬刷機完成す。

大阪經濟新聞 大阪市東

區北濱一ノ二一。株式。六萬圓。創刊明治十五年三月。夕刊四頁。(社長)吉田益三。(常務)野口欣一、岩瀨幸三郎。(主筆)宮本巖。(編局)田中喜祿。(營部)岸和田勝。(社員)百九名。(工場員)四十七名。(機械)輪轉印刷機四、平版印刷機四。鑄造機一、ステロ、寫眞版あり。(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月六十五錢。(廣告料)一圓、特別面四割增。

■十年九月十七日一萬五千號祝賀會を催す。

大阪時事新報 大阪市北

區曾根崎上四ノ四九。(電)北局九五—九九、七二、八七、三四七—八。創刊明治三十八年三月十五日。株式。六十萬圓。朝刊十二頁。日曜夕刊四頁。(版數)九版。(地方版)中國版、四國版、紀和版、京滋版、東海版、京都版、近郊版。(社長)進藤信義。(監査役經理局)友國在二郎。(取締役營局)加藤芳助。(編局兼社會)鹽澤元次。(主筆)北村佳逸。(顧問)池崎忠孝。(經濟)戸田庄一郎。(整理)吉安新次郎。(內通)廣瀨馥。(學藝)尾關岩二。(販

賣）青木茂。（廣告）宮下政雄。（會計）小野二郎。（工務）友國在二郎。（寫眞代理）福井末吉。（東京支社）佐藤勇助。（社員）二百八十五名。（工場員）九十五名。（機械）高速輪轉一、輪轉機五。活字鑄造機六、ステロ六、寫眞製版設備あり。（活字）七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月八十錢。（廣告料）一圓卅錢、場所指定十錢增し、特別面一圓五十錢。（兼營）僚紙神戸新聞。

■九年十一月東京支局長酒井謙吉君は神戸新聞支局長專任となり後任に佐藤勇助君就任す。

■同十一月退役海軍中佐池崎忠孝君顧問として入る。

日本織物新聞 大阪市西區阿波座中通一ノ三八。（電）新町一〇七—八、一七〇、三一〇—一、七五〇、一七一〇、一八三〇。株式。二十五萬圓拂込濟。（社史）明治三十九年三月創刊、初月二回發行より三回、五回、六回、十回、十五回に進み大正十二年七月日刊となる、十年一月村井基一の個人經營より株式會社となる。朝刊四頁。（版數）一版。（社長）村井基一。（常務）速水勵慶、矢追房太郎。（監査役）山岡米造。（編部）中江覺司。（營部）速水勵慶。（東京支局）草野尙輝。（社員）九十五名。（工場員）九十名。（機械）輪轉機（色刷、折疊併用）二、ロール九。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。（活字）七ポ、十五字、百五十六行、十三段。一箇月八十錢。（廣告料）七十錢、場所指場二十錢增。（兼營）日本經濟通信、日進舍印刷所。

大阪毎夕新聞 北區堂島町中一ノ三九。（電）北一八〇九、二六四〇、六〇五〇、七二〇六—七。創刊明治四十二年一月。株式。十萬圓。夕刊四頁。第二版正米版四頁。（常務）工藤九郎。（支配人）戸川茂。（政治）永井紹義。（商況）小西福松。（經濟）澤田榮二。（社會）中井新三郎。（廣告）青木米吉。（工場）川畑松次郎。（東京支局）森田敬太郎。（機械）マリノニ輪轉二。ステロあり。（活字）七ポ、十五字。百五十五行、十三段。一箇月五十錢（廣告料）一圓二十錢、特別面一圓五十錢。（兼營）姉妹會社に堂島印刷所（資本金五萬圓）あり。

大阪朝報 大阪市西區北堀江上通一ノ二一。（電）代表新町四〇六、四〇七。個人經營。二十萬圓。（社史）明治四十三年十一月二十三日故小田垣鐵次郎氏及現社長岡島松次郎氏等に依つて創立、大正三年十月小田垣氏病歿後經營主腦として岡島松次郎氏專ら社務を統監。朝刊四頁。（版數）二。（社主）岡島松次郎。（社長）同。（編局）岡島松次郎。（經濟）笹山準弐。（整理）永田重次郎。（社會）八木善一。（會計）丹波種太郎。（營局）岡島松次郎。（販賣）納幸次郎。（廣告）巽音次郎。（東京支社）祖上祐三。（機械）内國製輪轉機二。鉛版仕上機二、コッピー機三、活字鑄造機二。（活字）七ポ、十五字、百五十行、十三段。一箇月五十錢。（廣告料）普通九十錢、特別面一圓八十錢。

大阪日日新聞 大阪市北濱四丁目。（電）北濱一一一。株式。十五萬圓。創刊明治四十四年四月。夕刊四頁。（版數）二。（附錄）土曜半頁。（社長）藤木重次郎。（編輯）富田泰彦。（廣告）三田村義行。（營局）吉弘靖一。（東京支局）秋元忠。（社員）八十七名。（工場員）百十五名。（機械）藤木式高速度折式輪轉機七。活字鑄造機、ステロ、寫眞版あり（活字）七ポ、十五字、百五十四行、十三段。一箇月五十錢。（廣告料）一圓、特別面二圓。

大阪萬朝報 北區堂島大江橋畔。創刊明治四十四年十一月二十三日。個人經營。夕刊四頁。（社長）津川甚三郎。（副社長、編輯）和田喜一郎。（主幹）吉田桃華。（事業）西村義之。（編輯次長）渡邊定信。（營業）大岡千代松。（機械）内國製輪轉二、平盤三。（活字）七・七五、十五字、百四十五行、十三段。一箇月五十錢。（廣告料）一圓。

■姉妹紙に夕刊帝國日日新聞あり。

大阪新日報 大阪市此花區上福島南一ノ一三六。（電）福島二六〇—二六三。創刊大正三年八月。個人經營。夕刊四頁。（社主）野田廣二。（社長）同。（營局）野田茂一。（廣告）西村助一郎。（販賣）高島政之。（社員）二十五名。

（工場員）二十二名。（機械）津田式輪轉機二。ステロ、寫眞版設備あり。（活字）八ポ、十二字、百三十五行、十三段。一箇月五十錢。（廣告料）九十錢、場所指定二圓、特別面一圓五十錢。

關西日報 大阪市北濱四ノ七。株式。五萬圓。創刊大正三年十一月。朝刊四頁。（版數）三。（地方版）市外版、神戸版。（社主）吉弘茂義。（常務）吉弘靖一。（編輯）和田六東。（營業）多胡龜次郎。（社員）三十一名。（工場員）四十五名。（機械）藤木式輪轉機三。活字鑄造機、ステロ、寫眞版あり（活字）七ポ、十五字、百五十四行、十三段。一箇月五十錢。（廣告料）一圓。特別面二圓。

日刊工業新聞 大阪市北區中ノ島五丁目。（電）代表土佐堀三一八。東京市京橋區銀座西二丁目。（電）代表京橋三〇七〇。（社史）創刊大正四年十一月三十日、昭和十年一月個人經營を株式組織に改む、三十萬圓（全額拂込）朝刊十二頁。（附錄）全國工場通覽、商工日記、工業情報、仕入案内、日本技術家總覽等。（編部）小西百一。（營部）大西茂彦。（東京支社）小西百一。（社員）三百五十九名。（工場員）七十五名。（機械）折疊機三。全自働鉛版鑄込裝置一、萬能鑄造機一、寫眞製版工場、圖案部あり。（活字）七ポ、十五字、百五十六行、十三段。一箇月一圓。（廣告料）一圓五十錢、場所指定二割增、記事中特別五十圓。

■九年十二月二十七日資本金三十萬圓全額拂込の株式組織と改む、（常務取締役）小西百一、大西茂彦、（取締役）堤私作、豐成光文、辰巳清次、（監査役）藤村東、林口梅吉君等就任す、

■取締役會長は小西百一君。

■第一期第二期共に五分配當、利益の大半は社内保留とする事毎期同樣。

■同十一月東京機械に注文中の時速五萬機据付完了し印刷能力既設機を加へて一時間十二萬となる。

■同五月東京機械全自働鉛版鑄造機を設置印刷能率の改善を實施す。

■十年七月三日、五日東京日比谷公會堂及び七月二十八日大阪天王寺公園に自動車祭を行ふ。

■同十月下旬より一箇月間支、滿鮮に開かれたる、東洋工業會議に特派員を派遣す。

■同十一月英文躍進日本工業號刊行。

■同八月警視廳と共同主催にて工場人のため千葉縣谷津に、（海の健康村）を開設し累計約十三萬の入場者を收容す。

大阪日報 大阪市東成區大介里町六八六。個人經營。五萬圓。（社史）大正六年六月一日、大阪日報として創刊。夕刊八頁。（附錄）春秋特輯雜誌附錄發行。（部數）九年九月廿七日現在一萬八千部（社主）高橋誠行。（社長）同。（主幹）野田文六。（編輯）國井豐吉。（政治）野田文六。（經濟）木村作之。（營業）北野漉郎。（販賣）高橋誠行。（東京支局）植田孝之。（社員）四十一名。（工場員）二十七名。（機械）輪轉機二、平盤二。活字鑄造機。ステロ、寫眞版設備あり。（活字）七・五、十五字、百四十行、十二段。一箇月五十錢。（廣告料）一圓二十錢以下。

■十年四月十八日前社長高橋松太郎君逝く、享年五十一。嗣子誠行君後任社長となる。

大正日日新聞 大阪市東區北濱四ノ六。（電）本局二七〇、九六〇、一〇五四—五、四三六〇、四八二六。創刊大正八年十一月廿五日。個人經營。一百萬圓。朝夕刊共八頁。（地方版）臺灣版、東京版、京都版、和歌山版、（社主）米田誠夫。（社長）同。（總務）山池清瑞。（理事）島津睿。（編局）米田誠夫。（主筆）國井豐吉。（編輯次長）山田董。（社會）三谷誠亮。（經濟）佐藤安造。（政治）宮尾普賢。（學藝）村上芳雄。（演藝）稻垣林之助。（寫眞）島谷卯之助。（速記）森泰作。（營業）土橋勝千代。（廣告）高瀨正美。（外交）中川與吉。（販賣）西田虎藏。（工場長）小倉忠治。（東京支社）山池清瑞。（社員）百六十名。（工場員）六十八名。（機械）高速度折疊大正式輪轉機一、石川式輪轉機三、平盤印刷機三。活字鑄造機、字母設備、コッピー機、鉛版鑄造機二、寫眞版設備あり。（活字）七半、十四字、百四十六行、十三

段。一箇月六十錢。(廣告料)一圓二十錢、場所指定一圓四十錢特別面二圓。

市民日報 大阪市民日報社發行 大阪市北花區上福島南二ノ一〇〇。(電)福島六一四、一九四〇。合資。十萬圓。(社史)創刊大正八年十二月五日、北大阪新聞より大正十四年四月改稱。夕刊四頁。(社長)中井蕾華。(副社長)川村幸太郎。(編輯)同。(營業)番匠善一。(機械)高速輪轉一。活字鑄造機、ステロ、寫眞版あり。(活字)七半、十四字、百二十五行、十三段。一箇月五十錢。(廣告料)一圓、場所指定一圓五十錢。

夕刊大阪新聞 大阪市北區堂島濱通四丁目。(電)福島七五一—七五四、七五六。株式。五十萬圓。(社史)大正十一年七月南大阪新聞と稱し翌十二年夕刊大阪新聞と改題、昭和二年株式會社に組織變更、四頁新聞より八頁となし日曜十二頁を發行し。夕刊八頁。日曜十二頁。(專務)前田久吉。(主幹)福良虎雄。(編輯)鷲谷貳。(部長)阪井康夫、玉置鶴正男、筒江保、平野英二。(營局)早島喜一。(部長)全德信治、大宅貢、萩原唯一。(東京支局)佐藤卯兵衛。(社員)百五十名。(工場員)百名。(機械)高速度輪轉機一、TKS式輪轉三、マリノニ式二。活字鑄造機、ステロ、寫眞版完備。(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月六十錢。(廣告料)一圓二十錢、特別面一圓八十錢。(兼營)日本工業新聞、日本染織新聞。

大阪商業新報 北區空心町一丁目。(電)北二五八〇、七三〇一。創刊大正十一年十一月三日個人經營。五十萬圓。朝刊四頁。(主筆社長)越智南海、(理事)高橋秀臣、秋元秀。(編輯總務)上原瀨美。(整理)野口廣。(外交)高山正治。(經濟)川勝欽也。(社會)鳥居由造。(販賣)奥島秀三郎。(經理兼廣告)中野久吉。(東京支局)渡邊久二郎。(機械)津田式輪轉機二。ステロあり。(活字)七半、十四字、百四十七行、十三段。一箇月五十錢。(廣告料)一圓、特別面二圓。

大阪今日新聞 大阪市天王寺區東上町五九。(電)天王寺五〇一〇、五〇一一、五二二九。個人經營。十五萬圓。(社史)大正十二年二月十一日創刊、渡邊霞亭氏を社長に藤浪健二氏總務松森雀吉氏、山本虎一氏理事として編輯營業を處理し、加藤房藏氏を監督として經營、昭和四年八月藤浪氏社長に就任、更に五年六月一日現在に社屋を移し松森雀吉氏を社主としたが同氏歿後光末礒市氏を總務とし後、村井庄之助氏之に代る。夕刊四頁。(附錄)大和版。(部數)九年十一月廿八日現在二萬五千部。(總務)村井庄之助。(編局)光末礒市。(政治、社會)染井左門。(經濟)榮羽英二。(整理)井上剛。(學藝)畑山茂。(廣告)田中辰男。(販賣)中尾廣一。(企劃)澁谷登。(庶務)中尾廣一。(會計)筑川良平。(東京支局)佐久間新吾。(奈良支局)柳原清。(社員)三十五名(工場員)九十二名。(機械)外國製輪轉機一、內國製輪轉機一、平盤四。活字鑄造機一、ステロ二、寫眞製版機一、ュッピー一、鉛版鑄込機二、鉛版仕上機二。(活字)七半、十四字、百四十七行、十三段。一箇月五十錢。(廣告料)一圓、場所指定二十錢增、特別面二圓。

每朝新報 大阪市北花區上福島北一ノ二七。(電)土佐堀長五九五一—二、三九八〇。創刊大正十二年八月八日。株式。百萬圓。夕刊四頁。(版數)二回。(社長)日比孝治郎。(副社長)日比新之輔。(主幹兼總務局)角田正。(政治)小野涉。(社會)奥山治。(營局兼廣告)山脇惠三。(販賣)藤永豐。(工務局)吉田巳之助。(東京支局)藤野優。(社員)九十二名。(工場員)三十七名。(機械)ドイツアルバート高速度輪轉機一、マリノニ式輪轉二、內國製石川式輪轉機一、平盤五。活字鑄造機一、寫眞製版機二、ステロ、設備あり。(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月五十錢。(廣告料)一圓三十錢場所指定五十錢增、特別面一圓七十錢。(兼營)銀タイムス(月刊)旅と人(月刊)、(日刊)夕刊魁新聞(東京)、(日刊)中京日日新聞(名古屋)

大阪中外商業新報 大阪市東區北濱一丁目三一ノ一(電)本局一八〇、一九〇、五九〇、二五一〇。(東京)中外商業新報社經營。創刊大正十三年十二月一日。夕刊四頁。(附錄)價記、大引紙。(社主)中外商業新報社。(監理)村上幸平。(主幹)阪田國三郎。(主筆)同。(編局)同。(整理兼政治社會)横山甚一。(經濟)八橋完。(市場)春井秀民。(整理代理)古閑友行。(連絡取扱)藤原貞雄。(校正取扱)大西信太郎。(營局)阪田國三郎。(廣告庶務)横田源三郎。(販賣)鈴木實。(廣告、外務)西垣貞治、(工務)石川梅治郎。(庶務會計)菅谷敬三。(社員)五十七名。(工場員)四十一名。(機械)マリノニ折疊式三、平盤四頁掛一。萬年活字鑄造機一、ステロ二、自動式製版機一。(活字)七ポ、十五字。百五十六行、十三段。一箇月六十錢。(廣告料)普通一圓、場所指定十錢增、特別面一圓八十錢。■九年十二月一日創刊滿十周年を迎ふ。

大大阪市民新聞 大阪市港區繁榮町二ノ一二。(電)西六九五〇。六二四〇。個人經營。五萬圓。(社史)創刊大正十五年平賀周氏と社長大田舜堂氏共同創刊專ら市場方面の記事を掲ぐ。夕刊四頁。(版數)一。(地方版)東京、京都、各月一回。(部數)十年十月一日現在一萬八千部。(社主)大田舜堂。(社長)同。(主筆)中田捨松。(編輯)同。(政治)大田保。(社會)植西正夫。(經濟)湯淺周平。(整理)大田夏男。(營業)古瀨吉之助。(廣告)大田順一。(販賣)木下傳吉。(會計)小松靜。(計畫)井阪慶次郎。(東京支局)上杉圭左。(社員)十九名。(工場員)二十二名。(機械)二。(活字)八ポ、十二字、百三十行、十三段。一箇月五十錢。(廣告料)一圓、場所指定二十錢增、特別面一圓三十錢。

關西中央新聞 大阪市西區京町堀上通一ノ四一。(電)土佐堀一二二五、六二三〇、六八五〇、六八八六—七。創刊大正十五年十一月廿三日。合名。夕刊六頁。(社長)北尾清。(理事主幹)吉良貞一。(編輯)吉川榮藏。(經濟)砂田治雄。(廣告)山本藤次郎。(營業)中路萬吉。(販賣)中井猶吉。(活版)高松信十郎。(印刷)安井平吉。(東京支局)渡邊睦。(社員)六十五名。(工場員)四十二名。(機械)關中式超高速度輪轉機一、TKS製超高速度輪轉機一、折疊式マリノニ輪轉機二。自動活字鑄造機三、寫眞製版機一、モノタイプ一、ュッピー機三。鉛版鑄込機三、鉛版仕上機あり。(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月五十錢。(廣告料)一圓二十錢、場所指定十錢增、特別面一圓八十錢。

昭和日日新聞 東區北濱二ノ三一。(電)本局二六二二、五二六六—七、五九一〇。創刊昭和二年二月十一日。個人經營。五十萬圓。夕刊四頁。(社主、社長)古川浩。(經濟)藤井信二郎。(市場)北川龍三。(政治)竹谷益成。(社會)祖山松良。(庶務)寺田半司。(廣告)西田重雄。(社員)四十五名。(工場員)四十五名。(機械)輪轉機二、平盤一。活字鑄造機、ステロあり。(活字)七半、十四字、百四十六行、十三段。一箇月五十錢。(廣告料)一圓、場所指定二十錢增、特別面一圓八十錢。

大阪都新聞 天王寺區上之宮町一。(電)天王寺三三〇一、四八八二、一六六六、五五五〇。創刊昭和二年三月。個人經營。朝刊四頁。日曜に夕刊四頁增頁。(社長)南隅勇。(副社長)小村力雄。(總務)南隅喜八。(編輯)岩井克二。(政治)後藤清吉。(經濟)青山茂。(社會)竹中政一。(營局)東田正樹。(販賣)高瀨清。(廣告)可兒勝信。(機械)四六半藏輪轉機一、十六頁平盤二。鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七半、十四字、百四十六行、十三段。一箇月五十錢。(廣告料)一圓五十五錢。

大衆日日新聞 大阪市北區太融寺町一二二、東京市麴町區平河町一ノ五。(電)大阪北二二三三、二五五二、七六〇四。東京九段一八一九。個人經營。(社史)大正十二年十二月廿六日本紙前身雜誌「刷新」發行、昭和六年十一月廿九日大衆日日新聞と改題夕刊四頁。(社主)箕浦春浪。(社

長)同。(編輯)階本樹。(廣告)黒瀬正之。(東京支局代理)高梨芳岳。(社員)八十三名。(工場員)四十八名。(機械)高速度折疊式輪轉機一、平盤二。(活字)七ポ十五字、百五十五行、十三段。一箇月五十錢。(廣告料)普通一圓三十錢、場所指定十錢增。(兼營)月刊大衆國威聯盟。月刊「大衆國威」。

帝國日日新聞　(大阪萬朝の姉妹紙)大阪市北區堂島大江橋畔(電)北一九五、五〇一四。創刊昭和七年三月。個人經營。夕刊四頁。(社長)和田喜一郎。(主幹)大岡千代松。(編部)和田一雄。(政治)入江保。(社會)渡邊定信。(經濟)和田一雄。(營部)渡邊定信。(事業)小川安太郎。(販賣)同。(機械)輪轉機一、平盤二。ステロあり。(活字)七・七五、十五字、百四十五行、十三段。一箇月五十錢。(廣告料)一圓、特別面二圓。

大阪夕刊新聞　東區北濱三ノ一一。創刊昭和七年十一月二十一日。個人經營。夕刊四頁。(社長)市來精之輔。(營業)谷岡武。(機械)輪轉一。(活字)七ポ、十三段。一箇月四十錢。(廣告料)一圓。

日本工業新聞　(夕刊大阪の經營)大阪市北區堂島濱通四ノ三創刊昭和八年六月二十日。朝刊八頁。(社長)前田久吉。(第一部長)小田富治。(第二部長)寺田甚作。一箇月一圓。(活字)七ポ十五字、百五十五行、十三段。

■九年十一月十日從來の染織版を獨立して日刊の日本染織新聞(朝刊四頁)を創刊す。

■十年二月五日工業博覽會に東久邇宮稔彦王殿下の奉戴を差許さる。

■同四月一日より一箇月に亘り大阪城下に工業大博覽會を開催す。

日本染織新聞　(夕刊大阪新聞の經營)大阪市北區堂島濱通四ノ三。創刊昭和九年十一月十日朝刊四頁。(專務)前田久吉。一箇月八十錢。

大阪中央新聞　大阪市北區西堀川町一四五。(電)北七七三〇、五三〇五。個人經營。(社史)昭和九年十二月二十五日創刊。夕刊四頁。(版數)一。(部數)十年九月廿五日現在一萬八千部。(社長)吉田益三。(專務理事)德永市之丞。(理事兼支配人)大曲三郎。(編局)德永市之丞。(編輯)樋口峻。(社會)同。(政治)胎中和郎。(經濟)德永市之丞。(營局)大曲三郎。(廣告)谷岡武。(販賣)德永平。(計理)大曲三郎。(工務主任)松下榮一。(社員)四十名。(工場員)十九名。(機械)フランス製マリノ式輪轉機二。活字鑄造機、ステロ、寫眞版あり(活字)七ポ、十五字、百五十三行、十三段。一箇月五十錢。(廣告料)一圓、場所指定二十錢增、特別面二圓。

英文オオサカマイニチ・アンド・トオキョウニチニチ　大阪毎日新聞社發行。大阪市北區堂島。(社史)日本の正しき委を日本人の手によつて海外に知らしめる目的を以て發行されたるもの、大正十一年四月十二日(プリンス、オブ、ウエールス殿下御着濱の日第一號發刊)。朝刊八頁。(版數)三版。(附錄)殖産工業、國際親善特別號月數回。(編輯)毛利八十太郎。(編輯次長)北村守光、佐藤劍之助、正富笑入。(事務主任)夏目秋一。(副主任)田中新一、川崎靖史。(機械)インタタイプ植字機八。一箇月一圓三十錢。(兼營)年刊英文「日本紹介號」

(三)關東

東京を中心とする神奈川、埼玉、千葉、茨城、群馬、栃木の六縣は純然たる東京紙の地盤であり、根據地である。されば各縣共豐かな人口と富力との割合に、地方紙の伸びる餘地は殆んどなく、各地の競爭狀態も以前は地元有力紙に對する東京紙の突進であつたが、今では地方紙は殆んど競爭の圏外に追ひやられて了つた。而して東朝、東日、讀賣三紙は、各此地方に二十萬前後の讀者を擁し、その競爭最も壯觀を極めてゐる。つゞいて時事、報知、國民、中外、都、毎夕等各紙の競爭が活氣を持つ。斯る狀態の中にあつて、地方紙として頭角を現はしてゐるのは、横濱市の横濱貿易新報を第一とし、宇都宮の下野新聞、水戸のいばらき等これにつぐ。

神奈川縣

▼人口……一、六〇、八〇〇
▼同市部……一、〇三八、二〇〇
▼同郡部……七四二、六〇〇
▼世帶數……三五六、二六〇

東京紙の領域として多年の間各紙の猛競爭が續けられてゐたが昭和五年四月一日から東朝、東日の二紙は從來の地方版を擴張して二頁の神奈川附錄を添付し愈々その競爭を深刻化した。又最近では讀賣の進出目覺しきものあり、同紙は十年一月七日、本縣に於けるその純販賣部數を六萬九千九百九十一と發表した又同紙地方六十萬計畫の劇當は八萬五千である。地元新聞では流石に人口七十萬の横濱市を地盤とする横濱貿易新報はよく東京紙に對抗し、市内は元より郡部に於ても全縣的に勢力を伸ばしてゐる。併し同紙としては十年五月二十三日前社長三宅磐君を亡つたのは大きな傷手であつた。尚人口十六萬の横須賀市にも數種の新聞はあるが、從來殆んど大をなしたものがない。最近では新進横須賀日日が活氣ある經營振りを示してゐる。又縣下の東京紙の勢力は、横濱市内と郡部とで事情を異にするが、概して東日、東朝、讀賣を第一とし報知、時事、毎夕、國民、中外、都等これにつぐ。

横濱貿易新報　横濱市中區本町六ノ六一。(電)横濱本局一三一、五〇〇三、一〇一三、四九五六。個人經營。(社史)明治二十三年二月十一日「横濱貿易新聞」の名に於て創刊、同三十七年「横濱新報」を併合して「横濱貿易新報」と改題、明治四十三年七月三宅磐氏社長として經營、昭和十年五月三宅磐氏死去、同年七月嗣子三宅市郎氏社長に就任。朝刊八頁。(版數)五版。(社長)三宅市郎。(主筆)森本宋。(編局兼社會部)瀬尾芳夫。(政治)矢田勝年。(經濟)沖山明一。(地方)深山憲一郎。(校正)森田辰五郎。(營局兼販賣工務)小林忠平。(廣告)廣瀬保吉。(會計兼庶務)田邊寅雄。(東京支局)廣瀬保吉。(大阪支局)福田常藏。(社員)八十五名。(工場員)五十一名。(機械)TKS折式機二。活字鑄造機ステロ寫眞製版設備あり。(活字)七ポ、十五字、百五十六行、十三段。一ヶ月七十錢。(廣告料)一圓。場所指定十五錢增、雜報面一圓五十錢。(發行物)横濱復興記念博覽會記念として横濱案内及最新神奈川縣地圖を發行讀者に配布。

■横濱復興博女神投票募集、商工祭廣告假裝大行列、開港記念兒童の大會等をなす。

■新社長就任、創業四十五周年記念として縣下名勝史蹟四十五佳選投票募集、祝賀飛行、花火大會、縣下民謠舞踊大會、縣下四市十一郡青年雄辯大會、二宮尊德八十周年記念作文募集、時局經濟大講演會、縣下郡市聯合自轉車競走大會、警察大博覽會を開催。

■其他文藝講演會、音樂會、書畫美術大會、書道大會、野球、陸上競技等を主催或は後援。

横濱經濟日報　横濱市中區本牧町二ノ四五三。(電)本局二二九〇。合資會社。三千九百圓。(社史)大正九年六月二十一日吉田弘氏原富太郎氏より示を受けて創刊す。朝刊四頁。(版數)三。(附錄)時々六頁乃至八頁發行。(部數)十年九月一日現在一萬三

千部。(社主)吉田久一。(社長)吉田弘。(副社長)池田一郎。(支配人)吉田喜美子。(主幹)吉田弘。(主筆)同。(編部)田島哲男、池田六郎。(營部)福田政義。岡野武雄。(東京支局)原田三之丞。(大阪支局)與田勇次郎。(社員)三十二名。(工場員)二十五名。(機械)マリノニ式輪轉機一、平盤印刷機五。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七半、十五字、百四十五行、十二段。一ケ月六十錢。(廣告料)六十錢、場所指定一圓、特別面一圓五十錢。

横濱船舶日報 横濱市山下町(發行人)水野信安。

横須賀日日新聞 横須賀市丸の内。(電)代表一〇九七。株式一萬圓。創刊昭和六年三月十日。夕刊四頁。(版數)二。(附錄)日曜日讀物夕刊發行。每水曜小學生新聞發行。(社長)樋口宅三郎。(常務)秋山廉。(編局)同。(社會)向坂壽夫。(海軍)菅井留藏。(營部)渡邊勤。(販賣)飯塚九彌。(東京支局)青山晴一。(大阪支局)與田勇次郎。(社員)三十一名。(工場員)二十九名。(機械)マリノニ式輪轉一、平版一。活字鑄造機、ステロあり。(活字)七ポ、十五字、百五十行、十三段。一ケ月五十錢。(廣告料)普通一圓。(兼營)代理部あり、湘南自動車のバス廣告を扱ふ。

■十年三月東京灣要塞司令部後援にて「陸軍展」を、同五月横須賀鎭守府後援にて「海軍展」を主催す。共に日露戰役記念。

■同七月印刷工場を增築しマリノニ式輪轉機を購入。

■同九月青年雄辯大會を主催す

武相新報 横須賀市大瀧町一三。(電)一二九。個人。十萬圓。(社史)明治三十七年五月廿五日創刊、横須賀新聞を改題せしもの、大震災に全滅し一ケ年休刊したる外三十年繼續す。夕刊四頁。(社主)荒尾愼一郎。(社長)同。(主筆)同。(編輯)小野利雄。(營業)栗栖龜次郎。(東京支局)中田清。(大阪支局)木暮仁輔。(機械)八頁輪轉機一、四六十六平盤二、同四頁一。活字鑄造機ステロあり。(活字)七半、十四字、百二十行、十三段。一ケ月五十錢。(廣告料)普通一圓、場所指定一圓五十錢、特別面二圓。(兼營)印刷製本部、寫眞撮影部、代理店舗部、活字鑄造部、三笠艦案内發行所、近代日本史發行所。

相陽時事新聞 横須賀市深田町三四二。(電)九〇九。(社史)大正十四年四月二十五日旬刊として發行、昭和二年七月一日日刊、三年十二月一日工場設置、八年十二月十五日工場を擴張し新屋移轉。夕刊四頁。(部數)九年十一月一日現在千五百部。(社主)最上堯雅。(社長)同。(主筆)小森柏水。(編輯)内山孝哉。(營業)松本儀六。(社員)十三名。(工場員)九名。(活字)七七半。十四字、ルビ付八十行、十二段。一ケ月四十錢。(發行物)横須賀市繁榮策。

横須賀公正新聞 横須賀市大瀧町四一。(電)八五、一九九。合資會社。五千圓。民政黨。創刊昭和十年四月二十二日。夕刊四頁。(部數)十年九月一日現在一萬部。(社主)庄司權之助。(社長)同。(支配人)江水源藏。(編部)太田耕一。(營部)花澤武次。(社員)二十五名。(工場員)十三名。(機械)十六頁ロール印刷機一。ステロ設備あり。(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一ケ月五十錢。(廣告料)普通一圓、場所指定一圓五十錢、特別面一圓二十錢。

民友新報 横須賀市船越。(電)田崎三五。個人經營。(社史)大正三年より週刊日曜新報發行、十二年六月現社長の經營に移り昭和元年まで隔日刊、同二年より日刊となる。夕刊四頁。(地方版)府下版、西相模版。(社主)安田美喜太郎。(社長)同。(編輯)伊藤武雄。(機械)平盤三。ステロ設備あり。(活字)七ポ、十五字、十三段。一ケ月五十錢。

東神日日新聞 川崎市旭町一ノ九。創刊大正十三年十月一日。夕刊小型二頁。(部數)九年九月二十一日現在三千部。(社長)大友一男。(營業)杉山一郎。(東京支局)小俣武夫。(社員)五名。(工場員)八名。(活字)七ポ、十五字、五十行、九段。一ケ月三十錢。

東海新報 小田原町緣町二ノ一五三。(電)一〇三一。個人經營。創刊明治二十八年三月十五日。夕刊四頁。(地方版)箱根版每月二回。(社主)井田忠明。(社長)同。(編輯)神保正夫。(東京支局)中田清。(社員)十四名。(工場員)十四名。(機械)十六頁平盤二。ステロ設備あり。(活字)七半十四字、九十行、十三段。一箇月五十錢。(廣告料)普通七十錢場所指定二十錢增、特別面一圓五十錢。

豆相新聞 小田原町新玉。(發行人)板倉格資。

逗葉日日新報 葉山町一色。創刊昭和五年五月。個人經營。千圓。夕刊四頁。(社主)光澤正俊。(社長)同。(活字)九ポ、十二字、八十行、十二段。(廣告料)五十錢。

埼玉縣

▼人口……一、五一〇、八〇〇
▼同市部……一六六、三〇〇
▼同郡部……一、三四四、五〇〇
▼世帶數……三〇二、一八〇

關東六縣中地元新聞の最も不振の地である。到る處東京紙の侵略に放棄され、永い間此地に獨立して新聞の發行されるのを見なかつたが、此頃は人口四萬四千の浦和市と三萬六千の川越市その他に數種の小新聞が發行されるに至つた。昭和十年十月一日、東京各紙及び地方各紙の販賣部數につき、某官憲方面の推定は次の如くである。元よりそのまゝ信ずべきではないが參考までに掲げておく(以下同じ)。

東京日日	三六、一一四
東京朝日	三一、九一二
讀賣	二五、八二九
報知	二一、四三三
時事新報	一二、四一一
國民新聞	一〇、三五〇
中外商業	三、九二八
都	三、七一三
東京每夕	三、四一〇
帝都日日	一、四一〇
萬朝報	一、〇〇〇
地元紙	
埼玉日報	八、〇九〇
新埼玉新聞	三、七九五
大宮夕刊	一、四〇〇
武州新報	一、〇〇〇
夕刊さいたま	一、〇〇〇
西武日報	八五〇

尙昭和十年一月七日讀賣發表の同紙縣下純販賣部數は三萬二千七百七十七であり、同紙地方六十萬計畫の本縣割當は四萬である。又東日では九年十一月丸熊清水藤左衞門氏が埼玉縣下の扱ひ區域から熊谷、浦和兩市を除く全部を東日に移管したがその數一萬三千と云はれ、兩市分は合せて七千、而して丸熊の區域は縣下の約四割方を占めてゐたものであつたと稱される。

新埼玉新聞 川越市南町六二八。個人經營。(社史)大正十三年十一月十三日前橋市上毛新聞より分れて個人經營の處昭和六年株式に變更、後年更に個人經營となる。初め浦和に發行し、後川越市に移る。朝刊四頁。版數二。(社長)神南晴一。(主筆)同。(編輯兼營業)篠原頼象。(機械)平版二。活字鑄造、ステロの設備あり。(活字)七・五、十四字、八十行、十三段。一ケ月七十錢。(廣告料)普通一圓。場所指定一圓五十錢、特別面十錢增。(兼營)事業部を設け隨時社會公益事業の開催、各種講習會等を開催。

西武日報 川越市三九。(電)四七一。創刊昭和六年六月二十七日。個人經營。夕刊四頁。(社主)對馬彌平。(社員)十二名。(工場員)八名。(機械)平版一。(活字)十五字。一ケ月五十錢。(廣告料)一圓二十錢。

埼玉每日新聞 川越市四五五(電)九〇一。創刊昭和九年七月十日。朝刊二頁。(發行人)藤井重夫。

埼玉日報 川越市三六八。朝刊四頁。創刊昭和九年十一月十八日。(發行人)田村伊勢松。

東方通信 川越市一一六。創刊昭和十年八月二十七日。夕刊四頁。(發行人)小川懷助。

武州新報 (上野新聞の姉妹紙)浦和市四四四〇。創刊大正十三年八月十二日。朝刊四頁。(社主)中島喜平。(社長)同。(廣告)佐々木數雄。(機械)平盤二。(活字)八半、十三字、七十五行。十一段。一ケ月五十錢。(廣告料)八十錢。

大宮夕刊 北足立郡大宮町大門町。(電)二一六。個人經營。(社史)昭和八年九月十六日創刊、川島欽治、齋藤清共同出資を以て創設、昭和十年八月社屋を新築し營業所編輯部印刷工場等を併設す。夕刊四頁。(部數)十年九月廿日現在三千部。(主幹)川島欽治。(主筆)齋藤清。(編輯)同。(營業)川島欽治。(社員)十二名。(工場員)七名。(機械)二。(活字)八ポ、十二字。一ヶ月三十錢。(廣告料)普通十錢、場所指定二十錢。

夕刊さいたま 大宮町大宮八二九。創刊昭和十年九月七日。夕刊四頁。(發行人)早月辰太郎。

夕刊武藏新聞 大宮町四九〇九。創刊昭和十年二月二日。夕刊四頁。(發行人)堀内照正。

入間毎日新聞 入間郡入間村水野五三七。創刊昭和六年十月八日。夕刊四頁。(發行人)坪川敬之助。

千葉縣

▼人口……一、五六、四〇〇
▼同市部……一〇〇、八〇〇
▼同郡部……一、四五、六〇〇
▼世帯數……三〇五、二八〇

千葉縣は埼玉縣につぐ新聞經營難の地とされ、東京紙の侵入猛烈、地元新聞にして基礎の充分なるものは殆んどない。併し人口五萬四千の千葉市には房總日日、千葉毎日の如く歴史のある新聞もあり、又縣そのものが比較的に富力を有する處から、群小新聞が簇生して小競合ひを續けてゐる。千葉毎日は、昭和九年まで裁判所の登記廣告を獨占してゐたが今や房總日日、房總新聞を合せた三社の請負となり鼎立して縣下の王座を目指す有様である。而して千葉毎日は政友會機關だけに部數は兎も角東京方面の廣告が多く、房總日日は極力積極政策に出てゐるので經營は苦しいが活氣に富み、房總新聞は菅谷社長陣頭に立ち千葉市に主力を注いで前者の地盤に喰入らんとしつゝある。部數は房總日日最も多く、ついで房總新聞、千葉毎日の順か？但しその最も多いものでも三千五六百程度であらう。東京紙では東日、東朝が王座を占め、次は讀賣。時事は有力者間に喜ばれ、報知は農村方面に地盤を持ち、毎夕は都會地方面に讀者がある。尚十年一月七日讀賣の發表した同紙縣下純販賣部數は三萬三千五百四十四部であり、地方六十萬計畫の刺當は四萬五千である。次に一つの參考として十年九月某日千葉驛調べ各紙重量を示せば下の如くである。

東朝	一四九キロ
東日	一八一キロ
國民	八〇キロ
時事	一二一キロ
報知	九六キロ
毎夕	一八キロ
讀賣	一二〇キロ

尚過去一年間に於ける縣下新聞界の記錄的事件は、東京電燈の縣下營業權を京成電車に讓渡する事の反對で、これは東京紙も地元紙も共に大に雄陣を張つたが、地元紙では房總新聞、房總日日、千葉日日等が主として縣民の利益の爲めに戰ひ、東京紙では時事と報知とが特に之れを大きく扱つて讀者の歡迎を受けた。

千葉毎日新聞 千葉市吾妻町二丁目一二二〇。(電)三〇六。政友系。(社史)故五十嵐重郎の個人經營として創刊明治三十六年四月。個人經營。四萬圓。朝刊四頁。夕刊(汽車便ある處にのみ配付)四頁。(社主)五十嵐喜久。(副社長)五十嵐勝利。(支配人營業)五十嵐理亮。(編輯)矢島泰助。(社會)金子麗葉。(販賣)日暮彦次郎。(廣告)岩立慶三郎。(東京支局)同。(機械)十六頁掛三、八頁掛一。ステロあり。(活字)七半、十四字、百四十五行、十三段。一ヶ月六十錢。(廣告料)六十錢。

房總日日新聞 千葉市寒川日本橋通り一一三五。(電)七七五、八二〇。個人經營。五萬圓。(社史)明治廿八年三月故關和知氏新房總を創刊す、大正十一年株式會社を創立し房總日日新聞と改稱、昭和三年三月より個人組織に改む。朝刊四頁。(附錄)水産版、(地方版)銚子版、水郷版、房州版。(部數)九年九月三十日現在四千三百部。(社長)大立目

直武。(主幹)柳橋豐彦。(編部)大久保貞藏。(政治)中島光和。(社會)佐久重雄。(文藝)原田群三。(營部)若林九一。(企劃)菊地弘。(地方)黑田慶次郎。(東京支局)青山晴一。(社員)四十三名。(工場員)十一名。(機械)四六十六頁二。ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一ヶ月六十錢。(廣告料)普通六十錢、場所指定倍額。

■十年秋大立目社長選擧肅正委員に任命さる。

■同市川に支局を設置す。

房總新聞 千葉市西院内一三六一。(電)九五七。創刊明治三十年十月、再刊昭和四年十一月十日。個人經營。五萬圓。朝刊四頁。(版數)二。(附錄)毎週火曜日自動車版。(社主)菅谷貞太郎。(社長)同。(編部)多田勇。(東京支局)德富迪。(大阪支局)淺岡照久。(社員)二十三名。(工場員)十六名。(機械)十六頁掛平盤二。ステロ二、寫眞版設備あり。(活字)七ポ、十四字、十三段。一ヶ月五十錢。(廣告料)一圓。場所指定二割增、特別面一圓五十錢。

日刊千葉 日刊千葉新聞社發行千葉市長沼區九三三。(電)二〇三。個人經營。二萬圓。政友系。(社史)昭和三年三月十八日現社長獨立創刊、後鈴木堯、渡邊英三、吉植庄亮氏顧問となる。夕刊四頁。(附錄)週刊千葉。(部數)十年九月二十日現在四千六百部。(社長)沼田市太郎。(主筆)同。(編部)小暮亮。(政治經濟)同。(社會)黑田重忠。(運動)作村義雄。(營部)阿部芳雄。(販賣)今井讓一郎。(廣告)石井登喜藏(會計)清水哲二。(東京支局)小森貞久。(社員)十三名。(工場員)四名。(機械)一。(活字)九ポ、十四字、百二十行、八段。一ヶ月十五錢。(廣告料)五十錢、特別面八十錢。

■春秋二回千葉縣下實業軟式野球大會擧行す、昭和十一年八月には縣下小學校角力大會擧行の筈。

千葉日日新聞 千葉市寒川長洲八八四。創刊昭和四年十二月。個人經營。朝刊四頁。(社長)大澤中。(機械)平盤一。(活字)九ポ。

千葉縣民新聞 千葉市千葉一一八三。(電)一一七八。創刊大正十四年一月一日(九十九新報)昭和六年六月十三日改題。個人經營。朝刊小型四頁。(社長)伊藤生外。(工場員)十三名。(機械)四六判十六頁一。(活字)九ポ、十二字、八十行、九段。一ヶ月市内二十五錢、市外五十錢。

日刊房州 館山北條町長須賀。(電)館山四一六。創刊昭和六年二月十一日。夕刊二頁。(版數)二。(地方版)君津版。(部數)十年九月一日現在三千六百部。(社主)瀧口薫。(社長)同。(編部)椎名保。(營部)川上邦三。(社員)九名。(工場員)五名。(機械)二。寫眞版設備あり。(活字)九ポ、十三字、六十行、十一段。一箇月三十錢。

■町内全常設映畫館と提携あり

■自動車班の新設計畫あり。

房總日報 (房州新聞の改題)安房郡館山北條町北條二〇一七ノ一。(電)館山三五五。個人經營。(社史)昭和五年三月三日房州新聞と稱し最初隔日刊、間もなく日刊となる、九年四月一日より北條驛前に印刷工場並に社屋を新設、十年二月房總日報と改題近く株式組織に改むべく計畫中。夕刊二頁。(社主)押元治郎。(主幹)同。(編輯)同。(廣告)宮本清。(千葉支局長)千測忠彦。(社員)二二名。(工場員)一一名。(活字)七ポ、十五字、百三十五行、十三段。一箇月三十錢。

南總夕刊 木更津町八七九。(電)一三七。創刊昭和七年八月廿四日。個人經營。夕刊小型四頁。(部數)八年九月十六日現在千三百部。(社主)石井久。(社長)同。(主筆)今安鏞也。(營業)大矢博達。(社員)九名。(工場員)四名。(機械)四六八頁一。(活字)九ポ、十二字、三十一行、六段。一箇月二十錢。(廣告料)三十錢。

日刊魁新聞 銚子市飯沼。創刊昭和八年十月十五日。(社長)明石清三。

夕刊千葉 東葛飾郡野田町。創刊昭和八年十月十五日。(社長)柴崎弦夫。

茨城縣

▼人口……一、五四九、二〇〇
▼同市部……六六、一〇〇
▼同郡部……一、四八三、一〇〇
▼世帶數……三〇九、八四〇

滿洲事變以來完全に東京紙が地方紙を壓迫した。人口六萬六千の水戸市にいはらき、常總新聞等の諸紙あり、殊にいはらきは縣外の一部にも進出してゐるが昔日の威勢なく、移入紙では東朝、東日最も多く、外に時事、報知、讀賣、國民あり、就中、讀賣の躍進は、八年春以來縣下全般に濫賣戰を馴致せしめた。各紙の競爭は、ニュースの拔き合ひよりかも、販賣店の讀者獲得に力點が置かれる結果、販賣網の完備、販賣力の强大な大資本に對しては如何とゝなし難い。讀賣地方六十萬計畫の本縣の劃當は三萬である。海軍航空隊の置かれる土浦町は、水戸市から離れて一個の小中心地を形作つてゐる。此處に常南日報、常南新聞があり、共に推定部數二千餘と見られ、經營狀態は良好と云はれる。尙土浦では東日最も多く次は東朝、報知、時事、讀賣、下つて毎夕、中外、都、國民。その最も多いものは二千前後、ついで千五百、少いものは二百部位である。又地元紙としては水戸のいはらきが三百、常總が二百を維持しつゝあると見られる。次に地元各紙の販賣部數につき、昭和九年夏、某官憲方面の推定する處を報ずれば次の如くである。但し此數字は其儘信頼すべきではない。（以下同じ）

いはらき	二五、〇〇〇
常總新聞	一〇、〇〇〇
茨城日報	三、〇〇〇
茨城日日新聞	二、〇〇〇
常南新聞	二、〇〇〇
常南日報	一、二〇〇
茨城毎日	一、六四七
關東タイムス	六五六

いはらき いはらき新聞社 發行。水戸市南町一六。（電）五〇、三〇四、三三二、五八九、八五九、二八二。（社史）創刊明治二十四年六月十七日、初め飯村丈三郎氏の個人經營、四十年合資會社となり、大正六年株式會社に變更、昭和二年五月飯村氏社長を辭任し、本多文雄氏社長となり、昭和三年十二月現社長就任す。株式。八萬圓。朝刊六頁、夕刊四頁。（版數）三。（地方版）福島、下野。（社長）中崎憲。（專務兼編輯長）伊東利男。（常務兼經理）關孤圓。（同營業）齋藤一郎。（取締役）笹島清兵衛、中井川浩、須賀藤五郎、沼尻眞二郎。（監査）小山政、海東要造。（顧問）青山乘司。（相談役）飯村雄、齋藤隆三。（會計）菊池重雄。（廣告）水谷和男。（販賣）小高安兵衛。（社員）七十名。（機械）石川式輪轉機三、平盤四。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。（活字）七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月一圓。（廣告料）八十錢、特別面二圓。（兼營）一般印刷。

■舊茨城民報社を第二工場として一般印刷の營業をなす。

常總新聞 水戸市南三ノ九。創刊明治三十三年十一月一日。個人經營。政友系。朝刊六頁。（社長）渡邊弘。（編輯）福地德。（營業）赤松豐三郎。（廣告）綿引喜太郎。（機械）輪轉機一、平盤二。ステロ、寫眞版あり。（活字）七・七五、十五字、百三十五行、十二段。一箇月八十錢。（廣告料）八十錢。

茨城日報 水戸市並松町。（電）五八七。個人所有。明治五年十一月二十日創刊。朝刊四頁。（社主）大塚德太郎。（社長）同。（編輯）木村廣吉。（營業）渡邊昇四郎。（東京支局長）岩田榮之助。（機械）十六頁平盤二、活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。（活字）七・七五、十四字、九十五行、十三段。一箇月六十錢。

茨城日日新聞 水戸市田見小路。（電）三五七。創刊昭和五年九月十日。朝刊小型四頁。匿名組合。一萬圓。（社長）伊藤武郎（編輯）同。（營業）小林圭四郎。（機械）平判八頁三。（活字）九ポ十三字、五十行、六段。一箇月五十錢。（廣告料）五十錢。

茨城夕刊 （產業と經濟の改題）水戸市櫻小路二〇四四。（社史）昭和五年十一月二十日月刊「產業と經濟」と題し創刊され十

年四月十一日現名に改題同時に日刊となる。夕刊。（社長）弓野留次郎。

常南日報 土浦町朝日町。（電）四一七。個人經營。一萬圓。（社史）大正十五年八月卅日發刊當時一萬圓株式組織なりしを昭和二年五月現社長の個人經營となる。朝刊小型四頁。（附錄）毎日曜。（部數）昭和十年八月卅日現在三千五百部。（社主）西谷民家。（社長）同。（刷社長）西谷幸一。（主筆）山崎一郎。（編輯）同。（營業）田山豐美。（東京支局）同。（社員）十五名。（工場員）五名。（機械）平版二。（活字）五號、十二字、四十五行、六段。一箇月五十錢。（廣告料）五十錢。場所指定一圓、特別面一圓廿錢。

■毎年四月、十月（全國煙火大會の時期）記念號を發刊す。

常南新聞 土浦町旬町、（電）五〇二。個人經營。四千五百圓。（社史）大正六年故沼崎八右衞門が月刊として創刊、十五年現社長讓渡を受け昭和二年十月日刊とす。朝刊小型四頁。（地方版）石岡版。（部數）九年九月十日現在四千四百二十部。（社主）岩崎倉吉。（社長）同。（主筆）今井源治。（編輯）同。（營業）荒牧夏井。（刷部長）渡邊光四郎。（社員）六名。（工場員）三名。（機械）平盤二。（活字）九ポ、十二字、四十行、七段。一箇月五十錢。（廣告料）五十錢、場所指定一圓二十錢特別面一圓五十錢。

茨城毎日 古河町六〇〇九。創刊大正十四年十二月十六日。個人經營。朝刊四頁。（社長）秋元昇。一箇月四十錢。（廣告料）四十錢。

關東タイムス 古河町五六三〇。（電）二六六、三二〇。創刊明治四十二年八月十六日。匿名組合。一萬圓。朝刊小型四頁。（社長）三瓶一郎。（主筆）服部源藏。（活字）九ポ、十二字、三十八行、六段。一箇月五十錢。

群馬縣

▼人口……一、三九、五〇〇
▼同市部……三四、六〇〇
▼同郡部……一、〇一四、九〇〇
▼世帶數……二四七、九〇〇

此處も全縣に亘つて東京各紙が浸潤し、地元新聞に地元人の執着なく、全購讀量の八割以上まで東京紙の占有にあると云はれる。それに地元紙の數比較的に多く、人口九萬三千の前橋市、六萬一千の高崎市、六萬七千の桐生市等を擁しつゝも上毛新聞の外見るべきものがない。上毛新聞は大震災當時一時七萬も刷つた事があるが今は往昔の偉容はない。外地元紙の主なるものを擧げれば東京紙との併讀を覗つてゐる上毛日日新聞、上毛新報等があり、更に異色ある新聞に桐生市の兩毛織物新聞がある移入紙では東日、東朝、各三萬五千前後と云はれ、報知は一時破竹の勢ひであつたが後下向き近年讀賣の躍進見るべく、ついで時事、都等優勢である。十年一月七日讀賣發表の同紙縣下純販賣部數は二萬一千七百三十五で、地方六十萬計畫の劃當は三萬である。尙時事と報知を除き此の地の東京各紙の大部分の販賣權は、東京根岸良吉君の掌握する處であつたが、昭和五年報知の擡頭に刺戟されて、東日が澁川町に直營店を設けたのを手始めに、專賣店がつぎ〳〵に新設された。

上毛新聞 前橋市曲輪町一〇五。（電）三〇、五一七、一九一。個人經營。（社史）前社長篠原叶君が維新の變革に劍を捨て鉛槧の業に從つたが廢藩置縣と共に熊谷、群馬兩縣印刷局長に拔擢され明治十年廢局退官、活版印刷の業を創む。十九年十一月官令月報を創刊、二十年二月繪入群馬日報と改題日刊と變更後上野新報と合併現名に改題す大正十三年浦和に新埼玉新聞を發刊長男秀吉君社長に就任、同十五年六月二十七日七十七歳を以て逝く、從六位に叙さる、現社長直に先考の後を繼ぐ、早大政治科の出身、講道館六段、大日本武德會教士、群馬縣武德教師會長たり。朝刊四頁。夕刊四頁。（地方版）栃木版、新潟版。（社長）篠原秀吉。（編局）白石一。（整理）淺見五郎。（通信）高畑弘男。（社會）岡田東洲。（政治）白石一。（營局）樋口清太郎。（廣告）

長原彌一郎。(販賣)西川昇平。(工務)樋田時次。(東京支局)熨斗勝文(大阪支局)松下兵馬。(機械)津田式輪轉機二、平盤四。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月七十五錢。(廣告料)一圓、場所指定料十錢、特別面二圓。

■十年六月第一頁の全面廣告を廢し紙面の編輯替えを斷行す。

上州新報

前橋市北曲輪町七一。(電)五一、七三。個人經營。(社史)明治廿九年十一月二十九日故高橋彌之助氏創立四十四年東氏繼承大正九年社屋工場四百坪を新築諸設備を完備す。昭和八年七月末檜三四郎氏を社長に迎ふ九年十一月再び社主の直接經營となる。朝刊四頁。(附錄)月三回產業經濟欄。(社主)高橋いと。(編輯長)殿江浩。(通信)川端新造。(營業)小野幸太郎。(學藝)大島義雄。(經濟)溫井藤衞。(廣告)船戸正。(印刷)田村一雄。(工場)小泉留治郎。(機械)鈴木富治。(東京支局)入江貞喜。(大阪支局)山崎兼次郎。(機械)TKS輪轉機一、平盤三。活字鑄造機、ステロ、寫眞版完備。(活字)七半、十四字、百四十二行。十三段。一箇月五十五錢。(廣告料)一圓、特別面一圓五十錢。

上毛日日新聞

前橋市堀川町五一。(電)九七八。個人經營。八萬圓。政友系。創刊大正十五年九月廿一日。朝刊二頁。(部數)十年八月現在一萬八千部。(社長)石橋皐一。(主筆)今井富三。(編輯)桑原恒夫。(政治)日下部定雄。(經濟)松尾清臣。(營部)田中猪太郎。(庶務)矢澤幸之助(廣告)日下部正良。(東京支局)鳴原完。(大阪支局)上村弘。(社員)三十八名。(工場員)二三名。(機械)輪轉機一、平臺一。活字鑄造機、寫眞版設備あり。(活字)九ポ、十四字、百二十八行、十三段。一箇月五十錢。(廣告料)五十錢、特別面七十錢。

群馬新聞

前橋市竪町七九。(電)二九、四五〇。創刊明治三十二年十一月十五日。株式。五萬圓。朝刊四頁。(社長)加藤德重。(機械)平盤二。ステロあり(活字)九ポ、十三字、百十五行十二段。一箇月五十五錢。(廣告料)一圓、特別二圓。

上州夕刊

上州夕刊新聞社發行前橋市曲輪町七八。(社史)昭和五年十一月二十日前橋通信として創刊月二回發行、六年三月旬刊、同十月日刊となし上州夕刊と改稱、夕刊小型四頁。(部數)九年十月十五日現在一千三百部(社長)千村吉太。(營業)武田榮喜知。(機械)平盤二。(活字)七半、十四字、五十三行、八段。一箇月三十錢。(廣告料)五十錢特別面七十錢。(兼營)一般印刷

上野新聞

高崎市本町一〇六。(電)七五七。創刊明治四十四年十一月二十日。個人經營。朝刊四頁。(社主)中島喜平。(社長)清水甫之吉。(編輯)霜野長二。(東京支局)堂島正助。(社員)十四名。(工場員)廿二名。(機械)平盤二。ステロ設備二。(活字)九ポ、十三字、八十行、十二段。一箇月五十錢。(廣告料)八十錢場所指定一圓五十錢。(兼營)武州新報。

新群馬

新群馬社。高崎市本町六九。(電)七五七。組合組織。一萬圓。(社史)昭和二年八月二十八日創刊新群馬日報と稱し九年一月十五日現名となる。朝刊四頁。(社主)井田左内。(社長)同。(編輯)同。(營業)坂尾長之助。(東京支局)柳澤篁治。(社員)二十名。(工場員)十五名。(機械)平盤一。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり(活字)九ポ、十四字、八十五行、十二段。一箇月五十錢。(廣告料)一圓、特別面二圓。

上毛每日新聞

高崎市八島町三二番ノ一。(電)一三〇二。個人經營。(社史)昭和六年一月二十一日前上毛新聞主幹支局長小茂田與八郎君創刊。朝刊四頁。(部數)十年九月二十日現在一千二百。(社主)小茂田經也。(社長)同。(編輯)高野香道。(活字)五號、八段。一箇月三十錢。

■明治の傷害保險一年金五百圓也を全讀者に提供。

兩毛織物新聞

桐生市宮本町一二六四。(電)二八三〇、一二一一。個人經營。五萬圓。(社史)大正二年三月株式會社組織を以

て創立され翌三年解散、前社長櫛淵勇次郎君の個人經營となる昭和九年二月勇次郎君死亡、現社長經營權を繼承す。夕刊四頁。(販數)一。(部數)十年十月一日現在五千八百部。(社主)櫛淵二三二。(社長)同。(主幹)柳澤廣喜。(主筆)同。(編輯)左部馨。(政治)柳澤廣喜。(社會、經濟)慶德章次。(營業)周東巖雄。(廣告)同。(販賣)立川孝太郎。(會計)柳澤廣喜。(大阪支局)與田勇次郎。(社員)三十八名。(工場員)十八名。(機械)マリノニー式輪轉機一、十六頁平盤一。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七・五、十四字、百五十行、十三段。一箇月六十錢。(廣告料)六十錢、場所指定九十錢、特別面一圓五十錢。

兩毛每夕新聞

桐生市宮本町一三五〇。(電)三三四七。個人經營。五萬圓。創刊昭和六年一月夕刊四頁。(販數)一。(部數)十年八月末日現在五千七百部。(社主)悌田正三。(社長)同。(專務)悌田榮。(支配人)竹澤末松。(主幹)社長兼務。(主筆)同。(編輯)川端新藏。(營業)悌田はる。(東京支局)宮本甚之助。(社員)五十名。(工場員)二十名。(機械)平版十六頁一、同八頁一。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)九ポ、十二字。百二十行、十三段。一箇月六十錢。(廣告料)七十錢、場所指定一圓二十錢、特別面一圓五十錢。

■足利市發行兩毛民友新報(日刊)兼刷。

大上州新報

桐生市本町五丁目六五。朝刊四頁。創刊昭和十年八月二十五日。(社長)森下美之作。

東毛新聞

館林町。(電)四六五株式。八千圓。政友系。創刊大正十四年十二月十三日。朝刊四頁。(部數)十年九月廿日現在三千二百部。(社主)酒井義一郎。(社長)同。(編輯)多田茂吉。(東京支局)川島嶺秀。(社員)十八名(工場員)十二名。(機械)四六倍判一、(活字)九ポ、十三字、七十二行、十二段。一箇月五十錢。(廣告料)一圓廿錢、場所指定廿錢增、特別面五十錢。

上越日日新聞

湯川町一三〇五。創刊昭和六年四月二十日。個人經營。三千圓。朝刊小型四頁。(社長)齋藤多藏。(主筆)中澤吾郎。(營業)堀武功。(機械)平盤一。(活字)九ポ、八段。一箇月三十錢。(廣告料)一圓。

栃木縣

▼人口……一、八二、五〇〇
▼同市部……一三三、一〇〇
▼同郡部……一、〇四九、四〇〇
▼世帶數……二六、五〇〇

東京各紙の混戰地で東朝、東日追ひつ追はれつ二萬臺を上下すると云はれ、讀賣、報知、都、時事、國民これにつぐ。尙讀賣は十年一月七日縣下純販賣部數を一萬九千八百十七と發表し、地方六十萬計畫の割當は二萬五千である。外に下野版を持つものに水戸のいはらきがあるが、昔日の面影なく、結城、下都賀方面にいさゝか入つてゐるに過ぎぬ。地元新聞では、人口八萬五千の宇都宮市に發行される下野新聞は、地の利と傳統とによつて永らく全縣的に堅固な地盤を有してゐたが、東京紙の侵入烈しく、或心せねばならぬ狀態にある。

下野新聞

宇都宮市池上町五一。(社史)明治十五年栃木新聞を栃木に創刊同十七年宇都宮市に移り現名に改題。同三十五年株式となる。昭和七年十月前取締役會長久保市三郎君の辭任後川村君取締役社長に就任す。株式。三十萬圓。朝刊四頁。夕刊四頁、(附錄)月曜。(社長)川村直成。(編局)同。(社會)松村貫一。(政治)武井四郎。(地方)柳基一郎。(經濟調査)海木議一。(教育運動)菅原理一。(青年)川又保。(廣告)東泉庸、(販賣)田邊信平。(庶務)印南喜一、(東京支局)橋本滿次郎。(大阪支局)野澤善三郎。(機械)石川式輪轉機二。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月八十錢。(廣告料)普通七十錢場所指定五割增、特別面二圓。

■社會、地方、政治部長は編輯委員を兼ぬ。

■野州名鑑、下野年鑑發行。

下野日日新聞 宇都宮市塙田町一五一。創刊明治二十四年十月。個人經營。二萬圓。朝刊四頁。(社長)山田四都男。(顧問)新江實。(編輯)大谷常太郎。(營業)山田靜雄。(機械)平盤三。ステロあり。(活字)七・七五、十五字、百三十五行、十二段。一箇月七十錢。(廣告料)七十錢。

關東新聞 宇都宮市尾上町十。(社史)創刊昭和二年五月二十八日。初め下野新報と題せるもの横田千之助君歿後廢刊となり、變更して本紙となる。個人經營。一萬圓。朝刊四頁。(社主)小白井光治。(社長)同。(編輯、營業)同。(機械)佛國製マリノニ式五色刷輪轉機一。(活字)七半、十五字、百四十行、十二段。一箇月七十錢。(廣告料)七十錢。

下野日報 宇都宮市西塙田町六八六。(電)三四〇四。個人經營。二萬圓。(社史)大正十二年四月一日創刊、月三回發行の旬刊紙より昭和二年二月一日日刊紙に改む旬刊當時は關東自由新聞と稱し日刊と共に下野日報と改題す。夕刊二頁。(版數)一回。(部數)十年九月一日現在八千二百六十二部。(社主)長谷川南山。(社長)同。(編輯)坂本圭佑。(營業)同。(社員)十名。(工場員)七名。(活字)九ポ、十四字、八十三行、十三段。一箇月五十錢。(廣告料)五十錢、場所指定二割增、特別面一割增。

夕刊しもつけ 宇都宮市大寬町二二二三。創刊大正十二年十月廿一日。個人經營。夕刊四頁。(社長)佐藤程壽。(編輯)佐藤猛吼。(營業)布施白山。(機械)平盤二。(活字)八ポ、十三字、九十四行、十二段。一箇月三十錢。(廣告料)三十錢。

東北みやこ新聞 宇都宮市旭町一ノ三五二。創刊昭和四年七月。個人經營。朝刊小型四頁。(社長)堀兼三郎。(主筆、編輯長)並木謹司。(機械)平盤一。(活字)五號、八段。一箇月四十錢。

兩毛民友新報 足利市伊勢町八九。(電)一〇〇三。個人經營。民政系。(社史)大正十四年二月創刊、昭和二年より六ケ月休刊爾後繼續。朝刊四頁。(版數)一。(部數)十年十月五日現在三千五十部。(社主)廣田久。(社長)同。(主幹)仁平信太郎。(販賣主任)丸島半。(廣告主任)高瀨作太郎。(社員)十八名。(工場員)十名。(機械)兩毛每日新聞にて印刷す(活字)九ポ、十二字、七十五行、十三段。一箇月六十錢。(廣告料)五十錢、場所指定七十錢、特別面九十錢。

夕刊足利新聞 足利新聞社發行。足利市本城三丁目。(電)六八七。創刊昭和三年六月。夕刊小型四頁。(部數)八年九月現在二千部。(社長)澤田金太郎。(社員)八名。(工場員)九名。(機械)平盤一。(活字)九ポ、十四字、五十二行、八段。一箇月五十錢。(廣告料)五十錢、場所指定七十錢。

夕刊足利日報 足利日報社發行。足利市家富町。(電)六六七、八七九。創刊大正十五年四月。個人經營。夕刊小型四頁。(地方版)市內、兩毛。(社長)岡部新二郎。(活字)五號、十一字、五十一行。一箇月三十錢。

日刊兩毛每夕新聞 足利市家富町二二四七。創刊昭和八年九月。個人經營。朝刊小型四頁。(社長)高橋武雄。(主筆)同。(機械)平盤一。(活字)九ポ、八段。一箇月五十錢。(廣告料)五十錢。

夕刊下野朝日新聞 栃木町入舟町。(電)七〇〇。個人經營。(社史)昭和二年共同經營により兩毛旭新聞(日刊)を發行、同年下野旭新聞と改題、七年解散廢刊引續き夕刊下野朝日と改題個人經營に移し引續き繼續す。夕刊二頁。(附錄)子供あさひ。(社長)戶田懋。(社員)十四名。(工場員)十二名。一箇月四十錢。(廣告料)五十錢、場所指定二割增。

■十年五月航空ページェントを擧行す。

■同秋栃木町行進曲を募集發表す。

下野旭新聞 栃木町栃木一八八。創刊昭和二年五月。個人經營。夕刊小型二頁。(社長)片柳國。(主筆)加藤簠樹、(機械)平版一。(活字)舊、八段。一箇月四十錢。(廣告料)五十錢。

日刊栃木每日新聞 栃木町二五六。創刊昭和八年五月。個

人經營。朝刊小型四頁。(社長)海老沼錦也。(主筆)同。(機械)平版一。(活字)五號、六段。一箇月三十五錢。

兩毛日報 安蘇郡佐野町六五六創刊昭和七年五月。個人經營。朝刊小型二頁。(社長)蓮見武俊。(主筆)板垣敬吉。(編輯)須摩德松。(機械)平盤一。(活字)五號、八段。一箇月三十錢。

(四) 東北

西は新潟、長野から、東は福島山形、宮城、岩手、秋田を經て青森に到る東北八縣は、關東につぐ東京紙の勢力範圍で、距離の遠近に從ひ厚薄はあるが、到る處に東京紙が侵入してゐる。

殊に滿洲事變以來は、大新聞、大機關の壓迫甚しく、それに農村積年の疲弊を加へて、地方の小新聞は益々やり惡くなつて來た。斯る情勢の間に、仙臺の河北新報は流石によく外來の勢力と拮抗し、不拔の地盤を擁し、東北の覇者を以つて任ずると共に、名古屋、福岡、札幌等の有力紙と同じく我國に於ける代表的地方新聞の一つとして重きをなしてゐる。

河北につぐ有力紙としては、新潟の新潟每日、新潟新聞、長野の信濃每日新聞、秋田の秋田魁新報青森の東奧日報をはじめ、尙長岡に北越新報、長野に長野新聞、福島に福島民報、山形に山形新聞、盛岡に岩手日報等あり、いづれもそれ〴〵の地方に於いて固い地盤を持つてゐる。

東京紙では東朝、東日を第一とし、新興讀賣、報知、時事これにつぐ。

福島縣

▼人口……一、五六四、二〇〇
▼同市部……一五三、二〇〇
▼同郡部……一、四二二、〇〇〇
▼世帶數……三二、八四〇

福島縣は東北に於ける民權自由發祥の地、そんな點から今でも新聞が一般から尊敬され、指導力を持つてゐる。併し其半面には激しい政黨爭ひの爲に殃ひされる事も少くない。第一中心地の福島市は人口四萬九千、此處に福島民報があつて全縣的に勢力を張り、福島民友、福島新聞これに次ぐ。政黨關係は民報が政友系で、民友は民政系。農村の不振と東京紙の侵入は等しく地元紙の閉口する處、收支の償つてゐるのは民報位のものであらう。福島新聞は十年九月株式に組織を改め一息つかんとしてゐる。人口四萬五千の若松市と六萬八千の郡山市は不思議に新聞は振はない。移入紙の第一は何と云つても東日、東朝で、共に三萬前後と見るものもある。他の東京紙は此二紙に較べればずつと落ち、讀賣、報知、時事各一萬六千から一萬二三千の間か、其他はいづれも三千止りであらう。時事も報知も曾つて振つた時代があつたが、此頃は餘り蔗しくない。十年一月七日讀賣發表の同紙縣下純販賣部數は二萬〇百八十二で、地方六十萬計畫の割當は二萬五千である。外に他地方からの移入紙に河北新報といはらきとがある。共に福島版を有しいはらきは一と頃三四千も出した事があるが、今は下野版と寄合で一頁だから部數はずつと減つた。河北の福島版は之れに比すれば堂々たるもので、いはらきよりは多いと見られる。

福島民報 福島市榮町二一。(電)代表一四二。(社史)創刊明治廿五年八月一日。昭和三年五月。株式會社より個人經營となり。中目君社長となる。十萬圓。不偏不黨。朝刊四頁。夕刊四頁。(地方版)宮城版。(社長)中目元治。(副社長)三瓶仙輔。(編輯次長)渡邊寬。(編輯委員)箭內正五郎、長谷川幸太郎、關場新次郎、清野彥吉、青木健次郎。(營局)古和口虎雄。(廣告)同。(廣告次長)阿部幸雄。(販賣次長)石井源中。(東京支局)三瓶仙輔。(大阪支局)木暮仁輔。(社員)五十五名。(工場員)四十八名。(機械)折疊式輪轉機二、平版一。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七ポ、十五字、一五一行、一三段。一箇月七十五錢。(廣告料)八十錢、場所指定二十錢增、特別面一圓八十錢。

■九年十二月より十三段となる

■十年三月十日理事兼編輯局長

中目武功君逝く、享年五十。

福島民友新聞 福島市大町七九。(電)四一、四三、四三二。株式。三十三萬六百圓。民政系。(社史)明治二十八年五月二十日創立、昭和六年二月八日福島毎日新聞社及福島印刷株式會社を併合す。朝刊四頁。夕刊四頁。(社長)氏家清。(專務)寺澤元良。(編局)井筒平。(政治)同。(論說)阿部石鷗。(營部)川島豐。(廣告)同。(販賣)蒔田升藏。(東京支局)武田喜久朗。(大阪支局)福井薫。(社員)二十五名。(工場員)三十名。(機械)輪轉機二。平版一。活字鑄造機一、ステロ機一、寫眞版設備あり。(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月七十五錢。(廣告料)八十錢、場所指定二十錢增、特別面一圓二十錢。

福島新聞 福島市柳町三八。(電)六二一、九八四。個人經營。(社史)明治七年半官報の委にて創刊さきに東京の中外商業新報社の經營なりしも昭和七年新經營者を迎へ根本的改善を加へ、更に十年九月株式組織となる。朝刊四頁。(販數)二。(地方版)郡山支社版、白河支社版。(部數)九年九月一日現在一萬二千部。(社長)助川啓四郎。(專務)半谷眞雄。(取締役)釘本衞雄、唐橋重政。(監査役)大島英二、西澤善太郎。(顧問)村上幸平、大原一、太田三郎。(編局)安部多氣雄。(社會)三田英一。(政治)菊地八郎。(營局)佐藤稔。(營業)小轎盛二。(販賣)佐々木精太郎。(東京支局)佐藤稔。(社員)四二名。(工場員)二二名。(機械)外國製マリノニー式輪轉機一。活字鑄造機一、寫眞版、字母、ステロ、コツピー機あり。(活字)七ポ、十五字、百五十四行、十三段。一箇月五十錢。(廣告料)八十錢、場所指定一圓、特別面一圓八十錢。

■十年九月二十九日從來の個人經營を改めて八萬圓の株式會社となり社長助川啓四郎、專務半谷眞雄君等決定。

■半谷君は黨籍(政友)を離脱して新聞經營に專心する事となる

日刊新福島 福島市置賜町九(電)九一九。個人經營。政友系。昭和八年十二月五日創刊、縣內政友會機關として繼續、朝刊四頁。(部數)十年十月一日現在四千七百。(社主)齋北洋。(社長)同。(編局)星純一郎。(營部)相樂恭夫。(工場員)八名。(機械)四六版一。(活字)九ポ。一箇月三十錢。(廣告料)五十錢、場所指定七十錢。(兼營)事業部設置あり。

■擬市縣會を開催す。

■年二回單行本發行。

■十年四月福島市案內を發行す

岩盤新報 福島市。創刊大正十五年五月。個人經營。朝刊小型四頁。(社長)橫出代介。(機械)平盤一。(活字)舊、七段。一箇月三十錢。(廣告料)五十錢。

岩代毎夕新聞 郡山市柳內一一八。(電)一七六。個人經營。五萬圓。創刊昭和四年十二月十六日。夕刊小型四頁。(部數)十年九月一日現在三千四百部。(社主)大沼秀義。(社長)同。(主幹)鈴木榮二郎。(營業)推野慶次。(社員)二一名。(工場員)四一名(機械)四六、二四頁一、同一六頁一、同八頁一、フート一。ステロあり。(活字)七半、十六字、五十六行、九段。一箇月三十五錢。(廣告料)五十錢、場所指定一圓二十錢。(兼營)印刷業。

郡山新聞 郡山市堂前九。(電)六九九。個人經營。民政系。創刊昭和二年二月十一日。夕刊四頁。(販數)一。(社主)粟山博。(社長)下河邊行雄。(專務)橫井八十吉。(主筆)齋藤巴江。(編局)下河邊行雄。(東京支局)石津英司。(大阪支局)岡本太郎。(社員)十五名。(工場員)二十一名。(機械)マリノニ式輪轉機一、十六頁掛平版一。ステロあり。(活字)七ポ、十五字、八十行、十三段。一箇月五十錢。(廣告料)八十錢、場所指定一圓、特別面一圓三十錢。

郡山日報 郡山市細沼町三四。創刊昭和八年九月。個人經營。夕刊四頁。(社長)鈴木孫之亟。一箇月三十錢。(廣告料)五十錢。

郡山毎日新聞 郡山市燈田六八商工會議所ビル。(電)五五四。個人經營。創刊昭和八年七月二十二日。夕刊四頁。(部數)十年九月一日現在三千部。(社長)桶

輝政。(社員)六名。(工場員)十六名。(機械)築地活版所製平版。(活字)七ポ、十五字。

■出版事業、郡山年鑑、福島市總覽、郡山財界史。今泉久次郎傳の刊行。

會津新聞 會津若松市當麻町。(電)八〇七。合資會社。五千圓。(社史)昭和六年六月三十日創刊當時二ケ月週間(四六、八頁)三ケ月目より日刊一ケ年目より四六、六頁十三段制に變更、爾來休刊せず。夕刊四頁。(附錄)毎年一號に繪附錄及當分の間郷土雜誌「會津」(月刊)添附(部數)十年九月二十六日現在四千六百部。(社主)山內岩記。(社長)同。(編輯)遠藤吉之助。(營業企劃)佐瀨光衞、山內丑彦。(東京支局)宮本甚之助。(大阪支局)與田勇次郎。(社員)十五名。(工場員)十三名。(機械)築地製四六十六頁掛一、菊八頁掛一、小型一。紙型流(一頁大)一。(活字)九ポ、十二字、七六行、十三段。一箇月五十錢。(廣告料)五十錢。場所指定七十錢、特別面一圓。(兼營)郷土雜誌月刊「會津」毎月一萬部以上。

■十年度に社屋新築七十八坪(和洋折衷總二階建)

■九年度に「南洋の旅を終へて」二萬部發行、縣下の役場全會津讀者、學校に配附す。

會津日報 若松市甲賀町。(電)四七二。個人經營。(社史)明治三十八年五月一日會津日報として創刊せしも、大正七年春に至り如何なる都合か前經營者に於て號數を改め第一號とせしため十年十月一日現在にて四千二百三十一號となる。夕刊小型四頁。(販數)一。(部數)昭和十年十月一日現在二千部。(社主)鈴木忠助。(社長)同。(編輯)同。(營業)長谷川憲之助。(社員)十五名。(活字)舊五號、十二字、八十行、九段。一箇月五十錢。(廣告料)五十錢。

新會津 會津若松市大町三ノ町五。(電)五九一。個人經營。四萬圓。(社史)大正十二年九月一日創刊四ッ截、十四年三月三三判、昭和二年六月四六半截現在に至る。夕刊四頁。(社主)志藤冬藏。(社長)高坂冠山。(主筆)橫山武。(機械)十六頁二。(活字)五號、十一字、七十行、十二段。一箇月五十錢。(廣告料)五十錢、場所指定三割增、特別面五割增。

■出版事業、郡山年鑑、福島市總覽、郡山財界史。今泉久次郎傳の刊行。

常磐毎日新聞 平町長橋町三五。(電)六三〇。個人經營。創刊大正十二年十一月一日。夕刊小型四頁。(部數)昭和九年十一月一日現在三千七十八部。(社主)川崎文治。(社長)同。(編輯)梅崎安彦。(庶務)橋本涉。(營業)坂本忠治。(社員)七名。(工場員)十四名。(機械)平盤二。ステロあり。(活字)舊、十二字、四十五行、七段。一箇月三十錢。(廣告料)五十錢。(兼營)姉妹機關「常磐毎日印刷株式會社」あり、一般印刷の註文に應ず。

盤城新聞 平町田町一六。(電)五六四。創刊大正十四年四月三日。個人經營。夕刊四頁。(社長)蓮沼龍輔。(機械)平盤二。ステロあり。(活字)舊、十二字、十一段。一箇月五十錢。(廣告料)五十錢。

盤城時報 平町紺屋町一五。(電)平四〇九、五〇二。創刊大正二年。個人經營。夕刊小型二頁。(社主)佐藤作平。(活字)舊、七段。一箇月三十錢。(廣告料)五十錢。

新いはき 平町大町二三。創刊昭和五年三月。個人經營。夕刊四頁。(社長)大嶽車。(廣告料)五十錢。

東北毎日新聞 白河町驛前。(電)三〇三。個人經營。(社史)大正九年五月創刊、昭和六年九月三千圓の工費で驛前に新築移轉現在に至る。朝刊小型四頁。(部數)十年九月二十日現在三千五百部。(社主)大越軍三。(社長)同。(副社長)佐川吉正。(專務)綠川定治。(編輯)秡川廣雄。(營業)村上貫。(社員)十八名。(工場員)十二名。(機械)菊版一、四六版一。(活字)八ポ、十五字、五十八行、八段。一箇月四十錢。(廣告料)六十錢。(兼營)本紙姉妹紙として須賀川毎日新聞を昭和三年以來發刊。

■社會事業部を設けて地方的活動をなしつゝあり。(貧困者に醫師の無料斡旋の如し)

白河日報 白河町中町五六。(電)一五二。個人經營。二萬圓。

昭和七年十月二十八日創刊。朝刊二頁。(地方版)棚倉版。(部數)十年九月二十日現在三千五百部。(社主)菊池勝美。(社長)同。(主筆)同。(編輯)後藤隆一。(營業)遠山春雄。(社員)八名。(工場員)十五名。(機械)平版二。(活字)舊、十二字、七十行、十一段。一箇月三十錢。(廣告料)五十錢。場所指定二割增。

■昭和十年二月納稅思想普及兒童文藝募集。

■同年九月觀光都市白河宣傳映畫作製(全三卷二千呎)

昭和時事新報 須賀川町。(電)四六八。政友系。(社史)昭和二年十一月三日創刊、地方自治體の行政紊亂頻發に義憤し革正のため横山藏之助創刊今日に至る。夕刊四頁。(版數)一。(部數)十年九月一日現在二千百部。(社長)横山藏之助。(主筆)同。(編輯)阿部喜代司。(營業)横山重雄。(社員)八名。(工場員)十二名。(機械)四六十六頁ロール一、菊八、菊四各一。(活字)八ポ、十四字。一箇月四十錢。(廣告料)十錢、場所指定三十錢。(兼營)郡山市に姉妹紙東北日日新聞社を兼營す。

須賀川毎日新聞 (東北毎日新聞の姉妹紙)須賀川町。(電)四三五。創刊昭和四年二月十一日。個人經營。一萬圓。朝刊小型四頁。(部數)八年九月一日現在千三百部。(社主)大越軍三。(社長)同。一箇月四十錢。(廣告料)六十錢。

宮城縣

▼人口……一、三三、二〇〇
▼同市部……三五一、七〇〇
▼同郡部……九六、五〇〇
▼世帶數……二四四、二四〇

東北文化の中心地たる人口二十一萬六千の仙臺市には我國代表的地方新聞の一つたる河北新報が發達した。その代り河北が殆んど獨占的位置にあり、他を完全に壓倒してゐる。東京各紙も幾度か巨額の擴張費を投じて侵略を試み或は此地に合賣紙を置いたものもあつたが河北の地盤は容易に動かすべくもない。十年一月七日讀賣發表同紙縣下純販賣部數は一萬〇二百六十一であり、地方六十萬計畫の割當は一萬八千である。河北は昭和四年十一月創業の偉人、一力健治郎を亡つたが、後繼社長よくその傳統を體し、益々積極的進出を策し、今や青森、福島、岩手の隣縣に侵入し、更に秋田にまで及ばんとしてゐる。縣下各紙の勢力を示す一例として、石卷市に於ける某方面の推定概數を擧げれば次の如くである。

河北	七〇〇
東朝	五〇〇
東日	三〇〇
讀賣	三〇〇
時事	一五〇
報知	一五〇

河北新報 仙臺市東三番丁一七〇。(電)仙臺四一〇〇。個人經營。(社史)明治三十年一月十七日一力健治郎創刊、昭和四年十一月五日一力健治郎死去一力次郎社長となる。朝刊八頁。夕刊四頁。(版數)五。(地方版)青森、宮城、岩手、福島。(社主)一力次郎。(社長)同。(副社長)一力五郎。(編局)同。(總務)大場皎。(調査)門間正順。(社會)高橋儀藏。(通信)田中忠藏。(政濟)寺田利和。(學藝)三原良吉。(營局)佐々木忠作。(廣告)鈴木武治郎。(總務)赤阪敬止。(販賣)佐々木忠策。(經理)渡邊榮治。(東京支局)膽澤寛三。(大阪支局)櫻田定熙。(機械)高速度二マリノニ八。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月九十錢。

■九年十二月有力官民を網羅して東北調査會を設置す。

■十年六月五日より十日間第三回東北美術展覽會を開く。

■八月營業局廣告課、庶務課を合併して經理部と改稱し、統一處理する事となる。

■十月より紙面の大改革を斷行して第一面の廣告を廢し重要記事を掲載す。

仙臺日日新聞 仙臺市東四番丁五五。(電)五〇四、八〇七。(社史)創刊明治四十一年十一月初め小原保固、同辰三郎兩氏業務執行社員となり、後保固氏の個人經營となる。昭和四年

一月二十五日保固氏歿、佑氏社長に就任、後現社長つぐ。昭和六年八月十五日讀賣と販賣協定成り兩紙合賣一箇月九十錢としたが後合賣を中止す。個人經營。朝刊四頁。(社長)小原侃。(理事)小原辰三郎。(編輯)小原伸。(營業)小原伉。(東京支局)稲垣美次。(大阪支局)井上環。(機械)TKS式輪轉二、字母、ステロあり。(活字)七・七五、十五字、百四十行、十二段。一箇月五十錢。(廣告料)七十錢、特別面一圓五十錢。

東華新聞 仙臺市本町末無八。(電)一三四〇、一七八四。個人經營。(社史)大正四年七月二十四日創刊。現社長の父平一郎創刊七年間經營して死去し長男平八郎父業を繼ぎ今日に至る。創刊滿二十年を閲す。朝刊四頁。(版數)二。(社主)小野秋子。(社長)小野平八郎。(編輯)小野和多理(政治)片山可夫。(經濟)久保田光。(社會)門馬昇。(營業)小野平吉郎。(廣告)蓬田清一。(販賣)大黒元治。(東京支局)鈴木永三郎。(大阪支局)江口俊介。(社員)二百名。(工場員)五十名。(機械)マリノニ式輪轉機二。活字鑄造機、ステロあり。(活字)七・七五、十五字、百五十行、十二段。一箇月六十錢。(廣告料)八十錢、場所指定料二十錢增、特別面一圓五十錢。

東北産業日報 仙臺市東四番丁。(電)二二九九。創刊大正十五年七月二十八日。個人經營。夕刊四頁。(社主)松浦增一。(社長)同。(副社長)新保勝彦。(編輯)大浦輝英。(營業)佐藤松策。(機械)輪轉機一、平版一。活字鑄造機、ステロあり。(活字)七・五、十五字、八十行、十二段。一箇月五十錢。(廣告料)七十錢、場所指定五割增。(兼營)土木建築材料一式の代理部あり。

日刊大仙臺 仙臺市國分町九九。(電)三二四八。個人經營。一萬圓。(社史)昭和元年月刊雜誌大仙臺發行、同三年日刊新聞となり、毎年夏期に東京大歌舞伎を召聘し企劃部事業として社の經營を援く。朝刊四頁。(版數)一。(部數)十年九月三十日現在一萬部。(社主)井上啓治。(社長)同。(主筆)生江田鶴彌。(編局)生江田鶴彌。(編部)和地脩二。(營局)吉井喜作。(東京支局)吉田修三。(大阪支局)村松早瀬。(社員)五十二名。(工場員)二十六名。(機械)大型平版。寫眞班並に製版部あり。(活字)七ポ、十四字、八十行、十三段。一箇月四十錢。(廣告料)七十錢、(特設)企劃部(主として演藝興業)昭和十年八月尾上榮五郎一座を招聘す。

土木建築時報 仙臺市東二番丁一一六。(電)三二六一。創刊大正十五年一月一日。個人經營。三千圓。朝刊小型四頁。(附錄)土木建築に關する研究雜誌。(社主)西田信男。(社長)新保兵吉。(機械)四六判十二頁二。(活字)八半、八段。一箇月六十錢。(廣告料)十五錢、場所指定廿錢、特別面四十錢。

■土木建築材料販賣代理部あり

仙臺朝日新聞 仙臺市茂市坂一六。創刊昭和七年二月二十四日。(社長)中澤三左衛門。

石卷日日新聞 石卷市伊町。(電)二〇三。個人共同。五萬圓。大正元年九月二十五日創刊。朝刊四頁。(版數)三。(部數)十年九月一日現在七千部。(社主)松川鐵四郎。(副社長)佐藤貞治。(編輯)同。(營業)小野寺德造。(東京支局)赤松彦太郎。(社員)五十名。(機械)ロール二。活字鑄造機、ステロあり。(活字)七半、十二段。一箇月六十錢。(廣告料)五十錢、特別面七十錢。

宮城新聞 (日刊宮城の改題)石卷市驛前三八。(電)五五一。二萬圓。創刊昭和三年四月二十九日。朝刊四頁。(部數)十年九月廿日現在二千部。(社長)佐々木泰治。(編輯)高柳正二郎、佐々木綱夫。(營業)佐々木千里。(社員)六名。(工場員)九名。(機械)四六判一。(活字)九ポ、十二段。一箇月五十錢。(廣告料)八錢、場所指定十五錢、特別面三十錢。

陸羽日報 鹽釜町小松崎四九一。(電)三三八。個人經營。大正十年七月十日創刊。朝刊四頁。(部數)昭和十年九月一日現在五千部。(社主)志野逸郎。(社長)同。(副社長)伊藤清太郎。(主幹)本木義雄。(主筆)同。(編輯)桑

永辰太郎。(營業)千葉革克。(機械)平盤二。(活字)七半、十五字、八十行。十三段。一箇月八十錢(廣告料)六十錢、場所指定五割增。

鹽釜實業新報 鹽釜新聞社發行。鹽釜町仁井町八六。創刊昭和三年九月九日。個人經營。五千圓。朝刊小型四頁。(版數)一。(附錄)日曜附錄。(社主)西條正一。(社長)同。(編輯)遠藤忠。(活字)舊、六段。一箇月三十錢(廣告料)五十五錢。

仙都日日新聞 鹽釜町千賀浦二。創刊昭和八年二月二十日。(社長)清野房吉。

仙北日日新聞 古川町臺町。個人經營。五千圓。政友系。創刊昭和三年十月。朝刊小型四頁。(部數)九年七月末日現在二千四百五十部。(社主)上村惣三郎。(社長)同。(編輯)高橋鼎男。(營業)上村惣三郎。(社員)八名。(工場員)十二名。(機械)平版四六一、菊版一。(活字)七半、十五字、五十行、八段。一箇月三十五錢。(廣告料)普通五十錢、場所指定一圓。

陸羽新聞 古川町稻葉三日町。(電)六七。個人經營。五萬五千圓。民政。(社史)大正七年四月來旬刊發行、昭和六年六月二十五日日刊。朝刊小型八頁又は四頁。(版數)三版。(部數)九年八月三十一日現在二千三百部。(社主)樺澤敬之助。(社長)同。(營務)佐藤春夫。(主幹)近藤力嗣。(編輯)樺澤敬之助。(營業)黑澤門吉。(社員)十二名。(工場員)十一名。(機械)平四六四頁一、四六八頁二。活字鑄造機あり。(活字)七半、十五字、五十五行、八段。一箇月三十五錢。(廣告料)五十錢、場所指定三割增、特別面五割增。(兼營)諸活版印刷物。

仙南日日新聞 大河原町一一五。(電)七二。個人經營。創刊大正十一年五月廿七日。朝刊四頁。(社長)庄司重太。(主筆)庄司一郎。(編輯)庄司猛太郎、須藤三郎。(營業)庄司隆。(東京支局)中山正重。(大阪支局)菊地建。(機械)平盤一。(活字)七半、十五字、百三十五行、十二段。一箇月六十錢。(廣告料)四十錢、場所指定十錢、特別面六十錢。

大氣新聞 氣仙沼町。(電)氣仙沼一〇。創刊大正十五年五月二十七日。青年同志十名同人組織二萬圓。朝刊小型四頁。(社主)宮井誠三郎。(主幹)佐藤文雄。(機械)菊八頁三。(活字)九ポ、十五字、五十五行、八段。一箇月五十錢。(廣告料)二十錢、場所指定五割增。(兼營)普通印刷業。

氣仙沼日報 氣仙沼町釜前二三七。創刊昭和四年六月二十日。個人經營。三千圓。朝刊小型四頁。(社長)三浦一郎。(營業)清水强。(機械)平盤一。(活字)舊、八段。一箇月四十錢。(廣告料)五十錢。

三陸新報 氣仙沼町臺町六七。創刊昭和八年一月二十五日。(社長)木田豐吉。

岩手縣

▼人口……一、〇三五、二〇〇
▼同市部……六、九二〇
▼同郡部……九六六、〇〇〇
▼世帶數……二〇四、〇四〇

人口の密度は北海道につぐ稀薄地で、文化の程度もあまり高くない。從つて新聞は概して不振であるが、數は相當ある。人口六萬九千の盛岡市を地盤とする岩手日報は縣下に固い地盤を有し、東京各紙及び隣縣河北の侵入軍と戰つてゐる。十年一月七日讀賣發表の同紙縣下純販賣部數は九千三百十五で、地方六十萬計費の割當は一萬である。昭和九年某官憲方面の調査による地元各紙の推定部數及び移入紙の推定部數は次の如くである。

地元紙	
岩手日報	一〇、〇〇〇
宮古新聞	三、〇〇〇
宮古日日新聞	一、五〇〇
夕刊いちのせき	一、二〇〇
磐井每夕	一、〇〇〇
東北民論	一、〇〇〇
岩手タイムス	一、〇〇〇
移入紙	
東京日日新聞	一二、〇〇〇
東京朝日新聞	一〇、〇〇〇
讀賣新聞	七、〇〇〇
時事新報	七、〇〇〇
報知新聞	四、〇〇〇
河北新報	五、〇〇〇

岩手日報 盛岡市內丸、(電)一八〇、一八二、一三四三、一八一、六一七。株式。二十萬圓。創刊明治九年七月廿一日。朝刊四頁。夕刊四頁。(版數)三。(部數)九年九月現在三萬八千部。(取締役理事)後藤清郎。(同支配人)岩淵榮勇。(同編輯)下村恒彌。(監査)小野崎篤造。(編輯總務)菱川香郎。(整理)吉田源三。(政經)小森秀。(社會)松本政治。(調査)北島潔。(地方兼事業)下村恒彌。(聯絡)遠藤繁次郎。(營業次長)田村敬造。(販賣)同。(廣告)及川樹助。(活版)荒川治助。(文選)細田菊治。(機械)及川善作。(東京支局)岩淵榮男。(大阪支局)清島三郎。(機械)石川式輪轉機一、片出折疊式輪轉機一、平盤二。鑄造機二、鑄込機二、筥眞、凸版製版機各二。(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月八十五錢。(廣告料)八十錢、場所指定一圓七十錢。

■九年十一月編輯局職制を改め總務部長菱川香郎君以下新陣容を布く。

■十年四月一日釜石市に姉妹紙東海日報を發行す。

■同七月二十一日創刊六十周年を迎ふ。

■同九月釜石支局より姉妹紙東海日報を發行す。

岩手タイムス 花卷町仲小路創刊昭和二年八月二十六日。匿名組合。二萬圓。朝刊二頁。(社長)箱崎圭助。(主筆)佐藤源一。(營業)清見浩平。(機械)四六三十二頁平盤一、菊八頁一。(活字)舊、十二字、六十三行、十一段。一箇月三十五錢。(廣告料)八十錢。

岩手中央新聞 花卷町黑川口創刊大正十四年十二月十五日。合資。五千五百圓。朝刊二頁。(社長)小田島金三。(機械)平盤二。(活字)舊、十一字、六十三行、十二段。一箇月三十五錢。(廣告料)八十五錢。

磐井每夕新聞 一關町大槻街七。(電)六六。個人經營。(社史)昭和四年六月一日創刊、當時は阿部時一氏の經營なりしも昭和十年五月一日限り跡部一雄氏讓渡され經營に移る。夕刊二頁。(附錄)每月一回映畫割引。(部數)十年八月三十日現在千八百九十部。(社主)跡部一雄。(社長)同。(編輯)同。(營業)山本與吉。(社員)五名。(工場員)八名。(機械)平版二。(活字)九ポ、十三字、七十三行、十二段。一箇月三十錢。(兼營)印刷所(一關印刷所)

■米南名房史(定價一圓)發行準備中。

夕刊いちのせき いちのせき新聞社發行。一ノ關町。創刊大正十五年六月廿一日。個人經營。夕刊二頁。(版數)一。(社長)山岸憲彰。(機械)平臺四六六十頁二。(活字)舊、十二段。一箇月三十五錢。(廣告料)八十錢。

岩手河北 一關町。創刊昭和十年。(社長)久保田。

宮古新聞 宮古町。(電)二三四。合資。五千圓。創刊大正十四年十二月二十八日。夕刊四頁。(版數)一。(部數)九年九月三日現在三千部。(社主)小國善平。(社長)同。(理事)澤田市郎。(支配人)小國民平。(主筆)同。(編部)加藤協三。(營局)藤井双二。(東京支局)山崎周信。(社員)十名。(工場員)十名。(機械)ロール四六十六頁一、同八頁一、手フート四頁一、ステロ設備あり(活字)舊、十一字、六十行、十二段。一箇月六十錢。(廣告料)三十錢、場所指定六十錢、特別面九十錢。(兼營)地方物產紹介。

宮古日日新聞 宮古町。創刊昭和七年九月二十四日。朝刊四頁。(社長)松田德次郎。

三陸タイムス 宮古町。創刊大正十五年十二月二十二日。朝刊二頁。(持主)伊藤勤。

東海日報 釜石市藥師町。(電)二四七、四二〇。合資會社。一萬五千圓。(社史)昭和十年四月一日岩手日報社の釜石市に於て姉妹紙として發行。朝刊四頁。(版數)一。(部數)十年九月二十日現在一萬部。(社主)金田耕良。(社長)佐々木嘉助。(常務)中川松次郎。(東京支局)市來政尙。(大阪支局)清島三郎。(社員)三十五名。(工場員)二十名。(機械)石川式輪轉機一。活字鑄造機、ステロ、筥眞版設備あり。(活字)

七ポ、十五字、九十五行、十三段。一箇月五十錢。（廣告料）五十錢、場所指定二割增、特別面一圓。（兼營）印刷物。

東北民論 釜石市釜石。（電）二〇五。創刊大正十四年十一月三日。株式。二萬圓。朝刊四頁。（地方版）一。（部數）八年九月二十日現在千七百部。（社長）加茂久一郎。（主筆）阿部露秋。（編輯）澤口金一郎。（營部）大山萬吉。（社員）十三名。（工場員）十六名。（機械）平版二。（活字）十二字、六十六行、十二段。一箇月六十錢。（廣告料）五十錢、場所指定十錢增、特別面二割增。（兼營）一般印刷物。

三陸毎日新聞 釜石市釜石町創刊昭和七年二月七日。朝刊小型四頁。（社長）青柳正。

青森縣

▼人口……九三三、一〇〇
▼同市部……一九四、一〇〇
▼同郡部……七三、六〇〇
▼世帶數……一八六、六二〇

地理的關係から東京紙の脅威は比較的に稀薄であるが河北新報をはじめ北海タイムス、函館毎日等が多少侵入してゐる。併し人口九萬の青森市から發行される東奥日報は全縣的に勢力を占め、今や奥羽地方での代表的有力紙となつた。外に同じ青森に夕刊の青森日報、弘前市（人口四萬五千）に弘前新聞があり、八戸市（人口五萬八千）にも一二の新聞があるがいづれもさまで勢力を示すに至らない。十年一月七日の讀賣新聞發表の同紙縣下純販賣部數は四千八百〇五であり、地方六十萬計畫の割當は八千である。

東奥日報 青森市長島三ノ二。（電）長四三、二五〇、三九四。一〇四三、一五五三（社内交換）株式。十萬圓。（社史）明治二十一年十二月六日創刊、大正十五年一月現社長就任、昭和三年七月資本金を十萬圓とす、九年五月二十四日一萬五千號を發行。朝刊四頁。夕刊四頁。（版數）各三。（社長）山田金次郎（主筆）同。（副主筆）工藤規。（編局）宮川善五郎。（論說、校閲）工藤規。（統制、地方）宮川善五郎。（整理）竹内俊吉。（經濟）鈴木武一。（政治）盛田文雄。（社會）林柾次郎。（調査）長谷川虎次郎。（寫眞）早瀬長之助。（營局）武田永孚。（總務）伊藤正人。（印刷）安田爽之助。（販賣）小林小次郎。（廣告）工藤哲郎。（東京支局）藤田義一。（社員）百二十八名。（工場員）百十六名。（機械）折機二、同上赤刷機二、TKS一、平版六。萬年自動三、カスチング二、コッピー二、鉛版鑄込機二、同仕上機一、自動整版機一、寫眞製版機二、凸版製版機一。（活字）七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月八十五錢。（廣告料）八十錢、場所指定五割增、赤刷一行二圓。（兼營）印刷事業。東奥年鑑毎年發行。

■最近一年間に輪轉機、自働鑄造機、四六版三十二頁機（平版）鉛版鑄込機以上各一臺づゝ增設、卷取用紙庫、輪轉工場、鑄造工場、鳩舍新築、編輯局、食堂增改築、自働式電話交換機設備。

■同く青森縣飛行機勵會設立、青森縣寫眞多收獲競技會、青森縣民謠大會、青森縣相撲大會、青森縣雄辯大會、模型飛行機競技大會、三市商店照明競技會、東奥美術展覽會等開催。

■十年一月より東京通信部を新設事務室を聯合社内に置く。

■同五月十二日新通信社創立準備委員會に參加す。

青森日報 青森市柳町五十一。（電）三七七。個人經營。（社史）明治十三年三月青森縣最古の歴史を有す、發刊當時陸奥新聞といふ、政友より民政に現在は不偏不黨。夕刊四頁。（部數）昭和十年九月二十日現在一萬部。（社主）外崎千代吉。（社長）同。（主幹）中田三雄。（編輯）一戸恭三。（營業）佐々木忠郎。（會計）金井萬吉。（廣告）米田精藏。（販賣）濱田義光。（東京支局）藤野保三。（大阪支局）落合忠兵衛。（社員）二十五名。（工場員）三十二名。（機械）平版三、輪轉機一。（活字）七ポ、十五字、百五十行、十三段。一箇月五十錢。（廣告料）五十錢、特別面七十錢。

青森報知新聞 青森市安方町（電）三九七。個人經營。二萬圓。

創刊昭和二年四月十六日。夕刊四頁。（販數）二。（部數）十年九月二十日現在五千部。（社主）關精一。（社長）同。（副社長）關德次郎。（支配人）同。（編輯）齋藤秀太郎。（政治）幸林定一。（經濟）工藤健二。（社會）關五郎。（營業）久米田健三。（廣告、販賣）關谷一雄。（東京支局）友田友一。（社員）二十名。（工場員）二十名。（機械）四六十六頁二、菊八頁一。ステロ、寫眞版設備あり。（活字）九ポ、十三字、八十行、十二段。一箇月五十錢。（廣告料）五十錢、場所指定五割增、四面一行二十五錢。

弘前新聞 弘前市一番町。（電）八四九、六四四、七三五。個人經營。十萬圓。（社史）明治三十年五月の創刊、昭和七年一月より朝夕刊八頁となる。朝刊四頁。夕刊四頁。（版數）二。附錄）映畫、學藝。（部數）九年九月一日現在一萬三千六百部。（社主）工藤十三雄。（社長）同。（副社長）櫻田清芽。（支配人）石田幸六。（編局）千葉耕民。（政治）工藤齊一。（編輯）古川英雄。（社會）村林正吉。（營局）松本克巳。（外交）長内祐之輔。（販賣）工藤武藏。（工務局）赤石勇藏。（東京支局）原田柳二。（大阪支局）同。（社員）三十四名。（工場員）三十六名。（機械）マリノニー式輪轉機二。活字鑄造機、ステロ寫眞版設備あり。（活字）七ポ、十五字、百四十五行、十三段。一箇月八十五錢。（廣告料）八十錢。場所指定二割增、特別面一圓五十錢。

■年中行事、岩木登山競走、角力大會、林檎祭、林檎立毛品評會其他。

弘前大正報 弘前市元大工町四〇。創刊大正四年二月九日。個人經營。二萬圓。朝刊四頁。（社長）成田彦太郎。（主筆）同。（營業）成田祐。（機械）平盤一。（活字）舊、十二段。一箇月六十錢。（廣告料）二十錢。

林檎日報 弘前驛前。（電）長八四五。青森縣林檎移出同業組合機關誌。（社史）昭和七年九月二十四日第三種郵便物認可、發刊の主目的は本縣年産一千二百萬圓の林檎の販賣上の動向を組合員二百名に傳へ共榮に資せんが爲。小型一日一回、（社長）前田馨賢。（主筆）福士藤作。（社員）二名。（工場員）三名。（活字）舊、十一字、五十四行、八段。一箇月一圓。（廣告料）五十錢、特別一圓。（發行物）種々のパンフレット、「林檎のしらべ」

八戸毎日新聞 八戸市番町四三。（電）三四六、五二六。株式。二萬圓。（社史）創刊大正九年九月、隔日刊、題號大南部、大正十年一月日刊となり、同十一年五月題號現在に變更。朝刊四頁。（部數）十年八月三十日現在四千二百部。（社長）武藤勝美。（主筆）同。（編局）川井昌平。（營業）中村誠一。（社員）五十名。（工場員）十八名。（機械）マリノニー式輪轉機一、平版菊二十四頁一、菊八頁一。ステロ一、寫眞製版部設備工事中。（活字）七・五、十四字、八十行、十三段。一箇月五十錢。（廣告料）五十錢、場所指定二割增、特別面一圓。（兼營）印刷部。

八戸新聞 八戸市丸の内。（電）五二一。個人經營。五萬圓。（社史）明治三十三年十二月八日、初めはちの〈新聞と稱す。朝刊四頁。（販數）一。（部數）十年十月十日現在四千七百部。（社主）鈴木惣吉。（社長）同。（總務）原易三、鈴木金三郎。（編局）接待雄持。（政治）清水義勝。（文藝）草飼稔。（經濟）工藤宇三郎。（社會）岩澤清治。（營局）天島武三郎。（廣告）山田德助。（會計）角田豐。（企劃）鈴木虎雄。（販賣）木村鶴松。（寫眞）長谷祥次郎。（東京支局）鈴木國三郎。（大阪支局）矢野進。（社員）四十五名。（工場員）二十二名。（機械）四六十六頁二、菊八一、同美濃全紙一。ステロ一。昭和九年一月より寫眞製版設備せり。（活字）七・五、十四字、八十一行、十三段。一箇月五十錢。（廣告料）二十錢、場所指定三十錢、特別面五十錢。（兼營）普通印刷業、製版業。

■昭和十年十月十三段制採用。

■輪轉機設備の計畫中。

八戸日報 八戸市小中野町字中條。（電）六九九。個人經營。一萬圓。（社史）昭和五年十一月刊發行、九年二月より日刊となる。朝刊四頁。（部數）三千五百

部。(社主)下野末太郎。(社長)同。(編輯)下野慶美。(營業)大橋松藏。(社員)八名。(工場員)十名。(機械)四六八頁ロール一。(活字)九ポ、十四字、五十三行。一箇月三十五錢。(廣告料)五十錢。(發行物)八戸商工案内、八戸情緒等發行。

津輕實業新報 黒石町。(電)二三一。株式。五千四百圓。(社史)昭和二年四月一日創刊、六年四月株式となる。夕刊四頁。(部數)十年九月二十日現在二千二百部。(社長)佐藤清吉。(支配人)中村文三。(主幹)同。(編部)野呂松藏。(政治)工藤阿義良。(社會)川口元四郎。(營部)加藤初太郎。(社員)十名。(工場員)十八名。(機械)平版四六十六頁二。(活字)九ポ、十三字、五十行。一箇月四十錢。(廣告料)五十錢、特別面一圓。(發行物)南津輕郡經濟要覽發行。

■廣告祭、民謠大會、商店早廻競爭等開催。

黒石新報 黒石町。(電)二二八、七五。個人經營。(社史)大正十四年十二月十四日旬刊として發刊、昭和六年四月一日より日刊となる。夕刊小型四頁。(社主)長谷川忠藏。(社長)同。(編輯)柴田久次郎。(社員)十二名。(工場員)八名。(活字)九ポ、十五字五十行、七段。一箇月四十錢。(廣告料)三十錢、場所指定五十錢、特別面一圓。

北辰日報 五所川原町。創刊昭和八年七月一日。個人經營。朝刊小型四頁。(社長)三和精一。(主筆)小野善二。(活字)九ポ、八段。一箇月三十錢。(廣告料)二十錢。

秋田縣

▼人口……一、〇二八、五〇〇
▼同市部……六〇、五〇〇
▼同郡部……九六、〇〇〇
▼世帶數……二〇五、七〇〇

秋田縣の新聞中心地は、秋田市(人口六萬)に限られて居り最近一二の地方にも新聞の發行を見るに至つたが、殆んど問題とならない。秋田市の秋田魁新報は古い傳統と固い地盤とを有し、文人安藤和風君を社長に頂き、奥羽地方での代表的有力紙として活氣ある營業振りを示してゐる。魁の民政系なるに對して昭和六年以來、政友系新聞として秋田旭新聞がこれに對抗せん事を努めてゐたが、十年春遂に休刊のやむなきに至つた。部數は一部專門家方面の推定によれば魁は斷然多く移入紙其他十年九月現在で次の如くである。併し此の數字をそのまゝ認容すべきでない事は無論である。

推定部數

秋田魁新報	二萬三千
東京日日新聞	一萬一千
東京朝日新聞	九千五百
讀賣新聞	三千五百
報知新聞	三千
時事新報	一千

尚十年一月七日發表讀賣の本縣純販賣部數は七千八百十四であり、同紙六十萬計畫の割當は一萬二千である。

秋田魁新報 秋田市大町一ノ十四。(電)一五〇、三〇四、三五一。株式。三十萬圓。創刊大正十二年一月二十五日。朝刊四頁。夕刊四頁。(版數)三。(社長)安藤和風。(專務)中村重惇。(支配人)佐藤竹之助。(主筆)皆川哲雄。(編局)同。(整理、經濟)武塙祐吉。(地方、社會)洞城利喜。(政治、計畫)深浦宗壽。(營局)中村重惇。(總務、檢査)佐藤竹之助。(廣告)川村政綱。(販賣)熊谷左記。(會計)松本藤市郎。(東京支局)井上勝太郎。(社員)百五十三名。(工場員)五十名。(機械)東京機械折疊式輪轉機二金津式輪轉機一。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月七十五錢。(廣告料)六十錢、場所指定一圓、特別面一圓。

■十年五月安藤和風君主筆を辭し編輯局長皆川哲雄君の兼務となる。

秋田旭新聞 (休刊中)秋田市下長町二二。共同經營。十五萬圓。(社史)昭和六年五月舊秋田新聞、秋田時事新聞とを合同して創刊せるもの、發刊號數は舊秋田新聞(明治四十四年九月創刊)の夫を踏襲せり、小西傳助、加賀谷東十郎兩氏專ら經營に當る。朝刊四頁。(版數)二。(社主)栗原源藏。(理事)小西傳助、加賀谷東十郎。(機械)獨逸製輪轉機一、內國製輪轉機一。寫眞製版機一、コッピー機二、活字鑄造機、寫眞版設備あり。(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月五十錢。(廣告料)六十錢、特別面九十錢。

■十年春休刊す。

羽後新報 横手町。(電)二七。株式。(社史)明治廿一年八月八日創刊、最初横手實業新報と稱し明治卅年横手商業新報と改題次で明治四十年羽後新報と改め業務大擴張と共に株式組織となし現在に至る。朝刊四頁。(版數)一。(部數)十年十月二十日現在四千七百部。(社主代理)芳賀匡。(主筆)坂本恭藏。(編局)同。(政經)同。(社會)油谷寅太郎。(學藝)芳澤亮。(企劃)小森義雄。(產業)柿崎哲之助。(營部)芳賀隆一。(廣告)坂本郁夫。(新聞)松田賢治郎。(印刷)小田島濤。(東京支局)林省三。(大阪支局)横井九八郎。(社員)二十九名。(工場員)二十四名。(機械)平版三。(活字)五號、十二字、七十二行、十一段。一箇月六十錢。(廣告料)四十錢、特別面七十五錢。

■特輯、日曜家庭欄、羽後產業欄の外全國類例少き「鄕土の敎育」「營養と保健」に坂本主筆獨特の筆を揮ふ。

秋南新報 横手町四日町中丁。(電)一〇六。社長所有。五萬圓。(社史)大正十一年雄平新聞の名で發刊し昭和四年改題、同七年四月より日刊となる。朝刊四頁。(版數)二。(部數)十年十月一日現在四千八百部。(社主)片野重修。(社長)同。(主幹)澤田松太郎。(主筆)同。(編輯)小田島長之助。(政治)熊谷猪太郎。(營業)熊谷直治。(廣告)佐々木謙治。(東京支局)野崎作太郎。(社員)五十名。(工場員)三十九名。(機械)ロール十六頁掛二。ステロ設備あり。(活字)九ポ、十三字、七十七行、十二段。一箇月四十錢。(廣告料)五十錢雜報は一圓特別七十錢。

■町役場、商工會、公共團體等の事業を讃助後援して地方開發に努む。

北鹿新聞 大館町二六六。(電)二四三。株式。一萬圓。(社史)大正七年六月一日創刊、昭和六年七月一日より日刊。朝刊小型四頁。(部數)九年九月一日現在二千八百部。(社長)泉茂家。(主筆)小松繁次。(編輯)前小屋收二郎。(營業)工藤謙太郎。(社員)二十八名。(工場員)十五名。(機械)四六八頁一、四六十六頁二、色刷一。(活字)九ポ、十二字、六十五行、九段。一箇月三十五錢。(兼營)印刷(活版)。

北羽新報 能代港町畠町。(電)二六二、五〇。個人經營。嚴正。(社史)明治二十八年五月廿七日創刊、俳人五空島田豐三氏獨力經營三日一回、隔日刊より昭和十年九月一日日刊となる。亡五空の息島田豐三郎君經營。(附錄)四頁。(部數)十年十月一日現在五千部。(社主)島田豐三郎。(社長)同。(主筆)相澤愛水。(編輯)同。(政經)加藤紫朗。(社會)山崎武。(學藝)鈴木多太雄。(營部)佐々木卯吉。(販賣)島田韓藏。(社員)三十名。(工場員)十六名。(機械)平版二。(活字)九ポ、十二字、八十行、十三段。一箇月五十錢。(廣告料)四十錢、場所指定六十錢。

奥羽日日新聞 (休刊中)能代港町畠町一四九。創刊昭和八年二月十五日。(社長)保坂理紀藏。

山形縣

▼人口……一、二二、九〇〇
▼同市部……一八五、五〇〇
▼同郡部……九六、四〇〇
▼世帶數……三四、三八〇

山形縣は人口の割に新聞の數が多く、且つ中心地が人口七萬二千の山形市の外、四萬四千八百の米澤市、三萬六千の鶴岡市及び三萬二千の酒田市等の各地に分裂し、其上東京紙の壓迫が可成に烈しい爲め、地元新聞には甚だ不利である。併し山形市の山形新聞は全縣的に勢力あり、相當成績を擧げてゐる。尚東京各紙の販賣店間には、その競爭上種々のトラブルを生じつゝあつたが、置賜三郡方面に於ては、此頃漸

く統制の緒につき、前途好轉の曙光を見るに至つた。米澤市の販賣界は、東日、報知を主力とする羽田新聞店と、朝日、時事を主力とする三扇堂と、讀賣の專賣店とが鼎立狀態にあり、互ひに協調を努めてゐる。又米澤市及三置賜方面の各紙販賣部數につき、某專門家は十年十月次の如くに推定してゐる。卽ち東日が三千二三百で朝日が三千內外、次いで讀賣千七八百、報知千二百內外、時事八百前後、國民四百內外、更に地元紙では山形新聞七八百、日刊山形五六百の間といふのである。尙又十年一月七日讀賣發表の縣下純販賣部數は九千三百八十八であり、同紙の地方六十萬計畫の本縣割當は一萬五千である。

山形新聞

山形自由新聞社發行。山形市七日町。(電)六三、五九〇、九八四、六九六、一二五〇。株式。十萬圓。(社史)明治九年九月創刊、最初は山形新聞と題し、後に出羽新聞と改題明治三十六年に至り、現稱山形新聞に復名。朝刊四頁乃至八頁夕刊四頁。(版數)四。(地方版)莊內版、村山版、置賜版。(部數)十年十月一日現在四萬二千二百部。(社長)服部敬吉。(專務)服部敬雄。(總務)五十嵐源吉。(主筆)高橋三郎。(編局)同。(整理)柴田秀藏。(政治)結城秀直。(經濟)高山公男。(社會)岡鎭雄。(地方)設樂清一。(寫眞)原田彌三郎、(營局)村山義平。(經理)五十嵐源吉。(廣告)澁谷晋。(販賣)小川光三。(庶務)深瀨宏。(事業)今糸啓祐。(東京支局)渡部彦四郎。(大阪支局)松下兵馬。(社員)三百名。(工場員)八十名。(機械)マリノニ式輪轉機二、萬能高速度活字鑄造機一、ステロ三、寫眞製版機三。(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月八十五錢。(廣告料)一圓、場所指定一圓五十錢、特別面二圓五十錢。(兼營)山形少年團を經營。(特別事項)山形新聞讀者傷害保險、山新生業資金貸付。

■最近一年間に縣招魂社落成奉納縣下有段者武道大會、大山形まつり、縣下自動車早廻競爭、商工振興祭、縣下野球大會、最上川探行、軍事飛行大會、歲末同情週間等を催す。

■十年四月創刊六十年紙齡一萬八千號を迎ふ。

■同六月より六十週年記念事業の一つとして宗教軍事欄を特設す。

日刊山形

山形新聞社發行。山形市香澄町八幡石。(電)五六七、一〇七。株式。八萬圓。(社史)明治二十三年四月民黨の機關として創刊故高山樗牛。大橋乙羽等が始てその文藻を發表せる新聞、明治三十年山形新聞と改題三十五年山形日報と改題、大正九年現名となる、昭和六年十三段制を採用。朝刊四頁。夕刊四頁。(版數)三。(部數)九年九月一日現在二萬千三百四十五部。(社長)大石泰正。(副社長)庄司貞夫。(總務局)遠藤岩吉。(主筆)庄司貞夫。(編局)武田幸藏。(政治)同。(通信)町田健男。(整理)菅野彌一。(寫眞)柴田保重。(社會)小笠原武五郎。(文藝)結城健三。(學藝)村山俊太郎。(營局)菊地五郎治。(廣告)大石恒治。(販賣)佐久間貞藏。(工務)山口留吉。(東京支局)富永利三郎。(大阪支局)加藤安雄。(社員)九十七名。(工場員)四十三名。(機械)東京機械製印刷輪轉機二平盤一。活字鑄造機一、凸版製版器一、コッピー機二、寫眞製版器エッチシグマシン一、(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月八十五錢。(廣告料)一圓、場所指定一圓五十錢、特別面二圓五十錢。(兼營事業)山形縣經濟研究所、縣內の經濟事情、信用調査その他。

■九年十一月新聞寫眞展を催す

山形民報

山形市香澄町大寶寺山形驛前大通り。(電)三八六、七七五。個人經營。十萬圓。民政系。(社史)明治三十二年四月創刊、大正十四年十二月組織變更。朝刊四頁。(部數)十年九月廿日現在六千八百六十五部。(社主)齋藤庄之助。(社長)同。(主幹)齋藤仁。(主筆)同。(編輯)菊池健次郎。(經濟)丹野敬治。(社會)齋藤稔、(整理)澁江善吉、下山品。(營業)齋藤初。(會計)齋藤典三。(廣告)堀ノ內慶吉。(工務)渡邊吉次。(庶務)白田俊作。

(事業)田口淸作。(外交)石山榮。(東京支局)庄司芳助。(大阪支局)與田勇治郎。(社員)六十八名。(工場員)二十八名。(機械)平盤二。活字鑄造機。ステロ、寫眞版設備あり。(活字)八半、十四字、百二十行、十二段。一箇月六十錢。(廣告料)一圓、場所指定一圓五十錢、特別面二圓。

新山形

山形市香澄町。創刊大正九年十月。匿名組合。五萬圓。朝刊四頁。(社主)菅野長治。(社長)同。(主筆)菅野彦吉。(機械)平盤二。ステロ及寫眞版設備あり。(活字)七・七五、十五字、十二段。一箇月六十錢。(廣告料)五十錢。

山形旭新聞

山形市地藏町八五。個人經營。昭和五年九月十五日創刊。夕刊四頁。(社主)荻野莊爾。(社長)同。(主幹)山崎順太郎。(主筆)丹野金示。(營業)三宅新三郎。(廣告)山崎昇。(機械)平盤二。(活字)七ポ。一箇月四十錢。

兩羽朝日新聞

酒田市驛前。(電)五四七、三二八。株式。六萬圓。(社史)明治廿四年酒田商報を發行、大正十一年十月現名に改題組織其他を變更す。朝刊四頁。(版數)三。(社主)阿部鐵太郎。(社長)同。(專務)竹島勝次。(支配人)佐藤茂。(主筆)阿部鐵太郎。(編局)伊藤直次。(政治)榎本春吉。(經濟)佐藤茂造。(營局)小林萬吉。(廣告)土門禧輔。(庶務)泉谷康雄。(東京支局)村瀨留次郎。(大阪支局)松下兵馬。(社員)五十二名。(工場員)三十五名。(機械)高速度一、平盤二。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)八ポ、十四字、百三十行、十二段。一箇月七十錢。(廣告料)五十錢、場所指定一圓、特別面一圓五十錢(兼營)無盡會社の研究と案內、鶴岡朝日新聞。

■昭和十年四月社屋新築決定す

酒田新聞

酒田市上內匠町九五(電)二四四。匿名。五萬圓。(社史)創立明治二十三年五月始め酒田商業新報と題し酒田市本町二丁目に本社を置く、當時國會開設の準備に供ふるため政治新聞を專門として發刊したるも二十六年兩羽と改題、獨立紙となり二十七年十月二十二日大震災に遭遇全部を烏有に歸したるも現今の地に移轉し題を酒田新聞と改題し業務を擴張し營業、編輯部、印刷工場を建築、大會議室等をも增築す。朝刊四頁。(版數)一。(部數)十年四月一日現在千五百部。(社主)池田藤彌。(主事)中村弘。(主筆)久松宗六。(編輯)松澤泰一郎。(營業)香坂辰雄、小久保又助。(東京支局)村瀨留次郎。(社員)二十五名。(工場員)十五名。(機械)平盤二。ステロ鑄込器設備あり。(活字)八半、十四字、百二十五行、十二段。一箇月郵稅共七十八錢。(廣告料)五十錢、場所指定七十錢、特別面八十錢。(發行物)庄內案內記。

出羽與民新聞

庄內行地社發行。酒田市下台町一六。(電)五一七。愛國團體。(社史)創刊昭和七年十二廿四日、大川周明博士の率ゐた行地社の流れをくむものにして、皇道主義を目指す側面機關として創設。夕刊四頁。(地方版)秋田由利版、鶴岡版、溫海版其他。(部數)十年九月二十五日現在三千八百十六部。(社主)齋藤正義。(社長)同。(副社長)橋本俊治、木村英一。(總務)渡部暢夫。(編局)齋藤與助。(政治)渡部暢夫。(社會)岩淵武一。(經濟)齋藤順治。(法務)佐藤富太。(調査)木川市郎。(營部)渡部暢夫。(廣告)原田幸吉。(庶務)齋藤豪雄。(東京支局)石井實雄。(大連支局)大川周三。(社員)三十名。(工場員)二十二名。(機械)ロール二。ステロ、寫眞版設備あり。(活字)八ポ、十四字、七十五行、十二段。一箇月六十錢。(廣告料)一圓、場所指定二割增。

酒田新報

酒田市下中町三一。創刊大正十一年十一月廿七日。匿名出資。一萬圓。朝刊四頁。(社長)平田吉郎。(主筆)長澤虎治郎。(機械)平盤ロール、ステロあり。(活字)七半、十五字、十二段。一箇月七十錢。(廣告料)五十錢。

米澤新聞

米澤市門東町下ノ丁二九九七。(電)三七三。(社史)創刊明治四十五年五月、大正六年五月羅災、昭和二年三月前主幹素月晨平君逝く、主筆石倉君

繼ぐ。個人經營。夕刊四頁。(主幹)石倉惣吉。(理事)吉川金藏。(主筆)石倉惣吉。(東京支局)宮本甚之助。(機械)平盤二。ステロあり。(活字)九ポ、十二字、百二十七行、十三段。一箇月六十錢。(廣告料)七十錢、特別七割增。

夕刊よねざは 米澤市越後番匠町三三三八。創刊大正二年五月。個人經營。民政系。夕刊四頁。(社長)加藤富之助。(主筆)高島兵衛。(機械)平盤二、ステロあり。(活字)舊。十一字、百行、十二段。一箇月六十錢。(廣告料)五十錢。

米澤朝報 米澤市立町四三〇六(電)三七七、八三三。個人經營。創刊大正二年五月。朝刊二頁。(部數)十年九月二十二日現在二千五百部。(社主)高野清。(社長)同。(社員)七名。(工場員)七名。(機械)平盤一。(活字)舊五號、十二字、七十行、十一段。一箇月三十錢。(廣告料)十錢。

鶴岡日報 鶴岡市若葉町一。(電)五一三。六五六。株式。二萬六千百圓。民政系。(社史)大正三年十一月一日創刊、個人經營より合資會社となり、昭和三年五月廿一日株式會社となる。朝刊四頁。(部數)十年九月一日現在三千五百部。(社長)五十嵐喜一郎。(常務)佐藤仁左衛門。(支配人)齋藤菊治。(主筆)白井重士。(編局)白井重士。(政治)太田五朗。(經濟)佐藤寅之助。(社會)伊藤文七。(教育)戸塚虎雄。(營局)齋藤菊治。(會計)後藤直治。(事業)松井巖。(販賣)小野寺喜作。(廣告)松井巖。(東京支局)村瀨留治。(社員)三十一名。(工場員)十五名。(機械)平盤二、ステロあり。(活字)七半、十五字、百三十行、十二段。一箇月七十錢。

新潟縣

▼人口……一、九九九、六〇〇
▼同市部……三六三、九〇〇
▼同郡部……一、七三五、八〇〇
▼世帶數……三九九、九四〇

新潟縣は全國でも有數の大縣だが、地理的關係から新潟市(人口十三萬七千)、長岡市(人口六萬一千)、高田市(人口三萬一千)及び佐渡(人口十六萬六千)の四箇所に新聞勢力が分裂し、且つ新聞の數が多數である爲め、人口の割に圖抜けて大きな新聞はない。併し新潟市の新潟毎日新聞、新潟新聞、長岡市の北越新報等はいづれも地方新聞の雄であり、新潟毎日の政友系に對し他の二紙は民政系、何れも政黨の消長によつて勢力の動搖するが如き事はない。尙右につぐものに長岡に越佐新報、高田に高田新聞等がある。移入紙では、東朝、東日最も多く、次は時事、報知、最近では讀賣の進出目覺ましく、同紙は十年一月七日縣下の純販賣部數を二萬二千五百と發表した。又同紙地方六十萬計畫の本縣割當は三萬八千である。六年八月上越線の開通は東京紙の侵入を容易にし地元紙にとつては大なる脅威となつた。十年八月三十日より九月一日に亘り不良記者檢擧が行はれ多數引致された。佐渡には地元に五新聞あるが、唯一民政系の佐渡日報が最も部數多く、他の政友三紙は多くて一千前後と推される。

新潟新聞 新潟市西堀前通七。(電)一四八〇、三四〇、四二八、一七六九。(社史)創刊明治十年四月七日。二十四年八月故坂口仁一郎氏の個人經營となり、大正五年匿名組合、大正九年十月株式に變更、坂口氏歿後久須美東馬、平松遞那一郎氏等社長を經て昭和五年現社長就任株式。二十萬圓。民政系。朝刊四頁。正午版二頁。(夕刊)四頁。日曜朝刊六頁。(販數)朝刊三、夕刊二。(附錄)日曜附錄。(社長)山田助作。(理事長)渡邊鶴藏。(理事營業)佐藤新次郎。(主事、編輯)高橋友治郎。(編輯主事)釜田孝平。(販賣)阿部宇一。(東京支局)坂口献吉。(大阪支局)井上敏行。(社員)四十四名。(工場員)五十名。(機械)東京機械輪轉機二、四六判十六頁機械一。活字鑄造機、ステロ、寫眞製版設備あり。(活字)七ポ、十五字、百五十七行、十三段。一箇月九十錢。(廣告料)七十錢、場所指定五割增、特別面二圓。(兼營)代理部、普通印刷部。

■十年四月創刊六十週年を迎ふ

■同五月十日六十週年記念として滿洲國公使丁士源君を迎へ講演會を開く。

新潟毎日新聞 新潟市東仲通一番町。(電)五一〇、八三八、一六九一、一八四九、二一一二。(社史)明治四十三年三月十五日故山添武治氏創刊、裏日本方面に於て最初に輪轉機を用ふ。大正三年秋山添氏歿、現社長就任す。昭和六年より朝刊の外第一夕刊及び第二夕刊を出す匿名組合。二十萬圓。政友系。朝刊四頁。第一夕刊二頁。第二夕刊四頁。(販數)三。(地方版)會津欄、群馬欄、北海道欄。(社長)小柳調平。(主筆)淺海琴一。(總務)古川哲治。(編輯)神永三千三。(營部)田中正治。(廣告、東京支局)川崎新吉。(販賣)飯田益太郎。(機械)石川式輪轉機二、同折疊式二、平盤一。活字鑄造機、ステロ、寫眞製版設備あり。(活字)七ポ、十五字、十五行、十三段。一箇月九十錢。(廣告料)七十錢、場所指定五割增、特別面二圓。

■九年十一月より旬刊函館版を發刊す。

■十年六月十一日より第一夕刊を發刊(從來は午後一時半發行)と改め朝、晝、夕各四頁を發行する事とす。

新潟毎夕新聞 新潟市西堀前通七番町九二八。(電)一四〇五。株式。六萬圓。民政系。(社史)大正十五年六月創刊、昭和五年現在名新潟毎夕新聞と改題、創刊當時新潟民報。夕刊四頁。(販數)三。(部數)十年現在一萬二千部。(社長)吉川大介。(常務)澤崎重之。(編局)遠藤榮一。(社會、經濟)上村吉太郎。(整理)小田島冬生。(營業)永田浪吉。(販賣)妹尾謹爾。(廣告)小林武雄。(東京支局)堂島松太郎。(社員)三十二名。(工場員)五十三名。(機械)四頁刷輪轉機二、平版刷機械五、手刷機械三、斷截器一。活字鑄造機、ステロ、寫眞版の設備あり。(活字)七半、十四字、八十五行、十三段。一箇月五十錢。(廣告料)七十錢、場所指定一圓、特別面二圓。(兼營)週刊新潟日曜新聞を各日曜毎に發行。

■最近一年間に博覽會一回、展覽會、講演會、座談會等々開催。

新潟實業新聞 新潟市本町通十番町。創刊明治三十七年十月。個人經營。三千圓。朝刊小型八頁。(社長)水澤三代吉。(機械)平盤一。(活字)七半、七段。一箇月四十五錢。(廣告料)三十錢。

北越新報 長岡市坂ノ前二丁目。(電)六一、六六、一〇八、五三〇、一一八四。株式。二十萬圓。(社史)明治十四年越佐毎日新聞の名で刊行、二十年越佐新聞と改題、四十年四月長岡日報と合併同時に北越新報と改題四十三年七月株式に改め、廣井一氏副社長、大正二年七月久須美秀三郎氏社長となり、大正十五年一月廣井一氏社長就任、昭和九年一月一氏歿、嗣子現社長就任す。朝刊六頁。夕刊四頁。(販數)二。(社主)廣井重次。(常務)小池誠吉郎。(主筆)川上法勵。(編局)西方稻吉。(主事)林梧樓、小林昌司。(營局)常務兼務。(營業局各部長)山崎九郎二、今井德太郎、渡邊喜八、岩瀨直藏。(東京支局)小野喜一。(大阪支局)野口貫一。(社員)七十名。(工場員)百五十名。(機械)高速度輪轉機一、折疊式輪轉二、マリノニ式輪轉一。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月九十錢。(廣告料)七十錢、場所指定二圓、特別面二圓。

■昭和十年一月一日より同年六月三十日に至る第五十期決算は次の如くである。

負債の部

株金	二〇〇、〇〇〇
準備積立金	一一、三〇〇
社員身元保證金	八、四九九
契約金	三、八〇〇
借入金	四一、〇〇〇
假受金勘定	二四、二一四
仕入先借勘定	二、五一九

當座借越	一五、八五四
支拂手形	一八、八一二
合計	三二六、〇〇〇
資產の部	
未拂込株金	一三、〇一〇
家屋及土地	六七、八六三
機械及什器	一〇〇、四六一
公債及株式	四三、三五一
現品勘定	七、七三四
得意先勘定	六二、六一八
假拂金勘定	九、九五九
銀行勘定	一
振替貯金局	三二六
現金	二四四
未收入金	一、一六六
前期繰越損金	一七、九六五
當期損失金	一、二九六
合計	三二六、〇〇〇
收支計算書	
當期收入	一二三、二四〇
當期支出	一二四、五三六
差引當期損失金	一、二九六

越佐新報 長岡市荒屋敷町(電)七一四、七一六。株式。十五萬圓。社史)明治三十三年五月現社主本村清三郎氏により創刊され、最初鑛業新報と稱し後越佐新報と改題合資組織に變更更らに株式組織に變更して今日に至る。晝刊四頁。夕刊四頁。(版數)夕刊二。(地方版)上越版。(部數)十年九月一日現在二萬二千部。(社主)木村清三郎。(社長)藤井浩然。(副社長)猪爪巴。(專務)太田仁一郎、松本正三郎。(支配人)太田仁一郎。(主筆)藤井浩然。(編局)猪爪巴。(營局)太田仁一郎。(東京支局)樋口鐵六。(大阪支局)落合忠兵衛。(社員)四十五名。(工場員)百二十名。(機械)TKS式折疊式輪轉機一、津田式折疊輪轉機一、平盤六。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七・七半、十三字、百四十行、十三段。一箇月九十錢。(廣告料)七十錢、特別面一圓五十錢。(兼營)印刷、販賣事業

長岡日報 長岡市觀光院町。(電)一一〇六。創刊大正五年十一月二十八日。株式。五萬圓。政友系。夕刊四頁。(社長)村山浪治郎。(專務)川上貞一郎。(主筆)同。(編輯)石井家昌。(營部)關川善三郎。(東京支局)村瀨留次郎。(社員)二十三名。(工場員)二十一名。(機械)平盤十六頁三。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七・七五、十三字、百二十行、十三段。一箇月五十錢。(廣告料)五十錢、場所指定一圓二十錢。(兼營)印刷業。

高田新聞 高田市本町三丁目。創刊明治十六年四月。個人經營。民政系。朝刊四頁。夕刊二頁。(版數)三。(代表者)飯田茂勝。(主筆)中村武一。(編輯)伊藤豐二。(營業)瀧澤文次郎。(廣告)山川友三郎。(東京支局)井上信吉。(大阪支局)松下兵馬。(機械)內國製輪轉機一、平盤三。ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十三段。(廣告料)六十五錢。

■前主筆星野良平君退社す。

高田日報 (讀賣と合賣)高田市本町四ノ五〇、(電)五五、五〇五、六一六。個人經營。政友系。明治四十年七月創刊、夕刊四頁。(部數)九年十一月十六日現在一萬二千部。(社長)中村又七郎。(支配人)柚山治助。(主筆)柴田靖一郎。(營業)猪久久治郎。(廣告)平田健一。(販賣)栗原健吉。(東京支局)石川敏夫。(大阪支局)岩崎義一。(社員)二十六名。(工場員)三十九名。(機械)マリノニ式一。ステロあり。(活字)七半、十五字、百三十七行、十二段。一箇月一圓十錢。(廣告料)六十五錢、場所指定一圓五十錢。(兼營)代理部、學校用品及び特許品等取次。

■九年十一月前社長武田德三郎君及び主幹大井一星君退き副社長中村又七郎君社長となる。

高田毎日新聞 高田市大町二丁目。(電)六一五、三三七。個人經營。政友會系。(社史)創刊明治四十五年五月十三日、大正三年越後新聞と改題、昭和五年八月高田時事新報社と合併現名に改む。朝刊四頁。(版數)二。(社長)石田善佐。(主筆)同。(編局)神岡辰二郎。(政治)山口哲雄。(社會兼運動)庄山義雄。(經濟)岩田義光。(營部)瀧澤榮吾。(廣告)戸田正利。(東京支局)鎌岡新一。(大阪支局)江口一箕。(社員)三十二名。(機械)輪轉機一、四六十六頁平版二、菊八頁平版一、四六十六頁石版ミシン一。ステロ設備あり。(活字)七

ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月六十錢。(廣告料)六十五錢、場所指定一圓五十錢、特別面一圓三十錢。(特設)印刷石版部。

上越日報 (新愛知の地方附錄)高田市仲町六丁目。創刊大正十一年六月。朝刊二頁。(社長)大島宇吉。(主筆)伊藤竹三郎。(編輯)田中惣二郎。(營業)同。(機械)平盤二。(活字)八ポ、十五字、百二十行、十二段。一箇月五十錢。(廣告料)六十錢。(兼營)普通印刷代理部。

越後自由新聞 高田市上田端町。(社史)創刊昭和二年。七年八月より日刊となる。朝刊二頁。一箇月五十錢。(廣告料)六十錢。

越後日日新聞 柏崎日日新聞社發行。松崎町比南二〇六五。(電)一一〇。株式。二萬圓。(社史)創刊昭和三年七月十八日、昭和八年越後日日新聞と改題す。夕刊四頁。(部數)九年八月末日現在二千二百部。(社主)池田喜一。(社長)同。(支配人)芹田久儀。(主筆)井上幸次郎。(編輯)渥美浩。(營局)芹田久儀。(廣告)同。(東京支局)佐藤正吾。(社員)十二名。(工場員)十三名。(機械)平版四六二、フート一。鑄造機一、ステロ一。(活字)七半、十五字、百二十三行、十二段。一箇月六十錢。(廣告料)六十錢、場所指定二倍、特別面三倍。

柏崎日報 柏崎町本町四丁目。(電)一〇、五二六。(社史)創刊明治三十三年五月十日。元株式會社、三十七年中越新聞社長桑山直次郎君の個人經營となる、三十八年週刊中越新聞を廢刊して現名に改題、大正三年十一月二十六日前社長逝き、夫人社主となる。個人經營。朝刊四頁。(社主)桑山クニ。(社長)同。(支配人)久我政治。(主筆兼編輯)足立清。(社會)村山隆茂。(學藝)布施茂夫。(營業)支配人兼務。(廣告、販賣)五十嵐篤三郎。(社員)十一名。(工場員)二十名。(機械)平臺十六頁二。活字鑄造機、ステロの設備あり。(活字)七半、十四字、百四十五行、十三段。一箇月七十錢。(廣告料)六十錢、場所指定一圓、特別面一圓五十錢。

新發田新聞 新發田町字竹町。創刊明治四十一年一月一日。個人經營。朝刊四頁。(社長)土田亦次郎。(編輯)長谷川賢造。(營業)大沼信太郎。(廣告)高橋留吉。(販賣)和田健治。(東京大阪支局)柳澤篁治。(機械)輪轉機一、平盤其他四。ステロあり。(活字)七・七五、十四字、百三十五行、十三段。一箇月七十五錢。(廣告料)七十錢。

北新每日新聞 三條市新保。創刊大正十二年。株式。七萬五千圓。夕刊四頁。(社長)石黑美文。(主筆)西脇新一郎。(營業)渡邊除平。(廣告)太田政一。(機械)輪轉機一、平盤一。(活字)七半、十二段。一箇月五十錢。(廣告料)七十錢。

佐渡日報 佐渡郡相川町大字八百屋町。(電)五五。民政黨系。創刊大正三年八月二十五日。朝刊四頁。(版數)二。(社主)淺香寬。(社長)同。(主筆)土田光方。(編輯)同。(營業)小林佐吉。(東京支局)山崎且次。(機械)十六頁、四六版二。活字鑄造機、ステロ寫眞版設備あり。(活字)九半、十二字、百十二行、十二段。一箇月七十錢。(廣告料)七十錢、場所指定一圓五十錢、特別面二圓五十錢。

佐渡新聞 佐渡郡相川町。(電)相川一〇。創刊明治三十年九月三日。個人經營。十萬圓。朝刊四頁。(社主)森二郎。(社長)同。(副社長)森三郎。(主筆)石山四山。(編輯)森三郎。(營業)川島茂男。(東京支局)赤松彦太郎。(機械)寫眞版、平盤三。ステロ、活字鑄造機設備あり。(活字)七・七五、十五字、百四十行、十二段。一箇月七十錢。(廣告料)七十錢、場所指定一圓四十錢。

佐渡タイムス 佐渡郡兩津町夷二六〇。(電)夷九。創刊大正十四年十一月十六日。個人經營。五千圓。政友系。朝刊四頁。(版數)一。(社主)小杉忠一。(社長)同。(主幹)仲川十左衞門。(編輯)小杉忠一。(營業)川崎仁作。(社員)十三名。(工場員)七名。(機械)平盤一。ステロあり。(活字)八半、十四字、七十五行、十二段。一箇月七十錢(郵稅共)。(廣告料)七十錢、場所指定一圓、特別面一圓五十錢。(兼營)代理

部を設け佐渡郡内の物産を中央市場に紹介宣傳す。

佐渡時報 佐渡郡兩津町夷。(社史)創刊昭和五年、七年八月より日刊となる。朝刊四頁。一箇月五十錢。(廣告料)五十錢。

新佐渡 佐渡河原田町。創刊大正四年八月。個人經營。朝刊小型四頁。(社長)森守藏。(編輯)古城順平。(營業)中山泰次郎。(機械)平盤一。(活字)七半、九段。一箇月七十錢。(廣告料)五十錢。

長野縣

▼人口……一、七七七、〇〇〇
▼同市部……一、九六、一〇〇
▼同郡部……一、五七〇、九〇〇
▼世帶數……三七、四〇〇

長野縣には三十六種の日刊新聞がある(十年八月末日現在)。本縣人は一體に議論好きだと云はれる。それがこの縣の新聞國となる原因の一つでもある。併し富の分配比較的平衡を得、教育も平均して高く、人口多く産業も盛んで、農村の疲弊甚しいとは云へ新聞國たるべき種々の條件は充分具はつてゐる。新聞中心地は人口七萬九千の長野市で此處に信濃毎日新聞、長野新聞あり、全縣的に勢力を持つてゐる。殊に前者は、全國的にも有數の地方新聞の一つに數へられ販賣部數も三四萬と推定される長野市については人口七萬九千の松本市に信濃民報、信濃日報がある。但し長野の二新聞に比較すれば遙かに規模は小さい。此處はもう少し大きな新聞があつてもいゝ筈であるが、何しろ十指に餘る新聞が發行されてゐるので、特に大をなすものがない。次に上諏訪に南信新聞、信濃時事がある。人口三萬七千の上田市は東京紙と長野紙の挾擊を受けて不振。次に移入紙は東京に近い關係から關東地方についての有力な東京紙の地盤とされ、中央線に沿ふ木曾から伊那及び松本方面には名古屋の新聞も相當に入つてゐる。最も多いのは東日、東朝で讀賣、報知、時事等これにつぐ。上田市及市外十五ヶ村に對する各紙の配布部數につき、地元の某專門家は次の如くに推定してゐる。(十年九月)

讀賣	二、三〇〇
東日	二、〇〇〇
東朝	二、〇〇〇
信毎	一、八〇〇
報知	八〇〇
時事	五〇〇
長野	一〇〇

右の中讀賣、東日、時事が各專賣店で、以下は諸紙店扱ひである。專賣店では一時可成猛烈な濫賣を行つた。又十年一月七日發表讀賣の縣下純販賣部數は二萬一千七百十七で、同紙地方六十萬計畫の割當は三萬八千である。

信濃毎日新聞 長野市南縣町六五七。(電)一二〇、二四〇、二九三、三七七。株式。三十萬圓。(社史)明治六年七月創刊、個人經營、明治二十三年五月株式會社となる。朝刊八頁。夕刊四頁。(版數)夕刊二、朝刊三。(地方版)北信版、南信版、上越版、(社主)小坂武雄。(常務)同。(編局)三澤精英。(營局)新井寛三。(販賣)宮本邦正。(印刷)大日方利雄。(廣告)新井寛三。(東京支局)西澤圭。(社員)六十三名。(工場員)百三十名。(機械)内國製高速度輪轉機一、同マリノニ式三。萬能鑄造機二、活字鑄造機三、ステロ、寫眞版完備。(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月九十錢。(廣告料)一圓、特別面二圓五十錢。(兼營)出版及印刷業。

■最近出版物に象山全集全五卷長谷川昭道全集二卷其他あり。

■十年五月懸賞當選「信濃ばやし」の指導會を開催す。

■同五月十一日新通信社創立準備委員會に參加す。

■十年一月より六月に至る八十八期營業報告は次の如くである

損益計算書

總益金	一九三、六七三
總損金	一八九、六二二
差引純益金	四、〇五〇
前期繰越金	一、三一二
計	五、三六三
内	
準備積立金	四五〇
配當金(年四步)	三、〇〇〇

給與基金	五〇〇
後期繰越金	一、四一三
貸借對照表	
貸方	
資本金	三〇〇、〇〇〇
準備積立金	五一、〇〇〇
別段積立金	二六、〇〇〇
給與基金	一六、七一六
職工扶助基金	六、〇〇〇
他店勘定	九、七六六
振出手形	八、三二〇
借入金	一七九、九〇〇
前期繰越金	一、三一二
當期純益金	四、〇五〇
計	六〇三、〇六六
借方	
未拂込資本金	一五〇、〇〇〇
公債證書	四、二九七
會社株式	五三、八五〇
受負保證金	二、八一一
特別預金	二、〇四二
當座預金	一八、一三四
振替貯金	一、二七四
假拂勘定	三、九八〇
特別貸金	一、九五一
受取手形勘定	一五、二〇〇
振替貯金基本金	二〇
松本支局勘定	二、二六〇
所有物	三四一、三一一
料紙在高	三、九〇四
雜品在高	一三五
金銀在高	一、八九四
計	六〇三、〇六六

長野新聞 長野市旭町乙一。(電)二五、五二五、一〇九五。(社史)創刊明治三十二年四月三日、社長山本愼平君創刊以來編輯長又は主筆として筆政を宰す株式。六萬三千圓。朝刊四頁。夕刊四頁。(版數)二。(社長)山本愼平。(專務)青柳正。(編輯長)百瀬波村。(編主事)酒井敬重。(政治)岩崎憲。(營業)小平博。(販賣)青木常雪。(廣告)廣田寛一。(東京支局)山田不二夫。(大阪支局)松林喜八郎。(社員)四十九名。(工場員)五十四名。(機械)マリノニ式輪轉機二。寫眞製版機二、凸版一、ユッピー二、鉛版鑄造機三、鉛版仕上機三。(活字)七半、十四字、百四十五行、十三段。一箇月八十錢。(廣告料)四十五錢、場所指定特別面九十錢、雜報欄一圓三十錢、赤刷一圓八十錢。

■十年春在京三十萬縣人への報道機關として特輯附錄「東京版」を發行す。

信濃日日新聞 長野市綠町四五。(電)三七、八三八。株式。三萬圓。(社史)明治十八年創立、始め長野日日新聞と稱し信越新聞と合併、大正六年十一月二日信濃日日新聞と改題今日に至る。朝刊四頁。(社長)小笠原幸彦。(副社長)羽生田源三。(主筆)小笠原幸彦。(編部)石崎仁重。(營部)本道昌平。(東京支局)佐藤四一郎。(大阪支局)井上環。(社員)五十餘名。(工場員)三十名。(機械)金津式輪轉機一。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七。五、十五字、百四十行、十二段。一箇月六十錢。(廣告料)四十五錢、特別面九十錢。

信濃民報 松本市大字筑摩一九五。(電)二五、一〇九四。株式。十二萬圓。(社史)明治三十二年八月株式會社として創立四十五年五月前社長故三澤啓一郎氏の個人經營となり、大正十年再び株式會社となる、昭和四年十一月前社長物故後を繼ぐ。朝刊四頁。(社長)三澤眞澄。(副社長)瀧澤知足。(支配人)藤澤千里。(主筆)小松秀一。(編局)小澤利一郎。(編輯主任)山崎公夫。(社會)仙石榮。(文藝)深澤彌太郎。(營局)藤澤千里。(營局次長)上原元英。(外交)北原義雄。(東京支局)岩立慶三郎。(社員)五十二名。(工場員)十八名。(機械)輪轉機一。外印刷機械二。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)八ポ、十五字、百三十行、十二段。一箇月八十錢。(廣告料)五十錢、場所指定十錢增、特別面一圓。

信濃日報 松本市大名町七四。(電)六六、六〇六。(社史)創刊明治五年十月信飛新聞として、後松本新聞、信府日報、信陽日報等を經て現名に。個人經營。五萬圓。民政黨。夕刊四頁。(部數)八年九月一日現在四千五百部。(社主)降旗德彌。(社長)百瀬渡。(副社長)降旗德彌。(總務)渡邊義源次。(編局)降旗德彌。(編輯)山田奇作。(政治)本間章。(社會)小松悅雄。(產業)濱野登來雄。(廣告)上條惣藏。

（販賣）小林連次郎。（東京支局）小穴增人。（社員）六十名。（工場員）二十三名。（機械）内國製輪轉機一、四六平版三、モノタイプ一、ステロ、寫眞版設備あり。（活字）八ポ、十五字、百三十行、十二段。一箇月七十錢。（廣告料）五十錢、特別面倍額。

信濃中央新聞 松本市地藏清水八。（電）一三九〇。創刊大正十一年九月。個人經營。夕刊四頁。（社主）松下善一郎。（社長）同。（主幹）西澤乙也。（編輯）鉾田古秋。（營業）三澤匡三。（廣告）野村律藏。（社員）二十八名。（工場員）八名。（機械）平盤三、ステロ、カスチングあり。（活字）九ポ、十四字、百行、十一段。一箇月六十錢。（廣告料）五十錢、場所指定倍額。（兼營）臨時印刷部。

松本毎日新聞 松本市下馬出町一八九。（電）一二九六。個人經營。一萬圓。創刊大正九年十二月二十八日。夕刊四頁。（社主）濱公章。（社長）同。（主筆）石川清人。（編輯）石川葉村。（營業）佐藤壽一。（廣告）北原健至。（販賣）深井信水。（社員）二十五名。（工場員）八名。（機械）四六ロール二、菊四一。（活字）八半、十四字、十段。一箇月七十錢。（廣告料）八十錢、場所指定一圓五十錢、特別面一圓八十錢。（兼營）臨時印刷部。

■毎年縣下青年野球大會を催す

信濃新報 松本市櫻町四七一。（電）一〇六五。個人經營。二萬圓。創刊明治四十三年十二月七日。夕刊二頁。（部數）十年九月廿日現在三千二百五十部。（社長）大島卓爾。（副社長）大島辰男。（支配人）百瀨清。（主幹）大島卓爾。（主筆）大島辰男。（編部）鹽原秋水。（營部）北村筑山。（販賣兼廣告）豐原章。（會計）大島卓夫。（社員）十六名。（工場員）三名。（機械）四六八頁掛二。（活字）九ポ、十四字、七十五行、九段。一ケ月五十錢。（廣告料）五十錢、特別面一圓。

■創刊廿五周年記念號及花柳粹妓傳發行。

■昭和十一年四月信州物産紹介展覽會開催の計畫あり。

中信日報 松本市宮淵町。（電）一三三八。一萬圓。（社史）昭和八年二月一日創刊。夕刊二頁。（地方版）安曇版、東筑版。（社主）神戸精一。（社長）關忠英。（副社長）神戸誠。（支配人）百瀨初右衛門。（主幹）百瀨三郎。（主筆）神戸誠。（編輯）小松政敏。（營業）百瀨初右衛門。（社員）十八名。（工場員）八名。（機械）全四六版機全菊判機二。（活字）十四字、六十行、九段。一箇月五十錢。（廣告料）一圓、特別面一圓五十錢。（兼營）各種印刷物關案等引受。

夕刊商工新聞 商工通信社發行。松本市大名町七二。（電）六九七。創刊大正三年八月三日。個人經營。夕刊小型四頁。（版數）二。（社主）平野茂雄。（社長）同。（營業）金井忍。（工場員）十二名。（機械）平版二。（活字）九ポ、十四字、六十行、八段。一箇月五十錢。（廣告料）五十錢、場所指定一圓、特別面倍額。

松本新聞 松本市下横田町一四〇〇。（電）一六〇五。個人經營。大正八年十月一日創刊。夕刊二頁。四六半截。（社主）小原輝美。（社長）中村源一。（主筆）松本香織。（營業）丸山森次。（社員）七名。（工場員）四名。（機械）平盤四六半截二。（活字）九ポ、十四字、七十二行、十一段。一箇月五十錢。（廣告料）普通三十錢、場所指定倍額。

■煙火競技大會（毎年舊暦七月二十二日夜）、地方民謡大會（毎年）開催。

信州報知新聞 松本市。創刊大正十三年八月十日。個人經營。朝刊小型四頁。（社長）丸山榮次。（機械）平盤一。（活字）舊、六段。一箇月五十錢。（廣告料）五十錢。

新信濃 新愛知松本支局發行。松本市東町一丁目一〇四。（電）六五六。創刊明治四十年一月、新愛知新聞經營。朝刊四頁。（版數）二。（社主）大島宇吉。（社長）同。（機械）輪轉一。（活字）七ポ。一箇月九十錢。（廣告料）五十錢。場所指定一圓、特別面一圓二十錢。

松本日日新聞 松本市筑摩。創刊昭和六年十月一日。夕刊二頁。（社長）原乙一。

深志 松本市下横田町。創刊昭

和三年六月十八日。夕刊四頁。（社長）上條今朝一。

北信毎日新聞 上田市新參町五五六二。（電）一〇、九三〇。株式。二萬五千圓。（社史）明治三十六年三月創刊上田日報。日刊明治三十九年十一月、再次改題、二十年來直接販賣主義を取る。夕刊四頁。（社長）武市如意（支配人）同。（主幹）同。（主筆）長谷部賢。（編輯）同。（營業）武市如意。（東京支局）青山晴一。（大阪支局）譽田勇次郎。（社員）四十名。（工場員）二十五名。（機械）輪轉機一、平版十六頁機一。ステロ機の設備あり。（活字）七半、十五字、百四十五行、十二段。一箇月六十錢。（廣告料）六十錢、場所指定一圓二十錢以上、特別面三圓以上。（兼營）印刷。

■直接販賣直接配達主義を實行す。

上田毎日新聞 上田市海野町（電）四九〇。個人經營。一萬二千五百圓。（社史）大正十五年九月十五日創刊、頭初民政黨小山代議士等關係を有し後現社長永井敬茂の個人經營となる。夕刊四頁。（部數）十年九月二十三日現在二千五百部。（社主）永井政茂。（社長）同。（主筆）同。（編輯）永井大貳。（營業）矢幡新。（社員）三十八名。（工場員）十七名。（機械）平版十六面一、四六八一、菊四一、ミノ判一。ステロ設備あり。（活字）九ポ、十三字、六十七行、十段。一箇月四十錢。（廣告料）五錢、特別面倍額。（兼營）印刷部。

■運動競技、美術展、同情週間、觀光地の紹介等をなす。

信濃タイムス 上田市大字上田五六九二。（電）八七五。創刊大正十年二月十一日。個人經營。夕刊四頁。（社長）橋本榮太郎。（主筆）水掛友太郎。（編輯）宮島乃木次。（東京支局）宇都宮白清。（機械）平盤二、活字鑄造機一、ステロ機一。（活字）八ポ、十四字、八十行、十二段。一箇月五十錢。（廣告料）四十錢、場所指定二割增、特別面八十錢。

南信新聞 飯田町七一三。（電）一二九、五五一。株式。五萬圓。政友會。（社史）明治三十四年十二月創刊、社長の交代四名、大正九年半截輪轉機を据付け今日に至る。夕刊四頁。（專務）林雅次。（支配人）前島貫一。（主筆）池田愛泥。（編輯）小林孤燈。（政治）牛山其月。（社會）奥村梨叛。（營業）支配人兼務。（廣告）前島琢三。（販賣）白岡仲治。（東京支局）山田不二夫。（大阪支局）岩崎義一。（社員）四十名。（工場員）十一名。（機械）本田式半截輪轉機一。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。（活字）七ポ、十五字、百五十行、十三段。一箇月六十錢。（廣告料）五十錢、場所指定三十錢增、特別面一圓。

信濃時事新聞 飯田町甲六三〇。（電）二七〇、五四七。株式。五萬圓。民政黨。（社史）大正四年八月一日創刊。夕刊四頁。（版數）一。（部數）十年十月一日現在五千部。（社主）遠山方景。（社長）同。（支配人）山下惠市郎。（主筆）久保田威男。（部長）坂下白夜、小瀨水源右衛門。橋場骰鐵。（營業）山下惠市郎。（部長）松村金男。三井順一。（東京支局）松下天水。（大阪支局）菅沼天龍。（社員）五十一名。（工場員）五十五名。（機械）輪轉機一。（活字）七ポ、十五字、八十五行、十三段。一箇月六十錢。（廣告料）五十錢、場所指定三倍、特別面一圓五十錢。

信濃大衆新聞 飯田町。（電）八〇七。株式。三萬圓。（社史）大正十五年二月二十日創刊、政黨機關新聞の弊に鑑み地方青壯年階級が蹶起し嚴正中立を標榜社組織は創立當時より變らず。夕刊四頁。（版數）一。（部數）昭和十年九月廿二日現在五千六百部。（專務）山田阿水。（主筆）同。（編部）林武雄。（營局）山田阿水。（廣告）内山金一。（販賣）阪井茂。（東京支局）馬場幸治郎。（社員）三十五名。（工場員）十八名。（機械）八頁掛輪轉機、ステロあり。（活字）七・七五、十五字、八十五行、十二段。一箇月六十錢。（廣告料）五錢、特別面十錢。

飯田新聞（名古屋新聞の經營）飯田町。創刊大正七年十月二日夕刊二頁。（編輯）鈴木耕作。（機械）平盤一。（活字）舊、十二段。

南信日日新聞 上諏訪市

(電)上諏訪二一、三七一、六〇九、二八八二。株式。八萬圓(拂込濟)。(社史)明治卅四年十二月五日創刊、始め南信評論と題し週刊、卅八年九月、南信日日新聞と題し日刊とす、大正十年八月株式會社となる。夕刊四乃至八頁。(版數)二。(地方版)伊那版、(專務)三澤慶十。(常務)高橋巳喜之助。(支配人)野澤光雄。(主筆)御子柴高志。(編部)近藤篁村。(政治)御子柴高志。(營部)野澤光雄。(廣告)三澤卓三郎。(東京支局)宮澤濱治郎。(大阪支局)浦戸一雄。(社員)五十名。(工場員)三十二名。(機械)マリノニ式輪轉機一、活字鑄造機、ステロ、寫眞版完備。(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月五十錢。(廣告料)五十錢、場所指定十錢增し、特別面一圓。(兼營)代理部、單行本發行。

信陽新聞 諏訪町。(電)三二五創刊明治四十年十二月一日。夕刊小型四頁。(社主)小口貫一。(社長)同。(編輯)竹ノ内省三。(營業)山口信太郎。(機械)輪轉。(活字)十四字、八十行、十段。一ヶ月五十錢。

湖龍日報 共存會本部發行。上諏訪町。(電)三四二。個人經營。(社史)大正十五年八月十五日創刊、但し前身竹松自由新聞大正十一年月刊。夕刊二頁。(部數)十年九月廿二日現在千八百部。(社主)竹松仙吉。(社長)同。(東京支局)藤澤阜堂。(社員)十五名。(工場員)六名。(機械)一、(活字)七半、十三字、八十三行、十三段。一箇月五十錢。(廣告料)五十錢、特別面八十錢。

湖國新報 下諏訪町。(電)下諏訪三三六。個人經營。二萬圓。(社史)大正十四年創刊(大正十二年六月湖國新報なる雜誌を發行したるも同年日刊に變更せるものなり)夕刊小型四頁。(社主)河西耕二。(社長)同。(主筆)島立廣次。(營業)伊佐治賢三。(東京支局)藤森照男。(社員)三十八名。(工場員)十名。(機械)平版一。(活字)八・五、十三字、八十行、九段。一箇月七十錢。(廣告料)六十錢、特別面一圓二十錢。(兼營)石版、及普通印刷。

中央蠶糸 中央蠶糸新聞社發行。諏訪郡平野村五〇〇七。(電)一四七。創刊明治四十二年四月二十二日。個人經營。夕刊小型四頁。(社長)伊藤妻五郎。(編輯)山田義衛。(社員)三十名。(工場員)七名。(機械)平版一。(活字)八・五、十三字、五十三行、九段。一箇月一圓。(廣告料)五十錢、特別面一圓。(兼營)書籍・日米商會自轉車代理部。

信濃新聞 諏訪郡平野村三。(電)四七六。創刊大正十四年八月三日。夕刊小型四頁。(版數)一。(社主)太田孝作。(社長)同。(副社長)平林芳勝。(主筆)同。(營業)竹村正治。(社員)十六名。(工場員)七名。(機械)菊八倍一。(活字)九ポ、十二字、五十行、九段。一箇月七十錢。(廣告料)八十錢、特別面倍額。

岡谷每日新聞 諏訪郡平野村岡谷。創刊昭和四年八月。夕刊四頁。(社長)赤羽信。

伊那日報 伊那町。(電)一七二。株式合資。六萬圓。政友系。創刊明治四十五年四月。夕刊四頁。(版數)一。(部數)九年十一月十六日現在三千九百五十部。(社長)鹽原述。(編部)中島光一郎。(營業)鹽原述。(營業主任)村田芳穗。(東京支局)宮本甚之介。(社員)十八名。(工場員)十名。(機械)ロール式平版二、ステロあり。(活字)八半、十四字、七十三行、十二段。一箇月六十錢。(廣告料)一圓、場所指定三倍、特別面同上。(兼營)日の本新聞雜誌無料公開所。

伊那每日新聞 伊那町。(電)長四三〇。合名會社。創刊昭和三年九月十五日。朝刊四頁。(版數)一。(社長)保田將一。(東京支局)吉瀨才市郎。(社員)三十名。(工場員)十六名。(機械)二、活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七・七半、十五字、八十五行、十二段。一箇月六十錢。

南信每日新聞 伊那町。創刊大正三年十一月一日。共同出資。朝刊四頁。(社長)野溝準治。(機械)平盤一。(活字)七・七五、十二段。一箇月五十錢。(廣告料)五十錢。

信濃民友新聞 伊那町古町。(電)三五五。創刊大正十五年九

月二日。匿名組合。一萬五千圓。夕刊小型四頁。(社主)野溝勝。(社長)同。(社員)十六名。(工場員)十五名。(機械)四六判二、寫眞版一。(活字)十五字、六十行、九段。(廣告料)五十錢、場所指定一圓、特別面各種倍額。

高原日日新聞 上伊那郡赤穗村。(電)一六七。合資。二萬五千圓。(社史)創刊大正十年五月十日、昭和九年四月合資會社に變更。夕刊四頁。(社長)木下織太郎。(編輯)唐澤文一。(營業)小林一龜。(廣告)原義衞。(社員)十六名。(工場員)九名。(機械)平盤二。(活字)五號、十二字、六十三行、九段。一箇月五十錢。(廣告料)一圓、場所指定十錢增、特別面一圓五十錢。

中信每日新聞 岩村田町(電)一五一、一五二、一一一。個人經營。十萬圓。(社史)明治四十一年九月一日創刊、大正十四年六月迄隔日發行、同十四年七月新社屋落成と同時に日刊となし今日に至る。夕刊四頁。(版數)二。(附錄)月表(年二回)。(部數)十年九月廿日現在九千四百部。(社主)中澤今朝雄。(社長)中澤菊太郎。(副社長)中澤今朝雄。(專務)同。(支配人)小島忠夫。(編局)加藤紀平。(社會)中山丑人。(文藝)布利幡兼雄。(經濟)寺尾今太。(營部)中澤榮助。(販賣)小島忠夫。(廣告)島崎正春。(東京支局)山田壽惠吉。(社員)三十六名。(工場員)三八名。(機械)マリノニー式輪轉機二、オフセット印刷機並石版印刷機各一、活版機一。鑄造機一、ステロ二、寫眞版一。(活字)七・五、十五字、百四十四行、十二段。一箇月六十錢。(廣告料)五十錢、特別面一圓。(兼營)臨時部を置き一般印刷物の註文に應ず。

信越新聞 大町。創刊大正十四年二月十一日。個人經營。夕刊小型一頁。(社長)山岸理一。(機械)平盤一。(活字)舊、三段。一箇月三十錢。(廣告料)三十錢。

北安日日新聞 大町。創刊昭和三年一月二十八日。夕刊四頁。(社長)鹽入茂。

(五) 東海

愛知、山梨、靜岡、岐阜、三重の五縣を包含する東海地方は、靜岡縣の西部を分水嶺として東は東京紙、西は大阪紙の勢力圏内に屬し、その大阪紙の勢力圏内には、中部日本の新聞中心地として東京大阪につぐ名古屋市があり、此處に、新愛知及び名古屋新聞の二大紙が發行されてゐる。此の二紙は單に地元の愛知縣のみならず、岐阜、靜岡、三重の一部から、更に遠くは和歌山、滋賀、奈良、長野、福井、石川、富山にまで及び、我國地方新聞中の第一流を以て推され、その設備、紙幅、內容等、東京大阪の大新聞に比較して殆んど遜色がない。處が、十年春、北九州に進出して新らしく地方制覇の途についた大朝、大每は、その第二次計畫として、同年十一月より愈々名古屋で夕刊を發行し大擴張を行ふ事となつたので、其の結果中部日本一帶に亘る新聞界の動搖は免かれ難く、靜岡縣等に於ては既にその顯著なるものがあるが、何れにしても、大朝、大每對、新愛知、名古屋新聞の持久戰に入るべく、勝敗の數は容易に逆睹し難いものがある。次に、新愛知、名古屋新聞に較べれば大分規模は違ふが、地方紙として地元に勢力を振ふものに、津市に伊勢新聞、靜岡市に靜岡民友、靜岡新報、岐阜市に岐阜日日新聞、甲府市に山梨日日新聞等あり、それ〴〵固い地盤を有してゐる。

愛知縣

▼人口……二、七六四、四〇〇
▼同市部……一、三三三、五〇〇
▼同郡部……一、四三〇、九〇〇
▼世帶數……五五二、八八〇

愛知縣は全國屈指の大縣である上に、人口百萬の名古屋市、十五萬四千の豐橋市、七萬の岡崎市等を包含し中部日本の沃野を背景とするので、新聞の發達は當然と稱すべく、此處に新愛知、名古屋新聞二紙が發達した。而して前者は政友系に屬し、後者に比ぶれば市部よりも縣外に勢力を張り、昭和八年五月からは

東京に國民新聞を兼營するに至つた。これに對して名古屋新聞は民政系で市内に充實した讀者層を有し、活氣ある經營振りに見るべきものがある。例へば九年度の廣告統計を見るに、名古屋は四百二十六萬四千行で、全國地方紙中第二位を占め、新愛知は四百五萬行で第四位にある而して兩紙の販賣部數は、合せて三十萬と云はれ或は四十萬と云はれる。かくして兩紙はお互に猛競爭を續け、同時に共同の敵として大阪紙に對抗し、最近では名古屋市内及び縣外一部に於ては寧ろ大阪紙を壓迫しつゝあるとさへ見られるに至つたが十年十一月、大朝大毎が愈々此處に夕刊を發行して地元ニュースの詳報と商況その他の速報を以つて戰ふ事となつたので、兩紙も之れに對して大に防禦陣を張らねばならぬ事となつた。而して名古屋市内の販賣系統は、新愛知は新進社により名古屋新聞は共同販賣店により共に强固な販賣網を形成し、又購讀料も現狀では名古屋兩紙が朝夕刊十四頁で八十五錢であるのに對して、大阪兩紙は一圓であるが、愈々となれば大阪方はその强大な資本力を極度に發揮せしめ、安價濫賣を以て挑戰すべきは明らかであるから、名古屋方の苦戰察すべきである。尚此處では東京新聞は殆んど勢力がなく、又前掲の二紙が格段の發展をとげた爲めに、名古屋市内の名古屋毎日新聞、愛知新聞二紙を擧ぐべきの外豐橋、岡崎等にも幾多の新聞はあるが大をなすものがない。次に地方狀況の一例として岡崎市に就いて述べれば、民政系の三河日報は十年三月廢刊し、現在新三河と岡崎朝報の二紙があり、兩紙で市内に約三千、西三河及各地にも數千の部數を持つと云はれる。又市内の移入紙につき、十年九月或る方面の推定は次の如くである。

新愛知	四、五〇〇
名古屋新聞	三、二〇〇
大阪朝日	二、二〇〇
大阪毎日	一、六〇〇
報知新聞	六〇〇
讀賣新聞	四八〇
東京朝日	一〇〇
時事新報	一〇〇

新愛知

新愛知新聞社發行。名古屋市西區御幸本町通二丁目二四。(電)本局一〇、一一、一二、一三、一四、一五、一六、二九。合資會社。百五十萬圓。(社史)明治二十一年七月五日創刊、二十二年本社を現在の地に移し廿九年合資會社となし、昭和二年現在の鐵筋コンクリート四層樓の建築なり超高速度輪轉機の据付千五百人收容の大講堂等諸設備の完成なる。八年五月より國民新聞の經營に當る。朝刊十頁。夕刊四頁。(版數)朝刊七版、夕刊三版。(附錄)市内附錄、尾張附錄、三河附錄、飛彈附錄、滋賀附錄。(地方の發行紙)岐阜日報、夕刊京都、東濃新聞、三重日報、大和旭新聞、新信濃、新福井日報、北國日報、富山タイムス、上越日報、駿遠日報、駿河新聞。(社長)大島宇吉。(支配人、理事)大島一郎。(主幹、理事)田中齊。(編局)同。(編局次長)佐藤至善。(論說)篤田健二。(整理)藤澤茂三郎。(社會)佐藤信子代。(學藝)古田昂生。(通信)岡本計吉。(速記)福田秀雄。(校正)乙部勇男。(商況)加藤秋。(寫眞)林銀之助。(營局、理事)岡田伊三郎。(販賣)小原實。(廣告)岡田伊三郎。(會計)伊藤敏男。(東京支社)水野幸吉。(關西支局)山崎兼次郎。(機械)超高速度輪轉機六、外に十五萬機二臺發註十年末完成豫定、東京機械式五、池貝式一。活字鑄造機、ステロ、寫眞版完備。(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月八十五錢。(廣告料)普通一圓五十錢、場所指定十錢增、特別面二圓。

■十年五月十一日新通信社創立準備委員會に參加す。

■同五月十二日支配人大島慶次郎君逝く、年享六十四。

■同五月大島慶次郎君の後任として國民總務局長大島一郎君支配人となる。同時に新愛知總務大島一衞君國民總務局長となる

■同五月二十日より二十七日まで名古屋松坂屋に「大捷三十年記念大展」を開き、二十六、七兩日廣告艦隊を催す。

名古屋新聞

名古屋市中區西川端町一丁目五。(電)代表中二一五一。株式合資。百五萬圓。(社史)明治三十九年十一月三日小山松壽氏元「中京新報」を改題す。當時名古屋諸新聞は何れも桃色ざら紙なりしを本紙は白色に革め本市に於て輪轉機印刷の先鞭をつけ率先ポイント活字を使用す。朝刊十頁。夕刊四頁。(版數)八版。(地方版)石川、富山、福井、東濃毎日、岐阜、三重、(A、B)靜岡(A、B)三河、尾張、市内、京都、滋賀。(無限責任社員重役會長)小山松壽。(無限責任社員社長)與良松三郎(總務理事兼廣告)森一兵。(主筆)小林橋川。(編部)三田澪人。(販賣)梅田茂。(經理)小山龍三。(工務)山本周二。(東京支社)大宮伍三郎。(大阪支局)工藤愷夫。(社員)二百五十名。(工場員)三百名。(機械)名古屋新聞式超高速度輪轉機七、字母設備整備、活字鑄造機五、活字自動鑄造機八、寫眞製版機二、凸版製版機一、モノタイプ二、乾燥紙型機二、鉛版鑄込機三、鉛版仕上機二、ルーチングマシン一、鉛版平削機一。(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月八十五錢(夕刊配達區域九十錢)(廣告料)一圓五十錢、特別面二圓。

■九年十月十日より十一月末日まで第三師團滿洲出征記念博覽會を主催す。

■同十二月主筆小林橋川君の「橋川文集」發行さる。

■十年一月法人組織の名古屋新聞社會事業團を組織し從來の各社會事業をこれに統一す。

■同一月十六日より地方版を二十三版に擴大す。

■同四月社債六十九萬圓公募を發表す、内三十四萬圓は現社債の低利借替、三十五萬圓は高速機三臺、社屋增築、外發展資金に充つる筈、應募額一〇〇萬圓を突破して業界を駭かす。

■同四月濱田機械製作所に對し十五萬機三臺を發註す。

名古屋毎日新聞

名古屋市中區新榮町三丁目。(電)中三二五〇、三二五一、三二五二。創刊明治八年八月。株式。十七萬圓。夕刊四頁。(版數)三。(社長)野村浩司。(支配人)坂野鎌次郎。(主筆)興津吉文。(編輯長)小塚儒三。(經濟)松田昇一。(政治)小池秀夫。(商況)柴田專之助。(學藝、整理)平井虎夫。(社會)尾關健八。(廣告)(兼)坂野鎌次郎。(販賣兼事業)高橋藤男。(地方販賣)渡邊義郎。(東京支局)武田喜久郎。(大阪支局)遠藤信一。(社員)四十一名。(工場員)四十二名。(機械)マリノニ式輪轉機一、TKS輪轉機一、藤木式輪轉折出機二、平盤十六頁一、活字鑄造機三、寫眞製版機二、凸版製版機二、コツピー機二、鉛版鑄込機二、仕上機一。(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月四十錢。(廣告料)一圓、場所指定一割增、特別面二圓五十錢。

■十年四月十八日前主筆武市雄圓君逝く、享年六十。

愛知新聞

名古屋市中區小林町十八。(電)中七〇、七一、七二、七三。(社史)明治三十二年三月内藤魯一氏創刊、東海日日新聞を經て大正四年十月現社長の個人經營となり現名に改題夕刊を發行し東海地方最初の夕刊紙となる。個人經營。二十萬圓。夕刊四頁。(社長)續木籌三郎。(主筆)横田淙次郎。(編局)同。(編部、兼經濟)早川友吉。(社會)中野史郎。(政治)山田政郎。(演藝)丹羽信。(運動)藤田隆道。(營部)續木篤次郎。(販賣)小杉市造。(廣告)山本雅信。(會計)岡田常三郎。(企畫)石黑雪雄。(外交)淺井信次郎。(製版)稻垣乙吉。(印刷)鵜飼孝藏。(東京支局)村瀨留次郎。(社員)二十三名。(工場員)三十二名。(機械)平盤四、輪轉機一、活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七ポ、十五字、百五十三行、十三段。一箇月四十五錢。(廣告料)八十錢、場所指定二圓、特別面一圓十錢。

名古屋日報

名古屋市中區西瓦町十三。(電)代表中局三〇二三。個人經營。一萬圓。(社史)創刊大正二年九月二日。朝刊四頁。(版數)二版。(地方版)三河版、岐阜版。(部數)昭和九年九月十五日現在六千八百部。(社主)

稻垣一朗。(社長)同。(副社長)青山英雄。(支配人)同。(主幹)山田圓次郎。(主筆)水野目出夫。(政治經濟)青山英雄。(社會)下洞玉峰。(學藝)森田焦葉。(工業)高野一臣。(營局長)社長兼務。(廣告、事業)本多彌一郎。(東京支局)古川文次郎。(社員)五十二名。(工場員)四十八名。(機械)平盤二、活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備有り。(活字)七半、十四字、百三十行、十三段。一箇月五十錢。(廣告料)八十錢、場所指定三割增、特別面一圓四十錢。

名古屋日日新聞 名古屋市東區石町三ノ一五。創刊大正四年六月十五日。個人經營。夕刊四頁。(社長)小田莊二。(主筆)同。(編輯)平山辰雄。(營部)梅村喜六。(販賣)淺川與三郎。東京支局)山崎眞吉。(大阪支局)藤井信二郎。(機械)輪轉機一、平盤一。(活字)七・七五、十四字、百四十行、十三段。一箇月五十錢。(廣告料)一圓。(兼營)愛知通信。

名古屋夕刊新聞 名古屋市中區南新町三ノ一。(電)中局三三四三。個人經營。(社史)創刊大正十五年九月九日、大正四年八月廿七日創立の關西廻新聞の改題朝刊四頁。(社主)春日井豐。(社長)同。(主幹)桐生悠々。(主筆)鈴木楯夫。(編輯)近藤郁夫。(政治經濟)高澤乙彦。(營業)山下榮三。(廣告)山下三葉。(東京支局)石鼎保。(機械)平版三、ステロ設備あり。(活字)七ポ、十五字、百四十五行、十三段。一箇月五十錢。(廣告料)一圓、場所指定一圓五十錢、特別面一圓八十錢。

昭和每夕新聞 名古屋市南區入舟町四丁目二。(電)南五五〇三。個人經營。一萬圓。(社史)大正十五年六月二日創刊、昭和五年四月二十日改題、昭和六年五月九日名古屋港の船舶出入統計機關紙港灣日報を合併し一切を繼承す。夕刊四頁。(販數)時事版、港灣ニュース版。(附錄)年鑑大名古屋港要覽。(部數)九年十月二十四日現在二千六百二十八部。(社主)坂章司。(社長)同。(社員)二十名。(工場員)十一名。(機械)平盤式二。活字)七・五、十五字、八十行、十二段。一箇月一圓。(廣告料)五十錢、場所指定一割增、特別面三割增。

中京每夕新聞 名古屋市中區南伊勢町二丁目六。(電)中局二一〇、二一一。個人。一萬圓。(社史)大正四年十二月創立、名古屋の經濟機關として『實業の名古屋』と稱し旬刊、翌五年三月より日刊に改め更に大正六年六月より別に朝刊を發行當市に朝夕刊發行の記錄を作る、昭和八年朝刊を中止す。夕刊小型四頁。(販數)一。(社主)川村金雄。(社長)同。(主筆)山田善衛。(營業)伊東瀧治郎。(社員)十名。(工場員)二十五名。(機械)平盤六。(活字)七半、十五字、八十行、八段。一箇月四十錢。(廣告料)六十錢、特別面一圓。

名古屋綿絲布日報 名古屋市中區中ノ町三丁目三三。(電)本局五〇四。個人經營。一萬圓。(社史)大正十一年九月の創刊、名古屋綿糸布取引所の機關紙。夕刊四頁。(部數)十年九月二十日現在三千部。(社主)山内長幹。(社長)同。(支配人)山内次郎。(編部)早川鮎之助。(營部)山田賢市。(社員)六名。(工場員)十二名。(機械)四頁一、六頁一。(活字)五號、十二字、五十五行、八段。一箇月五十錢。(廣告料)三十錢、特別面五十錢。(兼營)一般印刷物。

名古屋米濱日報 名古屋商況合名會社發行。名古屋市中區米濱町三。創刊明治四十二年七月一日。合名。五千圓。朝刊小型四頁。(社長)北島鑑七。(主筆)井上梅次郎。(營業)社本久三郎。(機械)平盤二。(活字)九ポ、十四字、七十五行、八段。一箇月五十錢。(廣告料)五十錢。(兼營)活版印刷。

名古屋民報 名古屋市西區堀內町一ノ一一。創刊昭和二年十一月十一日。朝刊四頁。(社長)吉井鐵男。(編輯)淺野耕造。(營業)荒川銈。(廣告)芝田捨夫。(機械)平盤一。(活字)七・二五、十三段。一箇月四十錢。(廣告料)一圓。

名古屋經濟新聞 名古屋古市中區住吉町一ノ十一。創刊大正九年十二月十八日。個人經營。五千圓。夕刊小型四頁。(社長)後

藤新十郎。(主筆)長谷川儀雄。(編輯)村上庄太郎。(機械)平盤七。(活字)六段。一箇月五十錢。(廣告料)二十錢。

名古屋新報 (帝國新聞の改題ノ)名古屋市東區大津町四ノ二一。創刊昭和七年三月三日。個人經營。朝刊二頁。(社長)手塚干之助。(主筆)奥村秀男。(機械)平盤二。十二段。一箇月三十錢。(廣告料)一圓。

中京日日新聞 名古屋市西區園井町一ノ一〇。創刊昭和九年一月十八日。(社長)山口晋一。(主筆)吉田巳之助。

東海朝日新聞 豐橋市中八町一一六。(電)三三〇九、三五〇一。個人經營。創刊大正十一年十一月廿三日。夕刊四頁。(社主)岡田實。(社長)同。(東京支局)稻垣四方雄。(大阪支局)加藤安雄。(機械)平盤三。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)八ポ、十四字、百三十五行、十二段。一箇月五十五錢。

豐橋新報 豐橋市中八町一〇八。(電)三三一七。株式。五萬圓。(社史)大正十年十一月十五日創立同年十二月廿日第一號を創刊し大口喜六を社長に近藤鹿堂を主筆として爾來今日に及ぶ朝刊四頁。(部數)十年八月末日現在七千部。(專務)松尾幸次郎。(常務)山本滿平。(支配人)黑柳鐵也。(主筆)近藤鹿堂。(編輯)近藤梨郎。(營業)宮阪一峯。(東京支局)宮本甚之助。(社員)十五名。(工場員)八名。(機械)平版一。(活字)七半、十五字、七十行、十二段。一箇月五十錢。(廣告料)六十錢、特別面一圓二十錢

新朝報 豐橋市中八町一四八。(電)二〇〇六。創刊明治三十三年十一月三日。個人經營。五萬圓。朝刊四頁。(社長)鈴木三重郎。(支配人)山本新三郎。(主筆)山口光圓。(廣告)岩瀨糸平。(販賣)河合陸郎。(東京支局)太田卯藤治。(社員)十一名。(工場員)十五名。(機械)十六頁平盤二、活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七半、十五字、百四十三行、十二段。一箇月五十錢(廣告料)五十錢、特別面倍額。

參陽新報 豐橋市西八町三八。創刊明治三十二年二月十一日。株式。六萬圓。朝刊四頁。(社長)高橋小十郎。(機械)平盤二。ステロあり。(活字)七・七五、十五字、百三十八行、十二段。一箇月五十錢。(廣告料)七十錢。

豐橋日日新聞 豐橋市松葉町二五五。創刊大正六年二月十六日。社員共同經營。五萬圓。朝刊小型四頁。(社長)中村幸四郎。(編輯)倉光庫次郎。(營業)石積保雄。(機械)平盤一。(活字)九ポ、八段。一箇月三十錢。(廣告料)七十錢。

あさひ新聞 豐橋市東田町西前山。(電)四一五二。個人經營。二萬圓。創刊昭和三年九月一日。朝刊二頁。(社主)神藤虎吉。(社長)同。(主幹)井澤欣三郎。(主筆)神藤虎吉。(營業)富田柏堂。(社員)十三名。(工場員)九名。(機械)平版四六八頁一。ステロ設備あり、鑄造機一。(活字)八ポ、十三字、百十五行、十三段。一箇月三十錢。(廣告料)五十錢、場所指定一圓。(兼營)新聞印刷。

豐橋大衆新聞 豐橋市花田角田一一。(電)五四四四。創刊昭和四年十二月十三日。個人經營。五千圓。朝刊小型四頁。(社主)河合源三郎。(社長)高橋信吉。(副社長)高橋勝治。(營業)林道治。(社員)十二名。(工場員)四名。(機械)四六廿延二。(活字)舊、十二字、四十五行、八段。一箇月三十錢。(廣告料)五十錢、特別面一圓。

豐橋商業新報 豐橋市花田町石塚四〇。創刊大正三年八月一日。個人經營。五千圓。夕刊小型四頁。(社長)三輪拾四次。(機械)平盤一。(活字)四段。一箇月四十錢。(廣告料)二十錢。

日刊東海時事 豐橋市談合町三〇。創刊大正六年二月十六日。個人經營。三千圓。朝刊二頁。(社長)中西謙三。(營業)田中豐一。(廣告)横川庄三郎。(活字)九ポ、十段。一箇月三十錢。(廣告料)五十錢。

豐橋每日新聞 豐橋市花田町狹間六二。創刊大正十三年三月十八日。個人經營。一萬一千圓。朝刊二頁。(社長)近藤松右衛門。(活字)八ポ、十段。一箇月三十錢。(廣告料)五十錢。

新三河 新三河新聞社發行。兩

崎市康生町七五三ノ一。(電)六七六。個人經營。三萬圓。(社史)明治廿八年六月一日創立、昭和四年現地に洋館新築、九年新春一萬號記念祝賀會を行ひ地方の節婦忠僕を表彰す。朝刊四頁。(版數)一。(部數)昭和十年九月一日現在六千八百部。(社主)小田庄三郎。(社長)同。(主筆)同。(編部)鈴木金一。(硬派)鈴木勝。(軟派)成瀬勝助。(營部)藤田錢松。(廣告)杉山吉弘。(販賣)鈴木德爲。(庶務)近藤喜一。(東京支局)宮本甚之助。(社員)十二名。(工場員)十五名。(機械)平盤三。ステロあり。(活字)七•七半、十五字、百三十五行、十二段。一箇月五十五錢。(廣告料)七十錢、場所指定二割增、特別面一圓五十錢。

岡崎朝報 岡崎市康生町六九九。(電)二〇五。個人經營。(社史)明治三十四年六月十一日創刊、以來個人經營にして大正三年より現社長繼承す。朝刊四頁。(附錄)日曜特別附錄。(社長)竹內京治。(編部)井上儀三郎。(經濟)榊原金之助。(政治)左右田義一。(社會)郡築亨。(營部)清水彦一。(廣告)上田裕太郎。(販賣)大原正男。(東京支局)柳澤篁治。(社員)十二名。(工場員)十四名。(機械)平盤二。活字鑄造機、ステロ、寫眞版あり。(活字)七•七五、十五字、百四十行、十二段。一箇月五十五錢。

中部毎日新聞 (岡崎毎日新聞の改題)。岡崎市西康生町三五三個人經營。(社史)昭和四年三創刊、同六年七月岡崎日日新聞の題名下に桝田米作經營を現社長後繼、七年八月岡崎毎日新聞と改題、八年十二月西魚町より康生町に本社を移し、九年二月中部毎日新聞と改題。朝刊二頁。(部數)昭和十年九月廿四日現在八百三十部。(社屯)木俣榮治。(社長)同。(主筆)木村二郎。(營業)柘植忠太郎。(社員)七名。(工場員)三名。(機械)ロール八頁一。(活字)舊、十二字、四十二行、八段。一箇月二十五錢。(廣告料)七十錢、特別面一圓五十錢。

中部日日新聞 一宮市公園通二ノ八。(電)代表一一二三。個人經營。三萬圓。(社史)昭和元年創立、昭 毎 と稱して二頁合資組織、四年八月十三日愛知民衆新聞と改題、五年三月十八日現名に改題四頁發行。夕刊四頁。(版數)三。(部數)十年八月三十日現在五千八百部。(社主)伊藤宗祐。(社長)同。(主幹)鈴木金太郎。(主筆)辻口則。(編輯)淺井春光。(營業)山下彰記。(社員)二十五名。(工場員)十八名。(機械)四。ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七•五、十四字、九十二行、十三段。一箇月四十錢。(廣告料)二十五錢、場所指定三十五錢、特別面五十錢。

尾州新聞 一宮市下浦町一八。創刊大正十一年四月二十五日。個人經營。四千五百圓。夕刊二頁。(社長)中村義雄。(營業)中村元。(機械)平盤四。(活字)九ポ、十四字、百行、十二段。一箇月四十錢。(廣告料)八十錢。

東海商工新聞 一宮市字下川底三七。創刊大正十三年三月八日。個人經營。夕刊二頁。(社主)古賀末松。(社長)同。(機械)四六版八頁一。(活字)九ポ、十三字、七十五行、十二段。一箇月二十五錢。

知多新聞 合資會社郁文舍發行。半田町字北條一。(電)半田七三。合資會社。四萬圓。(社史)明治三十一年十一月七日創刊、紙齡一萬一千號を突破し日曜祝祭日の外は休刊せることなし。夕刊小型四頁。(版數)一。(附錄)新年號に休日表等を附す。(部數)十年九月一日現在三千部。(社主)日比恪。(社長)同。(主幹)稻田裕。(營部)中川三郎。(廣告)澤田廣次。(社員)五名。(工場員)二十四名。(機械)平盤二。(活字)五號、十二字、六十四行、八段。一箇月二十五錢。(廣告料)三十錢、特別面六十錢。

■旅行圖體を募集す。

半田新聞 半田町西勘助内二一創刊明治三十一年十一月七日。合資。二萬圓。朝刊小型四頁。(社長)山田佐一。(主筆)寺田幸吉。(營業)佐々木重義。(機械)平盤一。(活字)八段。一箇月二十五錢。(廣告料)二十錢。

尾三新聞 西尾町天王四三。創刊大正五年六月五日。株式。二萬圓。朝刊小型二頁。(社長)青

山愛次郎。(主筆)前田長八。(營部)鈴村利一。(機械)平盤一。(活字)舊、八段。一箇月二十五錢。(廣告料)七十錢。

民衆時事 西尾町矢場七四。創刊大正五年六月五日。個人經營。朝刊小型二頁。(社長)浦野仙吉。(主筆)米津圓袋。(編輯)手島榮。(機械)平盤一。(活字)八段。一箇月三十錢。(廣告料)五十錢。

大瀨戸 大瀨戸新聞社發行。瀨戸市大字瀨戸三九三。(電)二七〇三。個人經營。一萬五千圓。(社史)昭和三年四月一日創刊月三回、四年三月一日月六回に變更、五年三月一日月十回に變更六年四月一日日刊に變更今日に至る。朝刊小型二頁。(版數)一。(部數)昭和十年九月廿二日現在三千二百部。(社主)安藤政二郎。(社長)同。(主幹)高島喜代春。(社員)六名。(工場員)三名。(機械)平版八頁一。(活字)九ポ、十四字、四十五行、八段。一箇月二十錢。(廣告料)五十錢、場所指定五割增。

瀨戸新聞 瀨戸市佐久間町二二四七。個人經營。創刊昭和四年八月二十一日。朝刊小型二頁。(社長)佐久間義之。(活字)八ポ一箇月十錢。

尾西タイムス 津島町。(電)八一。個人經營。二千五百圓。創刊大正九年七月。夕刊一頁。(部數)九年九月二十三日現在千五百部。(社主)津谷安太郎。(社長)同。(社員)三名。(工場員)五名。(機械)ロール。(活字)十二字。一箇月二十五錢。(兼營)活版印刷。

三河報知 一色町一色支新田一。創刊昭和八年七月二十一日個人經營。一千圓。朝刊二頁。(社長)杉山丈一。(營部)濟邊順一。十二段。一箇月三十錢。

山梨縣

▼人口……六五、二〇〇
▼同市部……八八、三〇〇
▼同郡部……五六、九〇〇
▼世帶數……一三、一〇四〇

山梨縣は東京紙の勢力範圍に屬し、縣も小さいので地元紙の大をなすものがない。併し中心地は人口八萬八千の甲府市に限定され、此處に發行される四五の新聞の中、山梨日日の如きは相當の成績を擧げてゐる。移入紙では東日、東朝が斷然多く、報知、時事、讀賣、國民これにつぐ。十年一月七日發表讀賣の縣下純販賣部數は四千八百六十で同紙地方六十萬計畫の本縣割當は一萬である。

山梨日日新聞 山梨新聞株式會社發行。甲府市百石町二八八。(電)代表四八三一、四八三二、四八三三。株式。十二萬圓。(社史)明治五年七月峽中新聞として創刊。後甲府新聞、甲府日日新聞を經て今日に至る、初めは峽中會社内藤傳右衞門氏の名によつて發行され、明治十一年前社長野口英夫氏の入社を見、現社長はその息である、昭和十一年四月二萬號を迎ふ。朝刊四頁。(版數)一。(附錄)不定期各種。(部數)十年九月十五日現在三萬二千部。(社長)野口二郎。(主筆)中田敏雄。(編局)同。(整理)小泉義幸。(政治)同。(社會)佐藤森三。(聯絡)八巻榮一。(學藝)寺田重雄。(運動)鈴木光陽。(寫眞)篠原茂。(營局)清水富士平。(廣告)同。(販賣)武田重藏。(工務)笠井金二郎。(映畫)中村今千代。(印刷局)刑部輔也。(東京支局)林省三。(社員)四十名。(工場員)九十名。(機械)内國製石川式輪轉機一、内國製TOA折疊式輪轉機一。平盤印刷機五。活字鑄造機二、ステロ、機二、凸版製版機一、コッピー機二、寫眞製版機一、(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月五十五錢。(廣告料)一圓、場所指定二割增、特別面二圓。(兼營)一般印刷業。

■九年十一月建坪百八十坪、延坪二百三十五坪の新社屋成。

■同十一月甲府ゑびす講音頭を公募。

■同十一月ミス山梨當選者授賞式及び山梨カメラ競寫會授賞式を行ふ。

■十年一月元旦非常時元旦祈願祭を行ふ。

■同三月十四日日露役出征勇士慰安會を催す。

■同九月二十四日甲州菊衞祭見物圖體募集。

■其他スポーツ各種大會等主催

山梨毎日新聞 甲府市紅梅町二一。(電)五七三、一二二二、六一〇。創刊明治四十一年四月。合資會社。朝刊四頁。(社長)保坂政治郎。(主筆)山岸活洲。(編輯)深澤明久。(營業)矢澤清治。(廣告)篠原宗平。(東京支局)内田十郎。(大阪支局)遠藤信一。(機械)内國製輪轉機一。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七半、十四字、百四十四行、十三段。一箇月五十五錢。(廣告料)一圓。

山梨民報 甲府市錦町一二。(電)一六六。創刊明治二十七年二月十一日。個人經營。朝刊四頁。(社主)原準太郎。(社長)同。(副社長)鮎川克巳。(編輯)椚堯一。(營業)赤池弘毅。(廣告)赤野總一郎。(庶務)窪田巖。(東京支局)三枝嶺三郎。(大阪支局)西池末彦。(社員)二十三名。(工場員)十九名。(機械)石川式色刷輪轉機一。ステロ、寫眞版あり。(活字)七半、十四字、百四十六行、十三段。一箇月五十五錢。(廣告料)一圓、特別面二圓。

峽中日報 甲府市錦町一八。(電)二二七一、二四八八。創刊明治廿一年二月十五日。株式。五萬圓。朝刊四頁。(版數)一。(社長)石原德榮。(營局)保坂隆等。(廣告)同。(販賣)河西淡水。(東京支局)古川文二郎。(社員)三十七名。(工場員)七十五名。(機械)輪轉機一、平盤一。ステロ、寫眞版あり。(活字)七半、十四字、百四十行、十三段。一箇月五十五錢。(廣告料)七十錢、場所指定一圓、特別面二圓。

山梨民友新聞 甲府市櫻町一ノ二。(電)八九〇、一一八九。創刊大正八年二月十一日。個人經營。十萬圓。朝刊四頁。(社主)上野亮一。(社長)小泉義親。(編輯)三浦正之。(營業)末木辰雄。(廣告)小田切幸太郎。(東京支局)中田清。(大阪支局)加藤安雄。(機械)輪轉機一、平盤一。ステロあり。(活字)七半、十五字、百四十六行、十二段。一箇月五十五錢。(廣告料)七十錢、特別面二圓。

甲州時報 甲府市深町二五七。(電)三一三三。合名會社。二萬圓、創刊昭和三年十二月廿五日。朝刊四頁。(附錄)日曜二頁。(地方版)亘摩版。(社長)若尾鐵太郎。(編輯)三井直義。(營部)若屋鐵次郎。(東京支局)山崎且次。(大阪支局)田村晉松。(社員)二十六名。(工場員)二十名。(機械)マリノニー輪轉機二。ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七ポ、十五字、百五十行、十三段。一箇月五十五錢。(廣告料)五十錢、場所指定一圓、特別面二圓。

都留時報 南都留郡瑞穗村下吉田。(電)吉田六六。株式。一萬圓。昭和六年一月一日創刊。朝刊二頁。(版數)一。(部數)九年二十日現在千五百部。(社長)稻葉正夫。(主筆)同。(社員)十七名。(工場員)五名。(機械)平盤。(活字)九ポ、十三字、六十行、十一段。一箇月四十錢。(廣告料)三十錢、場所指定二割增。

靜岡縣

▼人口……一、八九八、四〇〇
▼同市部……四四、六〇〇
▼同郡部……一、四三、八〇〇
▼世帶數……三九、六八〇

靜岡縣は東京、大阪兩勢力の分岐點で一部には名古屋の新聞も入つてゐる。併し有數の大縣である上に、人口十八萬九千の靜岡市をはじめ、濱松(人口十二萬三千)清水(人口六萬三千)沼津(人口四萬八千)の諸市を包含し富力もあり、交通も便利なところから地元新聞にも靜岡新報靜岡民友の二紙が發達した。けれども滿洲事變以來何處も同じく東朝、東日の侵入愈々急となり、又十年十一月からは大朝、大毎の名古屋進出があるので、直接間接、地元紙に對する移入紙の壓力は愈々强大となるばかりである。東京各紙は、從來は二版制に成る靜岡版を發行してゐたが、大阪兩紙の名古屋進出に備へて、十年十月から、東朝、東日、讀賣、報知、時事相ついで遠州版を獨立せしめ、靜岡、遠州兩版を設ける事となつた。同時に販賣系統は、從來は東朝を主として靜岡新報、中外商業を扱ふ江河系、東日を主として讀賣を擁する江崎系、それに時事

名古屋を持つ榎田系の對立であつたが、讀賣の擡頭と大阪兩紙名古屋進出の影響から、讀賣は江崎に對して二度制を餘儀なくせしめる情勢を馴致し、今や動搖免かれぬ狀態にある。讀賣は十年一月七日縣下の純販賣部數を三萬五千二百五十七と發表し、地方六十萬計畫では四萬五千と割當てゝゐる。次に沼津市を中心とする東部に於ては、丹那トンネルの開通と共に愈々東京紙の壓迫急となり、沼津毎日あたりの外地元紙の經營難言語に絶すると云はれる。

靜岡民友新聞 靜岡市七間町。(電)二五、三五五、八三四。株式。五萬圓。(社史)創刊明治六年、明治廿三年十月二十日現名に改稱、昭和二年四月より現經營者に移る。朝刊四頁。夕刊四頁。(版數)一。(附錄)隨時。(部數)十年九月廿四日現在二萬三千六百八十八部。(社長)大石光之助。(編部)前田泳次郎。(通信)三浦宅次郎。(營部)國武忍。(東京支局)本間隆。(大阪支局)須田達雄。(社員)八十八名。(工場員)六十五名。(機械)マリノニ式輪轉二。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月八十五錢。(廣告料)八十錢、場所指定料二十錢、特別面一圓六十錢。

■靜岡驛前の本社敷地に新社屋建築と輪轉機の增設が昭和十一年の事業。

靜岡新報 靜岡市吳服町三丁目一。(電)三五六、二三、一五一三。株式。十八萬圓。政友系。(社史)明治二十五年の創刊、東海公論を繼承して二十八年一月現稱に改題、三十三年合資組織となり昭和二年八月株式合資會社に六年四月株式會社に變更す、八年陣容を更新して現社長專務等就任。朝刊四頁。夕刊四頁。(附錄)こども新聞。(社長)山口忠五郎。(專務)大橋亦兵衞。(編輯)山口晴盈。(庶務)岡友丞。(廣告)出島督司。(東京支局)井上忠太郎。(大阪支局)松下兵馬。(機械)外國製マリノニー式輪轉機一、内國製折疊式輪轉機一。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月八十五錢。(廣告料)八十錢、特別面一圓。(社史)大正十二年新愛知の經營により靜岡縣下における同紙の附錄紙として同支局で發行朝刊二頁。夕刊二頁。(版數)二。(地方版)伊豆版、(社長)大島宇吉。(編輯)玉崎宇三郎。(營業)江崎銀兵衞。(社員)十六名。(工場員)二十五名。(機械)ロール三。ステロ設備あり。(活字)七ポ、十五字、百五十行、十三段。一箇月新愛知と併賣八十五錢。(廣告料)八十錢、特別面、一圓二十錢。(兼營)國民新聞支局兼營。

駿河新聞 (新愛知の經營)靜岡市寶町九。(電)五〇五、一九三九。(社史)大正十二年新愛知の經營により靜岡縣下における同紙の附錄紙として同支局で發行朝刊二頁。夕刊二頁。(版數)二。(地方版)伊豆版、(社長)大島宇吉。(編輯)玉崎宇三郎。(營業)江崎銀兵衞。(社員)十六名。(工場員)二十五名。(機械)ロール三。ステロ設備あり。(活字)七ポ、十五字、百五十行、十三段。一箇月新愛知と併賣八十五錢。(廣告料)八十錢、特別面、一圓二十錢。(兼營)國民新聞支局兼營。

■非常時犬の展覽會、全國ポスター展、縣下自轉車競走大會等を催す。

■十年十月活字新鑄。

濱松新聞 濱松市田町二七二。(電)一五二九。(社史)明治三十一年一月濱松商業新報として創刊、同三十四年改稱す個人經營。夕刊四頁(社長)天辰正吉。(編輯)小島春水。(理事、會計)辻實。(同庶務)加藤秀松。(同事業)村松嘉文。(同廣告)佐藤建之。(同販賣)榊原太市。(大阪支局)永田格太郎。(社員)二十名。(工場員)十五名。(機械)内國製輪轉機一、平盤二。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七ポ、十五字、十三段。一箇月五十錢。(廣告料)五十錢、特別面八十錢。

駿遠日日新聞 濱松市元城町四六。(電)二六二六、二八四四、三一二二。匿名合資。(社史)大正四年一月元旦創立。靜岡日報と稱し國民新聞の附屬たりしも獨立して西遠新聞、龍虎變新聞遠州日日新聞等を合併して昭和二年四月駿遠日日新聞と改題。夕刊四頁。(常務理事主席)松浦鑑吉郎。(同次席)中村重吉。(政治)内野浪聲。(社會)江崎眞六。(營業)平川庸。(廣告)鈴木儀一。(販賣)市川密三。(東京支局)平山長左久。(大阪支局)西谷清雄。(社員)三十名。(工場員)十五名。(機械)平盤十六頁二。(活字)七ポ、十五字、百二十行、十三段。

一箇月五十錢。(廣告料)公稱一圓、裁判所契約三十錢。

共立新報 濱松市東伊場町。創刊大正十五年一月一日。個人經營。二萬圓。夕刊四頁。(社主)白井天城。(社長)同。(編輯)大角貞次。(營業)鈴木靜浪。(廣告)太田進。(機械)平盤二、ステロ一。(活字)舊、十一字、六十五行、十二段。一箇月五十錢。(廣告料)一圓。(兼營)普通印刷物及雜誌。

駿遠日報 (新愛知の合寶紙)濱松市千歳町。創刊明治四十四年。朝刊二頁。(社長)小川惠見。(編輯)名倉吉平。(營業)小池傳策。(廣告)稻田綱次。(機械)輪轉機一、平盤二。(活字)七・七五、十二段。一箇月八十錢。(新愛知と合賣)。(廣告料)五十錢。

沼津毎日新聞 沼津市大手町一五二。(電)四六四、三九八。個人經營。五萬圓。創刊大正十五年五月。夕刊四頁。(版數)一。(附錄)經濟特報、遊覽時代。(社主)高木惠太郎。(社長)同。(副社長)大川忠克。(支配人)同。(主幹)樋口貫治。(主筆)同。(政治)池田春行。(社會)遠藤祐司。(營業)大川忠克。(部長)間瀬甫、松井幸吉、遠藤憲明。(東京支局)岩滿太平。(大阪支局)松尾與一。(社員)四十名。(工場員)十五名。(機械)四頁大マリノニー輪轉機一。ステロあり。(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月六十錢。(廣告料)八十錢、場所指定一圓六十錢、特別面同。

東靜日日新聞 沼津市末廣町(電)一一三五、一二七五。個人經營。五萬圓。(社史)昭和二年九月二十三日創立、九年十月社屋新築移轉。夕刊四頁。(社主)井上彰。(社長)同。(副社長)井上章久。(東京支局)赤澤昊。(大阪支局)岡本太郎。(機械)平盤四、六十六頁四、菊八一、菊四二。ステロ、鶯眞版あり。(活字)七ポ、十五字、百三十五行、十三段。一箇月六十錢。(廣告料)八十錢、場所指定一圓六十錢。(兼營)諸印刷事業。

駿豆新報 沼津市白銀町二九〇。(電)四九四。個人經營。二萬圓。創刊大正四年八月十五日。夕刊四頁。(社主)瀧口雄一。(社長)瀧口天民。(支配人)勝名久夫。(主幹)田代清人。(主筆)同、(營業)田代隆太郎。(東京支局)瀧口天民。(大阪支局)岡本太郎。(社員)二十七名。(工場員)十五名。(機械)十六二、菊八一。活字鑄造機、ステロ一。(活字)八ポ、九十行、十三段、一箇月五十錢。(廣告料)八十錢、場所指定一圓二十錢。(發行物)四季伊豆案内、沼津案内。

沼津新聞 沼津市。創刊昭和十年小型。

■東靜日日を脱退せる人々により創刊さる。

東海日日新聞 沼津市。

清水日日新聞 清水市辻町。(電)七一九。合資會社。一萬圓。(社史)大正十二年一月五日創刊清水貿易新報と稱し昭和二年八月清水日日新聞と改稱、同年十一月社屋落成し今日に至る。夕刊四頁。(版數)三。(地方版)靜岡日日新聞、燒津日日新報を兼營。(部數)十年九月一日現在八千九百部。(社長)若林今朝一。(副社長)渡邊宗一郎。(支配人)牧野茂。(主幹)至伏一。(編部)芦川政春。(政治)室伏一。(社會)芦川政春。(經濟)和田映岳。(運動)常川金七。(營業)高木清。(廣告)大江爲人。(販賣)稻葉源太郎。(大阪支局)永田格太郎。(社員)十二名。(工場員)十一名。(機械)四六二十四頁一、四六十六頁一。ステロあり。(活字)七ポ、十五字、百五十行、十三段。一箇月六十錢。(廣告料)八十錢、場所指定一圓、特別面一圓二十錢。(兼營)代理部各商品販賣。

■活字入替了す。社屋新築の計畫あり。

駿遠タイムス 燒津市燒津八八二ノ二ノ二。匿名組合。三萬圓。(社史)大正十二年六月十五日創刊。菊半截旬刊、次いで週刊、隔々刊、日刊、再び隔々刊と變更、昭和五年より四六四截日刊。朝刊小型四頁。(版數)一。(附錄)隨時刊行。(部數)十年九月二十三日現在三千二百四十部(社長)高宮義一。(編輯)青島鉞吉。(市内販賣)松田復一郎。(社員)十四名。(工場員)六名。(機械)平盤二。(活字)五號、十二字

五十行、八段。一ケ月四十錢。(廣告料)六十錢、場所指定一圓特別面一圓五十錢。

伊豆日報 三島町。創刊昭和二年二月。個人經營。二萬圓。夕刊二頁。(社長)和田庄五郎。(主筆)植松喬。(編輯)同。(營業)秋津宇一郎。(機械)平盤二。(活字)九ポ、十二段。一箇月四十錢。(廣告料)八十錢。

東豆新報 伊東町松原。創刊大正十二年五月二十日。個人經營。朝刊四頁。(持主)宮下つたえ。(活字)七半、十五字。一箇月四十錢。

伊豆報知新聞 伊豆下田町。(電)三七三。個人經營。五千圓。昭和五年一月一日の創刊。夕刊小型四頁。(社主)小林康人。(社長)同。(主筆)錦織壽郎。(東京支局)齋藤憲治。(大阪支局)喜多芳夫。(社員)五名。(工場員)五名。(活字)七ポ、十五字、六十行、九段。一箇月五十錢。(廣告料)五十錢、場所指定八十錢、特別面一圓。

岐阜縣

▼人口……一、三二四、八〇〇
▼同市部……一五七、五〇〇
▼同郡部……一、〇五七、三〇〇
▼世帶數……三四二、九六〇

岐阜縣は大阪と名古屋の挾擊を受け、地元の新聞は頗る不利、守勢の位置を脱する事が出來ない。例へば、大朝、大毎の夕刊(正午頃締切)と、新愛知、名古屋の夕刊(午後四時頃締切)は何れも午後六時頃岐阜市内に配達される。これに對して岐阜の新聞の夕刊は四時だから二時間早い譯であるが、中央政界の記事では到底名古屋二紙に對抗出來ない。然るに十年十一月からは大朝、大毎が名古屋で夕刊を印刷するのだから形勢益々非である。朝刊は大阪紙は午後九時頃締切のもの、名古屋紙は午後十二時頃締切のものが配達されるこれに對しては地種主義で行くより外はない。地種では流石に移入紙の地方版よりかも紙面が大であるから負ける事はない。現在では大毎、大朝は岐阜版として一頁づゝ入れ、名古屋新聞は岐阜縣版として二頁ものを挾み、新愛知は岐阜日報二頁を折込んでゐる。地元新聞では人口十一萬六千の岐阜市を根據とする岐阜日日が古くから固い地盤を有し全縣的に勢力を張り、同地の岐阜新聞は之につぐ。而して各紙の推定部數は、岐阜日日を一萬二三千とすれば岐阜新聞は一萬内外、つゞいて岐阜民友二千乃至二千五百、美濃大正千五百乃至二千、飛驒毎日千二三百。移入紙では新愛知が筆頭で之れを先づ六千見當とすれば大毎四千五百、大朝四千、名古屋新聞は三千五百といふ處、但しこれ等の數字はいづれもそのまゝ信ずべきではない。東京紙は讀賣、時事、報知などが入つてゐるが大したものではない。

岐阜日日新聞 岐阜市今小町二二。(電)編輯代表二八、營業代表四五九。個人經營。(社史)明治十四年四月創刊、同三十四年十月濃飛の大震災に遭ひ工場半壞等の大被害を蒙つたが先社長高橋漱一郎氏萬難を排して小ビラ新聞を發行終に縣下唯一の朝夕刊紙となる。朝刊四頁。夕刊四頁。(版數)二。(地方版)東濃、西濃、中濃、飛驒の各版。(社主)高橋嘉津美。(社長)同。(專務理事)青木九十六。(主筆)小木曾旭晃。(編局理事)宮脇朝民。(編部)小木曾旭晃。(運記)宮部二郎。(政治)淺野久藏。(社會)丸山宮榮。(經濟)交吉英司。(遊軍)小森大三。(營局兼廣告)關應陽。(外勤)馬場繁次郎。(内勤)青木大治。(販賣)大橋曾登三郎。(東京支局)佐藤駒太郎。(大阪支局)渡岡照久。(社員)三十八名。(工場員)五十二名。(機械)内國製津田式折疊輪轉機二、平盤二、色刷輪轉附屬機二。活字鑄造機二、寫眞製版機一、凸版製版機一、コツピー機二、鉛版鑄込機二、鉛版仕上機二。(活字)七・七五、十四字、百四十一行、十三段。一箇月六十五錢。(廣告料)一圓、場所指定三十錢增、特別面一圓五十錢。

■最近一年に縣下諸流生花大會廣瀨中佐遺品展覽會、飛驒物産即賣名勝寫眞展覽會、鵜飼まつり、縣下民謠盆踊大會等本社主催後援にかゝる催物五十有餘。

岐阜新聞 岐阜市朝日町三（電）一三二、一九六〇、九七五、二五五五、一四八二、專用一。個人經營。（社史）明治二十一年創刊、大正十三年淸社長入社、同十四年濃飛日報を現名に改題昭和十年社屋を新築。夕刊四頁。（版數）二。（附錄）東濃、西濃、南濃、北濃各附錄家庭新聞。（部數）十年九月廿三日現在三萬三千部（社長）淸寛。（副社長）西尾孝一。（編局）木下章。（政治）高橋義正。（社會）白木薫。（經濟）安藤正榮（文藝）川出善之助。（營局）西尾孝一。各部長（廣告）武藤啓二郎（販賣）倉井唯一。（事業）小畑宇三郎。（東京支局）平野三郎。（大阪支局）松尾與一。（社員）三十二名、（工場員）四十三名。（機械）內地製折疊輪轉一、マリノニー輪轉一、平盤二。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。（活字）七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月四十錢。（廣告料）一圓、特別面一圓五十錢。

■最近一年間に明治大帝御遺德讚御博覽會、全國煙火競技大會社屋新築、柳ヶ瀨祭、兒童航空思想普及作品展覽會其他をなす■實費診療所、代理部新設其他の計畫あり。

岐阜民友新聞 岐阜市泉町。（電）一八三四、二四四四。個人經營。二萬圓。創刊大正十五年一月一日。夕刊四頁。（版數）二（社主）菅井宏耳。（社長）同。（主筆）渡邊晴彥。（編輯）藤戸汀月。（營部）川島一二。（東京支局）田中道行。（大阪支局）堀口三郎。（社員）十八名。（工場員）二十六名。（機械）半截輪轉機械一、平盤十六頁掛二。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。（活字）七ポ、十四字、九十行、十三段。一箇月四十錢。（廣告料）一圓二十錢、場所指定一圓五十錢、特別面一圓九十錢。（兼營）一般印刷。

岐阜每日新聞 岐阜市朝日町七。（電）一八八四。（社史）大正十二年四頁夕刊大岐阜と稱して發刊、昭和五年岐阜每日と改題夕刊四頁。（社主）小寺休助。（社長）田原秀穩。（主筆）同。（編輯）田村繁夫。（機械）平臺。（活字）舊、五號、十一字、六十行、十二段。一箇月五十錢。

岐阜每夕新聞 岐阜市神田町七。（電）二三五〇。個人經營。政友會。創刊大正五年八月十五日。夕刊二頁。（社主）川村數郎。（社長）岡本愛洲。

美濃大正新聞 美濃新聞社發行。大垣市竹島町一。（電）一五二、六二〇。個人經營。（社史）明治三十五年十一月の創刊、週刊、隔日發行を經て日刊となり其間題號も數度改められ現在に至る。朝刊四頁。（部數）十年九月二十二日現在六千部。（社主）木村作次郎。（社長）同。（專務）坂東英一。（編輯）木村鐸四郎。（政治）木村公平。（社會）上田萬次郎。（營局）坂東英一。（廣告）淺野宇三郎。（企劃）久保田新一。（東京支局）堤八十次。（大阪支局）田村佐太郎。（社員）十九名、（工場員）十八名。（機械）平盤三。ステロあり。（活字）七ポ、十五字、百三十五行、十三段。一箇月五十錢。（廣告料）八十錢、場所指定二十錢、特別面一圓五十錢。

■十一年一月一萬號を迎へんとし劃期的發展をなすべく準備中

中央新聞 大垣市郭町七八。（電）九七五。三萬圓。創刊大正七年十一月十五日。夕刊四頁。（附錄）中部評論。（社主）高田燐次郎。（社長）同。（理事）吉田貞三。（編局）谷瀨鐵一。（營部）佐野照男。（機械）十六頁、八頁二。（活字）十一字、七十八行、十二段。一箇月四十錢。（廣告料）八十錢、特別面一圓。

飛驒每日新聞 高山町字三町。創刊明治四十二年十二月。個人經營。夕刊四頁。（社長）上島善一。（編輯）江野喜代吉。（營業）岸田富郎。（機械）平盤二。（活字）九ポ、十三字、九十行、十二段。一箇月五十錢。（廣告料）五十錢。

高山日日新聞 高山町。創刊大正三年。個人經營。夕刊二頁。（社長）船坂元吉。（營業）中畑吉春。

三重縣

▼人口……一、九六、九〇〇
▼同市部……三三、一〇〇
▼同郡部……九四、八〇〇

▼世帶數……二九、六〇

三重縣は大體に於て名古屋と大阪の勢力圈內にあるが、從來でも、大阪方が名古屋方を凌駕した形にあつたのを、愈々大阪紙の名古屋進出ともなれば、此の狀態は一層顯著となるであらう地元新聞はその壓迫を受け、且つ甚だ數が多く、誠に不利である。併し人口六萬五千の津市を根據とする伊勢新聞は古くから固い地盤を有し、尙最近には三重縣民新聞の擡頭を見た。又四日市市（人口五萬五千）には三重日日、四日市商業等があり宇治山田市（人口五萬六千）、松坂市（人口三萬五千）等も新聞の中心地となつてゐる。伊賀地方は殆んど大阪紙の天下で、名古屋の新聞は殆んど入つてゐない。尙十年某官廳方面に於ける縣下各紙及移入各紙の推定販賣部數は次の如くである。

地元紙（十年八月末）

伊勢新聞	八、〇〇〇
三重縣民新聞	七、〇〇〇
四日市商業新聞	三、九〇〇
三重日日新聞	三、八〇〇
勢州每日新聞	三、六〇〇
民衆時報	三、〇〇〇
伊勢朝報	二、〇〇〇
伊勢新報	一、五〇〇
伊勢日日新聞	一、五〇〇
紀南新報	一、四〇〇
南勢新聞	一、二〇〇
北勢日日新聞	一、〇〇〇
三重合同新聞	九〇〇
東海新聞	八〇〇
南海新報	八〇〇
伊勢朝日新聞	八〇〇
伊勢朝日	八〇〇
三重日報	一五、〇〇〇

移入紙（十年六月末）

大阪每日	二三、三三七
大阪朝日	二二、五三〇
新愛知	一六、九三三
名古屋新聞	一〇、六〇四
報知新聞	一、五三九
讀賣新聞	八八二
中外商業新報	六二九
大阪時事新報	四四二

伊勢新聞 津市丸之內本町津二一〇六ノ六。（電）一一、一二五、六〇〇、六〇一、八七〇、一五三八、專用一、二。創刊明治十一年一月十七日。株式。三十萬圓。朝刊四頁。夕刊四頁。（版數）五。（附錄）日曜附錄、日曜夕刊每週發行。（部數）十年現在三萬。（取締役會長）松本宗重。（常務）三井康秀。（編部）森男。（廣告）三井康秀。（販賣）吉田覺一。（工務）三井康秀。（東京支局）松崎正二郎。（大阪支局）冬野竹二郎。（社員）二百七十六名。（工場員）七十八名。（機械）TKS式輪轉機三、平盤印刷機九、石版印刷機。字母設備整備、萬年鑄造機二、活字鑄造機四、寫眞製版機一、凸版製版機一、コッピー機二、鉛鑄込機二、鉛版仕上機二、罫線機一。（活字）七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月八十錢。（廣告料）八十錢、特別面二圓。

■十年十月前社長松本吉晴君辭任、同時に社長制を廢し取締役會長制に改め松本宗重君會長に三井康秀君常務取締役となる。

三重縣民新聞 津市下部町。（電）長六八八、一六八二。個人經營。（社史）昭和九年七月六日地方新聞廓淸の目的を以て創刊十。朝刊四頁。夕刊四頁。（版數）二。（地方版）郡部版。（社主）鈴木友二郎。（社主）同。（編局代理）末廣良衞。（政治）綾田忠男。（社會）浦田忠加壽。（營部）和田秋男。（東京支局）大森盛芳。（大阪支局）遠藤信一。（社員）三十三名。（工場員）四十二名。（機械）マリノニ式輪轉機（赤刷器付）一、平版全紙二。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。（活字）七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月八十錢。（廣告料）一圓五十錢、特別面二圓。（兼營）普通印刷部。特設傳書鳩班。廣告研究會。

■十年八月一周年記念事業「三重縣紹介お伊勢詣展覽會」大阪松坂屋に開催。

■十年一月より朝夕刊八頁となる。

伊勢朝日新聞 津市阿漕驛前。（電）一四七九。個人經營。（社史）大正十二年七月一日創刊昭和十年六月二十一日より日刊となる。朝刊四頁。（社主）池村幸太郎。（社長）同。（主筆）池村湖月。（營業）同。（機械）十六頁一、ステロあり。（活字）七・七五、十五字。

三重日報 （新愛知の直營）津市熊澤町一四二四。（電）三二七。合資。（社史）大正三年六月一日創刊。朝刊二頁。（版數）二。（部數）十年十月現在三萬部。（社長）大島宇吉。（主幹）保見國治。（營業）淺野鉦吉。（機械）母社新愛知新聞社にて印刷。（活字）十五字、九十五行、十二段。一箇月四十錢。（廣告料）五十錢、場所指定六十錢、特別面一圓。

四日市商業新聞 四日市市下新町二九一〇。（電）三四二、七九三。個人經營。十萬圓。（社史）明治三十六年三月一日創刊、初め三重成功新聞と題し四十二年十一月四日市商業新聞と改題、社長鳥海善衞氏は新文壇、藝林、小文學社の主幹たりし人。夕刊四頁。（版數）三。（附錄）每年二回美術畫。（部數）昭和九年九月現在六千五百内外。（社主）鳥海善衞。（社長）同。（副社長）鳥海善郎。（主筆）同。（編部）藪下健次、古田視狹。（營局）鳥海茂。（營部）清水九一郎。羽木春洋。（東京支局）漆原一衞。（大阪支局）上村弘。（社員）三十一名。（工場員）二十名。（機械）平盤印刷機三。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。（活字）七ポ、十五字、百五十行、十三段。一箇月六十錢。（廣告料）八十錢、場所指定一割增、特別面二圓。

三重日日新聞 四日市市濱田（電）一二一〇、七〇二。個人經營。七萬圓。（社史）大正十三年一月一日週刊實業新報を發行、昭和五年二月十一日日刊紙に改め、現名に改題す。夕刊四頁。（版數）二。（社主）杉浦靖敏。（社長）同。（支配人）正岡二郎。（主筆）赤堀政基。（理事編輯）中林英人。（政治）伊藤長次郎。（社會）杉浦乾一。（通信）伊藤繁太郎。（營部）高津清雄。（外交）服部龜吉。（販賣）前田多郎。（東京支局）堤八十次。（大阪支局）松尾與一。（社員）十九名。（工場員）三十五名。（機械）内國製輪轉機一、平盤十六頁二、其他活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。（活字）七半、十四字、百四十五行、十三段。一箇月六十錢。（兼營）活版印刷、其他出版物。

勢州每日新聞 四日市市新丁三四六。（電）七〇。個人經營。十萬圓。創刊明治三十二年十一月八日。夕刊四頁。（版數）二版。（附錄）南勢版。（部數）九年九月三十日現在八千三百部。（社長）西川源吉。（營業）森永初次。（東京支局）稻垣善次。（大阪支局）藤上四郎。（社員）四十二名。（工場員）二十六名。（機械）松浦式平盤二、鑄造機一、ステロ一、寫眞製版設備あり。（活字）八半十三字、百二十八行、十三段。一箇月七十錢。（廣告料）七十錢場所指定三割增、特別面二圓。（兼營）幼稚園保育用品代理店、幼稚園設計監督。

伊勢日日新聞 松阪市湊町二三八。（電）一三一。創刊大正十二年七月十五日。個人經營。三萬圓。夕刊四頁。（社長）富岡利一。（編輯）松田啓三郎。（外交）永田安次郎。（營部）辻與三吉。（機械）平盤二。（活字）舊、十一字、十二段。一箇月五十錢。（廣告料）五十錢、特別面一圓。

南勢新聞 松阪市殿町一三四八。創刊明治三十二年十月十日個人經營。二萬圓。夕刊四頁。（社長）松井龜次郎。（編輯）伊豆倉文郎。（營業）別所甚三郎。（機械）平盤二、ステロあり。（活字）舊、十二字、九十行、十一段。一箇月五十五錢。（廣告料）五十五錢。

松坂新聞 松阪市本町二〇六九。創刊最初旬刊にて大正十五年二月十六日。個人經營。夕刊小型四頁。（社長）池田景彦。（主筆）同。（營業）中西佐太郎。（機械）十六頁平盤一、ステロあり。（活字）舊、十一字、四十五行、九段。一箇月四十五錢。（廣告料）六十錢、特別指定一圓。

三重愛國新聞 松阪市日野町一七。創刊昭和四年一月十七日夕刊小型四頁。（社長）太田才吉。（機械）平盤一、（活字）舊、十二字、八段。一箇月三十錢。（廣告料）五十錢。

公正新聞 松阪市白紛町四二一。創刊昭和七年十一月五日。夕刊小型四頁。（社長）奥野市松。（機械）平盤一。（活字）舊、九段。一箇月三十錢。（廣告料）五十錢。

伊勢朝報 宇治山田市岩淵町一四〇。創刊明治三十二年三月十三日。株式。五萬圓。夕刊四頁。（社長）西田一雄。（主筆）大久保魯吉。（營業）淺野米藏。（機械）平盤四。（活字）舊、十二段。一箇月五十五錢。（廣告料）六十錢。

東海新聞 宇治山田市岩淵町三二四。創刊大正十三年九月十日。個人經營。夕刊四頁。（社長）藤田幸吉。（編輯）同。（營業）坂田只一。八段。一箇月五十錢。

伊勢朝日 宇治山田市宮後町一三三。創刊昭和十年二月十三日。夕刊四頁。（社長）野口健二。

民衆時報 桑名町大北町二。（電）九四三。創刊大正十五年二月十一日。朝刊四頁。（版數）二。（部數）九年九月一日現在四千部（社主）田中辰三郎。（社長）同。（副社長）田中宗太郎。（主筆）田中辰三郎。（編輯）田中宗太郎。（營業）鈴木岩男。（東京支局）服部昌三。（社員）十三名。（工場員）十七名。（機械）平盤十六頁二、八頁菊一。ステロあり。（活字）七半、十五字、百三十行、十二段。一箇月六十錢。（廣告料）八十錢、場所指定一圓五十錢、特別面一圓八十錢。（兼營）臨時部印刷。

伊勢新報 桑名町堤原一一四。（電）六〇九。合資會社。五萬圓。（社史）明治三十五年宇治山田市で勢海新報創刊、明治四十三年現發行所に移り、現稱と改題、其間約三十ケ年日刊新聞として地方自治の開發に資す。朝刊四頁。（部數）十年九月廿五日現在五千部。（社主）紀平芳太郎。（社長）同。（副社長）丹羽喜一。（支配人）岡本陸造。（主幹）松平家晃。（主筆）岡本陸造。（編輯）同。（校正）小林兼坂。（營業）舘重。（廣告）小林富次郎。（社員）二十五名。（工場員）二十名。（機械）平版十六頁。ステロ一、寫眞版あり。（活字）十二字、百二十五行。十三段。一箇月六十錢。（廣告料）八十錢、場所指定一圓八十錢、特別面同。

北勢日日新聞 桑名町清水町四一三。創刊昭和九年三月二十五日。夕刊四頁。（社長）小瀧健三。（編輯）伊藤孝。

三重合同新聞 上野町丸の内（電）五二三。創刊明治四十四年九月十五日。個人經營。一萬圓。夕刊四頁。（版數）二。（附錄）日曜附錄。（社主、社長）北泉清。（東京支局）北森俊一。（大阪支局）北泉勝臣。（社員）十九名。（工場員）十二名。（機械）十六頁機二。ステロあり。（活字）八ポ、十一字、十二段。一箇月四十錢。（廣告料）五十錢。

伊賀日報 上野町丸の内二九。創刊明治三十二年一月十日。個人經營。夕刊二頁。（社長）山内京。（機械）平盤二。（活字）舊、十段。一箇月三十二錢。（廣告料）二十五錢。

伊賀新報 上野町玄蕃町一八五創刊昭和三年四月十二日。夕刊二頁。（社長）房川繞之助。（機械）平盤一。（活字）八ポ、十一段。一箇月三十五錢。（廣告料）二十錢。

南海新報 尾鷲町中井浦一三九（電）一三七。創刊大正七年二月八日。夕刊四頁。（版數）一。（部數）九年九月現在千五百部。（社長）肥田倭夫。（營業）坂田只市。（社員）十二名。（工場員）九名。（機械）平盤十六頁、八頁二。（活字）舊、十二字、十一段。一箇月五十錢、（廣告料）六十錢、場所指定一圓。

紀南新報 木本町五八八。創刊明治三十五年四月三日。個人經營。夕刊四頁。（社長）武上千代之亟。（機械）平盤一。（活字）舊、十一段。一箇月七十五錢。（廣告料）六十錢。

朝明新聞 富洲原町富田一色。（電）五六。個人經營。五千圓。民政系。（社史）昭和九年七月二十五日富田町、富洲原町、川越村、大矢知村の合併を目標に三重郡北部の機關新聞として活躍。朝刊四頁。（版數）一。（部數）十年九月廿四日現在一千四百部（社主）馬杉清松。（社長）同。（主筆）同。（編輯）同。（營業）鈴木筰吉。（社員）四名。（工場員）六名。（機械）四頁版一。（活字）九ポ、十二字、七十五行、十三段。一箇月五十錢。（廣告料）五十錢、場所指定七十錢、特別面一圓。

■最近一年間に印刷所を新設し第一日曜第四日曜を發行せり。

（六）北陸

石川、福井、富山の北陸三縣は

大體に於て大阪紙及び名古屋紙の勢力範圍に屬し、東京新聞は富山縣を境として、その東に限られ、以西の各地には極めて少數しか入つてゐない。卽ち東海道に於ける靜岡縣の西部が此處では富山縣となつてゐる。斯る情勢の間にあつて、地元新聞として、最も有力とせられるのは、北陸文化の中心地金澤市の北國新聞で、同市の北陸毎日新聞、富山市の富山日報、北陸タイムスこれにつぐ。併しこれ等の諸紙も、滿洲事變以來大阪紙の壓迫を受けて益々やり惡くなつた事には變りなく、右以外の小新聞、殊に福井縣などに於ては、とりわけてそれが著るしいやうである。

石川縣

▼人口……七六一、六〇〇
▼同市部……一六五、二〇〇
▼同郡部……五九六、四〇〇
▼世帶數……一五二、三二〇

石川縣は小縣ながら新聞中心地は唯一の金澤市に限られ、而も同市は北陸文化の中心として十六萬五千の人口を擁する處から新聞が比較的に發達した。けれども大體に於て大阪紙と名古屋紙の壓迫を免かれず多少は縣外に進出しても、大をなすべく地の利に惠まれてゐない。北國新聞は歷史ある有力紙で、堅實な地盤を有し、隣縣の一部にも進出してゐる。北陸毎日は民政系で勢力これにつぎ、先には永井柳太郎君を社長に頂き活氣ある經營振りを示してゐる。

北國新聞 金澤市南町九三。(電)二〇二、四一四、四〇四。創刊明治二十六年八月五日。株式。二十萬圓。朝刊六頁。夕刊四頁。(社長)林政武。(專務取締役)飯尾次郎三郎。(編局)葛西慶太郎。(整理)宮下與吉。(社會)岡谷清次郎。(經濟)濱中長平。(外交)山岸忠恕。(政治)山本清嗣。(地方)西尾源二郎。(演藝)窪田俊一郎。(經濟)濱中長平。(營局、理事)林繁。(廣告)島田鍛次。(印局、理事)山田仁三郎。(東京支局)吉藤初三郎。(大阪支局)橋安久。(機械)東京機械製高速度印刷機一、同輪轉機二、津田式色刷輪轉機一、平盤二。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月九十錢。(廣告料)一圓、場所指定二割增、特別面一圓五十錢。記事挿入一圓八十錢。(兼營)越中新聞(高岡市)。

■九年十月十七日創業四十年紙齡一萬五千號を迎ふ。

■十年四月株式に組織變更決定す。

■同年八月十五日前主筆岡成志君退社し、元時事編輯主事葛西慶太郎君後任となる。

■同年九月十八日滿洲事變四周年一念特輯號二十頁を發行す。

北陸毎日新聞 金澤市南町四一。(電)八七、二三〇〇、一六〇。株式。十三萬圓。(社史)明治三十三年五月八日政教新聞創刊、後北陸新聞と改題、大正七年八月七日石川毎日新聞社と合併北陸毎日新聞となる。朝刊六頁。夕刊四頁。(附錄)日曜日(講談一頁大)。(事務)高木八良。(常務)淺野平成、市川潔。(整理)藤野伊一。(社會)兵地榮一。(參事)飯野廉次。(政治)毛藤一雄。(經濟)重利俊一。(校正)松本文造。(地方)瀧尾雅太郎。(廣告)岸實。(東京支局)宮澤由三郎。(大阪支局)作宮恒夫。(社員)七十三名。(工場員)五十五名。(機械)平盤一、輪轉機二。萬能活字鑄造機一、ステロ、寫眞製版設備あり。(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月九十錢。(廣告料)一圓、場所指定二割增、特別面一圓五十錢。

■十年七月限り永井柳太郎、櫻井兵五郎の二君取締役を辭し相談役となる。

■同前金澤市助役市川潔君常務取締役として入る。

■同八月創刊三十五年記念事業を行ひ三階建延坪五百坪の新社屋建築に着手す。

■同年九月十八日滿洲事變四周年記念特輯號二十頁を發行す。

金澤新報 金澤市南町六二(電)三七〇〇、三七四五、八四。個人經營。二十萬圓。創刊大正八年七月三日。朝刊四頁。(版數)二。(地方版)郡部。(部數)昭和十年九月一日現在廣坂署屆調

査數市郡有代六千二百外無代有り。(社主)土田行丸。(支配人)竹村才一。(編輯)辻豐二。(政治)北田虎松。(經濟)眞岸辰雄。(社會)越田宇一。(論說)額見貞輔。(庶務)中木秀三。(販賣)矢木清。(廣告)竹松秀雄。(整理)岸本。(速記)島田喜一。(校正)橫井良平。(寫眞)島田芳榮。(事業)竹村才一。(東京支局)齋藤俊一。(大阪支局)清島三郎。(社員)九十二名。(工場員)二十七名。(機械)佛國式輪轉機一、內國製印刷機二。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七・五、十五字、百四十七行、十三段。一箇月四十五錢。(廣告料)一圓、場所指定三割增、特別面一圓五十錢。(兼營)日活映畫を上映の市內香林坊、スメル館を有し讀者に毎月一箇月間有効入場券二枚を附す。

■本社裏に約四八〇坪の敷地を買收し病院建設讀者家族無料診療の計畫を成す。

北國夕刊新聞 金澤市驛前木通り。(電)二八二二、三一五〇。創刊大正十年四月二十六日。個人經營。十萬圓。夕刊四頁。(版數)二。(社主)出口王仁三郎。(社長)出口伊佐男。(副社長)土井三郎。(編局)洪川春國。(政治)松浦愛人。(經濟、社會)毒柳眞三郎。(營局)土井三郎。(廣告)高澤善愛。(販賣)宮野彌吉。(印刷)丹羽市三。(事業)宮本精雄。(東京支局)船戶岩男。(大阪支局)青木清治。(社員)二十五名。(工場員)二十五名。(機械)輪轉機一、平盤二。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七半、十五字、百三十八行、十二段。一箇月四十五錢。(廣告料)一圓、場所指定二割增、特別面一圓五十錢。

北國日報 (新愛知の經營) 金澤市殿町一〇。(電)一四四五、二六八五。創刊大正三年十二月一日。夕刊四頁。(版數)二。(部數)九年九月一日現在一萬二千部。(社長)大島宇吉。(編輯)深見直一。(營業)村中甚治郎。(社員)八名、外に通信員十四名。(工場員)二十名。(機械)輪轉機一。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七半、十四字、七十四行、十二段。一箇月母紙合賣八十錢。(廣告料)一圓、場所指定二割增、特別面一圓五十錢。

金澤商報 金澤市西町四番町八。創刊大正三年三月九日。個人經營。五千圓。夕刊小型四頁。(社長)平場啓太郎。(主筆)岩田外嗣郎。(機械)平盤二。(活字)舊、八段。一箇月三十二錢。(廣告料)二十五錢。

金澤絹糸日報 金澤市愼勞町八〇。創刊明治四十一年四月二十六日。個人經營。二萬圓。朝刊小型四頁。(社長)島倉勝則。(主筆)土屋周吉。(活字)七段。(廣告料)三十錢。

福井縣

▼人口……六三四、二〇〇
▲同市部……七二、四〇〇
▼同郡部……五六二、八〇〇
▼世帶數……一二六、八四〇

福井縣は人口全國でも終りから五番目の小縣だが、物產學富にして產額も多いところから、新聞の數は割合に多い。けれども大阪紙及び名古屋紙の侵入急なる爲め、地元新聞の大をなすものがない。殊に滿洲事變以來大阪紙の壓迫を受ける事甚しい。その爲め人口七萬一千の中心地福井市に於て獨立經營の新聞は福井新聞外一紙あるのみで、その福井新聞も永らく經營難に陷つてゐたが、八年四月新專務を迎へ經營方針を一變してやゝ立ち直つた。部數は一萬前後であらう。移入紙は大阪紙萬能で、大朝、大毎共に二萬前後、次は新愛知で、新愛知は福井市に新福井日報を發行し、福井新聞の壘を摩してゐる。名古屋新聞は六年福井日報との併賣を廢して以來著しく減退したが其後やゝ伸張の傾きがある。東京紙は福井縣に降るもの總數千に達せずその中報知は市內に專賣店を有するだけ比較的に多い。讀賣新聞地方六十萬計畫の本縣割當は石川縣と合せて三千である。

福井新聞 福井市佐佳枝中町一二〇。(電)一一八、二四四。株式。四萬圓。(社史)明治三十二年の創刊、四十一年年中無休刊を實行し大正二年三月一日北

日本新聞を合併し同時に組織を改め株式會社となし大正五年社屋新築、昭和四年八月紙齡一萬號に達す。朝刊四頁。夕刊四頁。(版數)二。(部數)十年九月一日現在三萬五千部。(社長)今村七平。(專務)吉田圓助。(編局)同。(論說)竹內行一。(政治)柳村喜一。(社會)鹽田龍。(經濟)永井正四。(寫眞)上田岩佐。(校正)清水清。(營局)木下靖。(廣告)吉田豐。(印刷)田中淳一郎。(販賣)田中忠治。(發送)新屋新宅。(工務)岩田武次。(活版)諏訪芳尾。(鑄造)中川嘉太郎(東京支局)渡邊利正。(社員)三十二名。(工場員)四十三名。(機械)內國製マリノニ輪轉機一。萬年自動活字鑄造機二、ユッビー二、寫眞製版機二、鉛版鑄込機二、鉛版仕上機二。(活字)七十五字、百五十五行、十三段。一箇月七十錢。(廣告料)五十錢、場所指定一圓、特別面一圓五十錢。

■最近一年間に關東方面の觀光團を組織し、大演習記念事業として左記數項を實施せり、番地入地圖、大演習畫報、榮光錄發行。

新福井日報 福井市佐佳枝町八七。(電)三四七、七一一、二二五四。新愛知經營。創刊大正十二年二月。夕刊四頁。(版數)二。(社主)大島宇吉。(支配人)大島一郎。(主幹)藤野稔。(編輯)同。(營業)村中甚太郎。(機械)輪轉機一。(活字)十四字、八十五行、十三段。新愛知讀者に無料配達。(廣告料)五十錢、場所指定倍額、特別面一圓。

■最近一年間に煙火大會、商店訪問競爭、學童成績競技會等を行ふ。

福井民報 福井市佐佳枝中町百四十二。(電)二一二二。創刊昭和八年一月十七日。夕刊二頁。(部數)九年九月一日現在三千五百部。(社主)祝井孔太郎。(社長)同。(社員)十二名。(工場員)十四名。(機械)平盤八頁二、活字鑄造機、ステロ、寫眞製版設備あり。(活字)九ポ、十四字、約百行、十一段。一箇月三十錢。(廣告料)五十錢、場所指定十錢割增。

みくに新聞 三國町末廣。(電)一四。株式。一萬圓。(社史)明治三十四年七月廿四日三國取引所々報發行、社長佐々木治太夫氏(縣會副議長)、亡いで佐々木彦七氏となり現在の濃畑社長に至る。朝刊四頁。(部數)十年九月廿四日現在二千五百部。(社主)濃畑三郎。(社長)同。(副社長)池上佐太郎。(常務)坪井菊次郎。(主幹)柴山久吉。(編輯)奥田重三。(營業)松山清。(社員)廿一名。(機械)十六頁と六頁各一。(活字)舊、十三字、六十行、十段。一箇三十五錢。(廣告料)十五錢、場所指定倍額。

■(郡內小學校五十三校)兒童陸上競技大會(今年にて十三年繼續)。

北陸日出新聞 三國町元新二三。創刊昭和六年三月二十三日。朝刊四頁。(社長)南勇太郎。(主筆)大木幸之助。(營業)同。(活字)舊、十段。一箇月三十錢。(廣告料)三十錢。

北陸タイムス 武古町幸五一(電)二二四。合資會社。一萬二百圓。政友系。創刊大正六年十一月廿五日。夕刊二頁、(部數)十年九月廿五日現在一千三百五十部。(社長)森上齋五郎。(支配人)釜矢嘉助。(主筆)齋加義雄。(社員)五名。(工場員)十七名。(機械)四六判十六頁一、四六判八頁一、寸延六頁一。(活字)九ポ、十三字、六十五行、十二段。一箇月四十錢。(廣告料)八錢、場所指定十五錢、特別面五十錢。(兼營)印刷業。

敦賀新聞 敦賀町大島一〇七。(電)四五三。創刊明治四十一年十月一日。夕刊二頁。(社長)大崎喜錄。(機械)平盤一。ステロ設備あり。(活字)舊、十一段。一箇月四十錢。

敦賀時事新聞 敦賀町蓬萊三九。創刊昭和三年九月十一日。個人經營。夕刊小型四頁。(社長)小名清藏。(機械)平盤一。(活字)舊、九段。一箇月五十錢。(廣告料)四十錢。

嶺南新聞 小濱町。(電)三五三。夕刊二頁。(社主)山田兵二。(社長)同。(支配人)小林庄次郎。(機械)平一。(活字)舊、十三字、六十行、十段。一箇月三十錢。(廣告料)五錢。

富山縣

▼人口……八〇二、六〇〇
▼同市部……一三五、一〇〇
▼同郡部……六六七、五〇〇
▼世帶數……一六〇、五二〇

富山縣は東京紙と大阪紙との分水嶺だが、東京紙の勢力は大阪紙に較べてやゝ薄く、大朝、大毎を第一として新愛知これにつぎ、讀賣、報知、北國、名古屋の順位と見られる。地元紙は人口七萬八千の富山市を中心として、此處に富山日報、北陸タイムス及び北陸日日新聞があり更に高岡市(人口五萬七千)を地盤として高岡新聞がある。概して此縣は移入紙の脅威を受けること比較的に薄い。地元各紙の發行部數及移入紙につき十年九月某官憲方面の推定は次の如くである。

地元紙		
富山日報	一萬乃至二萬	
北陸タイムス	同 上	
北陸日日新聞	同 上	
富山タイムス	八千乃至一萬	

移入紙		
高岡新聞	同 上	
越中新聞	同 上	
高岡日報	一千	
大阪朝日新聞	一萬內外	
大阪毎日新聞	同 上	
新愛知	同 上	
讀賣新聞	同 上	
報知新聞	同 上	
北國新聞	同 上	
名古屋新聞	同 上	

十年一月七日讀賣發表同紙の縣下純販賣部數は八千二百七十六で、地方六十萬計畫の本縣割當は一萬である。尙地元各紙の經營狀態を見るに富山日報は近來黑字を出すに至り北陸タイムスも姉妹紙金澤新報を切離して以來財政難を緩和したと云はれる北陸日日は富豪加藤金次郎君の手に移り、加藤組支配人鷹取君を社主として以來資金には苦しまぬ、高岡新聞は朝刊を廢して夕刊六頁とし、消極策に出てゐる。紙面は北日が十二頁で日報北タイは十頁、北日の聯合に對して後二者は電通により、日報は地種中心で行つてゐる。本縣では十年七月街の紳士の大檢擧を行つたがその結果日刊以外の新小聞の休刊二十數紙に及んだと云はれる。

富山日報 富山市總曲輪二五五。(電)四一四一、四一四二、四八二五。株式。一萬五千圓。創刊明治十七年一月。朝刊六頁。夕刊四頁。(常務)横山四郎左衞門。葭村喜三松。(主筆)横山四郎左衞門。(編局)同。(政治)山原正利。(社會)中山輝。(營局)葭村喜三松。(廣告)高田正明。(會計)八幡松平。(販賣)有澤於外作。(企劃)渡邊茂雄。(東京支局)堀克巳。(大阪支局)浮田金次。(社員)三十六名。(工場員)三十九名。(機械)內國製石川式輪轉機四、內國製平盤印刷機三。活字鑄造機五、寫眞製版機一、ステロあり。(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月八十錢。(廣告料)一圓、場所指定二割增、特別面二圓。

■九年十月二十五日高山本線開業記念のグラビヤ版四頁を添附す。

北陸タイムス 富山市總曲輪三九九。(電)二三七七、四六六六、三三〇一、三九三八。創刊明治四十一年十一月十五日個人經營。五十萬圓。朝刊六頁。夕刊四頁。(社長)田中清文。(副社長)有川俊臣。(主幹、營局)鍋田祥平。(主筆)中院富有。(編局)澁谷諶三。(政治)松井啓。(社會)山木忠義。(速記)柚田爲重。(經濟)浦重太郎。(校正)市川力藏。(販賣)今井友範。(廣告)岩脇捨三。(外交)阿部常眞。(工場長)奥田象治。(東京支局)齋藤俊一。(機械)輪轉機三、平盤一。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七半、十四字、百三十行、十三段。一箇月八十錢。(廣告料)一圓、特別面一圓五十錢。

北陸日日新聞 富山市總曲輪二五〇。(社史)創刊明治二十二年四月五日。大正七年九月富山新報と改題、昭和八年十月十七日現名となる、同時に從來の政友會機關から中立となる。個人經營。五十萬圓。朝刊八頁。夕刊四頁。(社主)鷹取從次郎。(主幹)鍋田祥平。(編輯)大島榮

好。(營局)松井小右衛門。(會計)高田文次。(廣告)黑川勇藏。(販賣)野澤周民。(社會)岩佐虎一郎。(政治)村秀三。(通信)細野良吉。(經濟)旭勝吾。(速記)內田幸之助。(演藝)大上哲夫。(情報)宮下白嶺。(東京支局)古川正治。(大阪支局)清島三郎。(機械)津田式輪轉機四、平盤二。活字鑄造機一。ステロ二。(活字)七ポ、十五字、百四十七行、十三段。一箇月八十錢。(廣告料)一圓、特別面一圓五十錢。

富山タイムス (新愛知の經營)富山市總曲輪四八四。(電)五一六一。二四九三。(社史)大正九年十月廿七日創刊。夕刊四頁。(社長)大島宇吉。(支配人)大島一郎。(編輯)梶川定治。(營業)寺田仙之助。(社員)十八名。(工場員)十九名。(機械)輪轉機一。(活字)九ポ、十三字、七十五行、十三段。一箇月本紙新愛知とも八十錢。(廣告料)五十錢、場所指定一圓、特別面同。

高岡新聞 高岡市末廣町。(電)四三、四四、四五。株式。四萬圓。(社史)明治十九年五月高岡商況創刊、同三十六年十月株式組織となし今日に至る昭和九年四月從來の朝夕刊八頁制を夕刊六頁制とし定價を引下げ斷行す。夕刊六頁。(版數)二。(部數)九年九月一日現在一萬四千部。(社長)木津太郎平。(專務)櫻井宗一郎。(編部)上子三郎。(營部)齋藤三郎。(東京支局)篠木桑藏。(大阪支局)中谷清一。(社員)二十八名。(工場員)三十名。(機械)マリノニ輪轉機一、津田式輪轉機一。字母設備、活字鑄造機一、寫眞製版機一、凸版製版機一、コッピー機二、鉛版鑄込機一、鉛版仕上機一、寫眞部設備あり。(活字)七・七五、十四字、八十行、十三段。一箇月五十錢。(廣告料)一行一圓、場所指定倍額。(兼營)代理部。■十年九月創業五十年祭執行各種記念事業實施。■日滿博覽會(十一年四月—八月)開催を好機に內外大刷新を計畫す。

越中新聞 (北國新聞の經營)高岡市通町三〇。創刊大正十二年五月一日。株式。朝刊四頁。(社長)林政武。(編輯)加藤祐策。(東京支局)吉藤初三郎。(大阪支局)橋安久。(機械)輪轉三。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七ポ、十五字、十三段。一箇月五十錢。(廣告料)五十錢、(電)四六六。(社史)創刊明治三十四年米穀取引所機關として專ら米界記事報導。夕刊小型四頁。(社主)中村松太郎。(社長)同。(主幹)神初八太郎。(編輯)川崎道作。(營業)中村修吉。(機械)平盤二。(活字)八ポ、十三段。一箇月四十錢。(廣告料)三十錢。

(七) 關西

滋賀、京都、奈良、兵庫、和歌山の關西五府縣は東京紙の關東地方に於けるが如く、大阪新聞の純然たる根據地であるが、圏內には神戸、京都等の大都市を包含する爲め、全國でも有數の大地方新聞たる神戸の神戸新聞、京都の京都日日新聞、京都日出新聞等が發達した。そしてそれ〴〵發行地元に勢力あるのみならず、他府縣にも侵入して、大阪新聞と競爭する場合も少くない。又滋賀、奈良方面には名古屋の新聞も多少入つてゐる。尙昭和六年八月一日神戸新聞大阪時事新報、京都日日新聞の三社が合同して三都合同新聞株式會社を起したが、八年十二月京都日日には合同を離れて獨立した。

滋賀縣

▼人口……七一四、八〇〇
▼同市部……六六、六〇〇
▼同郡部……六四八、二〇〇
▼世帶數……一四二、九八〇

滋賀縣は大體に於て大阪紙——即ち大朝、大毎の勢力下にあり、そこへ名古屋の新愛知、及び名古屋新聞、更に京都の京都日日等が入つてゐる。地元新聞は群小簇立、二十種に及ぶが、一つとして大をなすものなく、中にあつて、大津市(人口六萬六千)の近江新報、江州日日新聞の二紙、比較的有力と云はれる。移入紙では大朝、大毎最高位にありこれを假りに一萬前後とすれば新愛知、名古屋は二三千程度で

京都日日は更に下る。

近江新報 大津市伊勢屋町。(電)三九、七五。(社史)明治廿三年二月十一日宮脇剛三氏創立、二十九年十一月西川太治郎氏社長となり、大正十二年五月合資會社滋賀日報と共に文化事業株式會社の經營に移る。十五年六月平井光三郎氏社長となり個人經營とし滋賀日報を休刊、近江新報に集中す、昭和七年十月現社長大久保清治氏一切を繼承す個人經營。十五萬圓。朝刊四頁。(販數)二。(附錄)日曜附錄二頁。(副社長)大久保清治。(顧問)平井光三郎。(主筆)川村宗太郎。(編局)田中流水。(營局)大久保清治。(政治)佐野壽。(社會)小山昏三。(庶務)岡田耕吉。(事業)橫川虎之助。(廣告)西川健二郎。(販賣)長田實。(工務)廣瀨留吉。(東京支局)福岡喜三次。(大阪支局)田村秀峰。(社員)六十名。(工場員)二十名。(機械)津田式輪轉機一。平盤一。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)一圓、特別面二圓。

江州日日新聞 大津市四宮町一六。(電)九九、七八四。個人經營。(社史)創立大正十年十月一日、資本金十萬圓の株式會社であつたが後解散し現社長單獨資金を補給經營に當る。昭和九年四月新社屋成る。夕刊四頁。(販數)三。(社長)中村七右衛門。(主幹)北野龜次郎。(編輯)森田憲二郎。(政治)木村奧治。(社會)志賀間乘。(經濟)寺島信太郎。(營業)北野龜次郎。(廣告)澤田三定。(販賣)熊澤光造。(事業)木戸好和。(工務)中村進。(東京支局)松本七五郎。(大阪支局)松下兵馬。(社員)二十名。(工場員)二十七名。(機械)輪轉機一、平盤三。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月五十錢。(廣告料)一圓、場所指定三十錢、特別面一圓五十錢。(兼營)一般印刷物。(特設)三階講堂、收容人員三百名。

近江民報 大津市後在家町。創刊大正元年。朝刊二頁。(社主)山中雨村。(社長)山中敏夫。(副社長)山中安次。(社員)三名。(工場員)八名。(機械)十六頁一、八頁一。(活字)十三字、六十五行、十三段。一箇月五十錢。(廣告料)五十錢、場所指定一圓。(兼營)通信社、月刊雜誌。

江州商業新報 迅報社發行。大津市白玉町五三屋敷。創刊明治十六年。個人經營。朝刊小型四頁。(社長)野崎範次。(機械)六頁一、八頁一、外美濃半紙各一。(活字)舊、十六字、四十四行、四段。一箇月四十錢。(廣告料)二十錢。

江州時事 大津市馬場五三。創刊昭和四年。朝刊二頁。(社長)雲下一人。

日刊大津新聞 大津市玉屋町一三。創刊昭和九年。二頁。(社長)草間一郎平。日刊近江新聞社にて印刷す。

江州中央新聞 彥根連着町。(電)一四三。個人經營。五萬圓。(社史)大正十五年十月彥根町に於ける五新聞社合併改題第一號より發行す。夕刊四頁。(社長)陌間萬介。(主幹)猪川南枝。(編輯)同。(營業)陌間萬介。(廣告)山口二郎。(東京支局)加藤一秋。(大阪支局)松井高行。(社員)十四名。(工場員)十三名。(機械)平盤二。ステロ設備あり。(活字)七・五、十五字、四十三行、十二段。一箇月五十錢。(廣告料)一圓、場所指定倍額。

日刊近江新聞 彥根町上新屋敷二九。國同系。(社史)昭和六年五月一日創刊、當町人口三萬五千の土地に日刊六社過刊二社月刊一社あり、最初十錢の賣讀料を以て開始忽ち町內に二千部獲得現在十五錢。夕刊二頁。(部數)十年九月二十日現在三千八百七十部。(社主)宮田德松。(社長)田中養達。(主筆)橫溝竹馬。(社員)十一名。(機械)四六半截。二。(活字)七ポ、十五字。一箇月十五錢。(廣告料)一圓。■日刊大津新聞の印刷引受。

彥根每夕新聞 彥根町字四番二二。(電)五五六。個人經營。一萬圓。民政系。創刊昭和八年三月一日。夕刊小型四頁。(部數)十年九月二十五日現在三千部。(社主)本間正夫。(社長)谷口幾治郎。(副社長)古戸謙一。(支配

人）本間六郎。（主筆）谷口鐵治郎。（編輯）古戸謙一。（營業）小林正郎。（社員）十名。（機械）四六版二。（活字）舊五號、十三字、四十二行、七段。一箇月二十五錢。（廣告料）十錢、場所指定五十錢、特別面一圓。（兼營）印刷業

■近く九ポに改め工場新築の計畫あり。

湖國新聞 彦根町大字本六九。個人經營。政友系。（社史）昭和六年五月十五日創刊。夕刊小型四頁。（部數）十年九月二十六日現在千五百部。（社長）長坂寛二。（主筆）阪野高彦。（社員）八名。（工場員）五名。（活字）九ポ、十四字、八段。一箇月二十五錢。（廣告料）五十錢、場所指定一圓。

彦根日報 彦根町大字三番。（電）七一八。創刊大正十四年三月廿日。個人經營。二萬五千圓。（社長）水波廣。（主筆）鹽原荒村。（社員）八名。（工場員）八名。（機械）平盤十六頁一、八頁一、四頁一。（活字）舊、十二字、六十行、九段。一箇月二十五錢。（廣告料）五十錢、特別面一圓五十錢。

江州每日新聞 彦根町。（電）七五。創刊大正十一年四月二十二日。夕刊小型四頁。（社主）西脇利彦。（社長）西脇留三郎。（主幹）同。（營業）加藤捨次郎。（活字）五號、十三字、四十九行、九段。一箇月二十五錢。（廣告料）平切一段二圓、特別面一行四十錢。

昭和新報 彦根町四番二〇。創刊昭和二年。朝刊四頁。（社長）末廣重五郎。

商工時報 彦根町水流一九。創刊昭和八年四頁。（社長）朝比奈外太郎。

淡海日日新聞 彦根町柳二九創刊昭和九年。二頁。（社長）細田源治。

滋賀民報 長濱町八幡五〇。（電）四二一。個人經營。創刊明治四十四年一月一日。夕刊二頁。（版數）一。（部數）十年九月三十日現在三千五百部。（社主）川村秀明。（社長）同。（編輯）草野儀三郎。（營業）小西又造。（社員）十六名。（工場員）五名。（機械）平盤二。（活字）九ポ、十三字、九十五行、十二段。一箇月四十錢。（廣告料）一圓、特別面二圓。

近江時報 長濱町八幡五七。創刊大正十五年。個人經營。朝刊小型四頁。（社長）中村耕太郎。（機械）平盤一。（活字）舊、七段。一箇月四十錢（廣告料）一圓。

滋賀公民新聞 長濱町三ツ矢二四六ノ一。（電）申込中。民政系。昭和七年十二月五日創刊。夕刊二頁。（部數）十年九月末日現在七百部。（社主）田中久平。（社長）堂國新治郎。（副社長）中村慶造。（主筆）堂國新治郎。（營業）宮崎幾太郎。（印刷）中村慶造。（社員）十一名。（機械）四六八頁一。（活字）舊、十二字、五十行、十一段。一箇月四十錢。（廣告料）八十錢、特別面一圓五十錢。

長濱新報 長濱町北門前四。創刊大正八年。朝刊四頁。（社長）山口三治郎。

近江日報 長濱町北船七。創刊昭和五年。朝刊二頁。（社長）吉田時太郎。

昭和新聞 長濱町南吳服一一七創刊昭和七年。（社長）西村常次郎。

京都府

▼人口……一、六六九、三〇〇
▼同市部……一、〇五二、五〇〇
▼同郡部……六二六、七〇〇
▼世帶數……三五三、八四〇

京都府は大阪新聞の領域だが、人口百五萬の京都市を地盤として京都日日、京都日出の二大勢力が發達し、京華日報などもこれに追隨しつゝある。而して各紙は猛烈な競爭を行つてゐるがそれ〴〵特色を持ち、共同の敵として大阪紙に對抗してゐる。そして市内では餘り遜色を見ないが、郡部方面では到底その敵でなく、大朝、大每の跳梁に委され、そこへ大阪時事、新愛知なども多少入つてゐる。又大朝大每は從來兩丹方面では共賣されてゐたのを、七年秋から大每が紙數減に備へて專賣制を布いた爲め、兩紙の間に猛競爭が開始された。同地方の地元新聞としては、大本教の經營になる鶴の丹州時報は小ながらも固い地盤を有してゐる。

京都日日新聞 京都市烏

丸通竹屋町上ル大倉町。（電）代表上三六。個人經營。五十萬圓。（社史）明治四十五年二月十一日關西日日新聞創刊、大正九年十月京都日日新聞と改題、昭和六年八月大阪時事、神戸新聞と共に三都合同新聞株式會社の一員なりしが昭和八年十二月三都合同を脫退し山根文雄氏の個人經營に移る。朝刊六頁。夕刊四頁。日曜夕刊六頁。（地方版）滋賀版兩丹版、府下版、市内版。（社長）山根文雄。（編局）白石古京。（政治）辻原健堂。（外交）高谷貞次郎。（整理）和島猛曆。（聯絡）松生禎晤。（學藝）辻本和一。（寫眞）森田清三郎。（營局）片岡暐。（次長）木下又男。（廣告）木原鐺太郎。（事業）淺井直堂。（販賣）木村三義。（會計主任）上田喜三。（東京支局）末國金太郎。（大阪支局）中島常太郎。（社員）九十八名。（工場員）百四名。（機械）京日式高速度輪轉機一、マリノニ式輪轉機三。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。（活字）七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月八十錢。（廣告料）一圓十錢、場所指定料二割增、特別面二圓二十錢。

■昭和九年九月の暴風にて府下の教員學童百七十五名が慘死せるを以てこの靈を慰め併せて天災に對する後世への警鐘とするため知恩院境内に風災學童慰靈塔を建設す。

■十年三月十六日八千號を迎ふ

■同四月より朝夕刊十頁に增頁す。

■同五月十一日新通信社創立準備委員會に參加す。

京都日出新聞 株式會社日出新聞社發行。京都市中京區烏丸通夷川北入。（電）代表上二五。（社史）創刊明治十二年五月京都商事迅報、後京都滋賀新報と改題、更に十八年日出新聞と改題、三十四年合資會社とし大正九年七月社長雨森菊太郎氏の歿後後川文藏氏社長となり、十四年株式に變更、昭和六年十二月歿、翌七年三月前社長息副社長晴之助君社長に就任す。株式。五十萬圓。朝刊四頁。夕刊四頁。（附錄）每日曜夕刊八頁。（社長）後川晴之助。（主筆兼編局）永原茂樹。（總務局）山本林之助。（整理兼社會）長野良雄。（營局）土井萬治。（東京支局長）太田長治。（大阪支局長）大野一平次。（機械）獨逸製高速色刷輪轉機二、內國製高速輪轉二。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。（活字）七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月七十錢。（廣告料）一圓十錢、特別面一圓五十錢。（兼營）染織日出新聞、姉妹機關に廣告代理業京華社あり。

■年中行事嵐山花火大會其他。

■十年三月一日より姉妹紙「染織日出新聞」日刊となる。

染織日出新聞 （京都日出新聞の姉妹紙）京都市中區烏丸夷川北入。創刊昭和十年三月一日。

京華日報 京都市富小路三條上ル。（電）本局五六〇〇—五六〇二。個人經營。創刊明治三十三年。夕刊四頁。（版數）四。（社長）武藤欽。（主幹）村上忠平。（主筆）高橋眞一。（編局）吉川與四郎。（營局）竹内正信。（社員）五十名。（工場員）三十名。（機械）輪轉機二。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。（活字）七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月四十錢。（廣告料）一圓十錢、場所指定料二割增、特別面二圓二十錢。

中外日報 京都七條橋畔。（電）祇園一七八七。創刊明治三十年十月一日、眞溪涙骨の一手經營。朝刊小型四頁。（社主）眞溪涙骨。（社長）同。（編輯）荒木素風。（營局）田部六郎。（東京支局）奥藤耕村。（大阪支局）三浦參玄洞。（社員）五十名。（機械）平盤二。（活字）七ポ、十四字、九十八行、十段。一箇月七十錢。（廣告料）五十錢。

みやこ日報 京都市富小路三條。（電）本局五六〇〇、五六〇一、五六〇二。個人經營。（社史）創刊昭和十年四月七日、赤色紙新聞の復活。夕刊四頁。（版數）二。（部數）十年九月一日現在九千三百部。（社主）福井佐太郎。（主幹）同。（主筆）熊川千代喜。（編輯）松浦鶴吉。（企劃）渡邊正雄。（營業）西島昭。（廣告）中田信藏。（東京支局）秋本忠。（社員）廿九名。（工場員）三十五名。（機

械)藤木式折式輪轉機二。(活字)鑄造機、ステロあり。(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月四十錢。(廣告料)一圓、場所指定料一圓廿錢、特別面二圓。

明治新聞 京都市伏見區三栖向町。(電)伏見二五五、六五五、四九五。創刊明治四十年九月六日。個人經營。朝刊四頁。(社長)中野種一郎。(主幹)藤井音次郎(營局)大塚寗太治。(機械)平盤二。(活字)九ポ、十三字、百十行、十二段。一箇月五十錢。(廣告料)六十錢。

文化時報 京都市猪熊通梅小路上ル。(電)下一五九、四七四一。創刊大正十二年二月十日。個人經營。一萬圓。朝刊中型四頁。(社長)伊藤一郎。(機械)平盤五。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)八ポ、十四字、五十八行、十一段。一箇月七十錢。(廣告料)五十錢、場所指定七十錢。(兼營)印刷部並に出版物を發行。

近畿日日新聞 京都市大宮通五條南入。(電)下五七二六。個人經營。中立。(社史)明治四十五年七月十五日近畿評論(月一回)を發行して創立し、昭和三年十二月十五日「日刊近畿日日新聞」と改題日刊となる。夕刊二頁。(附錄)四六倍判三十數頁の地方版を隔月に發行。(部數)十年九月廿五日現在三千部。(社主)堀義雄。(社長)同。(副社長)渡邊辰次郎。(主幹)櫻井星史。(編輯)社會)河井延直。(地方)橋本政行。(政治)籔内和十郎。(通信)淺田重太郎。(營業部)中居武。(社員)四十三名。(工場員)二十六名。(機械)菊判十六頁一、同八頁一。(活字)九ポ、十四字、百十二行、十一段。一箇月五十錢。(廣告料)一圓二十錢、場所指定一圓五十錢、(兼營及發行物)一般印刷物、昭和の人、稅務便覽、市會提要京都市町名錄、明治大帝國史指導書、其他單行本數十種類に上る。

京都經濟新報 京都市中京區東洞院通四條上ル阪東屋町六六四。創刊大正十年六月二十五日。株式。十二萬圓。夕刊四頁。(附錄)日刊現物仲値表。(取締役社長)榊田喜三。(主筆)山名巳之助。(機械)平盤七。(活字)七半十四字、九十行、九段。(廣告料)一圓。

京都日報 京都市中京區四條通河原町東入。個人經營。三萬圓。創刊大正二年一月十七日。朝刊二頁。(社長)大久保喜三郎。(主筆)柵橋慶治。(機械)平盤二。(活字)九ポ。

映畫毎日新聞 (京都毎日新聞の改題)京都毎日新聞社發行。京都市河原町通萬壽寺下ル西橋詰町七九〇。(電)二四一二。(社史)昭和二年五月一日。「京都毎日」として創刊し昭和十年六月一日現稱に改題。朝刊小型四頁。(版數)二。(社主)鈴木吉之助。(社長)同。(總務)鈴木熠成。(編輯)福田稔。(營業)下島爲三郎。(東京支局)清水春吉。(大阪支局)藤浪浩。(社員)二十名。(工場員)十六名。(機械)平盤二。(活字)八ポ、十三字、五十行、九段。一箇月三圓。(廣告料)一圓、場所指定二割增、特別面一圓五十錢。

丹州時報 鶴舞町堀上一八五。(電)三八、四〇一。個人經營。十萬圓。明治三十六年十月創刊。夕刊四頁。(社主)出口王仁三郎。(社長)出口伊佐男。(專務)河田孝行。(主幹)同。(編輯)小田原文雄。(社會)水島正男。(文藝)安川實。(營業)杉村葵十。(廣告)石井民之助。(大阪支局)船戸岩男。(大阪支局)青木清治。(機械)輪轉機一、平盤三。(活字)九ポ、十三字、百十五行、十二段。一箇月五十錢。(廣告料)普通七十錢、場所指定一圓二十錢、特別面同。

新舞鶴時報 京都府下新舞鶴町字濱七七七。(電)二三三。個人經營(社史)昭和四年九月廿六日創刊、他に三丹日報兩丹日日の二姉妹社を有す。夕刊四頁。(部數)十年九月一日現在六千三百部。(社長)刑部元旦。(主筆)同。(編輯)坪内雅夫。(營業)新宮信夫。(社員)二十三名。(工場員)十名。(機械)普通四頁刷り二。活字鑄造機二。一箇月四十錢。(廣告料)八十錢、場所指定三圓。(兼營)三丹新報、兩丹日日。

三丹新日報 (新舞鶴時報の姉妹紙)宮津町。(電)五六五。夕刊四頁。(部數)十年九月現在三千五百部。(社主)刑部元旦。(社長)同。(主幹)木下幸吉。(主筆)大石宏。(編輯)木下幸吉。(社員)三十五名。(工場員)二十名。(機械)三。寫眞部を新設、銅版設備あり。(活字)十四字、十二段、一箇月四十錢。

兩丹日日新聞 (新舞鶴時報の姉妹紙)綾部町。(電)二六五。創刊昭和六年九月十日。個人經營。夕刊二頁。

丹波毎日新聞 綾部町。(電)二〇四、二六六、四〇五。匿名組合。二萬圓。創刊大正十二年十二月。夕刊四頁。(社長)飯田兼治郎。(專務)飯田利三郎。(主幹)日下義雄。(編輯)山口武己。(政經)西川輝夫。(社會)藤山太郎吉。(營局)關進。(廣告)滿井巖鐵。(營業)宅間久純。(東京支局)尾崎孝子。(大阪支局)岩田庚。(工場員)二十二名。(機械)平盤十六頁二、ステロあり。(活字)七半、十五字、八十行、十二段。一箇月五十錢。(廣告料)五十錢場所指定一圓。(兼營)本社定期刊行物、日刊山陰民報、旬刊蠶糸新聞、月刊歌壇新報。

山陰民報 (丹波毎日の經營)福知山町中ノ東。(電)六七〇。創刊昭和七年二月十一日。個人經營。朝刊四頁。(社長)飯田兼治郎。(活字)七半、十五字、百二十行、十二段。一箇月五十錢。(廣告料)五十錢。

北丹時報 (新舞鶴時報の刷替)熊野郡久美濱町一一八八。夕刊四頁。(社長)刑部元旦。(すべて新舞鶴時報と同じ)

奈良縣

▼人口……六〇六、一〇〇
▼同市部……五五、九〇〇
▼同郡部……五五〇、二〇〇
▼世帶數……一二、二三〇

奈良縣は我國でも最小縣の一つである上に大阪新聞の純然たる領域で、大朝、大毎の勢力絕大記者の配置なども地元新聞の遠く及ばざる處、地元紙の不振は恰も關東に於ける埼玉縣に似てある。大朝、大毎は奈良市及び沿線へ午前一時の新聞電車で六阪を送る。新愛知は大和旭と合賣してゐる。大阪時事も奈良に通信部を設けてゐる。奈良市(人口五萬五千)には三新聞があるが、いづれも政黨機關として僅かに餘命をつなぐ狀態で、部數は多くて二千見當と見られてゐる。然るに大朝、大毎は市内だけでも各五千内外を入れ、全縣では二萬内外から四萬内外と推定されてゐる。尙先頃大和日報の前編輯長森家飛鶴君は奈良に夕刊大和新聞を發刊し相當の成績を示したが、營業方面に缺陷あり、休刊の止むなきに至つた。

奈良新聞 奈良市油阪町一。創刊明治三十一年八月七日。個人經營。民政黨。朝刊四頁。(社長)赤堀秀雄。(主筆)安田勝治。(營業)赤堀和郎。(廣告)藤田勝次郎。(機械)平盤二。ステロあり。(活字)七・七五、十四字、百三十八行、十三段。一箇月五十五錢。(廣告料)七十錢。

大和日報 奈良市角振町二。創刊明治卅五年三月一日。合名會社。五萬圓。政友系。夕刊四頁。(社主)福井甚三。(社長)同。(營業)福井壽惠。(東京支局)高島萬太郎。(社員)三十七名。(工場員)十六名。(機械)半截輪轉機西川式一。ステロ設備あり。(活字)七・七五、十五字、百三十五行、十二段。一箇月五十五錢。(廣告料)一圓、場所指定三十錢增、特別面一圓五十錢。

大和毎日新聞 奈良市小西町二四。(電)八五〇。創刊大正十二年一月廿一日。個人經營。政友系。朝刊四頁。(部數)八年九月一日現在六千五百部。(社長)西岡孝太郎。(主幹)森本長治。(營業)吉村吉三郎。(東京支局)清水萬太郎。(大阪支局)井上命驗。(社員)十五名。(工場員)廿名。(機械)平盤十六頁二。ステロあり。(活字)七・七五、十五字、百卅五行、十二段。一箇月五十錢。(廣告料)七十錢、場所指定一圓二十錢、特別面一圓五十錢。

■前社長岩本正吉君逝き、西岡君後任となる。同時に森本君主幹として入る。

大和旭新聞 (新愛知の經營)奈良市三條今井町。(電)五九九。

（社史）大正十二年十月母紙新愛知新聞附錄として發刊。朝刊二頁。（部數）四千部。（社長）大島宇吉。（編輯）榊原弘。（社員）四名。（工場員）十名。（機械）平盤四頁一。（活字）八ポ、十五字、十二段。一箇月母紙共七十錢。

■前編輯長江端豐信君國民に轉じ新愛知社會部次長榊原君同社支局長として後任となる。

中和新聞 高田市本町六。（電）三四三。創刊大正十二年九月十日。個人經營。三萬圓。夕刊小型四頁。（版數）二。（社主）木村治作。（社長）同。（主幹）木村弘。（編輯）同。（營業）石田善次。（社員）十六名。（工場員）二十名。（機械）平盤二。（活字）七・七半、十四字、四十五行、九段。一箇月三十錢。（廣告料）五十錢、場所指定六十錢。

日刊大和 日刊大和新聞社發行。五條町六六二。（電）五條二五三。創刊昭和二年七月二十五日。一萬圓。朝刊四頁。（版數）二。（社主）松本長逸。（社長）同。（營業）吉田峰一。（社員）八名。（工場員）八名。（機械）十六頁平盤二、菊四頁一。ステロ設備あり。（活字）舊、十一字、六十三行、十二段。一箇月四十錢。（廣告料）五十錢、特別面一圓。

兵庫縣

▼人口……二、七九五、五〇〇
▲同市部……一、一〇八、五〇〇
▼同郡部……一、六九〇、一〇〇
▼世帶數……五六九、七一〇

兵庫縣は關東の神奈川縣に似た位置にある。併し此處は全國一の大縣で、人口は神奈川縣より約百萬も多い爲め、大阪紙對神戸紙の對戰は、東京紙對横濱紙の對戰よりも稍大規模である。神戸市は人口八十五萬。此處を根據として神戸新聞、神戸又新の二大紙が發達した。神戸新聞は市内を第一の地盤となし、依然として地元紙の第一位を占め部數五萬前後と一部から推定されてゐる。神戸又新は郡部を地盤となし、度々社長が變更するなど、經營難が窺はれる。神戸の外姫路市（人口七萬七千）、豐岡町等も一小中心地の形をなしてゐるが、特記する程のものはない。此縣の移入紙につき某方面の推定では、大朝はインテリ層に着實な進出振りを示して八萬見當と見られ、大毎は商店街に浸入して部數略前者に匹敵する。東京紙では讀賣、中外の二紙が入り前者が一千七八百、後者が一千四五百と推定される。其他大時、大阪夕刊が多少入り大阪日日、關西日日も相當入つてゐる。

神戸新聞 株式會社神戸新聞社。神戸市神戸區榮町六丁目六一。（電）元町一五—二一、二三。株式。五十萬圓。（社史）明治卅一年二月十日創刊、四十二年十月現社長主幹として入社々務一切を總攬す、其間大正七年八月米騒動にて飛沫を受け社屋灰燼せるも休刊せず、同八年社屋建設、同九年株式會社として現在に至る。朝刊八頁。夕刊四頁。（版數）七版。（附錄）明石附錄、東播附錄、阪神沿道附錄、淡路附錄、婦人國防。（社長）進藤信譲。（專務、主幹）和田恒彦。（編局）宮本卯市。（主筆兼經濟）山澤春次郎。（整理）松末盛計。（政治）酒井正之助。（社會）平岡達治。（經理局）武田三郎二。（營局）向井勘兵衛。（廣告）延原靖。（販賣）進藤富士夫。（會計）篠原菊治。（東京支局）酒井謙吉。（大阪支局）浦戸宏藏。（機械）神戸新聞式超高速度機二、マリノニ式折疊輪轉機三、津田式折疊輪轉機一。活字鑄造機三、寫眞整版機三、モノタイプ三、コッピー機六、鉛版鑄込機三。（活字）七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月八十錢。（廣告料）一圓三十錢、特別面倍額。

■十年五月十一日新通信社創立準備委員會に參加す。

■同七月一日三萬餘圓を募集して湊川公園に建設したる楠公銅像を神戸市に寄附す。

■同九月より廣告料を行十錢値上げをなす。

神戸又新日報 神戸市榮町六ノ一一。（電）元町五〇—五四。株式。四十萬圓。（社史）創刊明治十六年四月一日、二代目社長渡邊尚氏の時代株式となり北尾清、間野了、高木藏吉、中

井一夫諸社長を經て現社長となる。朝刊八頁。夕刊四頁。（版數）五版。（附錄）サービス又新、タブロイド版四〇頁年四回。（社長）小畑虎之助。（副社長）中井一夫。（支配人）富家榮。（主幹）奥平弘之。（編局）山岸貫。（整理）宮野二郎。（經濟）高田耕治。（廣告）平垣六彌太。（寫眞）岡部勝雄。（販賣）蔭山晃芳。（工場）青山高治。（東京支局）武田津伍市。（大阪支局）成井貞雄。（社員）二百七十名。（工場員）二百五十名。（械機）又新式高速度四、マリノニ輪轉機二。活字鑄造機十五、寫眞製版機六、凸版製版機五。（活字）七ポ、十五字、百五十六行、十三段。一箇月八十五錢。（廣告料）一圓二十錢、特別面二圓四十錢。

神戸日日新聞 神戸市湊東區楠町七丁目三三ノ一。（電）元町二七八、八三〇、三〇〇七。創刊大正十一年一月四日。株式。十二萬圓。夕刊四頁。（版數）三版。（附錄）株式相場表、生絲相場表、米穀相場表、競馬附錄。（地方版）東播、明姫、淡路、有馬。（社長）岡田定信。（主筆）梅木憲一郎。（編輯）吉岡正春。（營局）井澤進。（廣告）山下太三郎。（販賣）河野正一。（東京支局）飛鳥江亮智。（大阪支局）遠藤信一。（社員）六十一名。（工場員）五十二名。（機械）輪轉機二、ロール十。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。（活字）七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月五十錢。（廣告料）一圓、場所指定十錢增、特別面倍額。（兼營）神戸證券日報、現物日報、蠶糸絹業版、中央市場版。

神戸タイムス 神戸市花隈町一〇九。創刊昭和三年三月十六日。合資會社。七萬圓。夕刊四頁。（版數）二版。（社長）舟橋靜一。（主筆）梅田梅次郎。（編輯）德大寺康武。（廣告）津田四郎。（機械）マリノニ式大型輪轉機一補助十六頁平盤印刷機一。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。（活字）七半、十五字、十三段。一箇月五十錢。（廣告料）一圓。

兵神日報 神戸市兵庫區江川町卅五。（電）兵庫一〇一三。個人經營。三萬圓。（社史）明治廿九年十月一日神戸米株取引所並に神戸正米市場の機關紙として創刊、爾來菅沼、鳥海兩氏の手を經て今日に至る。夕刊四頁。（版數）二版。（社主）畠田淳郎。（社長）同。（顧問）森本和一郎。（主幹）竹安寅男。（主筆）中道政二。（營部）安阪米藏。（東京支局）谷武久。（社員）七名。（工場員）十八名。（機械）廿四頁一、十六頁二、六頁一、フート一。（活字）九ポ、十二字、百廿行、十二段。一箇月六十五錢。（廣告料）四十錢、特別面六十錢。（兼營）印刷業。

神戸米肥市場日報 神戸市兵庫區松屋町二四。（電）兵庫二二六〇、二六〇。創刊大正四年株式。十萬圓。夕刊四頁。（社長）平松力松。（編輯）國廣藤五郎。（社員）十九名。（工場員）十六名。（機械）小型輪轉一、平一。（活字）七・七五、十二段。一箇月九十錢。

ザ・ジャパン・クロニクル（英字紙） 三宮市。創刊明治三十二年七月十七日。八頁。個人經營。（社長）ドグラス・ジョージ・ヤング。（主筆）エー・モルガン・ヤング。（機械）十、ライノタイプ五。（活字）歐文七段。一箇月三圓。（廣告料）一吋三圓五十錢。（兼營）印刷業。

神戸ヘラルド（休刊中）（英字紙） 株式會社神戸大阪プレス社發行。神戸市神戸區海岸通一丁目二。（電）三宮九八一、二九八四。株式。三萬六千圓。創刊明治三十二年七月十七日。

中國日日新聞 姫路市東紺屋町八。（電）五一〇、一九三三。創刊明治四十五年三月。株式。二十萬圓。夕刊四頁。（版數）二。（附錄）隣郡各附錄。（取締役）内田良弘。（取締役營部）山本兼太郎。（編輯）梶秀也。（政治）黒臺和郎。（社會）堀江玄洋。（經濟）渡邊和吉。（庶務）淺田榮治。（東京支局）松本七五郎。（大阪支局）松下兵馬。（社員）五十八名。（工場員）四十五名。（機械）佛國マリノニー式輪轉機一、平盤二。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。（活字）七半、十五字、百四十五行、十二段。一箇月五十五

錢。(廣告料)一圓、場所指定一割增、特別面倍額。

■豐岡町の但馬日日新聞を兼營す。

關西日日新聞 明石市弓町。(電)六七五。株式。三萬圓。(社史)明治三十八年八月二十五日創刊、元明石錦城新聞から播磨日報に改題し大正十二年株式組織に改め更に關西日日新聞と改題と同時に明石新聞を買收合併す。夕刊四頁。(部數)昭和十年九月三十日現在三千五百部。(社長)福田正俊。(專務)福田健一。(常務)長田正一。(主筆)福田正俊。(編部)長田正一。(營部)福田健一。(社員)十一名。(工場員)十八名。(機械)輪轉機一。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七半、十五字、九十六行、十二段。一箇月五十五錢。(廣告料)一圓十錢、特別面倍額。

三丹日日新聞 豐岡町。創刊昭和三年十月三十日。株式。六萬圓。夕刊四頁。(地方版)丹波日日新聞、丹後日日新聞。(社長)澤田敬三。(主筆)武田一三。(編輯)中山仁平。(營業)四村俊一。(廣告)上田庫一。(機械)輪轉機一、平盤二。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七半、十五字、十二段。一箇月五十五錢。(廣告料)一圓。

但馬日報 豐岡町永井。(電)五一九、三四三。株式。五萬圓。夕刊四頁。(版數)一。(附錄)月刊家族雜誌、但馬各郡附錄。(社長)林義夫。(專務)武井貞一。(常務)田中金太郎。(支配人)綿貫義則。(營局)竹中信夫。(社員)三十名。(工場員)二十名。(機械)マリノニ式輪轉機一、平盤十六頁二、八頁一。活字鑄造機一、寫眞設備あり。(活字)七半、十五字、百四十五行、十二段。一箇月五十錢。(廣告料)一圓、場所指定倍額、特別面二割增。(特設)寄宿舍、大講堂。

美囊毎日新聞 三木町福井一六六二。創刊昭和三年四月三日個人經營。夕刊二頁。(主幹)石川利右衛門。(主筆)佐藤健治。(編輯)川崎稔。(工場員)十一名。(機械)平盤二。(活字)七・七五、十五字、十二段。一箇月三十五錢。(廣告料)一圓二十錢。

淡路又新日報 淡路洲本町。個人經營。四萬圓。(社史)大正七年一月二十五日創刊、當初隔日發行の處大正十一年十一月より日刊に改め今日に至る。朝刊四頁。(附錄)日曜附錄。(部數)十年九月末日現在七千五百餘部。(社主)堀口勝。(社長)同。(副社長)鎌田衞。(專務)樋口俊平。(編輯)社長兼任。(社會)長澤藤太郎。(政治)田近董光。(營業)宮本義也。(社員)二十七名。(工場員)十四名。(機械)八頁ロール二。ステロ、寫眞製版特約あり(活字)九ポ、十二字、六十九行、九段。一箇月四十錢。(廣告料)八十錢、場所指定倍額、特別面二圓。

淡路新聞 洲本町幸七八。(電)六五。匿名組合。五萬圓。夕刊四頁。(部數)九年八月末日現在三千五百六十四部。(代表)安倍長太郎、前川正美。(編輯)同。(營部)山口平藏。(社員)二十七名。(工場員)十二名。(機械)五馬力動力二、手押一、足踏一。ステロ、設備あり。(活字)九半十二字、六十四行、十二段。一箇月五十錢。(廣告料)五十錢、場所指定二倍、特別面三倍。

淡州日報 洲本町。創刊大正十四年。個人經營。朝刊二頁。(社長)辻村嘉一。(編輯長)野村光雄。(營業)片山伊平。(機械)平盤二。(活字)九ポ、十二段。一箇月四十錢。

和歌山縣

▼人口……八六五、一〇〇
▼同市部……二三三、一〇〇
▼同郡部……六三二、八〇〇
▼世帶數……一七、二〇〇

和歌山縣は大阪新聞の領域である上に、地元新聞の數が人口の割に多く、且つ小中心地が散在する爲め大をなすものがない。併し人口十七萬一千の和歌山市を根據とする和歌山日日新聞及び和歌山新報は北部に讀者を持ち、南部では紀伊線の南下で田邊町の紀伊新報、熊野太陽が活氣を呈してゐる。外に新宮市(人口二萬九千)も小中心地の觀を呈し、二三の新聞が發行されてゐる。大阪紙では大朝は編輯に

勝り、大毎は販賣に勝ると云はれる。

和歌山日日新聞 和歌山市四番町一。(電)六八五、一九二八。株式。八萬圓。夕刊四頁。(附錄)こども新聞毎週四頁。(部數)九年現在一萬部。(社長)山崎傳之助。(編局)辻悌次。(營局)岡本繁一。(東京支局)松浦清平。(大阪支局)竹田津吾一。(社員)三十八名。(工場員)四十五名。(機械)輪轉機一、ロール四。活字鑄造機、ステロ、寫眞版完備。(活字)七半、十五字、百四十四行、十二段。一箇月四十五錢。(兼營)印刷業。

和歌山新報 和歌山市本町四丁目。(電)一七六七。匿名七萬圓。創刊明治二十五年八月一日。朝刊四頁。(社主)三井茂。(社長)久下豐忠。(主幹)三井茂。(主筆)松本周造。(編輯)上田常隆。(營局)信定有隣。(機械)西川式輪轉機二。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七半、十五字、百五十五行、十三段。一箇月四十五錢。(廣告料)一圓。

和歌山日報 和歌山市小人町一。創刊大正十二年四月十八日個人經營。朝刊四頁。(社長)津田清矢。(編輯)堀切賢太郎。(營業)津田禮作。(機械)平盤五、ステロあり。(活字)七・七五、十五字、百三十五行、十二段。一箇月四十五錢。(廣告料)一圓。

紀伊朝日新聞 和歌山市道場町六八。創刊昭和四年十二月二十七日。個人經營。(社長)松本米次郎。(編輯)玉井義一。(營業)山路繁次郎。(廣告)田村義文。(機械)平盤二。(活字)十三字。十二段。一箇月四十五錢。(廣告料)一圓。

紀伊新報 田邊町大字中屋敷町。(電)一七三。個人經營。創刊明治四十四年二月十一日。朝刊四頁。(版數)一。(部數)九年八月末日現在七千二百五十部。(社主)小山邦松。(社長)同。(編局)玉井源治。(文藝)植本定一。(社會)熊本正一。(營局)小林義一。(廣告)小山米次郎。(社員)二十一名。(工場員)十七名。(機械)輪轉機一、平版一。ステロあり。(活字)九ポ、十三字、百二十行、十二段。一箇月五十五錢。(廣告料)二十五錢、特別面五十錢。

熊野太陽 田邊町中屋敷町。(電)五一五。合資。二萬圓。(社史)創立大正十二年九月二十四日隔日刊行、同十四年一月一日日刊變行、昭和五年一月一日無休刊。朝刊四頁。(部數)十年六月末日現在七千五百部。(社主)室井嚴。(社長)同。(副社長)田安德太郎。(專務)田淵幸吉。(常務)室井勝。(支配人)松本葉芳。(主幹)室井月男。(主筆)岡本登。(編輯)田安德太郎。(營業)田淵幸吉。(東京支局)漆原一衞。(大阪支局)上村弘。(社員工務員)二十九名。(機械)輪轉機一、平盤一。ステロ一。(活字)九ポ、十二字、九十五行、十三段。一箇月五十錢。(廣告料)一、三面一段五圓、場所指定二、四面二圓、特別面行二十錢。

田邊新報 田邊町片町一一四。創刊大正三年六月二十五日。個人經營。夕刊四頁。(社長)川崎竹松。(編輯)井上義次郎。(營業)矢倉福太郎。(機械)平盤一。(活字)九ポ、十三字、百十三行、十二段。一箇月五十錢。

熊野實業新聞 新宮市新宮三四一。(電)一四二。個人經營。五萬圓。(社史)明治卅三年四月五日の創刊、卅七年一時隔日刊行となり曲折を經て十數年前日刊に復活し舊五號活字を九ポに改む。夕刊四頁。(版數)一版。(部數)九年九月一日現在三千部(社主)池田晉。(社長)同。(主筆)同。(編輯)若林憲一。(政治)谷瀨一風。(營業)池田千代。(社員)五名。(工場員)十二名。(機械)平盤十六頁一、八頁一、六頁一、(活字)九ポ、十三字、百卅行、十二段。一箇月七十錢。(廣告料)一圓。(兼營)印刷業。

熊野毎日新聞 新宮市新宮七六八三。創刊大正二年三月二十七日。個人經營。六千五百圓。民政系。夕刊四頁。(社長)榎本廣太郎。(編輯)榎本清。(機械)平盤三。(活字)舊、十一段。一箇月七十錢。(廣告料)五十錢。

熊野新報 新宮市新宮七六八四創刊明治二十九年十二月一日。個人經營。二萬圓。夕刊四頁。(社長)倉本盛三郎。(營業)乾辰

彦。(機械)平盤三。(活字)舊、十三段。一箇月七十錢。(廣告料)三十錢。

民聲日報 新宮市新宮六九三四(電)五一六。個人經營。一萬圓。創刊明治四十三年十二月十五日夕刊四頁。(版數)一。(社長)天野日出吉。(編輯)同。(營部)松原武夫。(東京支局)石龜保。(機械)平盤。(活字)舊、十一字、七十行、十二段。一箇月五十錢。(廣告料)二十錢、場所指定五十錢。(兼營)熊野商工興信所。

新宮日報 新宮市新宮八四三。創刊昭和九年五月。個人經營。四千圓。夕刊。(社長)佐野寛考。(編輯)前倉重三。(機械)平盤二(活字)十一段。一箇月六十錢。(廣告料)二十錢。

紀州毎日 紀州毎日新聞社發行 御坊町。(電)三二九。五萬圓。昭和七年一月十日創刊。夕刊四頁。(部數)十年九月一日現在五千三百廿部。(社主)瀬戸李次郎。(社長)同。(支配人)瀬戸李次郎。(主幹)野田允太。(主筆)相台文五郎。(編輯)野田允太。(營業)瀬戸李次郎。(廣告)中根德静。(販賣)渡邊哲。(大阪支局)阪本恭雄。(社員)十二名。(工場員)十四名。(機械)十八頁平盤三、十六頁一。(活字)十三字、十二段。一箇月四十五錢。

紀南新聞 御坊町。(電)一〇三個人經營。創刊明治卅五年五月卅一日。朝刊四頁。(部數)九年九月一日現在二千部。(社主)松本眞一。(社長)同。(支配人)雜賀勢次郎。(主幹)茶山太郎。(營業)松本功。(社員)二十名。(機械)平版一。(活字)十二字、六十五行、十一段。一箇月五十五錢。

日高新報 御坊町薗二七一。創刊昭和三年九月。匿名組織。三萬圓。朝刊四頁。(社長)夏見康太郎。(主筆)多田進。(營業)松本榮太郎。(機械)平盤一。(活字)九ポ、二段。一箇月四十五錢。(廣告料)二十五錢。

又新日刊 高野口町。(電)一六一九。創刊大正十二年五月五日個人經營。夕刊四頁。(地方版)南和版。(社主)南方楠一。(社長)南方仙羊。(主筆)北村恒春。(大阪支局)小南友一。(機械)平盤三。(活字)十五字、七十五行、十二段。一箇月五十五錢。(廣告料)三十錢、場所指定五十錢、特別面一圓。

紀北日日新報 粉河町。(電)二七、一一五。個人經營。五萬圓。(社史)創刊大正四年六月、時事評論より時事日報と變更し紀北日日新報となる。夕刊四頁。(社長)山田旭。(副社長)山田稔。(專務)薗田政雄。(主筆)平井勝司。(編輯)九野九民。(營業)薗田政雄。(東京支局)淺子藤作。(大阪支局)西口清雄。(社員)十六名。(工場員)十名。(機械)輪轉機一、平盤機械二。(活字)九ポ、十二字、六十行、十三段。一箇月五十五錢。

南海時報 箕島町。(電)一三七。創刊大正十二年三月十一日。個人經營。二萬圓。夕刊四頁。(版數)一。(社長)宮本熊吉。(社員)九名。(工場員)十三名。(機械)平盤三。(活字)舊、十二字、九十六行、十一段。一箇月五十錢。(廣告料)十錢、特別面十五錢。(兼營)活版印刷一切、其他附帶事業一切。

三一日報 串本町。(電)一〇五。創刊昭和二年一月一日。匿名組合。一萬圓。夕刊四頁。(版數)二。(社長)神田肅。(營業)太平熊太郎。(社員)八名。(工場員)十三名。(機械)平盤ロール三。一箇月五十錢。

(八) 四國

徳島、香川、愛媛、高知の四國四縣は、中國地方と共に、關西地方に次ぐ大阪新聞の地盤である。從つて到る處大阪紙の侵入の爲めに惱まされざるはなく、殊に滿洲事變以來それが悲だしい。僅かに土佐の高知新聞あたりが地理的關係の爲めにその壓迫から緩和されてゐる。又四國でも香川縣方面には大阪新聞の外、岡山の新聞も相當に侵入しつゝある。

徳島縣

▼人口……七七七、八〇〇
▼同市部……九五、五〇〇
▼同郡部……六四二、三〇〇
▼世帯數……一四七、五六〇

大阪新聞の侵入烈しく、殊に昭和十年一月大朝、大毎兩紙に販賣協定の出來るまでは、猛烈な濫賣が行はれたので、地元新聞の惱まされる事一通りでなかつた。併し地元に新聞の數が少ない爲め、人口九萬五千の徳島市を根據とする徳島日日、徳島毎日の二紙はよく大阪紙の壓迫に堪へ、從氣な奮鬪を續け、其の牙城を守つて來た。その部數は兩紙とも二萬を出でず、勢力殆んど伯仲の間と見られ、大毎、大朝は、双方一萬程度と推定する向がある。尙地元兩紙はお互ひに相當激しい競爭を續け徳島日日は東讃、淡路に、徳島毎日は香川縣の一部に進出してゐる。

徳島日日新報 徳島市富田浦町六四。(電)二〇二四、二九三三、三二三三、三七二五。創刊明治九年四月。株式。十五萬圓。朝刊四頁。夕刊四頁。(社長)松島肇。(專務)市原狸之。(常務)高橋盛二、松島圓。(理事)湊次郎。(支配人)岡哲。(主幹)市原狸之。(編局)同。(社會)高田廣一。(政治經濟)竹谷觀吉。(學藝)横山春茂。(寫眞)清水長藏。(校正)清久輝男。(營局)高橋盛二。(廣告)岡哲。(販賣)井澤龍二。(會計)郡幸三郎。(計畫)湊次郎。(東京支社長)高橋憲治。同主事佐藤精一。(大阪支局)平山正隆。(社員)二百十一名。(工場員)八十四名。(機械)東京機械折疊式及色刷機付高速機二、活字鑄造機、ステロ、寫眞製版機、凸版製版機一。(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月七十五錢。(廣告料)一圓、場所指定五割增、特別面三圓。

■十年高松市に通信支局を新設 ■同六十周年に當り松島肇君を社長に迎へ、秋季讀者サービスとして四國最初のプロフエショナルベースボール東京巨人軍を招聘す。

徳島毎日新聞 徳島市寺島町。(電)二〇〇五、二〇五〇、三二三五、三八九二。株式。七萬圓。(社史)明治三十一年六月十五日創刊、大正十一年秋今上陛下尙東宮に在したる時縣下に行啓特に縣下各新聞中より本紙を撰み台覽に供せらる、昭和四年香川縣へ進出し香川支局を設け紙面一頁を之に割く。朝刊十頁。(版數)一。(地方版)香川毎日。(社長)多田爲太郎。(常務)井上一。(主筆)同。(政治經濟)炭谷松三。(社會)坂本宗一郎。(整理)小西英夫。(會計)三浦善助。(廣告)土橋二郎。(販賣)秋田文吉。(市内販賣)佐藤十二郎(東京支局)前田亮。(大阪支局)廣瀨勝。(香川支局)多川義明。(社員)百五名。(工場員)九十二名。(機械)内國製高速度輪轉機八頁掛二、自動折疊機八頁掛二、色刷印刷機同二、電機發動機五、瓦斯發動機一、瓦斯發生機一、送風排氣機一。萬年自動鑄造機一、字母設備完備、ドライマツター壓搾機一、コツピー機三、自動冷却鑄込機二、自動鉛版仕上完成機一、寫眞製版機一、凸版一。(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月八十錢。(廣告料)一圓、場所指定五割增、特別面三圓。

南海日日新聞 撫養町。(電)二七八。個人經營。二萬圓。(社史)大正十四年十二月五日創刊。昭和四年五月神戸新聞淡路附錄となり、その後附錄關係を絶つて七年八月本社を現在に移す、九年十月更に大阪時事と提携し合配す。朝刊四頁。(版數)三版。(地方版)神戸通信、三好版、淡路附錄。(部數)十年九月二十日現在七千八百五十部。(社長)辻村嘉一。(副社長)片山伊平。(主筆)辻村嘉一。(編輯)眞鍋武人。(政治)板東秋岳。(社會)立成義藏。(營部)片山伊平。(販賣)村上正一。(廣告)大久保義夫。(大阪支局)山田天羊。(社員)十八名。(工場員)二十四名。(機械)四六十六頁機二、六頁寸延一。ステロ設備あり。(活字)七・五、十五字、百四十四行、十二段。一箇月五十錢。(廣告料)十五錢、場所指定二割增、特別面七十錢。■撫養町を初め近郊二十ケ町村の大阪時事新報の販賣を爲し本紙と合配す。

香川縣

▼人口……七六八、八〇〇
▼同市部……二二五、八〇〇
▼同郡部……六四三、三〇〇

▼世帶數……一五一、七三〇

此處も大阪新聞の侵入急であるが、殊に七年二月上海事變に善通寺第〇〇〇團が出動したのを機會に大朝、大毎が大擴張を行つたので地元新聞は愈々やり惡くなつた。それに大阪時事が入り、對岸岡山からは中國民報が新聞輸送船まで設備して入つて來る。併し新聞の數が少ない爲め人口八萬六千の高松市を根據として政友系の四國民報、民政系の香川新報の二紙が全縣的に勢力を維持してゐる。尚、此縣では十年夏暴力團狩りの爲めに小型日刊關西新報と魁新聞の二紙が廢刊して、前掲二紙の對立となつた。又大朝、大毎では前者にやゝ歩ありと見られ、寥々たる東京紙の中では讀賣が四國民報の手で千部足らず出てゐる

四國民報 高松市西內町。(電)二〇二一、二八五一、四〇二六、四二七七。個人經營。十萬圓。(社史)香川縣最古の「腰ぬけ新聞」に端を發し明治三十五年十一月三日讃岐實業新聞と題して日刊紙となり、大正七年四國民報と改題し株式組織となりしも昭和六年解散し個人經營となる。朝刊四頁。夕刊四頁。(地方版)東豫版、臺灣版。(社長)東山半之助。(主幹)同。(理事編部)安德作太郎。(理事總務)石川要。(理事營局)水野正義。(理事廣告)加島彌太郎。(經理)水野正義。(販賣)高畑喜德。(用度)蓮井新太郎。(理事東京支局)松本七五郎(理事大阪支局)川久保信次。(社員)四十五名。(工場員)六十二名。(機械)マリノニ式大型輪轉機一、三色刷輪轉機一、十六頁機一、八頁機二。活字鑄造機、ステロ、寫眞版完備。(活字)七ポ、十五字、百五十六行、十三段。一箇月七十五錢。(廣告料)七十錢、特別面及色刷一圓四十錢。

■營業局に情報部ありて全廣告主のために北四國一圓の宣傳、廣告一切の調査、報告、實行等の無料奉仕をなす。

■香川縣下のスポーツ、映畫、講演、文化、教化の各種催し物行事等にして四國民報の干與せざるもの殆どなし。昭和九年中の主催事業六十餘回に上れり。

香川新報 高松市濱町一二(電)二〇〇七、二〇〇八。個人經營。三十萬圓。(社史)明治二十二年四月十日創刊にして爾來年を重ぬる事四十餘年、四十三年四月鐵筋コンクリートゴシック式三層樓の現社屋を新築し五年十一月紙面を八頁に擴大して朝夕刊二回發行を斷行す。朝刊四頁。夕刊四頁。(社主)小田榮治。(社長)同。(編局)和田雄三。(營局)宮田信浩。(東京支局)林省三。(大阪支局)雜賀武雄。(機械)四國製高速輪轉機一、內國製平盤印刷機五。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七ポ、十五字、百五十四行、十三段。一箇七十五錢。(廣告料)七十錢。場所指定一圓四十錢、特別面一圓四十錢。

■十年度主筆和田薫君退社す。

愛媛縣

▼人口……一、二七、五〇〇
▼同市部……一九六、四〇〇
▼同郡部……九六、一〇〇

▼世帶數……三三、七〇〇

愛媛縣は人口四國第一で教育普及し富力もあり、可也に活氣を呈してゐる。併し大阪紙の侵入急な上に政爭烈しく、爲に新聞勢力が幾つにも分裂され、四國には珍らしく新聞の數が多い。地元紙の中最も有力とせられるのは人口八萬八千の松山市を根據とする海南新聞、愛媛新報、伊豫新報の三紙で、人口五萬五千の宇和島市を根據とする南豫時事新聞も近時潑剌たる勞ひを示してゐる。尚又近來今治、八幡濱あたりからも頻りに小新聞が發行されつゝある。

海南新聞 松山市南堀端町十七。(電)一六八、八七一、一八二、九九四、一三九五。株式。十四萬圓。(社史)維新の大業成り自由民權の思想膨湃たる明治九年九月創刊、奮鬪努力資本の增大、機關整備漸次發展の機運にあつたが財界の變動其他の事情に禍され大正十四年遂に社運の危機を迎へ現社長香川熊太郎氏は奮然決意し同年十月これが經營の一切を引受く。朝刊六頁。

夕刊四頁。(版數)三。(附錄)小兒ページ、青年ページ。(地方版)香川版。(社長)香川熊太郎。(副社長)香川和男。(常務)玉井喜久馬。(支配人)進藤喜四郎。(編局)松本修。(整理)同。(經濟)鹿島實。(社會)長英雄。(政治)大野彌兵衛。(運動)松本守胤。(地方)重信保太郎。(校正)桑原一郎。(寫眞)藤澤治郎。(營局)進藤喜四郎。(事業)宮內喜綱。(廣告)大倉由高。(販賣)直賣)金川繁(地方)茨城茂。(會計)田邊治壽。(庶務)用度)高市俊明。(映畫)樋口增太郎。(監査役東京支局)今井喜藏。(大阪主任)永井米逸。(工場員)五十名。(機械)折疊式一、石川式一。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月八十錢。(廣告料)八十錢、特別面一圓六十錢。(餘營)縣內に二箇所香川縣に一箇所計三箇所の常設活動館を有す其他自動車巡回活動寫眞班の設備あり。

■十年一月より十頁紙となる。

■六十周年記念として六十年間の市町村史を掲載す。

■十年二月前愛媛縣學務部長瀨谷薫君顧問として入る。

■同秋滿六十年を迎へ增頁各種の催しをなす。

愛媛新報 松山市一番町七(電)五三、四七六。株式。二十萬圓。民政系。創刊明治二十一年十月。朝刊四頁。夕刊四頁。(社長)安藤音三郎。(專務)岡田源之助。(總務局)磯本篤郎。(編局)高橋貞義。(政治)佐伯浩輝。(社會)玉井顯太郎。(經濟)佐藤孝雄。(文藝)長野友一。(運動)古田光雄。(校正)明智庸。(經理)近藤荒太郎。(營局)同。(販賣)高橋憲一。(廣告)永井義一。(事業)武田伸八。(工務)八木峯太郎。(東京支局)大久保康雄。(大阪支局)明智貞十郎。(機械)高速機一、內國製折疊式輪轉機一、コッピー機二、字母設備完備、鉛版鑄込機三、活字鑄造機二、鉛版仕上機二、寫眞製版機二。(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月七十錢。(廣告料)八十錢、特別一圓六十錢。

■十年七月前東京支局長成井君退社し大久保康雄君後任となる

伊豫新報 松山市出淵町二ノ一六。(電)一五九四、九〇三、五二二、八七二。株式。六萬圓。政友會。(社史)大正十二年八月一日創刊、昭和四年六月三十日社屋新築移轉。夕刊四頁。(地方版)二版。(社長)大本貞太郎。(常務)三好庄太郎。(支配人)安井隆。(主筆)西山鐵三郎。(編局)同。(編輯次長)澤本勝。(整理)岡崎祐雄。(社會)岩本要。(運動)鷲谷祥三。(經濟)井川重秋。(校正)藤田錄。(寫眞)釣長松。(廣告)安井隆。(販賣)德田榮吉。(會計)渡部久一。(東京支局)入江貞喜。(大阪支局)永田格太郎。(社員)百六十八名。(工場員)四十六名。(機械)輪轉機二。(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月四十八錢。(廣告料)八十錢、場所指定一圓六十錢。

■十年一月十六日社屋の一部を燒失す。

愛媛毎夕新聞 愛媛毎夕社發行。松山市大手町二ノ六二。(電)一二九六。個人經營。一萬圓。昭和八年四月十二日創刊。夕刊二頁。(版數)三。(部數)九年九月一日現在七百五十部。(社主)增田平雄。(社長)同。(支配人)小笠原孝雄。(主幹)增田平雄。(營業)西田東向。(社員)廿五名(工場員)七名。(機械)十六頁平版二、六頁寸延一。ステロあり(活字)七ポ、十五字、八十二行、十三段。一箇月二十錢。(廣告料)八十錢、場所指定倍額。

南豫時事新聞 宇和島市丸之內。(電)長四四、一〇六、一六四、二二二、六〇八。創刊明治三十五年三月五日。個人經營。十萬圓。朝刊六頁。(版數)二版(市郡)。(社主)山村豐次郎。(專務理事社代表主筆)井上雄馬(常務理事)久留島豐。(編局)小泉源吉。(編輯次長)弘田義定。(營局)辻邦之輔。(工局)岡田浩。(廣告)稻垣慶隣。(販賣)武田武。(經理)茅田信家。(東京支局)祖上祐三。(大阪支局)松下兵馬。(社員)三十二名。(工場員)十七名。(機械)輪轉機一、平盤二。ステロ、寫眞版の設備あり。(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月六十錢。(廣告料)

八十錢、場所指定一圓六十錢、特別面同。

宇和島新聞 宇和島市追手通五、創刊昭和六年十一月二十五日。個人經營。朝刊二頁。(社長)赤松桂。(機械)平盤一。(活字)七ポ、十三段。一箇月三十錢。

宇和島日日新聞 宇和島市惠美須町四九の二。創刊昭和六年十二月一日。個人經營。夕刊四頁。(社長)津村謙夫。(機械)平盤二。(活字)八ポ、十二段。一箇月三十錢。

四國日日新聞 宇和島市和靈町裏通一九四。創刊昭和八年六月一日。個人經營。夕刊二頁。(社長)菊池盛重。(編輯)中井勇。(營業)鎌江博之助。(機械)平盤二。(活字)九ポ、十二段。一箇月三十錢。

豫州日報 宇和島市鶴島町中通一。(電)八六一。株式。一萬圓。昭和十年五月十日創刊。夕刊四頁。(部數)十年九月末日現在五千部。(社長)高橋小一郎。(常務)(支配人)井上孫一。(編部)大高照吉。(社會)松浦幸雄。(營部)豐玉久雄。(社員)五十一名。(工場員)十九名。(機械)一。(寫眞版設備)あり。(活字)七ポ、十五字、一箇月三十五錢。(廣告料)五錢場所指定十錢、特別面五十錢。(兼營)諸印刷、出版業。

南豫日之出新聞 宇和島市横新町一ノ二。創刊昭和十年十月一日(發行人)武田茂喜智。

今治民報 今治市神明町。(電)八八八。個人經營。一萬圓。創刊昭和六年四月五日。夕刊二頁。(版數)二。(附錄)地方年鑑。(地方版)週一回。(社主)鶴井芳晴。(社長)同。(支配人)鶴井猛。(主筆)龜井芳晴。(營部)浪花彰。(大阪支局)牧野成美。(機械)平盤二。(活字)七・七五、十三字、八十行、十四段。一箇月四十錢。(兼營)日刊東豫日日新聞發行。

■夕刊四頁發行の計劃あり。

東豫日日新聞 (今治民報の姉妹紙)今治市神明町。

今治時報 今治市榮町六三〇。創刊大正十四年三月五日。個人經營。夕刊二頁。(社長)岩本要。(主筆)同。(營業)寄能勝一。(機械)平盤一。(活字)七・七五、十二段。一箇月四十錢。

今治商工新聞 今治市住江町二ノ五五四。(電)三〇八、六九八、八八九、一二〇。個人經營。三千圓。創刊昭和五年十一月一日。夕刊二頁。(部數)十年十月廿三日現在九百二十六部。(社主)渡部幸四郎。(社長)同。(社員)六名。(工場員)四名。(機械)八頁二。(活字)八半、十四字、八十三行、十二段。一箇月三十五錢。(廣告料)二圓、特別面倍額。(兼營)通信業(昭和六年一月以來)(特設)松山今治間現在二十六回三十二通話豫約電話開通近く大阪直通計劃。

八幡濱毎夕新聞 八幡濱市一五〇四。(電)四〇七。個人經營。一萬圓。創刊大正十五年二月一日。夕刊小型四頁。(地方版)保内毎夕新聞、宇和毎夕新聞、三夕新聞。(部數)九年八月末日現在五千部。(社主)川尻茂平。(社長)同。(支配人)二宮恒一。(營部)瀧野新吉。(社員)七名。(工場員)十二名。(機械)平盤八頁一、六頁一。(活字)七・七五、十五字、五十行、八段。一箇月五十錢。(廣告料)二十錢。場所指定倍額、特別面三倍。(兼營)新聞雜誌專門印刷。

八幡濱日日新聞 八幡濱市一五五十。(電)一九七。創刊昭和五年八月一日。個人經營。五千圓。夕刊二頁。(社主)坂本高積。(社長)同。(主筆)稻垣正孝。(營業)今泉艷治。(社員)五名。(工場員)五名。(機械)菊版八頁一。(活字)七・七五、十五字、十二段。一箇月五十錢。(廣告料)六十錢場所指定一圓廿錢。

八幡濱新聞 八幡濱市一三五五ノ一。(電)四三八。個人經營。四千圓。創刊昭和二年七月二十三日。夕刊小型四頁。(社主)松井松之助。(社長)同。(社員)三名。(工場員)四名。(機械)平版一。(活字)七・七五、十五字、十段。一箇月五十錢。(廣告料)五十錢。

民友新聞 民友社發行。西條町四軒町五〇〇。(電)二二六。一萬圓。(社史)三十年間各地を轉々新聞生活を續けた。句理想的小新聞を以て滿足しつゝあり。大正十三年十月十五日旬刊創立昭和四年一月元旦日刊に改む。

夕刊小型二頁。(社主)森本茂馬。(社長)同。(主筆)同。(編輯)多田六郎。(營業)内田蕙。(社員)七名。(工場員)七名。(機械)動力二。(活字)八ポ、十三字、四十六行、十段。一箇月三十錢。(廣告料)八十錢、場所指定五割增、特別面三割增。(兼營)代理部にて委託品取扱ひ。

宇和毎夕新聞 宇和町卯之町創刊昭和九年十一月一日。個人經營。夕刊二頁。(社長)新瀬綾夫。(營業)門多武三郎。十二段。一箇月四十錢。(廣告料)五十錢。

東豫タイムス 新居郡泉川村四七八〇。創刊昭和八年。個人經營。朝刊二頁。(社長)仙波萬太郎。平盤一。十三段。一箇月六十錢。

高知縣

▼人口……七四三、五〇〇
▲同市部……一〇七、一〇〇
▼同郡部……六三五、四〇〇
▼世帶數……一四八、五〇〇

大阪紙の脅威を受けること比較的に少く、且つ人口十萬七千の高知市を中心として最近まで民政系の高知新聞、政友系の土陽新聞のたゞ二つしかなかつた爲め、永らく經營は比較的樂とせられてゐたが、偶々土陽新聞の蹉跌があつて、同紙は高知新聞の經營に移り、六年八月には高知日日が新に發刊され、而もそれは最近に至り政友會支部の機關紙に指定された。此處に於て土陽新聞によつて統一されてゐた政友系勢力は二分される事となり、更に十年十一月から土讃線が全通するので、移入紙の爲めには大道が開かれる事となつて、高知新聞界は愈々これより多事ならんとしつゝある。併しその來るべき變化は兎も角として、現在(十年九月)に於ては、高知新聞が依然として王座を占め、土陽は上述の理由から大分高知日日の侵略する處となり、部數は高知新聞を二萬とすれば土陽、日日は五六千程度と觀測され、移入紙では大朝が一時一萬以上であつたが取次店の内紛から激減して今では大毎と同じく八千程度と見られてゐる。

高知新聞 高知市本町。(電)代表一三十〇。株式。十五萬圓。創刊明治三十七年九月一日。朝刊八頁。夕刊四頁。(取締役)富田幸次郎、西本直太郎、松村正太郎、池和速水、(社長)野中楠吉。(主筆)田村全宜。(編局)中島成功。(通信)中島及。(經濟)高橋幸吉。(編輯)中島成功。(政治)中島及。(營局)高橋直通。(同次長)佐井一杉。(販賣)同。(廣告)高橋直通。(會計)喜多源馬。(東京支局)栗屋結城。(大阪支局)井上環。(社員)二百名。(工場員)百名。(機械)高速度輪轉機一、折式色刷輪轉機一、石川式輪轉機一。ロール一、活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月八十錢。(廣告料)六十錢、場所指定九十錢。特別面九十錢。

■十年五月十一日新通信社創立準備委員會に參加す。

■同年六月所有機により高知、德島、大阪を結ぶ郵便航空路の新設を申請す。

■同年八月定期郵便機として海軍機二機の拂下げを受く。

土陽新聞 高知市本町三一五。(電)一三七五—八。株式。八萬圓。政友。創刊明治十年。朝刊四頁。夕刊四頁。(版數)二。(社長)橋田早苗。(常務)中川恒之。高橋直通。(主筆)千頭亨。(編局)中川恒之。(編輯社會)和田知水。(政治經濟)淺井茂猪。(地方)山崎在。(營局)高橋直通。(廣告)同。(販賣)小笠原高義。(會計)野村貞太郎。(東京支局)栗屋結城。(大阪支局)井上環。(社員)百名。(工場員)五十名。(機械)輪轉機石川式折式色刷一石川式一。活字鑄造機、ステロ、寫眞版あり。(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月六十五錢。(廣告料)六十錢、場所指定九十錢、特別面同。

高知日日新聞 高知市種崎町一六。(電)五九、一三三八、二二七三。株式。五萬圓。(社史)土陽新聞が高知新聞に資本の併合をされるに及び、記事並に廣告等に於ける高知新聞の獨占に對抗する爲め昭和六年八月個人經營による四頁日刊紙として創

刊、十年四月十五日株式會社に組織を變更、朝夕刊共八頁となる。朝刊四頁。夕刊四頁。(版數)二版。(部數)昭和十年十月廿五日現在一萬五千部。(社長)畠中卓爾。(副社長)中島長治。(常務)中平利彦。(主幹)六久保一永。(主筆)小原騮馬。(編局)片岡良主。(編輯)大坪茂吉。(營局)吉村敏男。(廣告)竹内德男。(東京支局)森田幸雄。(大阪支局)永田正明。(社員)百五十名。(工場員)七十名。(機械)東京機械高速度輪轉機一。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月六十五錢。(廣告料)五十錢、場所指定七十五錢、特別面七十五錢。

■從來高知土陽兩紙に掲載しつゝありし高知地方區裁判所の登記廣告は昭和十年度より兩紙を廢し、本縣に於いて本紙のみに掲載されるに至れり。

■昭和十年三月社屋の新築工場並に諸設備を完備し、紙面刷新充實す。

■各縣の特産品見本市、縣外觀光客誘致等の計劃の外、頁數に於いて更に四頁を增加すると共に輪轉機增臺の計劃あり。

■十年四月株式に組織變更、新社屋に移轉、高速機購入を決す

■同八月一日より八頁となり購讀料四十五錢を六十五錢とす。

高知每日新聞 高知市下知。(電)二二三三。個人經營。三萬圓。(社史)昭和九年十月一日高知每夕新聞の名稱により創刊、同十年四月一日夕刊を廢止し高知每日新聞に變更。朝刊四頁。(部數)十年九月二十五日現在三千五百部。(社主)津村久茂。(社長)同。(主幹)柊柴朗。(主筆)同。(編輯)山中多朗。(營業)岡本芳五郎。(大阪支局)江口俊介。(社員)二十五名。(工場員)十六名。(機械)平盤三。ステロ、寫眞版あり。(活字)七ポ、十五字、九十五行、十三段。一箇月五十錢。(廣告料)五十錢、場所指定五割增、特別面同。(兼營)一般印刷單行本。

■株式組織(資本金十萬圓)輪轉機設置の計畫あり。

(九) 中國

鳥取、島根、岡山、廣島、山口の中國五縣は關西地方につぐ大阪新聞の根據地で、到る處に大阪新聞が侵入し、又十年春から大朝、大每が各門司で朝夕刊を印刷する事となつた爲め、山口縣方面では特にその脅威を避け難くなつた。併し廣島、岡山等は大縣であり、又廣島、吳、岡山、下關等の大都市が點在するので、各地に相當の新聞が發達した。中にあつて最も有力とせられるのは岡山市の中國民報、山陽新報、廣島市の中國新聞、藝備日日新聞等で、下關市の關門日日新聞、松江市の松陽新報等これにつぐ。而して廣島、岡山等の新聞は他縣にまで進出し紙面の體裁規模等に於て地方紙中の一流に伍するものである。

鳥取縣

▼人口……五〇三、八〇〇
▼同市部……八〇、三〇〇
▼長郡部……四三、五〇〇
▼世帶數……一〇〇、一六〇

全國での最小縣である上に新聞中心地が鳥取(人口四萬三千)、米子(人口三萬六千)の二市に分れてゐる爲め、地元新聞は不振を免かれない。それに大阪紙が其日の未明に着く有樣である。大朝、大每の二紙は勢力殆んど伯仲の間にあり、絶えず猛競爭を續け、更に岡山から中國民報が侵入してゐる。

因伯時報 鳥取市西町三一九。(電)一三六、八一六。株式。十萬圓。政友會。(社史)明治二十五年二月六日創刊、昭和九年二月木村清一君社長に就任、公布式登記公告掲載紙。朝刊四頁。(社長)木村清一。(主筆兼編輯)池田桑郎。(通信)岡垣益太郎。(社會)平井眞澄。(經濟)田中義雄。(營部)吉村秀治。(廣告)糸尾竹藏。(販賣)西垣岩藏。(活版)北川義憲。(東京支局)古川文次郎。(大阪支局)矢野林。(機械)色刷輪轉機一、平盤一。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七半、十四字、百四十四行、十三段。一箇月五十五錢。(廣告料)一圓。

■鳥取放送局新設に對して特殊の貢献を爲し遂にその實現を見るに至る。

鳥取新報 鳥取市鍛冶町一三。(電)一一四、七四二。(社史)創刊明治十六年六月、初め山陰隔日新報と題し明治二十年現名となり、二十六年十月一自より日刊、大正六年株式に變更、昭和八年五月現社長就任。株式。十萬圓。民政系。夕刊四頁。(社長)山樹儀重。(支配人)眞島信茂。(主筆)田山停雲。(編輯)同。(政治)三枝信二。(社會)井上善一。(通信)横山晴美。(文藝)鈴淑三。(經濟)福田鐵男。(寫眞)高橋晋二。(廣告)谷口勝藏。(會計)谷口源九郎。(販賣)竹田梅藏。(庶務)小倉光次。(機械)津田式輪轉機一、平盤二。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり(活字)七・七五、十五字、百四十行、十二段。一箇月五十五錢。(廣告料)一圓。

山陰日日新聞 米子市日野町。(電)二二二五、五四〇。株式。二十五萬圓。(社史)創刊明治四十年十一月三日、初め米城新聞と題し四十一年四月一日現名に改題、大正二年一月現社長の個人經營となりしを合資會社とし、大正十年二月株式となる。朝刊六頁。(社長)三好榮次郎。(常務)三好徹次郎、野坂寛治。(支配人)綾田收。(主幹)同。(編輯)古藤政一。(東京支局)四日市長。(大阪支局)谷良男。(社員)七十名。(工場員)四十名。(機械)輪轉機一、平盤二。ステロ、寫眞版設備あり。(活字)八・五、十四字、百二十八行、十二段。一箇月七十五錢。(廣告料)一圓、場所指定一圓十五錢、特別面一圓五十錢。

山陰每夕新聞 米子市西町七五。(電)五九六六。株式。十五萬圓。(社史)昭和七年八月廿八日創刊、社主は坂口武市君、九年十月株式會社となり、押村奬君取締役社長となる。夕刊四頁。(部數)十年九月二十五日現在一萬八千九百五十三部。(相談役)柿原政一郎。(社長)押村奬。(支配人)大森幸夫。(編局)同。(社會)橋本早苗。(學藝)岩津利行。(通信)福田碧。(營局)大森幸夫。(廣告)横野爲三郎。(販賣)井原律治。(經理)松下須子。(東京支局)武政金吾。(大阪支局)遠藤萬里。(社員)四十三名。(工場員)五十六名。(機械)輪轉機一、平版印刷機二。活字鑄造機一、寫眞、銅版、凸版設備あり。(活字)七ポ、十五字、八十五行、十三段。一箇月五十五錢。(廣告料)一圓。場所指定二圓、特別面赤刷三圓

■九年十月中國民報から獨立して株式組織となり押村奬君社長となる。

島根縣

▼人口……七五三、一〇〇
▼同市部……四七、〇〇〇
▼同郡部……七〇六、一〇〇
▼世帶數……一五〇、六一〇

大阪新聞の壓迫下にあること鳥取縣と大差なく、松江市では朝七時頃には大阪紙の配達を終る有樣である。併し鳥取よりも縣がやゝ大きく、且つ新聞中心地は人口四萬七千の松江市に限られてゐるので此處に松陽新報が發展した。松陽新報には主筆として松井伯軒君が在任する。尙大阪紙の部數は大朝、大每松江市内では各千五六百見當と見られてゐる。郡部方面では大阪兩紙とも靡實があり、その點では松陽新報の方が健實とせられる

松陽新報 松江市殿町三八三。(電)三三、七八、一三六九、四七二。個人經營。卅五萬圓。(社史)明治卅四年十一月三日創刊、岡崎運兵衞翁の獨力經營になる、大正八年十二月翁逝しが嗣子岡崎國臣氏社主となる。朝刊四頁。夕刊四頁。(社主)岡崎國臣。(副社長)勝部本右衞門。(主筆)松井柏軒。(編局)同。(社會)連絡)米村敏。(政經兼通信)錦織謙。(營局)副社長兼任。(經理兼營局次長)曾田吉右衞門。(東京支局)神原啓一。(大阪支局)永嶺信恒。(機械)輪轉機一、國製TKS式輪轉機二、内國製レーテストニュース式色刷輪轉機一。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七・七五、十四字、百四十行、十三段。一箇月八十五錢。(廣告料)七十五錢、場所指定十錢增、特別面一圓五十錢。

■十年九月創刊三十五周年を迎へ記念講演會を開催す。

山陰新聞 松江市白潟本町。(電)一六三、一三七。株式。十萬圓。(社史)創刊明治十五年五月一日初代社長勝部修氏嗣來山本誠兵衛、糸原武太郎氏等を經て現在に至る、大正九年より八頁と爲し昭和五年一月より四頁となる。朝刊四頁。(版數)ABC(社長)水津直太郎。(常務)金支配人)西山虎治。(編局主筆)野津無字。(通信)高山修。(政治經濟)片山廸夫。(社會)中川昌彦。(販賣)中村清藏。(會計)遠藤佐悦。(東京支局)里見謹吾。(大阪支局)福田常藏。(社員)八十七名。(工場員)三十六名。(機械)マリノニ式輪轉機一。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七ポ、十五字、百十五行、十三段。一箇月六十錢。(廣告料)三十八錢、特別面一圓二十錢。

■最近朝鮮羅津に支局、滿洲奉天に通信部を新設す。

山陰朝日新聞 津和野町後田口。(電)一〇二。創刊大正十四年一月一日。朝刊四頁。(社長)瀬藤勇市。(編輯)松枝精二。

岡山縣

▼人口……一、三二〇、一〇〇
▼同市部……三八、六〇〇
▼同郡部……一、〇九一、三〇〇
▼世帶數……三六四、〇一〇

此處も大阪紙の侵入猛烈だが、縣が大きく人口十六萬の岡山市を包含し且つ、新聞の數も比較的少なく中心地も分裂してゐないので、中國民報、山陽新報の二紙が發達した。此の二紙はともに數版の地方版を發行し中國民報の如きは香川、鳥取等へも可也に侵入してゐる。共に中國筋に於ける一流新聞で、山陽新報は廣島の藝備日日と販賣同盟を結んでゐる。人口三萬六千の津山市にも二三の新聞があるが奮はない。移入各紙の部數につき、八年九月某官憲方面の推定は次の如くである。移入各紙の部數につき、八年九月某官憲方面の推定は次の如くであ。一種の參考として掲げる。

大阪毎日	一九、〇〇〇
大阪朝日	一九、二〇〇
大阪時事	二、六〇〇
報知新聞	一、五〇〇
讀賣新聞	五〇〇
東京朝日	三〇〇
萬朝報	三五〇
人類愛善新聞	六、五〇〇
中國新聞	四〇〇

次は地元紙の販賣部數につき九年九月某官憲方面の推定は次の如くである。

中國民報	?
山陽新報	?
岡山新聞	四、二〇〇
岡山日日新聞	四、二〇〇
津山朝日新聞	二、〇〇〇
津山毎日新聞	一、二〇〇
作州日報	一、二〇〇

十年夏暴力團狩が行はれ八月一日現在で檢擧されたもの百七十件三百五十名に上る。

山陽新報 岡山市西中山下一五四。(電)代表六六〇一。株式。三十萬圓。(社史)明治十二年一月四日小松原英太郎氏を主筆として創刊せられ、三十年一月には六頁、三十七年一月には八頁にそれぞれ紙幅增大し、大正十年十二月から四頁の夕刊を發行して現在に及んでゐる。朝刊八頁。夕刊四頁。(版數)五。(附錄)時事問題、農事、產業等に關し時々附錄を發行添付す。(地方版)藝備版、香川版、愛媛版山陰版、兵庫版、縣下版、(部數)十年九月二十日現在七萬六千部(社長)岡本佐市。(常務)高見章夫。(編局)杉山榮。(編局副長)谷龍太郎。(中央通信)井上興三郎(社會)京野助太郎。(地方通信)周藤二郎。(經濟)池田元藏。(寫眞)金友鐵太郎。(校正)正本新。(營部)高原久米藏。(會計)平井信次。(廣告)松田卓。(用度庶務)澁谷龜人。(印刷)內田鶴松。(販賣事務取扱)平井鑄久治。(東京支局)三澤猛浩。(大阪支局)永嶺信恒。(社員)百六十五名。(工場員)百二十三名。(機械)高速度輪轉機一、折疊式三、マリノニ式一。活字鑄造機、ステロ、寫眞版完備。(活字)七ポ、十五字、八十二行、十三段。一箇月九十錢。(廣告料)一圓、特別面二圓。(發行物)山陽年鑑、吉備文庫其他の出版物。(特設)鐵道切符印刷設備及び一般印刷設備あり。

■增資、社屋新築、輪轉機一臺增設の計畫あり。

■十年二月大內寬君の後を受けて三澤猛君東京支局長となる

■同五月十一日新通信社創立準備委員會に參加す。

■同十一月三日岡山縣內十勝十五景の新選投票を行ふ。

中國民報 岡山市東中山下四〇。(電)代表六八六一。株式。三十萬圓。(社史)明治二十五年七月故坂本金彌氏の創刊にかゝり中國進步黨の機關紙であつたが大正二年三月原澄治氏の經營となり全然政黨關係を脫し大正八年故犢井繼男氏社長となり、大正十年再び原氏之に代り十四年一月前社長柿原政一郎氏經營に當り昭和五年組織を株式に改め八年六月專務取締役大森實氏現樂を統率し現在に至る。朝刊八頁。夕刊四頁。(地方版)山陰版、藝備版、四國版、兵庫版、(專務)大森實。(常務)大森豐吉、宮岸如空。(主筆)郡山辰己。(編局)金木博治。(部長)片山次郎、山本樵、鶴岡榮次郎。(營局)大森豐吉。(廣告)櫻間賢治。(販賣)虫明重夫。(東京支局)田中常人。(大阪支局)小山政夫。(社員)百六十五名。(工場員)百五十八名。(機械)高速度輪轉機一、折式二、マリノニ式一、平盤十、中島式オフセット機一、新井式ブロンザノ機一。自動活字鑄造機五、寫眞製版機二、凸版二、コッピー機五、鉛版鑄込機三、鉛版仕上機一。(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月九十錢。(廣告料)一圓、特別面二圓。(兼營)活版印刷。

■十年九月二十四日一萬五千號記念として物故社員慰靈祭を行ふ。

■同十月十七日一萬五千號を迎へ、これを記念すべく皇國展覽會(十月一日より三十一日まで)其他を擧行す。

岡山新聞 岡山市柿屋町一六。(電)五五〇〇—二。株式。五萬圓。創刊大正五年十二月八日。夕刊四頁。(版數)一。(社長)西尾元治郎。(常務)岡本信一。(編輯)井口靜一。(營局)浮田慧。(東京支局)稻垣四方雄。(大阪支局)深田龜男。(社員)二十六名。(工場員)二十二名。(機械)輪轉一。スチロあり。(活字)七半、十四字、百四十行、十三段。一箇月五十錢。(廣告料)一圓、特別面一圓五十錢。

岡山毎夕 (岡山日日新聞の改題)岡山毎夕新聞社發行。岡山市天瀨一三。(電)四二二八、四〇五一。株式。三萬圓。(社史)大正十二年一月十二日匿名組合組織設立、十五年七月二十五日株式會社組織變更、昭和九年十月十三日現社長就任、十年一月一日岡山日日新聞を現名に改題(部數)十年九月二十九日約五千部。(社長)橫山昊太。(編局)貞賴車男。(營局)今田義治。(東京支局)馬場幸次郎。(大阪支局)遠藤信一。(社員)四十二名。(工場員)三十六名。(機械)輪轉一。(活字)七・七五、十四字、百四十四行、十三段。一箇月五十錢。(廣告料)十五錢、場所指定三十錢、特別面一圓。

津山朝日新聞 津山市田町三八。(電)四〇九。個人經營。三萬圓。(社史)明治四十一年六月二十九日創刊、日刊發行大正十五年四月一日。夕刊小型四頁。(部數)九年九月一日現在三千二百部。(社主)柴田丈作。(社長)福田卓也。(主幹)飯田三富郎。(主筆)池上猷一。(營業)松山賢太郎。(社員)十六名。(工場員)六名。(機械)八頁平盤二。(活字)十三字、四十二行、八段。一箇月三十五錢。(廣告料)三十錢、場所指定五十錢、特別面五十錢。(兼營)一般印刷。

津山毎日新聞 津山市西寺町一一。(電)二五九。合資。五千圓。創刊昭和八年七月一日。夕刊小型四頁。(部數)九年七月一日現在四千部。(社主)鹽山壽。(社長)同。(副社長)片山泉。(主筆)鹽山壽。

作州日報 津山市戶川町一〇。(電)三九八。創刊大正十年五月十八日。匿名組合。朝刊小型四頁。(社長)藤田義彥。(編輯)荒木龍治郎。(營業)松枝保二。(活字)九ポ、十三字、四十六行、八段。一箇月三十五錢。

倉敷日報 倉敷市榮町五六二。(電)四五三。同人制度。四千五百圓。創刊八年十二月十一日。夕刊二頁。(部數)九年九月十五

日現在二千三百部。(主幹)重賞逸太郎。(社員)十名。(工場員)七名。(機械)菊版八頁一。(活字)九ポ、十二字、七十七行、十二段。一箇月三十錢。(廣告料)一段四圓、場所指定二割增、特別面一行一圓。(兼營)商店の信用調査。

備讃民報 宇野町(電)三三。個人經營。五萬圓。(社史)創刊昭和三年十二月九日、月刊、旬刊謄寫版日刊を經て普通版發行し現在に及ぶ。夕刊四頁。(社主)山田平次郎。(社長)同。(副社長)八木知一。(支配人)薙波恒夫。(主幹)高島史岳。(營部)藤田滿壽男。(機械)平版十六頁二。(活字)八ポ、十三字、百三十五行、十三段。一箇月五十錢。(廣告料)五十錢、場所指定一圓。

中國時事新聞 淺口郡玉島町柏島六五ノ一。(電)四五五。個人經營。三千五百圓。創刊大正十四年三月十五日。朝刊四頁。(社主)小幡利一。(社長)同。(營業)佐藤重男。(機械)十六頁一、六頁一。(活字)九ポ、十二字、七十二行、十二段。一箇月三十錢。(廣告料)五十錢。(兼營)印刷業。

廣島縣

▼人口……一、七五一、三〇〇
▼同市部……五九一、二〇〇
▲同郡部……一、一六〇、一〇〇
▼世帶數……三五〇、二六〇

廣島縣は中國一の大縣である上に、人口二十九萬の廣島市、二十萬の吳市等を包含するので、二三の有力な地方新聞が發達した。即ち廣島市の中國新聞藝備日日新聞がそれで、鞏固な地盤を擁し數種の地方版を發行して隣縣の一部に侵入してゐる。殊に中國新聞は中國地方の一流紙で九年度の廣告行數は三百二十三萬二千餘行、全國地方新聞中の第七位にある。右の外吳市に吳日日新聞あるが、外にさまで有力なものはない。大阪紙は大毎優勢と稱へられる。外に地方紙では中國民報が多少入つてゐる模樣である。尙廣島縣では大正八年以來廣告稅が實施され年三千五百圓乃至四千圓の稅收入があつたが、大正十五年無稅として徹廢運動が續けられ、昭和五年十一月十二日終に縣會で廢止と決定した。十年五月惡德記者狩りが行はれ、日刊、旬刊二十七紙が掃蕩されたと傳へれらる。

中國新聞 廣島市上流川町二(電)三番(代表)合名會社。三十萬圓。(社史)明治二十五年五月五日創刊、大正九年七月一日組織を變更して合名會社とす、朝刊八頁。夕刊四頁。(版數)六版乃至十二版。(地方版)安藝版備北版、備南版、姉妹紙(其地方添付)吳新聞、中國防長新聞(社長)山本實一。(副社長)山本正房。(主筆)中町國吉。(編局)同。(編輯)上野卓爾。(政治)同(地方兼經濟)藤井義三郎、(社會兼調査)小迫周藏、(與藝)笠井明士。(營局)山本實一。(庶務、會計)林保登。(出納課)伊藤音三郎。(廣告課)横田彌太郎(販賣課)横山隆二。(東京支局)飛鳥江亳智。(大阪支局)栗田元夢。(社員)二百五十名。(工場員)百十五名。(機械)內國製中國式超高速度輪轉機二、(十五萬機一東京機械へ發註すみ)折疊式輪轉機二、平盤十六頁三、八頁二、其他小型もの。活字鑄造機、ステロ、寫眞版全部完備す(鑄造機)十臺。(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十二段。一箇月八十五錢。(廣告料)一圓廿錢、場所指定右倍額、特別面二圓四十錢。(兼營)普通各種印刷物請負業(特設)講堂公開、通信用鳩班、電送寫眞班、

■附屬新館(七層樓)建築許可出願中

■十年二月十一日より防長版を廢止し代りに姉妹紙中國防長新聞を發行す。

■同四月一日より五月十日まで東山偕樂園に於て養蚕博覽會を開催す。

藝備日日新聞 株式會社藝備社發行廣島市大手町二ノ二三。(電)長八、七〇一九、九一八。十萬圓。(社史)明治十九年創刊、早速整爾個人經營を經て合資會社早速社となり更に昭和十年九月一日株式會社藝備社となる。朝刊四頁。夕刊四頁。(版

數)四。(地方版)防長版、縣下版、東部版、市內版、(部數)昭和十年九月三十日現在五萬五千部。(社長)中村厚次郎。(副社長)小川左一郎。(專務)倉本周誓。(支配人)佐藤學。(編局)杉山定香。(編輯)法安雅次。(販賣)小川藤三郎。(會計)小河光夫。(庶務)木村進。(廣告)佐藤學。(東京支局)沓名秋次。(大阪支局)中島熊太郎。(社員)七十二名。(工場員)六十名。(活字)七ポ、十五字、百五十行、十三段。一箇月六十錢。

■九年秋淺野長勳侯直話の幕末藝州藩秘を連載す。

■十年二月末社長中川平兵衛、主幹木下又男兩君辭任し元廣島縣知事濱田恒之助君後任社長となり、其後現社長就任。

廣島日日新聞 廣島市下柳町四〇。(電)代表三六八八。創刊明治卅二年四月。個人經營。朝刊四頁。(版數)三版。(社主)松岡松市。(社長)熊地與三郎。(營業)武山忠雄。(東京支局)渡邊史郎。(大阪支局)高田勝吉。(社員)二十六名。(工場員)五十一名。(機械)十六頁平盤三、四頁二。活字鑄造機及ステロあり。(活字)七ポ、十五字、百三十行、十三段。一箇月五十錢。(廣告料)一圓、特別面倍額。(兼營)吳公論。

廣島每日新聞 (吳日日の姉妹紙)廣島市猿樂町八五。(電)二三五七。個人經營。(社史)大正七年十二月吳日日新聞社長關戸種吉氏に依り創刊奥平吉之助氏を經て十二年奥平稔氏繼承し株式會社吳日日新聞社の經營となり昭和七年七月現社長吳日日社長蕓任と同時に繼承し株式會社日日新聞社より分離經營す。夕刊四頁。(部數)十年八月三十日現在七千五百部。(社長)吉田益三。(副社長)今敷宗治。(編輯)中野奈平。(政治)同(社會)今出良秋。(營部)中野奈平。(廣告)高岡通信。(販賣)大村武夫。(東京支局)新東政勝(大阪支局)卜原隆利。(社員)三十一名。(機械)吳日日新聞社に同じ。(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月五十錢。(廣告料)五十錢。特別面一圓。(兼營)普通印刷部。

吳日日新聞 吳市堺川通指定二割增し、

廣島日報 廣島市下柳町四〇。創刊大正九年十二月五日。朝刊四頁。(社長)河內龜太郎。(營業)三宅榮太郎。(機械)平盤二(活字)七半。十二段。一箇月六十錢。

廣島新聞 廣島市銀山町一五。創刊明治四十二年。個人經營。朝刊四頁。(版數)三。(附錄)株式版、織物版、土木建築版。(社主)山本米三。(社長)同。(機械)平盤十六頁一、同八頁二。(活字)七半、十五字、十二段。一箇月五十錢。(廣告料)五十錢。

廣島經濟日報 廣島市銀山町二ノ二。(電)五六八一。個人經營。(創刊)昭和二年八月一日。夕刊小型四頁。(部數)十年九月廿七日現在四千三百部。(社主)世良磨左衛。(社長)同。(編輯)油川渡。(營業)上田眞月。(社員)五名。(工場員)十五名。(機械)八頁印刷機四。(活字)九ポ、十四字、五十七行、八段。一箇月五十錢。(廣告料)五十錢。特別面一圓。(兼營)普通印刷部。三ノ一。(電)八一七、一四九。株式。十二萬五千圓。(社史)明治三十九年六月創刊の吳每日新聞社を明治四十二年六月奥平吉之助氏繼承し吳日日新聞と改題昭和四年四月株式組織に變更奥平稔氏社長に就任最新設備をなす、七年七月吉田益三氏を社長に副社長今敷宗治氏を迎へて現在に至る。夕刊四頁。(版數)三。(附錄)月曜附錄二頁。(地方版)吳市內版、縣下版、廣島市版、(部數)十年八月三十日現在四萬三千部。(社長)吉田益三。(副社長)今敷宗治。(編局)村尾彦太郎。(政治)同。(社會)村田徹。(與藝)清水德三郎。(聯絡)太田賢一郎。(海軍)千切光歲。(經濟)村尾彦太郎。(營局)今敷宗治。(廣告)松場雍也。(販賣)大村武夫。(總務局)出本伊之助。(東京支局)新東政勝。(大阪支局)上原隆利。(社員)七十九名。(工場員)六十二名。(機械)東京製石川式折疊附輪轉機二、平盤印刷機二、活字鑄造機二、ステロ一、寫眞製版設備完備、(活字)七半、十五字、百六

十行、十三段。一箇月五十錢。(廣告料)一圓二十錢、場所指定二割增。(兼營)廣島毎日新聞

■廣島縣下學童オリムピック大會、近縣女子カーニバル大會、吳市國防と産業博覽會協賛號發行、三吳線開通記念産業紹介等をなす。

中國日報 吳市今西通三丁目一二。(電)一二五八。個人經營。一萬五千圓。(社史)大正十三年十一月一日創刊、月刊、旬刊、週刊より昭和四年六月日刊。夕刊四頁。(社主)弘中柳三。(社長)同。(編部)川上豪。(海洋)山田英二。(社會)倉本次郎。(營部)塚本壽憲。(廣告)谷口重。(事業)龜田壽一。(販賣)古田健次郎。(東京支局)日比野良三(大阪支局)雜賀武司。(社員)十八名。(工場員)二十一名。(機械)輪轉機一、平盤十六頁一、同菊八一。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七半、十四字、百四十五行、十三段。一箇月五十錢。(廣告料)二十錢場所指定三十錢。

吳公論 (廣島日日新聞の經營)吳市西本通十丁目。(電)一〇〇十。創刊明治三十九年六月。個人經營。五萬圓。政友會。朝刊四頁。(社長)熊地與三郎。(機械)廣島日日新聞に同じ。(活字)十ポ、十五字、百三十行、十三段。一箇月五十錢(廣告料)九十錢。

吳新聞 (中國新聞の經營)吳市今西通二ノ一四(電)二一一四一五八〇。朝刊四頁。(活字)七ポ、十三段。一箇月八十五錢。(母紙共)。

山陽日日新聞 尾道市久保町六八一。(電)四一。個人經營。(社史)初め尾福日報、後ち山陽日報、現在に至る。朝刊四頁。(社主)秋田熊次郎(社長)同。(副社長)秋田只夫。(主筆)山本操。(營業)小川源吉。(廣告)秋田得男。(販賣)秋田春造。(東京支局)佐野博章。(大阪支局)松下兵馬。(社員)三十五名。(工場員)二十名。(機械)マリノニ輪轉機一、平版五。ステロあり(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月六十錢。(廣告料)一圓。(兼營)印刷部。

備後時事新報 尾道市十四日町。(電)三一六。個人經營。一萬五千圓。創刊明治三十八年八月。夕刊四頁。(部數)十年四月一日現在三千八百部。(社長)岩本梅太郎。(主筆)山口榮太郎。(編輯)松谷勝太郎。(營業)貞致勘藏。(東京支局)赤松彦太郎(大阪支局)加藤安雄。(社員)五名。(工場員)十七名。(機械)輪轉機一、ステロあり。(活字)七半、十六段。一箇月五十錢。(廣告料)三錢、場所指定十錢、特別面十五錢。

福山大日報 福山市延廣町乙三五八。創刊大正四年十二月三十一日。個人經營。三萬圓。朝刊二頁。(社長)近藤復巳兒。(主筆)石岡操。(機械)平盤三。(活字)七・七五、十二段。一箇月五十錢。(廣告料)五錢。

中國毎夕新聞 福山市三之丸町乙一二〇〇。昭和八年二月十二日創刊。夕刊四頁。(社長)四谷彦市。

山口縣

▼人口……一、二六、三〇〇
▼同市部……三六、一〇〇
▼同郡部……九〇、二〇〇
▼世帶數……三三、六六〇

山口縣は大阪新聞の外に福岡、廣島の新聞も入り、それに地元新聞の數頗る多くして、昭和十年九月現在その數三十餘種、されば小新聞の興亡常なく、概して不振を免かれないが、人口十二萬六千の下關市から發行される關門日日新聞最も有力とされ縣廳所在地の山口市(人口三萬三千)には防長新聞あり人口七萬六千の宇部市、三萬一千の萩市も小中心地の觀をなしてゐる十年春、大朝、大毎の九州進出の結果、山口版が發行されて、其の影響免かれ難く、地方紙は何處までも地方紙としての特色を發揮する事によつて對抗を努めてゐる。

關門日日新聞 下關市東南部町三三。(電)四六一、七九六。八五五。一七五六、二一四〇。創刊明治十三年一月七日。個人經營。朝刊八頁。夕刊四頁。(社主)末光鐵之助。(社長)同。

(副社長)河村峰太郎。(總務)村尾龜一。(副總務)西川貞一。(主筆)加藤七五郎。(編局)西川貞一。(編部)河村準一。(政治)中俣安。(經濟)東利久。(外勤)伊藤文。(商況)元米末松。(相場)河野重一。(營局)河村峰太郎。(販賣助役)古谷以和雄。(廣告助役)河村本一。(庶務會計)多田直吉。(工務局)村尾龜一。(東京支局)河野馬喜佐。(大阪支局)安滿長三郎。(社員)百十名。(工場員)四十九名。(機械)輪轉機三、平盤二。鑄造機五、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月九十五錢。(廣告料)八十五錢、特別面一圓五十錢。

■十年二月大阪紙進出に對抗すべく地方版の擴張を斷行し防長勤王史蹟記事を連載す。

■同五月一西日本、滿洲國、朝鮮、臺灣産業交驩擁進號」二十八頁を完了し上記各地に産業使節を特派す。

關門毎友新聞 下關市西之端町九二ノ一。(電)二四七〇。一九八六。合資。五萬圓。創刊昭和四年十二月十九日。夕刊四頁。(版數)一版。(部數)九年九月一日現在七千部。(社長)柳山次郎。(編局)同。(編輯長事務取扱)明石芳雄。(政事)河村憲美。(社會)工藤源二。(營局)山本政則。(外交)吉富只助。(東京支局)三澤猛混。(大阪支局)坂口廣次郎。(社員)四十五名。(機械)佛國製マリノニー式輪轉機一、平盤一、活字鑄造機、ステロ各一、寫眞製版設備あり。(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十二段。一箇月五十錢。(廣告料)七十錢。場所指定一圓、特別面一圓二十錢。

馬關毎日新聞 (九州日報の經營)下關市西之端町二八。創刊明治二十三年。個人經營。朝刊八頁、夕刊四頁。(社長)森田久。(營業)吉見靜馬。(機械)津田式輪轉機一。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七・七五、十五字、百三十九行、十二段。一箇月八十五錢。(廣告料)七十錢。

關門報知新聞 下關市赤間町一六。(電)二一六、五五三五。創刊大正五年二月十一日。合資。五萬圓。朝刊四頁。(版數)二。(附錄)家庭日曜附錄。(地方版)防府、宇部、八幡、戸畑に姉妹紙發行。(社主)川西定雄。(社長)同。(副社長)川西ツネ。(主筆)松江八郎。(營業)片岡榮一。(廣告)初村泰一。(東京支局)鈴木貫。(大阪支局)勝田秀雄。(社員)四十二名。(工場員)十五名。(機械)輪轉機一、平盤二、ステロ。(活字)七ポ、十五字、百五十行、十三段。一箇月五十錢。

日刊西日本 日刊西日本新聞社發行。下關市奥小路町。創刊昭和二年十一月。個人經營。夕刊二頁。(版數)二。(社長)小森園勇。(主筆)篠原滋。(營業)森祐之丞。(機械)十六頁、平盤三、八頁同一、(活字)七・七五、十五字、八十行、十二段。一箇月三十錢。(廣告料)六十錢。

商通時報 商業通信社發行。下關市東南部町一五八。(電)一一八八、一四六五。創刊昭和二年十二月。株式。二十萬圓。夕刊四頁なれども不定。(社主)服部順之助。(社長)山本啓弐。(社員)十五名。(機械)菊版八頁二。

東亞實業日報 下關市上田中町。創刊昭和八年七月三十一日。朝刊四頁。(社長)浦部宗春。一箇月三十錢。

明倫新聞 下關市今浦町二六。創刊昭和六年五月。個人經營。夕刊四頁。(社長)市河元次。(主筆)野上岩藏。

防長新聞 山口市後河原。(電)一〇一、四〇二。創刊明治十七年七月十五日。株式。夕刊四頁。(社長)桑原一郎。(取締役)藤田包助、十川弦之助。(顧問)兒玉秀雄、上山滿之進。(相談役)弘中武一、中野治介。(編輯)柳樂忠雄。(庶務營業)高橋九郎。(廣告)川本幸治。(會計)佐々木直一。(東京支局)堤八十次。(大阪支局)清島三郎。(社員)二十名。(工場員)二十二名。(機械)石川式輪轉機一、平盤十六頁掛二。寫眞製版機一、鉛版鑄込機一、仕上機一。(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月七十錢。(廣告料)七十錢、場所指定二割增、特別面一圓四十錢。(兼營)代理部經營。

山口日報 山口市荒高。(電)七二六。合資會社。五萬圓。(社史)昭和五年十一月二十七日創刊、七年三月山口市公文掲載紙となり、十年十月合資會社となる。夕刊四頁。(部數)十年十月一日現在五千七百三十八部。(社長)清永多一郎。(主筆)同。(編局)石川定吉。(政治)厚母重威。(社會)清永正俊。(通信)石川定吉。(營局)沼慰。(廣告)市川佐一郎。(販賣)沼慰。(社員)十三名。(工場員)十一名。(機械)ローラー平版二。ステロあり。(活字)九ポ、十二字、八十五行、十三段。一箇月五十錢。(廣告料)七十錢、場所指定三割增、特別面一圓四十錢。

宇部時報 宇部市常盤通一丁目。創刊明治四十五年七月十五日。個人經營。一萬圓。夕刊四頁。(社長)脇タキ。(營業)内田卯三郎。(機械)十六頁一。(活字)八●五、十二字、七十行、十三段。一箇月六十五錢。(廣告料)廿錢。

宇部毎日新聞 宇部市東區。(電)五一〇。創刊昭和八年四月十五日。夕刊二頁。(版數)一。(附錄)山口縣名士鑑、道中双六。(部數)十年十月二十五日現在九百八十部。(社主)野口彌吉。(社長)同。(副社長)三隅百合雄。(常務)野口岸。(主幹)野口彌吉。(主筆)三隅百合雄。(編輯)藤津太助。(營業)竹中稔。(社員)十一名。(工場員)五名。(機械)平版十六頁型一、八頁二、斷切器四六版一、ステロあり。(活字)九ポ、十一字、七十五行、十三段。一箇月四十錢。(廣告料)五十錢、特別面一圓。

防長新報 宇部市沖宇部。民政系。創刊昭和七年六月十日。(部數)十年九月二十八日現在五千部(社主)吉村幸作。(社長)同。(副社長)吉村博行。(主幹)石井雲水。(主筆)古谷九市。(編輯)小宮義生、古谷海男。(營業)吉村晉。(社員)十名。(工場員)十七名。一箇月五十錢。

宇部報知新聞 宇部市西區朝日町一丁目。(社史)當地で十數ケ年發行を繼續せし宇部日報廢刊を機機に宇部公論並に宇部實業新聞の二旬刊紙を合併して昭和十年六月十五日創刊。夕刊新聞。(部數)十年九月十五日現在三千部。(社長)岡田俊助。(主筆兼編輯)津田厚志。(活字)七●七五、十四字、八十五行、十三段。一箇月三十五錢。(廣告料)五十錢、特別面一圓。

宇部日日新聞 宇部市中宇部(發行人)杉山隆。(持主)奥村小四郎。

宇部新聞 宇部市藤山。(發行人)藤本鶴松。(持主)藤井勇高。

防長日報 萩市川島。(電)四六五。創刊昭和元年十月。個人經營。一萬圓。朝刊四頁。(版數)一。(部數)八年九月十八日現在三千五百部。(社主)長野一馬。(社長)同。(支配人)長野夏子。(販賣)西村最一。(廣告)山田修三。(大阪支局)田中正男。(社員)十二名。(工場員)八名。(機械)二。ステロ設備あり。(活字)九ポ、十三字、七十六行、十二段。一箇月六十錢。(廣告料)五十錢場所指定一圓、特別面一圓八十錢。

長州新聞 萩市唐樋町。創刊明治四十四年。朝刊小型四頁。株式。二萬圓。(社長)鈴木美德。(主幹)上野竹造。(編輯)勝山平八郎。(營業)大村五郎。(機械)平盤二。(活字)舊。八段。一箇月五十錢。(廣告料)五十錢。

日本太郎 萩市江向。(電)二八二。創刊大正七年一月一日。個人經營。一萬圓。小型四頁。(社主)栗屋芳亮。(社員)四名。(工場員)名。(機械)寸延六頁一。(活字)十二字、四十三行。八段。一箇月五十錢。(廣告料)五十錢、場所指定一圓。

防府公新聞 防府町三田尻四六九。創刊大正十五年五月一日。朝刊四頁。(社主)西村常三。(主筆)重田忠治。(編輯)西村常三。(營業)榎田金槌。(機械)十六頁外三。(活字)七●七五、十五字、八十行、十二段。一箇月五十錢。(廣告料)六十錢。

佐波民報 防府町榮町二丁目。(電)六三〇。個人經營。創刊昭和五年七月十五日。夕刊二頁。(部數)九年九月十五日現在千五百部。(社主)山根如水。(主幹)同。(編部)山下雲馨。(營部)山根久子。(社員)六名。(工場員)七名。(機械)十六頁平盤一、八

頁一。ステロあり。(活字)九ポ、十三字、七十四行、十二段。一箇月四十錢。(廣告料)六十錢。

防府時事新聞 防府町西佐渡令一〇一四。創刊昭和七年一月一日。朝刊四頁。(社長)今津隈士。一箇月五十錢。(廣告料)二十錢。

民衆衞生新報 長府町。(發行人)磯野菊左衞門。

防長毎日新聞 厚狹町。(電)五七。個人經營。一萬五千圓。政友會。創刊昭和元年十二月廿日。朝刊四頁。(附錄)家庭週報。(部數)九年八月末日現在一千二百八十部。(社主)道城讓。(社長)同。(大阪支局)湯原光之助。(社員)十八名。(工場員)十六名。(機械)十六頁平盤二。ステロあり。(活字)八ポ、十三字、百二十行、十三段。一箇月六十錢。(廣告料)六十錢、場所指定五割增。(兼營)山口縣特產物、赤間硯製造株式會社。

德山日日新聞 德山市上御弓町。(電)二七八。個人經營。五萬圓。創刊大正九年二月。夕刊四頁。(版數)三。(附錄)定時三回、臨時一回(月)地方町村公事統計。(地方版)柳井版、都東版、海外連絡版。(社主)神崎建藏。(社長)同。(主筆)時重苦香。(編局)堀尾武夫。(營部)初瀨一雄。(東京支局)林靜夫。(大阪支局)甲本勇。(社員)十一名。(工場員)二十五名。(機械)十六頁、十二頁、八頁、四頁、平盤各一。寫眞設備完成。(活字)九ポ、十二字、六十五行、十一段。一箇月四十錢。(廣告料)三十錢、特別面一圓。

聯合新聞 德山市。(電)四二七。合名會社。勞働出資。昭和九年十一月創刊。夕刊二又は四頁。(地方版)柳井、防府、長門版臨時發行。(部數)十年九月三十日現在千六百部。(支配人)德重眞雕。(主幹)原寅一。(主筆)原田進。(販賣)山縣武光。(營業)重岡寸鐵。(印刷)河村階治。(社員)十一名。(工場員)八名。(機械)八延ロール一、四頁一。(活字)九ポ、十三字、六十行、十段。一箇月五十錢。(廣告料)五十錢、特別面一圓。

山口縣進與新聞 厚狹郡厚南村。(電)字部八七八。個人經營。(社史)昭和八年五月十日創刊、月刊を經て日刊となる。二頁。(社主)藤村一美。(社長)同。(副社長)藤中悅之進。(主筆)藤村一美。(編輯)西野武夫、笠井益人。(營業)藤村勝藏、藤井寬治。(社員)十三名。(工場員)四名。(活字)六十二行、十二段。一箇月六十錢。(廣告料)五十錢、場所指定倍額、特別面同。

防長昭和日日新聞 小郡町個人經營。(社史)明治中年防長實業新聞として三田尻に創業後山口市に社を移し昭和八年十二月十五日改題移轉。夕刊二頁。(版數)一版。(部數)昭和九年九月十三日現在五百部。(社長)狩野靜四郎。(社員)四名。(活字)九ポ、十三字、七十五行、十二段。一箇月四十錢。

(一〇) 九州

附沖繩

昭和十年二月十一日から、大朝、大毎が、前社は九州支社、後者は西部總局と昇格された門司の支局から、相共に朝夕刊を發行する事となつて、九州新聞界は爲めに一大ショックを感じた。尤もこれ以前にあつても、大阪新聞の勢力は九州に於ても到底無視する事を許さず、その偉大なる壓力は、各地に於て地元紙の脅威となつてゐた即ち、大毎、大朝とも、それ〴〵門司支局に於て、大毎は西部毎日大朝は九州朝日を印刷し、九州全土に對して侵略の陣を布き、僅かに南端鹿兒島方面に於て、稍稀薄となつてゐるに過ぎなかつた。然るに今度は、門司に於て大阪本社と同じ朝夕刊が印刷されるのである。而してその夕刊別配達區域は國鐵長崎線は長崎まで、同鹿兒島線は八代まで、同日豐線は佐伯まで、此の三ケ所を繫ぐ線内の廣い範圍に跨がり、其他福岡門司間、及び筑豐線一帶に亘つては福岡兩紙と同じく自動車輸送が行はれるのである。その犧牲資金は大阪兩紙各年額五十萬圓と註される。されば その白熱的競爭が始めて町開せられるや、福日、九日以下の地方各紙は、さながら蒙古軍の襲來

を迎へた程に恐愕したものであつた。處が兩者對戰の結果は、一擧にして勝敗の決せられるやうな種類のものではなくて、間もなく持久戰に入り、侵入軍も防禦軍も、各自己の立場を再認識する事となつた。そして脅威は脅威だけれども、自らそこに方法のあるべき事が徐々に地元軍に感知せられるに至つたのである。一方、侵略軍側にも亦種々の誤算があり、開戰既に半年を經過するが、勝負は何れとも決せられ相もなく、編輯に、販賣に、今後尙、幾曲折を見るであらう。たゞ此の大阪軍進出の結果、地元紙により大なる重壓の加つた事は否み難く、又その刺戟によつて、地元紙が奮起しつゝある事實も見逃がす譯に行かない。その結果は、次年度の推移に待つことにして、次に地元新聞界の大勢を鳥瞰する。

九州には福岡市を第一として、熊本市、鹿兒島市、大分市、長崎市等の新聞中心地があり、稠密な人口と、盛んな產業と、至便な交通機關等の好條件の下に、有力な地元新聞が發達した。

それ等の地元新聞中にあつて、最も有力とせられるのは福岡市の福岡日日新聞で、縣內は勿論、長崎、佐賀より、扨ては熊本、宮崎、山口縣にまで侵入し、沖繩、臺灣から、朝鮮方面にかけても多くの部數を出してゐる。地方新聞としては、新愛知、北海タイムス等と共に、第一流に位し、其光輝ある歷史的背景に加へて、その活躍注目すべきものがある。福岡に於て福日に對抗するものに九州日報がある。前者の政友系なるに對してこれは民政系に屬し、新聞聯合社と契約あり、佐賀、長崎から山口縣に侵入し、これも榮ある傳統の下に大新聞の貫祿を見せてゐる。

第二中心地の熊本市には九州新聞、九州日日新聞の二有力紙があり、全縣下から福岡、鹿兒島、宮崎の一部に侵入してゐる。更に第三中心地の鹿兒島市には鹿兒島新聞、鹿兒島朝日新聞の二紙、第四中心地の大分市と長崎市には前者に豐州新報、大分新聞、後者に長崎日日新聞あり、いづれも地方新聞中の錚々である。

福岡縣

▼人口……二、七〇六、三〇〇
▼同市部……一、二二三、三〇〇
▼同郡部……一、九四、〇〇〇
▼世帶數……五四、二六四

福岡縣は兵庫縣及び愛知縣に匹敵する大縣で、人口の密度は東京、大阪、神奈川につぎ、九州七縣の生產總額（一ケ年約十五億萬圓）の約半ばを此の一縣で占めてゐる程その富力も高い。福岡市は人口二十八萬、九州新聞王國の第一中心地として早くから異數の發達をなし、此處に福日、九日の二大紙が成長した。此の兩紙は、名古屋に於ける新愛知と名古屋新聞の立場に酷似し、お互ひに競爭を續けながらも、共同の敵として大阪紙に對抗せねばならぬ。此の間に處して福岡日日は常に積極方針を以つて進み、編輯に、營業に、その施設政策に見るべきものが多い。此の縣では右の二紙が非常に發達した爲め他の諸紙は殆んど伸びる餘地がなく、新聞の數は非常に多いが、門司市（人口十一萬五千）の門司新報、小倉市（人口十萬一千）の小倉新報などの外特記する程のものはない次に福日、九日の九年度廣告總行數を見るに、福日は三百五十萬一千四百九十七行で全國地方紙の第六位、九日は三百二十三萬二千七十七行で同第九位である。

福岡日日新聞

福岡市下警固九八四（通稱渡邊通六丁目）（電）四〇〇一—四〇〇八、二〇二一。合資。一百萬圓。（社史）明治十年十二月の創刊（筑紫新聞）後にめざまし新聞、筑紫新報と改め同十三年四月（福岡日日新聞）と改題、同三十四年全國地方新聞界に率先してマリノニー式輪轉機據付、同三十八年十二月より年中無休刊、大正十四年四月夕刊發行、大正十三年七月東京福岡間に直通專用電話を架設、同十五年四月新社屋へ移轉と共に獨逸製福日式輪轉機據付昭和三年電送寫眞を裝置、同五年十月十三段制及活字一回使用實施。朝刊十頁。夕刊四頁。（版

數五版。（附錄）長崎民友新聞、關門附錄。（地方版）福岡市內版、筑豐版、北九州版、中國版、筑後版、大分版、熊本版、鹿兒島版、宮崎版、佐賀版、長崎版、鮮滿版、近縣共通版。（社長）永江眞郷。（副社長、主筆）菊竹淳。（副社長）原田德次郎。（編局）阿部暢太郎。（事業）齋田耕陽。（地方）田中一磨。（社會）中野景雄。（學藝）黑田靜男。（調査）原義秀。（通信）新村吾一。（校正）竹林巖。（家庭）加藤壽太郎。（整理）上野台次。（外交）山下善助。（經濟）松尾協。（運動）納戸德重。（營局）喜入達郎。（營局副長兼庶務）富永隆之。（販賣）上野秀雄。（廣告）大槻不二雄。（會計兼）喜入達郎。（工場長）古屋熊三郎。（東京連絡部）荒卷昌吉外。（大阪連絡部）篠原雷次郎外。（社員）三百名。（通信員）百五十名。（工場員）二百五十名。（機械）高速度輪轉機獨逸製五、電光超高速機二、マリノニ式輪轉機一。萬能鑄造機十、手廻し機五、ステロ、寫眞版の設備あり。（活字）七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月九十五錢。（廣告料）普通一圓、場所指定二十錢增、特別面一圓八十錢。（特設）東京福岡間直通電話並に電送寫眞設備、傳書鳩、機械金部コンベーア。

■自動車輸送網は大阪、東京よりも完備し、現在主要幹線は次の如くである。福岡より遠賀川を門司に至る北九州線、小倉より中津に至る中津線、小倉より八木山越に直方、飯塚市に至る筑豐線、福岡より久留米、大牟田を經て熊本に至る線、久留米より吉井日田方面に至る筑後線久留米より佐賀を經て長崎に至る線、佐賀より伊萬里を經て唐津に至る線。

■九年十月より鮮滿版二頁の附錄を增頁し、販賣網の擴充を行ふ。

■同十二月より國鐵列車時間改正に伴ひ長崎、大分其他に新聞の早着を實現す。

■十年一月三十日印刷設備の出來次第關門支局に於て四頁夕刊の發行を社告す。

■同一月三十一日副社長永江眞郷君社長となる。

■大阪紙の進出に對抗する爲め二月一日より二頁を增頁し朝夕十六頁となる。

■十年二月整理部長上野臺次君以下各部陣容を一新す。

■同四月鐵筋コンクリート地階とも三階建六百餘坪を新築に決し、外に機械費を合せて五十萬圓を計上す。

■同六月二十六日明治二十七年七月一日以來同紙の配達員たる田中虎太郎君の退職に際しこれを表彰す。

■同八月五日編輯局長菊竹淳君は副社長兼主事、營業局長原田德次郎君は副社長となり、後任には編輯副局長阿部暢太郎君編輯局長に、會計部長喜入達郎君營業局長となる。

■同九月十九日歌舞伎座に於て正副社長並に廣告部長の就任披露會を行ふ。

■同九月二十五日東京機械で發注高速機の試運轉を行ふ。

九州日報

福岡市天神町二八。（電）代表六二〇〇。株式。六十萬圓。（社史）明治二十年八月十一日頭山滿氏により創刊せられ、同四十四年大原義剛氏社長となり、大正元年七月佐賀毎日新聞買收、昭和三年一月中野正剛氏社長となり、同七月馬關毎日新聞買收、昭和十年九月一日題字を九州日報と改め、山口版とす、大正四年一月佐世保新報買收姉妹紙とす。朝刊八頁。夕刊四頁。（版數）十二。（地方版）市內版、北九州版、南部版、山口版、熊本版、長崎版、大分版、宮崎版。（部數）十年十月一日現在十八萬部。（取締役會長）中野正剛。（社長）森田久。（常務）木村富藏、中野泰介。（主筆）清水芳太郎。（編局）大石利德。（社會）重本茂雄。（學藝）米田正。（速記）古庄毅。（地方）江頭健太郎。（整理）熊谷日魯記。（校正）川久保清躬。（調査）大塚昌恒。（廣告）永津常泰。（會計）德重得藏。（販賣）廣瀨高嘉。（庶務）堺勝太郎。（東京支社）山下敏男。（大阪支社）松島直榮。（社員）三百二十四名。（機械）九州日報式電光輪轉機二、マリノニー式三。活字自動鑄造機四、使用活字一回制、ステロ、寫眞版の設備あり。（活

字)七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月八十五錢。

■十年三月聯合の專用電話線延長實現され社內に電送寫眞機新設計畫成る。

■同四月前社長千倉豐君退き元時事新報編輯局長森田久君後任社長となる。

■同五月十一日新通信社創立準備委員會に參加す。

■同六月より朝夕刊十二頁定價十錢の値下を行ふ。

博多日日新聞 福岡市上須崎町一六。創刊大正九年十月十五日。個人經營。千五百圓。夕刊四頁。(社長)古川初雄。(主筆)永田清。十二段。一箇月四十錢(廣告料)六十錢。

福岡每朝新聞 福岡市春吉三四七。創刊昭和四年三月。個人經營。朝刊四頁。(社長)小田部清三郎。(理事)北川安治、糸山崇。(機械)平盤一。(活字)七ポ、十三段。一箇月五十錢。

門司新報 門司市西本町一丁目。(電)二九、一四五八、一九。創刊明治二十五年四月。個人經營。政友系。朝刊八頁。(社主)毛里保太郎。(社長)同。(編局主事)吉田祝重。(營業主事兼會計)秋吉寅象。(東京支局)船戸岩男。(大阪支局)竹中德一。(社員)二十六名。(工場員)三十四名。石川式輪轉機一。ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七・七五、十五字、百三十五行、十二段。一箇月八十錢。(廣告料)八十錢、特別欄一圓五十錢、雜報欄一圓八十錢。

■石炭、海事記事に特色を持つ。

■十年四月改築中の二階ホール成り約五百名を收容し得る事となる。

門司新聞 門司市舊門司一ノ三一〇〇。(電)一二七五。個人經營。十萬圓。民政系。創刊大正三年四月一日。朝刊四頁。(地方版)福岡、下關、小倉、若松、八幡、直方、中津等に於て本紙同樣の各地版發行。(社主)梅月潮太郎。(社長)同。(主筆)同。(編輯)淺井定。(婦人主任)梅月貞。(營業)石田兵七郎。(庶務)永松滿籌惠。(廣告)箱田正直。(東京支局)宮本甚之助。(大阪支局)前田武雄。(社員)三十五名。(工場員)三十五名。(機械)平盤六。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七・七五、十五字、百行、十二段。一箇月五十錢。(廣告料)八十錢、場所指定一圓八十錢、特別面一圓五十錢。

日刊北九州新聞 門司市楠町三丁目。(電)八六、八七。個人經營。二萬圓。創刊大正九年九月十五日。朝刊二頁。(版數)一(部數)十年九月三十日現在四千部。(社主)岡田保太郎。(社長)同。(主筆)松井謙三。(編輯)岡田保太郎。(營業)水田重人。(社員)十二名。(工場員)五名。(機械)平版二。(活字)七ポ、十五字。八十五行、十三段。一箇月三十五錢。(廣告料)五十錢、場所指定七十錢、特別面一圓。

小倉新報 小倉市堺町。創刊明治二十四年七月。個人經營。十萬圓。朝刊四頁。(版數)五。(地方版)佐賀、久留米、八幡、下關。(社主)畑野源一郎。(社長)同。(副社長)稻富金次。(支配人)田中爲三郎。(編輯)山崎成人。(營業)福田龜雄。(東京支局)太田卯藤治。(大阪支局)坂口廣次郎。(社員)二十一名。(工場員)五十三名。(機械)輪轉機二、平版十六頁三。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月七十五錢。

東洋民報 小倉市大阪町。創刊大正十三年四月八日。二十五萬圓。朝刊四頁。(社長)有田兼藏。(主筆)白石學。(編輯)富岡重喜。(營業)森松仁七郎。(機械)輪轉機一、平盤二。ステロ、寫眞版あり。(活字)七ポ、十五字、十三段。一箇月六十錢。(廣告料)八十錢。

九州報知新聞 小倉市米町三丁目。(電)八五。創刊大正六年十月。個人經營。四萬圓。政友系。朝刊四頁。(部數)八年六月現在三千五百部。(社主)峯松數太郎。(社長)同。(副社長兼理事)阿部貫一。(編局兼主筆)川西弘太郎。(營部)山田喜次郎。(廣告)田中廉一。(東京支局)高島萬太郎。(大阪支局)西岡信。(社員)十名。(工場員)十四名。(機械)平盤二。ステロ設備あり(活字)七・七五、十四字、百三十

六行、十三段。一箇月六十錢。(廣告料)一圓、特別面一圓五十錢。(兼營)姉妹新聞、八幡市に公民新聞、戸畑市に玄海日報、久留米市に肥筑日日新聞、若松市に進九州あり。

鎭西報 小倉市紺屋町四。創刊明治四十四年一月四日。個人經營。五千圓。朝刊四頁。(社長)山岡岩吉。(營業)山本吉松。(機械)平版二。(活字)七ポ、十三段。一箇月六十錢、(廣告料)五十錢。

九州每日新聞 八幡市通町六丁目。(電)四三五、六八九。創刊大正七年七月一日。個人經營。三萬圓。政友系。朝刊四頁。(版數)一。(附錄)學校と家庭。(地方版)下關、門司、若松、小倉、飯塚、直方、久留米、福岡の八市に當社工場印刷姉妹紙を發行す。(社主)利岡香堂。(社長)同。(副社長)高山貞光。(主筆)野村稔。(編部)高山貞光。(營部)松岡隆。(東京支局)和田理三郎。(大阪支局)西高信。(社員)二十名。(工場員)二十一名。(機械)十六頁三。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七・七五、十五字、百三十六行、十三段。一箇月六十錢。(廣告料)一圓、特別面一圓五十錢。(兼營)山岡岩吉。(營業)山本吉松。(機械)平版二。(活字)七ポ、十三段。一箇月六十錢、(廣告料)五十錢。

八幡新聞 八幡市丸山町三ノ八一。(電)八〇四。(個人經營)三千圓。民政系。昭和三年創刊(大正五年八幡新聞創刊なれども經營者變る)。朝刊四頁。(版數)四(部數)十年八月三十一日現在六百五十部。(社主)沼津龍馬。(社長)同。(編輯)兒玉秀明。(營業)小鹽昭。(社員)六名。(工場員)十一名。(活字)十五字、百三十行。

洞海日日新聞 八幡市國見町一丁目。(電)六三、八四四。個人經營。創刊昭和四年八月二十日。朝刊四頁。(地方版)二種。(社主)中井倭人。(社長)同。(主筆)重森吉十。(編部)後藤信雄。(營部)稻澤一郎。(東京支局)小宮章。(大阪支局)北村庄二郎。(社員)二十名。(工場員)二十四名。(機械)平盤二。活字鑄造機。ステロあり。(活字)十五字、百三十行、十三段。一箇月五十錢。(廣告料)一圓、場所指定二割增、特別面一圓五十錢。(發行物)八幡製鐵所職員錄每年一回。

日刊くろがね新聞 共英社出版部發行。八幡市上本町一ノ三六三。(電)一一八一、一一六九。個人經營。六千圓。(社史)昭和七年七月共同出資七千圓にて共英社出版部創立同時日刊新聞くろがね新聞一日五千部配布一箇月料金十錢とす、共同出資者轉職又は死亡により一千圓減資個人經營となす、共英社の印刷部は共英社發行の新聞雜誌のみを印刷發行す現に日刊公民新聞、月刊雜誌カミラツバ三千部印刷發行中。夕刊小型四頁。(版數)一。(部數)十年十月一日現在六千七百部。(社主)田口精一(社長)田口留吉。(副社長)田口精一。(主幹)福馬靜雲。(編輯)塚本榮。(營業)高木政之。(社員)十三名。(工場員)七名。(機械)四六版八頁二、六頁一。寫眞版設備あり。(活字)七・七五、十四字。四十行、六段。一箇月十錢。(廣告料)一圓三十錢、特別二圓、場所指定三圓。

東洋自由日報 (九州自由新聞の改題)。八幡市槻田菰田八四一。創刊大正八年五月二十二日。朝刊四頁。(社長)田中亘。(機械)平版一。(活字)舊、十三段。一箇月六十錢。(廣告料)三十錢。

日刊同盟新聞 八幡市黑崎町創刊昭和六年十一月十一日。朝刊四頁。(社長)藤森恂二。(機械)輪轉一。(活字)舊、十三段。一箇月五十錢。(廣告料)三十錢。

日刊公民新聞 (九州報知新聞の姉妹紙)八幡市藤田二二二七。創刊昭和七年十一月八日。朝刊四頁。(社長)倉重令藏。(機械)平版一。(活字)七・七五、十三段。一箇月五十錢。

九州民友新聞 若松市田町三三九。(電)一〇五五。個人經營。一萬圓。民政系。(社史)昭和二年九月四日創刊、若松市に於て

發行せる日刊新聞は其盡くが自家用工場を所有せず、本社は昭和五年三月一日より唯一の新聞工場を經營せり。朝刊四頁。(版數)四。(附錄)日曜漫畫。(地方版)福岡久留米版、八幡、下關版、田川版。(部數)九年九月十三日現在五千部。(社主)山本徹史。(社長)同。(主幹)山本文雄。(主筆)三浦謙次郎。(營局)浦野晴光。(社員)廿二名。(工場員)十一名。(機械)菊判十六頁ロール掛、活版印刷機二、菊八頁活版機トンビ式一、石版印刷機四六半截一、寸延六頁一、四六判四截一。ステロ及寫眞版設備あり。(活字)七・七五、十四字、十三段。一箇月五十錢。(廣告料)普通一圓、場所指定五十錢。(兼營)月刊　太陽」一般印刷、出版業

九州民報　若松市濱五番町。(電)七三三。個人經營。政友會。(社史)創刊大正八年最初若松朝報と號し大正十三年九州民報に改題。朝刊四頁。(版數)二。(地方版)戸畑毎日新聞(昭和十年五月創刊)。(社長)石崎敏行。(理事)才津原積、加茂紫朗。(主筆)高野貞三。(編輯)赤松朔風。(市政)石川寅夫。(經濟)大貝武夫。(地方)加茂紫朗。(文藝)河原重美。(營業)矢根福市。(廣告)同。(販賣)宮崎正美。(東京支局)四日市長。(大阪支局)與田勇次郎(機械)十六頁平盤二、八頁一。ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十三段。

若松新聞　若松市連歌裏町六。創刊大正七年三月二十日。朝刊四頁。(社長)澁田敏彦。(營業)宇土元親。一箇月六十錢。

進九州　若松市祇園町一五。創刊昭和九年二月。個人經營。六千圓。朝刊四頁。(社長)山城安太郎。十三段。一箇月六十錢。

筑後新聞　(九州日日新聞社支社)久留米市莊島町二五三。(電)二九八八。個人經營。國民同盟。創刊明治三十二年八月。朝刊八頁。夕刊四頁。(版數)二。(社長)赤星不羈士。(政治)萩尾敏治。(社會)風間剛二。(經濟)藤川太郎。(營業)上野俊藏。(廣告)菊池博基。(販賣)西垣政憲。(機械)マリノニー輪轉機一。活字鑄造機。ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七・二五、十五字、百五十行、十三段。一箇月九十錢。(廣告料)八十錢、特別面一圓五十錢。

九州朝日新聞　久留米市南黃西町一九四三。(電)三〇二八。個人經營。二萬圓。政友系。(社史)大正二年創立、但し明治三十九年創刊の久留米週報を數次改題し今日に及べり。朝刊四頁。(版數)六版。(部數)十年九月現在六千部。(社主)大森三郎。(社長)同。(主幹)香月寛。(編輯)同。(營局)大森蒼亭。(營業)松田一男。(東京支局)吉永學。(大阪支局)上村弘。(社員)四十名。(工場員)二十名。(機械)平盤二。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七・五、十四字、百三十五行、十三段。一箇月六十錢。(廣告料)一圓、場所指定一圓五十錢。

■社屋新築成る、十一年三月までに六室增築。

久留米毎日新聞　久留米市白山町。創刊大正七年五月十八日個人經營。夕刊四頁。(社主)松井一郎。(社長)同。(主筆)中川清五郎。(營部)山下岩雄。(機械)ロール一。ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七・七五、十五字、百三十五行、十二段。一箇月六十錢。

九州日の出新聞　久留米市莊島町七一ノ一。(電)三二〇二。個人經營。政友系。創刊大正十四年四月十五日。朝刊四頁。(社主)新莊敏雄。(社長)同。(機械)輪轉機。十五字、十三段。一箇月六十錢。(廣告料)八十錢、特別面一圓。

肥筑日日新聞　(九州報和新聞の姉妹紙)久留米市莊島町五二。創刊大正十三年四月十四日。朝刊四頁。(社長)竹熊鶴次。一箇月六十錢。

筑後新報　久留米市西町金丸一三九四。創刊昭和三年九月四日。朝刊四頁。(社長)野田太藏。一箇月六十錢。

夕刊大久留米　久留米市莊島町一六七。創刊昭和五年四月十九日。合資會社。一萬圓。夕刊四頁。(社長)前田傳藏。(械械)平盤一。七段。一箇月五十錢。

西海日日新聞　久留米市築島町二四。創刊昭和八年四月二十日。朝刊四頁。(社主)中村勝。(社長)同。(編輯)三和德樹。(營業)上原敏之。一箇月六十錢。(廣告料)一圓、特別面一圓五十錢。

大牟田毎日新聞　大牟田市不知火町二丁目七九。(電)三〇六七。個人經營。三萬圓。政友系。創刊明治四十一年四月十八日。朝刊四頁。(版數)二。(部數)九年九月十日現在三千五百六十部(社主)平山喜錢。(社長)同。(總務)黑田潔。(主筆)若山峻一。(編輯)同。(營業)小柳國太郎。(廣告)同。(東京支局)富松金三郎。(大阪支局)加藤定雄。(社員)十五名。(工場員)四十二名。(機械)輪轉機一、平盤一。ステロ設備あり。(活字)七ポ、十五字、百五十二行、十三段。一箇月五十錢。(廣告料)六十錢。特別面一圓。

くろだいや新聞　大牟田市有明町六九。(電)代表二〇六六。三十萬圓。(社史)昭和二年六月二十五日創刊、同八年一月一日新組織の下に今日に至る。朝刊四頁。(附錄)小雜誌及小型四頁新聞。(部數)十年九月卅日現在一萬五千二十五部。(社主)深川正夫。(社長)坂本正道。(主幹)菰田雅夫。(主筆)同。(編局)古賀正雄。(政治、經濟)菰田雅夫。(社會)末吉政人。(整理)松岡政行。(營局)內田早苗。(社員)十九名。(工場員)三十二名。(機械)輪轉機一、八頁平版二。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり(活字)七ポ、十五字、十三段。一箇月五十錢。(廣告料)五錢市外十錢、場所指定十錢、特別面六十錢。

西海毎日新聞　大牟田市築町二三。(電)二一七五、三一一〇。五萬圓。(社史)創刊大正八年三月十日、西海日日を毎日と改む朝刊四頁。(附錄)我等の世界(月刊)。(部數)昭和十年十月三日現在三千五百六十七部。(社主)石川幸男。(社長)同。(編輯)移本一人。(社會)柿原長藏。(營業)富安茂男。(東京支局)藤沼保三。(大阪支局)太田源一郎。(社員)三十名。(工場員)二十六名。(機械)八頁一、六頁一。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七ポ、十五字、八十六行、十三段。一箇月五十錢。(廣告料)六十錢。場所指定十錢、特別面一圓五十錢。(兼營)西毎倶樂部。

■第七回西毎主催マラソン並に陸上競技大會を十年十月十七日擧行。

大牟田時事新聞　大牟田市有明町。創刊昭和九年。個人經營。二萬二千圓。朝刊四頁。(社長)古賀鐵藏。(主筆)矢野鳳作。(機械)平盤二。(活字)七ポ、十三段。一箇月五十錢。

筑豐新聞　直方市九八六。(電)四一八。創刊明治四十五年六月二十五日。個人經營。五萬圓。民政系。朝刊四頁。(部數)八年十月七日現在三千八百五十部。(社主)藤廣久吉。(社長)同。(編輯)蜂谷昌一。(營業)高橋邦彥。(東京支局)淸原茂樹。(大阪支局)松下兵馬。(社員)十名。(工場員)十四名。(機械)平盤二。ステロあり。(活字)七・七五、十五字、百三十五行、十二段。一箇月六十錢。(廣告料)七十錢。

筑豐日日新聞　直方市原田町二七一。創刊大正七年八月。個人經營。朝刊四頁。(社長)田尻繁雄。(機械)平盤一。(活字)七・七五、百三十五行、十三段。一箇月五十錢。

筑紫毎日新聞　直方市直日町一八五。創刊昭和三年七月三日朝刊四頁。(部數)十年十月一日現在三千部。(社主)井上繁雄。(社長)同。(編輯)明午新藏。(營業)石川米雄。(社員)五名。(工場員)十名。(機械)十六頁刷モーター印刷二。(活字)十四字、十三段。一箇月六十錢。(廣告料)七十錢、特別面一圓七十錢。

日刊福岡朝日新聞　直方市下境。(電)二一。個人經營。八千圓。創刊昭和五年十月一日。朝刊四頁。(部數)十年十月一日現在千六百部。(社主)佐田貞雄。(社長)同。(編輯)同。(營業)玉崎常吉。(社員)十六名。(工場員)十一名。(機械)平版一。活字鑄造機あり。(活字)十五字、八十二行、十三段。一箇月五十錢。(廣告料)七十錢。場所指定一圓五十錢、特別面二圓。(發行物)事業年鑑。

筑陽日日新聞 飯塚市御幸町(電)三一七。個人經營。五萬圓。政友系。(社史)大正三年飯塚報知新聞と題して發行、途中改題今日に至る。朝刊四頁。(版數)三。(地方版)市内版、筑後版、鞍手版。(部數)十年十月一日現在三千八百五十部。(社主)田中保藏。(社長)同。(主筆)高橋不迷、(編輯)同。(社會)西田一夫。(政治)田中知久史。(營業)吉原秋雨。(販賣)田中新。(廣告外勤)梶原玄信。(廣告内勤)田中清子。(東京支局)富松金三郎。(機械)平盤二。ステロあり。(活字)七・七五、十三字、八十五行、十三段。一箇月五十錢。(廣告料)一圓、場所指定二圓、特別面一圓五十錢。■川開煙火大會、驛傳競走、小學校書道展、同上圖畫展、(以上年中行事)。

九州今日新聞 戸畑市明治町六丁目。創刊大正七年二月二十七日。朝刊四頁。(社長)浦田松雄。十三段。一箇月六十錢。

玄海日報 戸畑市榮宮通。(電)二二一七。一萬圓。(社史)大正五年四月戸畑新聞として發行し昭和七年四月玄海日報と改題す。朝刊四頁。(社主)石井鐵太郎。(社長)同。(機械)十六頁一、八頁一。

戸畑每日新聞 (九州民報の經營)戸畑市。創刊昭和十年五月。(社長)石崎敏行。

九州新報 九新社發行。飯塚市住吉町。(電)四四四。創刊昭和二年七月三十日。個人經營。民政黨。夕刊四頁。(版數)二。(地方版)八幡、久留米。(社主)岡部兼吉。(社長)同。(社員)七名。(工場員)十五名。(機械)十六頁平盤二。ステロ設備あり。(活字)七・五、十四字、八十行、十三段。一箇月五十錢。

嘉穗每日新聞 飯塚市宮の下。創刊昭和六年三月九日。朝刊四頁。(社長)伊藤丑之助。(主筆)高尾錄次。(機械)平盤一。(活字)七ポ、十三段。一箇月五十錢。

北九州新報 伊田町二一三一。(電)一三七。創刊大正四年六月一日。個人經營。五萬圓。民政黨。朝刊四頁。(版數)一。(附錄)月三回乃至五回。(社主)宮城務人。(社長)同。(主筆)宮城正美。(營業)奥村勝亮。(大阪支局)大林壽。(工場員)十五名。(機械)平盤一。(活字)七・七五、十五字、八十四行、十二段。一箇月六十錢。(廣告料)八十錢、特別面一圓五十錢。(兼營)代理部にて藥品販賣。

西部朝日新聞 伊田町二九一五。(電)七九。個人經營。八千圓。(社史)創刊昭和六年六月十日、八年十月六日付を以て伊田町會の決議により隣村宮川村併合の際に於ける指導宜しきを得たる理由で町長林田春次郎より感謝狀を授與さる。朝刊四頁。(版數)一。(部數)十年十月一日現在三千五百部。(社主)田中順一。(社長)同。(主筆)同。(編輯)天野箕太郎。(營業)立花登。(社員)七名。(工場員)五名。(機械)平盤八頁寸延一。(活字)七・七五、十四字、八十行、十三段。一箇月三十錢。(廣告料)一圓、場所指定一圓五十錢、特別面二圓。■十一年度計畫地方版一版增設

民聲新聞 伊田町。民政系。(社史)昭和三年四月一日月三回發行、後週刊、月十回發行を經て現日刊。朝刊二頁。(部數)九年八月末日現在二千四百七十部。(社主)田村虎太郎。(社長)同。(編輯)尾造湧泉。(營業)末永豐己。(社員)七名。(工場員)十二名。(機械)四六八頁一、寸延六頁一。(活字)七・七五、十五字、七十二行、十二段。一箇月四十錢。(廣告料)一圓、場所指定二圓。(兼營)印刷業。

九州時事新聞 後藤寺町宮尾。個人經營。一萬圓。政友系。(社史)創刊大正十五年四月三日、昭和九年七月東京支社設置。朝刊四頁。(版數)一。(部數)九年九月十五日現在三千部。(社主)松尾正記。(社長)同。(主筆)同。(編局)小野重美。(營局)社長兼務。(東京支局)水谷新次郎。(社員)十二名。(工場員)六名。(機械)十六頁平盤ロール一、八頁一。ステロ設備あり。(活字)七・七五、十四字、百三十五行、十三段。一箇月六十錢。(廣告料)一圓、場所指定一圓二十錢。

柳河日日新聞 柳河町細工町九九。(電)二二一。個人經營。創刊大正十四年四月一日。朝刊

四頁。(社長)山本信雄。(編輯)田吹直作。(活字)七・二五、十五字、百四十二行、十三段。一箇月六十錢。(廣告料)六十錢、特別面一圓二十錢。

行橋每日新聞 行橋町。個人經營。一萬圓。(社史)昭和七年六月一日發行、十有餘年週刊の後に。朝刊二頁。(部數)九年九月十二日現在二千部。(社主)西村力太郎。(社長)同。(營業)丹田美雄。(社員)五名。(工場員)十二名。(活字)十五字、七十八行、十二段。一箇月三十五錢。(廣告料)五十錢、特別面一圓。

福岡每日新聞 二日市町九二八。創刊昭和四年三月。個人經營。朝刊四頁。(社長)本司一。十三段。一箇月六十錢。

佐賀縣

▼人口……六九四、二〇〇
▼同市部……四七、〇〇〇
▼同郡部……六四七、二〇〇
▼世帶數……一三八、〇四〇

佐賀縣は福岡日日が絶對優勢を占め、大朝、大每、九日これにつぎ、地元紙は不振を免がれない上揭移入紙の朝刊は午前三時十四分佐賀市に着き、夕刊は六時頃に着く。尙最近では九州日日が觸手を伸ばしてゐる。地元紙の中では佐賀市(人口四萬七千)の肥前日日が最も有力とせられてゐたが、此頃は往年の勢なく佐賀新聞、佐賀每夕等が活躍してゐる。

佐賀每夕新聞 佐賀市松原町六二。(電)一一八二。個人經營。(社史)大正十五年五月二十日農村青年新聞として創刊昭和六年六月一日佐賀每夕新聞と改題今日に至る。夕刊四頁。(部數)十年十月一日現在七千部。(社主)中尾都昭。(社長)同。(主幹)村井孝充。(編部)畑瀨正夫。(營部)野口長明。(東京支局)石原勝次郎。(大阪支局)永田格太郎。(社員)三十五名。(機械)十六頁版印刷機三、ステロ二。(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月四十錢。(廣告料)五十錢、場所指定一割增、特別面一圓。

佐賀新聞 佐賀市唐人町(電)三三。合資會社。五千圓。創刊明治十八年八月。個人經營。昭和九年七月組織變更。朝刊四頁。(社長)野口藤三。(編輯)末次藤太郎。(政治)木塚豐。(社會)古川淨。(營業)石橋彌作。(廣告)同。(大阪支局)西谷清雄。(機械)平版十六頁二、ステロ設備あり。(活字)九ポ、十四字、十三段。一箇月五十錢。(廣告料)五十錢、場所指定一圓。(兼營)縣公報、印刷請負。

佐賀每日新聞 (九州日報の經營)佐賀市松原町一〇五。(電)三二一、八三〇。創刊明治四十五年七月二十二日。朝刊八頁。夕刊四頁。(支配人)島崎雅臣。(編輯)田中虎登。(營業)志波勘作。(社員)二十名。(機械)九州日報に同じ。(活字)七ポ、十五字、百五十六行、十三段。一箇月八十五錢。(廣告料)五十錢、場所指定一割增、特別面一圓。

肥前日日新聞 佐賀市松原町中の小路。(電)一四五、一八五。(社史)創刊大正十一年一月一日昭和六年七月一日佐賀日報と改題朝刊と夕刊となし福日の附錄紙となり、後再び獨立し、九年現名に改題す。夕刊六頁。(社長)田中恭平。(主幹)眞島。(機械)石川式輪轉機一。活字鑄造機、ステロ、寫眞版。(活字)七・七五、十五字、百三十六行、十二段。一箇月五十錢。(廣告料)五十錢、場所指定一圓。

佐賀日日新聞 佐賀市松原町一六五。(電)二八三。個人經營。創刊大正十四年七月二十六日。夕刊小型四頁。(版數)二。(地方版)佐賀版、唐津版。(社主)江口嘉六。(社長)同。(編輯)同。(政治經濟)江口昇。(社會)金子政吉。(營業)古場訂一。(廣告)松田義敎。(販賣)原田良一。(社員)十九名。(工場員)十八名。(機械)平盤動力掛ロール二(活字)七ポ、十五字、百二十行十一段。一箇月三十錢。(廣告料)五十錢、特別面一圓。

佐賀商報 佐賀市松原町三五。創刊明治三十四年八月一日。合資二萬圓 夕刊小型四頁。(社長)社屋改築、輪轉機購入の計畫あり。

久池井良吾。(編輯)原口利八。(會計)澁谷純三。(社員)九名。(工場員)十名。(機械)ロール三。(活字)十五字、三十七行、五段。一箇月二十五錢。(廣告料)十錢。

唐津日日新聞 唐津市。創刊明治廿九年六月廿一日。合資會社。一萬二千五百圓。政友會。朝刊四頁。(版數)二。(附錄)二頁大月曦附錄。(社主)富永鐸之助。(社長)同。(營業)北村定七。(社員)十五名。(工場員)二十名。(機械)十六頁平盤二、(活字)七ポ、十五字、百五十五行十三段。一箇月五十錢。(廣告料)五十錢。

■十年四月創刊四十周年を迎へ三日より記念號を發行す。

■同五月四十周年記念事業の一として魚族祭を行ふ。

唐津新報 (唐津時事新聞の改題)唐津市材木町。(電)四〇七、五一一。創刊大正十一年三月三日七年十二月前社長小關世男雄君より現社長(政友會代議士)に讓渡。個人經營。一萬圓。夕刊四頁。(社主)藤井安太郎。(社長)同。(機械)平盤二。(活字)六號、十五字、五十八行、八段一箇月三十錢。(廣告料)普通五十錢、堺所指定一圓、特別面一圓廿錢。(兼營)書籍印刷物。

長崎縣

▼人口……一、三八八、五〇〇
▼同市部……三六七、九〇〇
▼同郡部……九二〇、六〇〇
▼世帶數……三五七、七〇〇

大朝、大毎は、門司進出と共に長崎、佐世保へ夕刊の別配達を始めた。その到達時間は、長崎へ朝刊が午前七時半、夕刊は午後八時、佐世保は朝刊午前四時半、夕刊午後七時である。これに對して福日は、長崎へ朝刊午前四時半、夕刊午後八時であるが、外に午後五時に添付紙長崎民友を配て居り一日三回配達である。そんな關係から福日は依然として王座を占め、つゞいて大朝、大毎、更に九日といふ順序である。佐世保では大阪紙がやゝ優勢と云はれる。斯の如く、此處も移入紙全盛であるが、人口二十一萬七千の長崎市、十五萬の佐世保市等には地元新聞の相當なものがある。中でも長崎市の長崎日日新聞、長崎新聞の二紙は、各相當部數を有し縣下の代表紙とされてゐたが、十年八月十八日長崎新聞は工場員のストライキから終に發行不能に陥り、永らく休刊して、十一月から週刊紙としてわづかに復活する事となつた。福日が地元紙の上にあるのは、新聞の實質以外に、地理、交通機關の便宜等によるのであつて、壱岐、對島の離島は勿論、北松浦、東彼杵なども福日の方が土地の新聞よりも早着する。

尚參考までに九年八月某官憲方面の推定による大阪二紙の移入部數を示せば次の如くである。但し此の數字は、其後兩紙の門司進出と共に變動した事無論である。

大阪毎日新聞　二一、四四〇
大阪朝日新聞　一九、五二〇

尚福日の附錄たる長崎民友については二萬見當と推定してゐるものゝ如くである。其他佐世保及び島原に於ける各紙に就ては次の如くに推定してゐる。

佐世保新報　二、七〇〇
佐世保日日新聞　二、〇〇〇
軍港新聞　四、五〇〇
佐世保新聞　三、二〇〇
佐世保民友　三、〇〇〇
長崎島原毎日新聞　二、〇九九
島原新聞　一、九九〇
島原時事新報　九五〇
島原毎朝新聞　七三八

長崎日日新聞 長崎市大村町一二。(電)四〇〇〇—四。株式。二十萬圓。(社史)創刊明治二十二年九月三日。朝刊四頁。夕刊四頁。(版數)八。(附錄)日曜附錄。(地方版)朝夕八頁佐世保新聞。(部數)十年十月十日現在六萬三千五百部。(社長)牧山耕藏。(副社長)則元卯太郎。(取締役支配人)貴田忠衞。(主筆)大森萬龜太。(編局)瀬戸崎半吾。(論說)大森萬龜太。(政治)田中豐秋。(經濟)小川謹次。(體育)山崎洋一。(學藝)磯野畯。(通信)小川源作。(速記)寺田元春。(校正)中村勝一郎。(寫眞)平林久和。(營業)貴田忠衞。(廣告)木村義孝。(販賣)植原正敏。(外交)眞弓森三郎。(經理)赤尾悟。(東京支局)神代祇彦。(大阪支局)浮田金次。(社員)二百十二名。(工場員)九十六名。(機械)マルノニー式輪轉機三(色刷)、平版二、活字鑄造機、ステロ、寫眞版完備。(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月八十錢、廣告料一圓二十錢。場所指定一圓四十錢、特別面二圓五十錢。(兼營)佐世保新聞社

■佐世保長崎間驛傳競走、縣下小學校兒童體育大會、全九州水上選手權大會(公認)、其他主催及後援。

■長崎縣人事興信錄出版、月刊「書道の歩み」發行。

■九年十二月五日一萬五千號を迎ふ。

長崎民友新聞 (福岡日日の經營)長崎市大浦町二二。(電)二四二〇、二三八九、一四七三。個人經營。十萬圓。政友會。(社史)大正十三年十一月廿四日西岡竹次郎氏の創刊、昭和四年九月十五日福岡日日の姉妹新聞となり、編輯は福日長崎支局員十餘名にて之を擔當。夕刊四頁。(版數)二。(部數)九年九月十日現在二萬部。(社主)西岡竹次郎。(社長)同。(副社長)倉成庄八郎。(支配人)同。(主筆)西岡竹次郎。(編局)長谷川國雄。(營局)久松靜太郎。(廣告)藤原判次郎。(會計)下瀬豐。(東京支局)三澤猛混。(大阪支局)坂口廣次郎。(社員)廿五名。(工場員)廿六名。(機械)外國製輪轉機二、コッピー機一、鉛版鑄込機一、鉛版仕上機一、寫眞製版機一、凸版製版機一。(活字)七半、十五字、百四十行、十二段。一箇月四十錢。(廣告料)一圓、場所指定一圓六十錢。

長崎報知新聞 長崎市桶屋町二二。(電)二一九二。(社史)長崎毎日新聞を廢刊して後八年秋改題發行せるもの、一時東洋日の出と合併したが、又分離す。夕刊四頁。(部數)八年十月十二日現在四千五百部。(社主)池田巖。(社長)同。(副社長)梶原哲夫。(支配人)同。(主筆)池田巖。(營業)松崎重三郎。(機械)平盤印刷機二。(活字)十五字、八十五行、十三段。一箇月四十錢。(廣告料)一圓、特別面二圓。

■先に東洋日の出と合併したが十年四月東洋日の出の名を廢し長崎報知の名を以つて發行する旨社告す。

東洋日の出新聞 長崎市東千馬町二ノ一。創刊明治三十五年一月一日。個人經營。十萬圓。朝刊四頁。(地方版)島原毎朝新聞。(編輯)宇都宮小次郎。(機械)輪轉機一、平盤一。ステロあり。(活字)七半、十五字、百四十五行、十二段。一箇月五十錢。(廣告料)一圓。

軍港新聞 佐世保市天滿町二。(電)六三、三九。(社史)創刊明治三十七年十月十五日、始め佐世保軍港新聞といふ、大正二年四月現名となる。合資。四萬圓。朝刊四頁、夕刊四頁。(社長)長谷川秀夫。(業務執行社員)近藤德壽。(總務)北島榮助。(編輯)渡邊國廣。(同次長)山口清波。(營部)北島綱一。(東京支局)平山長佐久。(大阪支局)黑川勝比古。(機械)內國製輪轉機一、平盤一。宇母、寫眞版、ステロあり。(活字)七ポ、十五字、百三十五行、十二段。一箇月八十錢。(廣告料)八十錢、特別面一圓五十錢。

佐世保日日新聞 佐世保市相生町三。創刊明治四十四年四月二十一日。個人經營。四萬五千圓。夕刊四頁。(社長)永安恕。(主筆)興梠菊四郎。(編輯)同。(營業)太村徹象。(廣告)宇佐見爲藏。(機械)內國製輪轉機一平盤二、ステロあり。(活字)七半、十五字、百三十五行、十二段。一箇月六十錢。(廣告料)一圓。

佐世保民友新聞 (福岡日日新聞の經營)佐世保市濱田町六一。創刊大正十四年六月二十九日。夕刊四頁。(社長)西岡竹次郎。(編輯)長谷川國雄。(營業)久松靜太郎。(廣告)大西時雄。(機械)輪轉機一、平盤一。(活字)七半、十三段。一箇月四十錢。(廣告料)一圓。

佐世保新報 （九州日報の姉妹紙）佐世保市本島町四。（電）四七。創刊明治三十六年六月三日。個人經營。朝刊八頁、夕刊四頁。（社主）遠藤十郎。（社長）同。（主筆）江口禮四郎。（編輯）高見喜一。（營業）同。（社員）九名。（活字）七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月八十五錢。（廣告料）一圓、場所指定一圓廿錢、特別面一圓五十錢。

佐世保新聞 （長崎日日新聞の替版）佐世保市上京町一七。創刊大正十二年九月六日。朝刊四頁。（活字）七ポ、十三段。

長崎日日新聞 島原町（電）九。

島原毎日新聞 島原町（電）九。個人經營。（社史）明治三十七年六月十三日金森安次郎氏創刊昭和八年一月、當時日刊大島原新聞社長たりし山北倭四郎氏の買收する所となり、今日に至る。朝刊四頁。（版數）二。（附錄）週刊大島原。（部數）十年十月一日現在五千部。（社主）山北倭四郎。（社長）同。（總務）米田鯉川。（主筆）平浩。（編部）澁江鐵郎。（營部）大館時利。（大阪支局）奥田勇次郎。（社員）二十名。（工場員）十二名。（機械）平版二。（活字）七・七五、十五字、八十五行、十二段。一箇月六十錢。（廣告料）八十錢、場所指定一圓。（兼營）週刊大島原新聞。

■講演會、全半島野球大會、實業團庭球大會等を主催す。

島原新聞 島原町四四一。（電）一五三。個人經營。三萬圓。（社史）大正二年八月二十五日創刊、前身開國新聞は明治三十二年の創刊にて後筑後新聞と改題し更に分離して島原新聞を發刊せるもの。夕刊四頁。（社主）清水繁三。（社長）同。（副社長）清水治代。（主筆）清水繁三。（編輯）吉田榮吉。（營業）下田金一郎。（大阪支局）浮田金治。（社員）八名。（工場員）十六名。（機械）ロール二。ステロ設備あり。（活字）七・七五、十五字、百二十行、十二段。一箇月六十錢。（廣告料）五十錢、場所指定二割增。

島原時事新報 島原町一二八六。創刊大正九年十一月十七日。個人經營。一萬圓。朝刊四頁。（社長）古川篤一。（主筆）堀部秀勝。（編輯）大槻直樹。（營業）道田光雄。（機械）平盤一。（活字）七・七五、十二段。一箇月六十錢。（廣告料）四十錢。

島原毎朝新聞 島原町七八四。（電）三三五。創刊大正十二年五月一日。個人經營。一萬圓。民政系。朝刊四頁。（社主）贄田五十二。（社長）同。（活字）十五字、十二段。一箇月五十錢。

熊本縣

▼人口……一、四〇〇、〇〇〇
▼同市部……一、八六、〇〇〇
▼同郡部……一、三四、〇〇〇
▼世帶數……三〇、〇〇〇

熊本縣は新聞中心地が幾つにも分裂して居らない爲めに、可成に有力な新聞が發展した。卽ち人口十八萬六千の熊本市に九州新聞及び九州日日新聞あり、共に全縣下から福岡、鹿兒島、宮崎、大分、佐賀等の一部に侵入してゐる。その代りそれ等各地の新聞も逆に此方に移入されてゐる。大阪新聞の門司進出の結果、その朝刊は午前二時夕刊は午後六時十五分に到着する。併し何れも第一版であるから、ニュースは地元紙や福日にも劣る。地元紙の九州日日は國同安達總裁の機關紙で信用厚く、指導力を持つてゐる。これに對して九州新聞は政友系を代表し、營業的活躍振りに見るべきものがある。

九州日日新聞 熊本市上通町五丁目四二。（電）一三三、二二〇一—二二〇四。合資會社。國民同盟。創刊明治十五年三月朝刊八頁、夕刊四頁。（版數）四。（地方版）筑後新聞、鹿兒島版、宮崎版、大分版、佐賀版、（監督）安達謙藏。（社長）宇野政行。（副社長）伊豆富人。（編部）西島滿。（同副部長）栗田嘉太郎。（廣告兼作業）草野造。（會計）梅田生一。（販賣）村本武。（庶務）河内山東雄。（東京支局）神原啓一。（大阪支局）永嶽信恒。（機械）佛國製マリノニ式輪轉機一、博文館輪轉機一、內國製式輪轉機三、活字鑄造機三、寫眞製版機二、凸版製版機一、ユッピー機三、鉛版鑄込機二、鉛版仕上機一。

（活字）七・二五、十五字、百五十行、十三段。一箇月九十五錢。（廣告料）八十錢。雜報欄內一圓六十錢、特別面一圓五十錢。（兼營）筑後新聞。

九州新聞 熊本市花畑町三一。（電）三二〇、二五〇〇—二五〇四。創刊明治三十九年二月。株式。三十萬圓。政友。朝刊八頁、夕刊四頁。（社長）高木第四郎。（取締役主幹兼編輯）高木亮。（政治）高田次郎。（整理）松村正人。（社會）豐福一喜。（地方）藤川精忠。（經濟）千場榮次。（學藝）平島澄雄。（企畫）山本美直。（校正）田邊桂造。（相場）蓑田伊次郎。（廣告）林裕資。（販賣）治部虎次郎。（東京支社）山田豐。（大阪支社）清島三郎。（機械）折疊式輪轉機二、輪轉機一、平盤一。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。（活字）七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月九十五錢。（廣告料）八十錢、特別面一圓五十錢。

■十年四月十六日日本新聞協會總裁東久邇宮殿下より高木社長御沙汰書を拜す。

■同九月縣下人口幾想投票を行ふ。

熊本毎夕新聞 熊本市鹽屋町三番町二一。創刊明治三十一年五月。株式。一萬圓。夕刊小型四頁。（社長）石田忠太郎。（編輯）石川仁生次。（營業）石田忠太郎。（機械）平盤三。ステロあり。（活字）七・七五。一箇月六十錢。（廣告料）六十錢。

九州毎夕新聞 熊本市辛島町一〇四。創刊大正十年九月。個人經營。夕刊四頁。（社長）福田秀藏。（機械）平盤一。（活字）九ポ、十二段。一箇月六十錢。（廣告料五十錢。

宮崎縣

▼人口……八二五、六〇〇
▼同市部……一四四、〇〇〇
▼同郡部……六二、六〇〇
▼世帶數……一六三、二一〇

宮崎縣は人口稀薄、交通不便の爲め永らく新聞不振の地とされてゐたが、今日に於ても變りはない。昭和九年前宮崎時事社長仲道政治君が宮崎新聞、日州新聞（傍系として買收）の三紙を合同して統制を計つた處、その反動として小新聞の簇生を見、宮崎市（人口六萬八千）內には現在大小七社がある。その中最も有力とされるのは宮崎新聞で部數七千見當と推定され、日州新聞これにつぎ三千見當と推される。其他は平盤印刷で部數も多くて千五六百の處。斯く地元新聞の困憊急なるに反して、大毎、大朝をはじめ、福岡日日、九州日日、鹿兒島新聞、鹿兒島朝日、豐州新報等が侵入し、殊に大阪兩紙及び福日は各一萬數千と推定される。次は鹿兒島兩紙各一千。九州日日、豐州新報は地盤が限られ從つて部數も少い。尙本縣では十年八月の暴力團狩りに相當大物まで檢擧を見た模樣である。各紙の販賣部數につき九年七月某官憲方面の推定を參考として掲げる。

地元紙	
宮崎新聞	九、二〇〇
日州新聞	四、七〇〇
宮崎毎日新聞	四、〇〇〇
延岡新聞	三、二〇〇
三州日日新聞	八〇〇
飫肥毎日新聞	一、四〇〇

移入紙	
大阪朝日新聞	一一、八〇〇
大阪毎日新聞	一〇、七〇〇
福岡日日新聞	六、六〇〇
鹿兒島新聞	九〇〇

宮崎新聞 宮崎市南廣島三丁目四一。（電）七一、一一八、一〇五〇。個人經營。十五萬圓。（社史）大正九年九月二十三日創刊、昭和九年四月十八日宮崎時事新聞と合同す。朝刊四頁、夕刊四頁。（版數）三。（部數）九年八月卅一日現在二萬五千部。（社主）仲道政治。（社長）同。（理事）松田傳。（理事主筆）寺師宗一。（理事營業）山田正。（編輯次長）中原實次。（政治）寺坂進。（社會）增澤龜人。（聯絡）阿部善作。（理事販賣）鈴木菊次。（寫眞）丸田俊幸。（工務）御子柴茂。（整理）甲斐宇三郎。（會計監督）奥丑松。（東京支局）山田壽惠吉。（大阪支局）浮田金次。（社員）百二十名。（工場員）八十名。（機械）津田式輪轉機一。マリノニ式一、平盤三。活字鑄造機、ステロ、

寫眞版完備。（活字）七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月八十五錢。（廣告料）一圓、場所指定十錢增、特別面一圓五十錢。

日州新聞

宮崎市旭通一丁目。（電）四〇二、八二六。個人經營。（社史）明治三十四年八月故野井唯吉氏創立、日州獨立新聞と稱し、三十八年一月日州と改題し更に現名となる、大正四年九月野井唯吉氏歿す、嗣子横太郎氏つぎ昭和五年十月勇退、森田正雄、日高不羈夫氏等を社長に迎へ、九年七月現社長となる。朝刊四頁。夕刊四頁。（部數）十年八月三十日現在一萬四千部（社主）坂元德次。（主幹）杉野軍治。（編輯）榊原登。（營業）杉野軍治。（企畫、廣告）新田時盛。（東京支局）富松金三郎。（大阪支局）浮田金次。（社員）二十四名。（工場員）四十五名。（機械）輪轉機一、平版二。ステロ一、活字鑄造機一、寫眞版設置一。（活字）七ポ、十五字、百五十二行、十三段。一箇月八十五錢。（廣告料）一圓、場所指定一圓五十錢、特別面一圓八十錢。

宮崎毎日新聞

宮崎市本町二三。（電）二五四。個人經營。五萬圓。（社史）昭和八年三月二十三日創刊。夕刊四頁。（版數）三。（地方版）縣北、縣南。（部數）昭和十年九月一日現在一萬部。（社主）濱田國幹。（社長）同。（編局）高橋五郎。（社會）石井二三夫。（經濟）金丸百平。（政治）阿部善作。（營局）河野甫人。（廣告）内野重雄。（販賣）大崎雄一。（東京支局）岩立慶三郎。（大阪支局）田村佐太郎。（社員）四十名。（工場員）二十名。（機械）平版印刷機三。ステロ一。（活字）七半、十四字、百十五行、十二段。一箇月五十錢。（廣告料）一圓、場所指定一圓七十錢、特別面一圓七十錢。

宮崎今日

宮崎市東雲町一ノ二。（電）一一九〇。個人經營。（社史）昭和九年十月十日創刊。夕刊小型四頁。（社主）磯野金作。（社長）同。（主筆）佐藤陸雄。（社員）二名。（工場員）五名。平版一。十六字、五十五行、八段。一箇月三十錢。（廣告料）一段五十錢。

■十年十月創刊一週年記念事業として醫療法律顧問の新設、地區並に業界座談會、宮崎市民歌懸賞募集を發表す。

宮崎日日新聞

宮崎市。

宮崎日報

宮崎市。

宮崎報知新聞

宮崎市。（社長）田村章義。

延岡新聞

延岡市新市街。（電）二六〇。個人經營。三萬圓。（社史）大五十一年大分新聞切替版姉妹紙として創刊、昭和三年八月一日獨立し純鄕土紙として今日に至る。夕刊四頁。（版數）三。（部數）九年九月一日現在五千八百部。（社主）佐藤和七郎。（社長）同。（主筆）佐藤天風。（營局）黒大吉藏。（社員）二十名。（工場員）二十名。（機械）十六頁印刷平盤三、八頁一。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備完成。（活字）十五字、百三十五行、十二段。一箇月六十錢。（兼營）月刊「新延岡」

延岡日日新聞

（日州新聞の刷替版）延岡市岡富町。創刊昭和七年一月三十一日。朝刊四頁。（幹部）炭本次三郎。清水桃太郎。

三州日日新聞

都城市中原町四〇二八。（電）一四三。個人經營。三萬圓。（社史）大正四年九月一日創業、大正七年株式會社に組織變更、同九年更に個人經營。朝刊四頁。（版數）一。（部數）十年十月一日現在二千八百部。（社主）川越實。（社長）同。（主筆）同。（編輯）坂元一二。（營業）川越實。（社員）二十六名。（機械）十六頁マシン外三。（活字）九ポ、十五字、六十八行、十段。一箇月五十錢、市外六十錢。（廣告料）七十錢、場所指定倍額。特別面場所指定に準ず。

飫肥毎日新聞

飫肥町。（電）五四。個人經營。一萬圓。（社史）昭和七年十一月三日創刊、小型四頁朝刊七段制より九年十一月三日九段制となし十年十一月三日滿三週年を記念となし、十六頁十二段制となす。朝刊四頁。（部數）十年十月現在五千部。（社主）西村安喜。（社長）同。（主筆）同。（編局）原一。（編部）野口明。（營業）高橋政二。（工場）重留盛藏。（社員）二十五名。（工場員）十二名。（機械）平盤八頁二、十

六頁一。（活字）母鑄造機所有。（活字）八ポ、十四字。一箇月五十錢。（廣告料）七十錢、場所指定一圓四十錢、特別面一圓七十錢。（兼營）普通印刷。

南九州毎日新聞

都城市八幡町四二六八。創刊昭和七年五月十三日。朝刊小型二頁。（幹部）水久保茜作、吉田近。

■元都城號外新聞と稱せるもの〻後身。

日刊宮崎縣北新聞

富高町（電）四。組合立。一萬六千圓。（社史）昭和八年三月創刊。夕刊四頁。（社主）松原好。（社長）同。（副社長）新田熊市。（主筆）富田六五丸。（機械）十六頁、八頁、六頁。一箇月四十錢。（廣告料）一圓、場所指定二圓。（兼營）印刷業及出版。

日向新報

油津町。創刊昭和九年。朝刊小型四頁。（幹部）井上勇夫。

鹿兒島縣

▼人口……一、六三、八〇〇
▼同市部……一、六六、九〇〇
▼同郡部……一、四四六、九〇〇
▼世帶數……三四、七六〇

鹿兒島は大縣である上に、新聞の數が少ないので、經營は餘程樂である。それに土地が偏してある爲め、守るによく、人口十七萬六千の鹿兒島市に、鹿兒島新聞、鹿兒島朝日新聞の二紙が發達した。此兩紙は共に二萬前後の純販賣部數を有すと見られ前者は政治家を背景として編輯によく後者は實業家を背景として營業に活氣ありと云はれる。鹿兒島市内に於ては兩紙とも七八千の部數を出し、大毎、大朝は午前七時半に驛着、勢力地元紙につぎ、隔日、九日これと雁行する。尙地元兩紙は協定して九年八月一日から夕刊を發行した。

鹿兒島新聞

鹿兒島市山下町一七一。（電）代表三三〇〇、二〇。組合。五十萬圓。政友會。（社史）創刊明治十四年二月十一日。朝刊六頁。夕刊四頁。（版數）七。（社長）皇玉實良。（常務理事）木原小平。（編局）牧清虎。（整理員）寺師宗一、平國隆義、田代泰藏、宮園諸衛。（教育）五代貞直。（營局）千知岩德太郎。（工場長）山本壯之介。（販賣）有村慶藏。（印刷）田卷善次。（東京支局）松浦信八。（大阪支局）永嶺恒信。（機械）高速度輪轉機一、内國製輪轉機二、平盤印刷機十二。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。（活字）七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月九十錢。（廣告料）七十錢、雜報欄一圓六十錢。（兼營）鹿兒島夕刊商報發行。

■九年十一月東京支局長渡邊政太郎君辭任し松浦信八君後任となる。

■十年五月二十五日理事宇内貫安君逝く、享年六十四。

■同八月一日前主筆津田武君逝く享年六十一。

鹿兒島朝日新聞

鹿兒島市鳥居町二。（電）長八。代表二二〇〇。株式。十萬五千圓。（社史）創刊明治三十三年二月十一日、同三十二年七月株式會社鹿兒島實業新聞社創立—鹿兒島實業新聞、漸次發展の歩を進め四十年社屋改築、大正二年增資、更に社屋增築、十一月十五日鹿兒島朝日新聞と改題、大正十二年敷地講入工を起し十四年九月鐵筋コンクリート三階建七百餘坪の新築。朝刊六頁乃至八頁。夕刊四頁。（版數）朝刊七、夕刊一。（地方版）六（宮崎版二、版共）。（取締役）山元玄十郎。（取締役編局）鰺坂貞盛。（政治）中條正文。（社會）辰元作德。（經濟）藤田親義。（縣政）石原森吉。（市政）緒方正雄。（倶藏）百男川敬藏。（通信）神野仙吉。（運動）田中早苗。（校正）稻留藤吉。（取締役營局）青木戔熊。（廣告）平井義彦。（販賣）坂元伊太郎。（會計）溝口岩次郎。（收入）堤庄司。（東京支局）河内時申。（大阪支局）平井義彦。（社員）五十二名外に集金、配達、雜務あり。（工場員）九十二名。（機械）内國製色刷折疊式輪轉機二、平盤印刷機四。萬年自働鑄造機一外二、寫眞製版機一、凸版製版一、吉松式腐蝕機一、蒸汽コッピー機二、ガスコッピー機一、鉛版鑄込機二、ステロ、設備あり。（活字）七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月九十五

錢。(廣告料)七十錢、特別面一圓二十錢。

■最近一年間に第五回製茶大量出荷奬勵會、第三回柑橘增收競進會、第廿一回觀櫻會、第一回大分鹿兒島兩縣下訪問競走等を主催す。

■九年十二月二十日前社長藤武喜助君逝く、享年七十七。

■十年三月前取締役山元玄十郎君社長に就任す。

夕刊鹿兒島商報 (鹿兒島新聞の經營)鹿兒島市山下町一七創刊大正六年十一月十四日。夕刊小型四頁。(活字)七半、九段。一箇月二十五錢。(廣告料)二十錢。

鹿兒島日日新聞 鹿兒島市樋之口町八五。(電)三一六。個人經營。(社史)創立昭和六年九月朝刊四頁。(社主)岡田虎臣。(社長)同。(支配人)牧山光丸。(編輯)小野整。(營業)園田實。(活字)七ポ、十五字、十三段。一箇月五十錢。

大島日日新聞 大島郡名瀬町金久。創刊昭和九年四月一日。朝刊二頁。(社長)肥後憲一。(主筆)坂井友直。(編輯)文英吉。(營業)大隅浦長。(機械)平版一、十二段。一ヶ月五十錢。(廣告料)四十錢。

大島朝日新聞 大島郡名瀬町創刊大正十一年十月二十四日。朝刊四頁。(社長)肥後信夫。

大分縣

▼人口……九九〇、一〇〇
▼同市部……一三、七〇〇
▼同郡部……八三、四〇〇
▼世帶數……一九四、〇二〇

大分市は人口六萬。九州に於ける新聞中心地の一つとして此處に、豐州新報、大分新聞の二紙が相競ひ、縣外紙の侵入に對抗してゐる、共に全縣的に固い地盤を有し愛媛、宮崎、福岡、熊本の一部にも侵入してゐる。大阪紙及び福岡紙は別府、大分方面へは朝刊が午前一時過ぎ、夕刊が午後五時過ぎに着く、何れも第一版である。而して大阪紙の此縣下に對する增紙計畫は大體三割方の責任押付であるといふが、早急には實現困難の模樣である。これに對する防遏策として、豐州、大分、大分日日の三紙はそれ〴〵中津豐州、中津新聞、中津日日の切替版を發行し縣下への入口に防禦陣を布くの擧に出てゐる。福日は郡部殊に日田、玖珠、大野各郡に於て優勢と云はれ、九州日日、九州新聞は熊本から大分への鐵道沿線の一部へ侵入してゐる。兎に角地元紙にとつては永らく金城湯池とされてゐたのが、今や外來の刺戟に對して敏活に應戰せねばならぬ時機を迎へた如くである。又政爭の盛んな土地柄だけに新聞の數が非常に多く群小新聞は經營難を免かれない。

豐州新報 大分市荷揚町二(電)五、五五〇、七二七、八三二、一七八。個人經營。立憲政友會。(社史)明治十九年四月十九日故長野松太郎氏創刊、四十一年現社長長野潔氏副社長に就任、同四十三年大分市丸ノ内に新社屋を建築、大正九年現社長就任。朝刊四頁。夕刊四頁。(版數)四版。(地方版)姉妹紙として中津市に於て「中津豐州新報」を發行す。(社長)長野潔。(理事)溝部啓三郎。(編部)稻富哲郎。(外交)加藤久。(調査)大城秀之助。(社會)大塚基比古。(政治)阿南堅石。(經濟)伊藤正男。(運動)麻生靖雄。(論說)柏本守人。(軍事)前田武夫。(地方)原田藏。(校正)佐藤熊雄。(整理)佐藤豐。(寫眞)井上晃。(營局)溝部啓三郎。(會計)同。(廣告)後藤茂彌太。(廣告次長)那賀新一。(販賣)植木槌松。(庶務)飯田三千男。(發送)田口儀一。(東京支局)西村藤夫。(大阪支局)日比野良三。(社員)百八十名。(工場員)八十名。(機械)石川式輪轉機二、內國製平盤印刷機二。活字鑄造機三、寫眞製版機一、凸版製版機一、コツピー機二、鉛版鑄込機二、鉛版仕上機二。(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月九十錢。(廣告料)普通一圓、特別二圓、記事中二圓、指定料五十錢。

■十年四月創刊五十周年を迎へ全面的飛躍を企畫す。

■同六月十六日縣教育會館に於て五十周年の盛大なる祝賀會を

行ふ。

大分新聞 大分市碩田橋通六〇。(電)代表一〇、社內各部私設電話完備。創刊明治二十二年六月一日。個人經營。民政系。朝刊四頁。夕刊四頁。(附錄)日曜大分。(地方版)中津別府。(社主)大津征夫。(社長)同。(理事兼營局)御手洗三次郎。(主筆編局)熊野御堂好文。(整理)飯倉四郎。(政治)田中保。(社會)佐藤綠平。(經濟)橋本伸一郎。(學藝)渡邊秀郎。(運動)山本益喜。(校正)安部勝次郎。(寫眞)白水定男。(會計)御手洗清八。(廣告)橋本豐。(庶務)田北宗平。(販賣)後藤李夫。(發送)安田寬夫。(工務)笠本寬吉。(印刷)佐藤福太郎。(計畫)本郷晉。(鑄造)高本保巳郎。(東京支局)松浦清平。(大阪支局)竹田津吾一。(機械)津田式輪轉機一、石川式輪轉機一、平盤三。活字鑄造機、ステロ、寫眞版全部完備。(活字)七ポ、十五字、百五十三行、十三段。一箇月九十錢。(廣告料)一圓、特別面三圓。

■九年十一月鳩班を新設す。

大分日日新聞 大分市唐人町一二〇七。(電)四三〇。七二八。個人經營。政友系。(社史)創刊明治四十四年九月一日、資本金一萬三千圓の株式、社長重藤久三郎、大正五年社屋を新築七年十一月輪轉機据付、八年五月中津日日新聞を發刊兼營、十年九月株式を解散、個人經營となる、十三年十二月朝夕刊八頁制實行、十四年五月資本金卅五萬圓の株式會社とす、十五年一月重藤氏辭職一宮房次郎氏、吉村一郎氏社長を經て昭和三年株式を解散吉村氏個人經營となる後河原晉治氏、席瀨彥太郎氏經營、五年九月野依秀市氏引受經營。朝刊四頁。夕刊四頁。(版數)四。(附錄)日曜附錄、我等の新聞。(社長)野依秀市。(副社長)南敦雄。(主筆)河野勝。(政治)同。(編局)巴田明。(整理)玉光一。(經濟)浦山保壽。(社會)前田武雄。(運動)衞藤久彥。(學藝)田中一。(速記)宮原峯太郎。(校正)酒井隆雄。(軍事)松本涉。(營局)南敦。(販賣)藤井岩雄。(廣告)梶原久繼。(會計)佐藤彬。(事業)南鐵雄。(工務局)金子榮藏。(東京支局)佐野完。(大阪支局)木暮仁輔。(社員)四十七名。(工場員)四十五名。(機械)輪轉機一、平盤二。活字鑄造機二、ステロ機二、コツピー一、寫眞製版機二。(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月九十錢。(廣告料)一圓、場所指定二倍、特別面二圓。(兼營)中津日日新聞。

日刊大分朝日 大分朝日新聞社發行。大分市荷揚町三三。(電)一三八八。個人經營。一萬圓。(社史)昭和四年十一月十九日中立の日刊紙として前大阪朝日大分支局長青木宏が創刊したるもの。夕刊四頁。(版數)二。(地方版)日田版、佐伯版。(部數)十年十月一日現在八千部。(社主)青木宏。(社長)同。(專務)後藤嘉津馬。(主幹)北條左映。(編輯)同。(營業)志手瀧夫。(販賣)柿本好太郎。(大阪支局)松本晴夫。(社員)十五名。(工場員)二十名。(機械)十六頁平盤一、八頁一。一箇月三十錢。(廣告料)二十錢場所指定五十錢。

民政新報 (日刊別府新報の經營)大分市大分四九一。創刊大正十三年一月。個人經營。一萬圓。民政系。夕刊二頁。(版數)一。(社主)鹽澤政明。(社長)山西保。(編輯)同。(營業)後藤數見。(機械)平盤二。活字。七・七五、十五字、十二段。一箇月七錢。(廣告料)五十錢。

中津日日新聞 (大分日日新聞の切替版)大分市唐人町。創刊大正八年五月。朝刊四頁。夕刊四頁。(社長)野依秀市。(活字)七ポ、十三段。

中津新聞 (大分新聞の切替版)大分市荷上町六〇。創刊大正六年。朝刊四頁。夕刊四頁。(社長)大津征夫。

大分夕刊 (大別府新聞の經營)大分市。創刊昭和六年。夕刊四頁。(社長)若山隆民。

豐國新報 (溫泉タイムスの經營)大分市。(發行人)佐藤鶴吉。

大分今日新聞 大分市。(發行人)若山隆民。

大分每日新聞 大分市。(發行人)佐藤盛義。

溫泉タイムス 別府市。(電)

一二〇三。個人經營。十萬圓。創刊大正五年八月。朝刊二、夕刊四。(版數)三。(地方版)佐鄉版、大分版。(社主)伊藤德兵衞。(社長)同。(主筆)綱中泰汀。(編局)同。(政治)山本恒美。(社會)瀧本律。(營局)後藤一。(販賣)堀侃。(廣告)田北正敏。(東京支局)稻垣四方雄。(大阪支局)矢野林。(社員)六十三名。(工場員)三十一名。(機械)平盤二。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七ポ、十五字、百十五行、十三段。一箇月六十五錢。(兼營)日刊佐伯新報(四頁)。同豐國新報(四頁)。

大別府新聞 別府市南下區旭通り。(電)五五一。個人經營。三萬圓。政友系。創刊大正八年三月二十一日。朝刊四頁。(部數)十年九月三十日現在三千五百部(社主)原田耕馬。(社長)毛井睦治。(支配人)原田千猪生。(主幹)山田文平。(主筆)山田騎風。(編局)河野進。(編部)橋本敦文。(營業)上野男。(東京支局)川口松二郎。(社員)三名。(機械)十六頁ロール二。ステロ、寫眞版あり。(活字)七・七五、十五字、一箇月七十錢。(廣告料)八十錢場所指定倍額。(兼營)大分夕刊臼杵新聞。

毎夕新聞 別府市秋葉通一一丁目。(電)七四三。個人經營。三萬圓。民政系。創刊大正十三年三月創立十一年。夕刊四頁。(地方版)臼杵毎日新聞(發行部數千五百部)(部數)十年十月二日現在四千部。(社主)南波保。(社長)同(副社長)田村今朝季。(主筆)同。(編局)草刈正一。(政治)田崎國廣(社會)小野隆行。(營部)田邊敦照。(廣告)野崎小一郎。(會計)竹田虎雄。(東京支局)尼子止。(大阪支局)甲斐要。(社員)三十五名。十八名。(機械)四六版半載機三。(活字)七ポ、十五字、九十行十三段。一箇月五十錢。(廣告料)一圓、特別面二圓。

別府新報 別府市田ノ湯區。(電)六〇二。個人經營。一萬圓。民政系。創刊大正十年十月三日夕刊四頁。(版數)二。(部數)昭和十年十月三日現在二千七百部(社主)驪澤政明。(社長)山西保。(主幹)田中隆。(主筆)山西保。(編輯)木原登。(營業)後藤敦見。(社員)二十四名。(工場員)十三名。(機械)平盤二。(活字)七ポ、十五字、七十八行、十二段。一箇月五十錢。(廣告料)一圓、場所指定五圓。

今日新聞 別府市驛前。(電)一一六〇。個人經營。三萬圓。昭和三年十月創刊。夕刊小型四頁。(部數)十年十月一日現在五千部(社主)岩屋護。(社長)同。(主幹)山本麟義。(機械)平版十六頁二。(活字)七ポ、十五字、一箇月三十錢。(廣告料)一圓、特別面二圓。

毎日新聞 別府市御幸通り一丁目三八一ノ二。(電)七三一。個人經營。一萬圓。民政系。(社史)昭和五年二月一日泉都日日新聞として發刊、六年一月一日より別府毎日新聞と改題、七年十月一日より毎日新聞と改題。夕刊二頁。(版數)二。(部數)十年六月三十日現在三千部。(社主)渡部基。(社長)同。(副社長)堀口清巷。(主筆)渡部基。(編輯)森稔。(營業)植木誠。(東京支局)玉井秀峰。(大阪支局)川中秀登。(社員)二十五名。(工場員)十名。(機械)薄邊式十六頁一、中島式八頁寸延一。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七ポ、十五字、百行、十三段。一箇月三十錢。(廣告料)二圓、場所指定一圓、特別面倍額。(兼營)代理部、廣告マッチ、電球、其他サービス廣告用品旅館案内等

別府日日新聞 別府市。創刊昭和六年。朝刊四頁。(社長)市原清一郎。

東九州新聞 別府市。(發行人)杉山勝。

中津實業新聞 中津市一ッ松町六七三。株式。一萬圓。(社史)昭和四年四月十日創刊、八年現地に社屋新築、現在中津市唯一の獨立新聞。朝刊四頁。(部數)十年十月一日現在千部。(社長)山本利夫。(副社長編輯)山本立夫。(社員)十五名。(工場員)八名。(機械)平盤一六頁、八頁、六頁。(活字)舊、十五字、四十七行、八段。一箇月五十錢。(廣告料)五十錢、場所指定倍額、特別面三倍。(兼營)出版印刷業。

中津豐州新報 (豐州新報の切替版)中津市京町。創刊昭和七年四月一日。朝刊八頁。(社長)長野潔。

日田朝日新聞 日田町大字庄手。(電)四三九。個人經營。一千圓。創刊昭和五年五月一日。朝刊四頁。(部數)九年九月十五日現在九百部。(社主)岩里良三。(社長)同。(主幹)梳村彰。(社員)七名。(工場員)五名。(活字)十四字、六十行、十段。一箇月四十錢。

日玖新聞 日田町。(電)五一〇。個人經營。三萬圓。政友系。創刊昭和五年九月二十日。夕刊二頁。(部數)九年九月十日現在三千部。(社主)原田文義。(社長)安部默平。(編輯)西山信義。(營業)松下正雄。(工場員)五名。(機械)平盤二。(活字)十三字、六十行、十段。一箇月五十錢。(廣告料)十錢、場所指定倍額、特別面倍額。

九州日之出新聞 日田町。(發行人、執行佐和二。

臼杵毎日新聞 (別府毎夕新聞の經營)。臼杵町。創刊昭和三年。個人經營。朝刊四頁。(社長)南波保。(別府毎夕新聞にて印刷)一箇月七十錢。

日刊佐伯新報 (溫泉タイムスの經營)。佐伯新報社發行。佐伯町字仲町。創刊大正十二年一月。朝刊四頁。(社主)山内季藏。(社員)六名。(活字)十五字、八十行十二段。一箇月六十錢。(廣告料)二十錢。

沖縄縣

▼人口……五九三、二〇〇
▼同市部……八四、九〇〇
▼同郡部……五八、四〇〇
▼世帶數……二八、六六〇

沖縄縣は人口も少なく、富力も低く特に交通が不便だから新聞の不振は免かれない。現在那覇市(人口六萬五千)に四新聞あり、輪轉機を有するものは沖縄日報一紙だけである。琉球新報は歴史が古い丈けに一頭地を抜く。移入紙は大朝、大毎絶對多數を占め、九年七月某官憲方面の推定では大朝千二百、大毎八百見當と見てある。東京紙は多くて二百位の處。

琉球新報 那覇市東町四ノ三ノ二。(電)四一一。創刊明治廿六年九月十五日。匿名組合。十萬圓。朝刊四頁。(部數)七年八月現在五千八百部。(社長)太田朝敷。(主筆)又吉康和。(編輯)長嶺將快。(營業)仲尾次政潤。(社員)二十五名。(工場員)二十五名。(機械)シリンダー二。鑄造機一、ステロ一、寫眞版設備あり。(活字)七ポ、十五字、八十行、十三段。一箇月六十錢。(廣告料)二十錢、場所指定四十錢、特別面四十錢。

沖縄日報 那覇市西本町。(電)三五九。個人經營。十萬圓。(社史)昭和六年十二月二日創刊、純然たる商業紙として今日に至る朝刊四頁。(部數)十年十月一日現在二萬百八十部。(社主)屋富祖德次郎。(社長)同。(主筆)渡久地政馮。(編輯)玻分城長好。(社會)古波茂保好。(經濟)花城清用。(政治)與我春信。(營業)親泊政博。(廣告)城間恒次郎。(庶務)伊波興誠。(販賣)上地安藏。(東京支局)高安朝正。(大阪支局)龜山清藏。(社員)八十名。(工場員)五十名。(機械)マリノニ輪轉機一、十六頁平板二。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)九ポ、十五字、八十六行、十三段。一箇月六十錢。(廣告料)二十錢、場所指定二十五錢、特別面五十錢。

■滿蒙視察員特派、日光博覽會主催、圖書館移築寄附援助、孔子廟再建援助、野球、庭球大會主催其他をなす。

沖縄朝日新聞 那覇市西本町四ノ二〇。創刊大正四年十一月十日朝刊四頁。個人經營。三萬圓。(社長)宮眞嗣合。(主筆)同。(編輯)高嶺朝光。(營業)渡慶次朝義。(廣告)座安盛德。(機械)平盤二。(活字)七・七五、十五字、十二段。一箇月六十錢。(廣告料)二十錢。

日刊沖縄新聞 那覇市久米町一ノ三。創刊昭和九年一月一日。夕刊二頁。(社長)小田榮。(編輯)小田俊與。(營業)高良知喜。(廣告)翁長武夫。(機械)平盤二。(活字)七ポ、十三段。一箇月三十錢。(廣告料)二十錢。

(二) 北海道

附樺太

▼人口……三、〇六二、六〇〇
▼同市部……八二四、五〇〇
▼同郡部……二、二三七、一〇〇
▼世帯數……六三、五三〇

人口の密度は全國最下位だが數は東京、大阪につぎ、此處を根據として他縣に攻め入る事は困難だが防備はやり易い立場にある。殊に東京からは隔絶してゐるので東京紙はさしたる脅威とならぬ。たゞ地域廣大にして交通不便、濃密な販賣網を布く事困難だが、まとまつた一領域を形作つてゐる爲め二三の有力紙が發達した。

而して北海道の新聞中心地は次の六市で、前の三市が大きな中心地、次の三市はやゝ小さな中心地である。

市	人口
札幌	一九三、二〇〇
小樽	一五三、二〇〇
函館	二二三、七〇〇
旭川	九〇、六〇〇
室蘭	六〇、五〇〇
釧路	五八、九〇〇

尙右の外、帶廣市（人口三萬四千）根室町等も一小中心地の形をなしてゐる。

北海道第一にして我國地方新聞の一つたる北海タイムスは札幌に發行され、是に對抗する小樽新聞は小樽に發行される。共に全道から樺太及內地に侵入し、他の地元新聞とは格段の差を示してゐる。兩紙の昭和九年度に於ける廣告總行數は、タイムス四百十二萬三千三百二十八行で全國地方紙の第三位、小樽は三百六十八萬六千二百三十九行で同第五位にある。北海タイムスは部數少くも八萬と推定する向あり、常に積極的政策を以つて臨み、函館及び旭川に姉妹紙を有してゐる。函館には函館新聞函館毎日新聞、函館日日新聞等がある。三紙とも九年三月大火の爲め類燒したが、間もなく復活した札幌、小樽などのやうに、勢力が集約されてゐない爲め圖破拔けて大をなすものはないが函館新聞は主として函館市內に勢力を集中し函毎、函日の兩紙は、市內よりかも郡部に主力を置く。その定價は函新朝夕刊十二頁八十錢、函日朝夕刊八頁六十錢、函毎朝夕刊十頁七十錢、函館タイムス（北海タイムスの妹姉紙）夕刊四頁三十錢（本紙併賣一圓）である。又その販賣部數につき、一部の推定では函新最も多くして二萬次いで函日、函毎は大分下り、タイムスは更に下る。

次の中心地旭川には旭川新聞及び北海日日新聞があつたが、後者は十年六月、終に旭川新聞の買收合併する處となつた。旭川新聞は常に積極策を取り、十年秋から北海タイムスの夕刊旭川タイムス發行に對して鬪志滿々の狀態である。室蘭の室蘭毎日は北海タイムスと東京紙の外、地元にさしたる競爭紙がなく、釧路新聞も地元に競爭紙を持たない。併し此處では小樽新聞の侵入烈しく、北海タイムスこれにつき、兩紙の移入部數は合せて五千前後と見られる。

尙各地の移入紙の部數につき一部の推定——勿論そのまゝ信ずべきではないが——を參考までに報ずれば次の如くである。

先づ函館方面では東朝三千二百東日二千五百、讀賣千五百、報知千、時事二千（但し多數の擴張紙を含む）。以上十年九月初旬。

次に旭川ではタイムス二千八百小樽千、東日千五百、東朝千、讀賣七百、報知七百。以上十年九月初旬。

次に帶廣ではタイムス千二百、小樽七百、旭川二百、東朝四百、東日三百五十、報知三百、讀賣三百、時事百。以上十年九月。

北海タイムス

札幌市大通西三ノ六。（電）本社十六本支局卅本。（社史）創刊明治十七年、明治三十四年九月北海道毎日新聞、北門新報、北海時事三社合併合資會社となり、昭和四年一月株式會社となる。株式。八十萬圓。朝刊八頁。夕刊六頁。（相談役）東武。（社長）阿部良夫。（常務）柏岡清勝。（取締役支配人）山口喜一。（編局）長內清。（整理）前田潔。（通信）土井壽治。（政治）佐藤守四郎。（經濟）亘寅吉。（事業）河合七郎。（營局）瀨川山吾。（販賣）同。（廣告）高橋恒次郎。（會計）瀧本靜良。（印刷

局助役）武田雪治。（東京支局）中堀來吉。（大阪支局）崎野平三。（機械）時速十三萬輪轉三、內國製マリノニ式輪轉機七。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり（活字）七ポ、十五字、百五十六行、十三段、一箇月一圓。（廣告料）一圓二十錢、特別面一圓六十錢。

■五年十一月十五日（河北、新愛知、福日と共に日本新聞聯盟を結成す。目的は小說、文藝、家庭記事、時事評論、其他新聞に必要なる記事の共同購入にある。

■十年一月より廣告料値上げを實施す改定料金規定次の如し、

一、普通欄　一行　六十錢
一、位置指定料　同　二十錢
一、社會面割込　同　一圓六十錢
一、個人一頁物　五百圓
一、意匠驅合一頁物　六百圓
官公署銀行會社及び法人團體組合等の臨時廣告並に北海道內の出張廣告に對しては左記料金を申受く。
一、普通欄　一行一圓二十錢
一、位置指定料　同　二十錢
一、社會面割込　同　二圓
■同一月十五日十年以上の勤續社員二十四名を表彰す。
■同年九月三日より札幌、旭川間の定期航空を開始す。
■同九月十五日より札幌、帶廣間の定期航空郵便を開始す。
■同九月十六日より旭川市に姉妹紙旭川タイムスを發行す。

札幌毎日新聞

札幌市南八條西四丁目。（電）代表四五九二。株式。十三萬五千圓。政友系。（社史）創刊大正十四年二月二十八日、個人經營の處昭和九年十月十六日株式會社に變更す。夕刊四頁。（社長）吉田重貞。（監査役）赤井力也、岡實、（取締役）吉田重貞、中谷龜次郎、岡田冠。（支配人）吉田重春。（主幹）岡田天洞。（主筆）吉川富士夫。（編局）淺藤勝馬。（營局）松井定。（機械）輪轉機一。活字鑄造機、ステロ、寫眞版あり。（活字）七ポ、十三段。一箇月五十錢。（廣告料）一圓、場所指定一圓五十錢。

小樽新聞

小樽市港町一六。（電）代表一五〇〇。株式。七十萬圓。（社史）明治二十六年五月八日札幌市に於て發刊、翌二十七年六月十三日本社を小樽に移し同年十一月十二日小樽新聞と改題、大正七年八月組織を株式會社に改む。朝刊八頁。夕刊四頁。（版數）四版乃至五版。（附錄）日曜附錄四頁。（地方版）樺太版、東北版、中部版、空知膽振版、後志渡島版、札幌版。（社長）上田壽久。（專務）矢上以久三郎。（取締役）平野文安、平澤堯造、嘉納虎太郎。（監査役）太田代謹郎。（編局）平野文安。（編輯總務）嘉納虎太郎。（整理）西島元甫。（政治）袴田泰二。（社會）篠原三郎。（經濟商況）甲斐昇。（通信、調査）中島峻藏。（速記）佐藤吉太郎。（營局）矢上以久三郎。（販賣）鶴谷彌八郎。（廣告）本田龍。（經理）石野榮治。（企畫、工場長）池島賢造。（東京支局）加藤敏三郎。（大阪支局）森下禎三。（社員）百六十七名。（工場員）百二十一名。（機械）獨逸アルバート機二、連結一、石川式マリノニー機五。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。（活字）七ポ、十五字、百五十六行、十三段。）一箇月一圓。（廣告料）一圓廿錢場所指定二十錢增、特別面及雜報割込二圓五十錢。
■大正十二年八月より全道樺太實業野球大會毎年八月擧行。
■九年十月商業美術展覽會を主催す。
■十年二月全國スキージャンプ大會、其他主催、共催、後援等多數。
■同五月十一日新通信社創立準備委員會に參加す。
■同十二月北海道樺太年鑑十一年版發行。

北門日報

小樽市稻穗町西六丁目九。創刊大正六年八月一日。株式。十萬圓。夕刊四頁。（版數）二。（附錄）月四回ホーム手帳。（社長）河原直孝。（支配人）高橋巖。（營業）椙山龜一。（廣告）關久太郎。（社員）二十三名。（工場員）十五名。（機械）東京機械輪轉機一、平盤一。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。（活字）七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月五十錢。（廣告料）一圓、場所指定一圓廿錢。

函館新聞

函館市地藏町。

(電)七二、二七〇二、六。創刊明治二十一年一月十七日。個人經營。十五萬圓。朝刊八頁。夕刊四頁。(社長)長谷川淑夫。(主筆)同。(編輯)森義武。(政經)堀川經道。(社會)西脇勝男。(營部)藤林良男。(廣告)松下秀次。(事業)北條逸。(東京支局)北村溫平。(大阪支局)藤原歡一。(機械)內國製輪轉機二。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月八十錢。(廣告料)一圓、場所指定一圓五十錢。

■九年三月二十一日大火の爲め類燒したが復舊早く二十四日より小型で復活し、四月六日付から普通型四頁となり、五月一日より朝夕刊八頁となる。

■十年一月一日より朝刊八頁夕刊四頁となる。

函館日日新聞

函館市辨天町二四。(電)一五八九、二四九九、四二六五。個人經營。十萬圓。(社史)大正七年四月三日創立、同月五日第一號を發刊、初め太刀川善吉、林儀作、白尾宏三氏の理事制であつたが經營困難に陷り大正十二年二月組織を變更し本逆財界の巨頭太刀川善吉氏個人經營となす。朝刊四頁。夕刊四頁。(部數)十年十月三十一日現在公開一萬九千部。(社主)太刀川善吉。(社長)同。(副社長)佐藤勘三郎。(編局)佐藤勘三郎。(整理)岡田節男。(政治)齋藤虎之助。(經濟)圓山貞吉。(社會)輪島東一郎。(地方)岡川呑風。(商況)新田健治。(營局)藤田正三郎。(廣告)伊藤十一。(販賣)上出彌三郎。(東京支局)稻垣政次郎。(大阪支局)石原健藏。(社員)六十四名。(工場員三十二名。(機械)TKS式折疊式輪轉機一。活字鑄造機二、ステロ、寫眞版設備完備。(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月六十錢。

■新社屋新築計畫を有す。

■十年一月より朝夕刊八頁となる。

■同四月東京支局は二月分の原紙代支拂領收證を證據としてその發行部數を一萬八千三百餘と發表す。

函館毎日新聞

函館市鶴岡町一。(電)三〇三〇、二七〇三。創刊明治十一年一月七日。朝刊四乃至八頁。夕刊四頁。(版數)三。(社長主筆)佐藤精。(編局)八谷繁次郎。(同次長)酒谷皎。(社會)中原末吉。(事業局)阿部金衞。(調査局)橋本荷一。(營局次長)長谷川光一。(販賣)片谷鐵太郎。(廣告)小川勝治。(整版)中島節。(東京支局)漆原一衞。(大阪支局)岡本太郎。(社員)五十二名。(工場員)七十六名。(機械)石川式輪轉機二。字母設備整、活字鑄造機二、コッピー機三、鉛版鑄造機二、同仕上機二、寫眞製版一。(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月七十錢。(廣告料)一圓、特別面一圓五十錢。

■九年十月函館市の復興地圖を全讀者に配布す。

函館タイムス

(北海タイムスの姉妹紙)函館市。夕刊四頁。一箇月三十錢(本紙とも一圓)。

北海新聞

函館市若松町八四。創刊明治七年一月一日。個人經營。三萬圓。夕刊六頁。(社主)大橋富一郎。(社長)同。(副社長)青木信治。(廣告)築館高民。(機械)平盤十六頁一。ステロあり。(活字)七半、十三段。一箇月五十錢。(廣告料)一圓五十錢。

函館商報

函館市大町一九。(電)七七六。個人經營。(社史)明治二十五年五月十日創刊、北海商業新報と稱し主として米穀商の機關なりしが漸次海陸物產の商況の報道をなし一時北海實業新聞と改題せるも大正四年函館商報と改め經濟商況記事を網羅す。夕刊四頁。(部數)十年九月三十日現在三千四百部。(社主)中井松治郎。(社長)同。(主幹)中井松治郎。(營業)大久保讓。(社員)二十四名。(工場員)十八名。(機械)平盤セリ上式印刷機一。(活字)九ポ、十三字、八十二行、十三段。一箇月五十錢。(廣告料)五十錢、場所指定七十錢、特別面一圓二十錢。(兼營)印刷業。

北海商報

函館市豐川町一。(電)六六七。創刊明治三十一年三月一日。株式。一萬七千五百圓。夕刊四頁。(社長)大川原善藏。(專務)富永格五郎。(機械)

平盤五。(活字)十一字、七十五行、十三段。一箇月市內五十錢。地方六十五錢。(廣告料)四十錢、場所指定七十錢、特別面八十錢。(兼營)印刷業。

旭川新聞

旭川市三條通九丁目。(電)三一三六、二九五四、三三三四、三七七八。個人經營。十五萬圓。(社史)創刊大正十四年十月、年商當時廿一歲の田中社長が獨力創刊せるもの昭和四年秋工費數十萬圓を投じ鐵筋コンクリート四百餘坪の現社屋工場を新築し七年折式輪轉機を增設す、十年六月北海日日新聞を買收合併す。朝刊八頁。夕刊四頁。(販數)三。(地方版)北見十勝版、上川宗左版。(部數)昭和十年九月現在四萬一千五百部。(社長)田中秋聲。(編局)昇季雄。(計畫兼調査)小林幸太郎。(政治)中村源橋。(農政)有澤悌五郎。(整理)渡部義順。(地方)村形龍雄。(商況)尾崎啓一。(速記)中村計一。(社會)山木力。(營局兼廣告)大森熊藏。(販賣)岸部秀太郎。(廣告整理)中村勝太郎。(經理)大森熊却。(庶務)伊部始。(東京支局)西部健而。(大阪支局)松下兵馬。(社員)九十七名。(工場員)七十二名。(機械)色刷折式輪轉機一、標準折式輪轉機色刷一。活字鑄造機、ステロ、寫眞版あり。(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月九十錢。(廣告料)一圓、場所指定五割增、特別面一圓五十錢。

■最近一年間に百餘坪の鐵筋コンクリート建工場增築、色刷標準輪轉機購入、活字鑄造機、自動整版機增設、二十周年記念事業として警察博覽會其他の記念事業を催せり。

■十年一月軍事欄を新設す。

■同六月五日多年の對抗紙たりし北海日日新聞を買收す。

■同六月東京支局長狩野壽男君辭任し藤井健兒君後任となる。

■十年七月より廣告料値上げを行ふ。

北都毎日新聞

旭川市一色通六丁目左七號。(電)四三七三、四二五六。合資會社。二萬五千圓。創刊大正十三年三月。夕刊六頁。(部數)昭和十年十月一日現在三千六百部。(社長)岩崎右夫。(編局)杉本康夫。(營部)手塚靜間。(政經)新保滋二。(社會)矢部慶。(文藝運動)今井穆。(東京支局)石原勝二郎。(機械)十六面刷機二、活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七半、十四字、八十七行、十三段。一箇月五十錢。

旭川毎日新聞

旭川市三條廿一丁目右一、二、三。(電)四〇〇七。創刊昭和三年二月五日。個人經營。十萬圓。朝刊四頁、夕刊四頁。(販數)四。(地方版)留萌版、綱走版、空知版、北見版、各四頁。(社主)五十嵐兵五郎。(社長)同。(編局)工藤良一。(政治)須澤寄峯。(社會)大內格之助。(營局)竹內蘇堂。(廣告)堀田鐵郎。(工務)中明菊次郎。(東京支局)松本青吉。(大阪支局)宮本建吉。(機械)十六頁二、ビクトリヤ新型一、(活字)七ポ、十三段。一箇月七十錢。

旭川タイムス

(北海タイムスの姉妹紙)旭川市。創刊昭和十年九月十六日。夕刊四頁。一箇月三十錢。

旭川日日新聞

旭川市。

室蘭毎日新聞

室蘭市海岸郡三三。(電)七三、二二九、三〇四、七四三。組合經營。十萬圓。(社史)明治四十年四月一日日刊三社を合併して創立、大正八年現社長就任す。朝刊四頁、夕刊四頁。(販數)二。(地方版)一。(部數)十年十月一日現在一萬七千五百部。(社主)鈴木要吉。(社長)同。(專務)谷村金次郎。(常務)鐵尾鶴吉。(主筆)谷村金次郎。(編局)同。(政治)工藤順藏。(社會)渡邊一雄。(經濟)增田直喜。(調査)勝浦良雄。(營局)鐵尾鶴吉。(廣告)鐵尾鶴吉。(販賣)小原岩吉。(庶務)加藤榮太郎。(東京支局)赤松彥太郎。(大阪支局)西池末彥。(社員)六十五名。(工場員)三十六名。(機械)內國製輪轉機一、內國製平盤印刷機二、活字鑄造機三、寫眞製版機一、字母設備完了。(活字)七ポ、十五字、百五十四行、十三段。一箇月七十錢。(廣告料)六十錢、場所指定一圓、特別面一圓五十錢。

■一月室蘭、伊達、浦河三地方圈碁大會、二月南北海道スキー大

會、六月戰死者慰靈音樂大會、七月登別主溫泉廣告招待會、九月道南野球大會、十月道南蹴球大會、十一月菊花品評會等を催す。

室蘭新報 室蘭市海岸通六三。(電)八七五、一二一。個人經營。(社史)昭和二年十二月十二日創刊、室蘭市、膽振國、日高國を地盤とす。夕刊四頁。(版數)地方版、市内版。(部數)九年九月九日現在三千六百五十部。(社主)田代三郎。(社長)同。(副社長)田代實。(支配人)宇高常之。(編局)田代三郎。(政治)佐藤幸虎郎。(經濟)小鹿博。(社會)小島久世。(廣告)佐藤三郎。(販賣)蒲原勝。(東京支局)林省三。(社員)二十四名。(工場員)十七名。(機械)四六版十六頁掛二、スチロ設備あり。(活字)七半、十五字、百二十七行、十二段。一箇月六十錢。(廣告料)九十錢、場所指定五割增、特別面普通面の三倍。

釧路新聞 釧路市大町二ノ二。(電)四、一五、七七五、九〇七。株式。七萬圓。(社史)明治三十五年七月創刊、大正三年合資會社とし更に新發展を期する爲め昭和九年十二月株式會社に組織を改め資金七萬圓に增加す朝刊四頁、夕刊四頁。(版數)一(部數)十年十月一日現在六千五百部。(社長)遠藤清一。(編局)齋藤秀三。(整理)井上尙陸。(政治經濟)正木三郎。(社會)熊谷行道。(調査)渡邊弘。(營部)野田清一郎。(販賣)大原宗次郎。(廣告)浦野傳。(東京支局)原田柳二。(大阪支局)同。(社員)二十三名。(工場員)三十五名。(機械)マリノニー式輪轉機一、活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月一圓(廣告料)一圓、場所指定二圓。

■九年十二月十五日株式に組織變更す。

釧路日日新聞 釧路市西弊舞二三。創刊大正五年八月三十日合資。三萬圓。朝刊四頁。(社長)渡邊源四郎。(主筆)相神豐吉。(編輯)甲村武。(營業)仙北屋憲三。(廣告)松島常吉。(機械)平盤三。ステロあり。(活字)七半十二段。一箇月五十錢。(廣告料)八十錢。

釧路實業新聞 釧路市浦見町三ノ三。創刊大正十三年二月七日。個人經營。五萬圓。朝刊四頁。(社長)半田銓治。(主筆)山本其八。(編輯)岡部勤一。(營業)若林三次郎。(機械)平盤一。ステロ設備あり。(活字)八半、十一段。一箇月五十錢。(廣告料)八十錢。

十勝新聞 帶廣市西三條十丁目。(電)四四。個人經營。五萬圓。(社史)明治四十三年一月創刊、大正八年十勝日日新聞を買收し今日に及ぶ。夕刊四頁。(部數)十年十月現在六千部。(社主)日景安太郎。(副社長)日景大太郎。(編局)同。(營局)同。(廣告)渡部秀峯。(東京支局)大阪支局)赤澤昊。(社員)四十二名。(工場員)十八名。(機械)半截輪轉機一、平盤十六頁二、活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月七十錢(廣告料)五十錢、場所指定一圓

十勝新報 帶廣市西二條四ノ二。(電)三四八。株式三萬六千圓。(社史)昭和二年六月創刊、四年六月株式に變更八頁掛輪轉機據付、八年四月十三段制ポイント(七ポ)採用。(夕刊)四頁(取締役社長)早坂英雄。(編輯)山黑正則。(營業)三浦十郎。(東京支局)原田柳二。(社員)八名(工場員)十三名。(機械)マリノニー式八頁掛輪轉機一。ステロあり。(活字)七ポ、十五字、八十五行、十三段。一箇月六十錢(廣告料)一圓、場所指定倍額。

十勝每日新聞 帶廣市東一條八丁目。創刊大正八年十月。個人經營。三萬圓。(社長)林良。(營業)平野岩太郎。(機械)輪轉機一、平盤二。ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七ポ、十五字、百五十四行、十三段。一箇月七十錢。(廣告料)一圓。

根室日報 根室町字常盤町三ノ二。(電)四三九、一四三。株式二萬圓。民政黨。(社史)大正十四年十一月二十五日創立昭和三年一月九日株式會社に改む。朝刊四頁。(部數)十年十月九日現在四千七百六十五部。(社長)小池仁郎。(副社長)梅谷周造。(主幹)安住逸夫。(主筆)同。(編輯)土岐旦元。(營業)永野孝次郎。(東京支局)原田柳二。(社員)十六名。(工場員)二十二名(機械)平盤四六版十六頁輪轉替印刷機二、ステロ機一。(活字)十三字十三段。一箇月市内六十錢、地方七十錢。(廣告料)五十錢、場所指定割增。

根室新聞 根室町朝日町二ノ八。創刊明治二十二年九月。株式。一萬三千三百圓。政友會。夕刊四頁。(社長)小池貞一郎。(副社長)西垣重一。(業務)安藤武雄。(營局)長尾又六。(廣告)近藤卒橘。(機械)平盤一。(活字)八半、十二段。一箇月六十錢。(廣告料)四十錢。

北見新聞 野付牛町。創刊明治四十五年三月。個人經營。民政系。夕刊四頁。(社長)千兵藏。(支配人)三浦慶吉。(編輯)永井勝次郎。(營業)景家良藏。(廣告)石橋鐵一。(機械)平盤二。(活字)九ポ、一箇月六十錢。(廣告料)六十錢。

北海每日新聞 北見國野付牛町二條東三。(電)四二一。個人經營。五萬圓。政友系。(社史)昭和三年二月十六日創刊野付牛町は明治四十年屯田兵制を敷かれ現在人口約四萬を算す。朝刊四頁。(版數)一。(部數)十年十月九日現在五千部。(社主)谷武次。(社長)同。(主幹)高僧幹彥。(主筆)歌川三郎。(編部)佐藤靈花。(營部)松本慶一郎。(企畫)野元信、(東京支局)原田柳二。(社員)二十五名。(工場員)十五名。(機械)四六十六頁掛平臺二、活字鑄造機一、ステロ機一、寫眞製版一。(活字)八半、十三字、六十行、十三段一箇月六十錢。

■北見全圓軟式野球大會夏季開催年中行事、

苫小牧每日新聞 苫小牧町王子町。(電)二八。個人經營。(社史)昭和四年四月十四日。創刊四六八截より翌年四六六截、同六年四六四截にて今日に至る、使用活字は昭和六年十二月より七半を使用。(夕刊)小型四頁。(部數)九年九月十日現在一千三百八十部。(社主)相武吉次郎。(主筆)尾崎良介。(編輯)永桶鎌吉。(營業)成田榮三郎。(社員)八名。(工場員)十一名。(機械)菊二頁ロール機。(活字)七半、十五字、五十二行、九段。一箇月三十錢。(廣告料)一圓五十錢場所指定五割。

なよろ新聞 名寄町二條通南八丁。創刊大正九年九月九日。個人經營。朝刊四頁。(社長)岡田新一。(營業)佐藤政雄。(廣告)樋口利秋。(機械)平盤二、ステロあり。(活字)舊、十一字百四行、十二段。一箇月六十五錢。(廣告料)八十錢。

宗谷新報 稚田町本道北三ノ二一六。(電)代表二。個人經營(社史)明治三十二年七月十五日刊行三十七八年日露戰役の際盡力したる廉に依り大經賞勳局總裁より銀盃三つ組(御紋章入)を下賜さる。夕刊四頁。(地方版)利禮版、旭川版、屯別版。(部數)十年九月三十日現在三千八百部(社主)岡田義胤。(社長)同。(編局)遠藤勝馬。(幹部)砂川莊之助、橋本治太郎。(營局)社長、(營業)青木正雄。(東京支局)石原勝二郎。(大阪支局)西谷清雄。(社員)二十五名。(工場員)十八名。(機械)菊八廿四面掛一、十六面掛二、ステロ設備、寫眞版あり。(活字)七半、十五字、九十八行、十二段。一箇月五十錢、(廣告料)十五錢、指定三十五錢、特別面一圓。

■孝子、節婦、公共に出資する有志の閥歷を特記するを主眼とす。

■近く十三段制實施の筈。

留萌日日新聞 留萌町北七條三丁目。(電)一六。個人經營。創刊大正十三年八月三十一日。朝刊四頁。(社主)城川徹郎。ステロ設備あり。(活字)八ポ、十五字、七十五行、十二段。一箇月五十錢。

留萌新聞 留萌町留萌一三〇。創刊大正十二年十月十八日。個人經營。二千圓。政友派。夕刊小型四頁。(社長)佐藤孝司。(主筆)山川安太郎。(營業)鳴海治八。(活字)舊、十四字、四十五行、八段。一箇月四十錢。(廣告料)四十錢。

留萌實業新聞 留萌町。創刊

大正十四年。個人經營。朝刊四頁。(社長)鈴木兵吉。(主筆)岩下美之助。(機械)平盤二。(活字)九ポ。

天鹽中央新聞　羽幌町。(電)一四、六四。個人經營。二萬圓。政友會。(社史)創刊大正十一年五月五日。羽幌時事新報と稱せしが大正十三年五月現名に改稱す。朝刊小型四頁。(部數)九年現在一千部。(社主)市川孜。(社長)同。(主筆)大原新。(編輯)内山金藏。(營業)鈴木正義。(社員)五名。(工場員)十名。(機械)菊八頁、菊十六頁二。(活字)七半、十四字、五十二行、九段。一箇月五十錢。(廣告料)五錢、場所指定十錢、特別面十錢。

樺太

▼人口……三〇〇、二九八
▼世帶數……五九、〇六四
(昭和八年末現在)

樺太は人口に比較して新聞の數極めて多く、それに北海道方面から移入紙もあり、東京からも入り、地元紙の大をなすものがない。新聞中心地は豐原、大泊、眞岡、敷香等に分れ、中にあつて最も有力とせられるのは豐原町の樺太日日新聞、眞岡町の樺太時事、大泊町の大北新報等である。總じて小新聞の興廢甚だしく、木材工業地として新興の敷香町などには一時八種の新聞を數へたと云はれる。その中現存するのは四種であるが、新聞らしいのは、敷香時報だけである次に九年七月某官憲方面の地元紙及び移入紙の推定販賣部數を示せば次の如くである。

地元紙

樺太日日新聞	八、〇〇〇
樺太毎日新聞	三、〇〇〇
樺太中央新聞	一、二〇〇
豐原日報	八〇〇
大北新報	三、〇〇〇
大泊毎日新聞	六六〇
樺太新聞	一、一〇〇
樺太新報	五〇〇
樺太時事新聞	二、四〇〇
眞岡毎日新聞	一、二〇〇
樺太西海新報	八〇〇
樺太日報	七〇〇
惠須取毎日新聞	二、〇〇〇
樺太タイムス	四〇〇
東樺日日新聞	一、七〇〇
樺太敷香時報	一、二〇〇
敷香新聞	一、〇〇〇

移入紙

東京日日新聞	三、六二一
東京朝日新聞	三、一六〇
報知新聞	一、一四三
讀賣新聞	九七〇
時事新報	二四三
北海タイムス	四、七一二
小樽新聞	三、〇六九
大阪毎日新聞	一〇三
東京朝日	七〇〇
北海タイムス	三五〇
讀賣	三〇〇
小樽新聞	一五〇
東京日日	一五〇

樺太日日新聞　豐原町大通南六丁目一。(電)二二一〇、二二一一、二二一二。個人經營。八萬圓。(社史)明治三十九年八月樺太日報と題して大泊町に創刊され、四十年九月一日樺太日日新聞と改題、四十一年十月豐原町に移轉、大正七年九月より現社主の個人經營となる。朝刊四頁。夕刊四頁。(販數)一。(社主)沖島鎌三。(社長)同。(副社長)太田鎭雄。(主事)加藤源吾。(主筆)小林金三。(編部)武田長三郎。(營部)加藤源吾。(東京支局)山田壽惠吉。(大阪支局)金井勝三郎。(社員)四十名。(工場員)三十二名。(機械)マリノニ式八頁掛輪轉機一、内國製輪轉一。活字鑄造機、ステロ、寫眞版整備。(活字)七半、十五字、百四十五行、十二段。一箇月一圓。(廣告料)四十錢、特別面九十錢。(兼營)樺太印刷合資會社。

■十年三月五日東京支局長鈴木繁次郎君逝く、享年六十六。山田壽惠吉君後任となる。

樺太毎日新聞　豐原町東三條南八丁目。(電)三〇七四。(社史)大正十五年知取町に創刊、昭和八年四月豐原町豐原新聞を樺太毎日新聞と改題す。夕刊四頁。(部數)九年九月十五日現在三千五百部。(社主)佐々木慶一郎。(社長)樣山眞。(支配人)毛利旨。(編輯)鹿野敬止。(營業)

支配人兼務。(社員)十八名。(工場員)十七名。(機械)平盤十六頁一。(活字)七五、十四字、八十行、十三段。一箇月五十錢。

樺太中央新聞　豐原東一條南二丁目。(電)三〇七五。創刊大正十三年六月一日。五千圓。夕刊四頁。(社長)一柳直一。(編輯)菅谷元保。(營業)佐藤一良。(社員)十八名。(工場員)十七名。(機械)寸延十六頁、平盤一、ステロ機設備あり。(活字)八半、十三字、七十五行、十二段。一箇月三十錢。

豐原日報　豐原町東三條南三。創刊大正十四年十二月六日。夕刊四頁。(社長)酒井榮作。(編輯)高田政吉。(營業)永島粹生。

大北新報　大泊港。(電)一〇二二。個人經營。二十萬圓。創刊大正十三年。夕刊四頁。(版數)一。(附錄)グラビヤ、グラフ。(部數)九年九月十日現在六千三百二十部。(社主)中村よし子。(社長)風見章。(支配人)邊見利八。(編輯)日下部威。(營業)同。(東京支局)齋藤松三。(大阪支局)金井勝三郎。(社員)二十名。(工場員)三十五名。(機械)トーア式八頁折疊式輪轉機一、平版大型一。活字鑄造機、ステロ、寫眞版完備。(活字)七半、十四字、百四十行、十三段。一箇月五十錢。(廣告料)八十錢、場所指定五十錢增。(兼營)代理店。

大泊毎日新聞　大泊町。(電)九〇三。創刊大正十二年十月二十五日。個人經營。五千圓。夕刊四頁。(版數)一。(附錄)隨時。(部數)八年九月三十日現在二千百部。(社主)井田良三。(社長)同。(編輯)館岩含。(營業)社長兼務。(東京支局)石原勝二郎。(社員)九名。(工場員)十一名。(機械)平盤二。ステロあり。(活字)九ポ、十二字、七十五行、十二段。一箇月五十錢。(廣告料)十錢場所指定五割增、特別面一圓。

樺太毎夕新聞　大泊町本町大通。創刊昭和九年。(社長)村上哲朗。(編輯)樋口正志。

樺太時事新聞　眞岡町山手町二丁目一二三。(電)三〇二、三三六、六二二、七四二。個人經營。十萬圓。(社史)明治四十年十一月創立。朝刊四頁不定版八頁。(部數)昭和十年八月末日現在一萬四千百部。(社主)栗岡巳八。(社長)同。(支配人)井上三男。(編局)寺岡正巳。(政治經濟)間瀨喜一。(社會)霜島政一。(營局)井上三男。(廣告)小川不二夫。(販賣)産田末吉。(東京支局)古川文治郎。(社員)三十七名。(工場員)二十五名。(機械)輪轉機一、平版一。(活字)七半、十五字、百四十四行、十二段。一箇月一圓。(廣告料)六十錢、場所指定三割增、特別面一圓六十錢。

眞岡毎日新聞　眞岡町榮町七ノ一。(電)三六一。個人經營。創刊昭和九年三月十日。夕刊四頁。(部數)九年九月十日現在二千部。(社主)岩下貞雄。(社長)同。(編輯)麥倉三良。(營業)社長兼務。(東京支局)棠島松太郎(社員)十六名。(工場員)十二名(機械)平版一。ステロ一、寫眞版あり。(活字)十五字、百二十行、十二段。一箇月五十錢。

樺太北進新聞　眞岡町山下町(電)七三〇。創刊大正十五年一月一日。個人經營。夕刊四頁。(社長)川崎和一郎。

樺太敷香時報　敷香町大通北三丁目。(電)四一、二三二。創刊大正十五年五月一日。個人經營。四萬圓。朝刊四頁。(版數)一。(附錄)春秋二回グラビヤ版紹介號。(社主)尾崎重直。(社長)同。(編輯)佐藤克巳。(經濟)久保田武男。(社會)小林千代吉。(營業)黑井清藏。(廣告)小林一義。(販賣)玉置茂勝。(社員)二十一名。(工場員)二十六名。(機械)平盤十六頁一、卅二頁一。ステロ、紙型機設備あり。(活字)七半、十五字、八十三行、十二段。一箇月八十錢。(兼營)年一回發行樺太年鑑、代理部(地方物産紹介販賣)

敷香新聞　敷香町大通北三丁目二九。創刊昭和四年六月二十五日。夕刊小型四頁。(社長)乳井善藏。(編輯)伊藤康太郎。(營業)佐藤一良。

■新活字を採用す。

北陽新聞　敷香町。創刊昭和四年七月。個人經營。夕刊四頁。(社長)佐々木慶一郎。(主幹)秋

津伍作。一箇月五十錢。(廣告料)九十錢。

夕刊からふと 敷香町。(社長)前田。(兼營)印刷業。

惠須取每日新聞 惠須取町本町四丁目七。(電)四四五。個人經營。五萬圓。(社史)昭和二年五月一日創刊、樺太タイムスと號す、三年五月一日現社長の買收により惠須取每日新聞と題號變更日刊とし現在に至る。朝刊四頁不定時六又は八頁。(版數)二。(附錄)マンガ附錄、家庭附錄、寫眞附錄。(地方版)名好版、鵜城版、珍内版。(部數)昭和十年十月廿日現在四千八百部。(社主)山浦退。(社長)同。(副社長)西谷彰。(支配人)同。(主筆)黑田勝要。(編局)同。(政經)黑川永司。(社會)安井紫山。(營局)西谷彰。(廣告)大和正人。(販賣)福本芳太郎。(東京支局)小松吉太郎。(大阪支局)上村弘。(社員)二十八名。(工場員)十七名。(機械)平版十六面二、菊八一、ステロ一、鉛版鑄造機二。(活字)七ポ、十四字、百行、十三段。一箇月一圓。(廣告料)一圓、場所指定倍額、特別面三圓。(兼營)代理部、事業部、演藝部、印刷部。

■活字全部入れ替へ(從來の九ポを七ポに改む。

■機械一臺增設、工場を從來の倍に增築總二階建百坪とす。

■昭和十一年度は創刊十週年を迎ふ、社屋新築、記念事業、支局增設、朝夕二回發行復活の計畫あり。

樺太西海新報 泊居町字南本町六丁目。(電)一二四。個人經營。三萬圓。(社史)創刊大正八月一月一日。偶數日發行、大正十五年五月一日より日刊とす。夕刊四頁。(部數)十年十月八日現在五千二百二十七部。(社主)岡山英次郎。(社長)同。(副社長)金田要吉。(支配人)田村順太。(編輯)橋本宗範。(政治經濟)佐々木正夫。(社會)米山藏。(營業)櫻井秀三郎。(販賣)松田圓太郎。(東京支局)赤松彦太郎。(大阪支局)西池末彦。(社員)十八名。(工場員)二十名。(機械)平判四六十六頁二、八頁二、其他手フード(動力用)。鉛版流込機あり。(活字)九ポ、十二字、百七行、十二段。一箇月九十錢。(廣告料)五錢、場所指定七錢、特別面十錢。(兼營)活版印刷部、石版印刷部、物品委託販賣及代理部。

樺太日報 泊居町字南本町四丁目一八。(電)三六〇九。個人經營。十萬圓。政友系。(社史)昭和三年十二月七日創刊泊居新聞昭和五年七月十五日樺太日報と改題今日に至る。夕刊四頁。(社主)鈴木清二。(社長)同。(常務)三谷勇三郎。(主筆)藤原二郎。(編輯)中畑貞作。(營業)齋藤由吉。(東京支局)唐木澤光。(大阪支局)宮崎文司。(社員)十名。(工場員)十四名。(機械)二。活字鑄造機、ステロあり。(活字)七ポ、十五字、九十一行、十三段。一箇月九十錢。(兼營)代理部。

樺太タイムス 落合町山通二八。創刊大正十一年五月。個人經營。朝刊四頁。(社長)川原田憲太郎。(機械)平盤二、菊八一。ステロあり。(活字)八ポ、十四字、百二十行、十二段。一箇月五十錢。(廣告料)八十錢。(兼營)印刷業。

東樺日日新聞 知取町。(電)四一六、四四。個人經營。二萬五千圓。(社史)大正十三年五月旬刊東樺新聞、十五年十月日刊として東樺日日新聞と改題、昭和八年二月樺太每日新聞を合併昭和九年五月樺太朝日新聞を合併す。夕刊四頁。(版數)二。(附錄)隨時。(地方版)東樺日日敷香版二頁。(部數)九年九月十日現在三千五百五十部。(社主)一柳直一。(社長)同。(副社長)安田長一郎。(編局)小林源吉。(政經)中楠勝。(社會)山形次雄。(文藝)仁左經夫。(營業)渡部覺見。(次長)表喜一。(廣告)平山儀三郎。(販賣)山本謙次郎。(東京支局)赤澤昊。(大阪支局)岡本太郎。(社員)三十一名。(工場員)三十二名。(機械)平盤二、同小一。ステロ機一。(活字)七ポ、十四字、百四十五行、十三段。一箇月八十錢。(廣告料)一圓、場所指定一圓五十錢、特別面二圓。

北洋每日新聞 知取町萬代町。創刊昭和八年。(社長)高月茂。(編輯)木村誠。

樺太新聞 本斗町大通八ノ五。

(電)一四一、六七。創刊明治四十二年七月一日。合資。五萬圓。夕刊八頁。(社長)吉澤福治。(副社長)吉澤恕一郎。(營業)吉澤輝子。(廣告)增田俊二。(販賣)田邊俊吉。(東京支局)赤松彦太郎。(大阪支局)西池末彦。(社員)二十一名。(工場員)十八名。(機械)四六判三十二頁平盤一、同十六頁一、三々判六頁一。ステロ四六判十六頁一。(活字)九ポ、十二字、百十一行、十二段。一箇月一圓。(廣告料)一圓、場所指定一圓三十錢、特別面一圓五十錢。

樺太新報 野田町大通四丁目七(電)一六四。個人經營。一萬五千圓。(社史)大正十一年二月二十一日創刊、初年より四ケ年隔日發行、以降日刊發行、繼續刊行創刊以來十五年。朝刊四頁又は二頁。(部數)十年十月一日現在八百部。(社主)西田馨。(社長)同。(副社長)西田實眞吠(主筆)西田馨。(編輯)西田正一。(營業)西田喜至。(社員)六名。(工場員)八名。(機械)四六判十六頁掛ロール一。(活字)蕾、十二字、六十行、十二段、一箇月五十錢。(廣告料)二十五錢、場所指定三十五錢、特別面五十錢。(特設)美濃一枚手引(ハンド)一、紙型取美濃判ステロ機一。

(三) 臺灣

▼人口……五、〇六五、五〇〇
▼世帶數……八六五、四七三
(昭和八年末現在)

本島人の新聞を購讀するものは極めて少數だから、これはさまで問題でなく、約五十萬の內地人が對象となる。而して此處では日刊週刊、月刊の別なく總て新聞は同一の新聞紙令によつて許可されて始めて發行し得る事となつて居り而も永らく一市一日刊主義が取られてゐたので、全島を通じて四日刊紙が發行されてゐるに過ぎなかつたが、昭和七年一月に至り、本島人を背景とする週刊臺灣民報が日刊臺灣新民報として登壇したので、漸く五新聞となつた。日刊紙は總督府の御用紙的色彩濃厚なる點に於て總てその撰を一つにし臺灣新民報が出現するまでは、地理的關係以外に、勢力の分野を異にする處がなかつた。從來の日刊紙中では臺灣日日新報が最も有力とされ、經營も樂であり、每年一割以上の株主配當が行はれてゐる。尙同紙九年度の廣告總行數は三百十六萬四千四百十行で全國地方紙の第十位を占めてゐる。次に臺南新報は臺南と高雄の兩州を勢力範圍とし、最近週二回の高雄新報が出現して同じ圈內に四五千の讀者を獲得した模樣であるが、その讀者層に變化なく、堅實なる經營振りを示してゐる。次に臺灣新聞は臺中、新竹兩州を中心に勢力を張り、一時不振の時代もあつたが、最近頓に活氣を呈して來た。臺灣新民報は臺灣人唯一の日刊紙として民族的支持を受け、素晴らしい勢ひで進展しつゝある。東臺灣新聞は花蓮港と臺東兩廳の東部を地盤とし、規模は小さいが內地廣告を逆に拒絕してゐる程經營は樂である。そこで以上各紙の部數については、色々に傳へられるが、ある方面の推定では三四萬見當の臺灣日日を第一として、三萬前後の臺南新報これにつぎ、臺灣新聞は三位にある。臺灣新民報は將來大に發展の可能性を持つが、現在では一萬足らずと見られてゐる。東臺灣新報は二三千見當か、次に移入紙では大朝、大每最も多く、共に約一萬、東朝二千、東日千五百、讀賣一千、都五百、報知四百、時事三百五十、中外二百五十見當と推定する向がある。尙臺灣では十年四月一日自治制の實施が公布され、處女選擧が同年十一月二十八日を以つて一齊に執行された。新聞界も愈々多事である。

臺灣日日新報 臺北市榮町四丁目三二。(電)代表三八〇〇。株式。一百萬圓。(社史)明治三十一年五月創刊、三十一年四月臺灣新報及臺灣日報の兩社を合併して新に創立す。當初は個人經營なりしも後十萬圓の株式組織となし現在は百萬圓なり朝刊八頁。夕刊四頁。(版數)二。(附錄)臺灣總督府報、臺北州報臺北市報を附錄とし每月一回臺日グラフを發行。(社長)河村徹。(取締役兼支配人)長谷理敎。(主筆)大澤貞吉。(編局)同。(政治、漢文)同。(整理、社會)中曾根武

多。(經濟)杉野嘉助。(校正)大澤榮之進。(地方)佐々木齊。(營局)長谷理敎。(廣告、販賣)同。(會計課)伊藤道三。(工場長兼印刷課)顯川首。(祕書係)前田莊吉。(庶務係)西田力松。(東京支局)永井省三。(大阪支局)入貝良郎。(社員)二百八十一名。(工場員)三百二十七名。(機械)高速度輪轉機一、輪轉機三、平盤二十二、ビクトリヤ一、オフセット一、グラビア二、石版ミシン二、石版手引十三其他製本用機械十數臺。活字鑄造機、ステロ、寫眞版あり。(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月一圓三十五錢。(廣告料)八十錢、場所指定一圓二十錢、特別面一圓五十錢。(兼營)活版、石版、寫眞版、亞鉛版、オフセット、グラビア印刷、活字鑄造。製本和洋紙印刷材料販賣、書籍出版、運動用品販賣を兼營す。

■十年十一月二十日臺灣始政四十周年並に臺博開始記念として全讀者優待福引を行ふ、特等五百圓公債、一等同百圓。

臺灣新民報

臺北州臺北市末廣町五ノ八。(電)一〇一五、三八七九、四一一一。株式。三十六萬二千五百圓。(社史)大正十二年四月創刊、昭和四年一月十三日創立、同年三月二十九日臺灣民報社と合併週刊紙を發行、同七年一月九日日刊發行許可、同年四月十五日日刊紙創刊、同九年三月廿日夕刊發行。朝刊八頁。夕刊四頁。(版數)二。(附錄)日曜附錄家庭小供新聞、公報輯錄。(部數)現在三萬部。(專務)羅萬俥。(文書課長)呂靈石。(主筆)林呈祿。(編局)同。(整理)黃登洲。(政治)林呈祿。(經濟)陳逢源。(社會)郭發。(通信)黃洪炎。(學藝)林呈祿。(調査課)呂靈石。(營局)羅萬俥。(會計)同。(印刷)同。(販賣)阮朝日。(廣告)陳藕南。(東京支局)吳三連。(大阪支局)浮田金次。(社員)二百餘名。(工場員)一百餘名。(機械)マリノニ輪機輪二。手廻式鑄造機二、ステロ二、亞鉛寫眞版製版一式。(活字)七ポ、十五字、九十五行、十三段。一箇月一圓三十五錢。(廣告料)八十錢、場所指定一圓二十錢、特別面一圓五十錢。

■十年六月一日整理部長以下の移動を行ふ。

■同九月九日より公報輯錄を發行す。

臺南新報

臺南市本町三丁目二三四。(電)二二、二二二、六四四、七八一、九九〇。創刊明治三十二年七月。株式。十萬圓。朝刊八頁。夕刊四頁。(版數)一。(社長)宮本一學。(支配人)田中政太郎。(主筆)中村事。(編輯)同。(社會)室谷信次郎。(地方)太田猛。(庶務)熊野御堂英雄。(經濟)田里維章。(廣告)安井俊之。(會計)田部理三。(販賣)伊藤敬三。(東京支局)大西隆之助。(大阪支局)辻壓次郎。(社員)百八名。(工場員)百八名。(機械)マリノニ折式輪轉一、マリノニ式一、津田式色刷輪轉一、各種平盤十三。活字鑄造機三、寫眞製版機二、凸版一、グラビア一、ステロ設備あり。(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月一圓三十五錢。(廣告料)八十錢、場所指定十錢增、特別面一圓二十錢、記事劃込一圓六十錢。

■九年十二月五日副社長宮本一學君社長となる。

臺灣新聞

臺中市明治町一ノ五。(電)二〇、二三〇、二〇〇、五五〇、一〇四一、一一〇三。株式。二萬圓。(社史)明治三十四年四月三日株式會社組織の下に五月一日臺中每日新聞にて第一號を發行し、明治四十年十月臺灣新聞に改題今日に至る昭和八年八月理事制を設け德富廸、大月京平、佐藤吉次郎、小川節理事に就任す。朝刊八頁。夕刊四頁。(附錄)臺中州報、臺中市報、新竹州報、臺中市報、新竹市報、彰化市報。(地方版)新竹版(每月五の日發行)。(社長)松岡富雄。(常務)德富廸。(主筆)小川節。(編局心得)遠藤重美。(外交)遠藤東之輔。(校正)北川修一、(寫眞)今村定喜。(漢文)黃禮璇。(營局)八月京平。(廣告)田中政義。(印刷)武田一雄。(會計)內野良太郎。(販賣心得)山本久楠。(東京支局)德富廸。(大阪支局)萩原一雄。(機械)マリノニ式一。金津式一、內國製平盤五。自動鑄

造機一、普通三、寫眞凸版、モノタイプ、鉛版仕上械各一、コッピー機二、鉛版鑄込機二。(活字)七ポ、十五字、百五十三行、十三段。一箇月一圓三十五錢。(廣告料)一圓、場所指定二十錢、特別面二圓。

■九年十一月元時事新報整理部長小川節君編輯局長として入る

■十年八月全島名物名產投票を行ひ同年十月「臺灣を代表するもの」四六版八百頁の單行本を發行讀者並に關係方面へ贈呈す

東臺灣新報

花蓮港街高砂通一二。(電)四二、四三。株式。六萬圓。創刊大正五年九月十日。朝刊四頁。(附錄)日曜附錄、花蓮港廳報、臺東廳報。(社主)尾關正勝。(社長)梅野清太。(專務)吉村佐平。(支配人)齋藤齊。(主筆)同。(編輯)尾關正勝。(社員)十五名。(工場員)十五名。(機械)八頁一。(活字)十一字、六十五行、十二段。一箇月一圓。(廣告料)五十錢、特別面八十錢。

(三) 朝鮮

▼人口……三〇、九一、三二
▼世帶數……三七、二三四
(昭和八年末現在)

朝鮮の新聞界は邦字新聞と朝鮮字新聞の二つに分れ、前者は主として約四十萬の內地人を目標とし後者は朝鮮人大衆を相手としてゐる。而して邦字新聞は數が多く諺字新聞は數が少ないので、前者の遣り惡いのに比して後者はやゝ遣り易い譯である。たゞ朝鮮人經營の諺字新聞は發行禁止を受けること屢々、そこに經營者の惱みがある。又朝鮮での新聞發行は、內地人及外國人は新聞紙規則により總督府の認可を受け、朝鮮人發行のものは許可を受けるのである。

朝鮮の新聞中心地は京城(人口約三十五萬)を以て第一とし、次は釜山(人口約十四萬)平壤(人口約十六萬)大邱(人口約十二萬)等である。京城日報は總督府の機關紙として臺灣日日、滿洲日日などと共に我國植民地に於ける代表的新聞に屬し、別に諺字紙の每日申報、英字紙のセウルプレスを兼營してゐる。而して以前の滿洲日日などとちがつて、敢黨勢力の侵入する事少なかつたから、新聞は不安なく成長した。尙九年度に於ける京城日報の廣告行數は三百三十九萬七千三百九十二行で全國地方紙の第八位にある。此の新聞に對する民間の代表紙は京城の朝鮮新聞、朝鮮日日で、更に又近年に於ける朝鮮商工新聞の擡頭を見逃すわけに行かない。釜山には釜山日報がある。尙ほ諺字新聞の有力紙としては京城の朝鮮日報、東亞日報が擧げられる。滿洲國の成立、裏日本交通路の新開等により、朝鮮の新聞地圖も將來變化を來すであらう。

京城日報、

京城府太平通一丁目三一。(電)光化門四〇〇—四、七〇四、二五〇三。合資。五十萬圓。創刊明治三十九年九月一日。朝刊八。夕刊四。(版數)六。(地方版)南鮮地方版、北鮮地方版、(社長)時實秋穗。(理事支配人)兒島吉治。(理事主筆)高田知一郎。(編局)同。(理事)金尙會。(論說)池田林儀。(政治、社會)矢野干城。(經濟)石坂朔郎(整理、學藝)吉川兼光。(通信)栗津信爾。(校正)長間光雲。(寫眞)河野佐市。(營局)兒島吉治。(廣告)松原勇記。(販賣)畑茂一。(經理)上野淺吉。(庶務)西本秀吉。(事業部主事)絹田節一。(工場長)小川三之介。(理事東京支社)佐藤巖。(營業局相談役)永井忠藏。(大阪支局)三浦義雄。(社員)二百八十名。(工場員)二百四十五名。(機械)京日電光式超高速十五萬刷輪轉機二、折疊式輪轉機四、平盤四。活字鑄造機、ステロ、寫眞版あり。(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月一圓。(廣告料)普通一圓五十錢、場所指定十錢增、特別面三圓。(兼營)英文日刊紙セウルプレス、每日申報、朝鮮年鑑發行。

■十年一月二十六日本社に於て社員採用試驗を行ふ。

■同二月十日より日曜夕刊を發行す。

■同三月一萬號記念として「京日每申社會奉仕團」を設立す。

■同九月、日滿支訪問飛行を催す。

■同九月二十一日一萬號記念懸賞小說の賞金授與を行ふ。

一等「人生謳歌」
賞金三千圓　森岡　多作
二等「春を待つもの」
賞金一千圓　山下ハル子

朝鮮新聞

京城府太平通二ノ一二三。(電)代表長本局三三一五。株式。三十萬圓。(社史)明治二十一年四月三日創刊、大正九年牧山耕藏の經營に移り大正十五年十月株式組織に變更、昭和八年十二月社屋を新築し九年十一月より十二頁制となる。朝刊八頁。夕刊四頁。(版數)十。(地方版)三版三頁制。(社長)牧山耕藏。(副社長)石森久彌。(專務)岡。(支配人)貴田忠衛。(主筆)石森久彌。(編局)和田重義。(編部)永森稔。(學藝、體育)松村正彦。(社會)野崎眞三。(通信)廣幡謙太郎。(經濟)東條哲士郎。(政治次長)小坂貞雄。(寫眞)田畑元國。(總務次長)原口虎雄。(經理)西村庫行。(外交)江藤德衛。(廣告)大島勝太郎。(販賣)中尾昭夫。(事業)鳳猛虎。(東京支局)石丸務。(大阪支局)浮田金次。(社員)五十五名。(工場員)百五十七名。(機械)折疊式輪轉機三、平盤一、自動式活字鑄造機二、ステロ、寫眞版設備完全。(活字)七ポ、十五字、百五十七行、十三段。一箇月一圓。(廣告料)普通一圓五十錢、場所指定二割增。

朝鮮商工新聞

京城府黃金町二ノ一九九。(電)本局一一八、四五四〇、四八一〇、一五八一、四五五〇、三六一〇。個人經營。三十五萬圓。(社史)大正九年十一月邦文鮮文併用週刊大正十二年九月一日日刊となし夕刊四頁發行、十四年七月一日より晝夕二回發行六頁となり、昭和五年社屋新築、輪轉機增設六年十二月、朝鮮日日を買收。現在は共に朝刊四頁。夕刊四頁。(社主)齋藤五吉。(社長)同。(主筆)同。(理事)鮫島宗也。(編局)渡邊四朗。(秘書)皆川留作。(經濟)加藤清吉。(工務局)小林浩爾。(營局)松山操。(外交)益野小市。(專賣所長)横山博至。(東京支局)鮫島宗也。(大阪支局)西池末彦。(社員)四十八名。(工場員)六十名。(支局は別)(機械)マリノニ式輪轉機一、平盤三。活字鑄造機、ステロ、寫眞版あり。(活字)七半、十四字、百四十五行、十三段。一箇月五十錢。(廣告料)普通一圓三十錢、場所指定三十錢增、特別面二圓六十錢。(兼營)朝鮮日日新聞、朝鮮取引所商報、仁川取引所商報。

■十年四月七日第二回工業祭を催す。

朝鮮日日新聞

(朝鮮商工新聞の姉妹紙)京城府黃金町二ノ一九九。(電)本局一一八、四五四〇、四八一〇、一五八一、四五五〇、三六一〇。個人經營。三十五萬圓。(社史)大正九年七月一日週刊紙發行、大正十二年七月一日日刊となる、經營者を變更すること三回、昭和六年十二月齋藤氏の買收する處となる。夕刊四頁。月曜のみ朝刊四頁。(社主)齋藤五吉。(社長)同。(主筆)同。(理事)鮫島宗也。(編局)渡邊四朗。(政治)小林秀雄。(社會)門山廣尙。(經濟)加藤清吉。(秘書)皆川留作。(工務局)小林浩爾。(營局)松山操。(外交)光田幸作。(專賣所長)横山博至。(東京支局)鮫島宗也。(大阪支局)西池末彦。(社員)四十八名。(工場員)六十名。(機械)マリノニ式輪轉機一、平盤三。活字鑄造機、ステロ、寫眞版あり。(活字)七半、十四字、百四十五行、十三段。一箇月五十錢。(廣告料)普通一圓三十錢、場所指定三十錢增、特別面二圓六十錢。(兼營)朝鮮日日新聞、朝鮮取引所商報、仁川取引所商報。

■十年四月七日第二回工業祭を催す。

毎日申報

(鮮文)(京城日報の經營)京城府太平通一ノ三一。合資。五十萬圓。創刊明治四十三年九月。朝刊四頁。夕刊六頁。(版數)市內外一。(社長)時實秋穗。(副社長)李相協。(支配人)兒島吉治。(編輯兼通信)柳光烈。(政治)廉尙燮。(經濟)李允鐘。(社會)鄭寅襲。(營局)兒島吉治。(庶務)西本秀吉。(販賣)李相喆。(廣告)朱潤。(經理)上野淺吉。(工場長)小川三之介。(東京支社)佐藤巖。(大阪支局)三浦義雄。(社員)百三十五名。(工場員)百七十名。(機械)超高速輪轉二、折疊式高速四、平盤四。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七・五、十四字、百四十七行、十三段。一箇月一圓。(廣告料)普通一圓十錢、場所指定十錢增、特別面二圓二十錢。

■十年一月從來の夕刊八頁を改めて朝刊四頁夕刊六頁となる。

朝鮮日報

(鮮文)京城府太平通一ノ六一。(電)代表光化門二八〇〇。創刊大正九年三月。株式。五十萬圓(全額拂込)。朝刊四頁。夕刊四頁。特刊四頁。(地方版)南版、北版、中央版。(取締役社長)方應謨。(取締役主筆)徐椿。(同總務局)金銑範。(顧問)曹晩植、金東元。(編局)金圃元。(同次長兼政治)咸尙勳。(編輯顧問)文一平。(營局)文錫俊。(同次長兼廣告)宋秉暉。(庶務)黃大鬧。(會計)吳亨錫。(外報)洪陽明。(社會)李相昊。(經濟)申泰翊。(學藝)洪起文。(地方)徐承孝。(校正)金敎美。(販賣)方建斗。(印刷)崔益進。(東京支局)金東進。(大阪支局)金光沫。(社員)六十九名。(工場員)六十四名。(機械)最新折疊式二、津田式二。活字鑄造機五、凸版製版機三、コッピー三、寫眞製版機三、モノタイプ四、鉛版鑄込機四。(活字)七・五、十五字、百五十五行、十三段。一箇月一圓。(廣告料)一圓二十錢、場所指定一圓四十錢、特別面二圓四十錢。(兼營)新朝鮮(月刊雜誌)。

■十年七月太平通に新社屋竣成す、鐵筋コンクリート五階建延坪千六坪。

東亞日報

(鮮文)京城府光化門通一三九。(電)一九〇〇—一九〇四。創刊大正九年四月一日。株式。七十萬圓。朝刊四頁。夕刊六頁。(版數)朝夕各二。(取締役社長)宋鎭禹。(同副社長)張德秀。(同支配人)梁源模。(編局)社長兼攝。(同次長)薛義植。(政治)金章煥。(經濟)高在旭。(社會)玄鎭健。(地方)朴瓚燮。(學藝)徐恒錫。(整理)朴萬緖。(調査)李如星。(營局)梁源模。(同次長)金炳奭。(庶務)金鐵中。(經理)鞠泰一。(販賣)金哲圭。(廣告)金煥奭。(東京支局)申浩均。(大阪支局)金廷國。(社員)九十六名。(工場員)六十五名。(機械)折疊式輪轉機一、マリノニ式輪轉機三、平盤機一。萬能鑄造機三、手廻機三、ステロ三、寫眞機完備。(活字)七ポ、十五字、百五十六行、十三段。一箇月一圓。(廣告料)一圓二十錢、場所指定十錢增、特別面二圓二十錢。

■十年一月從來の夕刊八頁を改めて朝刊四頁夕刊六頁となる。

朝鮮日報

(鮮文)京城府太平通一ノ六一。(電)代表光化門二八〇〇。創刊大正九年三月。株式。五十萬圓(全額拂込)。朝刊四頁。夕刊四頁。特刊四頁。(地方版)南版、北版、中央版。(取締役社長)方應謨。(取締役主筆)徐椿。(同總務局)金銑範。(顧問)曹晩植、金東元。(編局)金圃元。(同次長兼政治)咸尙勳。(編輯顧問)文一平。(營局)文錫俊。(同次長兼廣告)宋秉暉。(庶務)黃大鬧。(會計)吳亨錫。(外報)洪陽明。(社會)李相昊。(經濟)申泰翊。(學藝)洪起文。(地方)徐承孝。(校正)金敎美。(販賣)方建斗。(印刷)崔益進。(東京支局)金東進。(大阪支局)金光沫。(社員)六十九名。(工場員)六十四名。(機械)最新折疊式二、津田式二。活字鑄造機五、凸版製版機三、コッピー三、寫眞製版機三、モノタイプ四、鉛版鑄込機四。(活字)七・五、十五字、百五十六行、十三段。一箇月一圓。(廣告料)一圓二十錢、場所指定三十錢增。(兼營)月刊雜誌新東普及新家庭。

■九年十一月七日五千號を迎ふ記念として朝鮮十三道現勢地圖を月定讀者に配布す。

■十年四月一日創刊十五周年を迎へ社屋の增築、工場設備の擴張、記念事業を行ふ。

朝鮮中央日報

(鮮文)京城府堅志洞一一一。(電)光化門二六二五—九。株式。三十萬圓。(社史)大正十五年十一月十五日創刊、昭和七年十月三十一日崔善益、尹希重兩氏に依り革新せらる八年七月一日より從來の四頁を六頁に增頁、九年六月二十七日組織を三十萬圓の株式會社に變更、同年七月十五日より紙面を八頁に增頁す。朝刊四頁。夕刊四頁。(版數)四。(部數)昭和十年九月末日現在九萬五千部。(社長)呂運亨。(專務)尹希重。(編局)李寬求。(論說兼政治)裵成龍。(社會)朴八陽。(整理)張惊鍵。(營局)尹希重。(營局次長)趙東珣。(販賣)李民鍾。(廣告)李章榮。(東京支局)趙漢用。(大阪支局)朴尹錫。(社員)八十五名。(工場員)九十五名。(機械)內國製マリノニ式輪轉機二、同折疊式輪轉機一、平板一。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備有り。(活字)七半、十四字、百四十七行、十三段。一箇月八十錢。(廣告料)一圓二十錢、場所指定料三十錢。

■昭　十年九月航空部を新設し第一次航空事業として白頭山探險飛行を行ふ。

ゼ・セウル・プレス

(英文)(京城日報の經營)。朝鮮京城府太平通一丁目。(電)光化門四〇〇。合資。五十萬圓。(社史)明治四十年二月二十一日認可、伊藤博文統監の命により同公祕書官たりし頭本元貞氏初代社長兼發行人となる、後山縣五十雄氏、三好氏、宮舘氏をへて昭和五年二月十一日京城日報社と合併し今日に至る。朝刊四頁。(附錄)毎日曜一回二頁。(部數)九年九月十三日現在三千部。(社長)時實秋穗。(支配人)兒島吉治。(主筆)金用桂。(東京支局)

佐藤嚴。(大阪支局)三浦義雄。(社員)三十五名。(工場員)二十五名。一箇月一圓。

釜山日報

釜山大倉町四ノ三六。(電)代表二〇〇一。創刊明治三十八年二月一日。株式。二十五萬圓。朝刊八頁。夕刊四頁。(社長)芥川浩。(副社長、編局)篠崎長之助。(編輯局主幹)高原木二。(編輯次長兼社會)堺新太郎。(政治、調査)泉泰運。(校正)岩男清。(營業總務兼事業)永延清四郎。(販賣)大倉健次郎。(會計)横田節之助。(營部次長)芥川務。(廣告副部長)今井八郎。(同內勤部長)竹本一三。(東京支局)堀克巳。(大阪支局)浮田東次。(機械)折疊式輪轉機二、外國製マリノニ輪轉二、色刷折疊輪轉機一、平盤八。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月一圓。(廣告料)一圓五十錢、場所指定二十錢增、特別面三圓。

■九年十一月一日從來の朝夕刊十頁を擴張して朝夕刊十二頁となる。

■十年三月京城支社長田中君辭任し副社長篠崎昇之助君の兼務となる。

朝鮮時報

釜山府西町四ノ六。(電)代表一五四一。合資。十萬圓。(社史)明治廿五年商況を報道する目的を以て釜山商況を創刊、後東亞貿易新聞と改題して內容を改め廿七年七月時の釜山總領事室田美文氏、釜山商業會議所會頭榊原茂夫氏、漢城新聞社長安達謙藏氏相謀り朝鮮時報を創立、高木末熊社長時代一時株式なりしも大正九年七月合資となり現今川社長の經營下にうつる。夕刊四頁。(版數)一。(部數)十年十月十五日現在一萬五千部。(代表社員)今川百枝。(社長)今川廣吉。(副社長)清水雪治。(支配人)今川百枝。(編局)清水雪治。(政治)赤迫秀雄。(社會)岸本章太郎。(學藝)古村次郎。(運動經濟)岸本章太郎。(營局)今川龜之助。(廣告)同。(事業)山本米吉。(販賣)德久一男。(東京支局)杉浦信八。(大阪支局)松本三郎。(社員)四十五名。(工場員)二十三名。(機械)マリノニ輪轉機、平盤一。活字鑄造機、ステロ、寫眞版あり。(活字)七・七五、十五字、百三十五行、十二段。一箇月六十錢。(廣告料)一圓二十錢、場指定一割增。

■十一年春活字入替の豫定。

平壤每日新聞

平壤府紅梅町一。(電)六三六、七七二、一三三七、九九四、五七九。創刊大正九年四月十日。組合。三十二萬五千圓。朝刊四頁。夕刊四頁。(地方版)每月五回以上黃海版(四頁)發行。(主幹)森幸次郎。(支配人)佐々木鐵藏。(編局)向江大吾。(營部)支配人兼務。(工場長)岡部茂太。(東京支局)岩瀨太平。(大阪支局)松本三郎。(社員)四十三名。(工場員)二十三名。(機械)マリノニ式輪轉機一、十六頁平盤一。(活字)鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七・七五、十四字、百四十行、十三段。一箇月八十五錢。(廣告料)一圓三十錢、特別面二圓六十錢。(兼營)代理部。

■十年九月三日前社長大橋恒藏君逝く、行年六十二。

朝鮮每日新聞

仁川府濱町一三。(電)一〇四〇、一〇四一。個人經營。二十萬圓。創刊大正十年十月一日。夕刊六頁。(附錄)日曜二頁。(部數)昭和九年八月一日現在一萬二千部。(社主)後藤連平。(社長)同。(整理)平廣。(經濟)米原精一。(取材)津原大喜。(營局)藤本連。(廣告)横山豐太。(事業)篠崎文次郎。(外交)田中高三郎。(大阪支局)三宅哲夫。(社員)三十名。(工場員)六十名。(機械)津田式輪轉機一、平盤印刷機二。(活字)鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七・七五、十四字、百四十二行、十三段。一箇月七十錢。(廣告料)一圓三十錢、場所指定五割增、特別面二圓六十錢。

■十年二月より二頁大の日曜附錄を發行す。

朝鮮民報

大邱府東雲町。(電)一四九九、二四九、七四九、八四九、一八〇。個人經營。(社史)明治三十八年三月十六創刊、大正二年朝鮮民報と改題、五年現社屋新築、昭和五年五月朝刊夕刊別齋行、六年十二月社長河

井朝雄氏死去に就長子河井戸四雄氏之を繼ぐ、九年二月輪轉機增設。朝刊四頁。夕刊四頁。(版數)三。(地方版)南部版、中部版、北部版。(社長)河井戸四雄。(理事總務)野坂茂一。(同支配人)衞藤勇。(同庶務局)阿南忠夫。(同工務局)原辰助。(同編局)砂田辰一。(編部)杉田善治。(營局)衞藤勇。(販賣)村田松次郎。(廣告)衞藤勇。(事業)原辰助。(東京支局)今井淺南。(大阪支局)田中正男。(社員)八十名。(工場員)四十四名。(機械)金津式一、東京機械一。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七ポ、十五字、百五十六行、十三段。一箇月九十錢。(廣告料)一圓三十錢、場所指定二割增、特別面二圓六十錢。

大邱日報

大邱府東城町三ノ八四。(電)代表一三六三、一三六四。個人經營。十萬圓。(社史)昭和三年十月一日株式會社大邱日報として創刊せられたるも經營難に陷り七年株式組織を解散現社長河谷氏の個人經營に移り活字の改鑄輪轉機の增設、紙面の擴張社屋の改築を企圖し十年六月三階建鐵筋コンクリート造りの現社屋完成移轉せり。夕刊八頁。(附錄)日曜附錄として大日小供新聞を發刊。(部數)十年十月一日現在八千五百部。(社主)河谷靜夫。(社長)同。(理事)佐藤一三。(主筆)鳩谷源。(編部主任)八坂桃太郎。(政治)有村禎高。(營局)佐藤一三。(庶務)阿谷不二男。(廣告)光永禮。(事業)福田喜代治。(東京支局)岩瀨太平。(大阪支局)松尾與一。(社員)二十六名。(工場員)四十五名。(機械)マリノニ輪轉機一、同折式一。活字鑄造機、ステロ、寫眞版あり。(活字)七半、十五字、百五十行、十三段。一箇月九十錢。(廣告料)一圓二十錢、場所指定五割增、特別面二圓四十錢。

■十年六月新社屋落成す。

■同十月臺灣視察團を募集す。

南鮮經濟日報

大邱府京町一ノ三四。(電)一四〇、六二八。個人經營。一萬圓。(社史)創刊大正十三年十二月廿七日大邱商報として生れ、十五年十月十四日改題、以來主幹の更任五名、昭和八年一月廿七日組織を支配人制下に陣容を整へ現在に至る。日刊小型四頁。(部數)十年十月十日現在二千部。(社主)韓翼東。(社長)同。(支配人)渡中兼男。(編輯)同。(營業)竹內兼三郎。(社員)九名。(工場員)七名。(機械)平盤二。(活字)舊、十一字、五十二行、八段。一箇月五十錢。(廣告料)二十錢。

■優良店員表彰、讀者優待各種催しをなす。

西鮮日報

鎭南浦驛前。(電)五一一。創刊大正十二年。個人經營。十萬圓。夕刊四頁。(版數)二。(地方版)黃海版。(部數)八年九月末日現在七千五百五十二部。(社長)長谷川照雄。(副社長)森岡二三。(支配人)石川喜久。(主事)重松安紀。(編輯)秋山照滿。(外事)高月哲。(經濟)林耕一。(營業)西澤穣。(廣告)同。(經理)小澤吉次。(東京支局)鹽田信太郎。(大阪支局)浮田金次。(社員)二十七名。(工場員)三十二名。(機械)マリノニ式輪轉機一、平盤一。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七・七五、十四字、百四十行。(十三段。一箇月七十錢。(廣告料)一圓、場所指定一圓五十錢、特別面一圓五十錢。(兼營)代理部。

木浦新報

全羅南道木浦府。(電)三三。株式。五萬圓。(社史)明治三十三年六月創立、木浦有志の共同出資により地方の機關紙として生れ今日に到る。朝刊四頁。(部數)十年十月七日現在五千六百八十五部。(社長)福田有道。(主幹)山本精一。(編局)磯井正一。(政治)同。(社會)中田栗雄。(經濟)本間敏夫。(營局)山本精一。(會計)廣瀨芳太郎。(廣告)佐藤喜四太。(販賣)大鳥皓輔。(大阪支局)竹田津吾一。(社員)十五名。(工場員)四十名。(機械)平版三、二頁二。ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七ポ、十五字、百五十行、十三段。一箇月九十錢。(廣告料)一圓、場所指定二圓。(姉妹紙)光州日報。

光州日報

(末浦新報の姉妹紙)光州郡光州邑東門通。創刊明治四十二年四月。株式。五萬圓。

朝刊四頁。(社長)福田有造。(主筆)鹿野秀三。(編輯)千葉雅生。(營業)中田鹿治。(廣告)佐野重利。(機械)平盤四。(活字)七ポ、十三段。一箇月九十錢。

群山日報 郡山府錦町九。創刊明治三十九年三月。個人經營。五萬圓。夕刊四頁。(社主)高洲カメヨ。(社長)同。(主筆)秋山忠三郎。(營部)姫川五朗。(廣告)水口祐之。(社員)二十六名。(工場員)二十一名。(機械)平盤三。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)九ポ、十三字、百二十行、十二段。一箇月一圓。(廣告料)一圓。

全北日報 全州邑大正町。(電)一六、五〇一。個人經營。五萬圓。(社史)明治三十八年十二月二十五日創刊、美濃版手押式複寫紙より三十年の歳月を經て今日に至る。朝刊四頁。(版數)一。(社主)松波千海。(社長)同。(主筆)同。(編輯)齋藤維恭。(營業)木下孝。(東京支局)劉期泰。(大阪支局)竹田津吾一。(機械)平盤二。活字鑄造機、ステロ、寫眞版あり。(活字)八半、十三字、百一行、十二段。一箇月一圓。(特設)活動寫眞部。

南鮮日報 馬山府都町。(電)一六二。匿名組合。十萬圓。(社史)明治四十年十月一日創刊、京城日報社の經營なりしも大正十四年個人經營に移り昭和六年三月現經營者の經營となる。夕刊四頁。(地方版)晋州版、統營版、慶北版、鎭海版。(部數)十年九月一日現在八千五百部。(社長)高橋武夫。(理事)指方邦太。(編輯)高須信二。(社會)幸野溪仙。(政治)河野實。(營業)高橋武夫。(廣告)八代和義。(事業)大越正夫。(販賣)吉開彌吉。(東京支局)鑪田信太郎。(大阪支局)松下兵馬。(社員)十八名。(工場員)三十一名。(機械)平版二、輪轉一。ステロ、寫眞部あり。(活字)七ポ、十五字、百四十行、十三段。一箇月七十錢。(廣告料)一圓、場所指定十錢增、特別面一圓三十錢。

中鮮日報 (朝鮮中央新聞の改題)大田府本町一丁目。(電)一〇〇、二〇〇、三〇〇。株式。十萬圓。(社史)明治四十二年六月二十日三南新報として創刊、大正元年湖南日報に改題、昭和八年六月朝鮮中央新聞と改題、十年四月一日より中鮮日報と改題。朝刊四頁。(地方版)忠世版及湖南版あり。(社長)富士半平。(副社長)坂上富藏。(專務)同。(支配人)深澤喜太郎。(編部)森常雄。(營部)深澤喜太郎。(東京支局)三枝嶺三郎。(大阪支局)西池末彦。(社員)二十一名。(工場員)四十二名。(機械)マリノニ式輪轉機一、十六頁平版三。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七ポ、十五字、百五十行、十三段。一箇月八十錢。(廣告料)五十錢、特別面七十錢。(兼營)忠淸南道報、忠淸北道報、鐵道局所報。

北鮮時事新報 咸興府中央町三丁目。(電)五五〇。一二六。個人經營。十萬圓。(社史)明治四十一年十二月四日咸興新聞の題名により發行、四十三年咸南新聞と改題、昭和四年北鮮時事新報と改め六頁發行夕刊紙として今日に至る。夕刊六頁。(社長)畑本逸平。(主幹)八谷賢治。(編局)鷹羽和明。(營局)主幹兼務。(東京支局)柳澤篁治。(大阪支局)永田格太郎。(社員)六十名。(工場員)三十名。(機械)輪轉機一、平臺十六頁二。ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七ポ、十五字、百五十七行、十三段。一箇月一圓。(廣告料)一圓、場所指定二圓、特別面三圓。(兼營)一般印刷。

■國境守備隊警察官の慰問、春の行樂ウインド陳列競技大會等を行ふ。

■十年八月二十五周年七千號を迎へるを機會に十三段制採用■同十月十日より七ポ新活字を採用し一般印刷部及廣告圖案係新設。

北鮮日報 淸津府。(電)二一、一一三六。株式。五萬圓。(社史)明治四十年八月一日創刊北鮮に於て最も古き新聞。朝刊四頁又は六頁。(附錄)日曜附錄小供新聞四頁。(部數)十年九月三十日現在七千五百部。(社長)岡本常次郎。(支配人)岡本信雄。(主幹)同。(主筆)上原千馬太。(編部)同。(經濟)姫野武磨。(社會)奥村多加志。(營部)西本梧

作。(廣告)增田喬。(東京支局)赤松彦太郎。(社員)五十四名。(工場員)三十八名。(機械)マリノニ大型輪轉機一、平版大小二。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七ポ、十五字、百五十行、十三段。一箇月九十錢(廣告料)五十錢、場所指定一圓十錢、特別一圓三十錢。

■年中行事各種催し物主催又は後援。

北鮮日日新聞 羅南本町八九(電)二六〇、三五〇。匿名組合。五萬圓。(社史)大正九年二月一日、山本和太郎氏外五名により創設翌年洪鎌華氏之を繼承し、昭和三年二月現社長之を買收し七年社屋を新築。夕刊四頁。(版數)一。(附錄)每土曜家庭新聞。(部數)十年十月現在六千八百六十八部。(社長)三上新。(營局)河村英夫。(東京支局)佐久間新吾。(大阪支局)竹田津吾一。(社員)二十七名。(工場員)二十三名。(機械)マリノニ式輪轉一。活字鑄造機、ステロ、寫眞版あり。(活字)七ポ、十五字、百五十行、十三段。一箇月九十錢。(廣告料)一圓二十錢、場所指定二割增、特別面二圓。

鴨江日報 新義州府常盤町(電)三〇三、五二二四。創刊明治四十年四月。株式。五萬圓。夕刊四頁。(版數)二。(社長)加藤銕治郎。(副社長)神保新吉。(支配人)渡邊眞一郎。(主筆)小川延吉。(編輯)渡邊眞一郎。(營業)岡本茂。(社員)二十五名。(工場員)四十三名。(機械)佛國製マリノニ式輪轉機一。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七ポ、十五字、百五十三行、十三段。一箇月八十錢。(廣告料)八十錢、場所指定倍額、特別面三倍。

元山每日新聞 元山府幸町。創刊明治四十二年一月一日。個人經營。十三萬圓。朝刊四頁。夕刊二頁。(版數)二。(地方版)咸興、咸北、江原。(社主)西田常四郎。(社長)同。(支配人)土屋弊夫。(主筆)川西爲美。(廣告)北市典祥。(社員)六十一名。(工場員)四十名。(機械)平盤四。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七ポ、十五字、百五十行、十三段。一箇月九十錢。(廣告料)一圓、場所指定二圓、特別面二圓。(兼營)生命保險火災保險代理業。

(四) 滿洲國

滿洲國の新聞界は、先に一種のナショナル・ニュース・エゼンシーの形を以つて滿洲國通信社が創立され、これが政府の補助を受け、無電使用の特權まで附與され、別に競爭社の設立が許されない事になつてゐたから、言論界は既に半ば統制の形であつたが、昭和十年夏、大連の二大邦字紙滿洲日報と大連新聞の合同が實現され、更に十一月十一日參加社十三社の弘報協會が誕生するに至つて、新聞統制の機運は愈々濃厚となつて來た。

滿日、大連兩社の合併は、十年七月三十一日、五十七萬五千圓を以つて大連新聞が後者に買收された事によつて成立し、同年八月七日から合併兩紙は滿洲日日新聞の題名を以つて發行される事となつた。此の題名は、往年遼東新報が買收合併される以前に於ける滿洲日報の題號で、買收合併二回にして舊名に復した譯である。

弘報協會

弘報協會は、現在では新聞、雜誌、通信社等十三社をメンバーとなし、將來は財團法人組織とせられる筈であるが、暫定的に組合制度によつたものだと云はれる。そのメンバーは、滿洲國通信社、滿洲日日新聞社、大新京日報社、奉天日日新聞社、哈爾賓日日新聞社、盛京時報社、大同報社、滿洲デーリー・ニュース社、ハルビンスエ・ウレーミヤ社、滿蒙日報社、斯民社、滿洲事情案內所以上十三社で、十年十一月十一日參加各社の署名調印を了した。役員は理事長に高柳保太郎、專務理事里見圓(國通)、理事に村田慈磨(滿日)、染谷保三(盛京)、都甲文雄(大同報)、大澤準(ウレーミヤ)の諸君が選任され、又監事に中尾龍夫君(大新京)、參與に佐々木健兒君(國通)以下數名が決定した。而して理事長の辭明によると、本會の目的及び事業は、特種關係を有する在滿新聞社、通信社、及びこれに類する弘報機關を以つて組織し、弘報

委員會の意に基き、弘報業務の進歩と經營の合理化を期し、その目的達成の爲め會員相互の物資、人員の救助並びに斡旋融通を圖るにあるといふ。而して本會參加の各社は、何れも滿洲國當局、關東軍等と直接の聯絡あるものゝみであるから、今後は各社の營業經營は大體打つて一丸となる事となるべく、又他方には今回參加しなかつた他の新聞社にも合流を働きかけ近き將來には完全な通信言論界の統制に向つて進まんとするものゝ如くである。

統制の樣式

そして其の統制が愈々實現された場合には、邦字紙、漢字紙、英字紙、露字紙の五大新聞に統制され、云はゞ民族別綜合新聞とでも稱すべき特種な新樣式の統制が形作られる事となる模樣である。併しそれはまだ先の事であつて現在では矢張り日本人經營の新聞と、滿洲人經營の新聞と此の二つに分類しておくのが、我々には便利のやうである。

關東州を含む滿洲國の新聞界を此處では上述の如く分類する事とするが、尙外に、少數ながら露西亞人經營の新聞がある。而して日本人經營の新聞は、邦字紙、漢字紙（及び英字紙）とも、今では概して關東州及び滿鐵附屬地內から發行され、滿人發行の新聞は、總てが、漢字新聞であつて、又總てが、滿洲國行政權下の地から發行されてゐる。併し、これ等滿洲人經營の漢字新聞の中には、表面滿人名義にはなつてゐるが、實際には日本人が經營してゐるやうなものもあり、或は日滿合辦のものもあり、種々の場合のある事を記憶せねばならぬ。而して日本人經營の新聞は、今日こそ關東州や滿鐵附屬地から多く發行されてゐるが、將來は、滿洲國行政權下の地からも多數に發行されるであらう事が豫想される。それは滿鐵附屬地の返還問題は別として、最近北滿及び熱河地方に於ける驚くべき在住內地人增加の爲であつて、現に一兩年來、各地にぽつ〳〵と日系新聞の發行が見られる。

人口の增加

大同二年八月、滿洲國統計處の發表によれば、滿洲國の概算戶口數は

戶數		四、八二九、〇〇〇
人口		二九、六〇六、〇〇〇

であり、その中

滿洲人		
戶數		四、七〇七、〇〇〇
人口		二八、九〇二、〇〇〇
日本人		
戶數		九二、〇〇〇
人口		五六六、〇〇〇
其他（重に露人）		
戶數		三〇、〇〇〇
人口		一三七、〇〇〇

である。而して之れに關東州及び滿鐵附屬地の人口を合算すれば

滿洲人	二九、九五一、〇〇〇
日本人	八三八、〇〇〇
其の他	一三九、〇〇〇
合計	三〇、九二八、〇〇〇

となる。但し右の日本人の中には多數の朝鮮人が含まれて居り、內地人の數は、昭和九年十月一日現在外務省調査によると、關東州を除て尙且つ二十四萬三千六百六十八人である。これは滿洲事變勃發當時の十一萬二千七百三十五人に比して倍數以上の大飛躍である。因に、昭和十年十一月統計局發表の關東州及び滿鐵附屬地の人口は次の如くである。

關東州	一、一三四、〇七四
滿鐵附屬地	五二二、六八九
合計	一、六五六、七六三

新聞中心地

滿洲に於ける新聞中心地は、第一に大連、次に奉天、新京、其他哈爾賓、齊々哈爾等を擧げる事が出來る。大連市の居住邦人約八萬滿洲人約二十八萬、此處に邦字新聞一種、漢字新聞三種、英字新聞一種があり邦字紙の滿洲日日は滿洲に於ける日本の代表的新聞であつて、昭和二年十一月遼東新報と合併し、十年八月更に大連新聞を合併した。滿鐵の機關紙である爲め政黨に累される事多かつたが、近年、漸くその弊を脫し、營業成績も好く、九年度の廣告總行數の如き四百三十萬六千五百〇七行で全國地方紙中第一位を占めてゐる滿日に對して大連新聞は發刊たる日間勢力を代表し、殊に昭和五年以來大いに積極策を樹て驚くべき活躍振りを示してゐたが終に今回合併を見たのである。漢字紙三紙はそれ〴〵の立場を有するが、殊

に滿洲報は奉天の盛京時報と共に斷然優勢の位置にあり、南滿から更に熱河方面にかけて、滿洲人に對する報道機關として重要視されてゐる。尙同紙は九年十二月奉天の東亞日報を買收、民聲晚報と改題發行新らしく姉妹紙を持つ事となつた。

新聞の第二中心地は奉天で居住邦人約二萬人、總人口四十一萬二千百七十二（昭和九年末現在）、南滿洲の中樞地として此處に奉天每日新聞外二種の邦字紙と數種の漢字新聞、及び滿人の經營になる多數の漢字紙がある。邦人經營の新聞中では漢字紙の盛京時報が前述の如く優勢で、邦字紙では奉天每日の發展振りに見るべきものがある、次に第三中心地の新京は昭和九年末現在人口滿鐵附屬地を除いて十六萬九千四百五十一（內地人は八年度の推計で附屬地とも一萬八千八百、朝鮮人約四千）、新滿洲國の首都として今や隆々の勢ひあり、此處に邦字新聞三種と日本人の經營にかゝる漢字紙大同報がある。邦字紙の大新京日報は大滿蒙に代つて關東軍の機關となつたもので今や進展の一歩を踏み出した處。大滿蒙は初め奉天に創刊され、後新京に移り、經營よろしきを得ず社內に紛糾を生じて九年十二月終に挫折廢刊の餘儀なきに至つた又大新京日報に對抗して在野の勢力を代表するものに新京日日新聞あり、活氣見るべきものがある。大同報は元支那人の經營したのを事變後日系滿人の手に移り、更に滿洲國より補助を受けて純然たる滿洲國の機關紙となつたものである。併し經營者が邦人であるから邦人經營の部に收錄した。

哈爾賓其他

次の中心地哈爾賓は國際都市として各國人が在住し、八年五月の在住日本人六千八百、朝鮮人五千九百、露西亞人を主とする歐洲人約八萬人、九年末の總人口は四十八萬二千四百五十二である。從つて新聞も日、漢字紙の外數種の露西亞字新聞も發行されてゐる。齊々哈爾は八年八月の在住日本人約三千であるが、急激に增加の傾きあり、九年末の總人口七萬八千百十二である。此處に邦字新聞北滿洲日報、及ひ漢字紙黑龍江民報がある。

右の外安東（人口一〇一、五六一）（昭和九年末現在、以下同じ）吉林（人口一四一、一七四）、撫順、營口（人口一三〇、三六〇）、錦州（人口七三、三五五）、承德（人口二二、六七六）等にも邦人經營の新聞がある。

滿洲各地の移入紙は大朝、大每を第一として福岡日日等これにつぐ。

以下日本人及び滿洲人經營各紙について見る。

A、邦人經營

滿洲日日新聞

大連市東公園町三一。株式。七十五萬圓。（社史）明治卅八年十月廿五日創刊の遼東新報と明治四十一年十一月創刊の滿洲日日新聞と昭和二年合併して滿洲日報となり更に十年八月大連新聞を合併し滿洲日日新聞となり今日に及ぶ。朝刊十頁。夕刊四頁。（附錄）小學生新聞（每日添附）二頁。（地方版）南滿版、北滿版、關東州版。（部數）十年十月二十日現在十五萬部。（社長）村田鰲齊。（主幹）細野繁勝。（編局）米野豐實。編輯總務）中村猛夫。（論說委員長）金崎賢。（整理）橋本喜代治。（政經）和氣傳。（學藝）小笠原勝。（聯絡）神藏重勝。（調査兼支那）鳥屋進治。（營局）本村武盛。（營局顧問）鈴木悅二郎。（廣告）安部資隆。（販賣）秋山豐三郎。（東京支局）山崎卓雄。（大阪支局）天谷深吉。（社員）七百二十三名。（工場員）八十三名。（機械）滿日式超高速度聯結輪轉機四。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。（活字）七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一筒月一圓二十錢。（廣告料）一圓五十錢、場所指定五割增、特別面三圓。（兼營）印刷業、月刊「經濟滿洲」發行。

■九年九月臨時東京支社通信事務囑託日笠芳太郎君編輯局顧問となる。

■同十月三臺連結高速機の修理池貝に於て完成す。

■十年二月經理局を廢し總務局を新設し、細野主幹局長を兼任す。

■同三月十二日東京に於て社員採用試驗を行ふ、應募者三百七

十四人。

■同四月大連に二科美術展を主催す。

■同七年三十一日五十七萬五十圓にて大連新聞を買收し、八月六日の兩紙夕刊に兩紙の合併を社告、八月七日より滿洲日日新聞と改題す。

■同九月支那部を新設しハルビン支局を支社に昇格す。

■同十月一日より大連新聞合併の結果廣告料値上げ（行二十錢上げ）を實施す。

滿洲報

（漢字）大連市常盤町廿九－三十一。（電）自（三）二五五一至（三）二五五五。個人經營三十萬圓。（社史）大正十一年七月二十四日創刊、當時關東州及滿鐵附屬地內に三四の邦人經營の漢字新聞ありしもややもすれば國策を無視する傾向あり、時の滿洲日日新聞社代表取締役たりし西片朝三氏之を慨し、山縣關東長官に建策、國策遂行のため本報發刊の特許を得て自ら本報を創刊して之を經營今日に至り九年十二月奉天に東亞日報を買收民報晩報と改題發行す。朝刊十四頁。（版數）三版制。（地方版）哈爾賓版二頁。（部數）十年十月八日現在七萬五千部。（社主）西片朝三。（社長）同。（理事）八名。（支配人）橘秀一。（主幹）久留宗一。（編輯）金念曾、楊華亭。（編輯次長）金慕韋、譚岐山。（部長）五名皆民國人。（副支配人）二名。（部長）五名（四名日本人、一名民國人）。（東京支社）清瀨邦弘。（大阪支社）野鳥銀藏。（社員）二百十名。（工場員）九十二名。（機械）マリノニ式二。活字鑄造機、ステロ、寫眞版あり。（活字）十ポ、十二字、百十行、十二段。一箇月國幣一圓四十錢。（廣告料）一圓。（兼營）出版業、已に出版せるもの東北人物志、三國志、佳人之奇遇、國際聯盟視察團報告書等。

■張作霖時代有名なる排日新聞たりし東北日報、時變後改稱して東亞日報（奉天）と號して發行し來りし漢字新聞社を買收し九年十二月民聲晩報と改題して夕刊四頁と爲し民衆の味方として興味本位に編輯し無料活動寫眞觀覽券を毎月二回讀者に贈與しつゝあり。

奉東日報

（漢字）大連奥町（電）八〇九一、八〇九二、八〇九三、四五二四。創刊明治四十一年十一月三日。朝刊十二頁。（版數）三。（社長）風見章。（主幹）柳町精。（編局）橋川淺。（營局代理）木下卯一。（東京支局）齋藤松三。（大阪支局）永嶺恒。（社員）三十二名。（工場員）四十名。（機械）マリノニー式輪轉機一、平盤二。活字鑄造機一、ステロ、寫眞版整備。（活字）九ポ、十三字、百五十行、十二段。一箇月大洋一元三角。（廣告料）一元、場所指定倍額、特別面二倍。

■十年二月十日前社長阿部眞言君逝く、後任として風見章君社長に就任す。

關東報

（漢字）（日滿合辦）。大連市德政街一五。（電）（三）三九三九、（三）三一九九。合資。五萬圓。（社史）大正八年十一月廿日代議士永田善三郎氏創設以來十有餘年大正十五年現社長市川年房氏社長に就任、滿洲事變後日滿合辦合資會社に改組す。朝刊十二頁。（版數）二。（部數）昭和十年七月一日現在三萬部。（社長）市川年房。（副社長）劉光鴻。（主筆）劉召鄉。（編局）同。（營局）周作之。（東京支局）松本七五郎。（大阪支局）金井三郎（社員）百五十名。（工場員）五十三名。（機械）輪轉機二、平板二。活字鑄造機、ステロあり。（活字）十ポ、十三字、百十三行、十二段。一箇月銀一圓三十錢。（廣告料）一圓、場所指定倍額、特別面應商議。

マンチユリヤ・デーリー・ニユース

（英字）大連市淡路町七。（電）（二）三七七三、（二）一七一六。株式。十萬圓。（社史）明治四十一年一月十七日創刊、滿鐵社員濱村善吉氏が當時在社の現總裁松岡洋右氏の後援にて創業、昭和八年三月現社長高柳保太郎氏に日滿五機關より成る弘報委員會を經て讓渡、昭和八年十月株式會社となる。夕刊八頁。（版數）一。（附錄）月刊マンチユリヤン、マンス（部數）昭和十年九月末日現在三千五百部。（社主）高柳保太郎。（社長）同。（常務）太原要。（支配

人）同。（主筆）高柳保太郎。（編局）中野昇。（整理）窪田正直。（校正）守瀨與三吉。（營局支配人代理）小山市郎。（會計）大池貞二郎。（販賣）越田喜久男。（廣告）向井楠雄。（印刷）小山市郎。（東京大阪支局）國通支局長兼任。（社員）二十七名。（工場員）三十名。（機械）三十二頁二回轉式平版機（ヒーダー付）二、十六頁二、八頁一、六頁一、ライノタイプ機五。活字鑄造機一。（活字）七ポ、七欄。一箇月一圓三十錢。（廣告料）一頁二百五十圓、特別面一頁三百圓。（兼營）日英漢印刷。

■昭和十年三月末日現在貸借對照表次の如し（圓下切捨）

資產

機械什器	七六、九二三
貯藏品	一、一七七
有價證券	一、五〇〇
保證供託金	二、五一六
振替貯金	八六七
銀行貸借	二五、一八九
未收金	一一、二三八
假拂金	一、九四六
現金	八〇二
計	一二二、一六二

負債

資本金	一〇〇、〇〇〇
法定積立金	二六〇
特別積立金	四、五〇〇
社員退職手當積立金	三、一八三
繰越剩餘金	三〇六
差入證券	一、五〇〇
未拂金	九、六八一
假受金	二、五二一
本年度剩餘金	二一〇
計	一二二、一六二

■十年五月前編輯部長柳澤柳太郎君退社す。

■同七月九日前編輯局長デヨーヂ、コールマン君の後任として滿洲國外交部中野昇君就任す。

奉天每日新聞

奉天十間房第四區。（電）二〇一七、三三二六、三四五六、五八五六、五八五七、七一六六。個人經營。二十萬圓。創刊明治四十年七月一日。朝刊八頁。夕刊八頁。（版數）二。（附錄）サンデー奉仕。（地方版）大連版。（社長）松宮琴子。（支配人）尾本捨次郎。（理事）高昧萬之助。（編局）牧野勳。（社會）小濱新。（政治）山中毅夫。（整理）佐和山俊雄。（經濟）三澤正夫。（通信）藤田敎馬。（地方）甲川傳三郎。（校正）飯塚定一。（運動）市橋辰雄。（學藝）荒井勝子。（營局）尾本捨次郎。（廣告）高昧萬之助。（庶務）櫛部晴夫。（販賣）本間基市。（工務）井手濟。（東京大阪支局）深田龜太郎。（社員）百十五名。（工場員）七十名。（機械）高速色刷輪轉二、マリノニ式一。活字鑄造機。ステロ、寫眞版あり。（活字）七ポ、十五字、百五十六行、十三段。一箇月一圓二十錢。（廣告料）一圓、場所指定一圓五十錢、特別面二圓。

■十年七月二色刷高速輪轉ドライマツト機、米國製版機等增設殆んど連日夕刊八頁朝刊十二頁を發行しつゝあり。

■七月七日活字を入替へ東京支局に通信部を新設す。

奉天新聞

奉天琴平町一三（電）三三五九、二二八五。創刊大正六年九月一日。個人經營。十萬圓。朝刊四頁。夕刊四頁。（社長）石田武亥。（副社長）佐々木孝三郎。（主幹）小笠原俊三。（編輯）笠井信二。（廣告）笠井信一。（事業）今久雄。（販賣）萩尾勝和。（東京支局）松本七五郎。（大阪支局）福井薫。（社員）二十五名。（工場員）三十名。（機械）マリノニ式輪轉一、平盤一。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。（活字）七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月一圓。（廣告料）一圓、場所指定三十錢增、特別面一圓五十錢。（兼營）奉天興信所。

奉天日日新聞

（滿洲日日の姉妹紙）奉天市住吉町七。（電）四一一九、二一〇四、三一三五。（社史）明治四十一年十二月四日奉天に於ける最初の日刊邦字紙として創刊、現在滿洲日日新聞の姉妹紙として存す。朝刊四頁。夕刊四頁。（版數）二。（部數）十年十月現在一萬七千部（社長）庵谷忱。（主筆）田原豐。（營局）山中豐吉。（社員）七十二名。（工場員）百三十五名。（機械）高速輪轉一、普通輪轉一。活字鑄造機、ステロ、寫眞版あり。（活字）七・一五、十五字、百五行、十三段。一箇月一圓。（廣告料）三十錢、場所指定一圓、特別面

一圓五十錢。

盛京時報（漢字）奉天隅田町九。（電）三二八二、滿電二〇二二、四一六八。株武。三十五萬圓。創刊明治三十九年十月一日。朝刊十二頁。（版數）二。（社長）染谷保藏。（主筆）菊池貞二。（編局）大石智郎。（社會）酒家重好。（總務）東光明。（廣告）虫明猛。（販賣）東海林伴治。（東京支社）松本七五郎。（大阪支社）瀬戸保太郎。（社員）三十八名。（工場員）百四十名。機械マリノニ式輪轉機二、平盤五。活字鑄造機、ステロ、寫眞版あり。（活字）九ポ、十三字、百十八行、十二段。一箇月滿洲國幣一圓三十錢。（廣告料）一圓、場所指定割增、特別面二圓。

奉天公報（漢字）奉天商埠地十一緯路。（電）四四八六、四七〇三。創刊昭和六年九月。合資。十萬圓。朝刊八頁。（版數）三。（部數）八年十月十一日現在七千九百五十部。（社長）若月太郎。（副社長）內海安吉。（專務）同。（支配人）山本志一。（主筆）淺倫太郎。（編局）垣崎茂一。（營局）森田茂一。（東京支局）高塚宗四郎。（大阪支局）同。（機械）津田式輪轉一、平盤三。（活字）十二字、百八行、十二段。一箇月九十錢。（廣告料）一圓。（兼營）出版部、撮影部の設備あり。

民聲晚報（漢字）（滿洲報の姉妹紙）奉天市大西關大街路南二號。（電）（日）四二一六、（滿）二六一一、五一四七、四二二四。個人經營。十萬圓。（社史）大正十五年五月丁袖東氏が張學良の旨を受けて創刊せしものにて初め東北日報と題し滿洲事變後は東亞日報と改稱發刊し來りしが昭和九年十二月滿洲報社長西片朝三氏の買收する所となり民聲晚報と改め專ら夕刊新聞として今日に至る。夕刊四頁（日曜日六頁）。（版數）二。（部數）昭和十年十月一日現在二萬五千部。（社主）西片朝三。（社長）同。（主幹）野口則清。（編輯）韓岡瑞。（經理）馬星垣。（東京支局）清瀨邦弘。（大阪支局）野島銀藏。（社員）百〇五名。（工場員）四十名。（機械）マリノニ式一。活字鑄造機、ステロ、寫眞版あり。（活字）舊、十一字、百十行、十二段。一箇月國幣六十錢。（廣告料）國幣一圓。

奉天日報（漢字）奉天商埠地十一緯路一八三。（電）六九五八。個人經營。三萬圓。（社史）昭和七年一月十四日滿文日刊奉天日報發行の許可を得、同年四月一日第一號發刊、今日に至る。朝刊四頁。（版數）一。（部數）十年十月十四日現在五千五百部。（社主）菊池秋四郎。（社長）同。（副社長）佐奈木十郎。（專務）耿世賢。（常務）北川昇。（主幹）松岡勝彥。（主筆）社長兼任。（編局）王國光。（部長）富夢魂、王棠樹。（營局）北川昇、耿士先、郭耀先。（東京支局）後藤又男。（社員）二十名。（工場員）三十名。（機械）十六頁平盤二、八頁一。（活字）舊、十三字、七十五行、十二段。一箇月市內七十錢、市外八十錢。（廣告料）一圓、場所指定二割增特別面二圓。

大新京日報　新京東三馬路。（電）三〇〇一より三〇一二まで。個人經營。八十萬圓。（社史）明治四十三年北滿日報として創刊、長春が國都となつて新京日報と改題、現社長中尾龍夫氏買收擴大整備後、昭和十年二月一日大新京日報と改題して現在に至る。朝刊八頁。夕刊四頁。（版數）三。（附錄）少年少女新聞。（地方）南滿版、北滿版、京圖版、東滿版。（部數）昭和十年十月一日現在二萬五千部。（社主）中尾龍夫。（社長）同。（支配人）稻葉馨。（主筆）中尾龍夫。（編局）片山民部。（政治）門馬驍。（經濟）市川仁平。（社會）川上親輝。（地方）清河政雄。（學藝主任）竹田讓。（ラヂオ主任）小西。（婦人家庭主任）兒玉。（營局）稻葉馨。（廣告）馬木達雄。（販賣）齋藤虎雄。（事業）安居寬二郎。（經理）保坂俊夫。（庶務）清水儀一郎。（東京支局）鹽田信太郎。（大阪支局）名劍淺次。（社員）二百五十名。（工場員）八十三名。（機械）マリノニ三、四六全版二、平版三、四六四分の一三。活字鑄造機、ステロ、寫眞版完備、凸版、電氣版整備。（活字）七ポ、十五字、十三段。一箇月一圓。（廣告料）一圓三十錢、場所指定料三十

錢、特別面二圓六十錢。（兼營）活版印刷所『國都印刷社』、印刷社の工場員は全然新聞社と關係なく目下全員五十八名とす。（特別社員用自動車二臺、新聞運搬用二。

■十年三月率先して締切時間を前夜六時より九時に延長す。

■同五月十九日新京日報前社長箱田琢磨君逝く享年七十。

新京日日新聞（長春實業新聞の改題）新京永樂町四丁目一。（電）三三〇〇、三二二五。創刊大正九年十二月十五日。個人經營。五萬圓。朝刊八頁。夕刊四頁。（附錄）新京取引日報發刊。（代表者）染谷保藏。（總務）十河榮忠。（編局）松本勇。（營局）下村豐吉。（經理）水越內之介。（工務）澁谷松次郎。（機械）マリノニ式輪轉一、平盤三。活字鑄造機、寫眞版、ステロあり。（活字）八ポ、十三字、百二十五行、十三段。一箇月一圓。（廣告料）一圓三十錢、特別二圓五十錢。

滿洲商工日報　新京西七馬路九（朝日通）。（電）四七六八、三一四八。個人經營。一萬五千圓。（社史）昭和五年八月五日相場日報として發行七年四月支那人經營の商況日報を買收し日滿合辦とし八年三月一般時事掲載の許可を得、同九月現名に改題す。朝刊四頁。（附錄）錢鈔報行（商況報）。（部數）九年七月末日現在七百五十部。（社主）古谷一。（社長）同。（主幹）古谷美明。（編局）重福喜久男。（營局）斧澤秀志雄。（東京支局）赤澤晃。（大阪支局）原義一。（社員）支局員十八名。（工場員）二十一名。（機械）十六頁平盤一、校正刷一。ステロ設備中。（活字）七半、十四字、百二十行、十三段。一箇月七十錢。（廣告料）普通五十錢、場所指定倍額。

大同報　新京東六馬路。（電）二〇九六、四七二四、四七二五。個人經營。二十萬圓。滿洲國政府機關紙。（社史）本報は前に大東報と題したるも滿洲事變後大同報と改題せり、次で日滿各機關代表者を以て組織せらるゝ弘報會議の決議に因り滿洲國より補助を支給し此れを滿洲國の機關紙とする事となり關東軍囑託都甲文雄氏經營の任に當り、組織を改め紙面を刷新し大同二年三月一日新たなる發行許可證に依り發刊さる。朝刊十二頁。（版數）二。（附錄）王道週刊、兒童週刊、尙ほ主要紀念日にはグラビヤ刷附錄を刊行す。（地方版）隨時に大連版、奉天版、哈爾濱版。（部數）十年十月一日現在四萬五千部。（社主）都甲文雄。（社長）王光烈。（副社長）都甲文雄。（編局）山口源二。（整理）富彭年。（營局）横山八郎。（同次長）內海俊輔。（東京支局）鹽田信太郎。（大阪支局）金井勝三郎。（社員）八十八名。（工場員）百二十三名。（機械）マリノニ式輪轉機一、平盤印刷機二。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。（活字）九ポ、十三字、百二十五行、十三段。一箇月一之一角。（廣告料）一之、場所指定五割增、特別面倍額。（兼營）協和報、市公報、大同學院報、滿洲國體育雅言、及雜誌「大同文化」等の印刷、本社懸賞募集に依る國民文庫の印刷。（特設）アパート經營、食堂、撞球場を有す。

■最近一年間に接力大會、學生運動競技大會、煖房展、巡回映畫、紙上習字展覽會等を主催。

■同九月日本の滿洲國承認三周年紀念として讀者優待紀念品贈呈等四大事業を發表す。

哈爾賓日日新聞　哈爾賓埠頭區一面街五八。創刊大正十一年一月。株式。二十萬圓。朝刊六頁。夕刊四頁。（社長）大澤準。（主幹）大森清騰。（編輯）南部春雄。（營業）中島市治。（廣告）中野朝正。（機械）輪轉機一、平盤五。（活字）七半、十五字、十三段。一箇月一圓。（廣告料）一圓。

哈爾賓新聞　哈爾賓埠頭區石頭道街二四。創刊昭和七年三月個人經營。朝刊四頁。夕刊四頁（社長）大河原厚仁。（營業）金子豐久。（機械）平盤二。ステロあり。（活字）七半、十二段。一箇月一圓。（廣告料）一圓。

大北新報　哈爾濱新八站承德街十二號。（電）五二七一、三三〇三、六八三〇。個人經營。十五萬圓。（社史）創刊大正十一年十月一日盛京時報北滿版の名稱を廢し昭和八年六月一日より山本

社長個人の經營となる、同時に四頁より八頁に增頁す、十年九月一日より附錄月曜畫刊を廢止し大北畫報社を創立兼營す。朝刊八頁。(部數)十年十月一日現在八千四百部。(社主)山本久治。(社長)同。(副社長)堀江義一。(主筆)侯小飛。(編局)島本翠齋。(社會)郭趾祥。(文藝)譚鐵鋒。(營局)黑田一男。(廣告)吉村夏樹。(東京支局)瀨戸保太郎。(大阪支局)松本七五郎。(社員)六十九名。(工場員)四十五名。(機械)十六頁平盤二。(活字)九ポ、十三字、百二十行、十二段。一箇月滿洲國幣六十錢。(廣告料)五錢、場所指定十錢、特別面十五錢。(兼營)週刊畫刊「大北畫報社」。

ハルビンスコエ、ウレーミヤ (露字) 哈爾賓埠頭區地段街。個人經營。創刊昭和六年十一月三日。朝刊八—十二頁。夕刊四—八頁。(版數)一。(部數)九年九月八日現在一萬五千部。(社長)大澤準。(支配人)吉平朝德。(主筆)田中總一郎(編輯)ベ・ペ・シーロフ。(販賣)高橋輝正。(廣告)吉平朝德。(經理)熊谷祐治。(社員)七十名。(工場員)八十名(全部白系露人)。(機械)輪轉機二、平盤印刷機廿四頁五。リノタイプ三、ステロ一。一箇月滿洲國幣二元。

北滿洲日報 齊々哈爾。(社史)昭和七年四月十五日龍江日報、同九月齊々哈爾日報發刊され九年一月一日兩紙合併して現名に改題す。夕刊四頁。(社長)小笠原俊三。

■十年五月より海拉爾版二頁。同十一月より北黑版を增刊すると同時ハイラル版は呼倫版と改題して八頁に擴張の豫定。

安東新報 安東縣大和橋通。(電)一四六、五四四。個人經營。五萬圓。(社史)明治三十九年十月十七日創刊、同四十五年には安東每夕新聞を越えて大正十四年には滿鮮時報を併合して既に三十年の星霜を閱し滿洲に於ける邦字新聞の鼻祖たり。朝刊四頁。(社主)川俣篤。(社長)同。(主筆)戸田弘毅。(編輯)同。(營業)梶島七郎。(社員)二十三名。(工場員)十八名。(機械)平盤二。寫眞版あり。(活字)七ポ、十五字、百三十五行、十三段。一箇月九十錢。(廣告料)七十錢。(兼營)週刊畫刊「大北畫報社」。

ハルビンスコエ、ウレーミヤ (露字) 哈爾賓埠頭區地段街。個人經營。創刊昭和六年十一月三日。朝刊八—十二頁。夕刊四—八頁。(版數)一。(部數)九年九月八日現在一萬五千部。(社長)大澤準。(支配人)吉平朝德。(主筆)田中總一郎(編輯)ベ・ペ・シーロフ。(販賣)高橋輝正。(廣告)吉平朝德。(經理)熊谷祐治。(社員)七十名。(工場員)八十名(全部白系露人)。(機械)輪轉機二、平盤印刷機廿四頁五。リノタイプ三、ステロ一。一箇月滿洲國幣二元。

北滿洲日報 齊々哈爾。(社史)昭和七年四月十五日龍江日報、同九月齊々哈爾日報發刊され九年一月一日兩紙合併して現名に改題す。夕刊四頁。(社長)小笠原俊三。

■十年五月より海拉爾版二頁。同十一月より北黑版を增刊すると同時ハイラル版は呼倫版と改題して八頁に擴張の豫定。

安東新報 安東縣大和橋通。(電)一四六、五四四。個人經營。五萬圓。(社史)明治三十九年十月十七日創刊、同四十五年には安東每夕新聞を越えて大正十四年には滿鮮時報を併合して既に三十年の星霜を閱し滿洲に於ける邦字新聞の鼻祖たり。朝刊四頁。(社主)川俣篤。(社長)同。(主筆)戸田弘毅。(編輯)同。(營業)梶島七郎。(社員)二十三名。(工場員)十八名。(機械)平盤二。寫眞版あり。(活字)七ポ、十五字、百三十五行、十三段。一箇月九十錢。(廣告料)七十錢、特別面一圓四十錢。

國境每日新聞 (安東時事新報の改題)安東縣大和橋通一ノ二。(電)七三〇、九〇一。創刊昭和三年一月一日。個人經營。朝刊四頁。夕刊四頁。(社長)多田榮吉。(編局)大槇義次。(營局)青木雄三郎。(經理)後藤茂。(東京支局)松本七五郎。(大阪支局)竹田津吾一。(社員)本社勤務社員十二名。(工場員)十六名。(機械)輪轉機一、平盤二。ステロ、寫眞版、活字鑄造機あり。(活字)七ポ、十五字、百五十五行。十三段。一箇月九十錢。(廣告料)七十錢。

東邊日報 (漢字)安東縣。(電)本局一七三、九六三、分局八三七、四二七。個人經營。(社史)創刊民國十八年安東商務總會機關紙として發刊されたるものにして滿洲事變と同時に現社長向後新太郎の個人經營に移れり、創刊當時東邊商工日報と稱したるも昭和八年七月一日東邊日報と改題。夕刊六頁。(部數)十年十月十日現在四千五百部。(社長)向後新太郎。(編輯)馬東光。(政治)島田克巳(社會)張君夫。(經濟)列宗垣。(文藝)王大魯。(營業局)常子宣。(總務)前田繁雄。(廣告)吳經元。(會計主任)鄭碩鱗。(販賣)刻華亭。(東京支局)金井勝三郎。(大阪支局)松本七五郎。(社員)二十名。(工場員)二十八名。(機械)平板三。(活字)九ポ、十三字、百二十行、十二段。一箇月一圓。(廣告料)一圓(規定料金)、場所指定倍額。

■目下マリノニ式輪轉機發註中

撫順新報 撫順永安大街四七。(電)二二五二、二二二六。個人經營。創刊大正十年四月三日。夕刊六頁。(社主)窪田利平。(社長)同。(理事)福田仲三。(主幹)月野一舞。(營業主任)東郷喜市(廣告主任)嘉村謙一。(東京支局)佐野博章。(大阪支局)鵜飼卯一郎(社員)十二名。(工場員)四十三名。(機械)半截輪轉機一。活字鑄造機、ステロ完備。(活字)七ポ、十五字、百卅行、十三段。一箇月一圓。(兼營)撫順民報。

撫順民報 (漢字)(撫順新報の姉妹紙)撫順永安大街四七。創刊昭和七年二月十一日。(社主)窪田利平。(社長)同。(理事)福田仲三。(編輯)揚雲樓。(營業主任)東郷喜市。(社員)四名。(機械)撫順新報と同じ。(活字)舊、六十行、八段。一箇月七十錢。

滿洲新報 營口新市街南本街。(電)七五、一六九。個人經營。一萬五千圓。創刊明治四十年十二月八日。朝刊四頁。(版數)一。(社主)小川義和。(社長)同。(記者)電明久一。(營業係)富田正男。(大阪支局)松下兵馬。(社員)四名。(工場員)十四名。(機械)平盤二、ステロあり(活字)八ポ、十五字、百四十五行、十三段。一箇月一圓。(廣告料)七十錢、場所指定一圓四十錢、特別面一圓。

松江新聞 吉林省城商埠地。創刊大正十二年九月。朝刊四頁。(社長)三橋政明。(機械)平盤一。(活字)舊、十一字、九十七行、十二段。一箇月八十錢。(廣告料)五十錢。(兼營)東省日報。

東省日報 (漢字)(松江新聞の姉妹紙)吉林省城商埠地。創刊大正十一年九月二十日。日刊六頁。(社長)三橋政明。(編輯)劉雲峰。(機械)松江新聞と同じ。

開原實業時報 開原大街二九創刊大正十一年。朝刊四頁。個人經營。一萬圓。(社長)篠田仙十郎。(主筆)同。(營業)佐藤豐平。平盤二(活字)七・七五、十二段。一箇月一圓。(廣告料)七十錢。

開原新報 開原孫家台。(電)三五五。創刊大正八年二月十一日。個人經營。一萬圓。朝刊小型四頁。(版數)一。(部數)八年九月三十日現在三千部。(社主)鶴高壽雄。(社長)同。(編輯)八木茂。(營業)中川俺雄。(機械)平盤大小二。(活字)五號、十二字、五十行、九段。一箇月七十錢。(廣告料)二十五錢、場所指定三十五錢、特別面十三錢。

鐵嶺時報 鐵嶺敷島町三丁目。創刊明治四十四年八月。個人經營。夕刊四頁。(社長)西尾信。(主筆)本多正。(營業)阿部萬吉。(機械)平盤二。(活字)舊、十段。一箇月。七十五錢。(廣告料)三十錢。

安奉每日新聞 本溪湖石山町七七。(電)一一一。個人經營。五千五百圓。創刊大正十五年八月二十五日。朝刊小型四頁。(版數)二。(部數)昭和九年九月一日現在二千部。(社主)伊藤唯熊。(社長)同。(主筆)大浦孤舟。(編輯)大黑谷百三。(營業)石田連治。(社員)四名。(工場員)十五名。(機械)八頁印刷機三。(活字)十五字、四十五行、八段。一箇月五十錢。(廣告料)五十錢、場所指定倍額。(兼營)印刷物。

遼鞍每日新聞 遼陽西關。(電)一四四。個人經營。二萬圓。(社史)明治四十一年三月十日創刊、初め遼陽新報と稱し昭和七年鞍山製鐵所開設の際現名に改題す、奉天總領事館、遼陽地方事務所(滿鐵)、鞍山地方事務所(同)、公布式新聞。夕刊小型八頁。(部數)十年九月三十日現在千五百部。(社長)渡邊德重。(副社長)渡邊源次郎。(主筆)社長(兼)。(營業)浦川伊太郎。(機械)平盤二。(活字)舊、十三字、六十行。七段。一箇月五十錢。(廣告料)五十錢、特別面一圓。(兼營)漢字新聞遼海公報は本紙の姉妹紙として社長も同一人なり。

遼海公報 (漢字)(遼鞍每日の姉妹紙)遼陽城內圖書館街。(電)滿一七九。個人經營。二萬圓。(社史)大同二年十月一日遼陽縣公署の宣傳機關紙として創刊、其後海城遼中兩縣公署の準機關紙として活用せらる、始め遼陽公報といひ後現名に改題。朝刊四頁。(部數)十年九月三十日現在四千五百部。(社長)渡邊德重。(主筆)張曉漢。(編輯)周知吾。(營業)賈明源。(社員)十名。(工場員)三十名。(機械)半截輪轉機一。(活字)舊、十三字、六十行、七段。一箇月五十錢。(廣告料)五十錢特別面一圓。

鞍山日日新聞 鞍山北二條町二。(電)四一六。株式。二萬圓。創刊昭和七年七月一日。夕刊六頁。(版數)一。(部數)昭和十年九月末日現在二千部。(社長)野尻彌一。(編輯)野村數幸。(營業)內野長作。(東京大阪支局)金井勝三郎。(社員)十六名。(工場員)三十一名。(機械)三十六頁

一、十六頁三。カツシング一、ステロ一。(活字)十ポ、十五字、九十八行、十三段。一箇月一圓。(廣告料)五十錢、場所指定一圓。

四洮新聞 四平街仁壽街一丁目創刊大正九年八月十八日。個人經營。二萬五千圓。朝刊小型四頁。(社長)櫻井敎輔。(編輯)石本力藏。(機械)平盤三。(活字)舊、八段。一箇月五十錢。

大同日報 (漢字)洮南大同日報社發行。龍江省洮南縣城內。(電)交通三七、地方五四。三萬圓。(社史)大同元年十二月二十日發行、本報係芹澤喜甫創辦於大同二年二月間前開辦人病故橫峰勇吉繼續辦理之。(版數)八。(部數)十年現在三千部。(社主)橫峰勇吉。(社長)同。(主筆)同。(編輯)王恒智。(營業)翟功甫(外交)蔡鳳五。(社員)四十名。(工場員)二十名。(機械)大八頁機三。十一字、四十三行、八段。一箇月八十錢。(廣告料)國幣一元、特別面二元。(兼營)週間大同每於星期一日發行每月購讀料五十錢。

間島新報 間島龍井市商埠地。創刊大正十年七月。合資。三萬五千圓。夕刊四頁。(社長)仮塚政之。(主筆)小寺重保。(營業)西岡繁二。(機械)平盤三。(活字)九ポ、十二字、八十行、十二段。一箇月一圓。(廣告料)一圓。

間島日報 (諺字)間島省龍井市(電)一〇三。個人經營。三萬圓。創刊大正十三年十二月二十日。夕刊四頁。(部數)昭和十年十一月一日現在三千部。(社長)鮮于日。(主幹)史廷鈺。(主筆)金亨復。(政治)李敎範。(販賣)金瓌濟。(廣告)金明翼。(社員)十五名。(工場員)十二名。一箇月八十錢。

北安日報 龍江省北安鎭。(電)七・二・三。五萬圓。(社史)昭和九年六月一日はじめ二頁、十年一月より四頁となる。朝刊四頁。(部數)十年十月十一日現在二千五百部。(社長)露崎彌太郎。(副社長)東政雄。(常務)志磨澄彰。(主幹)同。(主筆)梅野晃男。(編輯)志賀久純。(營業)池田秀榮。(社員)十二名。(工場員)十八名。(機械)二。(活字)十五字、八十行、十三段。一箇月一圓。(廣告料)一圓三十錢、特別面二圓六十錢。

錦州新報 錦州省錦州。(電)代表二一一。個人經營。五萬圓。(社史)昭和七年一月三日皇軍入城、同二十二日より謄寫版刷發行、同年九月十八日美濃倍版活版刷に改む、九年六月二十四日普通新聞型とせり。夕刊四頁。(版數)一。(部數)十年十月一日現在千五百部。(社主)井下萬次郎。(社長)同。(主筆)同。(編輯)中川武夫。(社會)米田壽昭。(地方)大西一男。(營業)牧野三藏。(廣告)武市賴吉。(社員)九名。(工場員)滿人十八名。(機械)十六頁平盤一、外印刷用數臺。ステロあり。(活字)舊、六十八行、十一段。一箇月一圓。(廣告料)十錢、場所指定倍額。(兼營)印刷業。

熱河新報 (漢字)熱河省承德。(電)二二、二三一、四〇四、四六四。十二萬圓。(社史)大同二年三月創刊、政府機關紙として現在に至る。朝刊四頁。夕刊二頁。(部數)十年現在三千五百部(社主)阿部新平。(社長)尹怡恩。(副社長)阿部新平。(專務)高橋武夫。(常務)吉田稔。(支配人)小池幸一。(主幹)麻維民。(主筆)王恩士。(編局)施維民。(政經)小松清一。(社會)劉紹彝。(文藝)楊桂蔭。(營業)戎楚臣。(販賣)伊藤修一郎。(擴張)須合武四郎(事業)山崎定衛。(社員)三十名(工場員)八十名。(機械)輪轉機一、マシン三。手廻し鑄造機二。ステロ一。(活字)舊、十二字、六十五行、十一段。一箇月一圓。(廣告料)一圓、場所指定一圓五十錢、特別面二圓。(發行物)各種書籍、美術印刷物、官廳簿記。

山海關日報 山海關南門外順城街。(電)(滿)一二六、(支)一二六。個人經營。銀三萬元。創刊昭和九年五月一日。朝刊四頁。(部數)十年九月卅日現在千三百部。(社主)黑川重幸。(社長)同。(副社長)大川眞一。(編局)同。(社會)高木善一郎。(政治經濟)木村白。(營業)折敷瀨實。(社員)九名。(工場員)二十八名。(機械)平盤二。活字鑄造機、ステロ、寫眞版あり。(活字)九ポ、十二字、七十行、十三段。一箇月一圓。(廣告料)一圓三十錢、特別面二圓六十錢。

圓。(廣告料)十錢、場所指定二十錢、特別面三十錢。

山海關公報 (漢字)(山海關日報の姉妹紙)山海關南門外順城街。(電)(滿)一二六、(支)一二六。個人經營。銀一萬元。創刊昭和九年七月一日。朝刊四頁。(部數)十年九月卅日現在二千六百部。(社主)黑川重幸。(社長)同。(副社長)大川眞一。(編輯)范宗澤。(政治經濟)石英。(社會)王光輝。(營業)陳義夫。(社員)八名。(工場員)二十一名。(機械)平盤二。活字鑄造機、ステロ寫眞版あり。(活字)九ポ、十二字、七十行、十三段。一箇月銀一元。(廣告料)十錢、場所指定二十錢、特別面三十錢。

B、滿人經營

(露人經營の分も含む)

民報 (漢字)奉天市大南門裏文廟胡同。(電)日三四七二、滿三七八七、三六六九。個人經營。十萬元。(社史)民國十年十月十日發刊、事變當時約一ヶ月休刊昭和六年十月十日再發刊、元來張學良の機關紙なりしも事變後趙欣伯の經營に歸し從來の主張を一變す。朝刊八頁。(附錄)月二回附屬瀋陽畫報を發行す。(部數)昭和十年十月末日現在八千八百部。(社主)趙欣伯。(社長)魏長信。(副社長)耿西園。(支配人)高葆善。(主幹)王蔭旨浩。(編輯)同。(政治主任)李雅森。(交藝主任)王紫駿。(社會主任)王育之。(營部)耿西園。(廣告主任)楊迥塵。(庶務主任)列雲章。(販賣主任)王亞洲。(會計主任)趙昌麟。(社員)四十八名。(工場員)六十二名。(機械)平盤九。鑄造機四、ステロ二。(活字)舊、十一字、七十三行、十二段。一箇月一圓。(廣告料)百字一回國幣二圓半、場所指定四割增。

醒時報 (漢字)奉天市小南門外德源酒店胡同。創刊明治四十二年二月。個人經營。一萬圓。朝刊八頁。(社長)張兆麟。(編輯)張幼岐。(機械)平盤四。

■推定部數千四百部。

東三省公報 (漢字)奉天省小北門外。創刊大正二年二月。個人經營。一萬元。朝刊八頁。(社長)王希哲。(主筆)王石隱。平盤二。

■推定部數三千五百部。

瀋陽卍字新聞 (漢字)奉天小南關紅卐字會街。(電)滿四四八一、日二六九四。創刊公曆一九三〇年一月一日。五萬元。朝刊四頁。(地方版)國際新聞、滿洲新聞、卐會慈業新聞。(社主)紅卐字會。(社長)王奉豐。(主筆)萬奉桓。(社員)七名。(工場員)二十七名。(機械)日製十六頁機一、華製十六頁機二。鉛版設備、鑄字鑑三。(活字)十二字、十二段。一箇月六角。(廣告料)場所指定面洽、特別面面洽。

滿蒙日報 (漢字)新京北大街五五號。(電)四六五八、四六五九、四六六〇。財團法人。三十萬圓。創刊昭和八年八月二十五日。夕刊四頁。(版數)一。(部數)九年九月五日現在三萬八千部。(社長)李庚在。(編局)金東晚。(論說)同。(學藝)崔活。(政治)曹正煥。(調査)沈亨澤。(地方)金在景。(整理)曹昌泰。(營局)李性在。(庶務)方泰燮。(廣告)張英淳。(經理)劉稷熙。(販賣)金命昌。(東京支局)松本七五郎(大阪支局)福井薰。(社員)三十八名。(工場員)二十六名。(機械)津田式輪轉機一。活字鑄造機、自働式。(活字)九ポ、十四字、九十五行、十二段。一箇月八十錢(廣告料)普通八十錢、場所指定三十錢增。

哈爾賓公報 (漢字)哈爾賓電車街水道街拐角。(電)二八四五、三一七〇。個人經營。資本金國幣二十萬元。創刊民國十五年十二月十日。朝刊兩張半。(地方版)外埠版、本埠版、文藝版、官署布告版、廣告版電影週刊(星期六)(部數)九年現在四千三百部。(社主)關鴻翼。(社長)同。(支配人)張志英。(主筆)吳如瑗。(編局)黎孤鳥。(各部長)楊篠舟、李德沂、張德濟、興安如。(營局)侯瑞目。(營部)賈廣昂。(各部長)關子誠、吳希聖。(大阪支局)金井勝三郎。(社員)九十七名。(工場員)六十八名。(機械)三架、活字鑄造機、ステロ、寫眞版二架。(活字)六種。一箇月滿文版國幣一元三角、倭文版國幣二元。(廣告料)五號字每六十字每日國幣一元、每版面積四分之一每月

六十元。(發行物)現正編輯滿洲國開人錄本年年末發行。

濱江午報 (漢字) 哈爾濱道外十七道街八十四號。(電)二七三三。獨資經營。國幣八千圓。創刊中華民國十年六月一日。朝刊二頁。(版數)四。(部數)九年現在二千五百部。(社主)趙郁鄉。(社長)同。(專務)劉潤生。(常務)王式堂。(支配人)趙郁鄉。(主筆)嚴一朋。(編輯)同。(營業)王子信。(社員)七名。(工場員)十四名。(機械)八頁鉛印活版印刷機二、石印印刷機三。(活字)十三字、百行、十四段。一箇月國幣六十四錢。(廣告料)每公寸國幣一角、場所指定每公寸國幣二角、特別面每公寸國幣二角五分。

國際商報 (漢字) 哈爾濱埠頭區。創刊大正八年七月一日。日刊八頁。(社長)張復至。(編輯)王星眠。

■張景惠の機關紙。推定部數一萬。

哈爾濱商報 (漢字) 商報晩刊社發行。哈爾濱道外正陽十五道街二十六號。(電)二七七九。創刊前民國十年十二月一日。獨資。五萬元。夕刊四頁。(部數)八千。(社長)王宿辰。(專務)劉治順。(常務)張再逢。(主幹)支星芒。(編局)馮承榮。(編部)于阪。(營局)姜鏡海。(營部)宿萃元。(活字)十三字、五十三行、五十六段。(廣告料)高十四方吋闊十方吋月一百八十二元、特別面一百字趁碼日二元。

濱江時報 (漢字) 哈爾濱道外南大街路南。創刊大正九年四月。個人經營。八頁。(社長)范聘鄉。(編輯)田和。

■推定部數二千部。

國民公報 (漢字)鋼哈爾濱。創刊昭和六年。(社長)萬雲鴻。(編輯)萬贊化。

哈爾濱新報 (漢字) 哈爾濱。創刊昭和六年。(社長)金斗山。(編輯)于成遠。

■推定部數五百。

新々日報 (漢字) 哈爾濱。創刊昭和六年。(社長)劉寶源。(編輯)王味根。

■推定部數二百。

東三省商報 (漢字) 哈爾濱傳家甸一五道街。創刊民國十二年日刊。(社長)葉元宰。(編輯)黃天行。

■推定部數一萬。

ザリヤ (露字) 哈爾濱市埠頭區外國九道街七。(電)代表四八〇五。五萬元。白系露人系統。一九二〇年四月十五日創刊。朝刊八頁。(部數)十年三月末日現在二千部。(社主)オ、ベ、レムビッチ。(社長)エ、エス、カウフマン。(副社長)ゲ、エン、シーブコーフ。(支配人)ヤ、ヴエ、リヤブコーフ。(主筆)エン、ベ、コーブツエーフ。(營業)ヤ、ヴエ、リヤブコーフ。(社員)三十五名。(工場員)百二十名。(機械)リノチヤツプ二、自働タイプライター六。(活字)三十字、百四十行。七段。一箇月國幣二元。(廣告料)特定せず。(兼營)ルーベージ(週間雜誌)

ルポール (露字) 哈爾濱埠頭區高麗街四八號。創刊一九二一年。四頁。(社長)イ・エス・カウフマン。

■推定部數四千部。

ルースコエ・スローヴオ (露字)哈爾濱埠頭區。創刊一九二〇年。四頁。(社主)故レンビツチ未亡人、イー・エス・カウフマン、ゲー・エス・シブコフの共有。(編輯)スウオーリン。

■推定部數一千部。

グンバオ (露字) 哈爾濱新市街。創刊昭和三年十二月。六頁乃至十頁。(社長)關鴻翼。(編輯)ゴロワチヨフ。

ノーウオスチ・オストーカ (露字)哈爾濱。創刊昭和七年。日刊六頁乃至八頁。(社長)エル・イエ・ユルバクチー。

吉林日報 (漢字) 吉林省城二道碼頭九號。(電)二九四三。五千圓。創刊民國二十年十二月十日。朝刊二頁。(地方版)吉林省城內、吉林省屬各縣。(部數)十年十月十一日現在五千部。(社主)林社。(副社長)瀨治三郎。(主筆)張舟三。(編局)同。(部長)范繼禎、富善祥、吳殿英、馬汝光。(營局)邱振瑞。(部長)蘇營堂、魏志光。(大阪支局)金井勝三郎。(社員)十一名。(活字)十三字、八十四行、十段。一箇月國內一元一角陸、國外一元四角陸。(廣告料)十三錢、特別面二十錢。

黑龍江民報 (漢字) 齊々哈爾

豐恒胡同二號地。(電)二三一〇、二五一五、二〇〇〇。(社史)民國十七年十二月二十五日創刊、舊政府の機關紙たりしが事變後は黑龍江省公署の機關紙として政府の指揮により宣傳にあたり居れり。朝刊八頁。(部數)十年十月十日現在二千七百六十部。(社長)王甄海。(總務)倉內勇。(編局)社長兼任。(社會)刘松山。(文藝)金益山。(經濟)刘大川。(營局)閻紹九。(廣告)張效孔。(大阪支局)金井勝三郎。(社員)二十八名。(工場員)二十四名。(機械)十六頁一、八頁一。活字鑄造機一、ステロ一。(活字)十五字。一箇月市內一圓、市外一圓二十錢。(兼營)印刷部、鉛印石印の設備あり、從事員十二名。

安東市報 (漢字) 安東。創刊昭和四年八月。小型四頁。(社主)安東縣公署。(社長)王大魯。

■推定部數千二百部。

營商日報 (漢字)營口市西大街(電)六五七。獨資。一萬圓營。創刊光緒三十三年十月初一日。日刊捌頁。(部數)十年九月末日現在二千五百部。(社主)營口總商會。(社長)郭掄三。(主筆)陳錫箴。(政治)同。(社會)李克政。(文藝)韓烈陽。(營業)葛聘三。(會計)劉兆春。(廣告)王拱宸。(大阪支局)原義一。(社員)本社職員十捌名。(工場員)三十五名(機械)十六頁電力平面機二。(活字)四號、十二字、六十二行、捌段。一箇月一圓。(廣告料)三十錢、特別面金陸十錢。

東北大報 (漢字) 營口。創刊昭和七年。(社長)劉子久。

■推定部數五百。

延邊晨報 (漢字) 間島省延吉(電)一〇。省機關紙。(社史)昭和六年八月二十日、前民聲報の後繼。夕刊六頁。(附錄)文藝。(部數)昭和十年十月十四日現在一萬五千部。(社主)周東華。(社長)同。(編局)李績勳。(政經)同。(社文)陳天祿。(地方)吳青森。(校正)王維漢。(營局)金熙一、(庶務)王煥明。(廣告)金熙一(外交及發送)鄭斗煥。(印刷)魏德義。(社員)二十八名。(工場員)二十二名。(機械)中國製六。一箇月一圓。(廣告料)百圓、場所指定二百圓。

■新社屋建築、輪轉機購入の計畫を有す。

黑河民報 (漢字) 黑龍江省大黑河大興街二十四號。(電)一一四。(社史)大同元年七月二十五日創刊爲促進日滿協和及王道政治故由宮崎特務機關長主張開辦(部數)昭和九年九月二十二日現在三百五十部。(社長)爾錫侯。(支配人)白榮恩。(主幹)郭慶麟。(社員)十五名。(工場員)六名。(機械)八頁一。活字鑄造機あり(活字)宋字、十字、二十八行、七段。一箇月八十錢。(廣告料)百字(四號)一元、場所指定二元、特別面普通面の倍。

海拉爾協和報 (漢字)海拉爾。

(五) 海外

中華民國、南洋、南北亞米利加等各地に發行される日刊邦字新聞及び邦人經營の日刊新聞の主なるものを次に紹介する。外務省調査による昭和九年十一月一日現在海外內地人の總數(關東省、南洋委任統治區域を除く)は八十七萬二千八百十四人、その中滿洲國在住者二十四萬三千六百六十八人を除いた六十二萬九千百五十六人が全世界にばらまかれてゐる譯で、在外邦字新聞はこれらの人々を目標としたものである。而して以上の人口を國別にしてみると次の如くとなる。

ブラジル	一七三、五〇〇
ハワイ	一五〇、八三二
合衆國本土	一四六、七〇八
中華民國	五六、〇四九
ペルー	二一、一二七
カナダ	二一、〇六二
比島	二〇、五五八
メキシコ	五、三六〇
極東ソ領	二、四九二
英本土	一、四二三
錫蘭	一、四一六
佛本土	五一三
獨逸	五三〇

中華民國

上海每日新聞 上海湯思路一號。(電)四二三九四。株式。銀七萬弗。(社史)大正七年九月上海經濟日報と題して創刊、大正

十三年現社長深町作次氏の個人經營より資本金五萬弗の株式組織に變更し同時に上海毎日新聞と改題、大正十四年上海中心地帶に五層樓の現社屋を建設昭和五年資本金二萬弗の增資をなし現在に至る。朝刊八頁。夕刊四頁。(版數)二。(部數)十年十月一日現在七千部。(社長)深町作次。(總務)駒井朝一。(編局)社長兼務。(整理)深川經二。(政治)梶原勝三郎。(社會)柳生癸三郎(外交)加藤宣雄。(經濟)水城乙四郎。(運動)高橋嚴時。(文藝)大塚邦義。(校正)吉田直義。(營局)山田四郎。(廣告)上田嚴。(外交)新見富次。(經理)芦刈源作。(販賣)局長兼務。(東京支局)佐野博章。(大阪支局)矢野林。(社員)四十五名。(工場員)九十三名。(機械)佛國製マリノニ式輪轉機一、津田式輪轉機一。平版三。萬能高速度活字鑄造機一、普通鑄造機三、ステロ設備完備、寫眞製版完備、吉松式腐蝕機一。(活字)七ポ、十五字、百五十六行、十三段。一箇月銀一弗五十仙。(廣告料)七十五仙、場所指定一弗五十仙、特別面一弗五十仙。(兼營)月刊漢文雜誌「大平洋」發行、活版印刷業、廣告、商品代理業。

上海日報 上海北四川路白保羅路三號。(電)四六五〇八、四六五〇九。個人經營。十五萬弗。(社史)明治二十六年創刊、上海新報(週刊)を三十七年上海日報と改題、昭和四年十一月前社長井手三郎氏より現波多社長讓り受け新活字の整備、機械增設等をなす。朝刊八頁。夕刊四頁。(附錄)サンデー日報(週刊)。(部數)九年八月十日現在四千五百二十部。(社主)波多博。(副社長)波多收(編局)後藤和夫。(營局)眞鍋實。(東京支局)松本七五郎(大阪支局)金井勝三郎。(社員)百二十名。(工場員)三十二名。(機械)マリノニー式輪轉機一、平盤四、高速自働鑄造機一。活字鑄造機一、寫眞製版機一、凸版製版機一、コッピー機一、鉛版鑄込機二、鉛版仕上機一、ステロ一。(活字)七ポ、十五字、百五十五行、十三段。一箇月一弗五十仙。(廣告料)八十錢、場所指定三割乃至五割增、特別面一圓五十錢。(發行物)中國年鑑(每年一回發行)。

■九年十一月「中國年鑑」一九三五年版を發行す。

上海日日新聞 上海乍浦路四五五。(電)四一八六七、四一二九二。創刊大正三年十月十日。個人經營。十萬弗。朝刊八頁。夕刊四頁。(社主)宮地貫道。(社長)同。(社長代理)石川源治。(主幹)同。(政治)兒島博。(經濟)伊藤長吉。(社會)原勳。(營局)石川源治。(廣告)瀧美雄。(販賣)長崎敏郎。(東京支局)鹽田信太郎。(大阪支局)深田龜太郎。(社員)二十五名。(工場員)四十五名。(機械)輪轉機金津式一、平盤三。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七ポ、十五字、百五十行、十三段。一箇月一弗五十仙。(廣告料)七十仙、場所指定一弗二十仙、特別面一弗二十仙。

江南正報 (漢文)上海靶子路四四。(電)四五一四八。個人經營。十萬圓。(社史)昭和二年夕刊「江南晩報」として創刊、七年四月十日朝刊改題す、後一時休刊、九月一日再刊。朝刊八頁。(社長)山田純三郎。(主筆)松本於蒐男。(總編輯)李英侯。(總務)賀來敏夫。(機械)マリノニ式輪轉一、平盤二。活字鑄造機、ステロあり。(活字)九ポ、十三字、九十行、十二段。一箇月一弗。(廣告料)五十仙、特別面一頁百弗。

京津日日新聞 天津日本租界旭街。個人經營。創刊大正七年十月三十一日。朝刊四頁。夕刊四頁。(地方版)『北京新聞』を發行、『京津日日新聞北京版』と並稱す。(社長)森川照太。(主幹)永瀨三吾。(營局)黑川重幸。(社員)日本人十二名。(工場員)華人四十名。(機械)平盤二。(活字)九ポ、十三字、百行、十二段。一箇月一弗五十仙。(內地一圓三十錢)。

天津日報 天津日本租界福島街。創刊明治四十三年一月。個人經營。朝刊四頁。夕刊四頁。(社長)眞藤棄生。(副社長)金田一良三。(機械)平盤二。(活字)九ポ、十二段。一箇月一弗三十仙。(廣告料)五十仙。

中美晩報 (漢字) 天津日本租

界須磨街二五。(電)二三四八二、二三一五六。創刊昭和八年四月夕刊小型四頁。(部數)昭和十年九月卅日現在九千部。(社長)三谷亨。(支配人)朱桐。(主筆)劉傳景。(社員)十名。(工場員)三十四名。(機械)平版十六頁二、八頁一。活字鑄造機あり。(活字)九ポ、十一字、六十六行、九段。一箇月大洋四角五錢。(兼營)他社新聞の印刷請負、一般印刷物引受。

津報 天津日本租界明石街。創刊昭和七年。朝刊四頁。(社長)桶口義磨。(主幹)渡島英夫。

アジア(露字) 天津日本租界明石町。日刊創刊昭和七年。(社長)小山行道。

日刊新支那 北平大甜水井十號。(電)東局一八一二。箇人經營。(社史)大正二年九月の創刊なるも、週刊新支那は明治四十五年三月の創刊なり。朝刊四頁。(版數)一。(地方版)天津支局記事あり。(部數)十年十月十七日現在六百餘部。(社主)安藤萬吉。(社長)黑根祥作。(主筆)同。(東京支局)齋藤松三。(大阪支局)金井勝三郎。(社員)四名。(工場員)十五名。(機械)手刷二。鑄造機あり。(活字)八ポ、十三字、七十一行、十二段。一箇月一元三十仙、一圓三十錢(內鮮)。

■漢文「留平日本人與其事業」十一年一月一日發行、年一回の豫定。

北京新聞 (京津日日新聞の北京版) 北京東城五老胡同十五。(電)東城一五六。創刊大正十二年八月三十一日。個人經營。朝刊四頁。(社長)森川照太。(機械)平盤三。(活字)九ポ、十二字、七十五行、十一段。一箇月一弗三十仙。(廣告料)五十仙。

青島新報 青島中山路一五八號。(電)二〇六三、二三五六、二一五三。株式。十萬圓。(社史)大正四年一月十五日發刊、故鬼頭玉如社長が青島陷落と同時に上陸軍部の許可を得て發行した青島最初の邦字新聞、同時に漢文大青島報も併せて發刊す、十四年現社長小谷節夫氏五邦人新聞の買收合同を行ふ。朝刊四頁。夕刊四頁。(版數)一。(部數)九年九月一日現在五千部。(社主)鈴木格三郎。(社長)小谷節夫。(主筆)小川岩男。(編輯)桑木春一。(會計主任)廣瀨忠雄。(廣告主任)宮本正雄。(東京支社)松本七五郎。(大阪支社)金井勝三郎。(社員)三十名。(工場員)四十名。(機械)マリノニー式輪轉機一。平盤印刷機二。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七・五、十四字、百四十四行、十三段。一箇月一圓二十錢(廣告料)八十五錢、場所指定一圓七十錢。

山東毎日新聞 青島招遠路二一號。(電)三八七四、四八二二。個人經營。五萬圓。(社史)大正十五年九月濟南山東新報支局を創設し青島附錄を發行せしが昭和三年六月一日青島版として夕刊を發行、同八年二月二十日獨立して山東毎日新聞と改稱、同時に山東毎日新聞を發行し現在に到る。夕刊四頁。(部數)九年九月一日現在五千部。(社主)吉本周治。(社長)長谷川清。(編輯)吉岡鹿造。(營業)宮崎良藏。(東京支局)田代英二。(大阪支局)永田格太郎。(社員)十四名。(工場員)二十五名。(機械)平盤十六頁一、八頁二。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)八ポ、十三字、七十一行、十二段。一箇月一元三十仙、一圓三十錢(內鮮)。

■漢文「留平日本人與其事業」十一年一月一日發行、年一回の豫定。

北京新聞 (京津日日新聞の北京版) 北京東城五老胡同十五。(電)東城一五六。創刊大正十二年八月三十一日。個人經營。朝刊四頁。(社長)森川照太。(機械)平盤三。(活字)九ポ、十二字、七十五行、十一段。一箇月一弗三十仙。(廣告料)五十仙。

青島新報 青島中山路一五八號。(電)二〇六三、二三五六、二一五三。株式。十萬圓。(社史)大正四年一月十五日發刊、故鬼頭玉如社長が青島陷落と同時に上陸軍部の許可を得て發行した青島最初の邦字新聞、同時に漢文大青島報も併せて發刊す、十四年現社長小谷節夫氏五邦人新聞の買收合同を行ふ。朝刊四頁。夕刊四頁。(版數)一。(部數)九年九月一日現在五千部。(社主)鈴木格三郎。(社長)小谷節夫。(主筆)小川岩男。(編輯)桑木春一。(會計主任)廣瀨忠雄。(廣告主任)宮本正雄。(東京支社)松本七五郎。(大阪支社)金井勝三郎。(社員)三十名。(工場員)四十名。(機械)マリノニー式輪轉機一。平盤印刷機二。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七・五、十四字、百四十四行、十三段。一箇月一圓二十錢(廣告料)八十五錢、場所指定一圓七十錢。

山東毎日新聞 青島招遠路二一號。(電)三八七四、四八二二。個人經營。五萬圓。(社史)大正十五年九月濟南山東新報支局を創設し青島附錄を發行せしが昭和三年六月一日青島版として夕刊を發行、同八年二月二十日獨立して山東毎日新聞と改稱、同時に山東毎日新聞を發行し現在に到る。夕刊四頁。(部數)九年九月一日現在五千部。(社主)吉本周治。(社長)長谷川清。(編輯)吉岡鹿造。(營業)宮崎良藏。(東京支局)田代英二。(大阪支局)永田格太郎。(社員)十四名。(工場員)二十名。(機械)平盤十六頁一、八頁二。活字鑄造機、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)九ポ、十三字、七十一行、十二段。一箇月一圓二十錢(廣告料)八十五錢、場所指定一圓七十錢。

大青島報 (漢字) 青島新報社の經營。青島中山路百五十八號。(電)二一五三、五五〇一。株式。十萬圓。(社史)青島新報と同じ朝刊八頁。(版數)一。(部數)九年九月一日現在四千部。(社主)鈴木格三郎。(社長)小谷節夫。(專務)久慈寛一。(編輯)同。(營業)同。(東京支局)松本七五郎。(大阪支局)金井勝三郎。(社員)十名。(工場員)二十名。(機械)マリノニ式輪轉機一、平盤印刷機二。活字鑄造機、ステロ、寫眞版あり。(活字)九ポ、十三字、百行、十二段。一箇月銀一圓。(廣告料)普通五十錢、場所指定一圓。

山東新報 濟南商埠三大馬路。(電)三二六。個人經營。三萬五

千圓。(社史)大正五年五月創刊長井實、川村倫通二氏を經て大正十五年十月一日、膠濟時事新報、山東新聞(共に濟南發行の二邦字紙)の二紙を合併、山東新報と改題して今日に至る、現經營者は小川雄三。朝刊四頁。(社長)小川雄三。(編輯)松村武生。(營業)林田新次郎。(機械)平版十六頁二。活字鑄造機、ステロあり。(活字)七半、十五字、百行、十二段。一箇月一圓二十錢。(廣告料)五十錢、特別面一圓五十錢。

濟南日報 (漢字) 濟南府普利門外。(電)三五五。三萬圓。(社史)大正七年九月一日故中西正毅氏澁川弦弭氏等により創刊、澁川氏去り中西氏逝きて後、理事制度と改め平岡小太郎(世支紡績聯合會理事)、立石登、戸塚易理事に就任、平岡小太郎理事長となり戸塚易專務理事として社務を總括す。朝刊八頁。(部數)昭和九年九月六日現在三千五百部。(社主)共有。(理事長)平岡小太郎。(理事)立石登。(專務)戸塚易。(主幹)同。(編輯)同。(政治)王。(社會)羅騰霄。(營業)戸塚易。(社員)十名。(工場員)二十八名。(機械)二。活字鑄造機、ステロ設備あり。(活字)十三字、六十八行、十段。(廣告料)五十錢、特別面七十錢。

閩報 (漢字) 閩報館發行。福州。(電)二八五〇、二九四〇、二九四九。臺灣總督府華鄰協會の經營、臺灣總督府の補助金により經營す。(社史)明治三十年排日新聞福報を買收し閩報と改題。初代は前島眞氏にして現在は六代目なり人民革命政府樹立の時は一萬部に及び日本人經營新聞中最高に達せり。兼營の福州時報を昭和七年末廢刊す。朝刊四頁。(部數)九年八月三十一日現在三千六百五十部。(社主)華鄰協會。(社長)松永榮。(主筆)林寶樹(臺灣人)。(編輯)同。(營業)田畑弘。(工場)坂本直宗。(社員)十四名。(工場員)二十六名。(機械)マリノニ式輪轉機一、平盤三。活字鑄造機一、寫眞銅版機あり。(活字)十一字、八十行、十二段。一箇月五十錢。

香港日報 香港モリソン・ヒルロード五六。創刊明治四十年九月。個人經營。二萬弗。朝刊四頁。(社長)井手元一。(主筆)平尾久則。(編輯)野津眞一。(營業)田中三之助。(機械)平盤三。(活字)舊、十四字、九段。一箇月一弗。(廣告料)五十錢。

漢口日日新聞 漢口日本租界中街一三三。創刊大正七年一月一日。合資。二萬五千弗。朝刊四頁。(社長)宇都宮五郎。(副社長)阿部善三郎。(主筆)同。(編輯)內田佐和吉。(機械)平盤一。(活字)七・七五、十二段。一箇月銀一弗五角。(廣告料)銀四角。

南洋群島

南洋振興日報 サイパン島北ガラバン四丁目。創刊昭和四年三月十八日。個人經營。一萬五千圓。朝刊四頁。(社長)新城朝功。(編輯)內藤武猪郎。(營業)近藤三男。(機械)平盤一。(活字)九ポ、八段。一箇月六十錢。(廣告料)十錢。

南洋日日新報 サイパン島北ガラバン二丁目。創刊昭和六年十月五日。株式。四千圓。朝刊四頁。(社長)仲本興正。(主筆)志村秀吉。(編輯)吉田美英。(機械)平盤二。(活字)八段。一箇月五十錢。(廣告料)十錢、

海峽植民地

南洋日日新聞 新嘉坡ビクトリヤ街五〇。創刊大正三年四月。組合。夕刊四頁。(社長)手塚貞吉。(主筆)今泉瀏。(機械)平盤一。(活字)八半、十五字、十一段。一箇月銀一弗五十仙。(廣告料)五十仙。

瓜哇

瓜哇日報 バタビヤ市ロアマラカツ街六。(社史)創刊大正九年八月卅日、創立者佃光治氏歿後齋藤、松原兩君の共同經營となる。個人經營。八萬圓。夕刊四頁。(社長)齋藤正男。(副社長)松原勉。(營業)木野岡次郎。(機械)平盤四。(活字)九ポ、十三字、六十四行、十二段。一箇月二盾五十仙。(廣告)料五十仙。

日蘭商業新聞 バタビヤ、ス

ビンハイスフラット四五。(電)五二五。個人經營。二萬圓內外。(社史)昭和八年八月卅一日(和蘭天長節)主として日蘭間の貿易關係及經濟事情紹介。朝刊四頁。(附錄)日蘭クラブ、日蘭子供クラブ。(部數)昭和十年十月一日現在八百部。(社長)久保辰二。(主幹)同。(社員)十四名。(工場員)七名。(機械)菊版十六頁、美濃版電氣。(活字)七半、十五字、七十二行、十二段。一箇月領四二盾五十仙、外國二盾七十仙。(廣告料)三十仙。

久保商會を兼營し電通バタビヤ通信員を引受く。

加奈陀

加奈陀新聞 晩香坡メーン街一一八。創刊大正十二年九月九日。個人經營。夕刊八頁。(社長)鈴木重三。(編輯)杉山定香。(營業)古川繁雄。(機械)輪轉機一。活字鑄造機、ステロあり。(活字)九ポ、十五字、百五行、十段。一箇月六十五仙。(廣告料)十五仙。

大陸日報 晩香坡東カドバ街二一五。創刊明治四十年六月。株式。夕刊八頁。(社長)山崎寧。(主筆)岩崎與理亨。(機械)平盤二。活字鑄造機、ステロあり。(活字)九ポ、十五字、百五行、十段。一箇月七十五仙。(廣告料)十仙。

日刊民衆 晩香坡。創刊一九二一年。夕刊四頁。(主筆)長澤六郎

北米合衆國

羅府新報 羅府北米ロスアンゼルス市北一〇四。創刊明治卅七年。株式。二十萬圓。夕刊十二頁。(社長)駒井豐策。(主筆)藤岡紫朗。(編輯)鈴木博。(販賣)丹原品一。(廣告)進藤虎龍。(東京支局)渡邊司朗。(機械)輪轉一、平盤一。(活字)七ポ、十五字、一段十六吋、十三段。一箇月一弗。(廣告料)一吋一弗。

九年十月三十一日タブロイド型百三十頁の第一萬號記念誌を發行す。

加州每日新聞 ロスアンゼルス市東二街三三九。創刊昭和六年十一月五日。夕刊八頁。個人經營。十萬圓。(社長)藤井整。(東京支局)小杉良甚。(機械)輪轉機一。活字鑄造機、ステロあり。(活字)九ポ、十三字、百三十二行、十二段。一箇月一弗。(廣告料)一吋七十五仙、特別面一弗

羅府日本 羅府ジャクソン街三二七。創刊一九二二年。合資。三萬弗。夕刊四頁。(社長)安孫子久太郎。(主筆)島內良延。(營業)同。(機械)輪轉一。(活字)十ポ、十二段。一箇月一弗。(廣告料)七十五仙。

日米新聞 桑港エリス街六五〇。創刊明治三十二年四月三日。株式。二十五萬圓。朝刊八頁。(社長)安孫子久太郎。(主筆)島內良延。(機械)輪轉一、平盤一。ステロ、寫眞版あり。(活字)九ポ、十二段。一箇月一弗。(廣告料)一吋一弗。

新世界朝日 桑港ゲーリー街一〇六〇。(桑港ラグナ街一四二一?)。朝刊八頁。

昭和十年六月二十一日新世界日日新聞(創刊一八九八年社長青木道綱)と北米朝日新聞(昭和六年創刊社長海老名一雄)と合併せるもの。當分合議制を採る。

櫻府日報 櫻府エム街三一八。創刊明治四十一年七月。個人經營。夕刊四頁。(社長)沖健二。(主筆)南部源哉。(營業)兒玉節。(機械)平盤一。(活字)舊、十四字、六十行、十段。一箇月一弗。(廣告料)一吋一弗。

央州日報 ポートランド北二番街五三。創刊明治三十七年。個人經營。夕刊六頁。(社長)阿部豐治。(主筆)小山巖。(機械)平盤一。(活字)舊、十段。一箇月五十仙。(廣告料)六仙。

大北日報 シヤトル市メイン街四一四。(電)一三六一。四萬七千弗。(社史)一九〇九年創刊、常に日本文化を白人に紹介するに努むると共に千九百二十一年百餘頁の英文號を發刊して白人間に無料に配布し昭和四年七月には西北部日本人移民史を編纂す。夕刊八頁(邦字七頁、英文欄一頁)。(販數)一。(部數)昭和十年十月現在八千部。(社主)竹內コト。(社長)川尻慶太郎。(支配人)佐藤保治。(編輯)川尻慶太郎。(營業)佐藤保治。(東京支

局）鷺谷南强。（社員）十一名。（工場員）十六名。（機械）ミール平板刷一。活字鑄造機、ステロリノタイプ機械等の設備あり。（活字）十二字、六十四行、十二段。一箇月八十五仙。（廣告料）一吋九十仙、場所指定一弗。

北米時事 沙市五番街二一五。創刊明治三十九年九月。株式。三萬圓。夕刊八頁。（社長）有馬純清。（營業）有馬純善。（廣告）鈴木敬二。（機械）平盤一、輪轉一。（活字）舊、十四字、十段。一箇月八十五仙。（廣告料）七十仙。

ユタ日報 ユタ州ソートレーキ市西セントテンプル街。（電）ワサッチ一九八四。（社史）創刊一千九百十四年十一月三日、創立目的在留同胞の覺醒、農業組合の設置、金融機關貯金組合の設置、日本語學園設置、購賣組合設置等の主義主張を貫徹す。夕刊四頁。（部數）昭和十年十月一日現在千五百餘。（社長）寺澤畊夫。（主筆）同。（編部）足立輝公。（機械）平盤一。（活字）五號、十四字。一箇月五十五仙。（廣告料）一吋一段一ケ月三弗、特別面一吋一回卅五仙。（兼營）印刷所。

南沿岸時報 加州東サンピドロ市。（電）サンピドロ七六、三六二六。個人經營。二萬五千弗。（社史）創刊千九百二十七年十月四日、在米同胞指導、日系二世教育機關等を目的とす。朝刊四頁。（部數）昭和十年十月六日現在六千八百部。（社主）平賀重昌。（社長）同。（專務）竹内幸助。（主筆）青木昊洲、（編局）竹内幸助。（宗教）鈴木大等。（文藝）野崎雲海。（政治）濱際蔭水。（營局）井戸太助。（販賣廣告）同。（ロサンゼルス支局）竹内仁右衛門。（モントレー支局）山本源藏。（社員）二十五名。（工場員）八名。（機械）輪轉機二。寫眞版機あり。（活字）舊、十五字、五十五行、九段。一箇年米價二弗五十仙。（廣告料）一段一寸五十仙、特別一段一寸一弗。（兼營）各種印刷物、各事項法律手續、移民事項等。

■在米同胞慰藉機關映畫上映、日系二世の心身練磨に劍柔道の奬勵、邦語教育の伸展等をなす。

布哇

日布時事 布哇ホノルル市ヌアヌ街。（電）六〇九一。株式。五萬弗。（社史）創刊明治二十八年十月、石版小型四頁やまと新聞と題し週二回發行、三十八年活版となり、間もなく日刊となる三十九年現名に改題、大正八年より英字欄を附し、現在は四頁を附す。夕刊十乃至十四。（版數）一。（附錄）毎土曜家庭新聞及び英文コミック畫。（社長）相賀安太郎。（副社長）勝沼富造。（支配人）河本勝一。（主筆）相賀安太郎。（編輯）淺海床一。（英文主任）濱田高一。（廣告）古川茂生。（會計）竹原寅之進。（工場）國廣誠一。（東京支局）新聞聯合社。（社員）百六十名。（工場員）五十八名。（機械）廻轉式デュプレクス機一、ミラー式其他平盤印刷機十。活字鑄造機三、寫眞製版機三、ステロ完備。（活字）九ポ、十二字、百十二行、十三段。一箇月米貨一弗。（廣告料）十五仙。特別面二十仙。（兼營）各種印刷製本及ゴム版、毎年一回布哇年鑑發行、毎年二回日本人電話帳發行。（特設）英文リノタイプ機五臺。

■最近一年間に日本官約移民第一回布哇渡來後五十年祝賀記念號及び帝國練習艦隊歓迎號、本社創立四十一年記念號發行、和洋支料理講習會開催す。

■十年二月十七日はホノルルへ邦人渡航五十周年に當り、本社は本年創刊四十週年を迎ふ。

布哇報知 ホノルル市クキン街。創刊大正十二年二月。個人經營。夕刊十二頁。（社長）牧野金三郎。（主筆）寺崎定助、（機械）輪轉一、平盤五。（活字）九ポ、十二段。月一弗。（廣告料）六仙五。

布哇毎日 布哇毎日新聞社發行布哇ヒロ市プナハワイ街。（電）二八〇八。個人經營。三萬五千弗一九〇六年五月十五日設立創刊す。朝刊四頁土曜八頁。（附錄）毎號日英兩文（日三頁、英一頁）（部數）一九三五年十月五日現在三千七百部。（社主）德城信二。（社長）同。（支配人）森ノ上鐵雄。（日文主筆）大久保源一。（英文記者）平岩政義。（營業）田中シズ

ヱ。（部長）岡野玉一。（東京支局）鷲宮精一。（工場員）廿六名。（機械）フート四。ステロあり。（活字）九ポ、十三字、ルビ付六十八行、十二段。一箇月七十五仙。（廣告料）一吋一面三十仙、特別面三十五仙。

墨西哥

メヒコ新報 メキシコ市。個人經營。朝刊八頁。（社長）瀧飯太郎。（機械）平盤一。（活字）九ポ、八段。一箇月六十仙。

秘露

秘露時報 リマ市。創刊一九二九年。日刊。（主筆）池山壽夫。

リマ日報 リマ市。創刊一九二九年。日刊。（主筆）櫻井邇。

伯剌西爾

伯剌西爾時報 ブラジル、サンポーロ、（電）七一四六七〇。個人經營。（社史）一九一七年八月卅一日創刊、六頁週一回發行漸次八頁十頁となり一九三三年八月十二頁となり週二回、本年七月より十四頁、水、土、週二回發行現在に及ぶ。週二回。水曜日八頁、土曜日六頁。（部數）十年十月一日現在九千五百部。（社長）黒石清作。（支配人）黒石清市郎。（主筆）黒石清作。（編輯部長）中村雄吉。（社員）本社十五名、リンス支社十五名、ソロカバナ支社三名。（工場員）十八名。（機械）平盤二。（活字）明朝六號、十五字、六十行、十段。（購讀料）二鈆五百レース、日本行年四〇鈆（約八圓）。（廣告料）普通一段五十鈆、一頁五百鈆、場所指定日貨一吋五十錢、一段六圓。（發行物）月刊雜誌子供の國發行。

有保證金 全國新聞紙數（府縣別）

—昭和十年十月末現在—

種別	日刊	月四回以上	月三回以上	月一回以上	其他	計
合計	一、二一六	五〇七	一、二七	三、九三	三三	七、一二五
北海道	八五	一〇	九二	一五五	一四	三六六
東京	二三五	二二五	二二二	一、〇六三	三六	一、六七一
京都	三八	九	五三	二一七	一三	三三〇
大阪	八九	五二	二二四	四〇〇	一六	六八一
神奈川	一九	九	一八	五三	七	一〇六
兵庫	四二	二五	六八	二七	一三	二七五
長崎	一四	七	一七	三一	二	七一
新潟	二一	二三	二五	五四	三	二二五
埼玉	一〇	二	一四	四一	二	六九
群馬	二	二	二	三八	二	六五
千葉	一三	三	一	四五	三	七五
茨城	九	一	九	七三	六	九六
栃木	一四	二	二三	三一	四	六三
奈良	九	五	八	五五	七	八四
三重	二五	六	三三	四四	一	一〇九
愛知	八三	二	七三	三四四	?	五〇八
静岡	一九	二	一七	六九	六	一四三
山梨	六	一	一〇	一〇	一	二八
滋賀	一二	一四	一三	一〇	一三	三五
岐阜	一四	一	四	一〇	二	三五
愛知	一八	三九	一〇	一七	三五	四五
長野	一八	三九	一〇	一七	三五	四五
宮城	二四	三	六	一二	三	二七
福島	三	二	三	二六	一	九
岩手	三	五	四	一四	二	一一
青森	五	三	五	二六	二	一七
山形	三	六	四	一七	三	二二
秋田	六	三	九	一三	八	三三
福井	三	八	三	一七	二	二七
石川	八	八	七	一三	五	四七
富山	四	八	七	一三	五	四七
鳥取	三	一	三	二七	二	一八
島根	三	一	三	二	一	四一
岡山	一二	八	二	一三	四	五五
広島	一七	八	二四	七	一	五五
山口	二七	二	一一	五五	一	二九
和歌山	二七	二	九	五五	一	一〇
徳島	四	一	一	二	二	七八
香川	三	一	八	九	四	二五
愛媛	一〇	四	四	四	九	九
高知	四	七	二	一四	五	一四
福岡	六七	三〇	三〇	三四	五四	一九
大分	一〇	七	二	二七	二	一四
佐賀	七	一四	一	一五	三	五
熊本	一四	五	四	二六	三	五
宮崎	五	三	三	二〇	三	六
鹿児島	五	一	三	二〇	四	四
沖縄	七	三	七	一〇	五	一〇
	一三	一〇	一〇	一三	五	八
	一〇	一	一	一〇	一	一
	一三	二	二	一四	二	二八

創刊明治二十五年

中國新聞

吳新聞

中國防長新聞

二大姉妹紙

吳市　　德山町

中國新聞社

本社　廣島市上流川町

東京支局　京橋區築地一ノ四十

電話京橋五六一〇番

豐國通信社

創立明治二十二年

日刊 豐國通信發行
廣告代理業

東京銀座西五丁目角

電話銀座(57)
一一、三七七番
一一、三七八番
一一〇八番

皇道の本義を明にせる大聖典
新に普及版成る

蘇峰 德富猪一郎編著

增補 元田先生進講錄

〔最新刊 普及版出づ〕

〔增補〕元田先生聖諭記 著者 教育勅語四十年

畏くも明治天皇の啓沃輔導の任に與り、君德の大成に勗められ、明治第一の功臣と稱せられた元田永孚先生が、如何に獻替匡濟の誠忠を竭し、大政運用の嘉謀良猷に參畫し奉つたかを窺ふに足る本進講錄は、啻に帝王學としての至道を說かれたのみでなく、實に我が皇道の眞髓を明かにし、國民道德の根本を示し、以て治國安民の方策を詳かにせられたもので、國民精神の振興も、一般教育の革新も、これによつてその向ふべき所、行ふべき所を示唆啓發せられるであらうことは、疑を容れぬ所である。今や非常時局に際し、諸政刷新を要すべき秋に當り、特に本書の普及版を公にして、全國民に一讀を請はんとするものは、須くこの天下第一等の書に接して、啓蒙自覺、互に國本の確立に努め、國威の振張に盡すべきであると信ずるが故である。

函入菊判美裝洋本
上製原本定價參圓 送本料拾四錢
普及版 定價壹圓五拾錢 送本料拾貳錢

東京・神田・錦町・一丁目
株式會社 明治書院
(振替東京四九九一番)

露光量違いの為重複撮影

鎮咳祛痰

ソロメン

1. 氣味佳良にして服用容易
2. 無副作用性にして應用安全
3. 下記諸症に奏效卓越

【適應症】

嗄嗽並に喀痰を伴ふ急性慢性の呼吸器疾患、百日嗄等……

包裝　粉末 50瓦　錠劑 100錠　液劑 100瓩
他ニ大量入アリ

SANKYO 三共

東京・室町　三共株式會社

徳島 唯一の朝夕刊新聞

朝刊四頁
夕刊四頁

會遊園念記年周十六は眞寫〔明說眞寫〕
說演の長社島松と況盛の

徳島日日新報

本社　徳島市富田濱側　長電代表三二三三番
東京支社　東京市牛込區北町三四　電牛込三二六八番
大阪支局　大阪市北區堂島北町三六　電北七〇六五番

◎本年創刊六十周年を迎へ松島肇氏を社長に推戴、四國新聞界に驚異的發展と、異數の發行部數の擴大をなせり。

◎本紙記事の正確にして、速報は衆知のことで、四國六萬讀者の絶大なる信頼を受け益々發展軌上にあり。

◎本紙の權威！徳島縣、市錄示、裁判所登記廣告を掲載し、智識階級必讀の新聞。

本紙の特別欄

スポーツ欄。家庭園藝欄。映畫演劇欄。科學工業欄を毎日掲載。日曜日は特に『日曜子供ページ』

露光量違いの為重複撮影

頑咳祛痰に

1. 氣味佳良にして服用容易
2. 無副作用性にして應用安全
3. 下記諸症に奏效卓越

【適應症】

喘嗽並に喀痰を伴ふ急性慢性の呼吸器疾患、百日嗽等……

包裝 粉末 50瓦 錠劑 100錠 液劑 100瓩
他ニ大量入アリ

三 SANKYO 共

東京・堂町 三共株式會社

會遊開念記年周十六は眞寫〔明說眞寫〕
說演の長社鳥松と沒盛の

徳島 唯一の朝夕刊新聞

朝刊四頁
夕刊四頁

徳島 日日 新報

◎本年創刊六十周年を迎へ松島肇氏を社長に推戴、四國新聞界に驚異的發展と、異數の發行部數の擴大をなせり。

◎本紙記事の正確にして、速報は衆知のことで、四國六萬讀者の絶大なる信頼を受け益々發展軌上にあり。

◎本紙の權威！徳島縣、市錄示、裁判所登記廣告を掲載し、智識階級必讀の新聞。

本紙の特別欄

スポーツ欄。家庭園藝欄。映畫演劇欄。科學工業欄を毎日掲載。
日曜日は特に『日曜子供ページ』

本社 徳島市富田濱側 長電話表三一三三番

東京支社 東京市牛込區北町三四 電牛込三二六八番

大阪支局 大阪市北區堂島北町三六 電北七〇六五番

帝國新報

社長　池田弘

社是

一、皇道を宣揚し一死國恩に報ひ奉らむは是固より全日本人の國民道義たり。茲に帝國新報社員一同祖國への絶對忠誠を宣誓す。

一、本社は既に目睫の間に逼迫せる一九三六年前後の内外重大危局克服に特に對應せむとするものなり。

一、從つて祖國の無窮生命を思はず國家生活の進展を阻害せむとする一切の非國家的思潮に對しては斷乎之を膺懲す。

第一面 思想欄、第二面 政治欄、第三面 社會欄、いづれも、右の社是に從ふ我社同人の祖國に對し奉る絶對忠誠心の反映である。見よ。その獨特の編輯を！

購讀希望の向は直接本社に申込れ度し。

定價 郵税共 一ケ月 五十錢

帝國新報社

東京 京橋 銀座四ノ五
振替東京七四五七三番
電話京橋八四三〇番 八六一六番

資生堂 齒磨

齒の爲めに一番よい
專賣特許の……
クリーム齒磨！

純粹のクリーム質ですから齒齦を絶對に傷めず
而も普通の煉齒磨の半量で殺菌、清白の役目を
完全に果します

三〇セン
中 一二セン
小 六セン

資生堂齒刷子

最高の質　最低の價

齒刷子として最も優れた純毫毛（ロシヤ豚毛）を使用してありますから剪毛、拔毛等の惧れなく從つて耐久力も極めて强大です

20セン
15セン
10セン

東京 資生堂 銀座

創刊明治廿六年！

二六新報

東京・芝區・新橋
株式會社 二六新報社

ニュース寫眞の最高峰

——全世界六千の朝夕刊新聞に供給掲載の
インターナショナル寫眞（略稱I・N・P）

キング特稿社
インターナショナル寫眞通信社

東亞日報

京城府光化門通
東亞日報社
東京支局 京橋區銀座西五ノ二 電話銀座四〇九

日本橋區兜町一丁目三
大東證券日報社
電話茅場町 自二一四一 至二一四五

邦文タイプライター

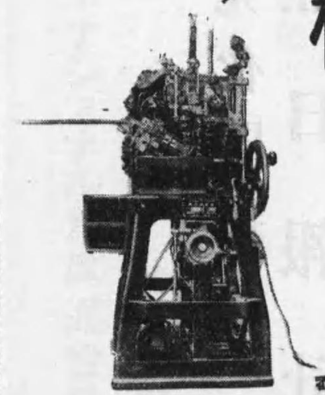
文書生きる

事務の敏、不敏は事業の興亡を左右します。貴下の事務所に於ける一臺の邦文タイプライターが如何に敏速に整然と事務を處理するかをお試し下さい。

萬能鑄造機

命生が字活はに刷印

を價聲の物刷印は刷印の字活な明鮮
。すまき築を用信の所刷印高め



日本タイプライター株式會社

本社東京市東京區麹町三ノ一 電話四谷一六一四至一六一五番
支店 大阪・大連・上海・京城・新京・哈爾濱・北京・奉天・仙臺・札幌・名古屋・岡山・福岡

第三篇 一覽

一、全國日刊通信一覽表
二、廣告代理業者一覽表
三、在東京地方新聞支局一覽表
四、在阪全國新聞支局一覽表
五、製作材料供給業一覽表
六、全國主要廣告主一覽表
七、新聞關係諸機關一覽表
八、東西各社職別全社員表
別表、三十二社幹部表

日本橋區室町四ノ一七（電）日本

日本通信

京橋區銀座西五　山鶴吉、蒲地清、伊藤深郎、松

東京大阪二十五新聞通信（及廣告代理業）社幹部表

（昭和十年十二月現在）

新聞社

東京の部

●二六新報社

代表取締役　松本贊吉
編輯局長兼社會部長　下條光三
政治部長　山本正三
整理部長兼經濟部長　鈴木香都良
營業局長　籏東太
販賣部長　高田忠吉
廣告部長　野田澤四郎
會計部長　小澤次郎
工務部長　石渡勝太郎

●報知新聞社

取締役社長　野間清治
同　副社長　寺田四郎
同工務局長兼印刷部長　三木七郎
同　久間九郎
同　須崎芳三郎
監査役　三浦勝太郎
同　高木義賢
總務局長兼庶務部長事務取扱　中村唯一
會計部長　香川明
用度部長　佐野悟一郎
企畫部長　關太一郎
安信部長　瀬利武吉
編輯局長兼考査部長　廣田四郎
同　次長　鈴木宇一
編輯局相談役　野村長一
同　矢田義勝
同　佐々木善太郎
同　川口清榮
部長待遇　篠原龜三郎
同　田熊福七郎
客員　本山仲造
論說部長囑託　倉辻明義
統一部長　河西武雄
同　後藤喜間太
副部長　市毛太成
同　村上貞一
政治部長　岡野茂雄
同副部長　岡崎博光
同　小林東三郎
經濟部長　野澤秀信
同副部長　赤松直昌
同　齋藤義作
通信部長　山崎幸四郎
同副部長　永井和歌丸
外報部長　赤澤義人
調査部長　中田豐
學藝部長　寺田稔彥
運動部長　小島敬三郎
寫眞部長　鈴木一雄
校正部長　黑木勇吉
同副部長　渡邊孝二
營業局相談役　內田好之輔
販賣部長　岩崎英祐
發送課長　中川榮一
地方課長　堀口憲
庶務課長　黑澤敏樹
市內課長　柿澤萬次郎
計算課長　町田文平
廣告部長　南強一
監理部長　中村清治
活版部長　飯持彌太郎
ステロ部長　渡邊幸松
診療所監事　赤石喜平
同　所長　田所良吉

●報國新報社

社主　田邊隆
社長　田邊宗英
主筆　高木八太郎
編輯局長　窪田文雄
校正部長　酒井宜志
營業局長　山本英三
廣告部長　渡邊肇
販賣部長　佐久間操

●東京日日新聞社

取締役會長　岡實
專務取締役　奥村信太郎
同　吉武鶴次郎
取締役主筆　高石貫五郎
社長　木村政次郎
副社長　御田村龍吉
專務　萩原敏明
編輯局長　田原茂作
營業局次長　木村達三
相談役　川村竹治
編輯顧問　田村西男
同　原潤一郎
外交部長　相川善太郎
地方部長　伊藤義一
經濟部長　加賀卯之吉
美術部長　田澤良夫
經理局長　伊福善助
同　次長　丹羽野直久
廣告部長　齋藤靜
同　次長　山浦孫四郎
販賣部長　鈴木健仁
調査部長兼理事長　塚越三郎
工場長　桑原信助
航空部長　伊藤清彥
田中不二雄
社會事業部長　坂口義治

●東京朝日新聞社

取締役社長　上野精一
取締役會長專務取締役　村上長舉
取締役副社長東亞問題調査會長　東下宏
當務取締役營業局長兼印刷局長　石井光次郎
同　主筆　緒方竹虎
取締役編輯局長兼航空部長美土路昌一
相談役（重役待遇）　杉村廣太郎
文書課長　豐原璃穗
計畫課長　庄崎俊夫
航空部次長　河內一彥
論說委員　關口泰
同　前田多門
同　土岐善麿
整理部長　北野吉內
同　次長　武藤貞一
同　八木長人
同　矢野源太郎
調絡部長　永川俊美
電信電話課長　吉岡助次郎
政治部長　野村秀雄
同　次長　香月保
同　細川隆元
經濟部長　白石幸三郎
同　次長　今井純
社會部長　尾坂與市
同　次長　宮崎志朗
同　福馬謙造
外報部長　伊東盛一
通信部長　町田梓樓
同　次長　木村東
同　矢烏八洲夫
稻庭謙治
出版編輯部長　星野辰男
同　次長　中里富次郎
同　羽田三吉
統制部長　坂崎巽
寫眞部長　丸田一郎
調査部長　伊東圭一郎
運動部長　小高吉三郎
同　次長　植村陸男
校閱部長　眼部龜三郎
同　次長　久保田榮吉
寫眞部長　谷口德次郎
庶務課長　廣瀨爲次郎
販賣部長　高田廣海
同　次長兼發送課長　堀川光彌
同　田畑忠治
同　田中一郎
（君月專務）　小村順之助
廣告部長　新田宇一郎
同　次長　杉井初太郎
同　平岡國雄
大朝支部長　田中幸太郎
會計部長　杉江潤治
同次長兼用度課長　谷口貞固
庶務部長　都築直三
印刷部長　久野八十吉
同次長兼庶務課長　大石雄

●東京日日新聞社

取締役會長　岡實
專務取締役　奥村信太郎
同　吉武鶴次郎
取締役主筆　高石貫五郎
社長　田邊宗英
主筆　高木八太郎
編輯局長　窪田文雄
校正部長　酒井宜志
營業局長　山本英三
廣告部長　渡邊肇
販賣部長　佐久間操
社主　田邊隆
社長　田邊宗英
主筆　高木八太郎
編輯局長　窪田文雄
校正部長　酒井宜志
營業局長　山本英三
廣告部長　渡邊肇
販賣部長　佐久間操
ステロ部長　渡邊幸松
診療所監事　赤石喜平
同　所長　田所良吉

●報國新報社

取締役會長　岡實
專務取締役　奥村信太郎
同　吉武鶴次郎
取締役主筆　高石貫五郎
社長　木村政次郎
副社長　御田村龍吉
專務　萩原敏明
編輯局長　田原茂作
營業局次長　木村達三
相談役　川村竹治
編輯顧問　田村西男
同　原潤一郎
外交部長　相川善太郎
地方部長　伊藤義一
經濟部長　加賀卯之吉
美術部長　田澤良夫
經理局長　伊福善助
同　次長　丹羽野直久
廣告部長　齋藤靜
同　次長　山浦孫四郎
販賣部長　鈴木健仁
調査部長兼理事長　塚越三郎
工場長　桑原信助
航空部長　伊藤清彥
田中不二雄
社會事業部長　坂口義治

●東京朝日新聞社

取締役社長　上野精一
取締役會長專務取締役　村上長舉
取締役副社長東亞問題調査會長　東下宏
當務取締役營業局長兼印刷局長　石井光次郎
同　主筆　緒方竹虎
取締役編輯局長兼航空部長美土路昌一
相談役（重役待遇）　杉村廣太郎
文書課長　豐原璃穗
計畫課長　庄崎俊夫
航空部次長　河內一彥
論說委員　關口泰
同　前田多門
同　土岐善麿
整理部長　北野吉內
同　次長　武藤貞一
同　八木長人
同　矢野源太郎
調絡部長　永川俊美
電信電話課長　吉岡助次郎
政治部長　野村秀雄
同　次長　香月保
同　細川隆元
經濟部長　白石幸三郎
同　次長　今井純
社會部長　尾坂與市
同　次長　宮崎志朗
同　福馬謙造
外報部長　伊東盛一
通信部長　町田梓樓
同　次長　木村東
同　矢烏八洲夫
稻庭謙治
出版編輯部長　星野辰男
同　次長　中里富次郎
同　羽田三吉
統制部長　坂崎巽
寫眞部長　丸田一郎
調査部長　伊東圭一郎
運動部長　小高吉三郎
同　次長　植村陸男
校閱部長　眼部龜三郎
同　次長　久保田榮吉
寫眞部長　谷口德次郎
庶務課長　廣瀨爲次郎
販賣部長　高田廣海
同　次長兼發送課長　堀川光彌
同　田畑忠治
同　田中一郎
（君月專務）　小村順之助
廣告部長　新田宇一郎
同　次長　杉井初太郎
同　平岡國雄
大朝支部長　田中幸太郎
會計部長　杉江潤治
同次長兼用度課長　谷口貞固
庶務部長　都築直三
印刷部長　久野八十吉
同次長兼庶務課長　大石雄
廣告部長　稲葉輪一
同　次長　中村宗義
同　馬立豐
販賣部長　務台光雄
同　庵原虎之助
同　次長　田中克人
同　小杉正一郎
經理部長　柳田長吉
事業部長兼庶務部長　庄田良
同　次長　橋本淳
秘書課長　杉本政治
守衛長　前田軍司
診療所長　山田尙允
工務部長　武藤具三
文選課次長　伏黑安平
植字課次長　三好彥太
社主社長　岩田富美夫
編輯局長　矢部周
整理部長　川崎達夫
社會部長　大久保忠鑑
政治經濟部長　伏見武夫
會計兼販賣部長　八杉正雄
庶務兼秘書課長　宗重彥

●やまと新聞社

社主社長　岩田富美夫
編輯局長　矢部周
整理部長　川崎達夫
社會部長　大久保忠鑑
政治經濟部長　伏見武夫
會計兼販賣部長　八杉正雄
庶務兼秘書課長　宗重彥

●萬朝報社

社長兼編輯局長兼販賣、工務部長　谷川善治
主幹兼演藝部長　石井文作
主筆　川崎巳之太郎
政治部長兼整理部長　岡延右衛門
經濟部長　早川紋平
社會部長　土屋林太郎
學藝部長　相馬武夫
地方部長兼庶務部長　鯉淵弘
校正部長　菊地健
營業局長兼廣告部長　三浦達雄
會計部長　三宅健壽

●國民新聞社

取締役社長　志岐守治
取締役會長　大島宇吉
代表取締役主幹　田中齊
取締役　生駒重彥
同　大島一郎
同　澤木元雄
同　岡田伊三郎
同總務局長兼會計部長兼庶務部長兼事業部長　大島一衛
監査役大阪支局長　山崎兼次郎
監査役　大島武
主筆　長谷川光太郎
編輯局長　山ノ內一郎
編輯局顧問　五來欣造
同　澤木元雄
同　山浦貫一
統制部長　村上猶太郎
寫眞部長　池田憲藏
校正部長　池田金之助
政治部長　唐島基智三
同　次長　阿子島俊治
軍事部長　牛田秀治
經濟部長兼調査課長　富谷五鐵
同　次長　鈴木萬造
社會部長　白井正福
同　次長　大谷秀正
運動課長　高山武次郎
學藝部長　清水武雄
同　次長　三澤義助
地方部長　辰巳吉次
同　次長　齋藤源吉
庶務部次長　小林壽一郎
營業局長代理兼代理部長　村田攪雄
販賣部長　古賀文雄
同次長兼市內課長　藤原重德
地方課長　宮田文明
同次長兼廣告部長　古賀文雄

●國民新聞社

取締役社長　志岐守治
取締役會長　大島宇吉
代表取締役主幹　田中齊
取締役　生駒重彥
同　大島一郎
同　澤木元雄
同　岡田伊三郎
同總務局長兼會計部長兼庶務部長兼事業部長　大島一衛
監査役大阪支局長　山崎兼次郎
監査役　大島武
主筆　長谷川光太郎
編輯局長　山ノ內一郎
編輯局顧問　五來欣造
同　澤木元雄
同　山浦貫一
統制部長　村上猶太郎
寫眞部長　池田憲藏
校正部長　池田金之助
政治部長　唐島基智三
同　次長　阿子島俊治
軍事部長　牛田秀治
經濟部長兼調査課長　富谷五鐵
同　次長　鈴木萬造
社會部長　白井正福
同　次長　大谷秀正
運動課長　高山武次郎
學藝部長　清水武雄
同　次長　三澤義助
地方部長　辰巳吉次
同　次長　齋藤源吉
庶務部次長　小林壽一郎
營業局長代理兼代理部長　村田攪雄
同次長兼廣告部長　古賀文雄
同次長兼市內課長　藤原重德
地方課長　宮田文明
同　次長　藤田作藏
同　理事　山田潤二
取締役　杉山幹
監査役　大久保豐來
同　田中市藏
同　弘世助太郎
同　德富猪一郎
顧問　紀俊秀
社賓　新見信
秘書課長　世川憲次郎
事業部長　家永一夫
同副部長　福知新次
航空部長　平川清風
編輯總務　
副主筆兼經濟部長　下田將美
副主幹兼整理部長　平野岑一
事務課長　杉本鶴一
論說委員　渡邊廣重
同　赤坂清七
整理部副部長　田村省三
政治部長　金子伊次郎
同副部長　平野長一
同副部長　井上吉次郎
調査部長　鹽見孝雄
同副部長　吉村廣
內國通信部長　中島秀雄
同副部長　
同兼經濟部副部長　西村健吉
內通信部長　山脇誠
外國通信部長兼英文大毎編輯顧問　上原虎重
同副部長　加藤三之雄
東亞通信部顧問　澤村幸夫
同　部長　岡克曉
同副部長　三池亥佐夫
同副部長　上田正二郎
社會部長　玉置德三
同副部長　本田親男
同　伊佐宗太
同　田中伸丈
寫眞部長　北尾錄之助
同副部長　牛田義士
運動部長　鈴木三郎
同副部長　小野三千麿
經濟部副部長　伊藤修
エコノミスト編輯長　佐藤善郎
同　次長　木村孫八郎
學藝部顧問　菊池寬
同　西村眞琴
客員　柳宗悅
學藝部長　大竹憲太郎
同副部長　渡邊均
同　高原慶三
聯絡部長　大原武夫
同副部長　君島知德
同　瀨口正央
電務課長　佐藤與一
校正部長　柳澤茂
同副部長　馬場由三
同　中西靜磨
特報課長　和氣律次郎
英文大毎編輯長　毛利八十太郎
同　次長　北村守光
同　佐藤鎧之助
同　正富笑入
同事務長　夏目秋一
京都支局長　岩井武俊
神戸支局長　井上輝二
滿洲通信總局長　楠崎觀一
純育支局長　栗山長次郎
西部總局長　藤井公平
同整理部長　加茂勝雄
同地方部長　楠五郎
同聯絡部長　福島乾
同校正部長　清水可次
同營業部長兼販賣部助役　佐田西吉
同印刷部長　新谷重造
名古屋支局長　持田賢士
同整理部長　角井龍之助
同待遇　小西惠次郎
同社會部長　顯考與一
同庶務課長　芥川壽作

●大阪時事新報社

社長　遠藤信義
監査役經理局長兼工務部長　友國在二郎
取締役營業局長　加藤芳助
編輯局長兼社會部長　鹽澤元治
同主事　寺澤鎭
同整理部長兼聯絡部長　下井宏之
同　次長　山本地榮
同社會部長　岡見齊
同營業部長　山名正太郎
同次長　鹽貝淳二
同印刷部長　勝島喜一郎
同次長　鍋島雄輔
庶務部次長　弘木忠顯
印刷局長兼印刷部長兼技術部長　小西作太郎
印刷部次長　三島秀次郎
同　山田芳穗
出版印刷部長　小出政治
同　次長　宮田良一
九州支社編輯局長　朝倉斯道
同整理部長　越智二良
同次長　武田和夫
同聯絡部長　山本直一
同社會部長　森川舟三
同營業部長　鎌田傳輔
同次長　平田友賢
同印刷部長　福井鐵次郎
名古屋支社長　鈴木文四郎
同主事　寺澤鎭
同整理部長兼聯絡部長　下井宏之
同　次長　山本地榮
同社會部長　岡見齊
同次長　山名正太郎
同營業部長　鹽貝淳二
同印刷部長　勝島喜一郎
同次長　鍋島雄輔

●日本電報通信社

取締役社長兼總務部長兼大阪支社長　光永星郎
常務取締役營業部長　光永眞三
同通信部長　上田碩三
取締役　能島道
同　松野鶴平
常任監査役　曾我祐邦
監査役　原田德次郎
同通信課長　中根榮
理事計算課長　坂本俊一郎
同會計課長　安藤彪雄
同用度課長　元永盛美
同調査課長　勝木常雄
電送寫眞課長　伊藤永止
理事寫眞課長　安田禎文
同中央內勤課長　木下源一郎
同中央外勤課長　平林甫男
地方內勤課長　原崇
理事大阪支社總務課長　古川義章
大阪支社經理課長　每木一八
同通信課長　潮海秀之助
理事大阪支社營業課長　岩子龍太郎
同名古屋支局長　鹿子木日出雄
同臺灣支局長　中島喜一
同上海支局長　下條雄三
同總務課長　齋藤豐三郎
同理事　小野田惠次郎
同　神子島梧郎

通信社及廣告代理業

同 客員 本山伸造
同 論說部長囑託 倉辻明義
統一部長 河西武雄
同 後藤喜間太
副部長 市毛太成
同 村上貞一
政治部長 岡野茂雄
同副部長 岡崎博光
同 小林東三郎
經濟部長 野澤秀信
同副部長 赤松直昌
通信部長 齋藤義作
同副部長 山崎幸四郎
外報部長 永井和歌丸
調査部長 赤澤義人
學藝部長 中田豐
運動部長 寺田稔彦
寫眞部長 小島敬三郎
校正部長 鈴木一雄
同副部長 黑木勇吉
營業局相談役 渡邊孝二
販賣部長 內田好之輔
發送課長 岩崎英祐
地方課長 中川榮一
庶務課長 堀口憲
黑澤敏樹
市內課長 柿澤萬次郎
計算課長 町田文平
廣告部長 南強一
監理部長 中村清治
活版部長 飯持彌太郎
ステロ部長 渡邊幸松
診療所監事 赤石喜平
同 所長 田所良吉

●報國新報社

社主 田邊隆
社長 田邊宗英
主筆 高木八太郎
編輯局長 窪田文雄
校正部長 酒井宜志
營業局長 山本英三
廣告部長 渡邊肇
販賣部長 佐久間操

●東京日日新聞社

取締役會長 岡實
專務取締役 奥村信太郎
同 吉武鶴次郎
取締役主筆 高石眞五郎
同編輯主幹 岡崎鴻吉
同編輯總務 杉山幹
同理事兼營業局長 山田潤二
秘書課長兼庶務部長心得 小泉進作
事業課長 桑原忠夫
映畫課長 伊東恭雄
航空部副部長 羽太文夫
編輯副主幹兼學藝部長 阿部眞之助
副主筆 阿部賢一
事務課長 佐藤碧
論說委員兼外國通信部顧問 布施勝治
論說委員 川邊眞藏
同 永戸政治
同 石川欣一
整理部長 高田元郎
同副部長 高杉孝二郎
同 藤原勘治
政治部長 久富達夫
同副部長 阿部勇
同 山本彥三郎
調査部長 黑田乙吉
內國通信部長 堤爲章
同副部長 佐藤勇生
同 下長根澄
外國通信部長 植山義太郎
同副部長 長野敏夫
同 馬場秀夫
東亞課長 吉岡文六
社會部長 伊藤金次郎
同副部長 岩崎榮
同 伊東貫一
同 青木槐三
同 金子義男
運動部長 黑澤巳之作
經濟部長 西野入愛一
同副部長 三俣淺治郎
同 神田五雄
エコノミスト編輯次長 木村孫八郎
學藝部顧問 菊池寬
學藝部副部長 永戸俊雄
聯絡部長 小室秀雄
同副部長 兒玉秀雄
整理部次長 青木正
政治部長 小田島定吉
社會部長心得 小田島定吉
編輯局次長兼整理部長兼社會部長心得 鳥澤武司
同 佐藤新衛
同編輯局長兼經濟部長 小汀利得
同工務部長、臨時印刷部長事務取扱 中村菊之助
同大阪出張所長 阪田國三郎
經理部長兼計算課長心得 武司
理事總務局長兼人事、文書課長事務取扱 谷大浩
同營業局長 佐藤新衛
同編輯局長兼經濟部長 小汀利得
同工務部長、臨時印刷部長事務取扱 中村菊之助
同大阪出張所長 阪田國三郎
取締役 佐藤三郎
同 明渡泰次郎
理事總務局長兼人事、文書課長事務取扱 谷大浩
同營業局長 佐藤新衛
同編輯局長兼經濟部長 小汀利得
社長 田中都吉
常務取締役記事檢査部長 村上幸平
取締役 佐藤三郎
同 明渡泰次郎
理事總務局長兼人事、文書課長事務取扱 谷大浩
同營業局長 佐藤新衛
同編輯局長兼經濟部長 小汀利得
同工務部長、臨時印刷部長事務取扱 中村菊之助
同大阪出張所長 阪田國三郎
經理部長兼計算課長心得 武司
編輯局次長兼整理部長兼社會部長心得 小田島定吉
整理部次長 青木正
政治部長 兒玉秀雄

●中央新聞社

取締役社長 堀川勝造
同編輯局主幹兼政治部長 中島忠之
同經理部長 酒井喜知
同營業部長兼廣告部長 田上市太郎
同編輯局長 德光衣城
監査役 松野鶴平
同 小笠原貫橘
社會部長 玉川惠
整理部長 前川婦夫
經濟部長 四野宮伸吉
商況部長 桑野豐助
地方部長 岡村良爾
政治部次長 井上正雄
販賣部長兼社長秘書 米谷光次
庶務部長兼社長秘書 米谷光次
販賣部市內課長 渡邊敬吉
廣告部次長 小林均一
工場長 高山初二

●中外商業新報社

社長 田中都吉
常務取締役記事檢査部長 村上幸平
取締役 佐藤三郎
同 明渡泰次郎
理事總務局長兼人事、文書課長事務取扱 谷大浩
同營業局長 佐藤新衛
同編輯局長兼經濟部長 小汀利得
同工務部長、臨時印刷部長事務取扱 中村菊之助
同大阪出張所長 阪田國三郎
經理部長兼計算課長心得 武司
編輯局次長兼整理部長兼社會部長心得 小田島定吉
整理部次長 青木正
政治部長 兒玉秀雄
販賣部市內課長 渡邊敬吉
廣告部次長 小林均一
工場長 高山初二

●時事新報社

取締役會長 松岡正男
取締役營業局長 前田久吉
同 石河幹明
監査役 島田乙駒
同 勝本鼎一
主筆 板倉卓造
編輯局長 西澤英一
編輯次長兼地方部長 狩野正夫
同兼經濟部長 奥野平
編輯局勤務 松本武雄
社說部長 近藤操
整理部長 紺野四郎
同副部長 西川重三
寫眞課長 和田久
檢閱課長 森正雄
政治部長 井谷幸德
同副部長 眞木慶治
松田義致
金子八郎

●國民新聞社

取締役社長 志岐守治
取締役會長 大島宇吉
代表取締役主幹 田中齊
會計部長 生駒重彥
校正部長 大島一郎
營業局長兼廣告部長 澤木元雄
地方部長兼庶務部長 岡田伊三郎
菊地健
鯉淵三宅健壽
玉置德三
同 本田親男
同副部長 伊佐宗太
同 田中伸丈
寫眞部長 北尾鐐之助
同副部長 牛田義士
運動部長 鈴木三郎
同副部長 小野三千麿
經濟部副部長 伊藤修
エコノミスト編輯長 佐藤善郎
同 木村孫八郎
學藝部顧問 菊池寬
同 西村眞琴
客員 柳宗悅
學藝部長 大竹憲太郎
同副部長 渡邊均
同 高原慶三
聯絡部長 大原武夫
同副部長 君島知德
同 瀨口正央
電務課長 佐藤與一
校正部長 柳澤茂
同副部長 馬場由三
同 中西靜麿
特報課長 和氣律次郎
英文大每編輯長 毛利八十太郎
同 北村守光
同 佐藤釼之助
同事務 正富笑入
同 夏目秋一
京都支局長 岩井武俊
神戸支局長 井上輝二
滿洲通信總局長 楠崎觀一
紐育支局長 栗山長次郎
西部總局長 藤井公平
同整理部長 加茂勝雄
同地方部長 楠五郎
同聯絡部長 福島乾
同校正部長 清水可次
同營業局長兼販賣部助役 佐田西吉
同印刷部長 新谷重造
名古屋支局長 持田賢士
同整理部長 角井龍之助
同待遇 小西惠次郎
同社會部長 顯考與一
同庶務課長 芥川壽作
營業局次長兼會計部長 武田榮
販賣監理 七海又三郎
同部長 鹿倉吉次
同助役 中坪八重藏
計算課長 平野太郎
同 平田潤次郎
同 中野美樹
送遞課長 淺利末四郎
廣告部顧問 瀨戸保太郎
同部長 清澤巖
同助役 林嘉一
同 井田直二
整理課長 佐野卯平
案內課長 池田壽
校正課長 小野一郎
計算課長 千早嗣郎
東京駐在助役 辻本寬治
同 藤本安治
庶務部長兼人事課長 久保田辰彥
同助役 林賢一
同 立牛靜雄
會計部助役 彌津清
同 山口一藏
廣告部次長 中島祐文
印刷部長兼印刷場長 芳朗
同助役 浦田多賀義
活版場長 武田菊松
鉛版場長 龍野照吉
寫眞製版場長 館林武夫
取締役社長 上野精一
取締役會長專務取締役 村山長擧
取締役副社長 下村宏
專務取締役 辰井梅吉
常務取締役主筆 高原操
同 石井光次郎
同 緒方竹虎
取締役 小西勝一
同編輯局顧問 岡野養之助
同編輯局顧問 九州支社長 原田棟郎
同航空部長 美土路昌一
同副部長 玉置德三
同 本田親男
同 伊佐宗太
同 田中伸丈
同 北尾鐐之助
同副部長 牛田義士
運動部長 鈴木三郎
同副部長 小野三千麿
經濟部副部長 伊藤修
寫眞部長 宮下政雄
同副部長 木村茂
營業局長兼廣告部長 菊地健
校正部長 三浦達雄
會計部長 三宅健壽
寫眞部長代理 福井米吉
學藝部長 尾關岩二
販賣部長 青木茂
廣告部長 宮下政雄
會計部長 小野二郎
寫眞部長代理 福井米吉
內國通信部長 廣瀨藏
同副部長 北野吉內
營業局長兼庶務部長 武藤貞一
同 八木長人
同 矢野源太郎
同 永川俊美
整理部長 上岐善麿
同 前田多
同 北野吉內
同 武藤貞一
同 八木長人
同 矢野源太郎
同 永川俊美
電信電話課長 吉岡助次郎
政治部長 野村秀雄
同 香月保
同 細川隆元
經濟部長 白石幸三郎
同 今井純
社會部長 尾坂與市
同 宮崎志朗
同 福馬謙造
同 伊東盛一
外報部長 町田梓樓
通信部長 木村東
同 矢島八洲夫
同 稻庭謙治
出版編輯部長 星野辰男
同 中里富次郎
同 羽田三吉
同 坂崎坦
學藝部長 丸田一郎
同 伊東圭一郎
運動部長 小高吉三郎
同 植村陸男
校閱部長 眼部龜三郎
同 久保田榮吉
寫眞部長 谷口德次郎
庶務課長 廣瀨爲次郎
販賣部長 高田廣海
同 田畑忠治
同 田中一郎
廣告部長 新田宇一郎
同 杉井初太郎
同 平岡國雄
大朝支部長 田中幸太郎
會計部長 杉江潤治
同 久保田榮吉
庶務部長 都築直三
印刷部長 久野八十吉
同次長兼庶務課長 拓大雄
技術部長 江崎達夫
同 次長 藤三郎
顧問 米田實
同 牧野輝智
同 前田
同 上岐善麿
同 北野吉內
同 武藤貞一
同 八木長人
同 矢野源太郎
同 永川俊美
電信電話課長 吉岡助次郎
政治部長 野村秀雄
同 香月保
同 細川隆元
經濟部長 白石幸三郎
同 今井純
社會部長 尾坂與市
同 宮崎志朗
同 福馬謙造
同 伊東盛一
外報部長 町田梓樓
通信部長 木村東
同 矢島八洲夫
同 稻庭謙治
出版編輯部長 星野辰男
同 中里富次郎
同 羽田三吉
學藝部長 坂崎坦
同 丸田一郎
調査部長 伊東圭一郎
同 小高吉三郎
運動部長 植村陸男
同 眼部龜三郎
校閱部長 久保田榮吉
寫眞部長 谷口德次郎
庶務課長 廣瀨爲次郎
販賣部長 高田廣海
同次長兼發送課長 堀川光彌
同 田畑忠治
同 田中一郎
同(岩月專務) 小村順之助
廣告部長 新田宇一郎
同 杉井初太郎
同 平岡國雄
大朝支部長 田中幸太郎
會計部長 杉江潤治
同次長兼用度課長 谷口貞岡
庶務部長 都築直三
印刷部長 久野八十吉
同次長兼庶務課長 拓大雄
同 江崎達夫
同 藤三郎
顧問 米田實
同 牧野輝智
同 前田
同 上岐善麿
同 北野吉內
同 武藤貞一
同 八木長人
同 矢野源太郎
同 永川俊美
電信電話課長 吉岡助次郎
政治部長 野村秀雄
同 香月保
同 細川隆元
經濟部長 白石幸三郎
同 今井純
社會部長 尾坂與市
同 宮崎志朗
同 福馬謙造
同 伊東盛一
外報部長 町田梓樓
通信部長 木村東
同 矢島八洲夫
同 稻庭謙治
出版編輯部長 星野辰男
同 中里富次郎
同 羽田三吉
學藝部長 坂崎坦
同 丸田一郎
調査部長 伊東圭一郎
同 小高吉三郎
運動部長 植村陸男
同 眼部龜三郎
校閱部長 久保田榮吉
寫眞部長 谷口德次郎
庶務課長 廣瀨爲次郎
販賣部長 高田廣海
同次長兼發送課長 堀川光彌
同 田畑忠治
同 田中一郎
廣告部長 新田宇一郎
同 杉井初太郎
同 平岡國雄
大朝支部長 田中幸太郎
會計部長 杉江潤治
同次長兼廣告部長 福田英助
主筆 山本博信
朝主幹 福田恭助
顧問 大谷誠夫
遲塚金太郎
同 山口重明
同 井上健太郎
案內課長 伊原敏郎
同 井上健太郎
同 渡邊英夫
同 服部鋌三
同 野口義明
同 高岡敬壽
同 上泉秀信
同 相原熊太郎
同 蜂鳥尙志
同 山名信之助
同 佳井本次
同 玉置德三
同 本田親男
同副部長 伊佐宗太
同 田中伸丈
寫眞部長 北尾鐐之助
同副部長 牛田義士
運動部長 鈴木三郎
同副部長 小野三千麿
經濟部副部長 伊藤修
寫眞部長 宮下政雄
同副部長 木村茂
營業局長兼廣告部長 菊地健
校正部長 三浦達雄
會計部長 三宅健壽
寫眞部長代理 福井米吉
學藝部長 尾關岩二
販賣部長 青木茂
廣告部長 宮下政雄
會計部長 小野二郎
寫眞部長代理 福井米吉

●都新聞社

社長 山本博信
主幹 福田英助
朝主幹 大谷誠夫
顧問 遲塚金太郎
同 山口重明
同 井上健太郎
同 伊原敏郎
同 渡邊英夫
同 服部鋌三
同 野口義明
同 高岡敬壽
同 上泉秀信
同 相原熊太郎
同 蜂鳥尙志
同 山名信之助
同 佳井本次
同 玉置德三
同副部長 伊佐宗太
同 田中伸丈
寫眞部長 北尾鐐之助
同副部長 牛田義士
運動部長 鈴木三郎
同副部長 小野三千麿
經濟部副部長 伊藤修
寫眞部長 宮下政雄
同副部長 木村茂
營業局長兼廣告部長 菊地健
校正部長 三浦達雄
會計部長 三宅健壽
寫眞部長代理 福井米吉
學藝部長 尾關岩二
販賣部長 青木茂
廣告部長 宮下政雄
會計部長 小野二郎
寫眞部長代理 福井米吉

通信社及廣告代理業

●日本電報通信社

取締役社長兼總務部長兼大阪支社長 光永星郎
常務取締役營業部長 光永眞三
同通信部長 上田碩三
取締役 能島迪
同 松野鶴平
同 永江眞輔
常任監査役 曾我祐邦
監査役 原田德次郎
同通信課長 中根榮
理事計算課長 坂本俊一郎
同會計課長 安藤彪雄
同用度課長 元永盛美
同調査課長 勝木常雄
電送寫眞課長 伊藤永止
理事寫眞課長 安田禎文
同中央內勤課長 下源一郎
同中央外勤課長 栗原廣
地方內勤課長 平林庸男
理事大阪支社總務課長 吉川義章
大阪支社經理課長 每木一八
同通信課長 潮海秀之助
理事大阪支社營業課長 岩子龍太郎
同名古屋支局長 鹿子木日出雄
同臺灣支局長 中島喜一
同上海支局長 下條雄三
同總務課長 齋豐三郎
理事 小野田正
同 神子島梧郎
同 藤井祥正
專務理事 岩永裕吉
理事(報知) 寺田四郎
同(東日) 高石眞五郎
同(東朝) 緒方竹虎
同(中外) 田中都吉
同(大每) 岡實
同(大朝) 下村宏
同(國民) 田中齊
同(時事) 西澤英一
同(小樽) 矢上巳久三郎
同(神戸) 和田恒彥
同(高知) 野中楠吉
同(山陽) 岡本佐市
同(信每) 小坂武雄
同(東奧) 山田金次郎
同(九日) 森田久
總支配人兼總務局長兼經濟局長 古野伊之助
庶務部長 大川幸之助
會計部長 石部幸弋
不破瑳磨太
業務局長 折橋慶治
業務部長 石井衛太
庶務課長 木村哲三
中央部長 栗田貞一郎
地方課長 伊原敏郎
外勤主任 後藤庄太
寫眞部長 不動健治
撮影主任 中田義次
藥務主任 牛腸五郎
內信局次長 長林寗藏
政治部長 大平安孝
社會部長 岡村二一
運動部長 宮木昌常
演藝部長 松村良三
特信部長 天野良知
學藝部長 粕谷源藏
地方部長 長林寗藏
演藝顧問 桑野正夫
政治部次長 萩野伊八
同 福田一
社會部次長 栗林農夫
地方主任 近藤公一
外信局長兼英文部長 相良左
外經部長 長谷川才次
川島信太郎

●新聞聯合社

專務理事 岩永裕吉
理事(報知) 寺田四郎
同(東日) 高石眞五郎
同(東朝) 緒方竹虎
同(中外) 田中都吉
同(大每) 岡實
同(大朝) 下村宏
同(國民) 田中齊
同(時事) 西澤英一
同(小樽) 矢上巳久三郎
同(神戸) 和田恒彥
同(高知) 野中楠吉
同(山陽) 岡本佐市
同(信每) 小坂武雄
同(東奧) 山田金次郎
同(九日) 森田久
總支配人兼總務局長兼經濟局長 古野伊之助
庶務部長 大川幸之助
會計部長 石部幸弋
不破瑳磨太
業務局長 折橋慶治
業務部長 石井衛太
庶務課長 木村哲三
中央部長 栗田貞一郎
地方課長 伊原敏郎
外勤主任 後藤庄太
寫眞部長 不動健治
撮影主任 中田義次
藥務主任 牛腸五郎
內信局次長 長林寗藏
政治部長 大平安孝
社會部長 岡村二一
運動部長 宮木昌常
演藝部長 松村良三
特信部長 天野良知
學藝部長 粕谷源藏
地方部長 長林寗藏
演藝顧問 桑野正夫
政治部次長 萩野伊八
同 福田一
社會部次長 栗林農夫
地方主任 近藤公一
外信局長兼英文部長 相良左
外經部長 長谷川才次
川島信太郎

●大阪朝日新聞社

取締役社長 上野精一
取締役會長專務取締役 村山長擧
取締役副社長 下村宏
專務取締役 辰井梅吉
常務取締役主筆 高原操
同 石井光次郎
同 緒方竹虎
取締役 小西勝一
同編輯局顧問 岡野養之助
同編輯局顧問 九州支社長 原田棟郎
同航空部長 美土路昌一
同副部長 玉置德三
同 本田親男
同 伊佐宗太
同 田中伸丈
寫眞部長 北尾鐐之助
同副部長 牛田義士
運動部長 鈴木三郎
同副部長 小野三千麿
經濟部副部長 伊藤修
寫眞部長 宮下政雄
同副部長 木村茂
營業局長兼廣告部長 菊地健
校正部長 三浦達雄
會計部長 三宅健壽
寫眞部長代理 福井米吉
學藝部長 尾關岩二
販賣部長 青木茂
廣告部長 宮下政雄
會計部長 小野二郎
寫眞部長代理 福井米吉

同副部長 阿部勇
同 山本彦三郎
調査部長 黒田乙吉
內國通信部長 堤爲章
同副部長 佐藤勇生
同 下長根澄
外國通信部長 楠山義太郎
同副部長 長野敏夫
同 馬場秀夫
東亞課長 吉岡文六
社會部長 伊藤金次郎
同副部長 岩崎榮
同 伊東貫一
同 青木槐三
同 金子義男
運動部長 黒澤巳之作
經濟部長 西野入愛一
同副部長 三俣淺治郎
同 神田五雄
エコノミスト編輯次長 木村孫八郎
學藝部顧問 菊池寛
學藝部副部長 永戸俊雄
聯絡部長 小室秀雄
同副部長 落合廉一
校正部長 弓館芳夫
寫眞課長 大野木繁太郎
特報課長 重信嵩雄
英文毎日編輯次長 正富笑人
横濱支局長 小坂新夫
營業局次長 岸井壽郎
販賣監理兼販賣部長 七海又三郎
販賣部助役 一宮毅
同 小林龜千代
計算課長 永井龜一
管理課長 横山慶太郎
同助役 後藤辨吉
同 木元規矩男
遞送課長 堀江實
同助役 松岡稔
廣告部長 島田昇平
同助役 原爲雄
同 伊喜見積吉
同 見谷藤一
同大阪駐在助役 飯守勘市
同 三原勝英
考案課長 豐田兼助
庶務部助役 岡野秀治
會計部長 中田善作
同助役 大石拯
計算課長 遠藤喜寛
印刷部長 大森富
同助役兼印刷場長 本澤保次郎
印刷部助役 伊部與三郎
活版場長心得 田代辰三
鉛版場長 久代兼藏

●東京大勢新聞社

社長 關伊右衛門
編輯主任兼社會部長 細井貞吉
政治部長 西村虎一
營業局次長 高橋五郎
廣告部長 田村悌治
販賣部長 加藤政男
工場長 前田幸郎

●東京毎日新聞社

社長 千葉博己
副社長 大野伴睦
政治部長 小島榮一
社會部長 小木曾貞夫
學藝部長 高澤初太郎
家庭部長 長井總太郎
廣告部長 松尾敬二
販賣部長 新井辰次郎
會計部長 前田富治

●東京毎夕新聞社

名譽社長 出口王仁三郎

販賣部…長 米谷光次
販賣部市內課長 渡邊敬吉
廣告部次長 小林均一
工場長 高山初二

●中外商業新報社

社長 田中都吉
常務取締役記事檢査部長 村上幸平
取締役 佐藤三郎
同 明渡泰次郎
理事總務局長兼人事、文書課長事務取扱 大谷浩
同營業局長 佐藤新衛
同編輯局長兼經濟部長 小汀利得
同工務部長、臨時印刷部長事務取扱 中村菊之助
同大阪出張所長 阪田國三郎
經理部長兼計算課長心得 鳥澤武司
編輯局次長兼整理部長兼社會部長心得 小田島定吉
整理部次長 青木正
政治部長 兒玉秀雄
同次長 伊元富爾
經濟部次長 福島俊雄
同 田中仁
社會部次長 佐々木英夫
市場部長 井尻一閃
同次長 菊池太一
連絡部長 細野元吉
調査部長 前田梅松
校正部長 勝川喜之助
販賣部長 櫟原五朗
廣告部長 小島良三
事業部長參事 外狩顯章
庶務課長事務取扱 豐田福次郎

●讀賣新聞社

社長兼營業局長 正力松太郎
顧問 小野瀬不二人
編輯局長 柴田勝衛
主筆兼外報部長 高橋雄豺
整理部長 長沼欽一
同 門田武雄
同次長 渡貫良治
同 三浦薫雄
同 佐々木金治
同 竹中延壽
政治部長 四方田義茂
同次長 安藤豐
同 板津直光
同 金近靖
經濟部長 安田庄司
同次長 小島文夫
經濟部顧問 山崎靖純
社會部長 宮崎光男
同次長 中滿義親
同 鵜澤幸治
外報部次長 鈴木東民
通信部長 佐々政德
同次長 岡田彦七郎
寫眞部長 眞柄秋德
同次長 藤澤善吉
製版部長 木村定次郎
同次長 池上義雄
校正部長 三苫亥吉
同次長 櫻井永治
婦人部長 平野善之助
同次長 村上正雄
運動部長 市岡忠男
同次長 星野龍猪
同 小野猿雄
運動部顧問 河野安通志
學藝部長 清水彌太郎
ラヂオ部長 吉本明光
調査部長 土岐直彦
漫畫部長 村上俶
營業局庶務課主任 船橋利富三

營業局長 蜂島尚志
廣告部長 山名信之助
販賣部長 住井本次

●時事新報社

取締役會長 松岡正男
取締役營業局長 前田久吉
取締役 速水篤治郎
同 石河幹明
監査役 島田乙駒
同 勝本鼎一
主筆 板倉卓造
編輯長 西澤英一
編輯次長兼地方部長 狩野正夫
同兼經濟部長 奥野平
編輯局勤務 松本武雄
社説部長 近藤操
整理部長 紺野四郎
同 西川重三郎
同副部長 和木本久
同 森正雄
寫眞課長 井谷幸德
檢閲課長 眞木慶治
政治部長 松田義致
同副部長 金子八郎
經濟部副部長 増田貞祐
社會部長 佐藤喜一郎
同副部長兼家庭課長 山田寛司
運動部長 野坂三郎
連絡課長 横山五平太
編輯庶務課長 細越政夫
營業局次長 佐藤卯兵衛
販賣部長 原澤吉三郎
同次長 井上良之助
市內課長 根本德重
地方課長 渡邊武雄
發送課長 片上勝
事業部長兼工務部長 尾崎正文
廣告部長 春名正己
同副部長 平澤源三
同 齋藤德松
外交課長 直居史郎
案內課長 堤卯之助
庶務課主任 太田臨一郎
經理部長兼秘書課長 榊原福壽
會計課長 白崎欣平
計算課長 遠藤亥織
用度課長 安重辰男
監理課長 山本暎一

●ジャパン・タイムス社

社長 芦田均
經濟部長 富田清萬
整理部長 村田五郎
營業總務 上原浦太郎
經理部長 川村彰一
販賣部長 駒井猪重
調査部長 祝幸四郎
横濱支局長 木原浦太郎
關西支社長 谷中正利

●ジャパン・アドバタイザー社

社長 ビー・ダブリュ・フライシャー
主筆 ウイルフリッド・フライシャー
編輯局長 ニコラス・ラドフォード
營業局長 ゼー・アール・ヤング

大阪の部

●大阪毎日新聞社

取締役會長 岡實
專務取締營業局長 奥村信太郎
同 吉武鶴次郎
取締役主筆兼大毎主幹兼英文大阪毎日主幹 高石眞五郎
取締役 桐島像一
同 岡崎鴻吉
同 井上周
同 渡邊千冬

同 立牛靜雄
會計部助役 彌津清
同 山口一藏
同 中島祐文
印刷部長兼印刷場長 浦田芳朗
同助役 福田多賀義
活版場長 武田菊松
鉛版場長 龍野照吉
寫眞製版場長 館林武夫

●大阪朝日新聞社

取締役社長 上野精一
取締役會長專務取締役 村山長擧
取締役副社長 下村宏
專務取締役 辰井梅吉
常務取締役主筆 高原操
同 石井光次郎
同 緒方竹虎
取締役 小西勝一
同編輯局顧問 岡野養之助
同編輯局顧問九州支社長 原田棟一郎
同航空部長 美土路昌一
同編輯局長 原田譲二
監査役(常任) 今村宗太郎
同 忠田兵造
相談役(重役待遇) 杉村廣太郎
秘書課長 五十嵐秀
文書課長 天野德三
計畫部長 大江理三郎
同次長 中村喜一郎
庶務部長兼航空部次長 久琢磨
同 新野百三郎
同 河內一彦
副主筆 和田信夫
庶務課長 原田文三郎
整理部長 千葉雄次郎
同次長 加藤祇文
同 杉山勝美
同 佐藤癸巳男
聯絡部長 淺村成功
電話課長 松村順一
校閲部長 一花健藏
同次長 弘末直誠
通信部長 內田眞吾
同次長 神谷十三
同 藤本菊一
外報部長 岡本鶴松
同次長 伊藤七司
東亞部長 神尾茂
同次長 中村桃太郎
經濟部長 白川威海
同次長 田中愼次郎
統計課長 岡崎主計
社會部長 木村豐二郎
同次長 多賀吉
同 平井常次郎
同 鈴木常吉
寫眞部長 松本健
同次長 山本彦一
調査部長 小林次郎
運動部長 東口眞平
同次長 中尾濟
學藝部長 小倉敬二
出版編輯部長 大道弘雄
同次長 栗林貞一
營業局長兼販賣部長 刀禰館正雄
販賣部次長 松下清三郎
同 夏目小一郎
同 大塚貞三
發送課長 山崎長太郎
廣告部長 天野四郎
同次長 木村己之吉
同 中村春三
東京支部長 田中幸太郎
會計部長 福田米吉
同次長兼用度課長 德本侃二郎
同 中西常夫
業務局長 不破瑳磨太
業務部長 折橋慶治
庶務課長 石井衛太
中央部長 木村哲三
地方課長 栗田貞一郎
外勤主任 後藤庄太
寫眞部長 不動健治
撮影主任 中田義次
業務主任 牛腸五郎
內信局次長 長林甯藏
政治部長 大平安孝
社會部長 岡村二一
運動部長 宮木昌常
演藝部長 松村良三
特信部長 天野良知
學藝部長 粕谷源藏
地方部長 長林甯藏
演藝顧問 桑野正夫
政治部次長 萩野伊八
同 福田一
社會部次長 栗林農夫
地方主任 近藤公一
外信局長兼英文部長 相良左
外信局次長 長谷川才次
外經部長 川島信太郎
經濟部長 小松利一
同次長 長谷部天信
商況主任 永松泰次郎
聯絡局長 鷹嘴壽
同次長 結束武二郎
發信部長 結束武二郎
發送部長 山本政常
タイプ部長 山本マツ
同 田中正三
大阪支社長 塚本義隆
關門支社長 山口巖
名古屋支社長 加藤萬壽男
上海支社長 松本重治

●萬年社

取締役社長 高木貞衛
專務取締役營業部長 中川謙三
取締役總務部長兼東京支店長 中川秀吉
同經理部長 米澤熊之進
同保險部長兼京都支店長 栗原伸
同考案部長 古谷昭
監査役 吉川三夫
相談役 高木貞二
理事(本店) 松村爲治郎
同(東京支店) 牧茂
同(京都支店) 二宮鐵
考案部顧問 加藤直士
本店外務主事 和田菊次郎
東京支店外務主事 三好克己
京都支店外務主事 齋藤莊二郎
本店考案部次長 伊島正三郎
東京支店次長 豐田富雄
秘書役 岡米洋一
同 瀧川敬雄

●京華社

取締役社長 後川晴之助
專務取締役 竹內篤志
取締役 西村留雄
同 山本林之助
監査役 大澤德太郎
同 脇田末次郎
營業課長 井上忠次
計算課長 田中勝三
東京支店長 池田一藏
大阪支店長 山室宗親
神戶支店長 西村留雄

全國通信（日刊）一覽

一、本表は東京、大阪、京都、神戸、名古屋、横濱、他各地所在主要日刊通信の一覽表である。表の諸項目は一々各社について問合せたものであるが、中には締切期日までに回答を得なかつた爲め、手許の材料によつた分も多少ある。

一、各通信配列の順序は東京、大阪、地方及び滿洲の四種に分ち、大體イロハ順による。（但し各地以下は地方別）

一、各社の記述は大體次の順序による。（括弧内の文字はそれ〴〵の略稱）

記述の順序

通信名、發行社名（社名の記入なきものはすべて通信名と同一名の社から發行される場合）、所在地、電話番號（電）、創立年月日、組織別、資本金額、政黨關係、通信種類（種類）、發行回數（回數）、販賣部數（部數）、契約新聞社數（契約）、社主、社長、副社長、專務、常務、取締役（取締）、監査役（監査）、支配人、主幹、理事、編輯局長又は編輯長（編輯）、營業局長又は營業部長（營業）、廣告部長（廣告）、支局數（支局）、全社員數（社員）、一箇月購讀料金、特別設備（特設）、兼營事業（兼營）、最近一年間の其社の記錄的事件、事業、新計畫、其他。

右以外の特殊事項も必要に應じて記入す、不用と認むるもの及び不明のものは記入せず。

一、東　京

醫事衞生　日本醫事衞生通信社　日本橋區室町四ノ一。（電）日本橋三六三四。個人經營。五萬圓。（社史）昭和六年七月創刊。（種類）醫事衞生及關係社會問題。（回數）日刊及週刊特輯。（部數）十年十月二十日現在五萬五千部（契約）四十一社。（社長）鹽澤香。（主幹）社長兼。（編輯）鹽澤榮三。（營業）渡邊直行。（廣告）三浦守治。（支局）三、（通信部）二十四。（社員）十八名。一箇月日刊五十圓、週刊六十錢。（兼營）一、醫師を讀者とする週刊「醫事衞生」刊行、二、醫事衞生關係圖書刊行、三、興信部、四、廣告代理業、五、醫界人事紹介。

■大阪所在關西支局の充實の計畫あり。

日露通信　麹町區丸ノ内三ノ二（三菱二十一號館）。（電）丸ノ内四六四四、四六四五、二七九二。創刊大正七年十一月。（種類）社會、政治、經濟其他一般。（露文及邦文）。（社主）上田森治。（社長）同。（理事）上田半治郎。（編輯）金田常三郎。（營業）上田半治郎。（支局）十五。（社員）三十名。（兼營）「日露年鑑」其他出版。

日本通信　京橋區銀座西五ノ二。（電）銀座八〇四—八〇九。（社史）創立明治二十一年二月。九年七月七日前社長添間眞學君逝く、享年七十四。個人經營。五十萬圓。（種類）政治、經濟、社會、教育、宗教。（回數）數回。（理事）水野源一郎、添間一太郎、高橋眞雄、此經春也。（支局）五。（特設）電話電信、親展通信。（兼營）廣告代理業。

日本聯合通信　麹町區内幸町一ノ六。（電）銀座二〇〇一、二〇〇二。創刊大正四年三月十五日。個人經營。二十四萬圓。（種類）政治、經濟、社會、家庭、婦人、學藝、其他一般ニュース。（回數）市内四回地方一回。（契約）三百七十社。（社長）牧胤吉。（編局）社長兼務。（營局）同。（支局）二十箇所。（社員）四十五名。一箇月二百圓。

日本經濟通信　京橋區銀座西五ノ一。（電）銀座二二四五。創立明治四十一年四月。廣告社と姉妹關係事業。（社主）湯澤精司。（主宰）大橋敏郎。（編輯局及營業局幹部）河井正、藤井國武、片山鶴吉、蒲地清、伊藤琢郎、松

下吉之助。（兼營）廣告代理業廣告社。

日本弘業通信 神田區錦町一ノ五。（電）神田二一二六—九、三一五〇。創立明治廿八年十月株式。十萬圓。（種類）社會、外電以外のもの。（回數）一回。（契約）數百。（社長）與田富藏。（專務）小川菊松。（支局）一。（兼營）廣告代理業。

日本合同通信 芝區田村町一ノ三（鳥羽ビル内）。（電）銀座六二〇二。個人經營。政友系。（社史）昭和元年創刊。（種類）政治、經濟、社會、學藝。（回數）一便。（部數）十年十月二十五日現在三百部。（契約）八十社。（社主）安藤元節。（社長）同。（顧問）勝田主計、川村竹治、熊谷直太。（相談役）小笠原三九郎。（編輯）松島羊一郎。（映畫部長）安藤太郎。（支局）二（臺北、上海）。（社員）十七名。一箇月五十圓。（兼營）映畫製作。

■『南支那大觀』（菊版二五〇頁）編纂中、『創刊十周年記念號』刊行の豫定。

日本演藝通信 日本演藝通信社。京橋區銀座西五ノ五。（電）銀座二六六八。個人經營。創刊大正十二年十月一日。（種類）演劇、映畫、音樂、演藝の記事及寫眞。（回數）一日一回。（社主）丸山耕。（社長）同（編輯）松野信太郎。（支局）京都。（社員）十四名。

日本電報通信 京橋區銀座西七ノ一。（社史）創立明治三十四年七月一日。初め電報通信社及日本廣告株式會社二部併立せるを三十九年十二月兩部を合せて株式組織とし現社名に改む現社長はその創立者たり、昭和八年十二月五日光永星郎君貴族院議員に勅選さる。株式。百萬圓（種類）政治、經濟、社會、其他一般。（回數）數回。（社長）光永星郎。（常務）上田碩三、光永眞三。（取締役）能島達、松野鶴平、永江眞鄕。（監査役）曾我祐邦、原田德次郎、中根榮。（總務）光永星郎。（通信）上田碩三。（營業）光永眞三。（支局）三十六。（特設）東京、福岡、間專用電話、同報電話、飛行機、電送寫眞。（兼營）廣告代理業。

■九年九月二十一日の颱風に長崎無電經由で被害ニュースを集め奇功を奏す。

■同十一月社員採用試驗を行ふ

■十年三月二十一日社員採用試驗を行ふ、受驗者百五十名。

■五月十六日の地方紙代表社會議に於て光永社長電聯合併問題に對し不贊成を聲明す。

■同九月五日エチオピヤ皇帝より伊エ紛爭につき親電を寄せらる。

■同九月十年版廣告研究（菊判二三五頁）發行さる。

■同十一月三日創立三十五周年記念式を擧行す。

■同十一月英文年鑑「ジャパン・イラストレーテッド」一九三五年版を發行す。

日本實業新聞 株式會社日本實業新聞社。京橋區横町三ノ五（電）京橋二五一五。株式。創刊明治三十九年故清水留吉氏創業（種類）東京府入札事項を主とし其他各官廳入札記事にも亘り官署出入請負業者への通信。（回數）日刊。（專務）黑田虎吉。（常務）岡品男。（取締役）清水豐、石川芳之介。（監査役）竹村弟吉、小野正助。（支配人兼）岡品男。（營業）岡品男。（支局）仙臺、臺灣、大連、大阪、名古屋。（社員）二十五名。一箇年十三圓。（兼營）合名會社日本實業興信所。

日刊日本運動通信 日本運動通信社。赤坂區氷川町二。（電）青山三三〇四、七八〇四。個人經營。創刊大正十三年一月十八日創刊（舊稱日刊第三通信）昭和九年一月十八日創刊滿十周年を期し通信名を舊稱「日刊第三通信」を日刊日本運動通信と改題社名も亦日本運動通信社と改む（種類）政治經濟。（部數）昭和九年十一月一日現在三百部。（契約）六十社。

日刊千代田通信 京橋區銀座西八ノ七。（電）銀座三六〇三、六四二一。個人經營。（社史）大正二年四月十二日創立。（種類）宮廷通信、政治、經濟、宗教、社會、其他。（社長）吉田益三。（總務）八幡博堂。（編局）同。（社員）五十五名。

■十年八月創業二十五周年を機會に漫畫企劃部、商業美術部を

新設す。

日刊婦女通信 日本婦女通信社。牛込區市谷田町三ノ八。（電）牛込三二三〇。一萬圓。創刊明治四十五年六月。（回數）一回以上。（部數）十年十月二十一日現在六十二部。（契約）二十二社。（社主）佐藤順造。（社長）同。（編輯）石井彰。（支局）一。（社員）五名。一箇月五十圓。（兼營）結婚調査。

日刊基督教新聞 基督教通信社。神田區美土代町青年會館。（電）神田二一〇五—八。（社史）昭和六年五月日刊通信として發行したるもの昭和十年六月より日刊新聞として發行す。（社主）長尾半平。（社長）村尾昇一。一箇月五十錢。

日刊社會事業通信 麴町區内幸町一ノ五。（電）銀座一八七二。個人經營。三萬圓。（社史）我國に於ける社會事業の重要性に鑑み、社會事業概說に關する嚴正なる批判を試みるため昭和八年十一月二十日創刊。（種類）一般社會記事、重に社會事業方面。（回數）一日數回。（部數）昭和十年十一月二十日現在事業團體五百部其他二百部。（契約）東京市十五、地方五十社。（社主）留岡安男。（社長）同。（主幹）同。（理事）吉川兼光、馬場龍海、加藤義高。（編輯）馬場龍海。（營業）小野木千枝。（廣告）金井慶重。（支局）大阪、京都、仙臺、札幌、福岡。（社員）二十五名。一箇月新聞社三十圓、事業團體五圓。（兼營）興信部（月二回部報發行）。

■昭和十年十月二十三日第八回全國社會事業大會に數十頁に亘る記念號を發刊全國に配布をなす。

■昭和十一年新計畫として通信社事業部に於て實費肺結核療養所設置を目下計畫中なり。

日刊寫眞通信 寫眞通信社。京橋區銀座西五ノ二。（電）四五三、九三三、六五一六。合資。五萬圓。創刊明治三十八年五月廿七日。（種類）政事、經濟、時事記事に寫眞添附。（回數）毎日數回。（社主）福澤七五郎。（社長）同。（支配人）林友三郎。（主幹）宮川克己。（編輯）井上博史。（營業）横山憲次。（社員）三十八名。一箇月五十錢。（持設）寫眞製版部

日刊新聞合同通信 新聞合同通信社。芝區田村町一六。（電）芝二三一六、二三二〇。個人經營。三萬圓。（創刊）大正十五年九月十五日。萬朝報經濟部退職と共に株式商況初め經濟中心のニュース供給の目的を以つて古森貞久が創刊せるもの。（種類）經濟、政治、社會一般を初め殖民地通信。（回數）三回乃至六回。（部數）昭和九年十一月廿九日現在新聞社、銀行會社百三十部。（契約）六十八社。（社主）古森貞久。（社長）同。（主幹）高下重平。（編局）同。（編部）小野克巳。（營業）鈴木春吉。（廣告）同。（支局）内地八箇所殖民地十箇所。（社員）三十六名。一箇月百圓。（設備）殖民地研究所、經濟問題研究會、デヤーナル倶樂部。（兼營）圖書出版業、浩進社經營。

日蘇通信 麴町區丸ノ内丸ビル三一六區。（電）二〇三三、一九七五、三八一一、三八一二。株式。十五萬圓。（社史）露西亞通信社創立（大正十五年二月十一日）と同時に露西亞通信發行、昭和九年六月二十五日株式會社日蘇通信社と改組同時に日蘇通信と改題引續き發行。（種類）東京版、哈爾賓版。（回數）一日一回。（代表取締役）近藤義晴。（支局）六箇所。（社員）四十名。一箇月五十圓。

■月刊雜誌「月刊ロシヤ」發刊、全國對露問題講演會（毎年一回實施）。

保險日日通信 保險と銀行社本郷區湯島一ノ九。（電）下谷二六二。合資。十萬圓。（創刊）明治四十二年九月十日。（種類）保險に關する記事。（回數）日刊。（部數）九年十月現在一萬五千部（社長）鈴木啓次。（編輯）辻長次郎。（營業）木村半山。（生命保險）渡邊武。（損害保險）森田嘉助。（支局）十六。（社員）三十五名。一箇月一圓。

豐國通信 豐國通信社京橋區銀座西五ノ四。（電）銀座一八一〇、一三七七、一三七八。個人經營。二十萬圓。（社史）明治二十二年二月創立週刊豐國誌並に日刊豐國新聞經營等の社史あり。（種類）保險に關する記事

並に政治經濟。(回數)一日一回。(部數)昭和十年十月現在五百餘部。(契約)保險會社並新聞社。(社主)谷口武雄。(社長)同。(營業)片山直文。(理事)鈴木悅三、大矢良太郎。(編輯主任)青柳義孝。(社員)三十五名。一箇月百圓。(兼營)廣告代理業。

■十年三月編輯長中村耕造君逝き青柳義孝君後任となる。

東邦通信　神田區駿河臺三ノ三。(電)神田六〇一。創刊大正十五年二月十八日。隔名。(種類)政治、經濟外一切社會記事。(回數)二。(部數)昭和八年九月末日現在二百部。(契約)二十一社。(社長)北崎房太郎。(編輯)松山幹。(支局)五箇所、(社員)二百三十五名。一箇月百圓。

東海通信　京橋區槇町一ノ一。(電)京橋一〇四五。十萬圓。(社史)創刊大正十四年一月廿日創刊以來專ら外地の紹介に努力しつゝあり。(種類)政治、經濟、外交、社會。(回數)二便乃至五便。(社主)澤佐豐次郎。(社長)安達常助。(主幹)同。(編輯)渡邊要吉。(支局)八(通信員駐在)。(社員)二十五名。一箇月百圓。(兼營)調査部事業、一週一回會員組織にて內報發行(會費月金廿圓)

■年刊「滿洲及日本外地會社要覽」年刊「外地紹介號」「南洋の横顔」等發行。

東洋通信　芝區田村町二ノ一五。(電)銀座二九〇。個人經營。創刊明治四十一年十一月十日。(種類)政治、經濟。(回數)一日五回。(部數)昭和九年十一月廿六日現在百七十部。(契約)十八社。(社主)成田榮信。(社長)同。(副社長)結城榮吉、田島誠一。(主幹)結城榮吉。(編輯)武田文雄。(營業)吉田彌四郎。(廣告)藤田實。(支局)五。(社員)二十一名。一箇月百圓。

東洋經濟通信　麴町區丸ノ內有樂町二ノ七。(電)丸ノ內一六七八、一〇二八。創刊昭和五年三月。(社長)小川清舟。(支配人)森小太郎。(廣告)林原清峯。(兼營)廣告代理業小川報告堂。

東洋公益通信　京橋區銀座西二ノ一。創立大正六年六月六日。個人經營。(種類)政治、經濟、社會。(社長)古谷慶作。(主幹)渡邊長敏。一箇月二百圓。(兼營)廣告代理業。

東亞通信　麻布區簞笥町二九。(社長)濱訓良。(兼營)廣告代理業。

東京米報　深川區佐賀町一ノ三〇。(電)本所六〇二一。創刊明治十九年。匿名組合。(部數)昭和八年十月卅日現在五千六百部。(社主)梅原保。(支配人)市原富藏。(編輯)同。(營業)後藤齋治。(廣告)岡本歲雄。(社員)四名。(特設)印刷工場經營。(職工五名)。

東京通信　京橋區槇町一ノ五城邊ビル。(電)京橋五八三、四〇六六。個人經營。(社史)創刊明治廿年三月第一次伊藤內閣の時全國新聞の政治記事を統一する目的を以て警保局長溝浦奎吾の斡旋の下に創立せられ、大正十年山口恒太郎の經營に移る。(種類)政治、經濟。(回數)三。(社長)山口恒太郎。(專務)佐藤藤一。(主幹)平井勝利。(理事)大久保頼之助。(支局)三。(社員)廿一名。一箇月百圓。(兼營)廣告代理部、出版部。

東京興信所報　日本橋區兜町二ノ五四。(電)代表茅場町二一六。創刊明治二十九年三月十六日。株式。五十萬圓。(種類)經濟。(所長)佐藤正美。(取締役)半田萬藏、菊本直次郎、最上國藏。(監査役)星埜章、森庶藏。(理事)中所眞、鵜田昌次、保脇恒吉。

東京商業興信所報　麴町區有樂町二ノ四。

東京時事　東京時事通信社。麴町區內幸町一ノ六。(電)銀座六二〇一。株式。十萬圓。創刊大正三年八月。(種類)政治、經濟、社會、婦人家庭。(回數)一日三回以上。(部數)昭和十年十月二十三日現在二百部。(契約)五十社。(社長)山本孚。(取締役)本間鄕平。(監査役)山中克巳。(主幹)浦田武男。(編輯)浦澤一男。(營業)荒川源祐。(廣告)同。(支局)二。(社員)廿六名。一箇月百圓。

特別通信　芝區琴平町二虎ノ門會館。(電)芝七三五、二三六〇。個人經營。創刊大正十一年十二月二十日。(種類)政治、經濟、社會、外交、特殊通信。(回數)一。

(部數)昭和十年十月現在二百五十六部。(契約)三十二社。(社主)木舍幾三郎。(社長)同。(理事)井澤眞之助。(主幹)千原文英。(編輯)同。(廣告)金近烈。(社員)十八名。一箇月甲種百圓、乙種五十圓。(兼營)月刊雜誌「政界往來」毎月一回發行、時事講座「カレントソート」。

獨立通信　京橋區槇町三ノ三七

朝野通信　麴町區內幸町一ノ五(電)銀座三六八二。個人經營。(社史)明治三十九年二月東京市京橋區鍋屋町に創立、關東大震災後大正十二年九月現在に移轉今日に至る、創立者前社長土居貞彌氏は政友系に屬す、昭和十年四月死亡により現社長就任。(種類)政治、經濟、財政を中心とす。(回數)日々三回。(部數)昭和十年九月現在百三十部。(契約)八十社、個人五十。(社主)金子四郎。(社長)同。(理事)小松正己。(編局)社長兼務。(編輯)二家本員史。(廣告)社長兼務。(社員)十四名。一箇月百圓。

■十年四月二十三日前社長土居貞彌君逝く、享年七十五。

中央通信　京橋區銀座西七丁目五。(電)銀座八三七、八三八、五七六六、五七六七、五七六八。株式會社正路喜社經營。資本金五十萬圓。創刊明治四十五年一月。(種類)　一般通信、特別原稿通信、漫畫通信。(回數)二回又は三回。(契約)六十五社。(社主)布屋徹吉。(社長)福澤義男。(副社長)宮澤源三郎。(主幹)井上明夫。(理事)淺田源一。(編輯)井上明夫。(營業)安田彥三郎。(廣告)黑崎雅雄。(社員)三十五名。一箇月百圓。(特設)教育映畫映寫設備。

畫役通信　京橋區銀座西八ノ一。(電)銀座一六二、一六三。創立大正六年九月。株式。十萬圓。(種類)政治、經濟、社會。(回數)四回。(社長)植村嘉三郎。(取締役)溝口信、山田嘉右衛門。(監査役)植村新之助。(主幹)村田靜。(營業)黑瀨仁策。(社員)四十餘名。(契約)市內新聞、地方十五社。(兼營)廣告代理業及出版業。

學藝通信　東京學藝通信社本鄕區湯島新花町。(電)小石川二九一二、四一六一。個人經營。(社史)明治四十五年四月五日創刊、現社主社長池田憲之助之を創立し、新聞小說の供給を兼營大正六年廣告部を設置し五年後廢止、大正十二年出版部を設置し、大正十三年寫眞通信部同製版部を設置し、昭和三年活字鑄造部を設置現在に至る。(種類)論說、學藝、女藝、婦人家庭、兒童、映畫其他一般。(回數)一回(部數)昭和十年十月十日現在四百三十五部。(契約)三百八十六社。(社主)池田憲之助。(社長)同。(副社長)池田均。(總務)同。(同次長)長澤玄光。(編部)山本三八。(企劃)新井熊雄。(營業)有馬志磨。(工務)大林大次郎。(同次長)渡邊輝信、今村初太郎。(工場數)三。(社員)五十五名。一箇月五十圓。(特設)寫眞部、寫眞製版工場、ステレオ工場、活版鑄造工場、活版整版工場、圖案部、文藝部。(兼營)新聞小說講談供給、日刊寫眞通信、日刊漫畫通信、週刊漫畫セクション、日刊圍碁通信、日刊聯珠通信、各種ポイント活字販賣、新聞印刷用インク販賣、寫眞製版、寫眞撮影、印刷機械及製版機械賣買、新聞工務員養成、「昭和通信」及「學通月報」の發行

■十年七月全七段週刊「漫畫セクション」の紙型供給を開始す

■同十月年刊新年資料發行。

■同十一月「年刊新年勅題資料」を發行。

■同同月新年附錄用双六を發行

太平洋英文通信　太平洋英文通信社。小石川區宮下町七。(電)大塚四四四、五五一四。內外人、一萬圓。創刊大正十一年五月十一日、當社は華府會議の前太平洋會議として米國邊より提唱したる名目を用ひて肩書の社名としたり。(種類)日本及太平洋沿岸の政治經濟等を英文を以つて世界の代表に通信す(大公使館に通信)(回數)日刊。(社長)奧田善穫。(理事)石井紋次郎。(編輯)テ・エル・コルトン。(廣告)同。(支局)大連。(社員)二十名。一箇月五十圓。

ダイヤモンド　株式會社經濟雜誌ダイヤモンド社。麴町區內幸町二ノ三。(電)銀座四一五五—七。株式。三十萬圓。(社史)創刊大正二年三月、石山賢

吉個人經營にて經濟雜誌「ダイヤモンド」を創刊し以後廿周年を期して株式會社（資本金十萬圓）と組織を改め（昭和八年五月）翌九年資本金三十萬圓とす。（種類）ダイヤモンド日報（日刊）レポート・ダイヤモンド（週刊）、ダイヤモンド雜誌（旬刊）。（取締役社長）石山賢吉。（取締役）安田與四郎。（監査役）阿部留太。（主幹）野崎龍七。（編輯）神長倉眞民。（廣告）富永良太郎。（支局數）一。（社員）二百名。一箇月日報五圓、レポ十圓、雜誌（一箇年）十三圓。（兼營）代理部（洋服、萬年筆、靴、藥）。

大日本通信 芝區今入町一〇（電）銀座一七六、四〇〇七。創刊大正六年十二月四日。個人經營。（種類）政治、經濟、外交等を中心とす。（回數）四回。（社主）多田滿長。（社長）同。（主幹）八田泰輔。（編輯）小室隆吉（廣告）角田實。（社員）二十名。一箇月百圓。（兼營）廣告代理業。

聯合演藝通信 京橋區銀座西八ノ七。（電）銀座三六〇三、六四二一。個人。五萬圓。創刊大正十年七月。（種類）演藝、映畫、音樂其他。（回數）數回。（契約）百三十社。（社長）桑野正夫。（部長）松村良三。（支局）各主要都市。（社員）三十名。一箇月五十圓。

内外通信 株式會社内外通信社。神田區錦町三ノ二二〇（電）神田四〇〇〇—五、五六二、一二。株式。五十萬圓。（社史）明治四十三年八月一日創刊、昭和十年一月山根眞治郎氏顧問となりその指導の下に通信部の大擴充をなす。（種類）産業、學藝、家庭その他一般。（回數）二回乃至三回。（社長）瀨木博尙。（專務）四條照信。（常務）瀨木博信。（取締役）。瀨木博政（監査役）島田和三郎。（顧問）山根眞治郎。（編輯主事）木村靖二。（編部）植原路郎。（社員）八十五名。一箇月百圓。（兼營）廣告部博報堂。

■十年一月山根眞治郎君を顧問に田原茂作君を通信部長として迎ふ。

■同一月十五日軍人會館に事業擴充披露會を行ふ。

■同四月末通信部長田原茂作君退社す。

内外調査通信 麴町八ノ二三（電）九段二三〇八。創立明治三十七年六月一日。匿名組合。一萬圓。（回數）一。（社長）關安之助。

無線時事通信 麴町區丸ノ内時事新報社内。創立昭和四年。株式。四萬圓。時事系重役海上船舶の通信を一手に供給す。

每夕通信 芝區新橋一ノ三〇。（電）銀座二二〇〇、二二〇一。創刊明治三十七年六月一日。（種類）政治、經濟、其他一般通信（契約）六十六社。（社長）丹野虎吉。（編輯）荒平治。（營業）中村次兵衛。（廣告）淺野甚吉。（支局）仙臺。（社員）二十五名。一箇月百圓。

國探 國際探訪通信社 麴町區永田町一ノ卅。（電）銀二三九。五萬圓（社史）大正十五年十月廿七日創立。（種類）人事、政治、經濟、社會問題。國際關係。（回數）二回乃至三回。（部數）十年十月一日現在五百部。（契約）百廿社。（社主）瀨尾榮太郎。（社長）同。（理事）北田正平。（編輯）鷹野喜美雄。（營業）松永祐三。（支局）十五。（社員）百二十名。一箇月三十圓。（特設）探偵部、出版部、社會部。

國際映畫通信 京橋區銀座一ノ五銀座一ビル。（電）京橋七四二二。創刊大正十三年十月。個人經營。十萬圓。（種類）映畫、演劇。（部數）八年十月二日現在三百部。（契約）百社。（社主）市川彩。（社長）同。（總務）下石五郎。（主筆）小名文一郎。（編輯）三橋哲生。（營局）總務兼任。（經濟）弓削秀。（支局）五。（社員）二十名。一箇月百圓、十圓。（特設）映畫時事ニュース、文化映畫撮影部あり。（兼營）トーキー相談所、國民文化映畫協會。

英文通信 京橋區銀座西五丁目。創立明治三十九年九月。個人經營。（種類）英文外交、政治、經濟。（社長）望月清俠。

帝國通信 京橋區銀座西五ノ二。（電）銀座四七八一。創刊明治廿一年。株式。十萬圓。（種類）一般新聞通信。（社主）富田彌平（編輯）藤村善吉。（支局）十七。

帝國興信日報 帝國興信所。京橋區新富町一ノ三。（電）

京橋三一八一—六。株式。五十萬圓。創刊明治三十三年三月三日。（種類）經濟記事を主とす。（回數）日刊。（社長）後藤勇夫。（取締役）平松莊一、中山賢一、輿石正義、中村房太郎。（監査役）後藤タマ、藤田守一。（支配人）同。（理事）取締役監査役に同じ但し後藤タマを除く）。（編輯）伊藤祐逸。（營業）藤田守一（支局）六十箇所。（社員）一千名。一箇年四十圓。（特設）信用告知の一大設備を有す。（兼營）信用、結婚調査、結婚紹介、代理業、出版業。

■九年十月號を以つて日本魂を廢刊す。

鐵道新聞 芝區田町二ノ一五。

愛國通信 麴町區内幸町一ノ五（電）銀座三五九〇、三五九一。個人經營。五萬圓。創刊大正二年十月三十一日天長節祝日。（種類）宮内省、内閣其他官廳事項並に人事。（回數）一日四回。（部數）昭和十年一月現在約百二十部。（契約）二十一社。（社主）吉田文外。（社長）同。（編輯）社長兼任。（社員）十三名。一箇月百圓。

亞細亞通信 京橋區銀座五ノ四。（電）銀座一六七〇、一六七一。創刊大正八年。合資。一萬圓。（種類）政治、經濟、時事問題、廣告。（約契）二百社。（代表社員）辻村與三郎。（社長）同。（副社長）辻村與一郎。（支局）三箇所。（社員）三十名。一箇月三十圓。（兼營）出版業。

キング特稿社 京橋區銀座西八ノ九。新聞聯合社内。（種類）海外ニュース。（社史）昭和九年十一月内地營業權を一年六千弗を以て聯合に讓渡す。

共同通信 日刊共同通信社。京橋區銀座西四ノ五。（電）京橋二六五八。創刊大正十五年十一月十五日。個人經營。（種類）政治、經濟、社會各部その他一般通信（回數）一日二回。（部數）昭和九年十一月廿六日現在三百部。（契約）東京十五新聞その他。（社主）中村靈首。（社長）同。

民衆通信 麴町區内幸町一ノ六。（電）銀座二二〇二。創刊大正十四年六月一日。民政黨。（回數）一日六回以上。（部數）八年十月末日現在四百八十部。（契約）一三二社。（社主）竹本治三郎。（社長）平川松太郎。（主幹）竹本治三郎。（編輯）東舜英。（支局）二。（社員）十七名。

自由通信 京橋區銀座西三ノ一。（電）京橋二四二、二四八、二四九、四五三〇、四四〇八、五七〇〇。創刊明治三十一年二月十一日。個人經營。政友會。（種類）政治、經濟。（回數）四回乃至五回。（契約）三十五社。（社長）小高長三郎。（相談役）小久保喜七、勝田主計、金子貞治。（主幹）岡田巽。（編輯）石崎健司。（營業）三村秀吉。（廣告）金子錄朗。（支局）一。（社員）五十六名。（兼營）出版印刷、一般廣告取扱。

商業通信 株式會社産業通信社。日本橋區蠣殼町一ノ二一。（電）自一六〇至一六九、茅場町一七二。株式。十萬圓。創刊明治三十五年八月十五日。（種類）經濟に關する通信一般。（回數）一日一回。（契約）約三十社。（常務）加賀卯之吉、服部順之助。（監査役）大野善三郎、岡島政藏。（支局）十三ヶ所。

新聞聯合 京橋區銀座西八ノ九。（電）銀座二一二一。新聞組合。大正十五年五月一日創刊（種類）内外一般通信、特信、寫眞。（回數）一日十數回。（部數）昭和十年十一月一日現在五百部（供給新聞）百五十社。（專務理事）岩永祐吉。（總支配人）古野伊之助。（理事）寺田四郎、高石眞五郎、緒方竹虎、田中都吉、和田恒彥、野中楠吉、松岡正男、下村宏、田中齊、西澤英一、矢上以久三郎、岡本佐市、小坂武雄、山田金次郎、森田久。（外信）相良左。（經濟）古野伊之助。（聯絡）鷹嘴壽。（業務局）不破琥磨太。（廣告）同。（支局）五十二。（社員）約一千名。（特設）東京福岡間專用電話線。

■九年十一月四國に進出し高松松山に支局を設置す。

■同十一月新嘉坡及びバタビアに通信部を新設す。

■十年一月より廣東に支局を開設す。

■同二月九日社員採用試驗を行ふ、受驗者二百七十名。

■同三月福岡まで專用電話線の

延長實現され、支局を九日内に置く。

■同十一月同盟通信社に改組案決定す。

新聞研究所報 新聞研究所發行。京橋區銀座西三ノ三。(電)京橋二二二五。創立大正九年九月。個人經營。(種類)新聞關係事項を中心として其他一般(所長)永代靜雄。(主幹)光用穆。(理事)中村勝治。(編輯)同。(社員)十八名。(支局)二。(契約)全國主要新聞通信廣告代理業者及廣告主其他。(兼營)宣傳顧問局、月刊「新聞大學講義錄」、年刊「日本新聞年鑑」供給部、廣告代理事務其他。

■十年二月二十七日四千號を迎ふ。

■同七月二十一日新聞研究所報社會版を發行す。

新聞文藝通信 新聞文藝社。麹町區内幸町一ノ六。(電)銀座四三七七。個人經營。(社史)昭和四年一月創立。(種類)學藝一般。(社主)川合仁。(社長)同。(社員)十二名。

■十年四月映畫部新設、映畫通信開始同五月英文通信部設立、同六月より「新聞文藝通信」(月刊)發行、同九月營業部新設、同十一月より日本學藝新聞發行。

政治經濟通信 京橋區銀座西六ノ二。大同通信社。(電)銀座四三〇二。創立大正十三年二月十日。個人經營。(種類)政治、經濟を主とし其他萬般に亘る。(回數)市内數回、地方一回。(部數)十年十一月末日現在四百二十部。(契約)百七十二社。(社長)川村源市。(理事)山田豐、吉友重壹、高尾忠平。(編輯)大場英十郎。(營業)社長兼務。(支局)横濱、大阪、樺太、其他十六。

二、大阪

日本勞働通信 勞働問題研究會發行。北區宗是町一〇、中之島ビル。創立昭和三年二月一日。合議制。(種類)國内に於ける社會運動、勞働事情、爭議その他新興運動一班。(代表社員兼編輯長)佐々木節。(理事)山尾一。(顧問)吉川武男。(支局)五。(社員)十二名。一箇月五圓。

日本經濟通信 日本織物新聞社。大阪市西區阿波座中通一ノ三八。(電)新町一〇七—八、一七〇、三一〇—一、七五〇、一七一〇、一八三〇。株式。二十五萬圓。大正六年八月創刊。(種類)三品、生糸、株式、諸糸現物、毛糸、人絹其他海外材料等。(回數)毎日二回。(社長)村井基一。(常務)速水鵬慶、矢追房太郎。(編輯)中江豊司。(營業)速水鵬慶。(社員)九十五名。(兼營)日本織物新聞。

日本綿業通信 東區北久太郎町三丁目三品ビル。創立大正二年一月八日。個人經營。(社主)木谷勝郎。(社長)同。一箇月五圓。

日刊聯合通信 日刊聯合通信社。南區南炭谷町一八。(電)南二九一六。個人經營。三萬圓。大正九年十一月十一日創刊。(種類)内外經濟及金屬狀況。(回數)日刊。(部數)九年十一月十五日現在二千五百部。(契約)五十社、外會社商店官廳。(社主)江川仁三郎。(社長)同。(主幹)沼田駒吉。(理事)小林愛治郎。(編輯)根上猛。(營業)沼田駒吉。(社員)十三名。一箇月一圓、十圓二種。(設備)寫眞部、印刷部。(兼營)印刷、見學及び史蹟調査。

日刊毎日通信 上福島北三ノ一八一。(電)福島二七三、二七四、三五六六、四六九〇。合名會社。二萬圓。創刊大正八年。(種類)金屬類相場。(回數)日刊。(社長)中川渡舟。(編輯)芦屋正男。(營業)福島脩。(廣告)南源八郎。(支局)東京、京都。(社員)五十五名。一箇月二圓、三圓半、五圓。(兼營)大阪金物新報、大阪玩具新報。

日刊教育通信 教育通信社。東區鈎鐘町二ノ二六。(電)東七九六七。個人經營。創刊昭和五年七月一日。(種類)教育時事の報導並批判。(回數)一日一回。(部數)昭和十年十月十日現在七千部。(社主)富岡秀纘。(社長)富岡勝。(編輯)川西安一。(廣告)宮地重雄。(支局)四。(社員)四十二名。一箇月七十錢。(兼營)教育年誌。

保險時報 (營業所)東區十二軒町十二軒ビル、(事務所)旭區森小路町六ノ一。(電)東二〇四三。

個人經營。政友會。(社史)保險界(生命保險損害保險を含む)の時事問題報道機關として昭和四年六月一日創刊。(種類)保險界に於ける時事問題人事異動其他一切。(回數)毎月一日一回。(部數)昭和十年十月廿五日現在五千部。(社主)加藤務良生。(主幹)同。(支局)六。(社員)十五名。一箇月六十錢。(特設)毎年人物評論特輯號發行。

■業界各社の募集材料作成。

■大阪市内各町別立體寫眞版作成の計畫中。

大阪電報通信 大阪電報通信社。北區中之島二ノ二〇。(電)代表本局五五—六、九一、九四、一九八、六〇三、六〇五、六〇五一—二。株式會社日本電報通信社分身。百萬圓。(社史)創刊明治三十九年四月、日本電報通信社の大阪支局として設置さる、前社長能島進君昭和九年二月勇退す。(種類)内外國に於ける政治、經濟、軍事、外交。(社長)光永星郎。(總務)吉川義章。(通信)潮海秀之助。(營業)岩子龍太郎。(經理)毎木一八。(兼營)廣告代理業及印刷製版。

大阪滿鮮物産日報 西區幸町一ノ八。(社長)高井保太郎。

大阪砂糖日報 南區鹽町通二ノ五。(電)船場四三二五。創立大正九年五月七日。個人經營。二萬圓。(種類)内外糖界事情及會社關係糖業方面一切。(回數)日刊二版。(部數)七年十月五日現在二千部。(社主)廣山敞康。(社長)同。(編輯)補照道。(營業)松尾豐。(廣告)同。(社員)十一名。一箇月六圓、六箇月三十圓。(兼營)印刷。

大阪三商報 東區北久太郎町三、三品ビル。(電)船場一八二一。創立昭和三年五月一日。共同養本。六千圓。(種類)大阪三品取引所公報。(回數)一回。(販賣)昭和七年九月末日現在六千八百五十枚。(代表者)堅田米造。(編輯)同。(廣告)土屋工。(社員)十二名(工場共)。一箇月三圓。

大阪共通 大阪共同通信社。旭區野江町三丁目六八。(電)東六五〇。個人。創業當時一萬圓。(社史)大正十二年二月十一日創刊、(昭和五年迄匿名の株式に投機出資を兼營)爾後業務を縮少して現狀維持。(種類)政治、經濟、思想、以上特種。(回數)日刊一回。(部數)昭和十年十月一日現在二百五十部。(契約)二十七社。(社主)伊東浩逸。(社長)同。(社員)五名。一箇月五圓。(兼營)住宅地設定。

大阪商通 大阪商業通信社發行。北區堂島中一ノ二六。(電)北五三一三。創刊大正十三年七月二十日。株式。十萬圓。(種類)社會經濟に關する諸般の通信。(回數)一回。(部數)昭和八年十月二日現在二千部。(契約)十五社。(社長)潮先藤次郎。(專務)石橋久吉。(常務)赤星熊太郎。(取締)朝田庄助、森岡儀藏。(監査役)中谷作太郎。(支配人)武下勇平。(支局)五。(社員)二十五名。一箇月一圓。(特設)市内專用電話六臺。(兼營)取引所豫約電話通信、金融。

大阪肥料新聞 西區靱上通二ノ二一。(電)土佐堀五二一、二六〇一。個人經營。(社史)大正五年肥料商組合機關紙として旬刊大阪肥料商報創刊、大正十二年日刊通信を增刊、大正十四年魏日刊新聞に改め同時に改題社名改稱す。(種類)肥料、飼料、是に關する時事問題。(回數)日刊。(部數)十年十月二十一日現在三千五百部。(社主)澁谷覺藏。(編輯)山西清藏。(社員)五名。一箇月一圓五十錢。

藥石日報 株式會社藥石日報社。西區江戸堀下通三ノ三五。(電)土佐堀一〇五九、五〇五〇。株式。十萬圓。創刊大正五年二月十一日。(回數)日曜、祭日の外毎日。(社長)安東忠治郎。(專務)安東長義。(取締役)小西喜兵衛、宗田新次郎、伊藤千太郎。(監査役)松田卯之松、瀧野勇。(編輯)三ッ橋邦治郎。(營業)久保壽。(廣告)小川信造。(支局)東京、福岡、長崎、大連。(社員)三十七名。一箇月八十錢。(兼營)藥石新報社。

帝國興信日報(關西版) 帝國興信所大阪本部。西區江戸堀南通一ノ三三。(電)土佐堀六三五五、三八〇〇—三。株式。五十萬圓。(社史)明治三十三年創刊前所長故後藤武夫の個人經營を

大正十一年株式會社となし現在全國六十餘の本支所と一千の所員を有す。(種類)一般經濟市況並法人の營業狀態事業上の破信行爲不動產の賣買讓渡抵當權の設定等を報導す。(回數)日刊。(部數)昭和十年十月廿日現在三萬五千部。(契約)三十七社。(社長)後藤勇夫。(取締役)平松莊一、高松信藏、中島久次郎、中山賢一、與石正義、山野德一郎、中村房太郎、杉本利雄。(監査役)藤田守一、後藤タマ。(編輯)岡田篤尙。(支局)三十七箇所。一箇年四十圓。(兼營)興信事業。

有價證券市場日報 東區今橋二ノ一。(社長)小川清次。

商業興信所日報 株式會社商業興信所。東區北濱三ノ七ノ甲。(電)北濱六六三—五、一六〇四、四〇七七、六四三〇、六三三〇。株式。五十萬圓。(社史)創刊明治四十二年三月、當所は信用告知業を事業とし新聞紙發行は其附隨業務たり、然して信用告知業は明治二十五年四月大阪の元老外山脩造氏の發企創設にして本邦斯業の鼻祖なり、又興信所なる名詞は外山氏の案出たり爾來今日に至る。(種類)財界事項。(回數)日刊。(取締役所長)阿部直躬。(常務)板原兵三郎。(取締役)外山捨造。(監査役)蘆田安一。(支局數)支所出張所三十數ケ所あるも信用告知業專業なれば日報關係なし。

新聞聯合 新聞聯合社大阪支社發行。北區中之島二ノ二五。(電)代表本局九七五。

人絹協會ニュース 西區土佐堀通り一ノ一。(社長)阿部正文。

三、地方

京都

日本電報通信 日本電報通信社京都支局の發行。京都市上京區椹木町通り烏丸西入奏安町。(社長)光永星郎。(支局長)青島秀德。(社員)六名。

日刊**社會通信** 社會通信社。京都市左京區吉田下大路町四五。(電)上五九六四。一萬五千圓。(社史)昭和三年八月三十一日皇道主義による修友人會、機關新聞として改善新聞發行、爾來月刊より週刊、五年九月二十九日より日刊、改題現在に及ぶ。(種類)日刊定期新聞記事、電報電話特別記事宗教學藝家庭映畫時事寫眞漫畫。(回數)日刊(但一日十五日、日曜祭日休刊)。(部數)九年十一月末日現在千部。(社主)岸田義和。(社長)同。(副社長)岸田通武。(社員)五名。一箇月五十圓。

日刊**京都通信** 京都通信社。京都市左京區岡崎東天王町七一。(電)上三三四五、四一五七、六〇七一。個人經營。一萬圓。創刊昭和三年十月。(種類)新聞原稿供給。(回數)一日七回。(部數)十年十月廿一日現在五十部。(契約)二十三社。(社長)坪田米藏。(編輯)西村良一。(營業)藪內和十郎。(支局)二。(社員)二十五名。一箇月五十圓。(兼營)新聞廣告取扱。

■事業部新設の計畫あり。

東亞通信 京都市上京區紫野御所田町八〇。創立大正十四年四月十三日。(種類)日刊新聞記事の全般に亘る。(契約)三十七社。(社長)野中德七。(支局)三。一箇月五十圓。(特設)寫眞、電信。(兼營)月刊雜誌發行。

中外通信 中外通信社。京都市中京區河原町御池南入。(電)上六六五〇。(社史)中外通信大正十一年正月創刊、昭和九年十一月八木敏一氏より現社長ひきつぎ經營、京神土木建築通信、昭和五年創刊。(種類)中外通信、日刊新聞記事通信、京津土木建築通信、土木建築業界通信。(回數)日刊。(契約)二十五社。(社長)常田新九郎。(社員)二十三名。一箇月中外五十圓、土木二圓。(設備)京都府下の時事寫眞通信部設置。

關西通信 京都市烏丸通り上御靈前。(電)上八六七、八六八。創立昭和六年十二月十五日。個人經營。(種類)宗教、美術、教育、府市政其他一般記事。(回數)二回。(社主)辻本光楠。(社長)關戸利國。(支配人)村橋矢須比古。(編輯)村橋靖彥。(營業)森本豐次郎。(社員)二十名。一箇月五十圓。(兼營)週刊「關西小國民」。月刊「兒童文藝」。

經濟通信 京都市上京區中立賣通猪熊役人町。創刊大正十年九月一日。(社長)山岡登太郎。

京都映畫通信 京都市上京區北野白梅町二八。(電)西陣二二一八。創刊昭和八年九月一日。個人經營。(種類)主として映畫、演藝。(回數)一回。(社主)高橋吉彌。(社長)同。(編輯)同。(營業)同。廣告を扱はず。(支局)三。(社員)二十名。一箇月百圓。

京都證券日報 京都市下京區堺町四條南小石町一一八。創刊昭和八年一月十日。(社長)夏地力男。

名古屋

日本電報通信 日本電報通信社名古屋支社、名古屋市中區南大津町二ノ一。(電)代表中二五一一。株式。創刊明治四十年七月。(種類)日刊。(回數)一日數回。(社長)光永星郎。(理事)支社長鹿子木日出雄。(編輯)福井輝三。(營業)支社長兼務。(廣告)上羽恒雄。(社員)支局四十六名。■九年十二月十日南大津新事務所に移轉す。

日本木材新聞 名古屋市南區西古渡町柳田六〇。創刊大正十二年三月十六日。(社長)神野鑛逸。(營業)稻垣清三郎。一箇年三十六圓。

名古屋通信 名古屋市中區新榮町二ノ一五。(電)代表中五五。個人。(社史)月刊發行大正四年日刊發行大正七年、會社創立明治二十年三月、同時に廣告代理業通信發行(當時は屆を要せず)(種類)社會全般を含む。(回數)日刊。(契約)二十五社。(社長)後藤清文。(副社長)田端才二。(編輯)橋本東明。(廣告)永合七生一。(支局)一。(社員)四十五名。一箇月二百圓。(兼營)全國諸新聞廣告取扱、圖案、鉛版、紙型、寫眞版、銅版、凸版、木版、網版作製。

名古屋株式日報 名古屋市中區南伊勢町一。創刊明治二十七年三月十五日。(社長)日下部純三。一箇月五十錢。

名古屋證券日報 名古屋市中區南伊勢町一ノ一〇。創刊昭和二年三月。個人經營。(社長)小川善三郎。(編輯)河崎由太郎。

名古屋木材新報 名古屋市中區正木町四〇二。(電)南局四三八二。医名組合。(社史)明治四十四年七月十五日名古屋市の有力同業者及製材工場を網羅せる名古屋材木商工同業組合を背景として創刊以來月刊、旬刊、月六回刊等の順序を經て今日に至つた。(種類)木材、其製品、山林等に關する政治、時事、商況等。(回數)日刊。(主幹)伊藤敬太郎。(編輯)淺野慧治。(營業)磯村卓彥。(支局)二。(社員)七名。一箇月二圓。

愛知通信 名古屋市東區石町三ノ一五。(電)代表東五三三九。創立大正十四年四月十三日。個人經營。(種類)政治、經濟、社會、教育、其他。(回數)二回。(社主)小田莊二。(社長)同。(副社長)小田邦夫。(支配人)梅村喜六。(編輯)古橋水之助。(支局)八。(社員)二十三名。一箇月二十圓。(特設)辯論部、出版部。(兼營)名古屋日日新聞。

愛知興信所日報 合資會社愛知興信所。名古屋市中區東川端町五ノ廿八。(電)中局五六六。八千圓(登記面)。創刊昭和二年二月一日。(種類)愛知、岐阜、三重縣下の經濟界の消長、商況商工業者の業態成績。(回數)日刊(部數)昭和十年六月末日現在二千部。(所長)日高末吉。(社員)十二名。一箇年六圓。(兼營)信用、人事、結婚調査。

■愛知、岐阜、三重縣下に於ける材木、土木、建築關係業者にして電話使用全部の業態、經營者氏名、出身地を掲載したる書册を昭和十一年七月發行の豫定一圓七十錢の筈。

信用交換日報 信用交換所。名古屋市東區武平町四ノ三。(電)東二一三二。(社史)明治四十一年六月創刊、纖維關係事業專門の信用と經濟の調査、通信機關として大隈侯名付親となり全國同業者により會員組織を以て創設今日に至る。(種類)織物を中心とし纖維關係事業の信用經濟(回數)一日一回。(部數)十年六月現在六千部。(理事長)小出竹樹。(編輯)掛川喜遊。(營業)永島傳。(支局)大阪、京都、東京。(社員)百二十名。

共同通信 共同通信社。名古屋市中區矢場町四ノ切一二。(電)中八〇—八三。株式。三萬圓。(社史)大正七年十月創刊、大正十二年合資會社組織となる。(種類)政治、經濟、社會。(回數)一日一回。(部數)昭和九年十一月二十四日現在百二十部。(契約)三十二社。(社主)加藤五左衞門。(社長)松原繁吉。(取締役)松原繁吉、加藤五左衞門、道家鉾次郎。(監査役)村瀬安之助、加藤五三郎。(理事)窪田捨五郎。(編輯)笹尾武。(廣告)窪田捨五郎。(支局)二。(社員)十八名。一箇月二十圓。(兼營)新聞其他一般廣告取次業。

中京經濟新聞 中京經濟新聞社。名古屋市中區矢場町一ノ切十。(電)中二四二三、二四八二。個人經濟。昭和七年十一月創刊(種類)經濟觀測。(回數)一日一回。(部數)昭和九年十一月二十四日現在 千五百部。(社主)簑浦秀太郎。(社長)同。(主幹)武井周。(編輯)伊藤修。(支局)東京。(社員)三十五名。一箇月五圓。

横濱

横濱通信 横濱市中區太田町五ノ六七。(電)本局四八〇一、四一三。(社史)創刊明治三十年四月二日、昭和九年三月二十六日前社長日比野淨君逝く、享年四十一。合資。三萬圓。(種類)政治、經濟、社會、運動。(回數)八回。(契約)四十社。(代表社員)日比野申。(社長)同。(支配人)沖野小志馬。(編輯)菊池源助。(營業)福井鬼重。(廣告)小山幹。(支局)神戸、福井・金澤、大阪。(社員)三十五名。一箇月三十圓以上二百圓。

京濱通信 横濱市中區蓬萊町二ノ六〇。創立大正十三年二月四日。個人經營。(種類)政治、經濟、社會、其の他新聞一般通信。(回數)數回。(社主)松崎米吉。(社長)同。一箇月三十圓。(兼營)廣告代理業。

其他各地

千葉合同通信 千葉市千葉四六二〇。(電)一一五八。昭和九年八月四日創刊。(種類)政治、經濟、商況、社會、運動。演藝、學藝。(回數)二回。(部數)十年十月廿日現在五百廿五部。(契約)千葉縣内七社、東京二社。(社長)鈴木健二。(副社長)鈴木登女。(編輯)社長兼務。(營業)保坂正一。(廣告)鈴木不二夫。(支局)東京一、縣内十。(社員)十二名。一箇月卅圓。

日刊人絹協會ニュース 桐生市本町一ノ一九五。創刊昭和六年五月。(社長)山口普一。

山梨聯合通信 甲府市穴切町九〇。(電)二七九七。創刊昭和七年十一月三日。個人經營。(種類)政治、經濟、社會。(回數)一回。(社長)天川恭太郎。(編輯)同。一箇月三十錢。(兼營)代理部。

日刊愛岐通信 愛岐通信社。岐阜市司町五二(縣廳東)。(電)三四六〇。個人經營。創刊昭和四年八月。(種類)新聞通信、經濟通信、内報通信、電話通信、(回數)二回又は三回。(契約)二十五社。(社主 寺澤初太郎。(社長)同。(編輯)白木風葉。(營業)安並正儁。(廣告)坂井田一夫。(支局)三。(社員)記者五名部員四名。(通信料)金三十圓。(設備)町村通信員依囑。(兼營)岐阜縣商工産業人名大鑑刊行。

内國通信 内國通信社。岐阜市美江寺町二九。(電)一二六〇。個人經營。一萬圓。(社史)創刊明治三十六年八月十日にして最初大垣市にて創業の關係より同市に於て發刊、明治四十四年十月岐阜市へ本社を移すと共に發刊も岐阜市に於てなし今日に至る。(種類)輕便印刷による特別通信及活版印刷による一般通信の二種其他二、三團體の會報。(回數)特別通信一日三回以上、一般通信月六回以上。(部數)昭和九年十月末日現在特別通信百二十部、一般通信三千部。(契約)二十六社。(社主)小島長洲。(社長)同。(編輯)長谷川清。(營業)山口利一。(廣告)野木森文治。(社員)十八名。(購讀料)特別通信十五圓。一般通信十五錢。(兼營)官公署指定書類簿册の調製販賣、印刷一般及製本、商工品の委託販賣、日本農林新聞支局、文藝其他の雜誌刊行。

■株式に組織變更の計畫あり。又印刷工場を本社と合體させる社屋建築計畫も進行中。

岐阜通信 岐阜市木造町六ノ三。(電)一二三四。個人經營。(社史)大正五年三埜通信社創立大正六年七月岐阜通信社と改稱し日刊通信發行今日に至る。(種類)謄寫版刷り。(回數)一日二回。(契約)十八社。(社長)水野後八。(主幹)川上清。(社員)四名。一箇月十五圓。

福井レーション特報 福井市佐佳枝町一五。創刊昭和四年三月。(社長)青木榮次郎。

福井通信 福井市佐佳枝下町二四。創刊大正九年八月。(社長)青木榮次郎。

日刊日本新聞通信 滋賀日日通信社發行。大津市高見町二三。(電)六二一、六四九。創刊昭和三年二月十一日。個人經營。三萬圓。(種類)政治、經濟、社會、勞働・宗教、文學、映畫、外國ニュース。(回數)四回。(部數)昭和八年十月一日現在六百七十二部。(社主)矢尾喜三郎。(社長)同。(主幹)松本哲。(支局)十七。(社員)六十四名(各地通信員共)。一箇月二十圓。(兼營)廣告代理、速記、飜譯、日本新聞通信大衆版(月刊雜誌)、同日曜夕刊。

日刊近代映畫通信 大津市上百石町五八。創刊昭和九年。(幹部)福田稔。

湖西通信 日刊堅田新聞社。滋賀縣堅田町字本堅田二九七。(電)堅田一六。個人經營。千五百圓。(社史)昭和九年七月一日創刊、當時新堅田と題し十年二月一日より日刊堅田新聞と改題日刊新聞社へ通信販賣す。(種類)政治、社會、觀光其他一般。(回數)毎日一回。(部數)昭和十年十月現在六百五十部。(契約)十社。(社主)太田增美。(社長)同。(編輯)同。(營業)太田泰。(廣告)石原陶水。(支局)六。(社員)五名。一箇月大衆版五十錢、通信料三圓。

商業通信 日本商業通信社。下關市西之端町三〇。(電)代表長一八〇五。昭和七年四月廿七日創刊。(種類)經濟ニュース。(契約)四十六社。(社主)市川肇。(社長)同。(副社長)山本滋雄。(支局)二十四。(社員)四百十三名。

關西水産通信 下關市卿之町(發行人)永田源一。

水産合同通信 下關市卿之町(發行人)勝田孝一。

博多證券日報 福岡市下鰮町二九。創刊大正十五年三月一日。(發行人)南二郎。

樺太與信所報 樺太大泊町本町西一條南三丁目。(電)四四八。創刊大正十四年。(社長)中島金治。

朝鮮

日本電報通信 日本電報通信社京城支局。創刊大正十一年六月十九日。京城府明治町一ノ六四。(社長)光永星郎。(支局長)齊豐三郎。(支局員)十一名。

日刊大陸 (大陸通信の改題)京城黄金町二ノ一四八。(電)本局五八二。創立大正九年二月二十日。二萬五千圓。(種類)時事一般。(回數)一回。(社主)井上收。(社長)同。(支局)六。(社員)四十八名。一箇月五十錢。

■通信と稱するも、菊四倍四頁活版印刷にて朝鮮にては通稱赤新聞(赤紙使用)と稱さる。

日刊商業通信 日本商業通信社。京城府長谷川町一一六。(電)本局二三四、三三六、外七本。合資。十萬圓。創刊大正八年八月一日。(種類)一般經濟時事並に相場市況。電話通信、電報通信、日刊通信。(回數)一日四回。(契約)四十二社。(社長)市川肇。(副社長)山本滋雄。(理事)渡部二三、平手數義、井口陟造。(編輯)西本最一。(營業)渡部二三。(廣告)山本耕司。(支局)十九。(社員)二百十三名。一箇月五十圓。(特設)私設專用電話、新聞豫約電話、電報托送專用線、取引所間專用電話。(兼營)日刊朝鮮米肥日報、大連輸出入速報版。

東亞電報通信 京城府長谷川町一一一。創刊明治三十九年四月三日。(社長)貴田忠卿。

朝鮮通信 京城太平通一ノ二九。創立大正十五年四月二十三日。個人經營。(種類)朝鮮及朝鮮民族研究に必要なる事項の報道。(回數)一回。(社主)伊藤韓

堂。(社長)同。(支局)十二。一箇月五圓。(兼營)朝鮮語奬勵出版。

朝鮮經濟日報 京城府長谷川町一〇一。(電)本局長一九八、三〇一七。個人經營。二萬圓。(社史)大正九年三月十日發行を許可され同年四月十二日創刊、爾來引續き發行、紙齡十五周年を過ぎ五千號に達す。(種類)一般經濟時事。(回數)一日二回。(契約)三十社。(社主)小野久太郎。(社長)同。(編輯)松平恒若。(營業)同。(支局)十三。(社員)三十二名。

帝國通信 京城南大門通二ノ一三二。創刊大正十二年四月二十四日。(社長)山副昇。

新聞聯合 京城支局。京城南大門通一ノ九〇。(電)光化門二六六〇、二七七〇、一九一〇。(種類)一般通信。(回數)五便。(部數)九年十一月三十日現在百五十部。(契約)九社。(支局長)長澤千代造。(鮮內通信員)六箇所。(支局員)社員八名、雇員十名。

四、滿洲

附、青島

電通 日本電報通信社大連支局 大連市大山通八五。(電)二三六二〇。(社史)大正九年九月一日光永社長名義にて發行許可以來通信發行中昭和七年十二月一日滿洲國通信社創立のため休刊爾來今日に至る。(支局長)相原敏治。

日滿通信 大連市佐渡町一八。(電)二—三七〇〇。個人經營。五萬圓。(社史)大正十年四月二十五日創業、以來創立の宗旨を一貫して現在に至る。(種類)政治、外交、軍事、經濟、教育其他社會一般の事項論議報道。(回數)一日二回。(部數)昭和十年十月二十三日現在三百部。(契約)三十五社。(社長)津上善七。(編輯)小野傳。

大連商況通信 大連市山縣通五三。創刊昭和三年十月十六日(種類)經濟時事。(社長)井口陸造。(編輯)上田幸。

帝國通信 大連帝國通信社。大連市信濃町三一。(電)四〇〇〇、四〇〇一、八二六二、八二六三。創立大正十四年。個人經營。(種類)政治、社會、經濟。(回數)數回。(社長)山口忠三。(支局)滿洲內各地。(兼營)出版廣告取扱。

新聞聯合 大連支局。大連市紀伊町五二。(電)二—七六四一。(支局長)市川太郎。

奉天電報通信 奉天市浪速通三八。(電)三五六〇。二萬圓。(社史)大正十一年八月四日第三種郵便認可、今年六千五百號に達す。(回數)二回、三回。(部數)昭和十年十月十日現在各新聞社全部その他三百部。(契約)奉天全部十三社。(社主)渡邊義一。(社長)同。(常務)服部賢吉。(理事)增田增治郎。(編輯)大田榮三(支局)大連、奉天、新京等全滿主要都市。(社員)二十名。一箇月三十圓。

滿洲通信 奉天富士町一。(電)四七三六、三八八二。創刊大正三年八月一日。五萬圓。(種類)政治、經濟、軍事、外交、學術、教育。社會特に滿洲の諸事情につき細大洩さず速報。(回數)一日二便。(部數)昭和八年十月二十日現在五百六十九部。(契約)四十七社。(社長)蔗曲政吉。(編輯)菅藤孟。(營業)池上祐輔。(支局)十八箇所。一箇月三十圓。(兼營)代理部。

商業通信 奉天。創刊大正十年十二月二十六日。(社長)平手議一。

新聞聯合 (新聞聯合社支局)奉天淀町八。創刊昭和四年七月。(支局長)佐々木健兒。

滿洲國通信 新京四馬路。(電)三八九一—二、外六本。創立昭和七年十一月三十日。(社長)里見甫。(編輯)大矢信彥。(總務)同。(通信)佐々木健兒。(聯絡)升井芳平。(營業)山川涉。(調査)沼瀨三郎。(契約)滿洲國各新聞社其他、聯合、電通等。(支局)十八。

■當局の特別許可により、全滿の通信聯絡を無電網による。

■八年十月上海支局事務を開始し上海よりの送電は有線により奉天より上海へは無線を主とす

■八年十二月五日東京支局を正式開業す。

■九年七月大阪に營業支局を設け廣告取次を開始す。

■九年七月滿洲國新年度より滿洲國政府よりの補助金年額三十四萬圓となり、更に臨時補助として二萬圓を追加交附さる。

■九年八月ロイテルとの交渉成立しナショナル・エゼンシーとして對等の立場を有する事となる。即ち國內ニュースは無料交換、ロイテルの國際ニュースに對しては料金を拂ふ、但し聯合との關係があるので履行は當分留保さる。

■同九月ロイテルとの契約內容を發表し、十一月末より完全に履行される事となる。

■十年八月二十六日より東京支社に廣告部を開設し武藤彪君主任となる。

哈爾賓商況通信 哈爾賓特產商況通信社。哈爾賓外國八道街七號。(電)二五八二、五九二〇、六六三八。二萬圓。創刊昭和五年十二月五日。(種類)特產、鐵類、輸入商品。(回數)日刊。(部數)昭和九年十一月二十八日現在五百部。(契約)五社。(社主)佐藤象次郎。(社長)同。(社員)五名。一箇月十圓。

間島通信 間島省龍井市。(電)一〇三。合資。(社史)大正十四年十一月史廷鉉氏單獨經營、昭和六年合資組織に變更す、滿洲事變後附帶事業として思想研究部を設け思想善導に努力す。(種類)政治、經濟、時事、文藝其他。(部數)十年十月一日現在五百部(社主)史廷鉉。(副社長)柳寅秀。(專務)史錫鉉。(常務)洪祐遠。(支配人)金瓊愛。(主幹)本田仙太郎。(主筆)李敦範。(編部)李鍾鼎。(營業)金弘謙。(印刷)朴寅鎬。(廣告)崔洛憑。

■間島事情要鑑を發行し間島事情を內外に宣傳、思想善導に關するパンフレットを發行。

山東通信 山東通信社。青島市遼寧路。(電)五〇二三。個人經營。一萬圓。昭和二年三月五日(種類)政治、經濟、其他。(回數)朝夕(每日)二刊。(部數)昭和九年十一月三十日現在二千六百部(契約)二十六社。(社主)岡伊太郎。(社長)同。(副社長)山田春三。(主幹)同(兼)。(編輯)尾崎秀生。(營業)綿谷雅貴。(廣告)井上彰義。(支局)九箇所。(社員)十八名。一箇月特別二十圓普通一圓。

■本通信は新聞社及特別購讀と普通購讀と三種に分ち特別購讀者には一日五、六回も配布す。

青島興信所內報 青島興信所 青島市場一路三三號。(電)二五五二。個人經營。一萬圓。(社史)大正五年三月日獨戰役後の秩序恢復して商業貿易其他一般經濟狀態の復活に伴ひ種々の事業は前後相次で起り來りて建設創業共に繁雜を極め居る時代の創立に係り昭和七年四月前社長水野氏勇退するや日獨戰當時憲兵として來青後外務省警察官たりし事ある同社主任上之氏が其權利一切を繼承し社長に就任せるものなり。(種類)經濟通信。週刊。(部數)昭和九年十一月現在一千部。(社主)上之榮藏。(社長)同。(社員)十名。

廣告代理業者一覽

一、本表は東京、大阪、京都、名古屋、其他各地所在、主として新聞廣告を取扱ふ主要廣告代理業者の一覽表である。表の諸項目は一々各社について問合せたものであるが。中には締切期日までに回答を得なかつた爲め、手許の材料によつた分も多少ある。

一、各社配列の順序は東京及び地方の二種に分ち、イロハ順による。

一、各社の記述は大體次の順による。（括弧内の文字は夫々の略稱）

記述の順序

代理業者、所在地、電話番號（電）、所屬會名、創立年月日、組織、資本金額、社主、社長、副社長、專務、常務、取締役、監査役、支配人、主幹、營業部長（營業）、他各幹部、主要支局長、支局數、全社員數（社員）、主要取扱廣告種目（種目）、主要得意名と得意數（得意）、一年間扱總行數、主要取引新聞雜誌名（取引新聞）、特別設備（特設）、兼營事業（兼營）、最近一年間の記錄的事件、事業、其他。

右以外の特殊事項も必要に應じて記入す。不用と認むるもの及び不明なものは記せず。

一、東　京

五十嵐商店　日本橋區茅場町一ノ七。（電）茅場町八五八、四九三。創立大正十四年二月。個人經營。（社主）五十嵐瑠璃子。（得意）新聞社、出版、製菓、レコード、酒問屋、ビールの全般に渉る。（特設）空の宣傳、常備氣球十五、常備場十箇所、ロボット專賣特許自働宣傳機、獨逸製廣告投射機、十六ミリ廣告映畫出張映寫。

一新社　小石川區上富坂町四。（電）小石川六六三四。（社長）西川隆造。（支配人）德永宗亮。（種目）新聞雜誌及醫藥雜誌。（取引新聞）協和、藥石日報、關西醫事（一手扱）。

長谷部日弘社　京橋區銀座西二ノ一。（種目）案内廣告、笠原由太郎。（電）京橋二〇八五。

八報社　京橋區銀座一丁目。（社長）佐藤駒太郎。（種類）案内廣告。

八絃社　京橋區銀座一ノ六皆川ビルヂング。（電）京橋七七一五。創立昭和二年十月一日。（社主）三澤豐。（取引）東朝、神奈川版、東朝、時事地方共通版、報知神奈川一手取扱。

博報堂　神田區錦町三ノ廿二（電）神田自四〇〇〇至四〇〇五株式。五十萬圓。（社史）明治廿八年日本橋本石町にて創業、大正三年十月現住所に移轉、明治四十三年夏内外通信發行。（社長）瀨木博尚。（專務）四條照信。（常務）瀨木博信。（取締役）瀨木博政。（監査役）島田和三郎。（理事）三浦修治、土屋利八。（種目）書籍。

■十年一月三浦修治君入る。

■十年十一月與田富藏君入る。

博通社　芝區田村町二ノ三。（電）銀座二〇一〇、四〇一〇、二二六五。創立昭和八年五月。（社長）葛目成孝。（社員）約三十名。（種目）新聞廣告代理、特に案内廣告。（取引新聞）朝日（專屬）、中外、都、讀賣、其他各新聞。

博生堂　京橋區銀座西一ノ五。（電）京橋三三三四。個人。創立明治四十五年二月。（社主）佐藤春雄。（支配人）原忠珍。（横濱支局）村松三郎。（支局）一。

白馬堂　淺草區須賀町二九。日本廣告協會員。（種類）看板廣告其他。（社長）龍瀨直藏。

日本通信社　京橋區銀座西五丁目一ノ二。（電）銀座八〇四一六。創立明治二十二年。個人經營。九十萬圓。（理事）水野源一郎、漆間一太郎、高橋眞雄、此經春也。（種類）宮内省及官廳、會社。個人。（兼營）日刊日本通信。

日本電報通信社　京橋

區銀座西七ノ一。（電）銀座四一一一—四、五五一一—八。創立明治三十四年七月。株式。百萬圓。（社長）光永星郎。（常務）光永眞三、上田碩三。（取締役）能島進、松野鶴平、永江眞郷。（監査役）曾我祐邦、原田德次郎、中根榮。（營業）光永眞三。（支局）三十七。（種類）一般。（取引）全國新聞雜誌。（特設）通信社一覽參照。（兼營）日本電報通信發行。

■九年九月「廣告相談」を開設し奥平稔君を主任とす。

日進通信社　京橋區槇町一ノ五。（電）京橋六三六二。（所屬）東京新聞廣告協會。創立明治四十五年五月廿五日、昭和九年十一月前社長丸山進三郎君逝く。（種目）藥、化粧品、酒類、機類、金庫。（得意）玉置合名、津村順天堂、津村敬天堂、守田治兵衛、山吉商店、大木合名、明治屋商店、竹内金物店、大和ゴム製作所、名古屋銀行、東京府農工銀行、清水商會、山邑酒造、日米商店、藤井龍角散、他七十八軒、約十二萬行。（取引）報知、東朝、東日、讀賣、時事、國民、都、中外、毎夕、萬朝、中央。（特設）萬朝報特別欄。

豐國通信社　京橋區銀座西五ノ四。（電）銀座一三七七、一三七八、一八一〇。東京新聞廣告協會所屬。個人經營。二十萬圓。明治廿二年二月創立、會て週刊豐國誌、日刊豐國新聞等發行の社史あり、現在は日刊豐國通信發行。（社主）谷口武雄。（社長）同。（營業）片山直文。（理事）鈴木悦三。（理事）大矢良太郎。（通信主任）青柳義孝。（社員）三十五名。（得意）著名銀行會社商店等數百餘、但しカード數に依れば一千餘。（取引）全國日刊新聞並に著名雜誌等。（兼營）日刊豐國通信發行。

東洋公益通信社廣告部　京橋區銀座西二ノ一。創刊大正六年六月。（社長）古谷慶作。（主幹）渡邊長敏。（社員）十五名。（種目）雜誌。（得意）三百餘軒、（取引）全國各新聞。（兼營）各種委託販賣。日刊東洋公論通信發行。

東洋廣告取次社支店　麹町區丸ノ内三菱二十一號館内。（支店長）伊藤吉太郎。

東亞通信社　麻布區簞笥町二九。（社長）濱調良。（種目）一般。（兼營）日刊東亞通信發行。

東京通信社　京橋區横町一ノ五、城邊ビル。（電）京橋五八三、四〇六六。個人經營。（社史）明治廿年三月創立（通信社の欄に既出）。（社長）山口恒太郎。（專務）佐藤藤一。（主幹）平井勝利。（幹部）大久保賴之助。（支局）三。（社員）廿一名。（種目）銀行會社。（得意）日本勸業銀行、三井銀行三菱銀行、第一銀行、東邦電力、不動貯金、明治製糖其他。（特設）廣告相談部。（兼營）日刊東京通信發行。

東京廣告社　神田區臺所町六（種目）案内廣告。

東京時事通信社　麹町區内幸町一ノ六。（電）銀座五二一一、五二三一、五五一一。創立大正三年八月十日。株式。十萬圓。（社長）山本孚。（營業）本間鄕平。（廣告）同。（社員）十六名。（兼營）日刊通信「東京時事」。

晝夜通信社　京橋區銀座西八ノ一。（電）銀座一六二、一六三。創立大正六年九月一日。株式。十萬圓。（社長）槇村嘉三郎。（專務）同。（取締役）溝口信、山田嘉右衛門。（監査役）槇村新之助。（主幹）村田靜。（營業）黑瀨仁筐。（大連支局長）野村太一。（支局）三。（社員）四十名。（特設）月刊晝夜通信特別號發行。（兼營）日刊晝夜通信發行。

小川報告堂　麹町區有樂町二ノ七。（電）丸ノ内一六七八、一〇二八。創立大正三年六月。（社主）小川清舟。（支配人）熊澤清。（主幹）清水千藏。（營部）飯島豐顯。（社員）十名。（兼營）日刊東洋經濟通信社。

折込廣告社　神田區多町一ノ二。（社長）東庄吉。（種目）折込ポスター取扱。（兼營）ビヤホール。

大河組　京橋區銀座西二ノ五。（電）京橋五〇六五。創立明治三十九年。個人經營。五萬圓。（社長）井上菅造。（種目）活動寫眞。

確報堂　芝區南佐久間町二ノ二（電）芝一八四九。創立大正二年。（社長）上山鋭彦。（種目）賣藥及聯合廣告。

大日本通信社　芝區今入町一

〇。(電)銀座一七六、四〇〇七。創立大正六年十二月。個人經營。十二萬圓。(社長)多田滿長。(主幹)八田泰輔。(廣告)多田實。(支局)二。(種目)一般。(取引)全國新聞。(兼營)印刷事業。日刊大日本通信發行。

大同通信社 京橋區銀座西六ノ二。(電)銀座四三〇二。東京廣告協會。創立大正十四年一月。個人經營。(社主)川村源市。(外交)高尾忠平。(內勤)吉友重壽。(種目)賣藥、化粧品、醫院、其他一般。(得意)玉置合名會社、渡邊妙布、山吉君が代、師岡天然堂、大正製藥、河合洋行、丁子堂、中村テーリン其他、三百八十餘件。(取引新聞)全國著名新聞雜誌。(兼營)政治經濟通信發行。

太平洋廣告取扱社 麴町區內山下町一ノ一。(電)銀五八五七、五八五八、五八五九。株式。十七萬圓。創立明治二十三年十一月一日。(社長)ピー、ダフリユ、フライシャー。(支配人)ジエー、アール、ヤング。

聯合演藝通信社 京橋區銀座西八ノ七。(電)銀座三六〇三。匿名組合。五萬圓。創立昭和八年七月。(社長)桑野正夫。(理事)立花寬一。(支局)名古屋、京都、大阪、神戸、福岡。(社員)三十名。(種目)演藝、映畫、音樂興行關係。(得意)日活、松竹、新興キネマ、ワーナーブラザーEN映畫其他、パ社フオックス、ユ社メトロ社、東和商事、三昭社、松竹洋畫興行社。

宗田組 麴町區內幸町一ノ五。(電)銀座二三〇八。(所屬)東京新聞廣告協會。創立大正八年。個人經營。(社主)宗田新一郎。

內藤一水社 神田錦町三ノ一七。(電)神田三四九〇、四一一七。個人經營。(社史)創立昭和七年十月十日、昭和四年結城盛報社入社、同七年十月結城長治氏後援創業。(社長)內藤好二。(支配人)高柳修二。(社員)十四名。(種目)案內廣告。(得意)箱根土地株式會社、他一千口。(取引新聞)日日、都、時事、讀賣。

內外廣告社 麴町區丸ノ內三菱仲九號館。(電)丸ノ內四〇三、四七三三。創立昭和元年。(社長)五味秀也。

上田三交社 麴町區有樂町二ノ七。(電)丸ノ內九三六、四九一三。個人。大正五年十月一日創業。(社長)上田龜吉。

大和通信社 神田區西神田一ノ一。(電)九段一五九六、三七三八。(社主)桑原英康。(支配人)宮澤漸。(社員)十二名。(種目)案內廣告。

山元新光社 下谷區上野町二ノ一四。(電)下谷七一、七二、九一。創立昭和四年六月一日。(社長)山元國三。(種目)案內廣告。(社員)廿餘名。(支社)京橋區槇町二ノ一五。(電)京橋五〇五四。(主任)印南力雄。

■合名會社共同通信社に加盟したが昭和十年二月同社解散後、山元新光社を再興し業務を繼續

■昭和十年四月一日京橋支店を設置し業務の擴張を計り、下谷の本店との連絡に資す。

萬勉通信社 芝區愛宕町一ノ三五。(電)芝二七一、二四二〇。個人經營。大正六年九月。(社主)清水萬太郎。(支配人)武政金吾。(營業)谷口松尾。(社員)十二名。(種目)新聞雜誌、其他一般廣告。(得意)講談社、中將湯、敬天堂、三共製藥、其他主要大得意多數。(取引新聞)有名各紙、各誌。

萬年社支店 京橋區銀座一丁目。(電)京橋三五三六—八。創立明治二十三年六月。株式。百萬圓。(社長)高木貞衞。(東京支店長)中川秀吉。

萬歲社 品川區五反田六ノ二〇二。(電)高輪五一二二。東京新聞廣告協會。個人經營。(社史)大正三年十一月三日大正天皇御卽位當日開業せしに付萬歲社と稱す。(社主)佐藤四一郎。(支配人)鈴木愛三。

萬世通信社 神田區淡路町一ノ二一。(種目)案內廣告。

京華社支店 麴町區丸ノ內三菱二十一號館。創立明治廿三年一月。(社長)後川晴之助。(東京支店長)池田一藏。

ブラン社 京橋區銀座西六ノ五瀧山ビル。(電)銀座三二五、三三、三八三〇。個人經營。(社史)昭和九年八月八日。(社主)松田篤幸。(幹部)松野一夫、東鄕

青兒、星野直昭。(得意)講談社、平尾賛平商店。(兼營)綜合美術雜誌「美」昭和十年十二月より發行、菊倍、二百頁、全アート。

弘報堂 京橋區銀座西五丁目三ノ一。(電)銀座二〇八三—六。協同會。株式。二十萬圓。(社長)江藤甚三郎。(取締役)江藤直輔、江藤直三、横井忠國。(監査役)山脇二三郎。

■九年十一月創業五十周年を迎へ記念祝典を擧ぐ。

■十年五月十日社長江藤甚三郎君の壽像除幕式高輪の同君邸に行はる。

廣報通信社 芝區新橋六ノ三(電)芝二三七二。創立明治四十三年。個人經營。(社主)長瀨仲三郎。

廣告社 京橋區銀座西五ノ一(電)銀座三一、三二、三一〇、三八八八、二二四五。協同會。個人經營。(社史)明治二十一年五月一日現社長湯澤精司君によつて創設せらる、湯澤君は當時政進堂の沼間守一氏の經營する東京横濱毎日新聞社の營業を擔當しつゝあり、たま〳〵沼間守一氏が歐米に於ける廣告代理業の隆盛を見て我國に於ても將來必要なることを達觀し湯澤君に推めて創設されたもので實に我國廣告代理業の始祖である。(社長湯澤精司。(副社長)湯澤清。(理事)渡邊久二郎。(幹部)佐藤良哉、宇野晴雄、內山敏雄、木村政雄、長倉繁夫。(種目)官廳、銀行、會社、病院、學校、化粧品、藥品、食料品。(兼營)日刊「日本經濟通信」發行。

■**有力**地方四十五支局長の廣告社懇交機關湯茶話會あり。

■九年十一月「廣告社の歌」成る歌詞堀口大學、作曲松田良造君。

弘告社 京橋區銀座五ノ三。日本廣告協會員。(社長)堀田峻二郎。

告天社 麴町區內幸町二ノ三ダイヤモンド社內。(電)銀座四一五五(三)、一六六〇。(所屬)東京廣告協會。創立大正十三年三月。個人經營。(社主)富永良太郎。(副社主)富永和夫。(支配人)岩井芳雄。(社員)十一名。(種目)食料品、株米、百貨店、雜報、會社八つ。(得意)國分商店、明治製菓、松屋、カルピス、中央製菓、玉塚商店、川島屋、ダイヤモンド、交詢社、各株式店、米穀取引員、山一證券、等々其他七百餘。(取引)朝日、時事、日日、報知、讀賣、中外、都、國民、其他地方紙、ダイヤモンド社。

興進社 牛込區市ケ谷田町一ノ一五。(電)牛込五五一八、五八八。創立大正十二年。(社長)小田喜保治。(支店)杉並區高圓寺七ノ九八八。(電)中野五二七四。(種目)全國各新聞及雜誌廣告取扱所。

帝國通信社 京橋區銀座西五丁目。(電)銀座四三五六—七。創立明治二十四年。株式。五十萬圓。(種目)一般。(取引)全國新聞。(兼營)帝國通信發行。

愛國通信社 麴町區內幸町一ノ五。(電)銀座三五九〇—一。創立大正二年十月三十一日。個人經營。五萬圓。(社長)吉田文外。(顧問)田村全宣。(種目)官廳會社及個人。(取引)東京大阪及各地有力新聞雜誌。

三芳社 神田區竪大工町三。(社長)粕谷芳之助。(種目)案內廣告。

魁通信社 神田區錦町。(社長)等々力一郎。(種目)案內。

金蘭社 神田區錦町二丁目二ノ十一號。(電)神田二六九。(社史)創立明治二十年創立。(社主)二戸部利一。(取引新聞)東京各新聞、地方新聞、外各雜誌。

結城盛報社 本鄕區元町二ノ二三。(電)小石一五九五—七、八〇五〇—一。創立大正十二年十月十五日。(社長)結城長治。(副社長)伊藤榮助。(種目)案內廣告。(兼營)健康增進協會、みのり食堂。

明信社 芝區芝口二ノ一八。(電)銀座一五七四、二八七五。創立大正八年四月。合資。三萬圓。(代表社員)井上信吉。(社員)十名。(種目)活動寫眞、雜。

自由通信社 京橋區銀座西三ノ一。(電)京橋二四二、二四八、二四九、四五三〇。個人經營。(社史)創立明治三十二年二月十一日。(社長)小高長三郎。(相談役)小久保喜七、勝田主計、島田俊雄、金子貞治。(主幹)岡田海

南。（編輯）石崎健司。（營業）金子錄朗。（印刷）齋藤幸次郎。（庶務、會計）三村秀吉。（臺灣支局）久我懋正。（支局）一。（社員）四十七名。（種目）各新聞通信、其他。（得意）日本銀行、日本勸業銀行、日本興業銀行、銀行會社商店、凡五百十。一年間三萬九千行。（取引新聞）東京各新聞社並に日本全新聞社百五十餘。（特設、出版。印刷。（兼營）自由通信發行。

時生通信社　四谷區谷町一ノ一五。（電）四谷三〇八七。（社長）山崎幸作。（種目）主として案內。

正路喜社　京橋區銀座西七ノ五。（電）銀座八三七、八三八、同代表五七六六（3）。株式。五十萬圓。（社史）創立明治二十三年。（取締役社長）布屋徹吉。（常務）安田彥三郎、淺田源一。（取締役）福澤義男、宮澤源三郎、黑崎雅雄。（監査役）小池義雄。（社員）五十一名。（特設）考案部、圖案部。（兼營）日刊中央通信社。

春光堂　京橋區銀座西七ノ三。（電）銀座五三五四、一八六二、二三八二。（社史）昭和十年三月五日。創立舊世民社の流れ。（社主）倉光喜代藏。（社員）十八名。（種目）案內廣告、信託、土地、家屋、金融、看護婦、古着、電話等々。

新聞聯合社　京橋區銀座西八ノ九。（電）銀座代表二一一一。創立昭和六年十二月一日。新聞社の組合。（專務理事）岩永裕吉。（業務局長）不破璡磨太。（廣告部長）同。（主事庶務課長）石井衞太。（助役中央課長）木村哲三。（助役地方課長）栗田貞一郎。（助役外勤主任）後藤庄太。（助役）溝口正、平野義信。（種目）藥品、化粧品、演藝、會社、機械物、雜件。（得意）大中小廣告主約三百五十。（取引）全國各地新聞、雜誌、業界誌。

新聞研究所　京橋區銀座西三ノ三。（電）京橋二六二五。創立大正九年九月。個人經營。（所長）永代靜雄。（主事）光用穆。（理事）中村勝治、山田惣太郎、（社員）十八名。（支局）二。（得意）新廣告主の開拓。（取引）新聞各紙。（特設）文案圖案製作。調査部、代理部、供給部。（兼營）日刊通信新聞研究所報、月刊新聞大學講義、宣傳顧問局。

新興社東京支店　京橋區銀座西七ノ三。（電）一八六二、二三八二。（支店長）倉光喜代藏。（取引）大毎、東日。

センデン社　京橋區築地一ノ五。（電）京橋七四五二。創立昭和三年三月。個人經營。（社長）古谷國太郎。（營業）戸田長次郎。（社員）三名。（種目）新聞以外劇場廣告。（得意）新橋演舞場、東京各旅館、地方溫泉旅館等、約二千餘。（一年間扱總行數）三千行。

船廣社　淺草區向柳原町一ノ一七。（電）淺草六六八〇。（所屬）日本廣告協會。創立明治二十年、昭利八年春小山船廣社を現名に改稱す。（社長）小山幾三。（社員）十名。（種目）屋外廣告其他。

青年社　神田區多町一ノ九。（電）神田二二九二。（社主）伊藤春水。（種目）雜誌廣告。

■新潮社講談社研究社博文館等を主力取引先とす。

■昭和十年十一月より新聞廣告扱ひを開始。

二、地方

大阪

日本電報通信社支局　大阪電報通信社內。大阪電通の機能によつて營業す。

大阪弘業通信社　大阪市北區堂島中一ノ八。（電）北一一一三、八一八〇。創立明治二十八年十月。（社長）伊藤數太郎。

■日本弘業通信社（昭和十年十月博報堂へ合併）解散により伊藤君の獨立經營となる。

做蟻社　大阪市西區京町堀通二ノ五。（電）土佐堀二三二七、三七五三、四五六四、七一一七。創立明治三十年。個人經營。十萬圓。（社長）金子音次郎。（社員）十數名。

大阪電報通信社　大阪市北區中之島二ノ二〇。（電）代表本局五五、九一、一九八。株式會社日本電報通信社大阪支局一百萬圓。創立明治三十九年四月。（社長）光永星郎。（營業）岩子龍太郎。（總務）吉川義章。（經理）毎木一八。（通信）潮海秀之

助。（種目）全國新聞、雜誌、廣告代理業。（設備）平盤印刷機二臺、鑄造機一臺、寫眞、凸版紙型製版機一式。（兼營）印刷、製版。

第一廣告社　大阪市東區今橋二ノ二五。（電）本局二八二六、三一六〇、五六一一。水曜會。個人經營。（社史）創立大正十三年十月三十日。（社主）岡田辰次郎。（得意）日本生命、大同生命、今津化學研究所、松下電器製作所、セーラー萬年筆阪田製作所。森下博藥房、三國セルロイド株式會社。

浪華廣告社　大阪市西區江戸堀上通二丁目昭和ビル。（電）土佐堀三三三三。個人經營。二萬圓。（社史）昭和二年一月創立、地方新聞の爲めに全力を擧げて奮闘しつゝあり、之れ創立の主旨。（社主）新井軍次。（營業）宮川芳三郎。（外交）渡邊利貞。（社員）十名。（得意）約五百軒。一年間約九十萬行。（取引新聞）主として地方新聞。

萬年社　大阪市東區高麗橋五丁目。株式。百萬圓。（社史）明治廿三年六月一日創立、大正九年九月廿六日株式組織に變更す。（社長）高木貞衞。（專務）中川謙三。（取締役）米澤熊之進、栗原伸、中川秀吉、古谷昭。（監査役）吉川三夫。（營業）中川謙三。（支店）東京・中川秀吉、京都・栗原伸。（支店）二。（社員）百九十一名。（種目）新聞雜誌廣告。（特設）圖案、文案、作成、市場調査、出版、印刷、製版、紙型製作、活字鑄造。（兼營）火災保險代理。

■廣告年鑑、廣告輪叢發行、懸賞圖案展覽會の開催をなす。

■十年二月二十三日總務部長兼考案部長中川靜君逝く、享年七十。

■考案部長の後任に前次長古谷昭君新任さる。

京華社大阪支店　大阪市東區北濱四ノ一四。（電）北濱三七五、三七六、三七五一。水曜會。株式。五十萬圓。（社史）本店京都、支店所在地東京、大阪、神戸、大阪支店設置、明治三十四年一月廿七日。（社長）後川晴之助。（支店長）山宝宗親。

旭廣告株式會社　大阪市東區瓦町三ノ二八。（電）北濱七一八、（3）六一五〇。水曜會。株式。五十萬圓。（社史）明治四十三年三月一日創業、大正十三年四月一日株式會社組織變更。（社長）奥野幾次郎。（取締役）奥野幾次郎、藤本田蒔、奥野信一、木村德太郎、三橋銀之介。（監査役）奥野正一。（支配人）藤本田蒔。（外交課長）木村德太郎。（會計課長）三橋銀之介。（庶務課長）奥野信一。（東京出張所管理）藤本田蒔。

金水堂　大阪市平の町二丁目。明治二十八年、福井健造により創業。（社主）福井晃、西川隆造。（幹部）竹尾幸平。（支局）神戸出張所。新聞廣告取扱。（得意）竹田長兵衞商店、鹽野義商店、嘉賓商事會社其の他五百軒。（取引）大朝、大毎、東朝、地方有力紙其の他。

新興社　大阪市北區堂島一ノ二五。（電）北五七〇、七〇七八、三六二五。水曜會。合資會社。五萬圓。創立大正十二年九月。（社主）倉光喜代藏。（支配人）大竹又次郎（營業）同。（支局）一。（取引新聞）大毎、東日、サンデー毎日。

京都

萬年社京都支店　京都市堺町三條上。（電）本局二一八一、二一八二、二一八五。株式。一百萬圓。（支店長）取締役栗原伸。

京華社　京都市中京區三條通烏丸東入。（電）本局代三一一一株式。五十萬圓。創立明治廿八年十二月。（社長）後川晴之助。（專務）竹內篤志。（取締役）西村留雄。（監査役）大澤德太郎、脇田末次郎、山本林之助。（營業課長）井上忠次。（計算課長）田中勝三。（主要支店長）東京池田一藏、大阪山室宗親、（兼）神戸西村留雄。（社員）百十九名。（兼營）文藝通信。

名古屋

日本電報通信社支局　名古屋市中區南伊勢町一ノ七。（電）二五〇一、二五一一—四。創立明治三十九年四月。株式。百萬圓。（支局長）鹿子木日出雄。（社員）二十一名。（種目）一般。（取引）全國新聞雜誌。（特設）電送寫眞。

中京通信社　名古屋市中區丸田町二ノ五。(電)中局二〇〇一二。創立大正二年六月。個人經營。(社長)水野日出夫。(副社長)山口普英。(營業)水野錦一郎。(種目)全國新聞廣告。(特設)日刊通信發行。

太陽通信社　名古屋市東區小川町二七。(電)東五六〇六。創立昭和九年六月八日。(理事長)松本利勝。(理事)吉田顯義。(顧問)塚本三、旅行案内、廣告代理。

名古屋通信社　名古屋市中區新榮町二ノ一五。(電)中局五五一八。創立明治二十年。(社長)後藤清文。(副社長)田端才二。(營業)川本善雄。(岐阜支局)岡田嘉十郎。(支局)一。(社員)三十四名。(種目)新聞、雜誌、電車廣告。(取引)市内新聞其の他。(特設)製版設備あり。(兼營)日刊通信。

愛知通信社　名古屋市東區七小町四。(電)代表東五三三九。個人經營。十萬圓。大正九年中區小林町に創立、同十年東區東魚町二丁目、同十二年東區石町三丁目、昭和八年現所に移轉。(社主)小田莊二。(社長)同。(支配人)椋村喜六。(社員)二十五名。

共同通信社　名古屋市中區矢場町(電車通り)。(所屬)名古屋廣告協會。創立大正七年十月。合資。三萬圓。(社長)松原繁太。(營業)窪田捨三郎。(支局)十二。(社員)三十二名。(種目)新聞、電車、電柱、湯屋、理髮店、乘合バス内廣告。(取引)名古屋新聞、新愛知、名古屋毎日新聞、愛知新聞、其他全國新聞雜誌。(特設)圖案部。(兼營)日刊共同通信。

神　戸

勉强社　神戸市神戸區榮町五ノ八。(電)元町三一六五。個人經營。(社史)創立明治廿七年。(社主)向井長兵衛。(社員)五名。

東洋廣告取次社　神戸市浪花町一四。(電)三宮九八一、二九八四。創立明治四十年。(社長)ドーグラス・エム・ヤング。(幹部)山下要助、矢野伊三見、渡邊金一。(東京支店長)伊藤吉太郎。(支局)三。(倫敦支局長)エス・エチ・ヴイウオーター。

太陽廣告社　神戸市神戸區北長狹町五ノ七六ノ三。(電)元町一三六九。創立大正十一年五月。(社長)藤見淺一。

京華社支店　神戸市榮町五丁目。(支店長)西村留雄。

文信社　神戸市湊區神田町四七八。(電)元町三三七〇。個人經營。大正五年十一月創立、昭和七年七月迄當市元町六丁目から現在へ移轉。(社主)文谷利恭。(營業)田中勇三。(扱行數)約二一六、〇〇〇。(取引)大朝、大毎、神戸新聞、又新日報。(社長)松崎末吉。

福　岡

川丈廣告部　福岡市東中洲五七。(電)二三七五。創立明治四十四年四月。個人經營。十萬圓。(社主)長尾寅吉。(專務)長尾勝也。(支配人)緒方煤鳥。(種目)新聞廣告。(取引)福日、九日、其他九州各新聞。

在東京地方新聞社支局一覽表

次は昭和十年十一月現在に於ける在東京全國新聞支局表である。配列の順序は全國各紙名のいろは順による。

社名	電話番號	所在地	主任氏名
(い)			
いはらき	(五七)〇二五九	京、銀座、西八ノ二	藤井　健次
岩手日報	(五七)四九〇五	出雲ビル芝、新櫻田、一九	岩淵　榮男
石巻日日	(三三)一三〇九	宝蘭毎日に同じ	
伊那日報	(三五)六四四一	四、荒木、二七ノ二	宮本甚之助
伊那毎日	(五七)一五五六	温泉タイムスに同じ	
伊勢新聞	(四三)二一二〇	芝、琴平、二幸樂ビル	松崎正二郎
因伯時報	(五七)〇四七八	京、銀座、西七ノ五	古川文次郎
伊豫新報	(四三)三〇一二	芝、汐留、一五ノ一	入江　貞喜
(は)			
八戸毎日	(八三)七三九一	神、五軒、一	鈴木國三郎
八戸新聞	(八三)七三九一	同　上	
函館毎日	(五七)六四五〇	京、銀、西八、九州ビル	漆原　一衛
函館日日	(五七)三六五二	京、銀、西五ノ五	稲垣政次郎
函館新聞	(五七)三六八八	京、銀、西五ノ一	北村　温平
函館民報	(五六)二三〇九	門司新報に同じ	
函館毎夕	(八六)六二九六	鉄路新聞に同じ	
哈爾賓日日	(三五)二七七〇	四、南、一二	多田　一郎
哈爾賓新聞		佐世保日日に同じ	
哈爾賓公報	(五七)一四三〇	新京日報に同じ	
布哇報知	(八三)〇〇七三	南洋日日に同じ	鹽田　英仁
布哇毎日	(五六)一三八〇	日米新聞に同じ	
(に)			
日本工業	(五七)四五〇一、三八八八(六六)三〇七〇、三九八八(四五)五〇	夕刊大阪に同じ	
日刊工業		京、銀、西二ノ一	小西　百一
日刊山形	(四三)一八三四	芝、新、橋四ノ一六	富永利三郎
日刊宮城	(三五)二七三〇	岡山日日に同じ	
日本民聲		牛、納戸、五	鈴木　貫
新潟毎日	(五七)一五二〇	京、銀、西七ノ三	川崎　新吉
新潟新聞	(五六)一八三五	京、寶、一ノ一	坂口　獻吉
新潟毎夕	(八三)七八五〇	武州新報に同じ	
日州新聞	(三四)五三一〇	牛、拂方、二一	富松金三郎
日布時事	(五六)一三八〇	日米新聞に同じ	
日米新聞	(五六)一三八〇	京、横、二ノ三	鈴木　喜一
日伯新聞	(五六)一三八〇	同　上	
日亞時事	(五七)三二二七	十勝新聞に同じ	
(ほ)			
房總日日	(五七)三二二七	横須賀日日に同じ	
房總新聞	(三五)二七七〇	ハルピン日日に同じ	
北信毎日	(五七)三二二七	横須賀日日に同じ	
北越新報	(五六)二四〇〇	京、横、二ノ一	小野　喜一
北陸タイムス	(一五)三〇九一	神、鍛冶、一九	齋藤　俊一
北陸日日	(五七)〇一二七	麹、内幸、大阪ビル	古川　正治
北國新聞	(五七)四五七七	京、銀、西六ノ一	吉藤初三郎
北陸毎日	(五七)〇二四四	京、銀、西五ノ二	宮澤由三郎
北國夕刊	(五六)二三〇九	門司新報に同じ	
防長新聞	(三三)三〇四六	神、神保、三丁目二九ノ一江戸ビル	堤　八十次
豐州新報	(八五)三五八五	本郷、蓬萊、七	西村　藤雄
北海タイムス	(五七)〇三五八、二七五一六八六	京、銀、西七ノ五	中堀　末吉
北門日報	(三六)〇八三九	澁、八幡通リ三ノ一六	原田三之丞

北海日日（萩）三二〇五　十勝毎日に同じ
北海毎日（八六）六二九六　釧路新聞に同じ
北都毎日（五七）三六三、三六三　宗谷新報に同じ
北鮮時事（八三）〇四三〇　新發田新聞に同じ
北鮮日報（八三）一三〇九　室蘭毎日に同じ
北鮮日日（五七）一五五六　大阪今日に同じ
奉天新聞（五七）五九五八　四國民報に同じ
奉天毎日（四三）〇七二二　芝、琴平、二虎門會館　深田龜太郎
奉天日日（五七）三四七〇　滿洲日報に同じ　渡邊　義二
奉天日報　芝、田村、一ノ一二　早用　光祥
奉天公報（一三）二〇〇〇　麵、丸ノ内、日清ビル　小松　良基
北米新聞（五六）一三八〇　日米新聞に同じ
北米朝日（五六）三四九五　京、銀、一ノ六皆川ビル　渡邊　司朗

（へ）

平壤毎日（四三）〇八五三　芝、南佐久間、二ノ六　岩滿　太平

（と）

東奥日報（五七）四〇九八　京、銀、西六ノ四　藤田　義一
東華新聞（八三）七三九一　八戸毎日に同じ
東北産業日報（三六）〇八三九　北門日報に同じ
東海新報（三五）三九〇一　武相新報に同じ
東海朝日（一三）一〇五九　群馬新聞に同じ
東静日日（五七）三一二七　十勝新聞に同じ
東海中正（五七）四七五四　麵、内幸、太平ビル別館　鈴木　加民
豐橋新報（三五）四二一八　下野日日に同じ
富山日報（一三五）二七三〇　四、舟、二八　窪西敬二郎
富山タイムス　佐世保日日に同じ
徳島毎日（四三）〇八〇七　芝、神谷、一八　前田　亮
徳島日日（三四）三二六八　牛、北、三四　（主事）佐藤　精一

土陽新聞（四三）〇八三八　高知新聞に同じ
鳥取新報（三三）三〇四六　防長新聞に同じ
東洋日出（三六）〇八三九　北門日報に同じ
東洋民報（四三）〇八五三　平壤毎日に同じ
十勝毎日（萩）三二〇五　杉、成、一ノ一〇四　堂島松太郎
十勝新報（八六）六二九六　釧路新聞に同じ
十勝新聞（五七）三二二七　京、銀、西八ノ九　赤澤　昊
東樺日日（五七）三二二七　同　上
東亞日報（五七）〇四〇九　京、銀、西五ノ二興業ビル　申　浩均
東省日報　佐世保日日に同じ

（ち）

千葉毎日（三四）〇〇九八　信濃民報に同じ
中信毎日（五七）一五五六　宮崎新聞に同じ
中國日日（三三）三〇四六　防長新聞に同じ
中國日報（五六）八四四〇　上海毎日に同じ
中國民報（五七）〇六四五　京、築地、一ノ一四　田中　常人
中國新聞（五六）五六一〇　飛鳥江亮智
朝鮮新聞（五七）二〇七〇　麵、内幸、一ノ五　石丸　務
朝鮮日報（四三）〇八九八　芝、神谷、一八ノ七〇　金　東　進
朝鮮日日（四三）三九〇二　芝、田村、二ノ一〇　小林　秀雄
朝鮮商工（四三）三九〇二　同　上
朝鮮中央日報（八三）〇八〇四　神、仲、二ノ二四萬世ビル　趙　漢市
朝鮮毎日（四三）〇二〇六　芝、櫻川、四　大内　寛
中鮮日報（三三）〇六五七　山梨民報に同じ
朝鮮民報（五七）六五〇三　麵、有樂、二ノ二

（り）

兩毛織物（一五）四〇九七　神、須田、一ノ一三　杉下　博
兩毛日日（八三）七三九一　池田アパート千葉毎日に同じ

兩羽朝日（三三）〇九八四　鶴岡日報に同じ

（ぬ）

沼津毎日（四三）〇八五三　芝、南佐久間、二ノ六　渡邊多喜雄

（お）

大阪朝日（一三）〇一三一　麵、有樂、二ノ三　田中孝太郎
大阪毎日（一三）〇三二一　麵、有樂、一ノ一一　藤本　安治
大阪今日（五七）一五五六　京、銀、西六ノ六　佐久間新吾
大阪朝報（四三）三〇一二　芝、汐留、一五ノ一　祖上　祐三
大阪時事（五七）〇八二〇　京、銀、六交詢ビル　佐藤　勇助
大阪新日報（五七）一五五六　京、銀、西六ノ六數寄屋館　太田卯藤治
大阪中外（六六）〇二五一　日、北島、一丁目　瀧藤鹿之輔
大阪日日（五七）一八〇六　京、銀、西六ノ四　秋元　忠
大阪經濟（五七）一二一〇　京、銀、西五ノ五秀吉ビル　小島　清友
大阪萬朝報（五七）三二二七　十勝新聞に同じ
岡崎朝報（八三）〇四三〇　新發田新聞に同じ
近江新報（五六）一六〇七　京、木挽、三ノ七　福岡　友男
岡山毎夕（三五）二七三〇　牛、若松、八二　馬場幸次郎
岡山新聞（一三）一〇五九　群馬新聞に同じ　稻垣四方雄
大分新聞（五七）三二一五　鹿兒島新聞に同じ　松浦　清平
大分日日（四三）一五五〇　芝、芝公園、五號地十ノ三　野依　秀市
大牟田毎日（一三）一〇五九　日州新聞に同じ
溫泉タイムス（五七）三二二七　群馬新聞に同じ　稻垣四方雄
沖繩日報（四三）三〇二四　横須賀日日に同じ
小樽新聞（五七）三六五二　芝、櫻川、一七　加藤敏三郎
大泊毎日（三三）一三〇九　函館日日に同じ
鴨江日報　室蘭毎日に同じ

（わ）

和歌山日日（五六）三二一五　鹿兒島新聞に同じ

（か）

關西中央（五七）六五〇三　麵、有樂、二ノ三石川ビル　渡邊　陸
關西日報（五七）一八〇六　大阪日日に同じ
關東日日（五七）三二二七　横須賀日日に同じ
關東新聞（五七）六〇七〇、六〇七一　小、大塚仲町三六　奥宮　謙介
河北新報　京、銀、西六、交詢ビル　騰澤　寛三
柏崎日報（一三）三〇九一　北陸タイムスに同じ　林　郁志夫
金澤新報　本郷、富士前、五九　林　省三
香川新報（四三）四四〇三　芝、田村、四ノ六　今井　喜藏
海南新聞（四四）二八二〇　（自宅）芝、白金今里八九　河野馬喜佐
關門日日（五七）一五五六　京、銀、西六ノ六數寄屋館
關門毎友（五七）四五二〇　長崎民友に同じ
關門報知　日本民聲に同じ
唐津日日（五七）四五二〇　杉、和田本、一一〇一　清原　茂樹
鹿兒島新聞（五七）三二一五　京、銀、八ノ八都ビル　松浦　信八
鹿兒島朝日（五七）五二九三　京、銀、西七ノ三　河内　時申
樺太日日（五七）六四〇七　京、銀、西八ノ五日吉ビル　山田壽惠吉
樺太毎日（五七）三二二七　十勝新聞に同じ
樺太時事（五七）〇四七八　因伯時報に同じ　古川友次郎
樺太北道新聞（一三）二五三六　根室民友に同じ
樺太新聞（三三）一三〇九　室蘭毎日に同じ
樺太日報（三五）二七三〇　佐渡日報に同じ
樺太報知（八三）〇四三〇　新發田新聞に同じ
加州毎日（一三）二〇〇〇　麵、大手、日清生命ビル　藤野　保三

（よ）

横濱貿易（五七）一二二八　京、銀、八ノ一電友ビル　廣瀨　保吉
横濱經濟（三六）〇八三九　北門日報に同じ
横須賀日日（五七）三二二七　京、銀、西八ノ九州ビル　青山　晴一

よろづ新報（五七）一五五六　中信毎日に同じ
よわさわ（五七）三二二七　横須賀日日に同じ
米澤新聞（三五）四二一一八　門司新聞に同じ

（た）

大正日日（六六）三五七七　日、坂本楓河岸十三號地　木村延次
多摩日日（四三）〇六七、二七六一　芝、新橋、三ノ一六駒場ビル　中條信彦
高田新聞（五七）三二二一七　京、銀、西八ノ九、九州ビル　藤野保三
高田日報（五六）四七七八　名古屋日日に同じ　石川敏夫
高岡新聞（三三）三九四四、一八七七　麹、大手、二丁目日清ビル　篠木桑藏
丹州時報（五六）二三〇九　門司新報に同じ
大邱日報（四三）〇八五三　平壤毎日に同じ
臺灣日日（五六）〇一四九　京、銀、三ノ三豐玉館　永井省三
臺灣新民報（三三）二八四四　麹、丸、三ノ一二　吳三連
臺灣新聞（三五）二七七〇　三菱仲通三號館　吳迪
臺南新報（五六）七二七〇　四、南、一二　德富
大北新報　京、銀、西二ノ三　大西隆之助
同　佐世保日日に同じ
大同報（五七）一四三〇　大新京日報に同じ　鹽田英仁
泰東日報　佐世保日日に同じ
大北新報（五七）〇四〇七　京、銀、西八ノ五　齋藤松三
大新京日報（五六）一二一一二　京、銀、三ノ三、銀三ビル　鹽田信太郎

（そ）

宗谷新報（五七）一二一〇　京、銀、西五ノ五　菅野禍一
宗谷日日（五七）三二二二七　十勝新聞に同じ

（つ）

鶴岡日報（三三）〇九八四　麹、下六番、四八　村瀨留次郎

（ね）

根室新聞（三三）一三〇九　室蘭毎日に同じ
根室日報（八六）六二九六　鋤路新聞に同じ
根室民友（三五）二五三六　神、司、二ノ一〇　中山正重

（な）

長野新聞（四三）〇五二〇　芝、櫻川、七　山田不二夫
南信日日（五七）六〇四五　芝、櫻田、太左衛門町二　宮澤濱治郎
南信新聞（四三）〇五二〇　佐藤書行
南信毎日（三三）一〇五九　群馬新聞に同じ
長岡日報（三三）〇九八四　鶴岡日報に同じ
名古屋新聞（五六）七七〇一、七七〇二　京、銀、四、教文館ビル　大宮伍三郎
名古屋毎日（五七）三二二七　宮本孝吉
名古屋日日（五六）四七七八　京、越前堀、一ノ八　鯨岡新一
名古屋日報（五七）〇四七八　京、銀、西七ノ五　古川文次郎
名古屋新報（五七）三二二七　十勝新聞に同じ
奈良新聞（五七）一五五六　大阪今日に同じ
南豫時事（四三）三〇一二　芝、汐留、一五ノ五　山梨利喜衛
長崎新聞（五六）〇五四〇　（社長宅）澁、綠岡二一　里見謹吾
長崎日日（五七）三〇三一　麹、內幸、幸ビル　前橋秋生
長崎民友（五七）二〇七〇　麹、內幸、一ノ五　清原茂樹
なよろ（二五）四五二〇　京銀西六ノ六數寄屋館
南鮮日報（五七）二七三〇　岡山日日に同じ
南洋日日（五七）一四三〇　新京日報に同じ　鹽田英二
（八三）〇〇七三　神、松住、四タダカヅビル　末廣清信

（ら）

羅府新報（五六）三四九五　京、槇、二ノ三　渡邊司朗

（む）

室蘭毎日（三三）一三〇九　麹、九段、四ノ一一　赤松彥太郎
室蘭新聞　山梨日日に同じ

（う）

羽後新報（五七）三二二七　横須賀日日に同じ
上田タイムス　三河日報に同じ
宇部日報　目、下目黑、四ノ九〇八　水谷新次郎

（く）

群馬新聞（三三）一〇五九　麹、丸ノ內、三ノ一二　稻垣四方雄
群馬日日（八三）七三九一　千葉毎日に同じ
吳日日（五七）一二一〇　京、銀、西五ノ五　秀吉ビル　新東政勝
吳公論（八六）六二九六　本、駒、上富士前五　齋藤和夫
軍港新聞（五七）二三四〇　京、木挽、八ノ四、八州ビル　平山長佐久
鉤路新聞（八六）六二九六　本、駒込上富士前、三　原田柳二
鉤路日日（三三）一三〇九　室蘭毎日に同じ
鉤路實業（八三）〇四三〇　新發田新聞に同じ

（や）

山形新聞（五七）〇〇六七　芝、新櫻田、一九　渡部彥四郎
山形民報　淀、戶塚、諏訪、一五三　庄司芳助
山梨日日　本、駒込、神明、四ノ五　林省三
山梨毎日（五七）四五二〇　京、銀、西六ノ六　加藤頼司
山梨民報（三三）〇六五七　麹、下六番、四八　三枝嶺三郎
山梨民友（三五）三九一〇　武相新報に同じ
大和日報（四三）〇二七一　芝、愛宕、一ノ二　高島萬太郎

（ま）

毎朝新報（三三）〇七三八　麹、元園、一ノ四七　藤野優
毎日申報（三三）一八〇九　京城日報に同じ
滿洲日日（五七）三四七〇、三六九五　京、銀、西六ノ五澁山ビル　山崎卓雄
滿洲報（五七）一九三九　京、銀、西八、三ノ三　清瀨邦弘
滿洲商工日報（五七）三二二七　十勝新聞に同じ
滿蒙日報（五七）一五五六　四國民報に同じ

（け）

藝備日日（五七）三二八六　京、銀、西七、貿易館內　齊名秋次
京城日報（三三）一八〇九　丸、三ノ一二　佐藤巖

（ふ）

武相新報（三五）三九一〇　四谷、簞笥、三五　中田清
武州新報（八三）七八五〇　荒、渡邊、筑渡臺　堂島正助
福島民報（五七）〇九八七　京、銀、西五ノ一　三瓶仙輔
福島民友（八三）二一七七　小、原、一四、十號地　武田喜久朗
福島新聞（五七）三六五二　京、銀、西五ノ五、秀吉ビル　赤澤政助
福井新聞（四三）〇五一四　芝、南佐久間、一ノ八　渡邊利正
福岡日日（五七）〇〇五二　京、銀、西七ノ三、電通ビル　荒卷昌吉
福岡日報（三五）二七三〇　四、舟、二八　堀克巳
釜山日報（五六）八四四〇　上海毎日に同じ
撫順新報

（こ）

上野新聞（八三）七八五〇　武州新報に同じ
郡山新聞（三五）二七三〇　本、元、一ノ三　宇都宮白清
甲州時報（五七）四八四〇　佐渡日報に同じ
神戶新聞（五七）〇四七八　京、銀、六ノ四、尾張町ビル　酒井謙吉
神戶又新（五七）六四五〇　因伯時報に同じ　古川秀造
江州日日（四三）〇八三八　函館毎日に同じ　中村延雄
高知新聞（五七）〇二四六　芝、西久保巴、一四　栗尾結城
高知日日（五七）二三四〇　麹、內幸、一五、藤本ビル　中島長治
光州日報（五七）一五五六　鴨江日報に同じ
小倉新報（五七）三二一五　大阪新日報に同じ
國境毎日（五七）一四三〇　和歌山日日に同じ
黑龍江民報　新京日報に同じ

（え）

越佐新報（八三）八二〇七　神、元佐久間、九　樋口鐵六
越後日日（八三）〇四三〇　新發田新聞に同じ

越中新聞（五七）四五七七　北國新聞に同じ
愛媛新報（四三）〇二〇八　芝、櫻川、四
遠州新聞（五七）三二二七　十勝新聞に同じ　大内　寛

（て）

出羽興民（五七）五三五六　麵、内山下、東洋ビル　石井　實雄
天津日報（五七）六四〇七　四國民報に同じ

（あ）

熱海新聞（五七）三二二七　横須賀日日に同じ
青森日報（五七）三二二七　京、銀、西八ノ九、九州ビル　藤野　保三
秋田魁新報（五七）五〇五八　京、銀、六ノ五　井上勝太郎
愛知新聞（三三）〇九八四　鶴岡日報に同じ
旭川新聞（五七）一五六九　京、銀、西六ノ五、瀧山ビル西部　健而
旭川毎日（中）四三三九　中、仲、一二　石龜　保
旭川日日　同　上

（さ）

酒田新聞（三三）〇九八四　鶴岡日報に同じ
參陽新報（八三）〇四三〇　新發田新聞に同じ
佐渡新聞（三三）一三〇九　室蘭毎日に同じ
佐渡日報（三五）二七三〇　四、荒木、宅トノ廿六號　山崎　且次
山陽新報（五七）四五二〇　京、銀、西六ノ六　三澤　猛混
山陽日日　芝、櫻川、四
山陰新聞（三六）〇五四〇　長崎新聞に同じ
山陰日日（四八）〇八八九　麻、森元、一ノ一　四日市長
山陰毎夕（四三）〇二七一　芝、愛宕、一ノ三五　武政　金吾
山陰報知（三三）三〇四六　防長新聞に同じ
佐賀新聞（五七）三二二七　青森日報に同じ
佐賀毎夕（五七）三六五二　京、銀、西五ノ五　石原勝二郎
佐世保民友（五七）四五二〇　長崎民友に同じ
佐世保日日　目、目黒、五五七　齋藤　松三

（き）

峡中日報（五七）〇四七八　名古屋日報に同じ
岐阜日日（五六）八三一〇　京、銀、一ノ五ノ八　佐藤駒太郎
岐阜新聞（三三）二〇七一　麵、富士見、二ノ九　平野　三郎
京都日出（三三）〇五〇五　丸、三ノ二、三菱廿二號館　太田　長治
京都日日（三三）六〇五六　京、銀、西七、貿易館内　末國金太郎
紀北日日　淺子　藤作
九州日報（五七）九五〇、（四六六）　京、銀、西五ノ三ノ一六　山下　敏男
九州日日（三六）二八二〇　對鶴ビル　榊原　啓一
九州新聞（四三）二〇六一　赤、青山南、五ノ九二　山田　豐
九州朝日（二四）一〇四六　芝、櫻川、七
九州毎日（五七）三二二七　日、通、二四日本橋ビル　井上　清輔
九州民報（九州都新聞）　十勝新聞に同じ
九州民報（九州都新聞）　山陰日日に同じ
北見日日（八六）六二九六　釧路新聞に同じ
北見新聞（五七）三二二七　十勝新聞に同じ
紀伊朝日（五七）二三四〇　鴨江日報に同じ
吉林日報（五七）一四三〇　大新京日報に同じ

（ゆ）

夕刊大阪　麵、有、二ノ四　佐藤宇兵衛
夕刊濱松（八三）二六五八　本、湯天神、一ノ一一〇　清水　文博

（み）

三河日報（三三）三〇四六　品、大崎、桐ヶ谷三五一　高木　弘爲
美濃大正（五六）八二〇六　防長新聞に同じ
三重縣民（三三）三〇四六　岩滿君の兼任（平壤毎日）
三重日日（五七）三六四〇七　防長新聞に同じ
宮崎新聞　樺太日日に同じ　山田壽惠吉

（し）

新潟朝報（五七）一五五六　大阪新日報に同じ
上毛新聞（五七）〇四〇七　京、銀、五ノ四、辻村ビル煖斗　勝文
上毛日日（八三）七三九一　千葉毎日に同じ
常總新聞（三五）〇〇五六　神、表神保、一〇イノ四　宮島　孝雄
下野新聞（五七）〇五五二、三七五七　京、銀、六ノ四　橋本滿次郎
下野日日（三五）四二一一八　門司新聞に同じ
新群馬（八三）〇四三〇　新發田新聞に同じ
上州新報（四三）三〇一二　芝、汐留、一五ノ一　入江　貞喜
清水日日　浜、上落合、二ノ六三八　小松吉太郎
新三河新聞（三五）四二一一八　門司新聞に同じ
莊内新報（三三）〇九八四　鶴岡日報に同じ
靜岡新報（五七）二三二〇　京、銀、西六ノ四　井上忠太郎
靜岡民友（五七）三六〇六　京、銀、西八ノ七　本間　隆
新愛知（五七）五五五一—九　日本鑛業會館　水野　幸吉
新發田新聞（八三）〇四三〇　京、銀、西七ノ二　柳澤　篤治
信濃毎日（五六）六七七四　下、池ノ端、七軒、七　西澤　圭
信濃民報（三四）〇〇九八　京、銀、四ノ四　岩立慶三郎
信濃日報（五七）一〇〇六七　牛、下戸塚、三〇四　小穴　增人
信濃日日（五七）一五五六　芝、新櫻田、一九　京、銀、西六ノ六、數寄屋館佐藤四一郎
信陽新聞（四三）一一〇〇　京、銀、西六ノ六、數寄屋館佐藤四一郎　染色日出（三五）〇五〇五　京都日出に同じ
信濃時事（四三）三二〇四　牛、早稻田、鶴卷、二六〇山本常太郎　勢州毎日（五六）七二七〇　仙臺日日に同じ
信濃大衆（三五）二七三〇　芝、田村、一八　松本　利充　西鮮日報（三五）〇〇三六　神、司、二ノ一〇
松陽新報（自）赤、青山南、五ノ三　岡山日日に同じ　盛京時報（五七）一五五六　四國民報に同じ
四國民報（五七）一五七六　京、銀、西六ノ六　榊原　啓一　青島新報（四四）五九五八　芝、二本榎、西町三　松本七五郎
敗香時報（自）芝、二本榎西町三　松本七五郎　淺、松葉、一三　宮古　武雄
新京日日（五七）一五五六　四國民報に同じ
上海毎日（五六）一二一二　京、銀、三ノ三　佐野　博章
上海日日（五七）一四三〇　大新京日報に同じ　鹽田　英仁
上海日報（五七）六四〇七　四國民報に同じ
松江新聞　佐世保日日に同じ
新日米（八三）〇〇七三　南洋日日に同じ
爪哇日報（八三）〇〇七三　南洋日日に同じ

（ひ）

飛彈毎日（八三）九三二〇　新發田新聞に同じ
弘前新聞（八六）六二九六　釧路新聞に同じ
日出藝林（三三）〇五〇五　京都日出に同じ
備後時事（三三）一三〇九　室蘭毎日に同じ
廣島毎日（五七）三六五二　吳日日に同じ
廣島日日（八六）六二九六　吳公論に同じ
肥前日日（五七）四五二〇　長崎民友に同じ

（も）

門司新報（五六）二三〇九　京、銀、西二ノ五　船戸　岩男
門司新聞（三五）四二一一八　四、荒木、二七とノ二　宮本甚之助

（せ）

仙臺日日（五六）七二七〇　京、銀、西二ノ三　稻垣　善次
染色日出（三五）〇五〇五　京都日出に同じ
勢州毎日（五六）七二七〇　仙臺日日に同じ
西鮮日報（三五）〇〇三六　神、司、二ノ一〇　中山　正重
盛京時報（五七）一五五六　四國民報に同じ
青島新報（四四）五九五八　芝、二本榎、西町三　松本七五郎

在阪全國新聞支局聯盟員一覽

次は昭和十年十月末日現在に於ける在阪全國新聞支局聯盟員の一覽表である。配列の順序は大體、支局主任のイロハ順による。(社數二百三十四社、人員百二名)

▼事務所　大阪市北區萬歳町四三(電話北三四六六)

在阪全國新聞支局聯盟

▼幹事　上村弘、野澤善三郎、松島直蓑、松本三郎、天谷深吉、阪口廣次郎、松下兵馬(一ヶ年交替)

新聞名	住所	電話	氏名
高知新聞	西區京町堀上通三丁目一二ノ二	土三二五八	井上環
仙臺日日			
土陽新聞			
信濃日日			
新潟新聞	西區京町堀上通三丁目一二ノ二	土三二五八	井上敏行
臺灣日日新報	西區靱南通二、ユタカビル内、自宅大鐵沿線憲我之莊四條通	土七四三	入貝良郎
東京日日新聞	北區堂島大阪毎日新聞社内、自宅住吉區田邊西ノ町五ノ一〇八(平野八四二番)	代表北五五〇〇	飯守勘一
函館日日新聞	北區堂島中一ノ三九自宅神戸市灘區灘南通五ノ一八一	北五六六〇	石原健藏
奈良新聞	北區北扇町七八	北七三〇五	岩田庚
高岡山日日報	北區東野田町一ノ五		岩崎義一
南信新聞			萩原一雄
臺灣新聞	北區堂島濱通一ノ三	北一四四〇	
朝鮮商工日報	天王寺區筆ヶ崎町一七	天九八一	西池末彦
京華日報			
山梨民報			
北鮮日報			
中鮮日報			
愛知新聞	北區堂島北町三六	北七〇六五	西谷清雄
佐賀新聞	自宅天王寺區上綿屋町		
紀北日日			
宗谷新報			
九州時事			
信濃時事新聞	北區堂島濱一ノ九六	北一四〇一	西浩司
九州報知新聞	自宅住吉區住吉町一三二五		
信陽新聞			
室蘭毎日	天王寺區筆ヶ崎町一七	天九八一	西池龍造
室蘭新報			
根室新聞			
釧路日日			
樺太中央			
樺太新聞			
眞岡毎日			
樺太西海			
酒田新聞	西區靱北通三ノ二六	土堺六七八一	朴尹錫
柏崎日報			
朝鮮中央日報	西成區姫松通二ノ一〇	東一七〇、七七〇	豐住允嘉
名古屋日報	北區堂島上一ノ二七府下三島郡吹田町三二九八	北二七一六	李鎬泰
毎日申報	自宅		
朝鮮新聞	北區道本町四二	北三九三	小串虎雄
京都日出新聞	東區安土町三ノ八	本八〇六	野崎隆一
東洋日出	長岡日報、夕刊よね	天王寺區上本町七ノ六六	太田源一郎
中信毎日			
西海毎日			
長岡日報			
福岡毎日			
朝鮮			
ざは			
越佐新報、青森日報	東淀川區十三東之町一ノ一五九	北五一二〇	落合忠兵衛
淡路新聞、吳公論			
廣島日日新聞、帝國			
今夕新聞			
新潟毎日新聞	北區高垣町一六	北六四二七	岡本太郎
二六新報	北區曾根崎中二ノ三四	北二〇八六	小串敏
北鮮日日新聞			
國境毎日新聞			
東京大勞新聞	北區東野田町九ノ一四	東七四五五	若林一夫
日刊山形、山梨民友	此花區上福島北	福島三二四二	加藤安雄
愛媛新報、大牟田毎日			
備後時事			

四國民報	北區梅田新道大平ビル十三西ノ町一ノ三五	北六一八四	川久保信次
群山日報	北區曾根崎中二ノ三四自宅西之宮市森具五五	北二〇八六	片岡房太
日布時事			
青島新報	北區堂島濱通一ノ四四		
樺太日日	滿洲國通信社大阪支社内自宅兵庫縣武庫郡鳴尾村甲子園	北五四四八六八八六	金井勝三郎
大同報			
關東報			
中央新聞	北區澤上江町五ノ四四	東七四五五	陰山又吉
江州日日新聞	北區萬歳町(松下事務所)	北三四六六	梶田仲藏
南洋日日新聞			
爪哇日日新聞			
萬朝報	北區堂島上三ノ三(萬伸社内)自宅區森小路町五ノ二五	北二一八二一九	横井九八郎
いはらき	北區堂島中一ノ二五自宅阪急沿線池田吳服町七七三ノ五	北七六〇六	吉武鵬次郎
大和日報、飛騨毎日、美濃大正、北都毎日	東成區自山町二ノ三一	新町二五〇九	田村佐太郎
近江新報	旭區生江町四八七		田村晉松
甲州時報			
山陰日日新聞	北區堂島濱通一ノ三	北一四四〇	谷良男
北國新聞	北區中ノ島二ノ二二	本局五八〇八	橋安久
越中新聞			
大分新聞	北區曾根崎町二ノ三四	北二〇八六	竹田津吾一
門司新報	北區堂島中一ノ三九	北五六六〇	竹中德一
朝鮮民報	北區曾根崎中二ノ三四	北六〇九四	田中正男
南豫時事新聞(タイムス)	北區萬歳町(松下事務所)	北三四六六	園井清文
宮山日報			
關門報知新聞			
臺南新報	西區江戸堀南通一ノ一九	土六〇〇一	辻覺次郎
海南新聞	北區茶屋町三三	北六〇四〇	永井米邈
伊豫新報	東淀川區十三東ノ町一ノ一三五	北七一〇〇	永田格太郎
濱松新聞			
北鮮時事新報			
高岡新聞	北區堂島中一ノ三一	北一三七	中谷清治
九州日日、山陽新報	北區堂島濱一ノ四四	北一四二四	永嶺信恒
松陽新報、二泰東日報	二二		
京都日日新聞	西區京町堀上通一ノ三彌生ビル	土二九五〇	中島常太郎
藝佛日日新聞	東淀川區十三南ノ町一ノ三三		
東京朝日新聞	北區中之島(大阪朝日新聞社内)自宅兵庫縣甲子園九番町	代表本三五〇〇	内藤直茂
都新聞	北區梅ケ枝町八九自宅府下豐能郡箕面村櫻井五番通三丁目	北七七〇	那須法道
福井新聞	北區神山町一		村松賀
滿洲民聲晩報	北區曾根崎上三ノ二	北六二四八	鵜飼宇一郎
吳日日新聞	東區今橋五丁目萬成ビル二階	本二二六八二二六九	上原隆利
九州朝日、毎日、高田毎日、熊野太陽、雨矧日、筑豐日、南鮮日報	北區曾根崎上四自宅北	北一四九	浦戸宏藏
新聞	旭區赤川町四ノ一一二四	北三四六六	上村弘
神戸新聞			
南信日日新聞	阪急沿線豐中町新免	北六〇〇一	辻覺次郎
長崎日日、日州新聞、東北產業	北區萬歳町四三	北五四一〇	浮田金次
臺灣新民報			
鳥取新聞			
釜山日報、富山日報、宮崎新聞	北區萬歳町四三自宅中町	北五四一〇	浮田幾三
西鮮日報			